

ナンバリングコード			
FHS-AAX1901			
科目名			
人文社会総合論			
英語名			
Introduction to Humanities and Social Sciences			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文スタンダード科目（必修）	講義	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
鳥飼貴司、大田由紀夫	鳥飼（099-285-7623）、太田（099-285-7560）	鳥飼（torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp）、大田（ota@leh.kagoshima-u.ac.jp）	
共同担当教員	前後期		
石塚孔信（経済）林田吉恵（経済）山本一哉（経済）城戸秀之（地域）大野友也（法）齋藤善人（法）與倉アンドレーア（多元）吉田明弘（多元）山崎真理子（心理）	前後期 前期		
授業概要			
<p>人文社会科学系総合学部としての特性を踏まえ、法文学部の全ての学生が共通して身につけてほしい人文科学や社会科学の基礎的な問題や多様な問題について考えるための視点を学びます。</p> <p>授業では、人文科学や社会科学を専門分野とする担当者が、オムニバス形式で導入的講義を行います。また、マナバの利用による双方向の授業が展開され、授業内容について振り返る小レポートを毎回作成してもらいます。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・人文社会科学系総合学部に学ぶ学生として、人文科学及び社会科学の多様な学問分野の導入的知見や視点を身につける。 ・人文科学と社会科学における幅広い視野を身につけ、現代社会に諸問題について考える視座を獲得する。 			
授業計画			
<p>各回はすべて遠隔授業（オンデマンド配信型or課題提出型）。なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知します。</p>			
<p>第1回 鳥飼貴司・大田由紀夫 ガイダンス</p> <p>第2回 石塚孔信（経済） 第2次世界大戦後の日本経済の推移について</p> <p>第3回 林田吉恵（経済） 経済学的思考について</p> <p>第4回 山本一哉（経済） 初学者のための国際金融論</p> <p>第5回 城戸秀之（地域） 現代社会の変化と豊かさの変容</p> <p>第6回 大野友也（法） ハンセン病訴訟について</p> <p>第7回 齋藤善人（法） 法律学の考え方入門 - 法的三段論法と要件事実論 -</p> <p>第8回 鳥飼貴司（法） 国と地方の税財政法入門</p> <p>第9回 大田由紀夫（多元） 「円」の世界史（1）</p> <p>第10回 大田由紀夫（多元） 「円」の世界史（2）</p> <p>第11回 與倉アンドレーア（多元） 初学者のためのドイツ語圏の現代社会と文化</p> <p>第12回 與倉アンドレーア（多元） 初学者のためのドイツ語圏の文学</p> <p>第13回 吉田明弘（多元） 自然景観・資源からみた人類・社会の変化</p> <p>第14回 吉田明弘（多元） 樹木年輪による絵画の真贋鑑定と中世ヨーロッパの社会・文化</p> <p>第15回 山崎真理子（心理） 心理学入門 - ところを研究する方法 -</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：配布された授業資料等について事前に学習すること（2時間）、復習：参考文献などを読み、当該分野に</p>			

ついでに知見を深めること(2時間)。	教科書
指定しない	参考書
授業中に適宜指示する	成績の評価基準
毎回の授業の際に提出する小レポートに基づき評価する(初回のみ2%、以後は7%?14回)。	オフィスアワー
	金曜12時~12時50分(メールにてアポを取ること)
	アクティブ・ラーニング
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);	アクティブ・ラーニング(その他の内容)
該当なし。	アクティブ・ラーニング(授業回数)
15回中15回	備考(受講要件)
2017年度以降の入学生に限る。	実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。	

ナンバリングコード

FHS-AAX4301

科目名

アジアの法と社会

英語名

Law and Society in Asia

開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
張 秀娟		099-285-7085	k7017538@kadai.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

日本を含むアジア、とくに中国における法に関わる諸問題を多面的に検討する。その社会的・文化的背景にも言及するほか、具体的な問題点および問題解決に必要な視点を探っていきたい。

学修目標

- (1) 中国法を中心としたアジアの法制度を知るとともに、日本とは異なる外国の社会や生活についての理解を深める。
- (2) 他国の法と社会に触れることによって、法制度の側面から自国が抱える社会的問題を捉え直し、課題発見力・解決力を高める。

授業計画

遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 ガイダンス 【オンデマンド配信型】
- 第2回 法と国家(1) 【オンデマンド配信型】
- 第3回 法と国家(2) 【オンデマンド配信型】
- 第4回 憲法(1) 【オンデマンド配信型】
- 第5回 憲法(2) 【オンデマンド配信型】
- 第6回 土地管理制度 【オンデマンド配信型】
- 第7回 家族と法(1) 【オンデマンド配信型】
- 第8回 家族と法(2) 【オンデマンド配信型】
- 第9回 労働と法(1) 【オンデマンド配信型】
- 第10回 労働と法(2) 【オンデマンド配信型】
- 第11回 社会保障のしくみと法 【オンデマンド配信型】
- 第12回 犯罪と法 【オンデマンド配信型】
- 第13回 紛争解決 裁判制度(1) 【オンデマンド配信型】
- 第14回 紛争解決 裁判制度(2) 【オンデマンド配信型】
- 第15回 紛争解決 裁判外紛争処理システム 【オンデマンド配信型】

授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。

授業外学習(予習・復習)

授業の際に指示する。

予習(2H)・復習(2H)

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

高見澤磨=鈴木賢=宇田川幸則・現代中国法入門[第7版](有斐閣,2016)

田中信行・入門中国法(弘文堂,2013)

小口彦太 = 田中信行・現代中国法[第2版] (成文堂, 2012) 西村幸次郎・現代中国法講義〔第3版〕 (法律文化社, 2008)
成績の評価基準
複数回のレポートの提出で成績評価する(100%)。
オフィスアワ -
水曜3限
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
教員からの発問を受けての思考・回答
アクティブ・ラーニング (授業回数)
全て
備考 (受講要件)
特になし。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-AAX0409			
科目名			
教育実習事前・事後指導(英語)			
英語名			
Pre-Instruction and Review of Practice Teaching			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	演習	1単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)
桑原田茂樹	099-285-7525(法文学部学生係)		k.moju@outlook.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学習指導案の作成や模擬授業を通して、英語指導方法を研究する。特に、理論と実践の一体化を図る。また、教職員採用試験の直前指導を実施する。			
学修目標			
(1) 学習指導要領の目標を踏まえて、日々の授業の目標を設定できる。			
(2) 目標に応じた指導内容を考え、実践できる。			
(3) 教師の役割、使命感を認識する。			
(4) 英語の授業の在り方について、多角的視点から考察する。			
授業計画			
*本授業は、毎回対面形式で行う予定である。			
なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回	ガイダンス(本講義の概要説明, 受講生の英語教師としての目標の発表)		
第2回	英語教師を目指すに当たって(各県総合教育センター等の資料により、英語教師としての在り方を学ぶ)		
第3回	英語指導法について(1)(主要な英語教授法および指導原理の学習)		
第4回	英語指導法について(2)(英語授業の組み立て方および指導方法の学習)		
第5回	学習指導要領(中学校)		
第6回	学習指導要領(高等学校)		
第7回	学習指導案の書き方		
第8回	学習指導案の作成		
第9回	模擬授業(1)(中学校の教科書を中心にして)		
第10回	模擬授業(2)(高等学校の教科書を中心にして)		
第11回	教室英語, 英語教育用語について		
第12回	英語授業実践例の視聴(文部科学省作成のDVDによる)		
第13回	教育実習の総括(1)(中学校での実習生の体験発表)		
第14回	教育実習の総括(2)(高等学校の実習生の体験発表)		
第15回	教員採用試験直前指導		
第16回	期末試験		
授業外学習(予習・復習)			
予習: 模擬授業に当たっては、教案作成や事前の予習をしておく。(学習に関わる標準的時間は約2時間)			
復習: 授業で扱う資料、参考文献を復習して、指導案作成や教育実習に役立てる。(標準的時間は2時間)			
教科書			
教科指導に関する資料(プリント)			
参考書			
中学校学習指導要領解説(外国語編 文部科学省 東京書籍)			
高等学校学習指導要領解説(外国語編 文部科学省 開隆堂)			
成績の評価基準			

期末テストの成績(60%)，学習指導案及びレポート提出(20%)，授業への取り組み態度(20%)を目安とし，総合的に評価する。

オフィスアワ -

金曜日 15:30～16:05

(ただし、遠隔授業実施期間は除く)

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

プレゼンテーション

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中2回

備考(受講要件)

教職の必修科目(英語)

実務経験のある教員による実践的授業

該当する。

ナンバリングコード			
FHS-AAX0410			
科目名			
教育実習(中学)			
英語名			
Field Study of Secondary Education			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	実習	4単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)
教務委員長	099-285-7525(法文学部学生係)		gakusei01@leh.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>教員として必要な基礎知識、素養を身につけるために、各実習校において現場のベテラン教諭の指導の下、以下のことについて実地訓練を受ける。</p> <p>(1)教育内容、教育課程についての認識 (2)教科学習の指導 (3)特別活動の指導、道徳指導 (4)生徒の実態把握 (5)学校、学級、教科経営への参加</p>			
学修目標			
実地訓練を通して、教員として必要な基礎知識、素養を身につける。			
授業計画			
<p>学生は各実習校におもむき、現場のベテラン教諭の指導の下、教員になるための実地訓練を受ける。また中学校教諭免許取得のためには、出身中学における120時間の実習を行わなければならない。その間に関係教諭の指導を受け、実習記録をまとめる。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
講義終了後、毎回の講義のまとめを怠らないこと。			
教科書			
使用しない。			
参考書			
使用しない。			
成績の評価基準			
教育実習記録、授業実践についての評価。教育実習についての当該学校の評価。			
オフィスアワー			
特に指定しない。			
アクティブ・ラーニング			
その他;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
実習			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
30回中30回			
備考(受講要件)			
<p>次に定める単位を修得していること。4年生であって、共通教育科目、専門教育科目合わせて62単位以上。「教科の指導法に関する科目」等の科目のうち、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教科の指導法に関する科目」から計12単位以上。このうち「教科の指導法に関する科目」の教科教育法は必ず2単位修得。当該免許教科に関する科目の最低修得単位数(必修)の5分の3以上を修得。</p>			

Blank area for content.

ナンバリングコード			
FHS-AAX0408			
科目名			
教育実習(高校)			
英語名			
Practice Teaching			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	実習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)
教務委員長	099-285-7525(法文学部学生係)		gakusei01@leh.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>教員として必要な基礎知識、素養を身につけるために、各実習校において現場のベテラン教諭の指導の下、以下のことについて実地訓練を受ける。</p> <p>(1)教育内容、教育課程についての認識 (2)教科学習の指導 (3)特別活動の指導、道徳指導 (4)生徒の実態把握 (5)学校、学級、教科経営への参加</p>			
学修目標			
実地訓練を通して、教員として必要な基礎知識・素養を身につける。			
授業計画			
<p>学生は各実習校におもむき、現場のベテラン教諭の指導の下、教員になるための実地訓練を受ける。高等学校教諭免許取得のためには、出身高校における60時間の実習を行わなければならない。その間に関係教諭の指導を受け、実習記録をまとめる</p>			
授業外学習(予習・復習)			
講義終了後、毎回の講義のまとめを怠らないこと。			
教科書			
特に使用しない。			
参考書			
特に使用しない。			
成績の評価基準			
教育実習記録、授業実践についての評価。教育実習についての当該学校の評価。			
オフィスアワー			
特に指定しない。			
アクティブ・ラーニング			
その他;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
実習			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
<p>4年生であって、次に定める単位を修得していること。共通教育科目、専門教育科目合せて62単位以上。「教科の指導法に関する科目」等の科目のうち、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教科の指導法に関する科目」から計12単位以上。このうち「教科の指導法に関する科目」の教科教育法は必ず2単位修得。当該免許教科に関する科目の最低修得単位数(必修)の5分の3以上を修得。</p>			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード

FHS-AAX0409

科目名

教育実習事前・事後指導(社会・公民・地理歴史・商業)

英語名

Pre-Instruction and Review of Practice Teaching

開講学科

法文学部共通

コース

学部共通

授業科目区分

教職科目

授業形態

演習

単位数

1単位

開講期

4年

担当教員

川野恭司

連絡先(TEL)

099-282-1909

連絡先(MAIL)

kawakyo@po4.synapse.ne.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

事前指導としては、各科の基本的目標の確認と授業構想力、指導案の書き方、授業展開法を学び、事後指導としては、実習体験にをもとにレベルアップした授業展開法をより豊かに習得する。いずれも基本的に学生の模擬授業を通して行うものとする。

昨年度は新型コロナに影響により、教育実習の9割が2学期となったため、事実上は教育実習事前授業、それもオンライン授業となった。今年度も予断を許さない状況であるが、対面授業の実現を前提にしつつも、オンライン授業でも可能な内容となっている。いずれにせよ、グループワークを踏まえた授業展開を学生とともに追求していきたい。

学修目標

教育実習を前に、中学校社会科、および高等学校地歴・公民科・商業科における授業構想力と授業方法論の基本を習得する。具体的には教材観・生徒観・指導観をふまえた学習指導案の作成法、とくに学習到達目標の明確にし、認識の深化をうながす授業展開の作成法を身につける。また、教育実習という現場での体験をふまえて、授業構実践力の一層のレベルアップとともに、教育一般についての認識を深める。

授業計画

本授業は、毎回対面命式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する場合は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回：ガイダンス 教科の特質、その共通点と相違点、教育実習の意義
- 第2回：模擬授業グループ分担～テーマの確認、教材研究
- 第3回：教師による模擬的授業提起と発問～指導案について
- 第4回：実習事前 学生模擬授業(1) 中学社会
- 第5回：実習事前 学生模擬授業(2) 地歴～地理
- 第6回：実習事前 学生模擬授業(3) 地歴～世界史
- 第7回：実習事前 学生模擬授業(4) 地歴～日本史(前近代)
- 第8回：実習事前 学生模擬授業(5) 地歴～日本史(近現代)
- 第9回：実習事前 学生模擬授業(6) 公民
- 第10回：実習事後 学生模擬授業(1) 商業
- 第11回：実習事後 学生模擬授業(2) 地歴～世界史
- 第12回：実習事後 学生模擬授業(3) 地歴～日本史
- 第13回：実習事後 学生模擬授業(4) 公民
- 第14回：実習事後 学生模擬授業(5) 中学社会
- 第15回：実習全体の体験交流と総括

授業外学習(予習・復習)

予習：各模擬授業担当学生は学習指導案の事前作成にあたる。そのための教材研究と教員との打ち合わせに数時間～数日を要する。生徒役の学生もテーマについての毎事前学習が2時間。復習：全員毎時の授業(模擬授業・授業分析)後に、所感レポート提出する。所要時間は2時間。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

文科省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会科編」（東洋館出版2018年）、文科省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編」（東洋館出版2019年）・「同、公民編」（東洋館出版2019年）・「同 商業編」（実教出版2019年）、「資料で語る鹿児島県の歴史」（鹿児島県中学校社会科研究会編2018年）他、講義中に適宜紹介する。

成績の評価基準

指導案と模擬授業（50%）、授業分析への参加・所感（20%）、総括レポート（30%割）

オフィスアワ -

講義終了後・非常勤講師室

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

模擬授業および授業分析における対話・討論

アクティブ・ラーニング（授業回数）

教科授業においては、ほぼ毎回（14～15回）

備考（受講要件）

（1）演習にあたっては、問題提起（問いかけ）に対し、積極的に応答し、自ら討論に参加することを重視する（評価する）。このこと自体が、教職にあってはもちろんのこと、これからの世の中を生きる上で大切な資質となると考えるゆえ。

（2）数名ずつのグループ編成を行う。

実務経験のある教員による実践的授業

授業者（川野）自身の現場での実務・授業経験を踏まえて実践的授業提示を折に触れて行う。

ナンバリングコード

FHS-AAX0409

科目名

教育実習事前・事後指導(国語)

英語名

Pre-Instruction and Review of Practice Teaching

開講学科

法文学部共通

コース

学部共通

授業科目区分

教職科目

授業形態

演習

単位数

1単位

開講期

4年

担当教員

千々岩弘一

連絡先(TEL)

090-1871-6374

連絡先(MAIL)

chijiwa@soc.iuk.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

まず、中学校・高等学校の国語科教育に関する基本的な認識を再確認する。これを踏まえて、学習者の実態把握の方法や教材分析の方法、指導計画の作成方法などの確認を通して国語科授業構想力を育成する。さらに、教育実習を経た段階で、国語科教育に関して認識した諸課題を確認させる。

学修目標

1. 中学校・高等学校の国語科に関する基本的認識の再確認。
2. 中学校・高等学校の国語科授業構想力の育成。
3. 中学校・高等学校の国語科教育に関する諸課題の確認。

授業計画

<教育実習前>(対面授業を予定)

- 第1回 オリエンテーション(本科目の目標・内容・方法・評価などについての説明)
- 第2回 現行「学習指導要領」に基づく中学校国語科の性格
- 第3回 現行「学習指導要領」に基づく高等学校国語科の性格
- 第4回 国語科授業構想の方法1(国語科授業構想の手順の説明、学習者の実態把握の意義と方法)
- 第5回 国語科授業構想の方法2(学習指導目標・内容の意義と仮設の方法)
- 第6回 国語科授業構想の方法3(教材選定の意義と方法、教材分析の意義と方法、学習指導目標・内容の措置)
- 第7回 国語科授業構想の方法4(学習指導方法の解説-「発問」・「板書」の意義と方法)
- 第8回 国語科授業構想の方法5(学習指導方法の解説-ICT機器活用の意義と方法)
- 第9回 国語科授業構想の方法6(学習計画の立案の意義と方法、学習指導案の構造の解説)
- 第10回 国語科授業構想の方法7(学習指導案作成に関する補説)
- 第11回 受講生(A君)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第12回 受講生(Bさん)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第13回 受講生(C君)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第14回 受講生(Dさん)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第15回 中学校・高等学校における国語科教育に関する総括と受講者各自の課題の確認。

定期試験

授業外学習(予習・復習)

各自の課題意識に基づいて、必要な資料や情報を収集しておくこと。(予習2時間・復習2時間)

教科書

「中学校学習指導要領解説国語編」・「高等学校学習指導要領国語編」
必要に応じてプリントを配布する

参考書

『新訂 国語科教育学の基礎』(森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一著、溪水社、平成22年)

成績の評価基準

1. 受講態度(10%)
2. 体験談の報告内容(45%)

3. レポートの質 (45%)

オフィスアワ -

授業時間の後に質問を受ける

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

途中から遠隔授業に切り替わる可能性もある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-AAX0407			
科目名			
教職実践演習			
英語名			
Practical Training for Teacher Education			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
教務委員長、千々岩弘一、桑原田茂樹、川野恭司	099-285-7525 (法文学部学生係)	gakusei01@leh.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>(1) 学ぶ楽しさを味わわせる学習指導のありかたを考える。</p> <p>(2) 履修カルテに基づき自己診断を実施し、教員としての資質と能力を受講者自身に分析させ、個々の実践的指導力とその問題点について自覚させる。</p> <p>(3) 受講生が本学部で修得した専門知識を各教科教育にどのように生かすかを考えさせる。</p> <p>(4) (2) 及び (3) を各自でまとめ、レポートとして提出させることにより、教員としての自覚を高めることを目指す。</p>			
学修目標			
<p>将来教員となる上で必要な「教職の理解」、「連携協働力、自己改善力の育成」、「学習者理解」、「構想力、展開力、評価力等」、「教科領域等の内容理解」、「実践的なコミュニケーション能力」、「教員として求められるリーダーシップ」等に関して、自らの修得状況や課題となっている点を明らかにするとともに、不足している点を補い、自己改善力を身につける。具体的には、「履修カルテ」に強化すべき点として指摘されている事項や教育実習を通して気づいた課題を振り返りながら、教員としての資質能力を高める。また、学生の取得希望免許種に応じた実践力の向上も具体的に図る。</p>			
授業計画			
<p>本授業は、共通開設部分と個別開設部分とに分かれて授業を行う。</p> <p>共通開設部分は、法文学部、理学部、工学部、農学部、水産学部の5学部合同で行う(第1回、第12-15回:遠隔授業)。</p> <p>個別開設部分は、法文学部のみで行う(第2~11回:対面授業)。</p>			
<p>第1回 全体オリエンテーション(教職の意義及び求められる資質について、教職履修カルテを活用した自己省察を行う)</p> <p>第2回 授業に特化した自己課題について</p> <p>第3回 教科の特質や内容に応じた授業の構成や進め方:理論</p> <p>第4回 教科の特質や内容に応じた授業の構成や進め方:応用</p> <p>第5回 指導案作成1(グループワーク)</p> <p>第6回 指導案作成2(グループワーク)</p> <p>第7回 指導案作成3(グループワーク)</p> <p>第8回 模擬授業と授業研究1</p> <p>第9回 模擬授業と授業研究2</p> <p>第10回 模擬授業と授業研究3</p> <p>第11回 自己課題の振り返り</p> <p>第12回 特別支援教育の実際1(発達障害の理解と支援について)</p> <p>第13回 特別支援教育の実際2(特別支援教育コーディネーターの役割と校内委員会について)</p> <p>第14回 保健安全指導の実際</p> <p>第15回 総括講義, 授業全体の振り返り</p>			
<p>なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコース二</p>			

ユース等を通じて通知する。
授業外学習（予習・復習）
授業で扱う資料、参考文献の当該部分を事前に予習しておくことが望ましい（2時間）。また、受講した授業内容について復習することが望ましい（2時間）。模擬授業準備～指導案事前作成・検討（指導）
教科書
関連する学生指導要領解説（文部科学省）を参考書として使用する。 その他、必要に応じて適宜指示する。
参考書
関連する学生指導要領解説（文部科学省）を参考書として使用する。 その他、必要に応じて適宜指示する。
成績の評価基準
各講座での取り組みにおいて、自己の課題の解決の状況と身につけるべき資質能力の達成度を評価する。 共通開設部分（30%）、個別開設部分（70%）の結果を考慮して評価する。
オフィスアワ -
各担当教員の指示に従う
アクティブ・ラーニング
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
模擬授業および授業分析における対話・討論
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回
備考（受講要件）
1) 教育実習の単位を修得した者に限る。 なお、本科目の単位を修得するには以下（1）および（2）を満たしていなければならない。 （1）全体開設部分5分の4以上の出席 （2）学部個別開設部分の3分の2以上の出席
2) なお、模擬授業等において、ICTを積極的に活用する。
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-AAX2503

科目名

海外異文化体験実習（カナダの法と社会）

英語名

Study Tour : Introduction to Canadian Law and Society

開講学科

法文学部共通

コース

学部共通

授業科目区分

法文学部・法文アドバンス
ト科目I（選択）

授業形態

実習

単位数

1単位

開講期

1～4年

担当教員

松田忠大

連絡先（TEL）

099-285-7653（研究室）

連絡先（MAIL）

tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

法文アドバンスト科目は、法文学部の各学科・コースで身につけた様々な知識や能力を、現代社会における複雑な諸課題の解決に応用できる能力を涵養するという目的のもとに開講されている。この実習では、履修者は、カナダのピクトリア大学から提供されるカナダの法、政治、社会、歴史、文化に関する授業をオンラインで受講する。また、履修者が、同大学の学生・教員に対して、国際社会の抱える問題を題材としたプレゼンテーションを行い、これに基づくディスカッションの機会も設ける。さらに、履修者が異文化理解を深めることができるように、同大学の学生とのオンラインでの交流の機会をも設ける。

このような内容の実習を行うことにより、履修者の、国際社会の抱える様々な問題の解決に自らの専門分野の知見を活用することができる能力、自分の専門分野の知見を英語で活用できる能力を涵養する。

学修目標

- （１）カナダの法制度。政治制度の基礎を理解する。
- （２）カナダの歴史や文化の基礎を理解する。
- （３）カナダにおける環境保護の政策や取組を理解する。
- （４）英語による授業の受講をとおして、自己の英語の運用能力を高めることができる。
- （５）課題レポートの執筆をとおして、現代社会の諸問題について、国際的な視点に立って、その解決に向けた自分の考えを述べることができる。

授業計画

- 1．事前学習（１）：オリエンテーション（実習の進め方）
- 2．事前学習（２）：カナダの政治制度、地理、産業、国民性について
- 3．オンライン研修（１）：カナダの法と社会概論
- 4．オンライン研修（２）：カナダの法制度
- 5．オンライン研修（３）：カナダの政治制度
- 6．オンライン研修（４）：カナダの歴史
- 7．オンライン研修（５）：カナダの先住民
- 8．オンライン研修（６）：カナダの文化
- 9．オンライン研修（７）：カナダの経済
- 10．オンライン研修（８）：カナダの環境保護政策と法
- 10．オンライン研修（９）：カナダの芸術
- 12．オンライン研修（10）：プリティッシュコロンビア州ピクトリアの歴史遺産
- 13．オンライン研修（11）：国際的課題についてのプレゼンテーションおよびディスカッション・ピクトリア大学の学生および教員との意見交換
- 14．事後学習（１）：カナダの歴史、文化、社会に関するまとめ
- 15．事後学習（２）：国際社会の課題解決に向けた取組を考える

授業外学習（予習・復習）

各オンライン研修のテーマの基礎事項を事前に調査しておく（１時間）（予習）

各オンライン授業で学習した内容をレポートとしてまとめる（１時間）（復習）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

授業中に、必要に応じて、適宜紹介する。

成績の評価基準

各回に実施するレポート（70%）および最終レポート（30%）により評価する。

オフィスアワー

毎週火曜日2限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中12回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-AAX2503			
科目名			
海外異文化体験実習			
英語名			
Study tour to Turkey			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	実習	1単位	1~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
酒井佑輔		099-285-3761(森田)	sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp(酒井) morita@gic.kagoshima-u.ac.jp(森田)
共同担当教員		前後期	
森田豊子(グローバルセンタ)		後期	
授業概要			
<p>現在地球上には約16億人のムスリムが暮らしている。今後グローバルに活躍しようとするれば、世界人口の4分の1を占めようとしているムスリムとの協働が欠かせない。本授業の目的は、多様なイスラームの現実を知ること、そしてムスリムとの共生のあり方を探ることである。実際にトルコを訪問し、ムスリムの暮らしを見て感じ、現地の人々や大学生と対話し、自身の体験を通して学ぶ。海外研修を実りあるものにするために、事前学習を十分に行う。また、日本におけるイスラーム諸国の報道だけでは不十分なことから、インターネットなどを通して英語で書かれた現地新聞などに触れることができるように指導する。自身の関心に応じてテーマを設定し、必要な情報を集めて精査し、発表し、さらにまた調べ、まとめるという作業を行う。事後学習では、事前学習の内容に、現地での体験や調査データを加えて、各自の研究を完成させる。</p>			
学修目標			
<p>研修を通して、ムスリムが実際に暮らしている現場を知り、同年代のムスリムたちとの交流を通じて(1)日本の報道からの情報では決して得られない多様な視点を持つこと、(2)異文化への理解と共感の力を身につけること、(3)グローバルな視点で考えることを目指す。これらの能力を身につけることによって、今後、日本だけではなく国際社会で貢献できるような人材となれるよう、また、日本の地域社会で多文化共生を担うことのできる人材に成長することを目標とする。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 事前学習：オリエンテーション 事前学習：トルコ事情(中東およびトルコの政治経済) 事前学習：トルコ事情(中東およびトルコの社会と文化) 海外研修：現地大学との交流(アンカラ大学) 海外実習：現地大学とのワークショップ共催(アンカラ大学) 海外実習：国際支援-JICAオフィス訪問 海外実習：人々の暮らし トルコの市場調査 海外実習：宗教と政治 イスラーム宗教施設訪問 海外実習：宗教と政治 トルコの宗教史調査 海外実習：トルコにおけるNGO訪問 海外実習：トルコの教育施設訪問 海外実習：トルコの歴史と文化調査 海外実習：クロージングセッション(まとめ) 事後学習：資料の整理、報告書の作成 事後学習：海外研修報告会準備 			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約2時間) 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は2時間) また、大学交流ワークショップでの発表準備(テーマごとの調べ学習、パワーポイント作成)、報告書の作成など</p>			

もある。
教科書
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。
参考書
今井宏平『トルコ現代史』中公新書、2017年 大村幸弘他編著『トルコを知るための53章』明石書店、2012年
成績の評価基準
事前学習での貢献度30%、研修中の参加・貢献度40%、事後学習での貢献度30%
オフィスアワ -
水曜日5限
アクティブ・ラーニング
グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中12回
備考（受講要件）
研修費用は学生の自己負担である。 応募はP-SEGの枠内で行うため、ウェブで授業登録する必要はない。 アドバンスト科目という性質上2年生以上が優先される
実務経験のある教員による実践的授業
特になし。

ナンバリングコード			
FHS-AAX2602			
科目名			
キャリア論			
英語名			
Career Planning			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2~3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
横山春彦			yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
米田憲市、林田吉恵、農中至、宮下正昭、小林善仁		後期	
授業概要			
様々な領域で実際に仕事をしている方々の話を聞くことによって、大学での学びと社会生活の関連を考える。			
学修目標			
社会生活と大学での学びの関係を認識し、将来的な進路を考えていくための基本的な素養を身につける。			
授業計画			
すべて遠隔形式(オンライン型またはオンデマンド型)で開講するが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知する。			
第1講 ESの書き方	リクルートキャリア		
第2講 SPIの活用等	リクルートキャリア		
第3講 令和4年コロナ禍からの就活	鹿児島大学キャリア形成支援センター		
第4講 (仮)私達の労働環境	鹿児島県労働委員会		
第5講 法律専門職の仕事1	弁護士		
第6講 法律専門職の仕事2	税理士・社会保険労務士		
第7講 法律専門職の仕事3	不動産鑑定士・土地家屋調査士		
第8講 法律専門職の仕事4	法テラス・司法書士		
第9講 記者の仕事 伝えるということ	共同通信社鹿児島支局		
第10講 児童相談所の心理職業業務	鹿児島中央児童相談所		
第11講 (仮)キャリア理論を体験する	鹿児島大学キャリア形成支援センター		
第12講 地域金融機関の役割	鹿児島銀行人事部		
第13講 会社概要&お金の上手な育て方	ゆうちょ銀行鹿児島店		
第14講 就職とは? キャリアとは? 働くとは? 株式会社下堂園			
第15講 働くということ	キャタピラー九州株式会社		
授業外学習(予習・復習)			
予習: 講義テーマをもとに、自分なりの考えをまとめておくこと			
復習: 講義資料をもとに関連する事柄について調べ、講義内容について理解を深めること			
教科書			
ほぼ毎回、資料を配布			
参考書			
必要に応じて適宜指示をする			
成績の評価基準			
2/3以上の出席者を評価対象とする。			
毎回提出してもらおうミニレポート(100%)により評価する。			
オフィスアワ -			
設定なし。事前にアポイントメントをいただければ、その都度対応します。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

受講生には15回の講義テーマと関連し自身のキャリア形成について考えを深めてもらう。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

- ・ 出欠や提出物は、manabaおよびresponを通じて行うことを前提としているが、使用ができない事情がある受講者には個別に対応するので、最初の講義の際に必ず申し出ること。
- ・ 各講義はコーディネート教員が担当する。

実務経験のある教員による実践的授業

公務員や地元企業の従業員、弁護士、税理士などを講師として招き、それぞれの仕事の内容、やりがい、魅力などを講義してもらう。それを通じて、受講生には自身のキャリアについて、大学での学びと関連させつつ、考えを深めてもらう。

FHS-AAX2402

科目名

地域心理支援論（公認心理師の職責2）（旧 心理学のしごと）

英語名

Psychological Support in the Community

開講学科

法文学部共通

コース

学部共通

授業科目区分

法文学部・法文アドバンス
ト科目I（選択）

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

富原 一哉・安部 幸志・飯田 昌
子・平田 祐太郎・米田 孝一・山
崎 真理子

連絡先（TEL）

099-285-7536

連絡先（MAIL）

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

吉村 隆之・久保 陽子

前後期

後期

授業概要

心理学の専門性を生かした職業や業務を紹介することにより、心理学の知見を生かした将来のキャリアの見通しと目標設定が可能となるようにするとともに、心理学に対する学習意欲促進を図る。

学修目標

1. 心理の専門職（公認心理師，臨床心理士等）の役割について理解する。
2. 心理職の義務と倫理について理解する。
3. 心理支援を要する者への安全確保について理解する。
4. 保健医療、福祉、教育その他の分野における心理職の具体的な業務と連携について理解する。

授業計画

*遠隔形式（オンデマンド型およびリアルタイム型）でおこなう予定であるが，状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は，予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。また，講義内容や順番も変更されることもあるので注意すること。

第1回 「ガイダンス」（富原）【オンデマンド型】

第2回 「地域における心理職（公認心理師）の役割」（富原）【オンデマンド型】

第3回 「司法領域における心理職の役割（家庭裁判所調査官）」（ゲスト講師）（富原）【リアルタイム型】

第4回 「公認心理師の法的義務及び倫理」（富原）【オンデマンド型】

第5回 「生涯学習への準備」（安部）【オンデマンド型】

第6回 「心理に関する支援を要する者等の安全の確保」（飯田）【オンデマンド型】

第7回 「教育領域における心理職の役割（ネットワークを活用した心理支援の実際）」（平田）【オンデマンド型】

第8回 「福祉領域における心理職の役割 - 児童福祉」（久保）【オンデマンド型】

第9回 「福祉領域における心理職の役割 - 障害者福祉」（久保）【オンデマンド型】

第10回 「産業領域における医療とのつながりーリワークプログラム」（吉村）【オンデマンド型】

第11回 「産業領域における医療とのつながりーストレスマネジメント」（吉村）【オンデマンド型】

第12回 「病院におけるチーム医療」（米田）【オンデマンド型】

第13回 「心療内科、精神科における公認心理師」（米田）【オンデマンド型】

第14回 「マーケティング、リサーチにおける消費者心理学の活用」（山崎）【オンデマンド型】

第15回 「まとめ」（富原）【オンデマンド型】

授業外学習（予習・復習）

予習：各回のテーマに従い，manabaに掲載された授業資料等を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約1時間）

復習：授業で提示された学習内容を復習するとともに，課題のレポートを作成する（標準的時間は3時間）

教科書

なし。

授業の中で適宜プリントを配布する。

参考書

授業の中で適宜紹介する。

成績の評価基準

各回に出されるレポートによって評価する（100%）。未提出のレポートがあると大きく成績評価が下がるので注意のこと。

また，【リアルタイム型】の授業を止むを得ず授業を欠席する際は，その1週間後までに欠席した回の担当の先生に連絡を取り，別途課題を出してもらおうこと。それ以降の申し出は受け付けない。

オフィスアワ -

月曜2限(研究室)。ただし、できるだけメールにて事前に連絡してください。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

既にこの授業の単位を修得している者の繰り返しでの単位修得は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-AAX1401

科目名

現代社会を探索

英語名

Studies on World Today

開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
渡邊弘・鳥飼貴司・中島宏		099-285-7633(中島)	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp(中島)
共同担当教員		前後期	
		前期	

授業概要

私たちが生きる「現代の社会」とはどのような社会なのだろうか。この科目では、社会にある問題の中から時事的なトピックを取り上げ、社会の主体としてその問題に取り組むために必要な知識や考え方を探っていく。全体を大きく4つのテーマに分け、各テーマごとに3つのトピックを扱っていく。現代社会を自ら探るための手がかりを掴んでもらうための科目である。

学修目標

- ・自分たちが生きる社会の様々な問題を読み解くための知識と方法論を獲得する。
- ・現代における社会問題を概観し、その構造と背景について説明できるようになる。
- ・社会を変えていく担い手のひとりとして主体的な評価や判断ができるようになる。
- ・様々な情報の価値を正しく見極め、必要な情報を獲得できるようになる。

授業計画

本授業は、毎回Zoomミーティングを利用した遠隔方式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

下記は予定。「現代」の様相を見つつ、随時変更する。

- 第1回 本科目の概要・目標・学習方法/現代社会を探索するためのツール
- 第2回 現代社会について思考し、判断し、表現するためのティップス
- 第3回 犯罪と社会(1) 犯罪捜査とプライバシー
- 第4回 犯罪と社会(2) 被害者と加害者
- 第5回 犯罪と社会(3) 裁判はなぜ間違えるのか
- 第6回 経済ニュースと税財政(1) 経済ニュースを理解する
- 第7回 経済ニュースと税財政(2) 国と地方の財政
- 第8回 掲載ニュースと税財政(3) 勤め人の税金
- 第9回 子どもと教育(1) 格差社会と子ども
- 第10回 インターロード
- 第11回 子どもと教育(2) 子どもの価値観形成
- 第12回 子どもと教育(3) 教育政策の決定方
- 第13回 社会をつくる・変える(1) ゲスト講師による授業
- 第14回 社会をつくる・変える(2) ゲスト講師による授業
- 第15回 講義内容の振り返り

授業外学習(予習・復習)

予習...毎回事前に示される予習課題を実施し、講義当日までにmanabaで提出する(60分)
 復習...毎回の講義へのコメントをmanabaで提出する(60分)

上記の復習時間にはレポート課題3回（講義内容の復習に加え新書3冊の熟読が必要）の作成を含む。
予習・復習に必要な時間の合計については、文部科学省の定める大学設置基準に準拠する。

教科書

特に定めない。ただし、レポート作成のための課題文献をmanabaで各回1冊ずつ示す。

参考書

各回の参考文献（レポートの課題文献）は追ってmanabaで告知する。

本講義の全体を通じての参考文献として、以下のものがある。

- 1) 山本義隆『近代日本一五〇年 - 科学技術総力戦体制の破綻』（岩波新書）（2018年）
- 2) 井手英策・今野晴貴・藤田孝典『未来の再建 - 暮らし・仕事・社会保障のグランドデザイン』（ちくま新書）（2018年）
- 3) 見田宗介『現代社会はどこに向かうか - 高原の見晴らしを切り開くこと』（岩波新書）（2018年）
- 4) 高橋源一郎『ぼくらの民主主義なんだぜ』（朝日新書）（2015年）
- 5) 村上宣寛『あざむかれる知性 - 本や論文はどこまで正しいか』（ちくま新書）（2015年）
- 6) 本田由紀『もじれる社会』（ちくま新書）（2014年）

成績の評価基準

授業への参加状況...40%

毎回、a)事前の予習課題、b)講義後の感想・意見ト、c)その他教員が授業中に提出を求めたものをすべて提出した学生について、当該授業回に参加したものと認め、各提出物の内容を評価する。全体の3分の2以上について出席が認められない場合には失格とする。

レポート課題60点

この講義を構成する4つのテーマ（犯罪と社会、経済ニュースと税財政、子どもと教育、社会をつくる・変える）のうち3つを選び、講義で示す課題文献（新書またはこれと同じ水準のもの）を読んだ上で、講義内容に関する2000字以上のレポートをそれぞれ作成する（各20点）。なお、意欲のある学生は、4つのテーマすべてについてレポートを提出することもできる。その場合には、上記に加えてさらに20点を上限として単純加点する（4通目のレポートの点数を、100点満点を超えてそのまま加点する）。

オフィスアワー

月曜4限（中島）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

主体的に学び問う意欲がある者のみを「学生」と認める。

実務経験のある教員による実践的授業

ゲスト講師2名は講義内容に関連する実務経験を有する。

ナンバリングコード

FHS-AAX2601

科目名

マスコミ論(旧 マスコミ論I)

英語名

Mass communication theory

開講学科

法文学部共通

コース

学部共通

授業科目区分

法文学部・法文アドバンス
ト科目I(選択)

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

宮下正昭

連絡先(TEL)

090-8295-6853

連絡先(MAIL)

mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

本学教員のほか、在鹿児島マスメディアの報道責任
者・現役記者など

前後期

後期

授業概要

本学部と在鹿マスメディア13社が協力して開講。マスメディアの仕組み、地域メディアの役割や今日的課題、地域社会・世界を見る目、情報を読み解く力を身につける。また就職して働くことの意味や心構えを学ぶ。コロナ禍ですが、基本、対面授業の予定です。状況次第では遠隔もありえます。

学修目標

- (1) 新聞社・通信社の仕組み、記者・アナウンサー・キャスターの仕事など、報道の現場の姿を把握し、リテラシー能力を向上できる。
 (2) マスメディアの抱える課題とその解決への努力を理解することにより、就職活動に生かすことができる。
 (3) マスメディアの役割・構造を理解し、現代社会での「言論の自由」について認識を深めることができる

授業計画

第1回	ネット社会の新聞と放送	法文学部教員
第2回	通信社の仕事1	共同通信鹿児島支局長
第3回	全国紙の報道1	朝日新聞福岡報道センター記者
第4回	全国紙の報道2	毎日新聞鹿児島支局長
第5回	全国紙の報道3	読売新聞鹿児島支局長
第6回	地方紙の報道	南日本新聞編集局デスク
第7回	地域紙の役割	南海日日新聞鹿児島総局記者
第8回	通信社の仕事2	時事通信鹿児島支局長
第9回	民放ローカル局の役割1	MBC報道局長
第10回	民放ローカル局の役割2	KTSウェザーセンター長
第11回	民放ローカル局の役割3	KKB報道情報センター記者
第12回	民放ローカル局の役割4	KYT報道制作局次長
第13回	公共放送の意義	NHK鹿児島放送局放送部副部長
第14回	アナウンサーの仕事	KYTアナウンサー
第15回	20代記者4人と語る	新聞2社と放送2社から各2人

授業外学習(予習・復習)

できるだけ毎日、新聞を読み、テレビのニュースや報道特集番組を視聴し、ポータルサイトのニュース記事をチェックするなど、ニュース感覚を磨く努力をすること。

毎回、受講しての感想レポートを当日中にmanaba上で提出する。復習を兼ねた作業となります。

教科書

特に使用しない。適宜資料を配付する。

参考書

講義中に適宜紹介する。

成績の評価基準

毎回の講義に対する「感想シート」と期末レポートを総合評価する。

オフィスアワ -

金曜午後 事前に連絡を

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

対面授業を基本とする予定です。

受講の際はマスクを必ず着用すること。

教室は空調を入れたうえで窓を開放するなどコロナ対策を取る。

状況によっては遠隔授業を取り入れる可能性もある。

11月25日の予備日も活用する。代わりに12月23日は休講予定。

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島大学法文学部と在鹿マスメディア13社が協力して開講する講義である。マスメディアの仕組み、地域メディアの役割や今日的課題、地域社会・世界を見る目、情報を読み解く力を身につける。また就職して働くことの意味や心構えも学ぶことができる。

ナンバリングコード			
FHS-AAX2502			
科目名			
まちづくり論			
英語名			
Community Development and Town Management			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
平井一臣		285-8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメールを拒否をしないように注意して下さい。
共同担当教員		前後期	
鹿児島市との包括連携協定に基づき、鹿児島市の職員の協力を得て行います。		前期	
授業概要			
<p>(1)鹿児島市が策定した第五次総合計画(平成24年度~令和3年度)の6つの基本目標に基づく政策及び地域別計画について各テーマを専門とする職員及び担当講師が授業,ワークショップを担当します。</p> <p>(2)当該授業により,市政への理解と関心を高め,学生の市政への参画を推進するとともに,将来のまちづくりを担う人材を育成することを目的とします。</p> <p>(3)「受講生の声」等,過去の記録が法文学部のHP上で公開されています。受講に当たっては,是非参考にしてください。</p> <p>http://kadai-houbun.jp/education-program/advanced/machidukuri/ 授業は,原則として対面で実施します。</p>			
学修目標			
<p>当該授業では,以下のことを学修目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行政の仕組みや役割が理解できる。 2. 鹿児島市のまちづくりの現状や課題が理解できる。 3. 鹿児島市の現状や課題を踏まえた改善策を提案できる。 4. 地域公共政策の立案プロセスを理解できる。 			
授業計画			
<p>授業計画は,以下のとおりです。ただし,鹿児島市の都合で変更する場合があります。</p> <p>第1回 ガイダンス,「今日の地方自治体と政策」【担当講師】</p> <p>第2回 「鹿児島市の危機管理政策」(1)講義・グループワーク【鹿児島市危機管理課】</p> <p>第3回 「鹿児島市の危機管理政策」(2)プレ報告【担当講師】</p> <p>第4回 「鹿児島市の危機管理政策」(3)プレゼンテーション【鹿児島市危機管理課】</p> <p>第5回 「鹿児島市の地域振興政策」(1)講義・グループワーク【鹿児島市喜入支所総務市民課】</p> <p>第6回 「鹿児島市の地域振興政策」(2)プレ報告【担当講師】</p> <p>第7回 「鹿児島市の地域振興政策」(3)プレゼンテーション【鹿児島市喜入支所総務市民課】</p> <p>第8回 「鹿児島市の産業支援政策」(1)講義・グループワーク【鹿児島市産業支援課】</p> <p>第9回 「鹿児島市の産業支援政策」(2)プレ報告【担当講師】</p> <p>第10回 「鹿児島市の産業支援政策」(3)プレゼンテーション【鹿児島市産業支援課】</p> <p>第11回 意見交換会の準備(1)【担当講師】</p> <p>第12回 意見交換会の準備(2)【担当講師】</p> <p>第13回 意見交換会の準備(3)【担当講師】</p> <p>第14回 意見交換会の準備(4)【担当講師】</p> <p>第15回 市長との意見交換会</p> <p style="text-align: center;">~若者の視点からまちづくりの提言を行う~ 授業外学習(予習・復習)</p>			

(予習)

1. 各授業の前に、鹿児島市のホームページを閲覧し、授業に関連する政策の内容を確認しておくこと。
2. 事前に配付する資料を参考に、次回の授業の予習を欠かさず行うこと。
3. 鹿児島市の政策に関連する報道（新聞、テレビなど）について、こまめにチェックし、関心をもって接すること。

(1～3について、標準的学習時間は約1時間)

(復習)

課題レポートの作成やプレゼンテーションの準備のため、必要に応じて、鹿児島市の関連部署へのヒアリングを行うこと。(標準的学習時間は約1～2時間)

教科書

あらかじめ講義に必要な資料を配付します。

参考書

講義のなかで適宜紹介します。

成績の評価基準

1. 「課題レポート」並びに「グループ内での議論及び発表の内容」により行います。
2. 評価割合は、講義のコメントシート(グループ内での議論及び発表の内容を反映したコメントシートを提出してもらい点数化します)50%、課題レポート50%です。

したがって、出席回数が少なく、コメントシートが提出できない場合、レポートが満点でも合格点は得られません。

3. 課題レポートは、危機管理政策、地域振興政策、産業支援政策、あるいは、その他自身が興味をもつ政策の中から当該課題に対する改善策を提案するものとします。

オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めず対応します。メールであらかじめ訪問の内容と希望訪問日時を連絡して下さい。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

1. この授業を履修するには、強い意思をもち主体的・積極的に参加することが必要です。全ての回に参加するよう心がけ、また、授業外学習も十分に行ってください。将来、地域公共政策の立案者として活躍を望む学生の参加を歓迎します。
2. この授業では、グループで議論を行い、その成果を発表し、課題レポート作成のために、必要に応じて鹿児島市の担当部署に対してヒアリングを実施するなど、各学生が主体的・積極的に学ぶ姿勢をもつことが求められます。
3. グループワークの成果を発表するためには、課外での活動を含め、グループでの十分な準備が必要です。
4. 鹿児島市へのヒアリング調査を実施する場合には、ヒアリング調査事項を作成し、鹿児島市の担当者の方と日程を調整し、効率よく行う必要があります。
5. 市長との意見交換会では、自薦あるいは講師が指名する数名の学生が市長への提言をとりまとめ、関係部署との事前協議を行います。また、当日の運営もすべて(司会も含む)学生が行います。
6. 受講を希望する者は、初回到講義の進め方及び評価方法について説明するので必ず出席して下さい。
7. 講義資料は、当日講義に参加した学生のみに配布します。後日配布はしないので十分注意してください。
8. 提出された課題レポートは、鹿児島市の政策立案の参考資料とするため、その写しを全て提供します。
9. 提出のあった課題レポートのうち、とくに優秀であると認められたものについては、鹿児島市役所でのプレゼンテーションを予定しています。
10. 受講生のうち希望者を募り、夏期休業中に鹿児島市役所でのインターンシップを行い(人数制限あり)、同インターンシップを踏まえた課題レポートのプレゼンテーションを実施する予定です。

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島市が策定した第5次総合計画(平成24年度～令和3年度)の6つの基本目標に基づく環境政策、観光政策、産業支援政策、危機管理政策など主要政策の内容及び課題について、鹿児島市の職員及び自治体職員として政策立案の実務経験を有する授業担当者が分担し、講義を行う。そのうち、各政策の解決すべき課題についてのワークショップを実施し、その成果についてのプレゼンテーションを行う。15回の授業のうち、鹿児島市の職員が

6回の講義を担当し、授業担当者が8回の講義を担当する。最終回は、学生が講義で身につけた課題発見・課題解決能力を生かし、鹿児島市の市長を招いて、直接、政策提言をする機会を設けている。

ナンバリングコード			
FHS-AAX2501			
科目名			
アクティブ・ゼミ（企画・編集）			
英語名			
Project-Based Learning Seminar			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I（選択）	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
菅野康太		099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>< 年度を越えて通底する本授業の目的 ></p> <p>本授業では、webや紙媒体を用いた情報発信を実践する。鹿児島では、様々なグラスルーツの活動が行われているが、それをあまり知らない大学生も多い。一方で、そのような活動をしている地域の人々は、学生の参加やアイデアを求めている。地域で行われている新しい取り組みを知ることは、自身のキャリアデザインにも繋がるだろう。また「知る」ための最良の手段は自ら「つくる」ことでもある。各受講生の興味関心に合わせ、鹿児島で行われているさまざまな取り組みを取材し、それを記事にする。もしくは、各受講生の興味関心に合わせ、この地域や現代社会の課題を洗い出し、その解決策を探るために取材を行う。必要であれば、イベントを企画・開催し、その内容をレポート記事にするなどの方法も考えられる。また、このような活動を行う際には、根拠の妥当性が重要となる。その妥当性は、学術的な知見や調査によって担保されるということを他の授業などでも指導された経験があるだろう。それらを活かし、取材や執筆などを行うことも目指す。この授業を通して、大学での学びを社会で活かすための実践をしようと思っ</p> <p>どのようなテーマを選択するかは、各受講生の希望を聞いて決定するが、全てを一から作り上げることは難しいため、学外の協力者の活動や媒体に参加し、記事の執筆などを行える体制を準備している。</p> <p>< 今年度の主たる活動 ></p> <p>今年度の主たるテーマは、地球温暖化対策の一環として鹿児島市が取り組む「ゼロカーボンシティかごしま」に関する情報発信のための企画立案。ゼロカーボンシティ事業は、2050年までに二酸化炭素排出を実質ゼロにすることを目指すもの。これまでも、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしていこうという国の取組である「COOL CHOICE」に関するフリーペーパー製作を、本授業において鹿児島市環境政策課と行ってきた。今年度も、これら活動を継続・発展させ、鹿児島市環境政策課の「ゼロカーボンシティかごしま」事業と連携する。フリーペーパー『COOL CHOICE鹿児島』として編集してきたコンテンツの蓄積や新規の取材内容を、ゼロカーボンシティかごしまのwebサイト上に記事として展開し情報発信する。その過程で、ゼロカーボンシティかごしまパートナー企業とワークショップを行い、「わたしたち（行政・市民・企業）にできることは何か？」を探りながら、その過程も記事化し、具体的なプロジェクト化とわたしたちの行動変容を狙う。また、大岩根尚博士から環境学の専門的なアドバイスを受けながら授業を進める。</p> <p>鹿児島市 ゼロカーボンシティかごしまのHP https://ok-kagoshima.jp http://www.city.kagoshima.lg.jp/kankyo/kankyo/kanseisaku/zcckpartner.html</p> <p>2019年度の活動報告やフリーペーパー『COOL CHOICE鹿児島』のダウンロードはこちらから https://kadai-houbun.jp/seminar_info/201009-01/</p> <p>< 学外協力者 > 本年度の学外協力者を以下に示す。</p>			

鹿児島市環境政策課

大岩根尚

合同会社むすひ・代表社員。九州大学、東京大学で地質学・海洋地質学を専攻して博士(環境学)の学位を取得。その後、国立極地研究所へ就職し、第53次南極地域観測隊として南極内陸部の調査に参加。帰国後、2013年10月から三島村役場のジオパーク専門職員に。2015年にジオパーク認定取得後、2017年3月に三島村役場を退職。硫黄島に移住して「合同会社 むすひ」を立ち上げ、自然ガイドや大学の実習受け入れ、教育・研究のサポートを続けている。カードゲーム 2030 SDGs ファシリテーター。

SILASU

アートの視点で鹿児島を探索する活動を行う任意団体。菅野もメンバーの1人。KAGOSHIMA Arts and/or Science など、芸術、科学、コミュニティデザインなどに関するイベント企画やwebでの発信を行なっている。この関連イベントやwebでの発信の企画・執筆に関わることが可能。広報、コミュニティデザイナー、デザイナー、アーティストで構成される。

<https://bit.ly/20PVx11>

学修目標

- ・企画立案の際に、その企画が重要である理由を当該コミュニティの背景から論理的に説明できるようになる。
- ・情報発信を自らできるようになる。
- ・学術的背景や方法論に基づき、情報の妥当性を精査し、文章作成ができるようになる。
- ・分かりやすさと正確さが両立した情報発信ができるようになる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：科学コミュニケーション、地球温暖化、昨年度までの活動
- 第2回 現状の理解（1）：地球温暖化の現在（外部講師）
- 第3回 現状の理解（2）：鹿児島のゼロカーボンにむけた現状、取り組み
- 第4回 現状の理解（3）：パートナー企業からのプレゼン
- 第5回 ディスカッション
- 第6回 解決策を考える1
- 第7回 解決策を考える2
- 第8回 企画会議1
- 第9回 企画会議2（企画案プレゼン）
- 第10回 企画会議3（企画案プレゼン）
- 第11回 コンテンツ作成1
- 第12回 コンテンツ作成2
- 第13回 企画会議4（鹿児島市がゼロカーボンシティになるために必要なことはなにか？）
- 第14回 成果発表1
- 第15回 成果発表2

2021年度は、小人数制により、対面での授業とします。

外部講師の授業回などは、Zoomを用いたオンライン授業によるディスカッションを中心に行う可能性もあります。

slackを用いて授業時間外にも企画立案や取材に関する連絡相談を取ることを可能にしています。

これらシステムにより、manabaにログイン出来ない学外の協力者とも連携することができます。

授業外学習（予習・復習）

取材、執筆、イベント参加など、授業外で行う必要がある。また、日常的にslackを用いた議論や連絡を行う。企画会議として授業を行うため、その企画立案が予習に相当し（各回約2時間）、さらにそれをブラッシュアップして成果物とするための時間が必要となる（取材やイベント運営など、週約4時間の授業外学修に相当）。

教科書

なし

参考書

- ・菅野が執筆したサイエンスコミュニケーションに関する論考

<http://synodos.jp/authorcategory/synapseproject>

- ・『DRAWDOWNダウンロード 地球温暖化を逆転させる100の方法』（山と溪谷社）

成績の評価基準

企画立案および最終成果物の記事内容をレポートとして評価する（100%）。その際、成果物が地球温暖化問題に関し「（身近な）他者の行動変容につながったか」どうかを重視する。

オフィスアワ -

随時（要メール連絡）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

P B L（プロジェクトベースの学習）、取材、イベント企画、記事編集・執筆

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

- ・履修希望者は事前にメール連絡をください。
- ・募集人数は最大15人とします。
- ・何かを調べたい、発信したい、学外の活動に参加したいという方を歓迎します。
- ・大学での学びを社会で活かす方法を模索している方を歓迎します。
- ・授業は企画会議としてグループディスカッション中心で進行します。
- ・他学部の方も歓迎します（法文学部学生係に履修方法を問い合わせてください）。
- ・休日などのイベント参加を授業参加に振り返ることがあります。
- ・取材などは授業時間外となります。
- ・移動など費用がかかる場合、学外協力者の運営費で協力いただくこともありますが、受講生の完全自主企画などの場合、費用は捻出できない可能性が高いです。通学範囲内の取材にするなど工夫が必要になる可能性があります。
- ・外部講師担当回は、講師の都合により開催回が前後する可能性があります。

実務経験のある教員による実践的授業

外部講師が民間の実務経験者になる可能性が高い

ナンバリングコード			
FHS-AAX2401			
科目名			
地域科学特殊講義			
英語名			
Special Lecture of regional science			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
石塚孔信		099-285-7586(石塚)	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp(石塚)
共同担当教員			前後期
北崎浩嗣 小林善仁 吉田明弘 中島大輔 林田吉恵 金子満			前期
授業概要			
・近年、「地域」は現代社会の大きな変動の中で、いろいろな観点から関心を呼び、注目されている。この「地域」のことを総合的に分析し、理解することによって、今後のあり得べき地域政策を考える力を学生諸君に身につけてもらう。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域」とは何かを理解する。 ・「地域」を総合的に分析するためのツールを身につける。 ・「地域」の問題点や課題を洗い出し、認識する。 ・今後のあり得べき地域政策を考える。 			
授業計画			
以下のスケジュールで行う。基本的には遠隔授業(オンデマンド型)で全回行う。			
第1回	オリエンテーション(石塚)		
第2回	「地域への関心と講義への要望について」(石塚)		
第3回	「地域分析の方法について」(石塚)		
第4回	「地域のとらえ方」(森脇)		
第5回	「地域とは何か?」(吉田)		
第6回	「数字から見た地方の現状」(林田)		
第7回	「条件不利地域(中山間地域)の小規模自治体に見る活性化戦略」(北崎)		
第8回	「地域におけるクラブチームの役割」(徳重:鹿児島ユナイテッドFC代表)		
第9回	「地域と子どものあそびについて」(金子)		
第10回	「コミュニティ放送局の役割」(上梶:FMあいら社長)		
第11回	「地図にみる鹿児島の市街地」(小林)		
第12回	「中心市街地の現状と課題について」(石塚)		
第13回	「鹿児島市の中心市街地活性化の取組について」(岩元:鹿児島市中心市街地活性化推進室長)		
第14回	「ドイツのまちづくり-フライブルク旧市街の保全と活性化-」(中島)		
第15回	まとめ(石塚)		
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習:manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約2時間) ・復習:授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は2時間) 			
教科書			
・鹿児島大学法文学部編『地域科学入門-鹿児島を変える14の視点-』朝日印刷2020年4月.			
参考書			
・各教員の準備する資料等。			
成績の評価基準			
・15回の授業のうち10回以上の出席を前提として、以下のような割合で評価する。			

- ・毎回のミニッツペーパーの評価 = 40%
- ・最終レポートの評価 = 60%

オフィスアワ -

木曜日の4限終了後

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

- ・地域について関心のある熱意ある学生諸君の受講を期待している。
- ・遠隔授業になるので授業計画に変更が出てくる可能性がある。

実務経験のある教員による実践的授業

「地域」のことを総合的に分析し、理解することによって、今後のあり得べき地域政策を考える力を学生諸君に身につけてもらう。専任教員とゲスト講師（3回）による講義で地域について学び、地域政策を考える。またフィールドワークが1回ある。

ナンバリングコード

FHS-AAX3502

科目名

地域科学演習

英語名

Regional Science exercises

開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
石塚孔信		099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
小林善仁		後期	

授業概要

- ・第5回を除き遠隔授業(リアルタイム配信(Zoom))。第5回は対面授業
- ・「地域」の問題は、現代社会の大きな変動の中で、いろいろな観点から関心を呼び、注目されている。そのなかでも近年話題となることが多い「中心市街地」の衰退は、全国的に、とりわけ地方都市において深刻な問題となっている。
- ・本演習では、地方中心都市であり、県庁所在地でもある県都鹿児島市における中心市街地の活性化問題に本学部と鹿児島市が協力して取り組み、学生諸君と研究調査を共同で進めていく。
- ・最終的には、報告書としてまとめることによって、鹿児島市の中心市街地の問題点を指摘し、それに対する処方箋と街づくりの方向性を模索していく。
- ・コロナウィルスの状況により、内容を一部変更することがある。

学修目標

- ・鹿児島市の中心市街地の課題を理解する。
- ・中心市街地の課題を総合的に分析するツールを身につけて、実際に分析を行う。
- ・アンケート調査の方法を習得し、実際に調査を行う。
- ・鹿児島市の中心市街地の現状や課題を洗い出し、まとめる。
- ・最終的には、報告書を作成し、鹿児島市の中心市街地活性化の処方箋と方向性を提言する。

授業計画

- ・今のところ、基本的にはすべて対面授業で行う予定である。
- 第1回 オリエンテーション(石塚・鹿児島市役所)「今回の実習の意義や過去の調査の概要説明」
- 第2回 中心市街地の課題について(1)(石塚)「法律や制度(まちづくり3法の変遷等)」
- 第3回 中心市街地の課題について(2)(鹿児島市役所)「本市における具体的な施策とその評価」
- 第4回 アンケート調査の方法(1)(本学教員)「調査票の作成法とデータ入力」
- 第5回 中心市街地の視察(エクスカージョン)(本学教員・鹿児島市役所)「アンケート調査の現場を含む中心市街地の視察」
- 第6回 アンケート調査表の作成(石塚・鹿児島市役所)「今回の調査における調査票の作成」
- 第7回 アンケート調査の方法(2)(本学教員)「調査票の集計法(グラフの作成、相関係数、クロス集計等)」
- 第8回 アンケート調査の方法(3)(本学教員)「推定と検定等」
- 第9回 アンケート調査表の結果(データ)入力(石塚)「データ入力とグラフ化」
- 第10回 中心市街地の課題について(3)(本学教員)「本市や他地域の事例紹介」
- 第11回 アンケート調査の結果の分析(1)(本学教員・鹿児島市役所)「データと図表、グラフからの検討」
- 第12回 アンケート調査の結果の分析(2)(本学教員・鹿児島市役所)「データと図表、グラフからの検討」
- 第13回 報告書の作成(1)(本学教員・鹿児島市役所)「班分けと班ごとの報告書の作成」
- 第14回 報告書の作成(2)(本学教員・鹿児島市役所)「全体を通しての報告書の作成」

第15回 まとめ(本学教員・鹿児島市役所)
第16回 期末試験は行わない(報告書の評価)
授業外学習(予習・復習)
予習: 担当教員からの指示及び業計画等を踏まえながら予習を行い、次回の授業に主体的に参加できるよう準備をする。(2時間程度)
復習: 担当教員からの指示及び授業で扱った内容等を整理しつつ復習し、その内容を確実に身につける。(2時間程度)
教科書
・特に指定しない。
参考書
・授業時間内において適宜指示する。
成績の評価基準
・15回の授業のうち10回以上の出席を前提として、以下のような割合で評価する。
・授業時間内において使用するデータの収集やアンケート調査表の作成 = 40%
・報告書(1編) 60%
オフィスアワ -
本演習の前後の時間
アクティブ・ラーニング
グループワーク; フィールドワーク;
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
アクティブ・ラーニング(授業回数)
15回中15回
備考(受講要件)
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上。 ・地域科学特殊講義を受講していることが望ましい。 ・受講者数の上限は30名。 ・希望者が上限を超えた場合は、地域科学特殊講義を受講済みの学生を優先する。 ・鹿児島市役所と共同で報告書を作成することになるので、「地域」や「まちづくり」に強い関心を持ち、モチベーションの高い学生諸君に受講してもらいたい。
実務経験のある教員による実践的授業
鹿児島市役所職員により、鹿児島中心地市街地の現状や課題を洗い出してもらおう。それらの課題に対して学生は、アンケート調査等を行い、事前に身に着けたエクセルツール等を使用しながら、中心市街地活性化の処方箋と方向性を市役所職員と一緒に考える。専任教員が5回ツール等の解説を行い、10回、ゲスト講師が、市の課題等を紹介する。

ナンバリングコード			
FHS-AAX3602			
科目名			
行政企業体験実習			
英語名			
Internship on Administration and Corporation			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	1単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
就職委員長		0992857525	uemt05あっと leh.kagoshima-u.ac.jp(2021/3/31迄)
共同担当教員		前後期	
該当無し		前期	
授業概要			
本実習は、企業等でのインターンシップおよびその事前・事後指導で構成される。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後指導及びインターンシップを通じて、インターンシップ先の業種および職種に関して分析、理解を行い、それを説明することができる。 ・事前・事後指導及びインターンシップを通じて、具体性のあるキャリア意識を形成して説明し、報告できるようになる。 			
授業計画			
授業計画			
第1回 事前指導1：事前指導ガイダンス（manabaオンデマンド 4月14日） 第2回 事前指導2：（ ）インターンシップ活用法（Zoom 4月28日） 要予約(キャリア形成支援センター) 第3回 事前指導3：（ ）就活マナー実践（Zoom 8月11日） 要予約(キャリア形成支援センター) 第4回 インターンシップ実施（1） 第5回 インターンシップ実施（2） 第6回 インターンシップ実施（3） 第7回 インターンシップ実施（4） 第8回 インターンシップ実施（5） 第9回 インターンシップ実施（6） 第10回 インターンシップ実施（7） 第11回 インターンシップ実施（8） 第12回 インターンシップ実施（9） 第13回 インターンシップ実施（10） 第14回 インターンシップ実施（11） 第15回 事後指導：レポート報告			
授業外学習（予習・復習）			
授業外学習			
第1～4回：予習30分 <ul style="list-style-type: none"> ・計画を確認し、指定された事前指導プログラムの予約を適切に行う。 ・事前指導のテーマに応じて、希望するインターンシップ先についてある程度の計画を立て、それに照らし合わせて、当日重点的に確認したい点、質問事項をまとめておく。 			
第1～4回：復習30分 <ul style="list-style-type: none"> ・事前指導の内容を復習してミニツッペーパーを提出する。個別に必要な情報収集等や就職活動に役立つ方法を実践する。 			

第5回～14回：予習30分

- ・事前指導の内容を活用して、実際の研修時に実践できるように十分な準備を行う。
- ・各研修に必要な準備を前日までに必ず確認して万全を期する。

第5回～14回：復習30分

- ・当日中に、経過や気づきなど、必要な記録をとる。
- ・翌日以降の反省に生かしたり、研修先での確認事項等に生かす。

第15回：1時間

研修中の日誌を元に、研修についての総括的なレポートを作成し、提出したあと、研修を振り返り、以降の就職活動に生かす。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

成績の評価基準

事前指導、事後指導への取り組み態度（55パーセント）、インターンシップ参加状況（45パーセント）

オフィスアワー

追って知らせる

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当無し

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

- ・本授業は4～8月中の事前指導、主に夏休み期間のインターンシップ実施、実施後の事後指導にて構成される変則開講の授業である。事前指導の講義については例年水曜4限目に行われる（3月下旬に日程を指示する）。
- ・前期の履修登録日におけるWeb登録を行い、前期中の授業を受ける必要がある。なお、結果的にインターンシップを実施できなかった場合には自動的に取り消しとなる。
- ・事前指導等の具体的日程については掲示及び、法文学部における就職活動用のmanaba掲示などにより周知する。
- ・その他公表されているスケジュール等を含め支障のある者は個別対応の余地があるため必ず就職委員長または学生係に相談すること。
- ・対象となるのは、法学コースの「キャリア体験実習」を除き、鹿児島大学を通して行われるインターンシップであり、かつ3日以上の日程であることが求められる。「まちづくり論」との連携により実施されるインターンシップも含まれる。

実務経験のある教員による実践的授業

該当無し

ナンバリングコード			
FHS-AAX2201			
科目名			
自然科学から見る人・文化・社会			
英語名			
The Natural Sciences and the Humanities			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目II（選択）	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
近藤和敬・太田純貴・菅野康太・石田智子		099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
太田純貴、菅野康太、石田智子		前期	
授業概要			
本授業では、近年ますます重要性の高まりつつある自然科学の観点から、あるいは自然科学の観点との関連のなかで、人文科学的問題関心について複数分野の専門教員によって横断的に講義を行う。			
学修目標			
本授業では、以下の要件の修得を学習目標とする。			
1. 自然科学という人間の営みがついついの特徴について、自然科学と人文科学を横断する観点から理解すること。			
2. 人・文化・社会といった人文科学的な主題について、自然科学的観点から理解する方法およびいくつかの結果を理解すること。			
3. 人文科学的な関心と自然科学的関心を受講生自身が結びつけられるようになること。			
授業計画			
1 ガイダンス、授業内容等の説明（近藤：オンデマンド）			
2 初期近代以来の自然科学と天文学の歴史：宇宙の歴史と量子力学（近藤：オンデマンド）			
3 地球の歴史と惑星科学（近藤：オンデマンド）			
4 地球上の生命と人類の歴史（近藤：オンデマンド）			
5 ヒトの文明における累積的創造過程と人間集団におけるその役割（近藤：オンデマンド）			
6 タイムマシン/タイムトラベルと自然科学 時間の尺度（太田：オンデマンド型）			
7 タイムマシン/タイムトラベルと自然科学 地質学（太田：オンデマンド型）			
8 タイムマシン/タイムトラベルと自然科学 進化論（太田：オンデマンド型）			
9 考古学における科学的思考 捏造・偽史・疑似科学（石田：オンデマンド型）			
10 災害と復興の考古学（石田：オンデマンド型）			
11 モノの動きからみたヒトの交流（石田：オンデマンド型）			
12 なぜ科学は嫌われるのか？：社会生物学論争に見る「分断」（菅野：オンデマンド型）			
13 分断はするけど境界は曖昧：男と女、自然と人工、生命と非生命（菅野：オンデマンド型）			
14 理系と文系の現在を巡って：何を対話すべきか？（菅野：オンデマンド型）			
15 対話は可能なのか？：科学技術社会論、メディア、アートの事例（菅野：オンデマンド型）			
オンデマンド型講義は、リアルタイム型や教室での通常講義に変更になる可能性があります。			
授業外学習（予習・復習）			
・授業でもちいるスライドの印刷あるいは講義用資料を授業の前後に読んで予習と復習をすること（約2時間）。			
・授業で取り上げた書籍などを授業後などに自分で読むことを復習として行うことが望ましい（約2時間）。			
教科書			
授業中に適宜指示する。			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			

授業中あるいは授業後のミニッツ・ペーパーに相当するもの、および授業中に行われる小テストなど（授業担当教員によって若干異なる場合がある）。主にmanabaを使った提出物（75%）と小テスト（25%）を基準とします。

オフィスアワ -

授業のあとなど随時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15

備考（受講要件）

受講要件は特にないが、250人を超えた場合、抽選により履修制限をかける（先着順）。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
FHS-AAX0403			
科目名			
地理歴史科教育法I			
英語名			
teaching Geography and History I			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
永山修一	099 - 268 - 3121		nagayama@lasalle.ed.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学習指導要領や教科書の役割を理解するとともに、授業の年間計画、単元計画、各時間の「学習指導案」について理解を深める。3～4名の班を作り、協同しての指導案作成、授業準備を課す模擬授業を通じて、実践的な力を身につける。模擬授業ごとに、意見交換を行い、よりよい授業づくりをめざす姿勢を身につける。ただし、受講者数・遠隔授業の状況に応じて、授業の回数や内容、授業形態は変更となる可能性がある。			
学修目標			
現在の歴史地理教育をとりまく諸問題に関心を持つとともに、養成すべき歴史的思考力・地理的思考力について考え、実際に学習指導案を作成し、それに基づいて授業が行えるようにする。			
授業計画			
本講義は、全回対面授業の予定であるが、状況によって変更される場合がある。そのさいは、manaba等によって連絡する予定である。			
第1回：導入 レシートを用いた授業（近年の歴史地理教育の問題に関するレポート課題提示）			
第2回：学習指導要領（地理歴史科）の概要			
第3回：学習指導案について（1）作成について 視聴覚教材と情報機器の活用			
第4回：学習指導案について（2）導入と展開のあり方について			
第5回：学習指導案について（3）評価について			
第6回：実際の授業（ラ・サール学園において授業見学、討論）			
第7回：地理歴史科と国際理解教育			
第8回：地理歴史科におけるディベート授業			
第9回：授業の実際と討論（模擬授業1 日本史 諸資料から見る古代社会）			
第10回：授業の実際と討論（模擬授業2 日本史 地域資料にみる武士社会の形成）			
第11回：授業の実際と討論（模擬授業3 世界史 西洋 産業社会と国民国家の形成）			
第12回：授業の実際と討論（模擬授業4 世界史 東洋 中央アジアの遊牧民の展開）			
第13回：授業の実際と討論（模擬授業5 地理 地形、気候、植生）			
第14回：授業の実際と討論（模擬授業6 地理 国家間の結び付きの現状と課題）			
第15回：近年の歴史地理教育の問題に関するレポートをうけての講義。まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）。模擬授業については、事前に十分な教材研究やリハーサルのための時間を確保する必要がある。			
教科書			
教育基本法・学校教育法・高等学校学習指導要領			
参考書			
『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』			
成績の評価基準			
レポート課題への取り組み（20%）、模擬授業に対する取り組み（40%）、および最終レポートとして提出する「学習指導案」の内容（40%）を評価する。			
オフィスアワ -			

講義終了後・非常勤講師室

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-AAX0405			
科目名			
商業科教育法Ⅰ			
英語名			
Educational Methods of Commerce Science Ⅰ			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
岡元直樹	090-2852-9671		naaki09gofw@yahoo.co.jp
共同担当教員			前後期
なし			前期
授業概要			
高等学校商業科を担当する教師として必要な基礎的知識と実践力を育成する。			
学修目標			
1. 学習指導の基本的な考え方が理解できる。 2. 高等学校商業科の目標と内容が理解できる。 3. 教材研究の進め方が理解できる。 4. 学習指導計画の立て方ができる。 5. 授業の進め方が理解できる。 6. 指導計画に生かす評価法が理解できる。			
授業計画			
第 1回 ガイダンス 第 2回 学習指導の基本的な考え方 第 3回 高等学校商業科の目標と内容 (1) : 教科の目標 第 4回 高等学校商業科の目標と内容 (2) : 教科の内容 第 5回 教材研究の進め方 第 6回 学習指導案の工夫・改善 (1) : 学習指導案の形式 第 7回 学習指導案の工夫・改善 (2) : 学習指導案作成の上の留意点 第 8回 模擬授業および研究討議 (1) : 模擬授業 第 9回 模擬授業および研究討議 (2) : 授業研究 第10回 模擬授業および研究討議 (3) : 研究討議 第11回 教科指導と評価 (1) : 教科指導に生かす評価 第12回 教科指導と評価 (2) : 評価問題の作成 第13回 教科指導と評価 (3) : 評価問題の工夫 第14回 商業科教師への道 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
簿記に関する基本的・基礎的知識を有していることが望ましい。 予習(2H)・復習(2H)			
教科書			
使用しない。適宜資料を配付する。			
参考書			
文部科学省「高等学校学習指導要領」(2009年, 文部科学省) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 商業編」(2010年, 文部科学省) 日本商業教育学会編『教職必修 最新商業科教育法 新訂版』(2011年, 実教出版)			
成績の評価基準			
レポート(1回: 50%) 小テスト(3回: 30%) 授業への取り組み態度(20%)			
オフィスアワ -			

講義終了後・非常勤講師控え室

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中4回

備考（受講要件）

夏季休業中に開講予定（集中講義）

高等学校教諭免許「商業」の取得には、「商業科教育法Ⅰ（隔年開講）」および「商業科教育法Ⅱ（隔年開講）」の4単位を修得しなければならない。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-AAX0401

科目名

教職概論

英語名

Study for a Teaching Training

開講学科

法文学部共通

コース

学部共通

授業科目区分

教職科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

川野 恭司

連絡先 (TEL)

099-282-1909

連絡先 (MAIL)

kawakyo@po4.synapse.ne.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

教職の意義と学校教育の現状、直面する課題について多角的に考察する。具体的には、授業計画に述べるような各テーマについて、教師の題提起を基にグループおよび全体で意見を交流しつつ認識を深める。第1時間目に班を編成し、ほぼ毎時間、グループ活動・プレゼンテーション・討論などをおりこんだアクティブラーニングを展開する。

学修目標

教職の意義、教員の役割・職務内容等を学ぶことを通して教職の基本的なありようと自己の教員としての資質についての洞察を得る。

具体的には、教職の現場が直面する様々な問題にどう対処するか、討論を通して多角的に迫りながら原則的な視点を獲得する。

子どものしあわせ、子どもの人権から問題をとらえることができるようになる。

授業計画

本授業は、毎回対面命式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する場合は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

基本的には教員の問題提起にもとづき対話・討論を中心に展開する。学生のプレゼンテーションも随時織り込む。

- ~~~~~
- 第1回 授業の進め方について、思い出の中の教師像
 - 第2回 子どもの体と心、その実態
 - 第3回 閉ざされた体と声を開く～群読と「演技」～
 - 第4回 学校の再生と特別活動
 - 第5回 学級づくり、個と集団
 - 第6回 「いじめ」に向き合う その実態、定義、構造
 - 第7回 判例に学ぶ「いじめ学習」1
 - 第8回 判例に学ぶ「いじめ学習」2
 - 第9回 ハンセン病問題を学ぶ 1 VTR視聴
 - 第10回 ハンセン病問題を学ぶ 2 歴史と現在
 - 第11回 地域・保護者と学校教育
 - 第12回 学力と進路指導 望ましい進路を求めて
 - 第13回 教職員の権利と義務
 - 第14回 学校教育における「授業」の意味を問い直す
 - 第15回 教師の資質について、全体の総括

授業外学習 (予習・復習)

マスコミ等で報道される教育関係の情報は、その都度チェックしておくこと。(最近では「いじめ」「校則」「体罰」など)

予習：全員、各授業の前にレジュメ・資料に目を通しテーマにつての探求・考察を進める(2時間)。プレゼンテーション担当者(あるいはグループ)は事前の内容検討(1時間～2時間)。復習：全員毎授業後に授業内容をふり返り、所感レポートを提出する(2時間)。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

文科省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」（東山書房2018年）、文科省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編」（東京書籍2019）、梅野正信編「教師は何から始めるべきか」（教育史料出版会1998年）

成績の評価基準

平常点（毎時の授業参加とレポート）を最も重視する = 70%

学期末提出の総括レポート = 30%

オフィスアワー

講義前後30分、非常勤講師控室にて

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

群説の構成と実演。ディベート・討論による深化

アクティブ・ラーニング（授業回数）

ほぼ毎回

備考（受講要件）

講義にあたっては、問題提起（問いかけ）に対し、積極的に応答し、自ら討論に参加することを重視する（評価する）。このこと自体が、教職にあってはもちろんのことこれからの世の中を生きる上で大切な資質になると考えるゆえ。

実務経験のある教員による実践的授業

授業担当者（川野）による模擬的授業提起を随時くみこむ。

ナンバリングコード			
FHS-AAX0402			
科目名			
社会科教育法I			
英語名			
Education Methods of Social Sciences 1			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
川野 恭司	099-282-1909		kawakyo@po4.synapse.ne.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>中学校社会科教師に求められる基礎的な素質を養う。つまり、中学校社会科の現状と学習指導要領をふまえ、学校・生徒の実態とか関わらせながら、自分なりの社会科観を育み、授業実践力の基礎を身につけることをめざす。</p> <p>授業は全体として、社会科各分野にわたって学生自身の輪番による模擬授業を中心に展開する。指導案作成にあたっては目標設定、発問および資料を重視する。模擬授業は授業者とともに、これを受ける側にも積極的参加が求められる。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校社会科授業における教材研究のあり方を習得する。 2. 生徒の「認識」とかかわる学習指導案の作成と授業展開の方法を身につける。 3. 授業および授業分析に自ら参加し、授業力を高める 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面命式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する場合は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p>			
第1回	オリエンテーション	中学校社会科の授業づくり	
第2回	教員による模擬授業1	指導案の作成法	
第3回	教員による模擬授業2	発問と細案	
第4回	学生模擬授業と授業分析	1	
第5回	学生模擬授業と授業分析	2	
第6回	学生模擬授業と授業分析	3	
第7回	学生模擬授業と授業分析	4	
第8回	学生模擬授業と授業分析	5	
第9回	学生模擬授業と授業分析	6	
第10回	学生模擬授業と授業分析	7	
第11回	学生模擬授業と授業分析	8	
第12回	学生模擬授業と授業分析	9	
第13回	学生模擬授業と授業分析	10	
第14回	学生模擬授業と授業分析	11	
第15回	総括 (成果と課題)		
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：各模擬授業担当学生 (全員輪番で行う) は教員の指導を受けつつ学習指導案の事前作成にあたる。担当学生はそのための教材研究と打ち合わせに数時間～数日を要する。生徒役の学生もテーマについての毎回事前学習が2時間程度必要。復習：全員毎時の授業 (模擬授業・授業分析) 後に、所感レポート提出する。所要時間は2時間。</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			

文科省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会科編」（東洋館出版2018年）、文科省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説 社会編」（日本文教出版2018年）、「資料で学ぶ鹿児島県の歴史」（鹿児島県中学校社会科研究会編2018年）他、講義中に適宜紹介する。

成績の評価基準

模擬授業50%

授業参加～授業分析へのとりくみ、毎時の小レポートを合わせて30%

期末レポート20%

オフィスアワー

授業前後30分、非常勤講師控室にて

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

模擬授業および授業分析における対話・討論。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

ほぼ毎回（14～15回）。

備考（受講要件）

講義にあたっては、問題提起（問いかけ）に対し、積極的に応答し、自ら討論に参加することを重視する（評価する）。このこと自体が、教職にあってはもちろんのことこれからの世の中を生きる上で大切な資質になると考えるからである。

実務経験のある教員による実践的授業

授業担当者（川野）の体験に基づき、複数の実践的授業を要所で提起する。

ナンバリングコード			
FHS-AAX3501			
科目名			
観光学			
英語名			
Tourism Studies			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	3~4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
石塚孔信	099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
小林善仁		後期	
授業概要			
全ての回(15回)を遠隔授業で行う。(オンデマンド型)			
<p>観光は観光者,そのニーズに応える観光産業,そして地域特有の観光資源の3つの関わりによって成り立つものである。本講義では,近年の観光者のニーズに応えるための観光関連産業の取り組みと課題について解説し,鹿児島のような観光資源を紹介した上で,これからの鹿児島の観光に求められるものについて講義を行う。毎回,観光に携わる実務家の方を講師に招いて,実務の観点から観光について詳しく説明がなされる。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光産業の取り組みと課題を説明することができる。 2. 鹿児島の観光資源を知り,観光地域づくりの実践方法を理解することができる。 3. 鹿児島のこれからの観光のあり方について意見を述べるすることができる。 			
授業計画			
下記のスケジュールで行われる。基本的にすべてオンデマンド型で行う。			
第1回	ガイダンス		
第2回	何故,今観光か - 観光振興と地域経済 -		
第3回	観光関連産業の現状と課題 - 交通・運輸,宿泊,テーマパーク,観光施設 -		
第4回	旅行市場の動向と新しいビジネスへの挑戦		
第5回	観光と世界文化遺産		
第6回	観光と歴史世界自然遺産		
第7回	観光と世界自然遺産		
第8回	観光と宿泊		
第9回	観光と食		
第10回	観光と言語対応		
第11回	国際観光とインバウンド		
第12回	観光行政		
第13回	DMOについて		
第14回	DMOの事例:大隅の観光地域づくり		
第15回	これからの鹿児島の観光に求められるもの		
授業外学習(予習・復習)			
授業終了後,配布資料やレジュメを見て授業の復習を行うこと。			
予習(2H)・復習(2H)			
教科書			
特になし。			
参考書			
各教員の準備する資料等。			
成績の評価基準			
・ミニツツペーパーの評価(40%)			

・期末レポートの評価（60%）
オフィスアワー
火曜日の4限
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
ミニッツ・ペーパーの実施。
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回。
備考（受講要件）
なし。
実務経験のある教員による実践的授業
近年の観光者のニーズに応えるための観光関連産業の取り組みと課題について解説し、鹿児島のような観光資源を紹介した上で、これからの鹿児島の観光に求められるものについて講義を行う。毎回、観光に携わる実務家の方を講師に招いて（14回）、実務の観点から観光について詳しく説明がなされる。

ナンバリングコード			
FHS-AAX3601			
科目名			
マスコミ論演習			
英語名			
Mass communication theory			
開講学科		コース	
法文学部共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
宮下正昭		285-7203	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
本学教員のほか、在鹿児島のマスメディア各社の現 役記者、ディレクターなど		前期	
授業概要			
鹿児島県マスコミ各社の現役の報道責任者ら(報道本部長、支局長、総局長、報道部長など)を講師に依頼して、マスコミの現場見学・体験、記事作成指導、取材実習などを行う。 コロナ禍ですが、基本、対面授業の方針です。状況次第では中止や遠隔もありえます。			
学修目標			
(1) マスコミ現場の現実の姿に触れて、大量の情報を送出することの重大さと意義を把握する (2) 記事作成や取材実習によって情報取得・記事作成の指導を受け、簡潔で的確な情報伝達を修得する。			
授業計画			
第1回	全体オリエンテーション、グループ分け		
第2回	朝日、読売、毎日新聞の鹿児島支局探訪		
第3回	記事作成と放送局体験オリエンテーション		
第4~6回	記事作成実習(3班に分けて取材・執筆実習、添削指導)		
第7回	新聞社が求める人材		
第8回	放送局が求める人材		
第9回	放送局のニュース体験(NHK、MBC、KTSの3班)		
第10回	放送局の番組体験(同上)		
第11回	KYTの番組視察		
第12回	ラジオスタジオ体験(シティFM、FM鹿児島、MBCラジオの3班)		
第13回	高校野球応援風景取材実習(県立鴨池球場)		
第14回	高校野球テレビ中継見学(KKBと県立鴨池球場)		
第15回	総括 マスコミ委員有志とともに 夜、マスコミ各社と懇親会		
授業外学習(予習・復習)			
できるだけ毎日、新聞を読み、テレビのニュースや報道特集番組を視聴し、ポータルサイトのニュース記事を チェックするなど、ニュース感覚を磨く努力をすること(予習2H・復習2H)。			
教科書			
適宜資料を配付する。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
支局見学、記事作成実習、放送局見学、高校野球取材など各実習ごとにレポートを提出してもらい、それを総合 評価する(60%)とともに期末レポートも提出する(40%)。			
オフィスアワ -			
金曜午後 事前に連絡を			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; フィールドワーク; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

- （1）マスコミ論の単位を取得し、マスコミ論演習受講オリエンテーションに出席した者を優先する。
- （2）定員20人程度。
- （3）授業計画はメディア各社との協議によって変更することがある。授業の時間、曜日がずれることもある。
- （4）15コマ中半分ほどは外（テレビ局、新聞社、ラジオスタジオなど）に出るため、木曜、特に午後は他の授業を入れない方が望ましい

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2412			
科目名			
社会教育演習I			
英語名			
Seminar on Social Education I			
開講学科		コース	
法文学部共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	演習	1単位	2～3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中 至		0992857603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
社会教育学研究および社会教育実践を進めるために重要な基本的研究姿勢および研究態度を身につけることを目的とします。具体的には自己の問題関心や研究関心に気づき、自発的にさまざまな課題に挑戦していけるための条件とはなにかについて探求します。			
学修目標			
鹿児島県の地域的特性踏まえ、身近で具体的かつ現実的なレベルから社会教育研究を進めていけるような研究姿勢を身につけることを学習目標とします。			
授業計画			
対面形式を原則とするが、遠隔授業とする場合があるため、マナバを確認すること。			
1. オリエンテーション			
2. 現代社会教育の基礎理論の検討			
3. 現代社会教育の実践論の分析と検討			
4. 受講生による報告と討論の計画			
5. 受講生による報告と討論 実践と活動の探究			
6. 受講生による報告と討論 子ども期の探究			
7. 受講生による報告と討論 青年期の探究			
8. 受講生による報告と討論 成人期の探究			
9. 受講生による報告と討論 高齢期期の探究			
10. 受講生による報告と討論 性・ジェンダー・人権問題の探究			
11. 島嶼・地方都市社会教育問題に関するグループ研究発表 社会・経済・労働の視点とのかかわりで			
12. 島嶼・地方都市社会教育問題に関するグループ研究発表 医療・福祉の視点とのかかわりで			
13. 島嶼・地方都市社会教育問題に関するグループ研究発表 子育て・育児・地域文化の視点とのかかわりで			
14. 鹿児島県島嶼社会教育史の読解と探究 復帰運動と青年団の視点を中心に			
15. 鹿児島県島嶼社会教育史の読解と探究 占領下奄美の社会教育史的特質			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：事前配布資料およびmanabaに掲載された学習資料を事前に予習する (2時間)			
復習：授業の学習内容を振り返り、レポートを作成する (2時間)			
教科書			
授業中に指示します。			
参考書			
佐藤一子『地域学習の創造』(東京大学出版会、2015)			
成績の評価基準			
各授業のレポート提出状況 (30%)・事前準備状況・レポート内容の質 (40%)・最終レポート (30%)			
オフィスアワ -			
水曜日の昼休み中 (12時10分から12時50分)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

グループによる討論、発表資料の作成とそれに基づくプレゼンテーション、学習理解の確認のための発話・小レポートの作成

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回

備考（受講要件）

社会教育主事資格の取得を強く希望し、将来自治体職員や教育・文化関連業務への進路を検討しているもの。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CFX1207			
科目名			
考古学概説A			
英語名			
Introduction to Archaeology A			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
渡辺芳郎		099-285-7539	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
考古学の基礎的な方法論や思考方法を修得することを目的として、考古学という学問を概観する。考古学資料から情報を読み取る基礎的方法を理解した上で、過去の間人活動や社会、歴史を復元する方法や、関連諸科学の活用方法を身につける。さらに、現代社会における考古学の役割について認識を深める。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・考古学の基礎的方法論や思考方法を身につける。 ・発掘調査で出土した遺構や遺物の分析・解釈の方法を修得する。 ・考古学と関連諸科学の関係を理解する。 ・現代社会において考古学を学ぶ意義を認識する。 			
授業計画			
第1回 考古学とはなにか 第2回 考古学の資料 第3回 考古学の調査方法 第4回 考古学の歴史(1) ヨーロッパ・アメリカ 第5回 考古学の歴史(2) 日本 第6回 考古学の基礎的方法(1) 層位論 第7回 考古学の基礎的方法(2) 分類 第8回 考古学の基礎的方法(3) 時間論 第9回 考古学の基礎的方法(4) 空間論 第10回 考古学の基礎的方法(5) 機能論 第11回 考古学の基礎的方法(6) 社会復元 第12回 考古学と関連諸科学(1) 年代測定 第13回 考古学と関連諸科学(2) 環境復元 第14回 考古学と関連諸科学(3) 産地推定 第15回 現代社会と考古学			
授業外学習(予習・復習)			
各回で配付する資料を復習し(2時間)、次回講義について準備する(2時間)。			
教科書			
なし			
参考書			
鈴木公雄『考古学はどんな学問か』ちくま学芸文庫、2021年			
成績の評価基準			
平常点(40%)、最終レポート(60%)			
オフィスアワー			
毎週月曜3限目(12:50～14:20)			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1201			
科目名			
日本史概説			
英語名			
Introduction to Japanese history			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
金井 静香・厩尾 達哉・佐藤宏之		099-285-7553	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
テキストに指定した書籍の内容を、下記の「授業計画」のように分割して講義する予定である。			
学修目標			
(1) 日本史の用語に関する知識を習得する。			
(2) 日本史を通史的に説明できる。			
(3) 日本史に関する研究動向を理解する。			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 古代国家の成立			
第2回 律令国家の形成と展開			
第3回 摂関政治の成立と地方社会			
第4回 中世社会の成立と展開			
第5回 内乱と一揆の時代			
第6回 中世文化の展開			
第7回 幕藩体制の確立			
第8回 幕藩体制の動揺と解体			
第9回 都市と民衆の文化			
第10回 近代国家の成立			
第11回 政党政治の発展と社会運動			
第12回 アジア太平洋戦争			
第13回 戦後改革			
第14回 復興と高度経済成長			
第15回 現代の世界と日本			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：2時間 教科書を読む。			
復習：2時間 講義をふまえて教科書の内容を確認し、課題に取り組む。			
教科書			
佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺?喜編『概論日本歴史』(吉川弘文館)			
参考書			
授業中に適宜紹介または配布する。			
成績の評価基準			
古代史20%、中世史20%、近世・近現代史60%。各時代の講義毎に課題を出す予定である。			
オフィスアワ -			
月曜日5限。但し、古代史、近世史、近現代史の回に関して質問がある場合は、あらかじめアポイントをとること。			

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教科書の熟読、教員の質問に対する回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CFX1112

科目名

アメリカ文学概説B(旧 アメリカ小説論)

英語名

Introduction to American Literature B

開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
竹内勝徳		285-8874	takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

20世紀と21世紀におけるアメリカ文学の成長を、自然主義文学や前衛芸術からの発展、並びに度重なる戦争や社会の腐敗に対する反動、そして、資本主義社会やインターネットの普及に支えられたグローバルな次元での価値観の交錯の結果として捉え、主としてモダニズムとポストモダニズムの文学について論じる。主な作家としてドライサー、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、フォークナー、スタインベック、ケルアック、モリソン、デリーロ、オースターを取り上げる。彼らの経歴や文学の特質を時代背景に照らして詳しく紹介し、その作品の抜粋を英語で読む。また、2度の世界大戦と核兵器の開発によってもたらされた価値観の変容、機械産業の発展とインターネットやグローバリゼーションに同期して生じたポストモダンな世界観についても文学作品と関連させて述べる。授業内ではディスカッションの時間を設け、英語によるディスカッションの後、ミニレポートを提出してもらう。

学修目標

20世紀以降のアメリカ文学をテーマとして講義を行う。到達目標は以下のとおりである。(1) 20世紀以降のアメリカ文学の特質について理解する共に、各作家や作品の特徴を具体的に学ぶ。(2) 20世紀以降のアメリカ文学の時代背景、並びに、グローバル社会の中心的担い手としてのアメリカの文化的特質と社会のあり方について理解を深める。(3) 代表的な作品の抜粋を読むことで英語の読解力を向上させる。(4) 英語でのディスカッションを通して英語の表現力を高める。(5) 作家たちの経歴を知ること、海外における社会や職業のあり方について理解を深める。

授業計画

授業は基本的にオンデマンドで行う。

- 第1回 アメリカ帝国主義の発展と経済大国への道 (online)
- 第2回 モダニズム文学と自然主義文学の特質 (online)
- 第3回 セオドア・ドライサー『シスター・キャリー』とダーウィニズム (online)
- 第4回 スコット・フィッツジェラルド『夜はやさし』と消費社会 (online)
- 第5回 アーネスト・ヘミングウェイ『誰がために鐘は鳴る』と前衛芸術 (online)
- 第6回 ウィリアム・フォークナー『八月の光』の小説構造 (online)
- 第7回 ジョン・スタインベックと労働運動 (online)
- 第8回 第2次大戦後の文化状況 (online)
- 第9回 ビート・ジェネレーションと戦後のアメリカ (online)
- 第10回 サリンジャー『ライ麦畑で捕まえて』 (online)
- 第11回 ポストモダニズムの特質 (online)
- 第12回 トニ・モリソン『ピラブド』と人種 (online)
- 第13回 ドン・デリーロ『ホワイト・ノイズ』と1980年代のアメリカ (online)
- 第14回 ポール・オースター『ガラスの街』と価値観の交錯 (online)
- 第15回 20、21世紀アメリカ文学の特質 (online)
- 定期試験 (online)

授業外学習(予習・復習)

予習: 授業中に配ったプリントを読み、英文を訳しておく。

復習: ノートに書いたことを整理し、授業中になされた指示に従って調査等を行う。

毎週合計 4 時間要する。

教科書

早瀬博範『21世紀からみるアメリカ文学史』（英宝社）

参考書

授業中に配布する文学作品からの抜粋のプリント

成績の評価基準

期末試験50%、中間レポート25%、ミニレポート25%の割合で成績評価を行う。

オフィスアワ -

月曜昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中5回

備考（受講要件）

英語力の向上に意欲をもっていること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1205			
科目名			
人文地理学概説			
英語名			
Introduction to Human Geography			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
人文地理学は、地域の人文的諸事象に注目して、地域の仕組みとその特性を明らかにするものである。人文地理学の問題・関心や研究手法などを解説し、身近な地域の話題を取り上げて概説する。			
学修目標			
地域を研究する際の地理学的方法を理解する。 日本の地理的諸問題を列挙し、説明することができる。			
授業計画			
本授業は1年生受講科目のため対面形式で行う。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する場合は、予めmanabaのコースニュースなどで通知する。			
第1回 ガイダンス			
第2回 地理学の見方・考え方			
第3回 地理学の諸資料(地図)			
第4回 地形図の読図			
第5回 新旧地形図の比較			
第6回 人口地理学1 日本の人口			
第7回 人口地理学2 九州の人口			
第8回 都市地理学1 日本の都市			
第9回 都市地理学2 九州の都市			
第10回 都市地理学3 都市の内部構造			
第11回 水産地理学1 日本の水産業			
第12回 水産地理学2 九州の水産業			
第13回 交通地理学1 日本の交通			
第14回 交通地理学2 九州の交通			
第15回 総括			
第16回 期末試験			
授業外学習(予習・復習)			
配布資料の内容・図表を熟読し、興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。 予習: 配付資料の通読(2時間) 復習: 学習内容の振り返り(2時間)			
教科書			
特になし。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
・授業内の課題(60%) ・期末試験(40%)			

重複履修（本科目を受講するのが2回目）の場合は、単位を修得しても卒業要件単位に含まれませんので、注意してください（平成28年度以前入学生を除く）。

オフィスアワ -

授業終了後に、教室にて対応。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

地図帳を持っているものは、講義に持参すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CFX1210			
科目名			
比較民俗学概説			
英語名			
Introduction to Comparative Folklore			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
町 泰樹		099-285-8902 (兼城研究室)	machi@kagoshima-ct.ac.jp (町のアドレス)
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>私たちがふだん何気なく行っている年中行事や人生儀礼、お祭りには、どのような意味があるのだろうか？民俗学は、それらの文化や慣習について、各地の事例を比較しながら考えていく学問である。本授業では、身近な民俗事象に目を向けながら、民俗学で展開されてきた理論や概念を紹介していく。そして、変化の激しい現代において、これまで培われてきた民俗文化がどのような役割を果たしているのかについて考えていこう。</p>			
学修目標			
<p>?民俗学の学問的流れやその中で生まれた諸理論について理解する。 ?民俗学の方法論について理解する。 ?身近な生活世界にある諸事象に対し興味を持ち、民俗学の知見を用いて考察することができる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション&民俗学とはどのような学問なのか？ 第2回：俗信の由来について 経験的民俗学の視点 第3回：若者と通過儀礼 「子ども」はどのように「大人」になっていくのか 第4回：生と死の民俗学 出産と葬儀について 第5回：民俗学を切り開いた先人 南方熊楠と柳田國男 第6回：旅する民俗学者：宮本常一について 第7回：境界の民俗学 あの世・妖怪・来訪神 第8回：行事と祭りの民俗学？ 年中行事の意味 第9回：行事と祭りの民俗学？ 観光と民俗 第10回：家族について考える 第11回：奄美の民俗 祖先祭祀とシャーマニズム 第12回：奄美の民俗 近代における変容 第13回：自然環境と民俗 第14回：災害と民俗 第15回：総括：現代社会における民俗学の意味</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：manabaにアップされた資料をもとに予習をし、授業時に指示された用語・人名等について下調べを行っておくこと。(標準的学習時間2時間) 復習：振り返りのミニレポート作成や授業中に指示された課題に取り組むことで、学習内容の復習を行う。(標準的学習時間約2時間)</p>			
教科書			
授業時に、適宜資料を配布する。			
参考書			
<p>佐野賢治等編1996『現代民俗学入門』吉川弘文館 小野重朗1990『南九州の民俗文化』法政大学出版局 宮本常一1984『忘れられた日本人』岩波書店 八木透・政岡伸洋編2004『こんなに面白い民俗学』ナツメ社</p>			

成績の評価基準

ミニッツ・ペーパー（30%）、小テスト（20%）、最終レポート課題（50%）で評価する。
授業を進めるなかで、学生の理解度を勘案して評価基準を変更する際には、必ず説明を行い、同意を得る。

オフィスアワ -

授業終了後もしくは非常勤講師控室
質問等があれば、遠慮せずにメールをください。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回の授業すべてにおいてミニッツペーパーを課す。

備考（受講要件）

特になし。民俗の世界を一緒に楽しみましょう！
本講義は、リアルタイム（双方向）遠隔授業とオンデマンド授業を組み合わせ実施します。
詳細については、初回のオリエンテーション時に説明します。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CFX1202

科目名

東洋史概説A(旧 東洋史概説)

英語名

Introduction to East Asian History A

開講学科

人文学科

コース

人文学科共通

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1~4年

担当教員

福永善隆

連絡先(TEL)

099(285)7561

連絡先(MAIL)

fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

テーマ：中国古代史

私たちは一口に中国というが、その領域には様々な文化・地域を含んでいる。それは中国語といっても、北京を中心とする北京方言にすぎず、例えば広東語などそれ以外の地域には方言としては片づけられないほどの様々なバリエーションがあることに示されている。この多様な地域を含む中国が現在まで分裂を繰り返しながら再び統合され、まがりなりにも統一を保ってこられたのは1人の皇帝が天下を治める皇帝支配体制が維持されてきたことが大きな要因の一つである。本講義は皇帝支配体制の確立・変遷を中心として、中国文明の誕生から唐までの歴史展開を論じる。

学修目標

- 1) 中国古代の歴史展開を把握する。
- 2) 各王朝の時代の特徴を理解する。
- 3) 1・2 中国における歴史展開の原理を把握する。

授業計画

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：中国文明の誕生
- 第3回：中華王朝の原形：殷・周
- 第4回：統一への胎動：春秋戦国時代
- 第5回：始皇帝の大帝国：秦
- 第6回：皇帝支配体制の確立：前漢
- 第7回：皇帝支配体制と儒学：新
- 第8回：皇帝支配体制の変容：後漢
- 第9回：分裂時代の始まり：三国
- 第10回：貴族制の時代：晋・南朝
- 第11回：異民族の王朝：北朝
- 第12回：中国の再統一：隋
- 第13回：国際色豊かな王朝：唐
- 第14回：唐の衰亡
- 第15回：総括

授業回数・各回の内容は今後の状況次第で変更する可能性がある。

現在はオンデマンド型で実施する。4月上旬にmanabaにて連絡するので、注意すること。

授業外学習(予習・復習)

(予習) 愛宕元・富谷至編『中国の歴史上【古代 中世】』(昭和堂、2009年)の該当箇所を前もって読んでくることを推奨する(120分程度)。

(復習) 理解を深めるために関係文献を読むことを推奨する(120分程度)。

教科書

使用しない。適宜プリントを配布。

参考書

堀敏一『中国通史』（講談社学術文庫、2000年）
 梅原郁『皇帝政治と中国』（白帝社、2003年）
 愛宕元・富谷至編『中国の歴史上【古代 中世】』（昭和堂、2009年）
 川勝義雄『魏晋南北朝』（講談社学術文庫）
 川本芳昭『中国の歴史5 中華の崩壊と拡大』（講談社）
 氣賀沢保規『中国の歴史5 絢爛たる世界帝国』（講談社） など

成績の評価基準

期末試験（70%）及び各回の授業時間中にresponにて回答するコメント（30%）を総合して評価する。

オフィスアワ -

月曜3限（13:00～14:20）。事前にメールなどでアポイントをとること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

重複履修は認めない

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CFX1504

科目名

芸術文化史概説（旧 ポピュラーカルチャー論）

英語名

Introduction to History of Art & Culture

開講学科

人文学科

コース

人文学科共通

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1～4年

担当教員

太田純貴

連絡先（TEL）

099-285-7576

連絡先（MAIL）

yota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

芸術文化は、哲学・ポピュラーカルチャー・宗教などの様々な領域に影響を与えると同時に、そうした領域から影響を受けてきた。本講義では、現在の私たちの生活にも密接に関与し、哲学の動向にもした20世紀の西洋の芸術文化を取り上げ、基礎的な事項や鍵となる流れについて解説を行なう。

学修目標

1. 芸術文化に関する基礎的な知識を修得する。
2. 芸術文化の大きな動向について理解する。
3. 芸術文化と他領域の相互の影響関係を把握する。

授業計画

本講義は原則としてオンデマンド型と課題提出型で行う。履修者の状況によって対面型に変わる可能性もある。

- 第1回： ガイダンス（オンデマンド型）
- 第2回： 芸術についての小レポート（課題提出型）
- 第3回： 19-20世紀の芸術・文化概略（オンデマンド型）
- 第4回： 未来派（オンデマンド型）
- 第5回： ダダ（オンデマンド型）
- 第6回： シュルレアリスム：作品・アーティスト（オンデマンド型）
- 第7回： シュルレアリスム：技法（オンデマンド型）
- 第8回： 中間総括（課題提出型）
- 第9回： マルセル・デュシャン（オンデマンド型）
- 第10回： 芸術の中心地の移動（オンデマンド型）
- 第11回： ポップアート（オンデマンド型）
- 第12回： 抽象表現主義（オンデマンド型）
- 第13回： ミニマルアート（オンデマンド型）
- 第14回： ランドアート（オンデマンド型）
- 第15回： 総括（課題提出型）

授業外学習（予習・復習）

授業中に指示する作品や文献について目を通しておくこと。最悪、人名とどんなことが書かれているかだけでも整理して覚えておくこと。

予習： manabaや授業中に掲載・指示された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）
復習： 議論中で提示された質問等の内容を振り返り、論文作成のための復習を行う（標準的時間は2時間）。また、適宜アカデミックな文章・論理的な日本語についての文献に目を通す。

教科書

特になし。適宜、授業スライドやプリントを配布する。

参考書

末永照和『20世紀の美術』美術出版社など。授業中にも適宜指示する。

成績の評価基準

1. 各回のミニレポート（50%）
2. 期末レポート（50%）

以上の2点を中心に総合的に評価する。基準を変更する場合は事前に周知する。

オフィスアワ -

火曜2限

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

1. H29年度以前にポピュラーカルチャー論を受講した学生も、受講していない学生も、H29年度以降の新科目名・芸術文化史概説を一度だけ受講できる（新科目名になってから重複することはできない）
2. 授業予定・内容は、必要に応じて変更することがある。
3. 私語やスマートフォン・携帯の使用などは授業妨害と見なし、そうした学生の受講は認めない。該当する学生には退席を命じることがある。その場合、以後の受講は認めない。
4. レポートの剽窃・盗作に関しては、言うまでもなく認めない。剽窃・盗作行為が確認された場合は、何らかの処分がくだされる可能性がある。
5. 成績評価がレポートの場合、授業中に指示した形式や参考資料（文献、ウェブ、映像含む）の提示の仕方を守っていないレポートに関しては、採点の対象外とする。
6. 受講制限（上限100名）あり

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
FHS-CFX1203			
科目名			
東洋史概説B (旧 東洋史概説)			
英語名			
Introduction to East Asian History B			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大田由紀夫		099-285-7560	ota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>テーマ：中国近世史</p> <p>北宋～清代（10世紀～20世紀初頭）の時期は、我々に馴染みの深い「伝統中国」社会が形成され、現代中国の基盤が出来上がる時期である。本講義は、幾多の内外の動乱・変動を経てその社会を成熟させていった近世中国史を、東北アジアにおける歴史動向と関連させながら講義する予定である。</p>			
学修目標			
1．近世中国社会の特質について理解し、2．近世中国史に関する基礎的歴史知識を獲得する。			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：時代区分論と「唐宋变革」</p> <p>第3回：10世紀以降の東アジアの歴史動向</p> <p>第4回：分裂の時代 唐末五代</p> <p>第5回：北宋期の国家・社会・経済</p> <p>第6回：王安石の新政と宋の南遷</p> <p>第7回：東アジア史の「南北朝」時代 金と南宋</p> <p>第8回：モンゴル帝国の形成とその時代</p> <p>第9回：モンゴルの「平和」 ユーラシアの「大交流」期</p> <p>第10回：明の成立と洪武体制の形成</p> <p>第11回：「南倭北虜」の時代</p> <p>第12回：清朝の登場と東アジア世界</p> <p>第13回：清朝支配の確立</p> <p>第14回：清の「盛世」</p> <p>第15回：「伝統」中国社会の変容</p>			
<p>各回はすべてオンデマンド型遠隔授業。なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>（予習）10世紀宋代以降の中国史概説書に目を通しておくことが望ましい（2時間）。（復習）講義資料・ノートをもとに前回の講義内容について復習して理解を深めておくことが望ましい（2時間）。</p>			
教科書			
特になし。			
参考書			
宮崎市定『中国史 下巻』（岩波書店）			
成績の評価基準			
受講態度（30%）、提出課題および期末レポート（70%）などから総合評価する。			
オフィスアワー			
木曜午後12～12時50分			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

講義内容に関する学生の疑問・質問ならびにその応答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CFX1111

科目名

アメリカ文学概説A (旧 アメリカ文学)

英語名

Introduction to American Literature A

開講学科

人文学科

コース

人文学科共通

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1~4年

担当教員

竹内勝徳

連絡先 (TEL)

285-8874

連絡先 (MAIL)

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

アメリカ文学の成立を、植民地時代のピューリタン文学、ならびに、ヨーロッパから持ち込まれた小説の形式の融合として捉え、18世紀の文学勃興期を概観したうえで、19世紀前半に起ったアメリカ最初の文学運動であるアメリカン・ルネサンス、並びに、南北戦争以降に台頭したリアリズム文学について論じる。主な作家としてエマソン、ホーソーン、ポー、メルヴィル、ソロー、トウェイン、ジェームズ、ショパンを取り上げる。彼らの経歴や文学の特質を時代背景に照らして詳しく紹介し、その作品の抜粋を英語で読む。また、資本主義の進展から生じた産業構造の変化や交通の発達、さらには、それらに付随して起った社会変容や文化の発展についても、文学作品と関連させて述べる。授業内ではディスカッションの時間を設け、英語によるディスカッションの後、ミニレポートを提出してもらう。

学修目標

19世紀のアメリカ文学をテーマとして講義を行う。到達目標は以下のとおりである。(1) 19世紀アメリカ文学の特質について理解する共に、各作家や作品の特徴を具体的に学ぶ。(2) 19世紀アメリカ文学の時代背景や現代のグローバル社会に通じるアメリカ社会・文化の源流について理解を深める。(3) 代表的な作品の抜粋を読むことで英語の読解力を向上させる。(4) 英語でのディスカッションを通して英語の表現力を高める。(5) 作家たちの経歴を知ること、海外における社会や職業のあり方について理解を深める。

授業計画

授業は基本的にオンデマンドで実施する。

第1回 植民地時代からアメリカの独立 クーパーとブラウン (オンデマンド)

第2回 資本主義の進展とロマンティズムの広がり (オンデマンド)

第3回 アメリカン・ルネサンスの全体像 (オンデマンド)

第4回 エッセイと詩 (エマソン「アメリカの学者」、ポー「大鳥」、ロングフェロー) (オンデマンド)

第5回 小説 (メルヴィル『タイピー』「ビリー・バッド」、ポー「黒猫」) (オンデマンド)

第6回 小説 (ストウ夫人『アンクル・トムの小屋』、マライア・カミングズ『点灯夫』、スーザン・ウォーナー『広い、広い世界』) (オンデマンド)

第7回 小説 (ホーソーン『七破風の家』) (オンデマンド)

第8回 社会運動 (ソロー『ウォールデン』、エマソン『英国の特質』、ジョン・ブラウン) (オンデマンド)

第9回 大衆文化 (オンデマンド)

第10回 黒人奴隷制度と南北戦争 (オンデマンド)

第11回 戦後復興とリアリズム文学の関係 (オンデマンド)

第12回 小説 (マーク・トウェイン『イノセント・アブロード』) (オンデマンド)

第13回 小説 (ヘンリー・ジェームズ『ねじの回転』) (オンデマンド)

第14回 小説 (ケイト・ショパン『目覚め』) (オンデマンド)

第15回 19世紀アメリカ文学の特質 (オンデマンド)

レポート

授業外学習 (予習・復習)

予習: 授業中に配ったプリントを読み、英文を訳しておく。

復習: ノートに書いたことを整理し、授業中になされた指示に従って調査等を行う。

毎週合計4時間要する。

教科書

早瀬博範『21世紀からみるアメリカ文学史』(英宝社)

参考書

授業中に配布する文学作品からの抜粋のプリント

成績の評価基準

最終レポート50%、中間レポート25%、ミニレポート25%の割合で成績評価を行う。

オフィスアワ -

月曜昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中5回

備考(受講要件)

英語力の向上に意欲を持っていること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CFX1204

科目名

西洋史概説

英語名

Introduction to Western History

開講学科

人文学科

コース

人文学科共通

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1～4年

担当教員

藤内哲也

連絡先 (TEL)

099-285-8863

連絡先 (MAIL)

ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

現代世界の諸問題を理解するうえで、西洋世界の歴史を学ぶことはきわめて重要です。本授業ではヨーロッパ文明の源泉としての古代世界から、ヨーロッパの政治的・社会的な枠組みが形成された中世世界、さらには現代の国際関係や経済構造に直結する近世・近代世界におけるおもなトピックについて概観し、その歴史的な経緯や背景を理解します。

学修目標

- ・西洋史に関する概説的な知見を習得します
- ・現代世界を理解するための知識や視座を獲得します

授業計画

本授業は原則として毎回対面方式で実施します。ただし、遠隔方式での対応も行います。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業時に通知します。

第1回：オリエンテーション 西洋史へのまなざし

第2回：古代ギリシア・ローマ

第3回：キリスト教の成立と発展

第4回：中世国家の形成

第5回：都市と農村

第6回：ローマ・カトリック教会の発展

第7回：災厄の世紀：中世後期の世界

第8回：ルネサンスと宗教改革

第9回：社団国家と絶対王政

第10回：ヨーロッパ諸国の世界進出

第11回：啓蒙の時代

第12回：市民革命の時代

第13回：国民国家の形成と発展

第14回：帝国主義の時代

第15回：現代世界への展望

授業外学習 (予習・復習)

【予習】参考文献等を読み、西洋史に関する基本的な知見を得ておきます。

【復習】授業内容についてまとめたうえで、分からない点や関心のある点について、参考文献や読書案内で紹介した文献などを読み、さらに理解を深めます

教科書

とくに指定しません。毎回レジュメを配布します。

参考書

- 1 服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房、2006年
- 2 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』ミネルヴァ書房、2011年
- 3 南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵責任編集『新しく学ぶ西洋の歴史 アジアから考える』ミネルヴァ書房、

2016年

成績の評価基準

以下のレポートにより、評価します

- (1) 毎回の小レポート(60%) : 課題への取り組みを重視します
- (2) 期末レポート(40%) : 西洋史への関心と授業内容の理解を重視します

オフィスアワ -

金曜4限(メールにてアポをとること)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

とくになし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CFX1206

科目名

地誌学概説（旧 地誌学講義）

英語名

Introduction to Regional Geography

開講学科

コース

人文学科

人文学科共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

1～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

小林善仁

099-285-7557

zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

地誌学は、自然と人文の両面から地域を記述し、その特徴（地域性）を明らかにする学問である。本講義では、居住や生産活動（農業）などを素材として、日本の文化と世界の文化を比較し、その共通点と違いについて解説する。

学修目標

1. 世界各地の文化の違いを理解できる。
2. 世界の文化との比較を通じて、日本の文化の特徴を理解することができる。
3. 地域の違いを作り出す要因について、自然と人文の両面から理解することができる。

授業計画

本授業は、毎回、対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する場合は、予めmanabaのコースニュースなどで通知する。

第1回 ガイダンス

第2回 地理学のなかの地誌学

第3回 世界と日本の地域区分1 - 世界の地域区分

第4回 世界と日本の地域区分2 - 日本の地域区分

第5回 自然環境と人々の暮らし1 - 環境決定論・環境可能論

第6回 自然環境と人々の暮らし2 - 環境論の展開

第7回 自然環境と人々の暮らし3 - 環境と産業

第8回 日本の地誌1 - 日本の自然環境

第9回 日本の地誌2 - 日本の集落・農業

第10回 日本の地誌3 - 九州地方の地誌（自然環境）

第11回 日本の地誌4 - 九州地方の地誌（農業）

第12回 東アジアの地誌1 - 自然環境

第13回 東アジアの地誌2 - 集落・農業

第14回 アメリカの地誌1 - 自然環境

第15回 アメリカの地誌2 - 集落・農業

授業外学習（予習・復習）

配付資料の内容・図表を熟読し、興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。

予習：配付資料の通読（2時間）

復習：学習内容の振り返り（2時間）

教科書

特になし。

参考書

講義の中で適宜紹介する。

成績の評価基準

期末試験（80%）、複数回の小レポート（20%）。

重複履修(本科目を受講するのが2回目)の場合は、単位を修得しても卒業要件単位に含まれませんので、注意してください(平成28年度以前入学生を除く)。

オフィスアワ -

授業終了後に、教室で対応。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

地図帳を持っているものは、講義に持参すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1108			
科目名			
英語学概説B (旧 英語学)			
英語名			
Introduction to English Linguistics B			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
末松信子		099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
本講義では、英語の歴史、地域・社会階層・ジェンダーと英語との関係、語用論的視点からの英語コミュニケーションの事例研究、語彙・文法・音韻からみる英語らしさについて学び、国際共通語としての英語の現状、構造面・運用面の特徴について考察する。			
学修目標			
「英語とは何か」を考え、その機能や構造について学び、英語によるコミュニケーションの諸相について英語学の視点から考察することができる。			
授業計画			
*遠隔形式 (Zoomによるリアルタイム型) でおこなう予定である。(録画配信も行う。) なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。 授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回: ガイダンス 第2回: 英語学の「新しい」概論 第3回: さまざまな英語 第4回: 英語の歴史 第5回: 母語英語の特徴 (イギリス英語、オーストラリア英語) 第6回: 母語英語の特徴 (アメリカ英語、カナダ英語) 第7回: 英語と社会的属性 第8回: 英語の発話行為 第9回: 英語のポライトネスと談話分析 第10回: 英語文化とコミュニケーション・スタイル 第11回: 英語の非言語コミュニケーション 第12回: 語彙からみる英語らしさ 第13回: 文法からみる英語らしさ 第14回: 音韻からみる英語らしさ 第15回: 総括 第16回: 期末レポート			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: 指定された箇所をあらかじめ読んで予習する。(学習に係る標準時間は約1時間30分) 復習: 授業内容を振り返り、気づいたこと、考えたこと、質問をまとめる。授業内容を基に各自参考書を調べるなどして復習する。(学習に係る標準時間は約2時間30分)			
教科書			
平賀正子『ベーシック 新しい英語学概論』ひつじ書房、2016年			
参考書			
必要に応じて適宜、指示する。			
成績の評価基準			
英語の機能や構造について理解しているか、英語コミュニケーションの諸相を英語学の視点から考察できるかに			

ついて、毎回の意見・質問の提出(30%)、期末レポート(70%)で評価する。

オフィスアワ -

水曜日 10:30~12:00

木曜日 10:30~12:00

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CFX1701

科目名

自然地理学概説

英語名

Introduction to Physical Geography

開講学科

コース

人文学科

人文学科共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

1～4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

吉田明弘

099-285-7543

aki_tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

我々を取り巻く自然環境は、過去から現在まで様々な時間・空間スケールの自然現象が複雑に組み合わさって形成されている。そのような自然環境の上に、現在の私たちが生活を営み、社会生活を送っている。この生活の基盤となっている自然環境について、この講義では自然環境が形成される原因・仕組み、さらには人々の生活や文化との関連性について解説する。とくに、本年度の自然地理学概説では、地形・気候・植生の基礎を中心にして、世界・日本、そして九州の各地の事例を取り上げながら、幅広い視点で紹介する。

なお、2021年度の本講義はオンデマンド型の映像配信による遠隔授業を行います。

学修目標

私たちを取り巻く自然環境は、過去から現在まで、様々な時間・空間スケールの自然現象が複雑に組み合わさって形成されている。この講義では自然環境の原因・仕組み、さらには人々の生活や文化の背景にある自然環境について関係づけながら理解できる能力を養う。また、自然環境のみならず、様々な時間・空間スケールで、人文・社会現象と関連性を読み解ける自然地理学における基礎的な能力を養うことを目標としている。

授業計画

- 第1回 ガイダンス - 自然地理学の目的と周辺科学
- 第2回 世界と日本の気候 - (1) 古典・近代的な気候学 - ケッペンの気候区分 -
- 第3回 世界と日本の気候 - (2) 気候現象と気候スケールと大気の大循環 (その1)
- 第4回 世界と日本の気候 - (3) 大気の大循環 (その2)
- 第5回 世界と日本の気候 - (4) 季節風が作り出す日本の気候 (春・夏)
- 第6回 世界と日本の気候 - (5) 季節風が作り出す日本の気候 (秋・冬)
- 第7回 世界と日本の地形 - (1) 移動する大陸 - プレートテクトニクス -
- 第8回 世界と日本の地形 - (2) 世界と日本の地震分布と仕組み
- 第9回 世界と日本の地形 - (3) 第四紀の気候変動と人類の拡散・繁栄
- 第10回 世界と日本の地形 - (4) 過去の自然環境を調べる - 日本の最終氷期 -
- 第11回 河川が作り出す地形 - (1) 平野部の地形
- 第12回 河川が作り出す地形 - (2) 三角州と河成段丘
- 第13回 河川が作り出す地形 - (3) 扇状地と沖積錐
- 第14回 波浪が作り出す地形 - (1) 侵食海岸と堆積海岸
- 第15回 波浪が作り出す地形 - (2) 海成段丘

全回オンデマンド型の映像配信による遠隔授業を行います。なお、定期的にZoomで質問タイムを2～3回ほど作りたと思います。

授業外学習 (予習・復習)

予習: manabaで配布された資料を事前に目を通し、専門用語などは辞典やインターネットで調べておくこと (予習時間の目安: 約2時間)。

復習: 配布資料やノートを見返すと共に、授業でわからない点などは文献・インターネットで調べておくこと。なお、質問はmanaba (個人指導) やメールにて随時受付ける (復習時間の目安: 約2時間)。

教科書

毎回資料を配布する。配布資料は印刷して、A4判のファイルやバインダーなどで整理しておいてください。なお、図表資料はA3判（A4版×2）で作成しています。そのままA4判で印刷すると、図表が小さくて読みにくいです。コンビニでA3印刷するのをお勧めしますが、各自の環境や状況に応じて工夫して頂ければと思います。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

授業への取り組む態度（30%）と、毎回の授業で課す習熟度テストの結果（70%）を総合的に評価します。

オフィスアワー

質問等は、授業終了後にmanaba（個人指導）やメールにて随時受け付けます。

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1209			
科目名			
文化人類学概説（旧 文化人類学）			
英語名			
Introduction to Cultural Anthropology			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
尾崎孝宏		099-285-8878	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
文化人類学とは主に、自文化以外の文化、つまり「異文化」を理解するための学問である。この授業では、文化人類学という学問の誕生と現在までに展開されてきた議論を解説する。文化人類学が歩んできた「他者」・「異文化」を「発見」し、理解を試み、また失敗してきた歴史から、文化人類学と異文化についての理解を深めてもらう。			
学修目標			
1、文化人類学の主要なトピックを理解する 2、人間文化の多様性を理解する			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。 第1回 文化人類学とは何か 第2回 文化人類学の誕生 第3回 フィールドワークの誕生 第4回 ヒトについて 第5回 生業1（採集狩猟） 第6回 生業2（農耕、牧畜） 第7回 民族という概念 第8回 家族と親族 第9回 セクシュアリティとジェンダー 第10回 儀礼と分類 第11回 宗教と呪術 第12回 交換1（クラ交換） 第13回 交換2（交換がもたらす社会的効果） 第14回 グローバル化と異文化 第15回 文化人類学的発想の役立ち方			
授業外学習（予習・復習）			
予習：授業に関係する人名、地名、民族名、用語等について、前もって調べるように心掛けてください（所要時間90分程度）。 復習：授業内容の復習をその都度するように心掛けてください。わからなかった箇所は配信ファイルを複数回参照したり、指定した参考文献を読んで理解するようにすること（所要時間90分程度）。			
教科書			
毎回プリントと音声解説をmanabaにアップします。			
参考書			
授業時に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
毎回の小レポート（50%）、期末レポート（50%）			
オフィスアワ -			
金曜日昼休み、研究室			

それ以外の時間は事前予約のこと

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

予習・復習向けの音声や画像ファイル配信用としてMicrosoft Teamsを利用するので、使えるようにしててください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず

ナンバリングコード			
FHS-CFX1105			
科目名			
中国文学概説A			
英語名			
Introduction to Chinese Literature A			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
この講義においては、学生が中国文学をよりよく理解し、中国文学についての個別的知識を体系化できるよう、中国文学史の全体像とその枠組みについて講義をし、世界文学の中におけるその特殊性と普遍性についての認識を深めることを目標とする。この講義においては、先秦から唐代の文学について述べる。			
学修目標			
(1) 中国文学についての基礎知識を習得する。 (2) 中国の詩歌についての深い理解に達する。 (3) 中国における社会と文学の関係を理解する。			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 オリエンテーション：漢語と漢字 第2回 先秦の文学：詩経、楚辞 第3回 漢代の文学：史記 第4回 魏晋の文学：曹操、曹植 第5回 魏晋の文学：陶淵明 第6回 南北朝の文学：謝靈運 第7回 六朝志怪 第8回 六朝の文学批評 第9回 唐代の文学：王維 第10回 唐代の文学：李白 第11回 唐代の文学：杜甫 第12回 唐代の文学：韓愈、柳宗元 第13回 唐代の文学：白居易 第14回 唐代伝奇 第15回 日本への影響			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：次の授業で扱う分野について、インターネット、図書館等を利用し、予習しておくこと。約2時間。 復習：授業中に学んだ内容について復習し、扱われた作品の意味、内容を十分に理解できるようにしておくこと。約2時間。			
教科書			
松原朗等著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）			
参考書			
周勳初著『中国古典文学批評史』（高津孝訳、勉誠出版、2007年） 川合康三編訳『中国名詩選』（上・中・下）（岩波文庫、2015年）			
成績の評価基準			
期末試験（70%）およびミニッツ・ペーパーによる評価（30%）。			

オフィスアワ -
金曜日・2限目・高津研究室
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
なし。
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回
備考（受講要件）
特になし
実務経験のある教員による実践的授業
なし。

ナンバリングコード

FHS-CFX1109

科目名

イギリス文学概説A

英語名

Introduction to English Literature A

開講学科

人文学科

コース

人文学科共通

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1~4年

担当教員

小林 潤司

連絡先 (TEL)

099-285-7525 (法文学部学生係)

連絡先 (MAIL)

jkobayashi@int.iuk.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

イギリス文学を研究するために必要な概念や用語を学び、レポートや卒業論文を作成する際にそれらを分析の道具として使いこなせるようにします。

学修目標

1. イギリス文学の特徴と歴史的展開の概略を述べるができる。
2. イギリス文学の任意の作品について基本的な文学用語と概念を用いて分析できる。

授業計画

本授業は、遠隔形式 (Zoomによるリアルタイム型) で行う予定である。(録画配信も行う。) なお、授業形態については、様々の状況により変更となる可能性がある。授業形態変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回 イントロダクション(授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明)

第2回 ミメシス(1): プラトンvs. アリストテレス

第3回 ミメシス(2): シェイクスピアの「自然に向けて掲げる鏡」

第4回 曖昧さ(1): 言語の多義性 意味論、語用論、レトリック

第5回 曖昧さ(2): 曖昧さの批評的転回と実践批評

第6回 ナラティブとストーリー(1): ナラティブ、ストーリー、プロットの違い

第7回 ナラティブとストーリー(2): 物語とイデオロギー

第8回 叙事詩(1): ホメロスからミルトンまで

第9回 叙事詩(2): 現代の叙事詩?

第10回 ゴシック(1): 文明vs. 野蛮のポリティクス

第11回 ゴシック(2): ゴシックとロマン主義運動

第12回 文化(1): 「文化」の定義

第13回 文化(2): 「自然さ」の陥穽

第14回 キャノン(1): キャノン形成と文学教育

第15回 キャノン(2): キャノンの変容か溶解か?

授業外学習 (予習・復習)

単位取得のために必要な授業時間外の学習時間の目安は次の通りです。(1) 授業内容の整理とふりかえり (毎週1時間程度)。(2) 授業中に指示した文学作品および映像作品の鑑賞 (毎週2.5時間)。(3) 授業中に指示した研究文献を読む (2.5時間程度)。(4) 期末レポート準備 (5時間程度)

教科書

宮本文ほか (編) Literature Ideas You Really to Know: From "Mimesis" to "Sexual Politics" (文学概念入門 ミメシス から セクシュアル・ポリティクス まで) (松柏社)

参考書

石塚久郎 (責任編集) 『イギリス文学入門』 (三修社)

その他の文献については適宜指示します。

成績の評価基準

授業中の討論等への積極的な参加態度等(30%)、授業内での小論文または小テスト(30%)、レポート(40%)とし、総合的に評価します。

オフィスアワ -

質問等については授業終了後に受け付けるほか、メールでも対応する。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

レスポンスシート等

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

教職(英語)の必修授業科目。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1107			
科目名			
英語学概説A			
英語名			
Introduction to English Linguistics A			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
末松信子		099-285-7572	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp	
授業概要			
本講義では、英語の語彙、綴り字、発音、文法などがどのように変化してきたのか、英語の過去・現在・未来について、それを取り巻く社会・文化的環境と結びつけながら見てゆく。			
学修目標			
英語が古英語から現代英語まで変化してきた流れを述べることができる。また現代英語の諸問題を英語史と関連づけて説明することができる。			
授業計画			
* 遠隔形式 (Zoomによるリアルタイム型) でおこなう予定である。(録画配信も行う。) なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。 授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回： ガイダンス、世界のなかの英語			
第2回： 国際語としての英語			
第3回： 英語のルーツ			
第4回： 語彙の増大：英語史の概要			
第5回： 語彙の増大：古英語期			
第6回： 語彙の増大：中英語期			
第7回： 語彙の増大：近代英語期			
第8回： 綴り字・発音・文法の変化：綴り字と発音のずれ			
第9回： 綴り字・発音・文法の変化：文法			
第10回： 英語の拡張			
第11回： 現代の英語：科学技術の進歩、環境問題			
第12回： 現代の英語：差別撤廃運動、性差とフェミニズム			
第13回： 英語の未来			
第14回： 現代英米語法研究			
第15回： 総括			
第16回： 期末レポート			
授業外学習 (予習・復習)			
予習： 指定された箇所をあらかじめ読んで予習する。(学習に係る標準時間は約1時間30分)			
復習： 授業内容を振り返り、気づいたこと、考えたこと、質問をまとめる。授業内容を基に各自参考文献を調べるなどして復習し、理解を深める。(学習に係る標準時間は約2時間30分)			
教科書			
寺澤盾 『英語の歴史：過去から未来への物語』(中公新書1971) 中央公論社、2008年			
参考書			
必要に応じて適宜、指示する。			
成績の評価基準			

英語史の流れを理解しているか、現代英語の諸問題を英語史と関連付けて理解できるかについて、毎回のコメントシート（30%）、課題（20%）および期末レポート（50%）で評価する。

オフィスアワ -

水曜日： 9:30～12:00

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CFX1101			
科目名			
日本語学概説A			
英語名			
Introduction to Japanese Linguistics A			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
内山弘		099-285-8906	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		pon@leh.kagoshima-u.ac.jp	
前後期			
なし		後期	
授業概要			
<p>日本語を古代語と近代語に区分する場合、古代語はさらに上代語と中古語に区分される。一般に古典文法とか古典仮名遣などという場合、中古語のそれを指して言うことが多い。所謂文語に限って言えば、中古語がその成立に与えた影響は実に甚だしいものがある。上代語については『万葉集』を除き高等学校の授業では扱われることは少ないが、中古語を生んだ日本語の源流であり、その知識は古典を学ぶ上で欠かせないものである。</p> <p>本講義では、古代語を「上代語以前」「上代語」「中古語」の三つに分け、それぞれ部門ごとに概説していく。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・母語である日本語の歴史を学ぶことで、日本人と日本文化についてより深く理解できるようになる。 ・古代語を通時的に見ていくことで、国語の教師として必要な古代語についての総合的・体系的な知識を得ることができる。 			
授業計画			
<p>本授業は、原則毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>第1回：はじめに 古代語とは</p> <p>第2回：上代語以前(1) 日本語のあけぼの</p> <p>第3回：上代語以前(2) 魏志倭人伝のことは</p> <p>第4回：上代語(1) 上代語の資料について</p> <p>第5回：上代語(2) 上代語の音韻・表記</p> <p>第6回：上代語(3) 上代語の文法</p> <p>第7回：上代語(4) 上代語の語彙</p> <p>第8回：上代語から中古語へ 移行期のことは</p> <p>第9回：中古語(1) 中古語の資料(訓点資料編)</p> <p>第10回：中古語(2) 中古語の資料(和文資料編)</p> <p>第11回：中古語(3) 中古語の表記</p> <p>第12回：中古語(4) 中古語の音韻(音韻の消滅と発達)</p> <p>第13回：中古語(5) 中古語の音韻(音韻の用法的変化)</p> <p>第14回：中古語(6) 中古語の文法</p> <p>第15回：中古語(7) 中古語の語彙</p> <p>レポート</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習：事前に配布された講義資料に一通り目を通しておくこと。(2時間)</p> <p>復習：配布された講義資料と講義ノートを見返して講義内容を自分なりに整理すること。(2時間)</p>			
教科書			
manaba上で適宜プリントを配布する。			
参考書			
特に定めない。			

成績の評価基準

定期試験（100%）。なお、状況により定期試験が不可能になった場合は、レポート（100%）に変更することがある。その場合はあらかじめ授業内およびmanabaのコースニュース等において告知する。

オフィスアワー

金曜4限（内山研究室）。電子メールでの相談は常時受け付ける。

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

免許教科の必修授業科目：国語

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1103			
科目名			
日本文学史概説A			
英語名			
Introduction to Japanese Literary History A			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099-285-8904 (丹羽)	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本講義では、主要な古典文学作品の諸本相互の関係について概説し、その上で諸本間のテキストの違いが作品理解に及ぼす影響、後世への影響について具体例を示しながら講義する。</p> <p>なお、江戸時代（近世）については大きな流れをつかむことを目的とし、ジャンルの違いに重点をおいて説明をする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本古典文学の基本的な流れを把握する。 ・主要な古典文学作品におけるテキストの問題について理解する。 			
授業計画			
<p>【対面方式】で実施する。なお、コロナ感染症の状況によって遠隔方式に切り替えることがある。</p> <p>第1回：導入 古典文学とは 第2回：竹取物語 第3回：伊勢物語 第4回：古今和歌集/三代集 第5回：土佐日記・蜻蛉日記 第6回：源氏物語 第7回：枕草子 第8回：歴史物語 第9回：今昔物語集 説話の世界 第10回：平家物語 第11回：徒然草 第12回：曾我物語 第13回：連歌と俳諧 第14回：江戸時代の文学（前期） 第15回：江戸時代の文学（後期） 期末試験</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>授業で取り上げた文学作品の全部または一部を読む（予習）。授業で取り上げた文学作品を繰り返し読み、解釈する（復習）。</p>			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
秋山虔ほか『日本古典読本』（筑摩書房）			
成績の評価基準			
<p>期末試験の成績（100％）によって評価する。</p> <p>なお、試験が実施できない状況になった場合は、レポートに切り替える。</p>			
オフィスアワ -			

月曜日3限
アクティブ・ラーニング
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
該当なし
アクティブ・ラーニング（授業回数）
該当なし
備考（受講要件）
教職（国語）の必修科目。平成28年度以前入生は「日本文学史」（2単位）に読み替え。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CFX1110			
科目名			
イギリス文学概説B			
英語名			
Introduction to English Literature B			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
虹林 慶		099-285-7525 (法文学部学生係)	niji.dhs@gmail.com
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
イギリス文学に関する基本的な歴史と主要作品、周辺情報を学び、それ以降の学習に必要な基礎知識を身に付けます。また、作品鑑賞についても具体的に実践してみる授業です。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス文学に関する歴史的背景が理解できる ・イギリス文学の主要作品についての知識を身に付ける ・自分なりに作品の抜粋について鑑賞ができる" 			
授業計画			
本集中講義は、遠隔形式 (Zoomによるリアルタイム型) で行う予定である。なお、授業形態については、様々の状況により変更となる可能性がある。授業形態変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 インTRODクシヨN 第2回 神話と聖書 第3回 叙事詩 第4回 悲劇 第5回 形而上詩人とロマン派詩人 第6回 小説の勃興 第7回 19世紀の小説 第8回 19世紀の詩 第9回 デカダンスと検閲 第10回 帝国主義と文学 第11回 モダニズムと戦争詩人 第12回 ユートピア文学 第13回 神経症の詩人と不条理文学 第14回 ベストセラーと映画 第15回 まとめ"			
授業外学習 (予習・復習)			
単位取得のために必要な授業時間外の学習時間の目安は次の通りです。 (1) 事前に指定した箇所を予習する (毎日1時間程度) (2) 授業内容の整理とふりかえり (毎日0.5時間程度)。 (3) 授業中に指示した文学作品の鑑賞 (毎日1時間程度)。 (4) レポート準備 (毎日0.5時間程度)"			
教科書			
ジョン・サザーランド (著), 河合 祥一郎 (翻訳) 『若い読者のための文学史』 (Yale University Press Little History) (すばる舎)			

参考書

"石塚久郎『イギリス文学入門』（三修社）
Margaret Drabble, ed. The Oxford Companion to English Literature (Oxford University Press)"

成績の評価基準

授業中のミニットペーパー（60%）、レポート（40%）、積極的姿勢などを総合的に評価します。

オフィスアワ -

質問があれば、メール等で対応。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

教職（英語）の必修授業科目。
教科書について、以下の指定箇所について事前に目を通しておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード

FHS-CFX1403

科目名

心理統計法（心理学統計法）

英語名

Statistical Methods in Psychology

開講学科

人文学科

コース

人文学科共通

授業科目区分

人文・心理学コース / 必修
科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1～4年

担当教員

富原 一哉

連絡先（TEL）

099-285-7536

連絡先（MAIL）

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

現代心理学では、データの分析においても、論文の講読においても、統計法の知識を欠かすことはできない。本講義では、心理学研究に多く用いられる統計技法の基礎的な解説を行い、さらにデータ分析の演習を実施することでその理解と修得を目指す。

学修目標

- ・収集したデータに対して、簡単な統計処理を行える。
- ・心理学の研究論文を講読するに際して、その統計処理について正確に理解できる。
- ・各種統計データに対する客観的な評価が可能となる。

授業計画

* この授業は逆転学習形式で、先に「オンデマンド型」資料配信による事前学習を行い、実際の授業時間には「対面型」で演習課題やその解説を実施する。ただし、状況によっては実際の授業時間は遠隔（リアルタイム）形式に変更となる可能性がある。その場合でも逆転学習形式は維持し、「オンデマンド型」の事前学習を必要とするので注意のこと。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

第1回：測定と4つの尺度

第2回：データの集計法 -代表値と散布度-

第3回：標準化と正規分布

第4回：相関と回帰

第5回：推測統計の基礎知識 -母集団の推定と仮説検定-

第6回：1つの平均値の検定 -効果量と検定力-

第7回：2つの平均値の差の検定 -対応のあるt検定-

第8回：2つの平均値の差の検定 -対応のないt検定-

第9回：3つ以上の平均値の差の検定 -級間1要因分散分析-

第10回：3つ以上の平均値の差の検定 -級内1要因分散分析-

第11回：2要因の分散分析 -級間2要因分散分析-

第12回：2要因の分散分析 -級間1級内1の2要因分散分析-

第13回：2要因の分散分析 -級内2要因分散分析-

第14回：ノン・パラメトリック検定（1） -2条件の比較-

第15回：ノン・パラメトリック検定（2） -3条件以上の比較-

第16回：定期試験

授業外学習（予習・復習）

予習：manabaに掲載されたオンデマンド型の前学習課題にて予習を行う（学習に関わる標準的時間は約2時間）。

復習：各回で出された小テストを実施して復習を行う（学習に関わる標準的時間は約2時間）

教科書

川端・荘島著『心理学のための統計学入門 -ココロのデータ分析-』 2014年 誠信書房

橋本・荘島著『実験心理学のための統計学 -t検定と分散分析-』 2016年 誠信書房

参考書

森・吉田編著 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 1990年 北大路書房
 佐藤著 『推計学のすすめ』 1968年 講談社ブルーバックス
 小塩著 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 第3版』 2018年 東京図書
 小宮・布井著 『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 2018年 講談社

成績の評価基準

事前学習課題20%、事後学習課題（小テスト）30%、期末試験50%

オフィスアワ -

月曜2限・研究室（できるだけメールにて事前に連絡ください）

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

毎回データ分析の演習を行う

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「心理学統計演習」に読み替え。
 この授業の単位を既に修得している者の繰り返しの単位修得は認めない。
 実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CFX1402			
科目名			
心理学概論			
英語名			
Introduction to Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		人文学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園博記		099-258-3578 (大園研究室)	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本講義では、心理学の基礎的な内容について理解するために、知覚、認知、学習、感情、脳、社会関係、発達、臨床、人格などについて、様々なトピックを取り上げて講義を行う。また、心に関する多様な視点を提供するために、他動物の心やロボットの心についても取り上げる。さらにまとめとして、心理学の成り立ち(心理学史)についても学ぶ。授業後には毎回、短い意見・感想を書いてもらい、manaba上でフィードバックするなど、双方向的な講義を目指す。また、実感の伴った理解を促すために、実験デモや動画視聴を適宜取り入れながら講義を行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.心理学の成り立ちについて理解し、人の心の基本的な仕組み及び働きを理解する。 2.心理学の多様な各領域について理解を深め、今後の心理学関係の授業の基礎を養う。 3.自らの体験や現代社会の問題と関連づけて、心や社会について多様な側面から考察できる能力を培う。 			
授業計画			
<p>*本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：認知心理学1：知覚と潜在的過程 第3回：認知心理学2：認知バイアスとヒューリスティック 第4回：学習心理学：記憶の仕組み 第5回：感情心理学：感情のメカニズムと機能 第6回：神経科学：脳と心の関係 第7回：認知哲学：ロボットに「心」はあるか？ 第8回：社会心理学：いじめを抑制するには？ 第9回：発達心理学：赤ちゃんの持つ力 第10回：比較心理学：他動物の心を探る 第11回：超心理学：「超能力研究」は科学なのか？ 第12回：心理学研究法：「心」を研究する作法 第13回：人格心理学：性格と性格検査法 第14回：臨床心理学：カウンセリングと心理療法 第15回：心理学史と講義のまとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約2時間) 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は2時間)</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
「はじめて出会う心理学 改訂版(長谷川寿一ほか、有斐閣アルマ、2008年)			

成績の評価基準

毎回の意見・質問の提出（45%）、複数回の小レポート(30%)及び期末レポート（25%）の成績による。

オフィスアワ -

火曜3限。ただし、なるべく事前にメールにて連絡すること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

すでに心理学概論の単位を取得している学生は再履修ができない。

初回の講義で、本講義における進め方やルールについて説明するので、受講希望者は特別な理由がない限り必ず受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CFX2401

科目名

心理学研究法

英語名

Research Methods in Psychology

開講学科

人文学科

コース

人文学科共通

授業科目区分

人文・心理学コース / 必修
科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

横山春彦

連絡先 (TEL)

099 - 285 - 7535 (内線7535)

連絡先 (MAIL)

yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

本講義は、心理学の研究対象であるヒト・動物の行動をどのように取り扱い、どのような研究が可能で、その結果どのような知見が得られるかについて、実践的に学習する心理学コースの専門授業となります。授業は全15回オンデマンド型で進めますが、受講生はシラバス、manabaを利用の上、十分な予習・復習を行うことが求められる。全15回のうち第1回から第7回までは要因（独立変数、従属変数、剰余変数）や統計処理（統計的仮説の検定）など研究の基礎的事項について、第8回から第15回は具体的な実験研究について、心理学研究法の具体的な理解を深めることが求められます。

学修目標

以下の3点を目標とする。

1. 特定の研究に関し、従属変数、独立変数が適切に把握し、説明できる。
2. 実験などデータ収集時に必要な剰余変数の統制につき説明できる。
3. 得られたデータについて適切な統計処理ができ、その結果が説明できる。

授業計画

全15オンデマンド型の授業となります。ただし今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性があります。

第1回 要因（従属変数、独立変数、剰余変数）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第2回 従属変数（比例尺度、順序尺度、名義尺度）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第3回 独立変数（被験者間・被験者内要因、水準）について、その他（身近な動植物・のらねこ研究等）

第4回 1要因の影響（主効果、有意水準、帰無仮説）について、その他（大学での学び、身近な動植物、のらねこ研究）

第5回 2要因の影響（1次交互作用）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第6回 3要因の影響（2次の交互作用）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第7回 統計処理の意味の再確認（分散分析）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第8回 重さの弁別による感覚実験（重量弁別、精神物理学的測定法）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第9回 様々な心理学研究法の紹介、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第10回 鏡映描写による学習実験について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第11回 心的回転によるイメージ実験（直線・曲線回帰）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第12回 記憶走査による短期記憶実験（記憶走査）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第13回 錯視による視覚実験（観察距離、視角、輝度）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第14回 ストループ効果による認知実験について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第15回 2点閾による皮膚感覚実験について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）

第16回 期末試験（期日までにレポートを作成し、提出する形式で行う）

授業外学習（予習・復習）

本講義は2単位の講義科目であるため、単位制度に則り、1回につき4時間の予習・復習が必要となります。すなわち、シラバスに示した学修内容を踏まえた予習に加え（2時間程度）、授業終了後には授業時に出された発問への回答を含め、学修内容に対する復習（2時間程度）を要します。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

高野陽太郎・岡隆編 心理学研究法 有斐閣 2017年

成績の評価基準

ショートレポートに対する評価（20%）、毎週の予習・復習のなど行うべき課題の取り組み状況（20%）及び、期末試験の成績（60%）により評価する。

オフィスアワ -

manabaを用い質問等を随時受けつけます

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

心理学研究の基礎となる統計処理及び具体的な実験研究の設定等につき毎回発問し各自で考えてもらう

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回の授業はすべて

備考（受講要件）

カリキュラムの構成上、重複履修は認められない。ただし、心理学研究法に関する質問等についてはmanabaを通じて担当教員に随時行うこととします。

実務経験のある教員による実践的授業

心理学の研究対象であるヒト・動物の行動をどのように取り扱い、どのような研究が可能で、その結果どのような知見が得られるかについて、実践的に学習する心理学コースの専門授業となります。

ナンバリングコード			
FHS-BBX1101			
科目名			
哲学概説(旧 哲学概論)			
英語名			
Introduction to Western Philosophy			
開講学科		コース	
人文学科		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
全て	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
近藤和敬	099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>哲学とは何かということについて、知るうえでもっとも基本となる古代哲学および中世哲学を中心に勉強します。また古代・中世哲学のなかでもそのひとつの中心概念となる「自然」概念を軸に、哲学史との関係について理解を深めます。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋哲学についての理解を深める。 2. 古代・中世哲学について理解を深める。 3. 哲学を理解するうえで必要な基本的知識を獲得する。 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、自然 という概念 (オンデマンド) 2. 古代哲学1: ターレスおよびミレトス派と古代ギリシアでの哲学の始まり (オンデマンド) 3. 古代哲学2: パルメニデスとゼノンのエレア派 (オンデマンド) 4. 古代哲学3: ソクラテスとアテナイの社会 (オンデマンド) 5. 古代哲学4: プラトンにおける政治と宇宙 (オンデマンド) 6. 古代哲学5: アリストテレスの自然概念と自然学 (オンデマンド) 7. 古代哲学6: アリストテレスの自然概念と政治学と倫理学 (オンデマンド) 8. 古代哲学7: エピクロス派、原子論と自然の概念 (オンデマンド) 9. 古代哲学8: ストア派の自然概念とロゴス (オンデマンド) 10. 古代哲学9: ストア派から新プラトン派へ (オンデマンド) 11. 古代哲学の終焉とキリスト教文化の拡大 (オンデマンド) 12. 中世哲学1: トマスの哲学と自然概念 (オンデマンド) 13. 古代と中世をつなぐ: ローマ法からトマスの自然法へ (オンデマンド) 14. 新スコラ哲学と自然法と自由意志の概念 (オンデマンド) 15. まとめ (オンデマンド) 16. 期末テストは行わない 			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業でもちいる資料を授業の前後に読んで予習と復習をすること(予習1時間、復習1時間)。 ・授業で取り上げた書籍などを授業後などに自分で読むことを復習として行うことが望ましい。 			
教科書			
とくにありません。授業中に資料を配布する。			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業後の振り返り(マナバの掲示板への書き込み)とまとめの小テスト(20%)で評価する。 ・振り返りは授業の要点のまとめの適切さ、用語の理解の適切さによって評価する。 			
オフィスアワー			
随時(オンデマンド型なので、manabaの掲示板に書き込むようにしてください)			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

昨年度の哲学概論と重複履修をしないようにしてください。

本授業のための受講要件は特にありませんが、本授業を受けていることが、哲学研究（講義）の受講のために推奨されます。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBX1102			
科目名			
倫理学概説			
英語名			
Introduction to Ethics			
開講学科		コース	
人文学科		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
柴田健志	099-285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし	後期		
授業概要			
倫理学の基本的な考え方を講義します。			
学修目標			
倫理学の基本的な考え方を理解すること。			
授業計画			
1 ガイダンス 2 倫理学とは(問い) 3 幸福 4 義務 5 徳 6 道德判断 7 道德 8 自己と他者 9 個人と社会 10 正義、自由、平等 11 医療 12 環境 13 ビジネス 14 倫理学とは(答え) 15 全体のまとめ			
オンデマンド			
授業外学習(予習・復習)			
予習 テキストの読解(2時間)			
復習 テキストの問題点の検討(2時間)			
教科書			
柘植尚則『プレップ倫理学』弘文堂			
参考書			
特にありません。授業の際に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
レポートによっておこないます(100%)。評価基準は(1)問題提起の的確さ(2)結論の妥当性(3)論理の整合性、以上3点です。			
オフィスアワ -			
月曜・3限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
該当なし。			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1501			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁 (共同: 柴田健志・三木夏華・大園博記)		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
柴田健志・三木夏華・大園博記		前期	
授業概要			
大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・修学や学生生活についての必要な手続きについて学び実行する ・自身の興味関心を明確化し、学びのための土台を構築する ・人文学科の教員についての基礎的な知識を得る 			
授業計画			
第1回 オリエンテーション (対面型) 第2回 教員紹介と情報交換 (1) 第3回 人文/キャリアレクチャー (オンデマンド型) 第4回 教員紹介と情報交換 (2) 第5回 教員紹介と情報交換 (3) 第6回 教員紹介と情報交換 (4) 第7回 教員紹介と情報交換 (5) 第8回 教員紹介と情報交換 (6) 第9回 教員紹介と情報交換 (7) 第10回 教員紹介と情報交換 (8) 第11回 教員紹介と情報交換 (9) 第12回 教員紹介と情報交換 (10) 第13回 教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化 (1) (対面型) 第14回 教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化 (2) (対面型) 第15回 資格関係ガイダンス・夏休みの課題等について (オンデマンド型)			
「教員紹介と情報交換」は、対面型とオンデマンド型を交互に行う予定である 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・修学の手続きなどについて各自で確認が必要です。また、諸手続きについては締め切りに従って各自での対応が求められる可能性があります。 ・随時課題を課しますので、課題についても授業外学習 (予習、復習) が必要となります (目安の学習時間は予習・復習合わせて4時間程度)。 			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用います。 必要に応じてプリント等をアップロードします。			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			

・毎回の課題提出とその内容（100%）

・成績に関わる提出物が別途課される場合もある。その場合は事前に連絡する。

オフィスアワ -

授業開始前：毎週火曜日12:00～12:50分

原則としてメールで事前にアポイントメントを取ることを。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

・manabaをこまめに確認してください

・前もって指定されたクラスの授業を受講してください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1501			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志 (共同: 小林善仁・三木夏華・大園博記)		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
小林善仁・三木夏華・大園博記		前期	
授業概要			
大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
修学や学生生活について必要な手続きを学び、実行する 自身の興味・関心を明確にし、学びの土台を構築する 人文学科の教員について基礎的な知識を得る			
授業計画			
第1回 オリエンテーション (対面型)			
第2回 教員紹介と情報交換 (1)			
第3回 人文/キャリアレクチャー (オンデマンド型)			
第4回 教員紹介と情報交換 (2)			
第5回 教員紹介と情報交換 (3)			
第6回 教員紹介と情報交換 (4)			
第7回 教員紹介と情報交換 (5)			
第8回 教員紹介と情報交換 (6)			
第9回 教員紹介と情報交換 (7)			
第10回 教員紹介と情報交換 (8)			
第11回 教員紹介と情報交換 (9)			
第12回 教員紹介と情報交換 (10)			
第13回 教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化 (1) (対面型)			
第14回 教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化 (2) (対面型)			
第15回 資格関係ガイダンス・夏休みの課題等について (オンデマンド型)			
「教員紹介と情報交換」は、対面型とオンデマンド型を交互に行う予定である 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
授業外学習 (予習・復習)			
・修学の手続きなどについて各自で確認が必要です。また、諸手続きについては締め切りに従って各自での対応が求められる可能性があります。			
・随時課題を課しますので、課題についても授業外学習 (予習、復習) が必要となります (目安の学習時間は予習・復習合わせて4時間程度)。			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用います。 必要に応じてプリント等をアップロードします。			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			

・毎回の課題提出とその内容（100%）

・成績に関わる提出物が別途課される場合もある。その場合は事前に連絡する。

オフィスアワ -

原則としてメールで事前にアポイントメントを取ることを。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回中14回

備考（受講要件）

manabaをこまめに確認を。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1502			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志 (共同: 小林善仁・三木夏華・大園博記)		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
林善仁・三木夏華・大園博記		後期	
授業概要			
学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(1) (夏休みの課題確認) (対面型)			
第2回 オリエンテーション(2) (質問とその回答) (対面型)			
第3回 教員インタビュー (遠隔・リアルタイム型)			
第4回 教員インタビューの情報交換とまとめ (対面型)			
第5回 グループワーク(1) (遠隔・リアルタイム型)			
第6回 グループワーク(2) (遠隔・リアルタイム型)			
第7回 グループワーク(3) (遠隔・リアルタイム型)			
第8回 グループワーク(4) (遠隔・リアルタイム型)			
第9回 グループワーク(5) (対面型)			
第10回 グループワーク(6) (対面型)			
第11回 留学ガイダンス (遠隔・オンデマンド型)			
第12回 発表会(1) (遠隔・リアルタイム型)			
第13回 発表会(2) (遠隔・リアルタイム型)			
第14回 発表会(3) (遠隔・リアルタイム型)			
第15回 まとめと意見交換 (対面型)			
授業外学習 (予習・復習)			
取材の下準備、取材の実施、集めた資料のまとめなど、綿密な計画を立てて行ってもらいます。調査やグループワークなどで、授業外学習が必要になります (目安となる学習時間: 予習、復習合わせて4時間)。			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用います。 必要に応じてプリント等をアップロードします。			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業への取り組み (30%) ・発表会 (30%) ・授業で指示された課題提出物 (40%) 			
オフィスアワ -			
原則としてメールで事前にアポイントメントを取ることを。			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

この授業は対面形式と遠隔形式を併用して行う。ただし、状況によっては授業形式や内容が変更となる可能性がある。授業形態等を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1502			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁 (共同: 柴田健志・三木夏華・大園博記)		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
柴田健志・三木夏華・大園博記		後期	
授業概要			
<p>学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。</p> <p>この授業は対面形式と遠隔形式を併用して行います。ただし、状況によっては授業形式や内容が変更となる可能性があります。授業形態等を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知します。</p>			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能の必須アイテムを習得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(1) (夏休みの課題確認) (対面型) 第2回 オリエンテーション(2) (質問とその回答) (対面型) 第3回 教員インタビュー (遠隔・リアルタイム型) 第4回 グループワーク(1) (遠隔・リアルタイム型)教員 第5回 インタビューの情報交換とまとめ (対面型) 第6回 グループワーク(2) (遠隔・リアルタイム型) 第7回 グループワーク(3) (遠隔・リアルタイム型) 第8回 グループワーク(4) (遠隔・リアルタイム型) 第9回 グループワーク(5) (対面型) 第10回 グループワーク(6) (対面型) 第11回 留学ガイダンス (遠隔・オンデマンド型) 第12回 発表会(1) (遠隔・リアルタイム型) 第13回 発表会(2) (遠隔・リアルタイム型) 第14回 発表会(3) (遠隔・リアルタイム型) 第15回 まとめと意見交換 (対面型)			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>グループワークに関しては毎回1-2時間程度の復習が必要となります。</p> <p>また成果発表に関しては3-4時間程度の予習が必要となります。</p> <p>また別途、随時課題を課しますので、課題についても各1-2時間程度の授業外学習が必要となります。</p>			
教科書			
<p>本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用います。</p> <p>必要に応じてプリント等をアップロードします。</p>			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の授業への取り組み (30%) ・ 発表会 (30%) ・ 授業で指示された課題提出物 (40%) 			

オフィスアワ -

毎週火曜日12:00~12:50

原則として事前にメールで教員と連絡をとること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

前もって指定されたクラスの授業を受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1501			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三木夏華 (共同: 柴田健志・小林善仁・大園博記)		0992857525 (学生係)	sanmu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
柴田健志・小林善仁・大園博記		前期	
授業概要			
大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・修学や学生生活についての必要な手続きについて学び実行する ・自身の興味関心を明確化し、学びのための土台を構築する ・人文学科の教員についての基礎的な知識を得る 			
授業計画			
第1回 オリエンテーション (対面型) 第2回 教員紹介と情報交換 (1) 第3回 人文/キャリアレクチャー (オンデマンド型) 第4回 教員紹介と情報交換 (2) 第5回 教員紹介と情報交換 (3) 第6回 教員紹介と情報交換 (4) 第7回 教員紹介と情報交換 (5) 第8回 教員紹介と情報交換 (6) 第9回 教員紹介と情報交換 (7) 第10回 教員紹介と情報交換 (8) 第11回 教員紹介と情報交換 (9) 第12回 教員紹介と情報交換 (10) 第13回 教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化 (1) (対面型) 第14回 教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化 (2) (対面型) 第15回 資格関係ガイダンス・夏休みの課題等について (オンデマンド型)			
「教員紹介と情報交換」は、対面型とオンデマンド型を交互に行う予定である 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・修学の手続きなどについて各自で確認が必要です。また、諸手続きについては締め切りに従って各自での対応が求められる可能性があります。 ・随時課題を課しますので、課題についても授業外学習 (予習、復習) が必要となります (目安の学習時間は予習・復習合わせて4時間程度)。 			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用います。 必要に応じてプリント等をアップロードします。			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			

- ・毎回の課題提出とその内容（100%）
- ・成績に関わる提出物が別途課される場合もある。その場合は事前に連絡する。

オフィスアワ -

原則としてメールで事前にアポイントメントを取ることを。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

- ・manabaをこまめに確認してください
- ・前もって指定されたクラスの授業を受講してください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1502			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三木夏華 (共同: 柴田健志・小林善仁・大園博記)		0992857525 (学生係)	sanmu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
柴田健志・小林善仁・大園博記		後期	
授業概要			
<p>学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。</p> <p>この授業は対面形式と遠隔形式を併用して行います。ただし、状況によっては授業形式や内容が変更となる可能性があります。授業形態等を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知します。</p>			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(1) (夏休みの課題確認) 第2回 オリエンテーション(2) (質問とその回答) 第3回 教員インタビュー 第4回 グループワーク(1) 第5回 グループワーク(2) 第6回 インタビューの情報交換とまとめ 第7回 グループワーク(3) 第8回 グループワーク(4) 第9回 グループワーク(5) 第10回 グループワーク(6) 第11回 留学ガイダンス 第12回 発表会(1) 第13回 発表会(2) 第14回 発表会(3) 第15回 まとめと意見交換			
授業外学習 (予習・復習)			
取材の下準備、取材の実施、集めた資料のまとめなど、綿密な計画を立てて行ってもらいます。調査やグループワークなどで、授業外学習が必要になります (目安となる学習時間: 予習、復習合わせて4時間)。			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用います。 必要に応じてプリント等をアップロードします。			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業への取り組み (30%) ・発表会 (30%) ・授業で指示された課題提出物 (40%) 			
オフィスアワ -			

原則として事前にメールでアポイントメントを取ること。	
	アクティブ・ラーニング
グループワーク; プレゼンテーション;	
	アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし。	
	アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回	
	備考 (受講要件)
前もって指定されたクラスの授業を受講して下さい。	
	実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。	

ナンバリングコード

FHS-CGX2401

科目名

多元地域文化コース基礎I (旧 コース基礎演習1)

英語名

Course Basics 1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一 (共同: 梁川英俊・太田純貴)		099-285-7525 (法文学部学生係)	hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)
共同担当教員		前後期	
梁川英俊、太田純貴		前期	

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行います。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学びます。

新型コロナウイルス感染症対応のため、当初の予定を変更しています。
今後もスケジュールに変更が生じる可能性があります。
大学ホームページやmanabaをチェックして、最新情報を確認するようにしてください。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態・内容については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態・内容を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

第1回ガイダンスで全体のスケジュールについて説明します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「ゼミ所属に関する調書」作成
- 第3回 「ゼミ所属に関する調書」等の確認・修正
- 第4回 研究実践レクチャー1-1: フィールド分野
- 第5回 研究実践レクチャー1-2: フィールド分野
- 第6回 研究実践レクチャー2-1: 言語・文学分野
- 第7回 研究実践レクチャー2-2: 言語・文学分野
- 第8回 研究実践レクチャー3-1: 歴史・社会分野
- 第9回 研究実践レクチャー3-2: 歴史・社会分野
- 第10回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第11回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第12回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第13回 成果発表1
- 第14回 成果発表2
- 第15回 成果発表3

授業外学習 (予習・復習)

成果発表に向けた準備のための予習 (2時間程度)。
他の学生の発表も踏まえた復習 (2時間程度)。
また、随時課題を課するので、課題についても授業外学習が必要です。

教科書

特になし
参考書
特になし
成績の評価基準
グループワークの成果：60%、諸課題：40%
オフィスアワ -
月曜2限
アクティブ・ラーニング
グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
該当なし。
アクティブ・ラーニング（授業回数）
備考（受講要件）
平成21年度以前の入学生は「フィールド学」に読み替え。また「コース基礎演習1」にも読み替え。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2401

科目名

多元地域文化コース基礎I (旧 コース基礎演習1)

英語名

Course Basics 1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
梁川英俊 (共同: 竹岡健一・太田純貴)		099-285-7525 (法文学部学生係)	yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
竹岡健一・太田純貴		前期	

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行う。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学ぶ。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

1. オリエンテーション・グループ分け
2. 「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の書き方
3. 「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の作成に向けた準備
4. 論文やレポートをかくための準備1: 文章の種類 (著作・論文・書評など) と扱い方の基本
5. 論文やレポートをかくための準備2: 文献の調査のやり方
6. 論文やレポートをかくための準備3: 引用の基本
7. 「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の確認、修正および提出
8. 研究実践レクチャー1-1
9. 研究実践レクチャー1-2
10. 研究実践レクチャー1-3
11. グループワーク、レクチャーの実践1
12. グループワーク、レクチャーの実践2
13. 成果発表1
14. ゼミ所属発表、成果発表2
15. 夏休みの課題等について

授業外学習 (予習・復習)

成果発表に向けた準備のための予習 (2時間程度)。
他の学生の発表も踏まえた復習 (2時間程度)。
また、随時課題を課するので、課題についても授業外学習が必要です。

教科書

特に指定せず、必要に応じて適宜紹介します

参考書

特に指定せず、必要に応じて適宜紹介します

成績の評価基準

グループワークの成果：60%、諸課題：40%

オフィスアワ -

火曜日12-13時

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15/15

備考（受講要件）

多元地域文化コースの2年次以降の学生であること（ただし、旧カリキュラムの学生は、コース基礎演習に読み替え）

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2401

科目名

多元地域文化コース基礎I (旧 コース基礎演習1)

英語名

Course Basics 1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴 (共同: 梁川英俊・竹岡健一)		099-285-7525 (法文学部学生係)	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
梁川英俊、竹岡健一		前期	
授業概要			
クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行います。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学びます。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。			
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション・グループ分け 「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の書き方 「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の作成に向けた準備 論文やレポートをかくための準備1: 文章の種類(著作・論文・書評など)と扱い方の基本 論文やレポートをかくための準備2: 文献の調査のやり方 論文やレポートをかくための準備3: 引用の基本 「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の確認、修正および提出 研究実践レクチャー1-1 研究実践レクチャー1-2 研究実践レクチャー1-3 グループワーク、レクチャーの実践1 グループワーク、レクチャーの実践2 成果発表1 ゼミ仮所属発表、成果発表2 夏休みの課題等について 			
授業外学習(予習・復習)			
<p>成果発表に向けた準備のための予習(2時間程度)。 他の学生の発表も踏まえた復習(2時間程度)。 また、随時課題を課するので、課題についても授業外学習が必要です。</p>			
教科書			
特になし			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
グループワークの成果: 60%、諸課題: 40%			

オフィスアワ -

火曜日12-13時

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15/15

備考 (受講要件)

多元地域文化コースの2年次以降の学生であること (ただし、旧カリキュラムの学生は、コース基礎演習に読み替え)

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード

FHS-CGX2402

科目名

多元地域文化コース基礎II (旧 コース基礎演習2)

英語名

Course Basics 2

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一 (共同: 梁川英俊・太田純貴)		099-285-7525 (法文学部学生係)	hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)
共同担当教員		前後期	
梁川英俊 太田純貴		後期	

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行います。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学びます。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態・内容については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態・内容を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

第1回ガイダンスで全体のスケジュールについて説明します。

- 第1回 ガイダンス・論文やレポートをかくための準備1 文章の種類(著作・論文・書評など)と扱い方の基本
- 第2回 論文やレポートをかくための準備2 文献の調査方法
- 第3回 論文やレポートをかくための準備3 引用の基本
- 第4回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第5回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第6回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第7回 成果発表1
- 第8回 成果発表2
- 第9回 成果発表3
- 第10回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第11回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第12回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第13回 成果発表1
- 第14回 成果発表2
- 第15回 成果発表3

授業外学習(予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要です。

また、随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。

教科書

特になし

参考書

特になし

成績の評価基準

グループワークの成果：70%、諸課題：30%

オフィスアワ -

月曜2限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中12回

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「コース基礎演習2」に読み替え。

前もって指定されたクラスの授業を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2402

科目名

多元地域文化コース基礎II (旧 コース基礎演習2)

英語名

Course Basics 2

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
梁川英俊 (共同: 竹岡健一・太田純貴)		099-285-7525 (法文学部学生係)	yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
竹岡健一・太田純貴		後期	

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行う。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学ぶ。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態・内容については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態・内容を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

第1回ガイダンスで全体のスケジュールについて説明します。

- 第1回 ガイダンス・論文やレポートをかくための準備1 文章の種類(著作・論文・書評など)と扱い方の基本
- 第2回 論文やレポートをかくための準備2 文献の調査方法
- 第3回 論文やレポートをかくための準備3 引用の基本
- 第4回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第5回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第6回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第7回 成果発表1
- 第8回 成果発表2
- 第9回 成果発表3
- 第10回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第11回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第12回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第13回 成果発表1
- 第14回 成果発表2
- 第15回 成果発表3

授業外学習(予習・復習)

成果発表に向けた準備のための予習(2時間程度)。

他の学生の発表も踏まえた復習(2時間程度)。

また、随時課題を課するので、課題についても授業外学習が必要となる。

教科書

特に指定せず、必要に応じてプリント等を配布する。

参考書

特に指定せず、適宜紹介する

成績の評価基準

グループワークの成果：70%、諸課題：30%

オフィスアワ -

火曜日12-13時

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中12回

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2402

科目名

多元地域文化コース基礎II (旧 コース基礎演習2)

英語名

Course Basics 2

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴 (共同: 梁川英俊・竹岡健一)		099-285-7525 (法文学部学生係)	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
梁川英俊、竹岡健一		後期	

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行う。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学ぶ。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態・内容については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態・内容を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

第1回ガイダンスで全体のスケジュールについて説明します。

- 第1回 ガイダンス・論文やレポートをかくための準備1 文章の種類(著作・論文・書評など)と扱い方の基本
- 第2回 論文やレポートをかくための準備2 文献の調査方法
- 第3回 論文やレポートをかくための準備3 引用の基本
- 第4回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第5回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第6回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第7回 成果発表1
- 第8回 成果発表2
- 第9回 成果発表3
- 第10回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第11回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第12回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第13回 成果発表1
- 第14回 成果発表2
- 第15回 成果発表3

授業外学習(予習・復習)

成果発表に向けた準備のための予習(2時間程度)。

他の学生の発表も踏まえた復習(2時間程度)。

また、随時課題を課するので、課題についても授業外学習が必要となる。

教科書

必要に応じてプリント等を配布する。

参考書

適宜紹介する

成績の評価基準

グループワークの成果：70%、諸課題：30%

オフィスアワ -

火曜日12-13時

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中12回

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード

FHS-CGX2142

科目名

英語オーラルa (旧 英語コミュニケーション1)

英語名

Oral English a

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ・コダ

099-285-7573

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

None

前期

授業概要

This is an upper-intermediate course that will teach you how to give presentations in English. The course will follow a pattern of lecture/activities one week, followed by presentations the next week. You will be expected to make about 6 presentations throughout the course. For the test, the class will be split into two halves, the 1st group will present the first week. The 2nd group will present the second week.

Due to the university's restrictions on talking in the classroom, this class has to be held real-time on Zoom.

学修目標

This course aims to build your confidence in using real English. You will be able to learn how to give an effective presentation. The skills that you learn you will be able to use when you give presentations in Japanese too.

授業計画

Due to the university's restrictions on talking in the classroom, this class has to be held real-time on Zoom. If there are any changes to this, I will let you know via Manaba.

Week 1 Introduction

Week 2 Physical aspects of presentations 1 : Posture and eye contact

Week 3 Presentation practice and peer evaluation

Week 4 Physical aspects of presentations 2 : Gestures

Week 5 Presentation practice and peer evaluation

Week 6 Oral aspects of presentations 1 : Voice inflection

Week 7 Presentation practice and peer evaluation

Week 8 Oral aspects of presentations 2 : Pronunciation

Week 9 Presentation practice and peer evaluation

Week 10 Presentation structure 1 : Structure

Week 11 Presentation practice and peer evaluation

Week 12 Presentation structure 2 : Powerpoint

Week 13 Presentation practice and peer evaluation

Week 14 Individual research for final presentation

Week 15 Final presentation and peer evaluation (1st group)

Week 16 Final presentation and peer evaluation (2nd group)

授業外学習 (予習・復習)

You will be given regular homework that will include preparation for the following class such as

preparing presentations or watching presentations on Youtube or revision of what we have done in class. You should expect the homework and preparation to take over four hours to complete each week.

教科書

You will be given handouts

参考書

You will be advised of any extra resources during the course.

成績の評価基準

Presentations in class 50%

Final Presentation 50%

オフィスアワー

Tuesday 4th period

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

None

アクティブ・ラーニング (授業回数)

Every week

備考 (受講要件)

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

文化人類学実習 2 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))
ナンバリングコード

FHS-CGX2229

科目名

文化人類学実習 2 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))

英語名

Cultural Anthropology Fieldwork 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

実習

単位数

1単位

開講期

2年

担当教員

尾崎孝宏・兼城系絵

連絡先 (TEL)

099-285-8902 (兼城)

連絡先 (MAIL)

itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp (兼城)

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

前期の海外実習にて収集したデータをもとに、

- 1) 調査実習報告会のためのパワーポイントの作成。調査資料の整理、分析、報告書の作成、パワーポイントの作成などを、グループ単位で行う。
- 2) 実習報告会で、作成したパワーポイントを用いて報告を行う。
- 3) 国際交流モデルに関するテキストを作成する

学修目標

調査資料の整理やまとめ方、発表方法に関する一連のスキルを体得する。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 実習調査資料の整理1
- 第3回 実習調査資料の整理2
- 第4回 報告書へ向けたプロット整理1
- 第5回 報告書へ向けたプロット整理2
- 第6回 追加調査の検討
- 第7回 追加調査の実施
- 第8回 報告書の中間報告会
- 第9回 プレゼンテーションのプロット整理
- 第10回 プレゼンテーションの作成
- 第11回 プレゼンテーションの確認
- 第12回 プレゼンテーションの実施
- 第13回 報告書第1稿の検討会
- 第14回 報告書のブラッシュアップ
- 第15回 報告書の推敲および完成版作成

授業外学習 (予習・復習)

毎回発表をするので、予習としてハンドアウト等の準備をすること (45分程度)

各回のディスカッションで指摘された事項に対応し、復習としてそれぞれの関心にもとづいた文献の収集・講読も合わせて行うこと (45分程度)。

教科書

佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法』新曜社。

参考書

各グループの研究の進捗状況に応じて、授業時に適宜紹介する。

成績の評価基準

発表内容 (30%) やレポート (40%)、テキスト作成への貢献度 (30%) により総合的に評価する。

オフィスアワ -

各教員に確認すること

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

前期開講の「文化人類学実習1」の単位を取得済みであること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

英語ライティング a (旧 英語コミュニケーション2A)
ナンバリングコード

FHS-CGX2141

科目名

英語ライティング a (旧 英語コミュニケーション2A)

英語名

Academic Writing in English a

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ コーダ		099-285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
None		後期	

授業概要

You will learn essay structure and how to analyse paragraphs and essays. You will also learn how to use discourse markers and conjunctives effectively. You will be expected to communicate actively with other students about your writing in and outside of the classroom

学修目標

This class is an introduction to academic writing in English concentrating on essay structure for advantages and disadvantages essays, problem and solution essays and opinion essays. Classwork will be divided between discussion and writing. This class will be helpful if you are going to take the 教員採用試験 or IELTS or TOEFL.

授業計画

授業計画

Due to the university's restrictions on talking in the classroom, this class has to be held real-time on Zoom. If there are any changes to this, I will let you know via Manaba.

- Week 1 Advantages and disadvantages essays: introduction
- Week 2 Advantages and disadvantages essays: organising your essay
- Week 3 Advantages and disadvantages essays: writing introductions
- Week 4 Advantages and disadvantages essays: writing conclusions
- Week 5 Advantages and disadvantages essays: avoiding generalisations
- Week 6 Problem and solution essays: introduction
- Week 7 Problem and solution essays: organising your essay
- Week 8 Problem and solution essays: contrasting ideas
- Week 9 Problem and solution essays: writing introductions
- Week 10 Problem and solution essays: writing conclusions
- Week 11 Opinion essays: introduction
- Week 12 Opinion essays: supporting opinions
- Week 13 Opinion essays: expressing someone else's opinions
- Week 14 Opinion essays: writing introductions and conclusions
- Week 15 Essay feedback and test preparation
- Week 16 Final test

授業外学習 (予習・復習)

You will be expected to gather information for your essays.
You will be given regular homework that will include preparation for the following class or revision of what we have done in class. You should expect the homework to take over four hours to complete.

教科書
Handouts will be provided
参考書
You will need access to a good dictionary and grammar book - using your smartphone is ok.
成績の評価基準
Homework 75% (You will have three essays to write as homework each worth 25%) Final essay 25%
オフィスアワ -
Anytime is ok, but to be sure mail me. My official office hour is Tuesday 4th period.
アクティブ・ラーニング
グループワーク;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
None
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回
備考 (受講要件)
None
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

文化人類学実習 1 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))
ナンバリングコード

FHS-CGX2229

科目名

文化人類学実習 1 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))

英語名

Cultural Anthropology Fieldwork 1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

実習

単位数

2単位

開講期

2年

担当教員

尾崎孝宏・兼城系絵

連絡先 (TEL)

099-285-8902

連絡先 (MAIL)

itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

韓国において実施するフィールドワークの準備作業および実習を行う。

本授業は前期授業期間に毎週行う準備作業と、12月下旬に行う実習の2部より構成される。

準備作業には、およそ以下のような項目が含まれる

- ・韓国に関する一般的な情報及び歴史に関する情報収集
- ・渡航に関する準備 (旅券、チケットの確保)
- ・現地での最低限のコミュニケーション手段の獲得
- ・具体的な調査地の選定
- ・現地での調査手段および項目に関する検討
- ・共同調査者 (全北大学校人文学部の学生) との事前連絡
- ・調査用具等の準備

実習では、全北大学校人文学部の学生と共同で全州市内で社会調査を行い、最終日に全北大学校で調査報告会を行う。

コロナウイルスの状況次第で、テレビ会議システム等を利用したりリモートでの調査および発表に切り替える可能性がある

学修目標

韓国での現地調査に必要な渡航準備ができる。

現地調査を実施する地域の各種状況が把握できる。

現地調査の実施計画が立てられる。

社会調査に必要な一連のスキルを体得する。

異文化における社会調査を実施する。

異文化について包括的に理解する。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。

夏季休暇期間中に、韓国全羅北全州市で4日間程度の現地調査を行なう。

調査時期および現地滞在日程の詳細については第1回目のガイダンスで説明する。

なお、本授業で行うのは第15回までの事前準備であり、第16回以降は夏季集中講義として別途開講するので注意すること。

第1回 ガイダンス

第2回 調査グループ作成

第3回 渡航に関する準備作業

第4回 調査地域の一般情報の把握

第5回 調査地域の歴史に関して

第6回 現地調査に関する意義の確認

第7回 コミュニケーション手段について

第8回 共同調査者との事前連絡

第9回 実施計画案Aの発表

第10回 調査計画に関する実施可能性の検討

第11回 調査計画の修正作業 (1)
第12回 調査計画案Bの発表
第13回 調査計画の修正作業 (2)
第14回 最終計画案の確定と実施日時の調整
第15回 調査用具等の最終チェック
第16回～第19回: 調査第1日目
第20回～第23回: 調査第2日目
第24回～第27回: 調査第3日目
第28回～第30回: 調査第4日目 (調査報告会)
授業外学習 (予習・復習)
事前調査期間中の予習として、以下に挙げた教科書・参考書に目を通し、理解しておく必要がある (各回30分程度)。 事前調査期間中の復習として、各界の授業で示された課題を実践してみる必要がある (各回60分程度)。 調査期間中および調査後には、調査テーマや調査地について文献や資料に目を通したり、グループでディスカッションするなどして、予習・復習をすること (合計90分程度)。
教科書
佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法』新曜社。
参考書
石坂 浩一ほか 2014 『現代韓国を知るための60章』明石書店 新城 道彦ほか 2019 『知りたくなる韓国』有斐閣 など、適宜授業中に紹介する。
成績の評価基準
授業への取り組み態度 (40%)、調査の質 (40%)、グループ作業への貢献 (20%) による。
オフィスアワー
各教員に確認すること
アクティブ・ラーニング
グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中12回
備考 (受講要件)
後期に開講する「文化人類学実習2」も受講可能であることを受講要件とする。 実習に要する費用は自己負担とする。 希望者多数の場合、引率等の関係から履修制限を行なう (上限20名)。
実務経験のある教員による実践的授業
該当しない

英語オーラルb (旧 英語コミュニケーション1B・C)
ナンバリングコード

FHS-CGX2142

科目名

英語オーラルb (旧 英語コミュニケーション1B・C)

英語名

Oral English b

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ コダ		099-285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
None		前期	

授業概要

This is an upper-intermediate course that will teach you how to give presentations in English. The course will follow a pattern of lecture/activities one week, followed by presentations the next week. You will be expected to make about 6 presentations throughout the course. For the test, the class will be split into two halves, the 1st group will present the first week. The 2nd group will present the second week.

学修目標

This course aims to build your confidence in using real English. You will be able to learn how to give an effective presentation. The skills that you learn you will be able to use when you give presentations in Japanese too.

授業計画

Due to the university's restrictions on talking in the classroom, this class has to be held real-time on Zoom. If there are any changes to this, I will let you know via Manaba.

Week 1 Introduction

Week 2 Physical aspects of presentations 1 : Posture and eye contact

Week 3 Presentation practice and peer evaluation

Week 4 Physical aspects of presentations 2 : Gestures

Week 5 Presentation practice and peer evaluation

Week 6 Oral aspects of presentations 1 : Voice inflection

Week 7 Presentation practice and peer evaluation

Week 8 Oral aspects of presentations 2 : Pronunciation

Week 9 Presentation practice and peer evaluation

Week 10 Presentation structure 1 : Structure

Week 11 Presentation practice and peer evaluation

Week 12 Presentation structure 2 : Powerpoint

Week 13 Presentation practice and peer evaluation

Week 14 Individual research for final presentation

Week 15 Final presentation and peer evaluation (1st group)

Week 16 Final presentation and peer evaluation (2nd group)

授業外学習 (予習・復習)

You will be given regular homework that will include preparation for the following class such as preparing for presentations or watching presentations on Youtube or revision of what we have done in class. You should expect the homework to take over four hours to complete each week.

教科書

None - handouts will be given in class

参考書

You will need access to an English dictionary - using your smartphone is ok.

成績の評価基準

Presentations in class 50%

Final Presentation 50%

オフィスアワ -

Anytime is ok, but to be sure mail me.

My official office hour is Tuesday 4th period.

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

None

アクティブ・ラーニング (授業回数)

Every week

備考 (受講要件)

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

英語ライティングb (旧 英語コミュニケーション2B・C)
ナンバリングコード

FHS-CGX2141

科目名

英語ライティングb (旧 英語コミュニケーション2B・C)

英語名

Academic Writing in English b

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3年

担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ コーク	099-285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員	前後期
None	後期

授業概要

You will learn essay structure and how to analyse paragraphs and essays. You will also learn how to use discourse markers and conjunctives effectively. You will be expected to communicate actively with other students about your writing in and outside of the classroom

学修目標

This class is an introduction to academic writing in English concentrating on essay structure for advantages and disadvantages essays, problem and solution essays and opinion essays. Classwork will be divided between discussion and writing. This class will be helpful if you are going to take the 教員採用試験 or IELTS or TOEFL.

授業計画

授業計画

Due to the university's restrictions on talking in the classroom, this class has to be held real-time on Zoom. If there are any changes to this, I will let you know via Manaba.

Week 1 Advantages and disadvantages essays: introduction

Week 2 Advantages and disadvantages essays: organising your essay
Week 3 Advantages and disadvantages essays: writing introductions
Week 4 Advantages and disadvantages essays: writing conclusions

Week 5 Advantages and disadvantages essays: avoiding generalisations
Week 6 Problem and solution essays: introduction

Week 7 Problem and solution essays: organising your essay

Week 8 Problem and solution essays: contrasting ideas

Week 9 Problem and solution essays: writing introductions

Week 10 Problem and solution essays: writing conclusions

Week 11 Opinion essays: introduction

Week 12 Opinion essays: supporting opinions

Week 13 Opinion essays: expressing someone else's opinions

Week 14 Opinion essays: writing introductions and conclusions

Week 15 Essay feedback and test preparation

Week 16 Final test

授業外学習 (予習・復習)

You will be expected to gather information for your essays.

You will be given regular homework that will include preparation for the following class or revision of what we have done in class. You should expect the homework to take over four hours to complete.

教科書
Handouts will be given
参考書
A good dictionary - using your smartphone is ok
成績の評価基準
Homework 75% (You will have three essays to write as homework each worth 25%) Final essay 25%
オフィスアワ -
Anytime is ok, but to be sure mail me. My official office hour is Tuesday 4th period.
アクティブ・ラーニング
グループワーク;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
None
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回
備考 (受講要件)
None
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-DDF4501			
科目名			
卒業科目(メディアと現代文化)			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
太田一郎	099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
櫻井芳生, 宮下正昭, 太田純貴		前期	
授業概要			
各人のテーマに応じた卒論指導を行う			
学修目標			
1. 卒業論文作成に必要な能力、技術を修得する			
2. 卒業論文作成を通して、現代の社会、文化現象の本質への理解を深める			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回~第14回	個々のテーマに応じた助言指導	報告と討論	
第15回	報告と討論		
授業外学習(予習・復習)			
指導教員との綿密な打合せを行うこと			
教科書			
特になし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
提出された論文の評価による			
オフィスアワ -			
各教員に確認すること			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし。			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（比較地域環境）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
小林善仁	099-285-7557		zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
卒業論文の構想から執筆に至る過程、最終的な完成までを指導します。			
学修目標			
卒業論文のテーマの決定。論文作成に足るまでの資料収集とその整理、論理的解釈ができるようにする。最終的には卒業論文を完成させる。			
授業計画			
1．卒業論文完成までのプロセスについて 2．～15．各自の進行状況をみながら、助言、指導をおこなう。			
授業外学習（予習・復習）			
卒業論文完成のために学内、学外での資料収集を積極的におこなうこと。			
教科書			
使いません。			
参考書			
適宜紹介します。			
成績の評価基準			
卒業論文の質を評価します。			
オフィスアワー			
授業・会議の時間以外			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
後期に卒業論文を提出する者			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし。			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4501			
科目名			
卒業科目（メディアと現代文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
太田一郎	099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
櫻井芳生，宮下正昭，太田純貴		後期	
授業概要			
各人のテーマに応じた卒論指導を行う			
学修目標			
1．卒業論文作成に必要な能力、技術を修得する			
2．卒業論文作成を通して、現代の社会，文化現象の本質への理解を深める			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回～第14回	個々のテーマに応じた助言指導		
第15回	報告と討論		
授業外学習（予習・復習）			
指導教員との綿密な打合せを行うこと			
教科書			
特になし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
提出された論文の評価による			
オフィスアワ -			
各教員に確認すること			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（比較地域環境）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
小林善仁	099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
卒論を提出する学生のために登録が必要である。			
学修目標			
比較地域環境コースで卒論を書くものは指導が受けられる。			
授業計画			
卒論指導を順次提示したスケジュールでおこなう。			
授業外学習（予習・復習）			
卒論執筆の準備と調査、執筆が必要			
教科書			
特になし、自分で調べること。			
参考書			
特になし、自分で調べること			
成績の評価基準			
卒論を提出した場合、その卒論を評価する。			
オフィスアワ -			
授業・会議の時間以外			
アクティブ・ラーニング			
フィールドワーク；プレゼンテーション；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし。			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（日本とアジア）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
大田由紀夫	099-285-7560		ota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
卒業論文の執筆と指導			
学修目標			
ゼミ指導教員による指導助言を受け、受講生が第7期までに各自のテーマに従って進めてきた研究を増進し、より完成度の高い卒業論文を作成する。			
授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・指導は、ゼミ指導教員とのマンツーマン、あるいは所属ゼミ単位、あるいは各分野（合同ゼミ）において、適宜行われる。 ・指導の時間帯、期間等はゼミ指導教員との相談の上決定される。 ・指導の目的によっては、学内だけでなく学外での研修を行うこともある。 <ul style="list-style-type: none"> *（例）東洋史・中文ゼミ：11月の霧島合同ゼミ研修合宿。 その他、各ゼミの方針、計画を確認すること。 ・指導は卒業論文提出まで行われる。 ・なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある 			
授業外学習（予習・復習）			
指導を受けて、各自の研究テーマに応じた研究材料の調査検討を行う。			
教科書			
指導教員の指示による。			
参考書			
指導教員の指示による。			
成績の評価基準			
卒業論文をゼミ指導教員を含む複数の教員で審査し、評価する。			
オフィスアワ -			
不定期			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
プレゼンテーション、ディベート、論文作成			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
全て			
備考（受講要件）			
人文学科日本とアジアコース所属の4年生に限る			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし。			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（日本とアジア）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
大田由紀夫	285-7560		ota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
ゼミ指導教員の指導助言に従い卒業論文の作成を行う。			
学修目標			
ゼミ指導教員による指導助言を受け、受講生が第7期までに各自のテーマに従って進めてきた研究を増進し、より完成度の高い卒業論文を作成する。			
授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・指導は、ゼミ指導教員とのマンツーマン、あるいは所属ゼミ単位、あるいは各分野（合同ゼミ）において、適宜行われる。 ・指導の時間帯、期間等はゼミ指導教員との相談の上決定される。 ・指導の目的によっては、学内だけでなく学外での研修を行うこともある。 <ul style="list-style-type: none"> *（例）東洋史・中文ゼミ：11月の霧島合同ゼミ研修合宿。 その他、各ゼミの方針、計画を確認すること。 ・指導は卒業論文提出まで行われる。 			
授業外学習（予習・復習）			
指導を受けて、各自の研究テーマに応じた研究材料の調査検討を行う。			
教科書			
指導教員の指示による。			
参考書			
指導教員の指示による。			
成績の評価基準			
卒業論文をゼミ指導教員を含む複数の教員で審査し、評価する。			
オフィスアワ -			
不定期			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
プレゼンテーション、ディベート、論文作成			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
全て			
備考（受講要件）			
人文学科日本とアジアコース所属の4年生に限る。			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし。			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4101			
科目名			
卒業科目（ヨーロッパ・アメリカ文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
柴田健志	285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
卒業論文作成の指導			
学修目標			
卒業論文の作成			
授業計画			
卒業論文作成にあたって随時			
対面			
授業外学習（予習・復習）			
自分の研究テーマに関する文献調査および論文の執筆			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
1) テーマが明確に設定されていること			
2) 論旨が明確であること			
3) 文献が的確に参照されていること			
オフィスアワ -			
月曜・3限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
卒業予定の学生			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし。			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4101			
科目名			
卒業科目（ヨーロッパ・アメリカ文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
柴田健志	285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
卒業論文作成の指導			
学修目標			
卒業論文の作成			
授業計画			
卒業論文作成にあたって随時 対面			
授業外学習（予習・復習）			
自分の研究テーマに関する文献調査および論文の執筆			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
1) テーマが明確に設定されていること 2) 論旨が明確であること 3) 文献が的確に参照されていること			
オフィスアワ -			
月曜・3限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
該当なし			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
卒業予定の学生			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし。			

ナンバリングコード			
FHS-CGX4001			
科目名			
卒業論文（多元地域文化コース）			
英語名			
Dissertation			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
多元地域文化コース長	指導教員によって指示される。		指導教員によって指示される。
共同担当教員		前後期	
指導教員		前期	
授業概要			
<p>本授業の目的は、これまでの学習を踏まえて自ら設定した研究テーマを探究し、卒業論文を作成するまでの過程を通して、人文学の知識を適切に生かすための実践的判断力や論理的思考及び論文作成法等を修得することである。</p> <p>授業内容は、まず、人文学に関するこれまでの学習成果を基に自ら研究テーマを設定し、次に、研究テーマとなった問題の解決のために、文献調査、資料調査、フィールドワーク等を用いてデータを収集し、客観的な推論によって分析し、結論を得て、論文としてまとめることである。また、研究に付随する倫理的問題とその配慮の方法とプレゼンテーションの方法についても学習する。授業では、指導教員との綿密な打ち合わせやゼミでの討論等を通して、卒業論文を作成し、口頭試問または卒論発表会にて成果を公表する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文のテーマにかかる先行研究の概要を説明することができる。 2. 研究目的に必要な資料やデータを自分で収集し、それを適切に分析することができる。 3. 卒業論文作成を通して得た知識や知見を説明することができる。 4. 言語表現を含めて、論文作成上の基本的な作法を習得する。 			
授業計画			
<p>卒業論文は学生が主体的に実施することから、時間割に記載される以外の多くの時間において行うことになる。そのため15週の授業計画を示すことはできない。しかし、その全体のなかには以下のような内容が含まれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定 2. 研究に必要な調査・分析 3. 中間発表会とディスカッション 4. 論文の作成 5. 卒業論文初稿の提出と内容・文体の修正 6. 口頭試問または卒業論文発表会 			
授業外学習（予習・復習）			
<p>上述の通り、卒業論文は学生が主体的に実施することが必須であることから、「予習」と「復習」を別けて示すことはできない。指導教員の指示に従って、研究についての理解を深めておくこと。</p>			
教科書			
担当教員が適宜指示する。			
参考書			
担当教員が適宜指示する。			
成績の評価基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文のテーマは論文の内容にたいして適切であるか。 2. 卒業論文で取り上げられている資料やデータは適切に扱われているか。 3. 卒業論文の論の運びは客観的で説得的なものとなっているか。 4. 卒業論文の言語表現は適切なものとなっているか。 5. 卒業論文作成の過程の作業は適切かつ十分なものであるか。 <p>以上の諸点に基づいて共同担当教員との合議のうえ総合的に評価する。</p>			

オフィスアワ -

指導教員によって指示される。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

卒業論文の内容によっては論文のプレゼンテーション以外にも資料調査、文献研究、フィールドワークなどを行う場合がある。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

すべて

備考（受講要件）

多元地域文化コース所属の学生で、9月卒業希望者に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX4001			
科目名			
卒業論文（多元地域文化コース）			
英語名			
Dissertation			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
多元地域文化コース長	指導教員によって指示される。		指導教員によって指示される。
共同担当教員		前後期	
指導教員		後期	
授業概要			
<p>本授業の目的は、これまでの学習を踏まえて自ら設定した研究テーマを探究し、卒業論文を作成するまでの過程を通して、人文学の知識を適切に生かすための実践的判断力や論理的思考及び論文作成法等を修得することである。</p> <p>授業内容は、まず、人文学に関するこれまでの学習成果を基に自ら研究テーマを設定し、次に、研究テーマとなった問題の解決のために、文献調査、資料調査、フィールドワーク等を用いてデータを収集し、客観的な推論によって分析し、結論を得て、論文としてまとめることである。また、研究に付随する倫理的問題とその配慮の方法とプレゼンテーションの方法についても学習する。授業では、指導教員との綿密な打ち合わせやゼミでの討論等を通して、卒業論文を作成し、口頭試問または卒論発表会にて成果を公表する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文のテーマにかかる先行研究の概要を説明することができる。 2. 研究目的に必要な資料やデータを自分で収集し、それを適切に分析することができる。 3. 卒業論文作成を通して得た知識や知見を説明することができる。 4. 言語表現を含めて、論文作成上の基本的な作法を習得する。 			
授業計画			
<p>卒業論文は学生が主体的に実施することから、時間割に記載される以外の多くの時間において行うことになる。そのため15週の授業計画を示すことはできない。しかし、その全体のなかには以下のような内容が含まれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定 2. 研究に必要な調査・分析 3. 中間発表会とディスカッション 4. 論文の作成 5. 卒業論文初稿の提出と内容・文体の修正 6. 口頭試問または卒業論文発表会 			
授業外学習（予習・復習）			
<p>上述の通り、卒業論文は学生が主体的に実施することが必須であることから、「予習」と「復習」を別けて示すことはできない。指導教員の指示に従って、研究についての理解を深めておくこと。</p>			
教科書			
担当教員が適宜指示する。			
参考書			
担当教員が適宜指示する。			
成績の評価基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文のテーマは論文の内容にたいして適切であるか。 2. 卒業論文で取り上げられている資料やデータは適切に扱われているか。 3. 卒業論文の論の運びは客観的で説得的なものとなっているか。 4. 卒業論文の言語表現は適切なものとなっているか。 5. 卒業論文作成の過程の作業は適切かつ十分なものであるか。 <p>以上の諸点に基づいて共同担当教員との合議のうえ総合的に評価する。</p>			
オフィスアワ -			

指導教員によって指示される。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

卒業論文の内容によっては論文のプレゼンテーション以外にも資料調査、文献研究、フィールドワークなどを行う場合があります。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

すべて

備考（受講要件）

多元地域文化コース所属の学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

英語オーラルc (旧 英語コミュニケーション1D)
ナンバリングコード

FHS-CGX2142

科目名

英語オーラルc (旧 英語コミュニケーション1D)

英語名

Oral English c

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ コーダ		099-285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
None		前期	

授業概要

This is an upper-intermediate course that will teach you how to give presentations in English. The course will follow a pattern of lecture/activities one week, followed by presentations the next week. You will be expected to make about 6 presentations throughout the course. For the test, the class will be split into two halves, the 1st group will present the first week. The 2nd group will present the second week.

学修目標

This course aims to build your confidence in using real English. You will be able to learn how to give an effective presentation. The skills that you learn you will be able to use when you give presentations in Japanese too.

授業計画

Due to the university's restrictions on talking in the classroom, this class has to be held real-time on Zoom. If there are any changes to this, I will let you know via Manaba.

Week 1 Introduction

Week 2 Physical aspects of presentations 1 : Posture and eye contact

Week 3 Presentation practice and peer evaluation

Week 4 Physical aspects of presentations 2 : Gestures

Week 5 Presentation practice and peer evaluation

Week 6 Oral aspects of presentations 1 : Voice inflection

Week 7 Presentation practice and peer evaluation

Week 8 Oral aspects of presentations 2 : Pronunciation

Week 9 Presentation practice and peer evaluation

Week 10 Presentation structure 1 : Structure

Week 11 Presentation practice and peer evaluation

Week 12 Presentation structure 2 : Powerpoint

Week 13 Presentation practice and peer evaluation

Week 14 Individual research for final presentation

Week 15 Final presentation and peer evaluation (1st group)

Week 16 Final presentation and peer evaluation (2nd group)

授業外学習 (予習・復習)

You will be given regular homework that will include preparation for the following class such as preparing for presentations or watching presentations on Youtube or revision of what we have done in class. You should expect the homework to take over four hours to complete each week.

教科書

Handouts will be given

参考書

Bring your dictionaries!

成績の評価基準

Presentations in class 50%

Final Presentation 50%

オフィスアワ -

Anytime is ok, but to be sure mail me.

My official office hour is Tuesday 4th period.

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

None

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中 15回

備考 (受講要件)

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

英語ライティングc (旧 英語コミュニケーション2D)
ナンバリングコード

FHS-CGX2141

科目名

英語ライティングc (旧 英語コミュニケーション2D)

英語名

Academic Writing in English c

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ コダ

099-285-7573

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

None

後期

授業概要

You will learn essay structure and how to analyse paragraphs and essays. You will also learn how to use discourse markers and conjunctives effectively. You will be expected to communicate actively with other students about your writing in and outside of the classroom

学修目標

This class is an introduction to academic writing in English concentrating on essay structure for advantages and disadvantages essays, problem and solution essays and opinion essays. Classwork will be divided between discussion and writing. This class will be helpful if you are going to take the 教員採用試験 or IELTS or TOEFL.

授業計画

授業計画

Due to the university's restrictions on talking in the classroom, this class has to be held real-time on Zoom. If there are any changes to this, I will let you know via Manaba.

Week 1 Advantages and disadvantages essays: introduction

Week 2 Advantages and disadvantages essays: organising your essay Week 3 Advantages and

disadvantages essays: writing introductions Week 4 Advantages and disadvantages essays: writing conclusions

Week 5 Advantages and disadvantages essays: avoiding generalisations Week 6 Problem and solution essays: introduction

Week 7 Problem and solution essays: organising your essay

Week 8 Problem and solution essays: contrasting ideas

Week 9 Problem and solution essays: writing introductions

Week 10 Problem and solution essays: writing conclusions

Week 11 Opinion essays: introduction

Week 12 Opinion essays: supporting opinions

Week 13 Opinion essays: expressing someone else's opinions

Week 14 Opinion essays: writing introductions and conclusions

Week 15 Essay feedback and test preparation

Week 16 Final test

授業外学習 (予習・復習)

You will be expected to gather information for your essays.

You will be given regular homework that will include preparation for the following class or revision of what we have done in class. You should expect the homework to take over four hours to complete.

教科書
Handouts will be given
参考書
Bring your dictionaries!
成績の評価基準
Homework 75% (You will have three essays to write as homework each worth 25%) Final essay 25%
オフィスアワ -
Anytime is ok, but mail me to be on the safe side.
アクティブ・ラーニング
グループワーク;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
None
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回
備考 (受講要件)
None
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード			
FHSCGX4601			
科目名			
博物館実習			
英語名			
Museum Management Practicum			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
学芸員科目	実習	3単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎	099-285-7539		watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
博物館における実習とその事前事後指導を行う。			
学修目標			
博物館学芸員として必要な知識や技能などを修得する。			
授業計画			
第1・2回：事前指導 第3～14回：見学実習 第15～26回：学内実習 第27回：館園実習事前指導 第28～42回：館園実習 第43回：館園実習事後指導 第44・45回：事後指導 (対面と遠隔のブレンド)			
授業外学習 (予習・復習)			
実習する各博物館の指示。			
教科書			
適宜指示 (実習する各博物館の指示)			
参考書			
適宜指示 (実習する各博物館の指示)			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (30%) とレポート (20%) および実習館の評価 (50%) に基づき総合的に評価。			
オフィスアワ -			
月曜3限目 (12:50～14:20)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; フィールドワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
実際の博物館業務を実践する。			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
40回			
備考 (受講要件)			
本授業は平成24年度以降入生のみ受講可。			
実務経験のある教員による実践的授業			
各博物館の学芸員により実務的な指導を受ける。			

ナンバリングコード

FHS-CGX2218

科目名

アジア歴史・文化演習C1(旧 アジア史演習2)

英語名

Asian History & Culture C1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~3年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

大田由紀夫、福永善隆

大田(099-285-7560)、福永(
099-285-7561)大田(ota@leh.kagoshima-u.ac.jp
)、福永(
fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp)

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

テーマ: アジア史研究入門(課題提出型+オンデマンド配信遠隔授業)

本授業では、アジア史研究とはいかなる分野であり、現在そこでどんな研究が行われているのかを、初歩的な研究文献の読解・映像資料の鑑賞などを通して学ぶ。

学修目標

アジア史研究という分野に対する理解を深めていくと共に、とくに日本・中国を含めた東アジアの歴史に関する基礎的知識を獲得する。

授業計画

各回はすべて対面授業の予定。なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は 変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知します。

- 第1回 ガイダンス(福永・大田)
 第2回 近世編(1) ビデオ鑑賞(大田)
 第3回 近世編(2) なぜ世界史を学ぶのか?(大田)
 第4回 近世編(3) 古代: 古代の文明・帝国と地域世界の形成(大田)
 第5回 近世編(4) 中世: 地域世界の再編(大田)
 第6回 近世編(5) 近世(1): 海陸の交流(大田)
 第7回 近世編(6) 近世(2): 近世世界の始まり(大田)
 第8回 近世編(7) 近世(3): 大航海時代(大田)
 第9回: 古代中世編? 古代中世編ガイダンス(福永)
 第10回: 古代中世編? 『史記』と司馬遷(福永)
 第11回: 古代中世編? 『春秋』の虚実(福永)
 第12回: 古代中世編? 『史記』の成立(福永)
 第13回: 古代中世編? 「正史」の形成と展開(福永)
 第14回: 古代中世編? 「正史」の論理(福永)
 第15回: 古代中世編? 歴史書と中国社会(福永)

授業外学習(予習・復習)

演習で学習する文献について事前に予習しておくことが望ましい(2時間)。また、配布資料をもとに学習した部分について復習することが望ましい(2時間)。

教科書

大阪大学歴史研究会編『市民のための世界史』(大阪大学出版会、2014)、竹内康浩『「正史」はいかに書かれてきたか』(大修館書店、2002年)。

参考書

授業において適宜指示する。

成績の評価基準

演習における学習態度(20%)、発表内容(30%)、質疑応答(30%)、授業内容理解(20%)などから総合評

価する。	
	オフィスアワ -
木曜12時～12時50分	
	アクティブ・ラーニング
ディベート; プレゼンテーション;	
	アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし。	
	アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中13回	
	備考 (受講要件)
特になし。	
	実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。	

ナンバリングコード			
FHS-CGX2110			
科目名			
アジア言語研究B (旧 中国語学)			
英語名			
Asian Linguistics B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三木夏華		0992857525 (学生係)	hgakusei@leh.kagoshima-u.ac.jp (学生係)
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
前期に引き、一年以上中国語を履修した受講生を対象とし、明清時代の中国白話文献資料を実際に読むことにより、古代漢語の語法の特徴を明らかにしたい。			
学修目標			
(1)白話資料の原文に慣れ親しむ。 (2)近代漢語から現代中国語までの語法の変化について、基本的な知識を習得する。			
授業計画			
この授業はオンライン(オンデマンド動画視聴・課題提出)で行う。			
第1回 ガイダンス(講義の進め方)(オンデマンド)			
第2回 講義「明代白話小説と漢語」(オンデマンド)			
第3回 『金瓶梅』1(課題提出)			
第4回 『金瓶梅』2(課題提出)			
第5回 『金瓶梅』3(課題提出)			
第6回 講義「水滸伝について」(オンデマンド)			
第7回 『水滸伝』1(課題提出)			
第8回 『水滸伝』2(課題提出)			
第9回 『水滸伝』3(課題提出)			
第12回 講義「紅楼夢について」(オンデマンド)			
第13回 『紅楼夢』1(課題提出)			
第14回 『紅楼夢』2(課題提出)			
第15回 『紅楼夢』3(課題提出)			
第16回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
予習】課題レポートに取り組む前に必ずオンデマンド講義を視聴し、メモをとること。 【復習】オンデマンド講義の内容をヒントに課題のテキスト本文を和訳すること (学習に係る標準時間は4時間)。			
教科書			
随時紹介する。			
参考書			
随時紹介する。			
成績の評価基準			

課題レポート100%(レポートからオンデマンド講義未受講であることが明らかになった場合、減点対象となるので注意すること)。

オフィスアワ -

木曜日 2 限

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

16回中 2 回

備考(受講要件)

1年以上の中国語の学習経験を必要とする。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2152

科目名

哲学演習 B 1 (旧 西洋の人間と思想 B 演習)

英語名

Western Philosophy B1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

近藤和敬

099-285-8910

kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

「集合表象」概念をめぐるフランス哲学の自然主義の系譜について明らかにし、その現代的な再解釈の可能性を模索する。

学修目標

1. 本授業で扱う研究課題(「集合表象」概念をめぐるフランス哲学の自然主義の系譜の解明とその現代的再解釈の試み)について理解すること。
2. 理解した研究課題に沿って、文献を選択し、文献内容を理解すること。
3. 理解した文献内容をもとに、研究課題に関連する報告を行えること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 研究計画を理解するためのいくつかの前提知識について
3. 「集合表象」概念とは何か デュルケム、モース、レヴィ=ブリュル
4. フランス哲学の自然主義の歴史??19世紀:実証主義、スペンサー主義、ベルクソン
5. フランス哲学の自然主義の歴史??20世紀:スペンサー批判から人間科学、ドゥルーズ
6. 関連文献の紹介と報告する文献の選択
7. 「集合表象」概念のいくつかの歴史的展開 1??社会学・人類学
8. 「集合表象」概念のいくつかの歴史的展開 2??精神分析・神話学
9. 現代的再解釈のための文脈の提示??トマセロによる文化進化の議論
10. 発表者による報告 1
11. 発表者による報告 2
12. 発表者による報告 3
13. 発表者による報告 4
14. 発表者による報告 5
15. まとめと課題

対面授業ができれば対面でやりますが、状況によってはオンデマンド型に切り替える可能性があります。

授業外学習(予習・復習)

第6回のときに、報告する文献を選択してもらい、第10回から順次一人一回報告をしてもらいます。授業であたった担当者は、該当箇所を読むのに必要と思われる資料を調べ、報告してもらいます。予習1時間、復習1時間。

教科書

なし

参考書

授業中に適宜指示する。

成績の評価基準

・授業で資料報告を担当(30%)
評価基準:資料の関連性、説明の適切性、発表全体の構成

・期末のレポート (70%)

評価基準: 1) 主題設定の適切さ、2) 文章の説得力、3) 日本語の正しさ、4) 追加資料の有無

期末のレポートは、報告内容を文章でまとめなおしたものとなります。

オフィスアワ -

随時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

すべて

備考 (受講要件)

哲学概論あるいは倫理学概説を受講した (あるいは受講中) であることが望ましいです。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2108			
科目名			
日本語学研究B (旧 日本語構造論)			
英語名			
Japanese Linguistics B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
梅崎光		099-285-7525 (法文学部学生係)	授業における配布資料参照。あるいは、 hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係) 経由。
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
日本語文法史の基本的なテーマについて理解することを目的として、教科書の内容に沿って授業する。			
学修目標			
過去の日本語に関する事実を正確に記述できる。 過去の日本語を研究する手続きを正確に説明できる。			
授業計画			
*9月1日現在の予定では、本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、COVID-19事態に応じて遠隔授業に変更される可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
各回概ね以下のような順序で行う予定である。受講者の理解度等に応じて若干の伸び縮みや内容変更があると予めご承知おきいただきたい。			
第1回：活用			
第2回：格			
第3回：ヴォイス			
第4回：アスペクト・テンス			
第5回：モダリティ			
第6回：感動表現・希望表現			
第7回：係り結び			
第8回：とりたて			
第9回：準体句			
第10回：条件表現			
第11回：待遇表現			
第12回：ダイクシス			
第13回：談話・テキスト			
第14回：文法史と方言			
第15回：総括			
第16回：期末試験			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の前に教科書を熟読する(学習に関わる標準的時間は約2時間)。 ・ 授業の前に配布資料(manabaでファイルを公開)を各自印刷する。 ・ 教科書、授業で配布した資料、授業中の筆記をもとに授業内容を復習する(標準的時間は2時間)。 			
教科書			
高山善行/青木博史:編 『ガイドブック日本語文法史』ひつじ書房、2010年			
参考書			

授業中に適宜示す。

成績の評価基準

期末試験(100%)。なお、期末試験が実施できない状況となった場合、期末レポート(100%)に変更する可能性がある。変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

オフィスアワ -

授業における配布資料参照。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

日本語学概説AおよびBの単位を修得済みであることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)
ナンバリングコード

FHS-CGX2220

科目名

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)

英語名

Western History & Culture B1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
藤内哲也		099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

本演習では、中世から近世にかけてのヨーロッパ史に関する史料や文献を読んで、歴史研究における問題の立て方や論の進め方などを理解するとともに、西洋史研究の面白さと難しさを味わうことを主眼とし、おもに英語の論文をテキストとして、その読解を進めていきます。

学修目標

1. ヨーロッパの歴史研究の視点や問題意識を身につけることができる
2. ヨーロッパの歴史研究に必要な英語 (外国語) 文献の読解力を向上させることができる
3. レジユメの作成や、報告、討論などのスキルを向上させることができる

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行います。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業中に通知します。

- 第1回 オリエンテーション・テキスト決定
- 第2回 テキスト配布・英語論文の読み方・文献検索の方法
- 第3回 英語論文を読む(1): 1 2頁
- 第4回 英語論文を読む(2): 3 4頁
- 第5回 英語論文を読む(3): 5 6頁
- 第6回 英語論文を読む(4): 7 8頁
- 第7回 英語論文を読む(5): 9 10頁
- 第8回 英語論文を読む(6): 11 12頁
- 第9回 英語論文を読む(7): 13 14頁
- 第10回 英語論文を読む(8): 15 16頁
- 第11回 英語論文を読む(9): 17 18頁
- 第12回 英語論文を読む(10): 19 20頁
- 第13回 英語論文を読む(11): 21 22頁
- 第14回 英語論文を読む(12): まとめ
- 第15回 英文読解の課題と展望

授業外学習 (予習・復習)

【予習】テキストを読み、疑問点などをまとめます。英語訳史料の場合には、テキストを読み、分からない単語や文法、用語などについて調べ、日本語訳を考えます。

【復習】テキストや討論の内容についてまとめます。また、参考文献を読んで、さらに理解を深めます。

教科書

とくに指定しません。適宜プリントを配布します

参考書

服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年
井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年
このほかの文献については、授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

テキストの読解と授業への積極的な参加(予習・発表・討論など): 60%

期末レポート(テキストのまとめと批判・考察): 40%

オフィスアワ -

金曜4限(事前にメールでアポを取ること)

アクティブ・ラーニング

ディベート; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

英文解釈の発表

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

とくになし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション)
ナンバリングコード

FHS-CGX2149

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション)

英語名

German Language & Culture 1a

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
與倉アンドレーア		099-285-7578	yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

1. テーマ：演習中心のドイツ語中級会話
2. 簡単なドイツ語を聞くと同時に話す能力を修得することを、第一の目標とする。そのために、ドイツ語の発音と文法の基本的知識を教授する。
3. これと平行して、受講者にはドイツ語圏における国々の現在の生活に関する展望を紹介する。

学修目標

1. ドイツ語を聞く中級程度の能力を身につける。
2. ドイツ語でコミュニケーションすることができる。
3. ドイツ語による原典からの教材を読む能力を身につける。
4. ドイツ語圏における国々の現在の生活を展望し、ドイツ文化に関する情報を入手できる。

授業計画

授業形態は対面授業になります。

- 1回：オリエンテーション
- 2回：「贈り物と招待」いつ誰に何を贈るかを話す、など
- 3回：「贈り物と招待」ドイツ語圏のお誕生日、など
- 4回：「贈り物と招待」人称代名詞3・4格、不定冠詞4格、など
- 5回：「履歴と学校制度」教育制度について話す、など
- 6回：「履歴と学校制度」中学・高校時代のことを話す、など
- 7回：「履歴と学校制度」話法の助動詞、完了形、副文、など
- 8回：「ゴミと環境」ゴミ処理の仕方を尋ねる・教える、など
- 9回：「ゴミと環境」ドイツ語圏の学校の環境プロジェクト、など
- 10回：「ゴミと環境」話法の助動詞sollen、命令形、など
- 11回：「祝祭と祝日」イースター、クリスマスについて話す、など
- 12回：「祝祭と祝日」年末、カーニバルについて話す、など
- 13回：「祝祭と祝日」再帰動詞、副文、など
- 14回：クリスマスクッキー、zu不定詞、など
- 15回：新年の幸福とシンボル、及び期末試験のための復習など、
- 16回：期末試験

*尚、新型コロナ感染拡大の状況次第で、授業日程の変更や遠隔授業になることもあり得ます。

授業外学習 (予習・復習)

予習：毎回の授業 (ただし、初回はmanabaに掲載する) で提示される資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は2時間)

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は2時間)

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。
成績の評価基準
中間試験（聴力テスト）、小テスト、5～10分程度の発表（1回）、定期的な日記、および期末試験に基づき、総合的に評価する。
オフィスアワー
月曜日3限目（12:50～14:20）
アクティブ・ラーニング
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
該当なし。
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回
備考（受講要件）
?通教育科目「第2外国語コア」としてドイツ語の単位を取得していること。 ?ドイツ語圏の諸国またはドイツ語に大きな関心を持っていることが望ましい。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2140

科目名

アメリカ文学演習 1 (旧 アメリカ文学演習)

英語名

American Literature 1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

竹内勝徳

連絡先 (TEL)

985-8874

連絡先 (MAIL)

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

ラルフ・ウォルド・エマソンの『自然論』を精読し、資料や文献を参照して作品を解釈する。毎回の授業で発表の割り当てを行い、レジュメを準備して翻訳を発表すると共に、その箇所についての解釈を提示する。また、その発表について全体でディスカッションを行う。

学修目標

エマソンの作品を精読することをテーマとする。到達目標は以下のとおりである。(1) エマソンとロマンティズム文学の特質について理解する。(2) 作品に表れた時代背景やアメリカ社会・文化の特徴について理解を深める。(3) 精読を行うことで英語の読解力を向上させる。(4) 作品の解釈を通して批判的な思考力を高める。(5) 資料を駆使して解釈を行い、レポートを作成することで情報処理能力と分析力を向上させる。

授業計画

授業は基本的に毎回対面で行う。

第1回 エマソン文学の全体像と資料の紹介

第2回 『自然論』 精読 資本主義との関連性

第3回 『自然論』 精読 劇場文化との関連

第4回 『自然論』 精読 言語的特質

第5回 『自然論』 精読 法律と言語

第6回 『自然論』 精読 声と身体

第7回 『自然論』 精読 身体の対立性

第8回 『自然論』 精読 アフェクトについて

第9回 『自然論』 精読 アフェクトと言語

第10回 『自然論』 精読 政治性

第11回 『自然論』 精読 エマソンの芸術観

第12回 『自然論』 精読 エマソンの想像力

第13回 『自然論』 精読 ソローとの差異

第14回 『自然論』 精読 想像力と対象物

第15回 総括

レポート提出

授業外学習 (予習・復習)

毎週合計4時間要する。全員が確実にテキストを読んでから授業に参加し、授業中の指摘や翻訳の修正点について復習しておくことが求められる。

教科書

プリントを配布。

参考書

授業中に指示。

成績の評価基準

試験50%、小レポート25%、コメント25%の割合で成績評価を行う。

オフィスアワー

月曜の昼休み。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

ディスカッションでアクティブ・ラーニングを行う。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回。

備考 (受講要件)

英語力の向上に意欲を持っていること。

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)
ナンバリングコード

FHS-CGX2219

科目名

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)

英語名

Western History & Culture A1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
細川道久		099-285-7525 (法文学部学生係)	hos leh.kagoshima-u.ac.jp は アットマーク
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

zoomを使った遠隔リアルタイム型授業に変更する予定です。

【従来の授業とは、方法が異なりますので、注意してください。】

本授業では、1) 学術論文の個人発表、2) カナダ/イギリス帝国の歴史に関する英語文献の講読、の2つを行なう予定です。1) では、各自が学術論文(近現代(19世紀以降)の西洋史、あるいは地域研究に関する学術論文(日本語論文))を選び、その内容についてレジュメを作成して報告し、それに基づき討論を行ないます。1人が2本の論文を担当する予定です。2) では、英語文献につき、担当箇所の訳文と要約の作成に加えて、関連事項について調べた内容も含めたレジュメも作成し報告します。(「成績評価基準」にも記していますが、「翻訳ソフトを使用したことが発覚した場合は成績評価を「不可」とします。)1)と2)を並行して実施する予定ですが、受講状況によっては、1)だけになる可能性になることをあらかじめ断っておきます(第2～3回の授業時に方針を決定する予定です)

学修目標

1. 学術論文の読解力を高めると同時に、レポート作成、報告、討論の能力を養う。
2. 英語文献の読解力を高める。
3. 歴史学(西洋史学)・地域研究全般に対する関心を深める。

授業計画

zoomを使った遠隔リアルタイム型授業に変更する予定です。

- 第1回 授業全般についてのガイダンス
- 第2回 西洋史研究資料検索などについてのガイダンス
- 第3回 学術論文・報告、討論・英語文献読解(1)
- 第4回 学術論文報告、討論・英語文献読解(2)
- 第5回 学術論文報告、討論・英語文献読解(3)
- 第6回 学術論文報告、討論・英語文献読解(4)
- 第7回 学術論文報告、討論・英語文献読解(5)
- 第8回 学術論文報告、討論・英語文献読解(6)
- 第9回 学術論文報告、討論・英語文献読解(7)
- 第10回 学術論文報告、討論・英語文献読解(8)
- 第11回 学術論文報告、討論・英語文献読解(9)
- 第12回 学術論文報告、討論・英語文献読解(10)
- 第13回 学術論文報告、討論・英語文献読解(11)
- 第14回 学術論文報告、討論・英語文献読解(12)
- 第15回 総括

授業外学習(予習・復習)

学術論文を検索・読解し、レジュメ作成する。そのうえで、報告に向けた十分に行なうこと。自分の報告はもとより、他の受講者の報告内容についても、配布資料や参考文献などで復習しておくことが望ましい。また、英語

文献読解では、担当箇所の訳文と要約の作成に加えて、関連事項について調べた内容も含めたレジュメも作成し、報告に備える。予習・復習に要する時間は、標準的にはそれぞれ1時間。

教科書

特に指定なし。

参考書

授業時に適宜紹介する。

成績の評価基準

報告・質疑応答・英語文献読解など、授業への取り組み状況(100%：出席が前提の授業であるため、自分の担当がないときでも、欠席は減点になる。特に無断欠席に対してはきびしく対処する)。また、英語文献読解では、「翻訳ソフトを使用したことが発覚した場合は成績評価を「不可」とします。)

オフィスアワ -

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「西洋の歴史と社会演習A1」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2227			
科目名			
考古学演習 1 b (旧 考古学演習)			
英語名			
Archaeology 1b			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
考古学研究にかかわる基礎作業を実践することで、考古資料の取り扱い方や分析方法、表現方法を身につけることを目的とする。発表担当者はレジュメや図面・映像資料を作成して発表する。発表内容や発表方法に対して全員で議論し、理解を深める。			
学修目標			
1) 考古学の基礎知識・方法論の使い方を実践的に学ぶことで、卒業論文に取り組む準備をすすめる。 2) 文章表現だけでなく、図面資料(地図、実測図、グラフなど)や映像資料(パワーポイントなど)を活用して成果をまとめることで、情報やデータを可視化するスキルを学び、自分の考えを効果的に表現する技能を修得する。 3) 自分の身近な歴史を説明できるようになる。			
授業計画			
授業は対面形式で実施予定。ただし、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス 第2回 文献の選定、発表の分担 第3回 学生の発表と議論(1) 第4回 学生の発表と議論(2) 第5回 学生の発表と議論(3) 第6回 学生の発表と議論(4) 第7回 学生の発表と議論(5) 第8回 学生の発表と議論(6) 第9回 学生の発表と議論(7) 第10回 学生の発表と議論(8) 第11回 学生の発表と議論(9) 第12回 学生の発表と議論(10) 第13回 学生の発表と議論(11) 第14回 学生の発表と議論(12) 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
予習: 文献の読解、資料収集、図面や発表資料の作成などを行う。標準的時間は2時間。 復習: 発表や議論の内容を振り返り、学習内容を復習する。標準的時間は2時間。			
教科書			
関連文献や資料を授業内で指示、配布する。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			

発表内容(発表資料のまとめかた、発表方法など: 60%)と授業にのぞむ姿勢(事前学習、質疑応答、授業中の発言など: 40%)を評価の基準とする。

オフィスアワ -

授業時間終了後30分(12:00~12:30)。manabaの「個別指導」、E-mail(ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp)、法文学部1号館4階でも随時受け付けます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない。

ナンバリングコード

FHS-CGX2216

科目名

アジア歴史・文化演習 A 1 (旧 アジア史演習3)

英語名

Asian History & Culture A1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

福永善隆

連絡先 (TEL)

099 (285) 7561

連絡先 (MAIL)

fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

テーマ：『史記』講読

『史記』は中国歴代王朝で編纂された正史のうち、最初のものである。その形式は以降の歴代正史に継承されている。本演習ではその漢代に関する部分の講読を通じ、司馬遷の歴史観などについて分析を行う予定である。なお、講読箇所については変更する場合もありうる。

学修目標

- 1) 基礎的な漢文読解能力を身につける
- 2) 中国古代に関する基礎知識を身につける
- 3) 史料講読を通して、中国史の基礎的な分析視角を身につける

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：『史記』講読及び史料分析(1) テキスト553頁

第3回：『史記』講読及び史料分析(2) テキスト554-555頁

第4回：『史記』講読及び史料分析(3) テキスト556頁

第5回：『史記』講読及び史料分析(4) テキスト557頁

第6回：『史記』講読及び史料分析(5) テキスト558頁

第7回：『史記』講読及び史料分析(6) テキスト559頁

第8回：『史記』講読及び史料分析(7) テキスト560頁

第9回：『史記』講読及び史料分析(8) テキスト561頁

第10回：『史記』講読及び史料分析(9) テキスト562-563頁

第11回：『史記』講読及び史料分析(10) テキスト565頁

第12回：『史記』講読及び史料分析(11)-テキスト567頁

第13回：『史記』講読及び史料分析(12) テキスト568頁

第14回：『史記』講読及び史料分析(13) テキスト569頁

第15回：総括

感染の拡大状況にもよるが、対面で実施する予定。

授業外学習 (予習・復習)

(予習) 授業中に指示する該当箇所を訓読及び現代日本語訳してこること (180分程度)。

(復習) 授業中に挙げる参考文献を読むことを推奨する (60分程度)。

教科書

『史記会註考証』(上海古籍出版社、2015年)、授業中にコピーを配布する。

参考書

西嶋定生『秦漢帝国』(講談社、1997年)

その他、授業時間中に適宜指示する

成績の評価基準

授業における質疑応答 (70%)、レポート (30%)

オフィスアワ -

月曜3限(13:00~14:20)。事前にメールなどでアポイントをとること。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

必ず辞書を持参のこと。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2212

科目名

考古学研究C (旧 考古学地域論)

英語名

Archaeology C

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

中村直子

連絡先 (TEL)

099-285-7270

連絡先 (MAIL)

k8315479@kada i . jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

須恵器は、4世紀終わりに日本列島ではじめて開始された本格的窯業技術である。古墳時代には、各地首長の古墳祭祀の道具として急速に全国に普及し、古代には役所や寺院での祭祀具や給食食器、貯蔵具として主に使用された。南九州での須恵器生産の開始は、8世紀後半になるが、これは南九州への律令体制の波及と連動し、須恵器の普及と須恵器生産の開始は、古墳時代の南九州の社会的状況が反映されている。

本授業では、南九州の須恵器の普及と須恵器生産遺跡から、南九州での初期的窯業生産の状況を解説する。

学修目標

- (1) 須恵器の製作技術や土器との違いについて説明できる。
- (2) 須恵器の種類と変遷について説明できる。
- (3) 南九州の古墳時代の須恵器の出土状況について説明できる。
- (4) 南九州における須恵器生産遺跡について説明できる。
- (5) 南九州・南西諸島における古代須恵器の分布状況について説明できる。

授業計画

本授業は、毎回オンデマンド形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回：オリエンテーション

第2回：古墳時代・古代の時期区分と地域区分

第3回：須恵器と土器の製作技術とその違い

第4回：須恵器の形式

第5回：須恵器の編年

第6回：古墳時代の須恵器生産

第7回：南九州古墳時代の須恵器の出土状況

第8回：九州における須恵器生産の状況

第9回：九州における須恵器生産の事例 牛頸窯跡

第10回：南九州の須恵器窯跡 鶴峯窯跡

第11回：南九州の須恵器窯跡 岡野窯跡

第12回：南九州の須恵器窯跡 中岳山麓窯跡群

第13回：南九州から南西諸島の古代須恵器の分布状況

第14回：南九州における古代社会と須恵器生産

第15回：南九州における須恵器生産の様相

第16回：期末試験

授業外学習 (予習・復習)

予めmanabaに掲載された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約2時間)。授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復讐を行う (標準的時間は2時間)。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

担当教員が適宜指示する。
成績の評価基準
manabaでの毎回のコメントと小テスト (70%)、期末レポート (30%) で評価する。
オフィスアワ -
火曜日 1 限授業終了後30分。質問などあれば、manabaの個別指導やe-mailで随時受け付けます。
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ; その他;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
教員からの発問を受けての思考・回答
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回
備考 (受講要件)
最新の研究成果や発掘調査情報を随時取り入れるため、当初の講義内容を変更する場合がある。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2210			
科目名			
考古学研究A (旧 物質文化研究)			
英語名			
Archaeology A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
豊臣秀吉の朝鮮出兵 (1592-98年) の際に連れてこられた朝鮮陶工たちによって始まった薩摩焼は、その後、多種多様な陶磁器を生産する。本講義では、近年の考古学的成果を元にして、近世薩摩焼の歴史について講義する。			
学修目標			
(1)近世薩摩焼について理解する。 (2)近世薩摩焼の考古学的研究について理解する。			
授業計画			
1 考古学と陶磁器 2 焼物の製作技術 3 日本陶磁通史 4 九州近世諸窯の展開 5 薩摩焼の概要 6 豎野系窯場(1) - 茶道具生産 7 豎野系窯場(2) - 白薩摩・色絵生産 8 苗代川系窯場(1) - 17世紀の陶器生産 9 苗代川系窯場(2) - 18世紀以後の陶器生産 10 龍門司系窯場 11 元立院系窯場 12 薩摩磁器窯場(1) - 薩摩磁器生産の始まり 13 薩摩磁器窯場(2) - 薩摩磁器の流通と展開 14 集成館事業と薩摩焼 15 まとめ (課題提供型を予定しているが、変更する場合もある)			
授業外学習 (予習・復習)			
授業で配布したプリントにより復習し (2時間)、次の講義に準備する (2時間)			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
渡辺芳郎『日本のやきもの 薩摩』淡交社、2007年			
成績の評価基準			
平常点 (40%)・最終レポート (60%)			
オフィスアワー			
毎週月曜3限目 (12:50～14:20)			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
該当なし。			

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

平成23年度以前入生は「物質文化研究」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2211

科目名

考古学研究B(旧 考古学講義)

英語名

Archaeology B

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

石田智子

連絡先(TEL)

099-285-7549

連絡先(MAIL)

ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

日本列島では多種多様な災害が高頻度で発生する/してきた。現代の人びとの体験・記憶にない過去の災害に対して、長期的・通時的視点から災害履歴を把握できる点で考古学は有効である。本講義では、自然災害(火山噴火・地震・水害)と人為災害(感染症・戦争)の両方に焦点をあてる。過去の人類はどのように災害を乗り越えてきたのか。人類の過去の経験を、現代社会で活用する方法と今後の課題を考える。特に、過去の災害痕跡の認識方法や被災状況、復興過程を把握する考古学的手法や隣接学問分野との連携状況を理解することを目的とする。

学修目標

- 1) データや情報を基に主体的に考え、状況に応じて適切な行動ができるようになる。
- 2) 考古資料から地域の歴史を復元する方法を理解する。自分の身の回りの歴史に関心をもつ。
- 3) 考古学と現代社会の関係を理解する。考古学の調査成果を今後の防災・減災対策に活用する方法を考える。

授業計画

授業は遠隔(オンデマンド)形式で実施予定。ただし、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 イン트로ダクション: 災害と考古学
- 第2回 災害考古学の基礎的研究方法
- 第3回 火山灰考古学1: 火山噴火と考古学
- 第4回 火山灰考古学2: 破局噴火と南九州の縄文文化
- 第5回 火山灰考古学3: 埋没した古墳時代のムラ
- 第6回 火山灰考古学4: 古代の開聞岳の噴火
- 第7回 地震考古学1: 地震と考古学
- 第8回 地震考古学2: 東日本大震災と文化財レスキュー
- 第9回 地震考古学3: 熊本地震・南海トラフ地震
- 第10回 水害: 洪水・高潮・大津波
- 第11回 感染症と人類
- 第12回 戦跡考古学1: 暴力の考古学
- 第13回 戦跡考古学2: 鹿児島島の戦争関連遺跡
- 第14回 戦跡考古学3: 奄美群島の戦争関連遺跡
- 第15回 過去の災害と現代社会

授業外学習(予習・復習)

予習: manabaに掲載された授業資料を事前に予習する。標準的時間は2時間。

復習: 授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う。標準的時間は2時間。

教科書

なし。授業中に資料を適宜配布する。

参考書

特になし。授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

毎回コメント (responで提出 : 50%)、小テスト (manabaで実施 (2回) : 40%)、授業にのぞむ姿勢 (課題の提出状況等で確認 : 10%) で評価する。

オフィスアワ -

授業終了後30分。質問や相談等があれば、manabaの個別指導、E-mail、研究室でも随時受け付けます。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

最新の研究成果や発掘調査情報を随時取り入れるため、当初の講義内容を変更する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2138

科目名

英語学演習 1 (旧 英語学演習)

英語名

English Linguistics 1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

末松信子

099-285-7572

suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

イギリス側を代表する Randolph Quirk 教授とアメリカ側を代表する Albert H. Marckwardt 教授の対談 A Common Language: British and American Englishを読みながら、イギリスとアメリカにおける英語の共通点、相違点について考える。

担当者は、ポイントとなる単語・熟語、文法、本文の内容、補足説明をまとめ、レジュメを作成する。授業では担当者によるプレゼンテーションの後、教員による補足説明を行っていく。

学修目標

英文を正確に読み、内容を理解することができる。イギリスとアメリカにおける英語の共通点、相違点について述べることができる。

授業計画

* 本授業は、毎回対面形式で行う予定である。

なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。

授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回 ガイダンス

第2回 Two Languages or One? (二つの言語か一つの言語か): variety or dialect (変種か方言か)

第3回 Two Languages or One? (二つの言語か一つの言語か): 'shop' or 'store'

第4回 The Areas of Difference (異なる分野): 屈折語尾

第5回 The Areas of Difference (異なる分野): 文法、発音

第6回 The Areas of Identity (共通点): 語彙

第7回 The Areas of Identity (共通点): AEとBEを区別できるか?

第8回 Differences in Vocabulary (語彙の違い): もの、方法、制度・施設

第9回 Differences in Vocabulary (語彙の違い): 制度・施設、New inventions (新発明)

第10回 The Common Starting Point (共通の出発点): 始まり

第11回 The Common Starting Point (共通の出発点): 分岐点

第12回 Looking Back to London (ロンドンを振り返って): a common standard of English (共通の標準英語)

第13回 Looking Back to London (ロンドンを振り返って): the preservation of English (英語の保護)

第14回 現代英米語法研究

第15回 総括

授業外学習 (予習・復習)

予習: 教科書にあらかじめ目を通し予習する。(学習に係る標準時間は約2時間)

復習: 授業内容を振り返り、気づいたこと、考えたこと、質問をまとめる。配布されたプリント、辞書や参考書を利用して復習する。(学習に係る標準時間は約2時間)

教科書

Marckwardt, Albert H. & Randolph Quirk 著 / 武田勝彦 解説注釈, A Common Language: British and American English (研究社小英文叢書187), 研究社, 1967.

参考書

必要に応じて適宜、指示する。

成績の評価基準

英文を正確に読み、内容を理解しているかについて発表の準備・内容、プレゼンテーションから評価する(30%)。また、イギリスとアメリカにおける英語の共通点、相違点について理解しているかについて、毎回のコメントシート(15%)および授業内での小テスト(55%)で評価する。

オフィスアワ -

水曜日 10:30~12:00

木曜日 10:30~12:00

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

プレゼンテーション

アクティブ・ラーニング(授業回数)

13回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2153			
科目名			
書籍文化演習 1			
英語名			
Book Culture 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一		099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
目的：本授業は、書籍文化に関する研究を行うために必要な能力を身につけることを目的とする。			
内容：書籍文化に関する文献の批判的な講読と討論を行い、書籍文化を研究するための視点や問題意識を学んだ上で、これを実践する。			
方法：文献の講読と討論の後、学習者自らが書籍文化に関するテーマを設定して発表と討論を行い、レポートを作成する。			
学修目標			
1. 先行文献を批判的に読解し、それについて討論することができる。			
2. 書籍文化を研究するための視点や問題意識を説明することができる。			
3. 書籍文化に関する発表と討論を行い、レポートを作成することができる。			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回：オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認			
第2回：書籍文化に関する文献の講読と討論（1） 書籍の歴史			
第3回：書籍文化に関する文献の講読と討論（2） 読書の歴史			
第4回：書籍文化に関する文献の講読と討論（3） 書籍の出版・販売			
第5回：書籍文化に関する文献の講読と討論（4） 図書館の役割			
第6回：書籍文化に関する文献の講読と討論（5） 電子書籍			
第7回：書籍文化に関する文献の講読と討論（6） 絵本			
第8回：書籍文化に関する文献の講読と討論（7） 雑誌			
第9回：書籍文化に関する文献の講読と討論（8） メディアミックス			
第10回：学習者による発表と討論（1）			
第11回：学習者による発表と討論（2）			
第12回：学習者による発表と討論（3）			
第13回：学習者による発表と討論（4）			
第14回：学習者による発表と討論（5）			
第15回：授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認			
期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。			
授業外学習（予習・復習）			
予習：次の授業で扱われる文献の講読と発表の準備。（学修に係る標準時間は約1時間30分）			
復習：授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について調査・学習を行う。（学修に係る標準時間は約1時間）			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
・ブリュノ・ブラセル（荒俣宏監修・木村恵一訳）『本の歴史』（創元社、1998年）			

- ・樺山紘一『図説 本の歴史』（河出書房新社、2011年）
- ・赤木昭夫『書籍文化の未来 電子本か印刷本か』（岩波書店、2013年）
- ・新井紀子『ほんとうにいいの？ デジタル教科書』（岩波書店、2012年）
- ・山下久猛『新聞社・出版社で働く人たち』（ペリかん社、2014年）
- ・荒俣宏『絵のある本の歴史』（平凡社、1987年）
- ・中村証子『子どもの成長と絵本』（大和書房、1983年）
- ・アレックス・ジョンソン『世界の不思議な図書館』（創元社、2016年）
- ・杉浦由美子『ケータイ小説のリアル』（中央公論新社、2008年）
- ・マリオ・インフェーゼ『禁書 グーテンベルクから百科全書まで』（法政大学出版局、2017年）
- ・金治直美文『読む喜びをすべての人に 日本点字図書館を創った本間一夫』（偕成出版社、2019年）
- ・竹岡健一『ブッククラブと民族主義』（九州大学出版会、2017年）

成績の評価基準

文献の講読と討論を30%、発表と討論を50%、期末レポートを20%とする。

オフィスアワ -

月曜2限

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

プロジェクター利用。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

現代ヨーロッパ・アメリカ文化研究（旧 現代ヨーロッパ・アメリカ文化論）
ナンバリングコード

FHS-CGX2116

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化研究（旧 現代ヨーロッパ・アメリカ文化論）

英語名

Modern Cultural History of Europe & America

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

梁川英俊

8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

「ケルトから見たヨーロッパ」
今年の講義は「ケルト」という視点からヨーロッパを考えてみたいと思います。ケルト人はギリシャ・ローマの数多くの文献に登場し、別名「最初のヨーロッパ人」とも呼ばれる人々です。その意味で、その文化はヨーロッパ文化の基層を成すとも言えます。しかし、今日ケルト人を名乗るのは、ヨーロッパの周縁部に残るケルト諸地域（アイルランド、イギリスのウェールズ、スコットランド、コーンウォール、マン島、フランスのブルターニュ）の人々です。なぜこのようなことになるのでしょうか？ 両者の間にはどんな関係があるのでしょうか？ 本講義では紀元前から現在に至るまでのさまざまな資料を通覧しつつ、文学・言語学・歴史学・考古学・遺伝子学等のさまざまな視点から、「ケルト人」の実像に迫ってみたいと思います。

学修目標

- (1) 世界に関する理解を深める
- (2) 自分の住んでいる地域を再考する
- (3) 歴史の面白さを実感する
- (4) 文化の力と可能性を知る
- (5) ことばに関する理解を深める
- (6) 批判的思考力を養う

授業計画

本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定です。

- | | |
|------|------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | ギリシャ・ローマのケルト人 1 |
| 第3回 | ギリシャ・ローマのケルト人 2 |
| 第4回 | ギリシャ・ローマのケルト人 3 |
| 第5回 | ケルト人の再発見 1 |
| 第6回 | ケルト人の再発見 2 |
| 第7回 | ナショナリズムの時代のケルト 1 |
| 第8回 | ナショナリズムの時代のケルト 2 |
| 第9回 | 近代ケルト人の登場 |
| 第10回 | ケルト人種論 |
| 第11回 | ケルト諸地域の諸事情 1 |
| 第12回 | ケルト諸地域の諸事情 2 |
| 第13回 | ケルトと日本 |
| 第14回 | 現代のケルト |
| 第15回 | まとめ |

なお、今後の状況次第では、授業内容や授業回数の見直しもあり得ます。

授業外学習（予習・復習）

授業で取り上げるトピックに関しては、事前に連絡するので、各自で関連文献を読むなどして準備してください(予習2時間)。また授業で調べるように言われた事柄については、積極的に調べて理解を深めるようにしてください(復習2時間)。

教科書

特に指定しません。

参考書

授業中に適宜紹介します。

成績の評価基準

課題提出(100%)

オフィスアワ -

随時。メールであらかじめアポイントを取ることが望ましい。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX3118

科目名

英語翻訳論演習

英語名

English Translation 1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
ホルヘ・ガルシア・アロヨ		8874	takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
none		後期	

授業概要

This class will focus on the improvement of writing production and reading comprehension skills through text translation practice and the comparison between the original text and the translated one to prepare you for writing your thesis.

学修目標

In this class you will improve your writing and reading comprehension skills. At the end of this course you will acquire an advanced level of these skills (CEFR level C1) so that you can write successfully your thesis. To achieve this goal, the activities of this course will include learning reading and writing strategies through text translation practice and the analysis of the differences between the original text and the translated one.

授業計画

Week 1 Presentation of the course. Introduction activities.(online)
 Week 2 Reading and writing and translation activities (text 1)(online)
 Week 3 Analysis between the original texts and the translated ones.(online)
 Week 4 Reading and writing and translation activities (text 2)(online)
 Week 5 Analysis between the original texts and the translated ones.(online)
 Week 6 Reading and writing and translation activities (text 3)(online)
 Week 7 Preparation for the final project week.(manaba)(online)
 Week 8 Reading and writing and translation activities (text 4, audiovisual experience)(online)
 Week 9 Analysis between the original texts and the translated ones.(online)
 Week 10 Reading and writing and translation activities (text 5)(online)
 Week 11 Analysis between the original texts and the translated ones.(online)
 Week 12 Preparation for the final project week.(online)
 Week 13 Reading and writing and translation activities (text 6, video game experience).(online)
 Week 14 Reading and writing and translation activities (text 7, movie experience)(online)
 Week 15 Analysis between the original text and the translated ones. (Submission of the final project)(online)

The final project will consist in a translation of a long text. The text to be translated can be chosen by the students (but it must be a text of the same nature as those we will see in class).In the “preparation for the final project week” you will have time to show how your course final project is progressing and to ask all the doubts you have concerning it.

授業外学習 (予習・復習)

As support for preparation of your final project you will be given some 4-hour per day homework activities through the course.

教科書

Handouts will be given (texts related to literature and pop culture: manga, anime, comics, movies etc.).

Audiovisual material will be brought to class (anime, movies and videogames).

参考書

Please bring your dictionaries.

成績の評価基準

Final project: 40%, class performance: 30%, homework: 30%

オフィスアワ -

12:10-12:40 on every Monday

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

Translation project.

アクティブ・ラーニング(授業回数)

5 classes

備考(受講要件)

none

実務経験のある教員による実践的授業

none

ナンバリングコード			
FHS-CGX2155			
科目名			
哲学研究C			
英語名			
Western Philosophy C			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
森元斎		095-819-2951	mtonaomori@nagasaki-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
近代以降の九州、とりわけ現在の国道3号線沿い周辺域で生じた出来事を、民衆の視線で取り上げ、近代化の流れへの抵抗や、近代的なものからの暴力がどのようになされてきたのかを論じ、民衆がどのようにして生きてきたのかを明らかにします。これに加えて、九州に住む現在の私たちの思想史を学ぶことも目的とします。			
学修目標			
近代以降の九州の民衆が、どのように近代化の時流に対応したのかを理解できるようになる。そして現代に生きる私たちのあり方へと通じる流れが理解できるようになる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス：九州の近代化と国道3号線 九州と世界			
第2回 九州の近代化 アジアとのつながり			
第3回 西南戦争と近代化			
第4回 水俣病 医学者としての原田正純			
第5回 水俣病 世界文学としての石牟礼道子			
第6回 宮崎滔天のアジア			
第7回 山鹿コミュニケーション ルソーの思想とコミュニケーション			
第8回 戦争と詩 丸山豊			
第9回 福岡とアジア ドキュメンタリスト木村栄文			
第10回 サークル村の磁場 上野英信(1)			
第11回 サークル村の磁場 上野英信(2)			
第12回 サークル村の磁場 上野英信(3)			
第13回 門司港の米騒動 第一次世界大戦			
第14回 炭鉱の米騒動 軍部と民衆			
第15回 鹿児島市内の3号線見分【屋外活動】			
授業外学習(予習・復習)			
森元斎『国道3号線抵抗の民衆史』共和国、近刊			
教科書			
とくになし			
参考書			
成績の評価基準			
授業各回終了時にコメントペーパーを配布し、そこに書かれた授業内容に関するコメントをもとに評価する。評価基準は(1)授業内容を的確に理解できているか、(2)授業内容を受けて自らにとって身近な現象を捉え直すことができているか(3)授業内容を批判的に把握し自らの考察を付け加えることができているか、の三つを設定する。			
オフィスアワー			
授業の前後			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

とくになし。対面授業になります。ただし、種々の状況により変更する可能性があります。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2146			
科目名			
多文化交流論演習 1			
英語名			
Multicultural Relations 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>この授業では、主に録音された会話の文字化と分析を通して、コミュニケーションの多様性や社会言語学的な特徴を導き出すことを目的とする。会話の場面として、初対面会話やインタビュー、テレビドラマの会話などの場面が考えられる。また、参加者も日本人同士あるいは日本人と外国人の会話などを想定をしている。録音された会話の文字化や資料の扱い方などの基本事項から、分析方法などについて学ぶ。また、基礎的文献や先行文献を探し、報告を行ってもらう。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 具体的な場面において、実際にどのようなコミュニケーションが行われているかについて、その実態を把握し、記述することができる。 2. 文字化の原則に沿って、録音された会話の文字化を行い、特徴を分析することができる。 3. 目的に沿った資料収集の仕方を理解し、資料の精査をすることができる。 			
授業計画			
<p>本授業は、全回を対面式で実施するが、種々の状況により変更する可能性がある。 なお、授業形態を変更する場合には、manabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要とスケジュール：受講生の人数により変更の可能性あり） 第2回：今後のスケジュール グループ分け、文献収集など 第3回：資料収集の方法、事前準備 第4回：文字化の方法（1） 第5回：文字化の方法（2） 第6回：具体例の検討、担当部分決定 第7回：先行文献の報告（1） 第8回：先行文献の報告（2） 第9回：先行文献の報告（3） 第10回：先行文献の報告（4） 第11回：分析結果発表（1） 第12回：分析結果発表（2） 第13回：分析結果発表（3） 第14回：分析結果発表（4） 第15回：まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：次回の授業のための宿題（予習内容）を指示するので、かならず宿題を行ってから授業に参加すること（約2時間）。 復習：授業で扱った内容やグループ活動などの学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（約2時間） なお、すべての課題をmanabaに掲示する。必ずmanabaを確認すること。</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			

参考書

宇佐美まゆみ（2020）『自然会話分析への語用論的アプローチ』ひつじ書房
 加藤重広ほか編（2016）『語用論研究法ガイドブック』ひつじ書房 ほか

成績の評価基準

（1）毎回の授業で提出する振り返り（20％）、（2）授業中の発言（20％）、（3）先行文献発表・報告など（20％）、（4）最終レポート（40％）で総合評価する。

オフィスアワ -

木曜日5限（研究室）。他の時間帯でも都合があれば適宜応じます。manabaのコレクションやメールなどで連絡をとってください。zoomによる相談も可能。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

この授業はmanabaのプロジェクト等（他のシステムを使う可能性もある）を利用したグループワークを予定している。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中12回

備考（受講要件）

平成29年度入学生のみ履修可。課題が多いので積極的に取り組むこと。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2118

科目名

多文化交流論

英語名

Multicultural Relations

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

グローバル化が進み、日本においても在日外国人や訪日外国人が増加している。社会の中で多様な文化背景を持った人々と関わり、コミュニケーションをとるにはどのようなことが必要なのだろうか。授業では、このような異なる文化背景を持った人々と共に生きていく多文化共生社会において、異文化間コミュニケーションの実態や問題点・課題などを把握する。さらに、異文化間能力について基礎的な知識や考え方について学ぶ。

学修目標

1. 多文化社会の様相を説明し、文化とコミュニケーションの基礎的な概念や関係性について説明することができる。
2. 異文化間コミュニケーションの基礎的な概念や障壁について説明することができる。
3. 言語行動と非言語行動のパターンや、異文化間のコミュニケーション・スタイルの相違点について、説明することができる。
4. 異文化適応のプロセスと異文化トレーニングの基礎的な方法について説明することができる

授業計画

本授業は、毎回遠隔授業（Zoomによるリアルタイム配信）で行う予定だが、種々の状況により変更の可能性がある。なお、授業形態を変更する場合には、manabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回：オリエンテーション（本授業の目的と概要）、多文化社会の様相
- 第2回：異文化理解と異文化間コミュニケーション
- 第3回：文化の特徴と価値観
- 第4回：ステレオタイプと差別・偏見
- 第5回：文化の価値観
- 第6回：文化とコミュニケーション1 言語行動
- 第7回：文化とコミュニケーション2 非言語行動
- 第8回：異文化間のコミュニケーション・スタイルの違い1 依頼と断り
- 第9回：異文化間のコミュニケーション：スタイルの違い2 ほめと詫び
- 第10回：異文化間能力とは？
- 第11回：異文化適応とそのプロセス
- 第12回：異文化体験の実際
- 第13回：異文化トレーニングの種類と方法
- 第14回：異文化トレーニングの実際
- 第15回：まとめ

（期末試験は行わない。指定期日までに期末レポートを提出すること。）

授業外学習（予習・復習）

予習：次回の授業のための宿題（予習内容）も指示するので、かならず宿題を行ってから授業に参加すること（約2時間）。

復習：授業で扱った内容やグループ活動などの学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（約2時間）

なお、今学期は遠隔授業のため、すべての課題をmanabaに掲示する。必ずmanabaを確認すること。

教科書

以下の教科書をもとに進める。授業中の説明で教科書の中の図表も利用するので、手元で見られるようにする

こと。

石井敏ほか（2013）『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣

参考書

久米昭元ほか（2006）『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣

原沢伊都夫（2013）『異文化理解入門』研究社 など

成績の評価基準

（1）毎回の授業の振り返り（30％）、（2）宿題などの提出状況（20％）、（4）中間レポート（20％）、（5）期末レポート（30％）で総合評価する。

オフィスアワ -

木曜日5限（研究室）。他の時間帯でも都合があれば適宜応じます。manabaのコレクションやメールなどで連絡をとってください。zoomによる相談も可能。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

この授業はmanabaのプロジェクト等（他のシステムを使う可能性もある）を利用したグループワークを予定している。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

平成29年度以降の入学生のみ履修可。

この授業は、2018年度の授業と実施方法が異なりますが、内容はほぼ同様です。再履修は不可です。

今年度は遠隔授業（リアルタイム配信）で行う予定です。新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、授業運営も流動的です。必ずmanabaを確認するようにしてください。

この授業では、manabaのプロジェクト等（他のシステムを使う可能性もある）を利用したグループワークも予定しています。積極的に参加してください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

芸術文化論演習（旧 ポピュラーカルチャー論演習）
ナンバリングコード

FHS-CGX2506

科目名

芸術文化論演習（旧 ポピュラーカルチャー論演習）

英語名

Art & Culture

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
太田純貴		099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

視覚文化論の古典であるジョン・パージャー『イメージ 視覚とメディア』（伊藤俊治訳、ちくま学芸文庫、2013年）を読解する。それを補助線に、メディア論・美学芸術学・美術史の基礎文献であるヴァルター・ベンヤミン「技術的複製可能時代の芸術」（第三稿）（山口裕之編訳『ベンヤミン・アンソロジー』、河出文庫、2011年）の読解に取り組む。

毎回の授業において章の要約、登場する事象・人物・概念等についてのレポートの提出が求められる。

学修目標

1. 芸術や文化を論じるための視覚文化論の議論を理解する
2. 学術書・論文の骨組みを把握できるようになる。
3. 学術書・論文を読む自分なりの視点を獲得し、レジュメとして作成できるようになる。
4. 独力で必要な資料にアクセスできる力を身につける
5. 学術的な文章を書くのに必要な日本語の使い方を習得する

授業計画

- 第1回：ガイダンス（対面型）
- 第2回：「技術的複製可能時代の芸術」についてのレポート（課題提出型）
- 第3回：『イメージ』第1章（対面型）
- 第4回：『イメージ』第2章（対面型）
- 第5回：小まとめ1（課題提出型）
- 第6回：『イメージ』第3章（対面型）
- 第7回：『イメージ』第4章（対面型）
- 第8回：『イメージ』第5章（対面型）
- 第9回：中間まとめ（課題提出型）
- 第10回：『イメージ』第6章（対面型）
- 第11回：『イメージ』第7章（対面型）
- 第12回：小まとめ2（課題提出型）
- 第13回：『イメージ』（「見ることのトポロジー」1-4）（対面型）
- 第14回：『イメージ』（「見ることのトポロジー」5-8）（対面型）
- 第15回：総括（課題提出型）

授業形式は変更される可能性がある。

今後の状況次第で授業回数や内容・進度は変更となる可能性がある

テストは行わず、指定期日までにレポートの提出を求める予定。

授業外学習（予習・復習）

- ・予習：毎週課題の提出が求められる（レジュメ提出）ので、その作成時間として2時間程度。

・復習：授業を受けてレジユメの再作成に2時間程度。

教科書

ジョン・バージャー『イメージ 視覚とメディア』伊藤俊治訳、ちくま学芸文庫、2013年

参考書

柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン：闇を歩く批評』、岩波新書、2019年
 多木浩二『ベンヤミン「複製技術時代の芸術」精読』、岩波現代文庫、2000年
 山口裕之編訳『ベンヤミン・アンソロジー』、河出文庫、2011年
 吉見俊哉『博覧会の政治学』、中公新書、1992年

その他適宜授業中に紹介する。

成績の評価基準

- ・毎回の課題（50%）
- ・期末レポート（50%）

オフィスアワ -

火曜日12-13時

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

授業計画や進行の度合いは、受講者の人数や理解度、議論の習熟度などによって適宜変更する可能性がある。また、コロナウイルスをめぐる状況、授業の進度や人数等により、鹿児島市内の美術館やイベント、ワークショップ等の見学・参加といった学外実習に授業を振り替える可能性もある。なお、毎週課題を課す。課題の提出と授業の出席は連動しているため、未提出は欠席扱い。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード

FHS-CGX2230

科目名

考古学実習2 (旧 フィールド学実験(考古学))

英語名

Practical Archaeology 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

実習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

渡辺芳郎、石田智子

連絡先 (TEL)

099-285-7539

連絡先 (MAIL)

watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

石田智子

前後期

後期

授業概要

考古学的調査に必要な技術を習得する。

学修目標

考古学調査に必要な技術を習得する。

授業計画

第1回 ガイダンス
 第2回 遺物整理の基礎
 第3回 遺物整理の実践1 (拓本)
 第4回 遺物整理の実践2 (実測1)
 第5回 遺物整理の実践3 (実測2)
 第6回 遺物整理の実践4 (実測3)
 第7回 遺物整理の実践5 (実測4)
 第8回 遺物整理の実践6 (実測5)
 第9回 遺物整理の実践7 (実測6)
 第10回 遺物整理の実践8 (トレース1)
 第11回 遺物整理の実践9 (トレース2)
 第12回 遺物整理の実践10 (トレース3)
 第13回 遺物整理の実践11 (トレース4)
 第14回 遺物整理の実践12 (トレース5)
 第15回 遺物整理の実践13 (トレース6)
 (対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業で行う)

授業外学習 (予習・復習)

習得技能の予習 (2時間)・復習 (2時間) が必須である。

教科書

なし

参考書

なし

成績の評価基準

平常点 (100%)

オフィスアワー

月曜3限目 (12:50~14:20)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

考古学調査に必要なさまざまな技術を共同で学ぶ

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

2コマ授業のため、計2単位修得。必ず2コマ連続で履修すること。

必ず考古学実習1もあわせて履修すること。

考古学実習 1 および考古学実習 2 を受講したことがなく、本授業の履修を希望する者は、事前に担当教員に相談に来ること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)
ナンバリングコード

FHS-CGX2149

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)

英語名

German Language & Culture 1b

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一		099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

目的：本授業は、ドイツ語の読解力を高めるとともに、ドイツ語圏の文化への理解を深めることを目的とする。
内容：比較的易しいドイツ語の文章を訳読するとともに、ドイツ語圏の文化についてスライド等を用いて学び、学習者自らも調査・発表を行う。
方法：テキストの訳読とスライド等によるドイツ語圏の文化の学習、およびドイツ語圏の文化に関する調査と発表による。

学修目標

1. 比較的平易なドイツ語の長文を、辞書や文法書を使いながら訳読することができる。
2. ドイツ語圏の文化について、具体例をあげて説明できる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認
第2回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の国々）
第3回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の歴史）
第4回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の文学）
第5回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の音楽）
第6回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の映画）
第7回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の生活）
第8回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第9回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第10回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第11回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第12回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第13回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第14回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第15回 まとめとふりかえり：身についた事柄の確認

期末試験は行わず、平素の授業への取り組み態度により評価する。

授業外学習（予習・復習）

予習：毎回の授業で扱うテキストの訳読とドイツ語圏の文化に関する発表の準備。（学修に係る標準時間は約1時間30分）
復習：訳読が不十分だった箇所を確認し、興味を持ったドイツ語圏の文化を調べる。（学修に係る標準時間は約1時間）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

- ・根本道也他（編）：アポロン独和辞典（同学社、2010年）

- ・在間進：アクセス独和辞典（三修社、2010年）
- ・国松孝二：独和大辞典 コンパクト版（小学館、1999年）
- ・中島悠爾他：必携ドイツ文法総まとめ 改訂版（白水社、2003年）
- ・清野智昭：中級ドイツ語のしくみ（白水社、2008年）
- ・中山豊：中級ドイツ語文法 新装版（白水社、2018年）

成績の評価基準

テキストの訳読を60%、ドイツ語圏の文化の学習を40%する。

オフィスアワ -

月曜2限

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

共通教育の「初級独語?」と「初級独語?」の単位を取得していること。

平成28年度以前入学生は「ドイツ語テキスト演習」に読み替え。

プロジェクター使用。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2151

科目名

哲学演習 A 1 (旧 西洋の人間と思想A演習1)

英語名

Western Philosophy A1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

柴田健志

連絡先 (TEL)

099-285-7533

連絡先 (MAIL)

siba@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

(1) 哲学的テキストの読解

(2) レポートの作成

学修目標

古典的テキストを正確に読解し、レポートを作成する方法の習得を目標にします。

授業計画

- 第1回 テキスト読解ガイダンス
 第2回 テキスト読解：デカルト『第1省察』懐疑
 第3回 テキスト読解：デカルト『第1省察』感覚
 第4回 テキスト読解：デカルト『第1省察』身体
 第5回 テキスト読解：デカルト『第1省察』数学
 第6回 テキスト読解：デカルト『第2省察』自由意志
 第7回 テキスト読解：デカルト『第2省察』知性
 第8回 テキスト読解：デカルト『第2省察』心身の分離
 第9回 テキスト読解：デカルト『第2省察』思考作用
 第10回 テキスト読解：デカルト『第2省察』思考と身体
 第11回 テキスト読解：デカルト『第2省察』心身の合一
 第12回 レポート作成法ガイダンス
 第13回 レポート作成法：テーマ
 第14回 レポート作成法：校正
 第15回 レポート作成法：引用

対面

授業外学習 (予習・復習)

予習 テキストの指定された範囲を精読 (2時間)

復習 問題点の確認および検討 (2時間)

教科書

デカルト『省察 情念論』中央公論

野田又夫『デカルト』岩波新書

参考書

成績の評価基準

レポートによって行う。?読解の妥当性40% ?理解の発展性30% ?論理の整合性30%

オフィスアワー

月曜・3限

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし
アクティブ・ラーニング (授業回数)
10回中 3 回
備考 (受講要件)
特になし
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2226

科目名

地理学実習(旧 フィールド学実習(地理学))

英語名

Geographical Fieldwork

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

実習

1単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

吉田 明弘・小林 善仁

099-285-7543

aki_tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

地理学の醍醐味は野外実習にあるといっても良い。野外で見られる様々な人文・自然地理学の諸現象の観察やヒヤリングなどを1週間程度の長期エクスカージョンと日帰りのエクスカージョンにて行う。

学修目標

- 1) 実際の地理学の調査はどのように行われるかを理解することができる。
- 2) 文献に書かれている事柄が野外ではどのように見られるかを修得することができる。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション
 第2回：事前講習 地域の調査法
 第3回：事前準備1 対象地域の概括
 第4回：事前準備2 調査対象の選定と関連文献の収集
 第5回：事前準備3 調査項目の選定と統計資料の収集・分析
 第6回：事前準備4 対象地域の地形図判読
 第7回：野外実習1 対象地域の自然環境の理解
 第8回：野外実習2 対象地域の人文・社会環境の理解
 第9回：野外実習3 地域調査に関する基礎的技能の習得
 第10回：野外実習4 地域調査に関する基礎的技能の実践(景観観察)
 第11回：野外実習5 地域調査に関する基礎的技能の実践(聞き取り調査)
 第12回：野外実習6 地域調査に関する基礎的技能の実践(質問票調査)
 第13回：事後調査1 調査成果の作図・分析
 第14回：事後調査2 報告書の作成
 第15回：調査成果報告

授業は毎回対面形式で行う予定である。授業形態を変更する場合は、予めmanabaのコースニュースで通知する。

授業外学習(予習・復習)

授業時間内に適宜指示する。なお、本授業はエクスカージョン(5日間程度)を実施する。そのため、現地での調査計画や調査準備などの予習が必要である(予習時間の目安:2~3時間程度)。また、復習としてエクスカージョン後における報告書の作成に伴った復習や調査成果の整理を行うこと(復習時間の目安:2~3時間程度)。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

- 事前学習と野外調査の準備状況ならびに取り組む態度(30%)
 野外実習への取り組む態度(40%)
 調査報告(レポート)の作成状況・内容(30%)

なお、野外実習（エクスカージョン）の不参加や調査報告が未提出の場合は単位を認定しない。

オフィスアワ -

質問等は、授業終了後や研究室にて随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

この授業と共に前期に開講される地理学実験を必ず履修すること。また、自然地理学概説、人文地理学概説などの地理学関係の講義を履修することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2501

科目名

英語圏比較文化論（旧 異文化理解）

英語名

English-Speaking Cultures

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
竹内勝徳		8874	takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

様々な意味で日本の長年のパートナー国と言えるアメリカの文化について、日本文化との比較において論じる。トランスナショナリズムとマルチカルチュラリズムの基礎を踏まえたうえで、アメリカ文化の起源から資本主義の進展によるその急速な発展、軍事増強と連動した文化の生成、グローバル経済と国際金融の動きに同期したアメリカ文化の国際展開、国力の一部に含まれるソフトパワーとしての文化の価値、さらには、アメリカ文化を構成する多国籍な要素とその越境性などについて講義を行う。また、アメリカ文化の理解を通じて日本文化の特色に目を開くと共に、両国の文化を相対的に捉えることを学ぶ。具体例としてはアメリカの映画作品や文学作品、音楽を取り上げ、それらを鑑賞する中でアメリカ文化の多様性や流動性を学ぶ。また、そうした文化を交換するための異文化コミュニケーションの現状と課題についてトランスナショナリズムとマルチカルチュラリズムの知見を生かして講義を行う。なお、授業内では異文化交流ワークショップの時間を設け、英語によるディスカッションの後、プレゼンテーションを行ってもらう。

学修目標

トランスナショナリズムとマルチカルチュラリズムに立脚した比較文化的観点からみたアメリカ文化の多様性・流動性をテーマとして講義を行う。到達目標は以下のとおりである。（１）日本文化との比較においてアメリカ文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。（２）日米の文化交流をよりグローバルな視野から俯瞰し、二国間の関係に収れんされないよりダイナミックな異文化交流について理解を深める。（３）アメリカや日本で制作された映画作品や文学作品、音楽をそれぞれの国の歴史、社会、文化に照らして解釈すると共にその文脈を構成する諸要素について考える。（４）英語によるディスカッションを通して異文化交流のあり方を体験的に理解する力を高める。

授業計画

授業は基本的に毎回対面で行う。

- 第1回 トランスナショナリズム、マルチカルチュラリズムとは何か。(online)
- 第2回 日系アメリカ人小説家の作品紹介(online)
- 第3回 日系アメリカ人小説家の作品講読(online)
- 第4回 日系アメリカ人小説家の作品分析(online)
- 第5回 ディスカッション(online)
- 第6回 サンノゼ州立大学との動画による交流(online)
- 第7回 ラインによるディスカッション(online)
- 第8回 日系アメリカ人の労働環境(online)
- 第9回 鹿児島出身の移民の歴史(online)
- 第10回 小説に表れた労働(online)
- 第11回 グローバリゼーションと異文化コミュニケーション(online)
- 第12回 異文化交流ワークショップ：アメリカ人留学生とのグループ・ディスカッション（現代の日米文化について）(online)
- 第13回 異文化交流ワークショップ：アメリカ人留学生とのグループ・ディスカッション（映画と文学について）(online)
- 第14回 異文化交流ワークショップ：アメリカ人留学生とのグループ・ディスカッション（大衆音楽について）(online)

第15回 異文化交流ワークショップ：プレゼンテーション(グローバル化の中の日米文化)
定期試験(online)

授業外学習(予習・復習)

配布プリントの読解。毎週合計4時間要する。

教科書

古矢旬『アメリカニズム 「普遍国家」のナショナリズム』(東京大学出版会)

参考書

亀井俊介『サーカスが来た アメリカ大衆文化覚書』(岩波書店)、竹内勝徳・高橋勤『環大西洋の想像力』(彩流社)、授業中に配布する文学作品からの抜粋のプリント

成績の評価基準

期末試験50%、中間レポート25%、ミニレポート25%の割合で成績評価を行う。

オフィスアワー

月曜昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

ディスカッションとプレゼンテーション

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中4回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2103			
科目名			
日本近現代文学研究A			
英語名			
Modern Japanese Literature A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹本 寛秋		099-220-1113	takemoto@k-kentan.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
日本の近代詩について、ジャンル編成、近代日本語の布置、文化的背景、表現的特質、主題的特質などに着目しながら考察する。			
日本の近代詩というと、『新体詩抄』から始まり、文語定型詩から口語自由詩へと必然的に発展してきたと考えがちである。しかし、「短歌」「漢詩」との関係や「小説の言文一致」との関係など、当時の状況を詳しく検討するならば、日本近代詩の変遷は遥かに多様な可能性を持っていたと気づくはずである。日本の近代詩の主要な作品・問題を取り上げつつ「日本近代詩」について考えることで、「文学」をとらえ直す思考法を身に付ける。			
学修目標			
「文学」を多様な角度から分析する方法を理解し、自分で設定した分析対象に対して適用できる。			
授業計画			
* 本授業は、毎回オンデマンド配信方式で行う予定である。なお、授業形態については、状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第 1回 ガイダンス：日本の近代詩について考えるために。			
第 2回 『新体詩抄』（1）：「漢詩」「和歌」「西洋詩」の布置とのかかわり			
第 3回 『新体詩抄』（2）：「詩」のモダニティについて			
第 4回 『新体詩抄』（3）：唱歌、軍歌、運動歌との関係			
第 5回 島崎藤村（1）：「恋愛」をめぐって			
第 6回 島崎藤村（2）：詩の「言葉」をめぐって			
第 7回 象徴主義の問題（1）：自然主義と象徴主義の布置			
第 8回 象徴主義の問題（2）：蒲原有明、薄田泣菫			
第 9回 前半のまとめ			
第10回 口語詩の問題（1）：「口語自由詩」概念の布置			
第11回 口語詩の問題（2）：「口語詩」のモダニティについて			
第12回 口語詩の問題（3）：「民謡」とのかかわり			
第13回 萩原朔太郎（1）：「神秘」「象徴」の布置			
第14回 萩原朔太郎（2）：「感情」「内面」「神経」をめぐって			
第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
予習：指定されたテキストは、必ず読んでくること（標準的な時間は2時間）。復習：授業で紹介した資料、参考文献を読み、自分の考えをまとめること（標準的な時間は2時間）。			
教科書			
講義の際、適宜配布する。			
参考書			
大岡信『蕩児の家系 日本現代詩の歩み』（思潮社 一九六九年）、坪井秀人『二十世紀日本語詩を思い出す』（思潮社 二〇二〇年）。他、講義中に紹介する。			

成績の評価基準

毎回の授業ごとの提出物（課題・リアクションペーパー）（40%）、期末レポート（60%）、計100%

オフィスアワ -

授業後（木曜日 5 限の後）。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2215

科目名

日本歴史・文化演習 B 1 (旧 日本史演習V)

英語名

Japanese History & Culture B1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

金井静香

099-285-7553

kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

中世古記録の読解を行う。受講者は、テキストのなかから各自の担当箇所を割り当てられ、その箇所に見える語句や登場する人物などについて事前に調べる。授業においては、出席している受講者全員が数行ずつ読み下しと現代語訳を行い、授業担当教員がそれを点検する。また、各受講者は自分に割り当てられた部分のなかから興味深いテーマを見だし、それについて調べ考察したことを発表する。

下記の「授業計画」では、『看聞日記』応永26年8月13日条～同年10月21日条を読む開講期の授業計画を記す。

学修目標

- (1) 中世古記録の読解力を向上させる。
- (2) 史料を用いた研究の方法に習熟する。
- (3) 自ら課題を設定し、それについて考察することができる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更になる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回：ガイダンス

第2回：応永26年8月13日～16日条の読み下し及び現代語訳

第3回：応永26年8月13日～16日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第4回：応永26年8月17日～21日条の読み下し及び現代語訳

第5回：応永26年8月17日～21日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第6回：応永26年8月23日～9月9日条の読み下し及び現代語訳

第7回：応永26年8月23日～9月9日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第8回：応永26年9月10日～23日条の担当箇所の読み下し及び現代語訳

第9回：応永26年9月10日～23日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第10回：応永26年9月24日～10月2日条の読み下し及び現代語訳

第11回：応永26年9月24日～10月2日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第12回：応永26年10月3日～10日条の読み下し及び現代語訳

第13回：応永26年10月3日～10日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第14回：応永26年10月12日～21日条の読み下し及び現代語訳

第15回：応永26年10月12日～21日条の現代語訳及びテーマ考察発表

授業外学習 (予習・復習)

予習：2時間 各自、テキストの読み下しと現代語訳を行う。発表を担当する受講者は、レジュメの作成も行う。

復習：2時間 再度テキストを通して読んでおく。

教科書

『玉葉』『看聞日記』などの中世古記録を予定している。

参考書

授業中に適宜紹介または配布する。

成績の評価基準

読み下し及び現代語訳 (35%)、テーマ考察の発表もしくはレポート (35%)、授業への取り組み態度 (30%)

。

オフィスアワー

月曜日 5 限

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

史料の読み下し及び現代語訳、テーマ考察発表及びその後の討論

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2217

科目名

アジア歴史・文化演習 B 1 (旧 アジア史演習4)

英語名

Asian History & Culture B1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

大田由紀夫

連絡先 (TEL)

099-285-7560

連絡先 (MAIL)

ota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

テーマ：『明史紀事本末』

明朝一代の歴史を簡潔にまとめた『明史紀事本末』の明朝成立史に関する部分を講読していく予定である。

学修目標

基礎的な漢文読解能力を養うことをめざす。

授業計画

- 第1回 ガイダンス (課題提出型遠隔授業)
- 第2回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-1、テキスト221頁9行目
- 第3回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-2、テキスト221頁後3行目
- 第4回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-3、テキスト222頁1行目
- 第5回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-4、テキスト222頁4行目
- 第6回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-5、テキスト222頁8行目
- 第7回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-6、テキスト222頁後3行目
- 第8回 まとめ (1) 第2~7回の読解部分の復習・確認など
- 第9回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-7、テキスト223頁2行目
- 第10回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-8、テキスト223頁5行目
- 第11回 『明史紀事本末』巻15、削奪諸藩-1、テキスト225頁1行目
- 第12回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-2、テキスト225頁4行目
- 第13回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-3、テキスト225頁7行目
- 第14回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-4、テキスト225頁後1行目
- 第15回 まとめ (2) 第9~14回の読解部分の復習・確認など

なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。

授業外学習 (予習・復習)

演習で講読する史料の当該部分を事前に予習しておくことが望ましい (2時間)。また、配布資料をもとに講読した部分について復習することが望ましい (2時間)。

教科書

『明史紀事本末』 (中華書局、1977年)。史料プリントを配布。

参考書

参考文献リストを配布。

成績の評価基準

演習における受講態度 (30%)、レポート (70%) などから総合評価する。

オフィスアワー

月曜12時~12時50分

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

史料の読解、それに関する質疑応答。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

必ず辞書持参のこと。

平成18年度以降の入学生は2単位、平成17年度以前の入学生は1単位となります。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されています。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ポピュラーカルチャー論演習1 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)
ナンバリングコード

FHS-CGX2509

科目名

ポピュラーカルチャー論演習1 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)

英語名

Popular Culture 1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴		099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

ポピュラーカルチャー関連事象分析のために有用な「視覚文化論」(Visual Culture, Visual Culture Studies)の基礎文献である、ピーター・バーク『時代の目撃者』(諸川春樹訳、中央公論美術出版、2008年)を読解する。受講者は各章の読解とレジユメの作成、およびレジユメを元にした発表が繰り返し求められる。受講人数によってはグループワークで対応し、授業の形式を変更する可能性がある。

学修目標

1. 視覚文化論の議論を基礎と有効性を理解する
2. 学術書・論文の骨組みを把握できるようになる。
3. 学術書・論文を読む自分なりの視点を獲得し、レジユメとして作成できるようになる。
4. 独力で必要な資料にアクセスできる力を身につける
5. 学術的な文章を書くのに必要な日本語の使い方を習得する

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形式については種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：序章「視覚イメージの語るもの」
- 第3回：第一章「写真と肖像画」の受講者による発表
- 第4回：第二章「図像学と図像解釈学」の受講者による発表
- 第5回：第三章「聖なるものと超自然的なもの」の受講者による発表
- 第6回：第四章「権力と抗議」の受講者による発表
- 第7回：第五章「視覚イメージを通して見る物質文化」の受講者による発表
- 第8回：中間まとめ
- 第9回：第六章「社会の姿」の受講者による発表
- 第10回：第七章「他者のステレオタイプ」の受講者による発表
- 第11回：第八章「眼で見る物語」の受講者による発表
- 第12回：第九章「目撃者から歴史家へ」の受講者による発表
- 第13回：第十章「図像学を超えて？」の受講者による発表
- 第14回：第十一章「視覚イメージの文化史」
- 第15回：総括

テストは行わず、指定期日までにレポートの提出を求める予定。

授業外学習 (予習・復習)

- ・予習：毎週課題の提出が求められる(レジユメ提出)ので、その作成時間として2時間程度。
- ・復習：授業を受けてレジユメの再作成に2時間程度。

教科書

ピーター・バーク『時代の目撃者』(諸川春樹訳、中央公論美術出版、2008年)。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

- ・各回のレジュメの提出とそれに基づく発表(50%)
- ・期末レポート(50%)

以上をもとに総合的に判断する。

オフィスアワー

毎週火曜日12時~13時

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

- ・初回のガイダンスで全体方針を説明するので、受講希望者は必ず参加すること

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード

FHS-CGX2503

科目名

ポピュラーカルチャー論

英語名

Popular Culture

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

太田純貴

連絡先 (TEL)

099-285-7576

連絡先 (MAIL)

yota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

ポピュラーカルチャーは様々な領域に渡り、その種類も多彩であるため、一言で括ることは極めて難しい。だが、映画やマンガ、アニメなど、ポピュラーカルチャーを構成する様々なジャンルは、アートとつながりを備えていたり、アートに関連する分析手法はしばしばポピュラーカルチャーを分析する有効な補助線となる。本講義では、特に一九世紀以降の芸術についてスポット的に解説しつつ、重要な事例や論点を紹介する。

学修目標

1. ポピュラーカルチャーを論じるため、アートに関する基礎知識を修得する。
2. アート関連の事象を中心に方法論・論点を習得するための事例や視座を獲得する。
3. 私たちを取り巻く事象を批判的に検証できる視点を獲得する。

授業計画

本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回：自分と芸術の関わり（課題提出型）
- 第2回：一九世紀という時代：ミーメシス、メディアテクノロジー、複製技術（オンデマンド型）
- 第3回：芸術と「写実性」（オンデマンド型）
- 第4回：芸術と「視線」：マネ《草上の昼食》（オンデマンド型）
- 第5回：芸術と科学：印象主義、生理学（オンデマンド型）
- 第6回：メディアと文化（3）mediumと環境・場（オンデマンド型）
- 第7回：中間まとめ（課題提出型）
- 第8回：「見えること」と「見ること」：ゴッホ（オンデマンド型）
- 第9回：遠近法というパラダイム（1）セザンヌ（オンデマンド型）
- 第10回：遠近法というパラダイム（2）キュビズム（オンデマンド型）
- 第11回：消費文化とアート：ポップアート（オンデマンド型）
- 第12回：ミシェル・フーコーと表象、考古学、監獄、パノプティコン
- 第13回：フーコーと表象：ベラスケス《ラス・メニーナス》（オンデマンド型）
- 第14回：フーコーと表象：マネ《フォリー・ベルジェールのバー》（オンデマンド型）
- 第15回：総括（課題提出型）

授業外学習（予習・復習）

- ・予習：作品の所蔵先の情報や関連作品・事象の基本情報調査の時間として2時間程度。
- ・復習：授業中に言及された作品や文献情報の整理・読解に2時間程度。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じ参考書を用いる。

参考書

- ・ミシェル・フーコー 『監獄の誕生』（田村俣訳、新潮社）
- ・ミシェル・フーコー 『マネの絵画』（阿部崇訳、ちくま学芸文庫）
- ・ミシェル・フーコー 『言葉と物』（渡辺一民＋佐々木明訳、新潮社）

- ・鈴木杜幾子『フランス絵画の「近代」』（講談社メチエ）
 - ・『美術手帖』（雑誌）
 - ・笈菜奈子『めくるめく現代アート』（フィルムアート社）
- 他にも授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

1. 第1回と第7回の課題（20%）
2. 毎回の授業で課されるミニレポート（30%）
3. 期末レポート（50%）

オフィスアワー

毎週火曜日12時～13時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

1. 授業予定・内容は、必要に応じて変更する可能性がある。
2. レポートの剽窃・盗作に関しては、厳しく対処する。
3. 成績評価がレポートの場合、授業中に指示した形式や参考資料（文献、ウェブ、映像含む）の提示の仕方を守っていないレポートに関しては、採点の対象外とする。
4. 受講制限あり（上限70名）
5. manabaを使用して連絡を行う

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
FHS-CGX2101			
科目名			
日本古典文学研究A (旧 日本古典文学)			
英語名			
Classical Japanese Literature A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
富原カンナ		099-285-8904 (丹羽)	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
まず上代の文字表記の特質、万葉集の構成、語法について講義する。続いて万葉集の主要歌人の作品を取り上げ、諸本の本文、訓みを確認し、問題点を明らかにした上で、あるべき訓みを検討し、作品の解釈、文学史的意義について考察する。その方法を踏まえて、学生による発表を行う。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・上代の表記、語法についての知識、理解を深める。 ・万葉集の作品への理解を深める。 ・上代文学に影響を与えた中国文学についての関心を高める。 			
授業計画			
本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態を臨時に変更する場合は、予めmanabaのコースニュースで通知した上で、いずれの授業形態でも受講可能な配慮を取る。			
第1回：万葉集の概要 第2回：雄略天皇の巻頭歌 第3回：額田王の作品(1) 第4回：額田王の作品(2) 第5回：山上憶良の作品(1) 第6回：但馬皇女の作品 第7回：有間皇子挽歌 第8回：大伴旅人の作品(1) 第9回：大伴旅人の作品(2) 第10回：上代の表記について 第11回：山上憶良の作品(2) 第12回：大伴家持の作品(1) 第13回：大伴家持の作品(2) 第14回：防人歌・東歌 第15回：レポート指導・質問回答			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：講義で扱う作品を読み、コンテンツにあげた資料に目を通しておく(2時間)。 復習：参考としてあげた作品・文献を読むことで知識を広げ、考えを深める(2時間)。			
教科書			
『新校注 万葉集』(和泉書院)			
参考書			
『万葉事始』(和泉書院)			
成績の評価基準			
毎回の授業での質問の提出、および課題(50%) 期末課題(50%)			
オフィスアワー			
manabaの「個人指導」または「掲示板」にて受け付ける。			

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

免許教科の必修授業科目: 国語。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション1)
ナンバリングコード

FHS-CGX2149

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション1)

英語名

German Language & Culture 1a

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

與倉アンドレーア

099-285-7578

yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

1. 演習中心のドイツ語初級作文の授業である。
2. 簡単なドイツ語文を書く能力を修得することを、第一の目標とする。そのために、ドイツ語による手紙や履歴書、日記等の書式に関する基本的技術を教授しながら、受講者にも実際に書く訓練を行なう。
3. その他に、ドイツ語の発音と文法の基本的知識を教授する。

学修目標

基本的な用語等を使って自己表現する能力および相手の話の概略をつかみ取る聞き取り能力など、基本的なコミュニケーション能力を身につけることができる。

授業計画

授業形態は対面授業になります。

- 1回：オリエンテーション
- 2回：「レストランで」食事を注文する
- 3回：「レストランで」支払う
- 4回：「レストランで」話法の助動詞moechten, koennenなど
- 5回：「ホテルで」探す・予約する
- 6回：「ホテルで」直前予約のバック旅行
- 7回：「ホテルで」話法の助動詞moechten, koennen、及び指示代名詞
- 8回：ヨーロッパでの休暇
- 9回：「街で」道を尋ねる、両替する、
- 10回：「街で」切手を買う、タクシーに乗る
- 11回：「街で」定冠詞1・4格、不定冠詞4格、
- 12回：「旅行と交通」発車・到着時刻を訪ねる、
- 13回：「旅行と交通」駅で切符を買う、
- 14回：「旅行と交通」観光場所について話す、
- 15回：「旅行と交通」過去形 war, hatte、及び期末試験のための復習など、
- 16回：期末試験

*尚、新型コロナウイルス感染拡大の状況次第で、授業日程の変更や遠隔授業になることもあり得ます。

授業外学習 (予習・復習)

予習：毎回の授業 (ただし、初回はmanabaに掲載する) で提示される資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は2時間)

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は2時間)

教科書

適宜プリントの配布

参考書

必要に応じて適宜紹介する

成績の評価基準

中間試験、小テスト、5～10分程度の発表(1回)、定期的な日記、および期末試験に基づき、総合的に評価する。

オフィスアワー

月曜日3限目(12:50-14:20)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

?共通教育科目「第2外国語コア」としてドイツ語の単位を取得していること。

?ドイツ語圏の諸国またはドイツ語に大きな関心を持っていることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2104			
科目名			
日本近現代文学研究B (旧 日本近代文学)			
英語名			
Modern Japanese Literature B1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹本寛秋		099-220-1113	takemoto@k-kentan.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
日本の近代詩について、ジャンル編成、近代日本語の布置、文化的背景、表現的特質、主題的特質などに着目しながら考察する。			
詩というと、自分の内面を自由に表現したものと思いがちである。しかし、自由に内面を表現するという発想も、ある時期に形成された一つの思考法にすぎない。当時の状況を詳しく検討するならば、近代詩の表現についても、現在の私たちを捉えている思考方法についても、多様な可能性がありえることに気づくはずである。日本の近代詩の主要な作品・問題を取り上げつつ「日本近代詩」について考えることで、「文学」をとらえ直す思考法を身に付ける。			
学修目標			
「文学」を多様な角度から分析する方法を理解し、自分で設定した分析対象に対して適用できる。			
授業計画			
* 本授業は、毎回オンデマンド配信方式で行う予定である。なお、授業形態については、状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス：日本の近代詩について考えるために。			
第2回 詩と内面の問題をめぐって：「詩の作り方」の変遷から			
第3回 萩原朔太郎『月に吠える』			
第4回 萩原朔太郎『青猫』			
第5回 萩原朔太郎『氷島』			
第6回 萩原朔太郎『猫町』			
第7回 萩原朔太郎の問題1：「神秘」「象徴」の布置			
第8回 萩原朔太郎の問題2：「感情」「内面」「神経」をめぐって			
第9回 大手拓次『藍色の墓』			
第10回 室生犀星『愛の詩集』ほか			
第11回 高村光太郎『道程』ほか			
第12回 宮澤賢治『春と修羅』			
第13回 宮澤賢治、草稿の問題			
第14回 中原中也『山羊の歌』			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：指定されたテキストは、必ず読んでくること (標準的な時間は2時間)。復習：授業で紹介した資料、参考文献を読み、自分の考えをまとめること (標準的な時間は2時間)。			
教科書			
講義時に適宜配布する。			
参考書			
講義時に適宜紹介する。			
成績の評価基準			

毎回の授業ごとの提出物 (課題・リアクションペーパー) (40%) , 期末レポート (60%)、計100%

オフィスアワ -

メールにて連絡すること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2113

科目名

英語学研究 (旧 英語構造論)

英語名

English Linguistics

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

末松信子

099-285-7572

suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

本講義では、英語で書かれた英文法書を読みながら、英語の構造についての理解を深め、英語に関する感性を磨く。

学修目標

英文法に関する問題について論じることができる。英文法の知識に則った正しい英文を書くことができる。関心のある語法について、論理的かつ説得力のあるレポートを作成することができる。

授業計画

* 遠隔形式 (Zoomによるリアルタイム型) でおこなう予定である。(録画配信も行う。)

なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。

授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回 ガイダンス

第2回 Tense: present 時制 (現在形)

第3回 Tense: past 時制 (過去形)

第4回 Tense: progressive 時制 (進行形)

第5回 Tense: future 時制 (未来)

第6回 Tense: perfect 時制 (完了形)

第7回 Passive 受動態

第8回 Adjectives, Adverbs 形容詞、副詞

第9回 Comparison 比較

第10回 Nouns: singular and plural 名詞 (単数、複数)

第11回 Nouns: countable and uncountable 名詞 (数えられる名詞、数えられない名詞)

第12回 Pronouns: personal pronouns 代名詞 (人称代名詞)

第13回 Pronouns: indefinite pronouns, relative 代名詞 (不定代名詞、関係代名詞)

第14回 Determiners 限定詞

第15回 総括

第16回 期末レポート

授業外学習 (予習・復習)

予習: 教科書にあらかじめ目を通し予習する。(学習に係る標準時間は約2時間)

復習: 授業内容を振り返り、気づいたこと、考えたこと、質問をまとめる。配布されたプリント、辞書や参考書を利用して復習する。(学習に係る標準時間は約2時間)

教科書

Swan, Michael. 2016. Practical English Usage, 4th ed. Oxford University Press.

(プリントを配布)

参考書

石黒昭博 (監修) 『総合英語 Forest 7th Edition』 (桐原書店, 2013)
 綿貫陽、マーク・ピーターセン 『表現のための実践ロイヤル英文法』 (旺文社, 2011)
 江川泰一郎 『英文法解説 改訂三版』 (金子書房, 1991)

成績の評価基準

英文を正確に読み、内容を理解しているかについて、毎回の意見・質問の提出 (30%)、小テスト (20%)、期末レポート (50%) で評価する。

オフィスアワ -

水曜日 10:30 ~ 12:00

木曜日 10:30 ~ 12:00

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2223			
科目名			
地理学演習 A 1			
英語名			
Geography A1b			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁		099 285 7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>地域には、自然・人文の諸現象が存在し、地理学はそれらの分析を通じて地域の仕組みや特性を考える学問である。この授業では、人文地理学で取り扱う資料（地図・統計・名鑑）を用いて、地域の地理学的分析視角を解説すると共に、地図・統計類を用いて身近な地域を実際に分析することにより、地域の特性と地域に内在する諸問題の存在を明らかにする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に関する地理学的資料について理解し、取り扱うことができる。 ・ 地域に対する地理学の分析方法を理解することができる。 ・ 地域の諸問題に関する文献を収集し、整理することができる。 ・ 地域の地理的特性と地域に内在する諸問題を理解し、説明することができる。 			
授業計画			
<p>本授業は対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の事情で変更する可能性がある。その際は、予めmanabaのコースニュースなどで通知する。</p>			
<p>第1回 ガイダンス 第2回 地理学の諸分野 第3回 地理学の文献収集・整理1（人口） 第4回 地理学の文献収集・整理2（集落） 第5回 地理学の文献収集・整理3（産業） 第6回 地理学の文献収集・整理4（観光） 第7回 地理学の文献講読・発表1（人口） 第8回 地理学の文献講読・発表2（集落） 第9回 地理学の文献講読・発表3（産業） 第10回 地理学の文献講読・発表4（観光） 第11回 地域の地理学的分析1（人口） 第12回 地域の地理学的分析2（集落） 第13回 地域の地理学的分析3（産業） 第14回 地域の地理学的分析4（観光） 第15回 フィールドワーク</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。 予習：配付資料の通読（2時間） 復習：学習内容の振り返り（2時間）</p>			
教科書			
プリントを配布。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			

複数回の発表 (80%)
各回の取り組み態度 (20%)
オフィスアワ -
授業終了後、教室にて対応。
アクティブ・ラーニング
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; その他;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
教員からの発問を受けての思考・回答
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中14回
備考 (受講要件)
ゼミ所属学生 (2・3年生対象: 仮ゼミ所属生を含む) に限る。「地理学実習」と関連しているため、受講者は「地理学実習」をあわせて履修すること。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2205

科目名

西洋歴史・文化研究A(旧 西洋の歴史と社会A)

英語名

Western History & Culture A

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

細川道久

099-285-7525(法文学部学生係)

hos.leh.kagoshima-u.ac.jp は
アットマーク

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

本授業は、毎回オンデマンド形式で行なう予定であるが、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更するときは、授業内やmanabaにおいて連絡する。

カナダの歴史を学びながら、それがイギリス帝国やアメリカ合衆国の影響をたえず受けてきた点を理解することで、カナダの歩みをイギリス帝国史・アメリカ合衆国史とつなぐ大西洋関係史的視点を修得する。さらに、大西洋関係史にとどまらず、太平洋関係史、さらにはグローバル・ヒストリーへと視野を広げることの重要性を理解する。

学修目標

カナダの歴史の大筋を説明したうえで、以下の点につき、具体的な事例を取り上げて解説する。1)カナダの対外的な関係の変容：他地域の影響、特に英米の外圧に対していかに対応してきたのか。イギリス帝国やアメリカ合衆国との関係がどのように変容したのか。2)対外的な関係の変容に応じたカナダ社会内部の変容：大西洋世界・太平洋世界・グローバルな社会変化の中で、カナダはどのような移民を受け入れ、それによって社会がどのように変化したのか。

授業計画

- 第1回：イントロダクション 授業のねらい；カナダに関する基礎データ
 第2回：タラと毛皮 ヨーロッパと北米
 第3回：フランス植民地期 英仏抗争のはざままで
 第4回：アメリカ独立戦争と1812年戦争 イギリス系カナダの成立
 第5回：連邦結成への道 外圧(イギリス帝国政策)からか？内なる運動(植民地自治)か？
 第6回：連邦結成後のカナダ 政治・経済・文化面での植民地性
 第7回：北大西洋世界におけるカナダ(1) 南アフリカ戦争
 第8回：北大西洋世界におけるカナダ(2) アラスカ国境紛争
 第9回：北大西洋世界におけるカナダ(3) 第1次世界大戦とイギリス帝国からの自立
 第10回：北大西洋世界におけるカナダ(4) 強まるアメリカ合衆国の影響
 第11回：北大西洋世界におけるカナダ(5) 第2次世界大戦
 第12回：北大西洋世界におけるカナダ(6) 真の独立へ向けて
 第13回：世界とカナダ(1) 移民の流入：包摂と排除(ヨーロッパ移民、アジア移民の処遇)
 第14回：世界とカナダ(2) 多文化主義への道
 第15回：まとめと補足：大西洋関係史から太平洋関係史へ、そしてグローバル・ヒストリーへ

授業外学習(予習・復習)

講義で扱う内容について、参考文献で事前に予習しておくことが望ましい。また、講義資料や参考文献をもとに講義内容について復習しておくことが望ましい。予習・復習に用留守時間は、標準的にはそれぞれ1時間。

教科書

教科書に準ずる図書として、『カナダの歴史を知るための50章』細川道久編著、明石書店、2017年。

参考書

以下のうち、最低1冊は読むこと。『カナダの歴史を知るための50章』細川道久編著・明石書店、2017年(教

科書に準ずる図書)、『カナダの歴史がわかる25話』細川道久著・明石書店、2007年、『新版 史料が語るカナダ』日本カナダ学会編・有斐閣、『カナダ史』木村和男編著・山川出版社、1999年。その他、適宜紹介する。

成績の評価基準

レポート(全2回の予定:それぞれ50%)。レポートの実施日は、授業中に事前に通知する。イギリス帝国やアメリカ合衆国、あるいは世界全体の動きとカナダの歩みを関連づけて理解することは、「一国史」的理解とくらべて、どのような意義(面白さ)と問題点があるのか。単にカナダ史の事件に関する理解度を試すのではなく、関係史的視点と「一国史」的視点の双方に対する自分なりの批判的見解が持てるようになったかどうかを問い、評価する。

オフィスアワー

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

レポート(全2回の予定:実施日は授業中に事前に通知する。提出締切は厳守のこと)(いずれもmanabaを用いる)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「西洋の歴史と社会A」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2214

科目名

日本歴史・文化演習 A 1 (旧 日本史演習 III)

英語名

Japanese History & Culture A1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

厩尾達哉

連絡先 (TEL)

099-285-7552

連絡先 (MAIL)

k6941280@kada i . jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

日本後紀を音読し、漢文独特のリズムや約束事を学びながら、漢文史料の特徴をつかみ、平安時代前期の政治・制度・文化・人物にふれる。

学修目標

日本史を通時的に理解する上で必須の古代律令制の形成・展開過程について、適格な知識と判断力を習得し、日本史を史料に基づいて再構成し、日本史上の様々な問題を史料を深く読み込むことによって批判・考察する力を身につけることを授業の到達目標とする。

授業計画

第1回：ガイダンス
第2回：弘仁元年
第3回：弘仁2年
第4回：弘仁3年
第5回：弘仁4年
第6回：弘仁5年
第7回：弘仁6年
第8回：弘仁7年
第9回：弘仁8年
第10回：弘仁10年
第11回：弘仁11年
第12回：弘仁12年
第13回：弘仁13年
第14回：弘仁14年前半
第15回：弘仁14年後半

授業外学習 (予習・復習)

テキストについて、授業前に予習として2時間程度音読し、授業後、復習として2時間程度音読し、漢文史料の読み方を自ら体感する。。

教科書

プリントを配布する。

参考書

虎尾達哉『藤原冬嗣』（人物叢書、吉川弘文館、2020年）
虎尾達哉『古代日本の官僚』（中公新書、中央公論新社、2021年）

成績の評価基準

学生が積極的に授業に参加し、読み解き、歴史記述の妥当性を自ら批判的に検証しようとする積極的な姿勢の有無を毎時の授業で細かく評価し、さらに定期試験で評価する。配点割合は担当時の発表内容3割、毎時の意見・質問内容2割、定期試験5割とする。

オフィスアワ -

質問等に関しては個別に対応する。事前にメール等で連絡するように。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

前回分を指名して再度音読してもらう

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2132			
科目名			
書道実習（旧 書道）			
英語名			
Japanese Calligraphy			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	実習	1単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
松元徳雄		099 - 285-8904（丹羽）	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>中学校における書写教育の現況を概観し、その指導法を学習する。また、中学校書写教材と同じ課題を練習し、その執筆法を習得することに努める。さらに、楷書・行書を中心とした書の古典を学ぶことにより、書道全般の様式と技法の特徴を把握してもらうが、あくまでも中学校書写教育との関連性を重視する。</p>			
学修目標			
<p>(1) 書写教育の内容と特徴を把握する。 (2) 書写教育の的確な指導法を身につける。 (3) 楷書の特徴と基本的な技法を習得する。 (4) 行書の特徴と基本的な技法を習得する。 (5) 仮名の特徴と基本的な技法を習得する。 (6) 隷書・篆書の特徴と基本的な技法を習得する。</p>			
授業計画			
<p>授業は対面で実施する。</p> <p>第1回：書体の特徴とその変遷・中学校における書写教育について 第2回：楷書の特徴とその技法（基本点画の書き方） 第3回：楷書の特徴とその技法（2・4字の書き方） 第4回：楷書の古典とその技法 第5回：楷書の特徴とその技法（細字と氏名の書き方） 第6回：中学校で学ぶ楷書の基本とその応用 第7回：行書の特徴とその技法（基本点画の書き方） 第8回：行書の特徴とその技法（2・4字の書き方） 第9回：行書の古典とその技法 第10回：行書の特徴とその技法（細字と氏名の書き方） 第11回：中学校で学ぶ行書の基本とその応用 第12回：仮名の特徴とその技法（連綿・和歌一首） 第13回：仮名の古典とその技法 第14回：中学校で学ぶ漢字仮名交じり書 第15回：隷書・篆書の特徴とその技法</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>事前に中学校書写の教科書を通覧しておくこと（標準時間1時間）。授業後は、実習した課題を確認しながら、繰り返し練習をすること（標準時間1時間）。</p>			
教科書			
書写教育に関するプリントと実物大の手本を配布する。			
参考書			
中学校書写教科書・書道の古典			
成績の評価基準			

課題作品の提出(70%)、書写の態度(30%)を総合して評価する。
オフィスアワ -
集中講義期間中の月曜日～金曜日 1限～5限 当該教室
アクティブ・ラーニング
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
該当なし
アクティブ・ラーニング(授業回数)
該当なし
備考(受講要件)
教員免許(中学国語)の必修科目。対面で行う授業。 コロナ感染症拡大にともなって開講期を変更することがある。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 1 (旧 フランス語圏言語文化演習3)
ナンバリングコード

FHS-CGX2147

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 1 (旧 フランス語圏言語文化演習3)

英語名

Modern Cultural History of Europe & America 1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

梁川英俊

連絡先 (TEL)

099-285-8891

連絡先 (MAIL)

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

フランス語のテキストを読む。

学修目標

- (1) フランス語の文法的な知識を深める。
- (2) フランス語の聴き取り能力を向上させる。
- (3) フランス語による日常生活に必要な語彙を修得する。
- (4) フランス語圏の文化について知識を深める。

授業計画

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 テキスト購読および指導助言
第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

予習は必ず行ってください (2時間)。授業後は復習として、単語・構文等の見直しを必ず行ってください (2時間)。

教科書

特に指定せず、適宜紹介します

参考書

特に指定せず、必要に応じて適宜紹介します。

成績の評価基準

授業への取り組み態度 (50%) + 期末試験 (50%)

オフィスアワ -

授業日の昼休み

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

毎回

備考 (受講要件)

授業形態はコロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)
ナンバリングコード

FHS-CGX2149

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)

英語名

German Language & Culture 1b

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹岡健一

099-285-7577

takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

目的：本授業は、ドイツ語の読解力を高めるとともに、ドイツ語圏の文化への理解を深めることを目的とする。
内容：比較的易しいドイツ語の文章を訳読するとともに、ドイツ語圏の文化についてスライド等を用いて学び、学習者自らも調査・発表を行う。
方法：テキストの訳読とスライド等によるドイツ語圏の文化の学習、およびドイツ語圏の文化に関する調査と発表による。

学修目標

1. 比較的平易なドイツ語の長文を、辞書や文法書を使いながら訳読することができる。
2. ドイツ語圏の文化について、具体例をあげて説明できる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認
第2回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の国々）
第3回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の歴史）
第4回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の文学）
第5回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の音楽）
第6回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の映画）
第7回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（スライド等を用いた学習と意見交換：ドイツ語圏の生活）
第8回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第9回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第10回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第11回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第12回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第13回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第14回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化（学習者による調査・発表と意見交換）
第15回 まとめとふりかえり：身についた事柄の確認

期末試験は行わず、平素の授業への取り組み態度により評価する。

授業外学習（予習・復習）

予習：毎回の授業で扱うテキストの訳読とドイツ語圏の文化に関する発表の準備。（学修に係る標準時間は約2時間）

復習：訳読が不十分だった箇所を確認し、興味を持ったドイツ語圏の文化を調べる。（学修に係る標準時間は2時間）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

・根本道也他（編）：アポロン独和辞典（同学社、2010年）

- ・在間進：アクセス独和辞典（三修社、2010年）
- ・国松孝二：独和大辞典 コンパクト版（小学館、1999年）
- ・中島悠爾他：必携ドイツ文法総まとめ 改訂版（白水社、2003年）
- ・清野智昭：中級ドイツ語のしくみ（白水社、2008年）
- ・中山豊：中級ドイツ語文法 新装版（白水社、2018年）

成績の評価基準

テキストの訳読を60%、ドイツ語圏の文化の学習を40%する。

オフィスアワ -

月曜2限

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

共通教育の「初級独語?」と「初級独語?」の単位を取得していること。

平成28年度以前入学生は「ドイツ語テキスト演習」に読み替え。

プロジェクター使用。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2109			
科目名			
アジア言語研究A(旧 中国語学)			
英語名			
Asian Linguistics A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
三木夏華		0992857525(学生係)	hgakusei@leh.kagoshima-u.ac.jp(学生係)
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
一年以上中国語を履修した受講生を対象とし、六朝から唐代までの中国白話文献資料を実際に読むことにより、古代漢語の語法の特質を明らかにしたい。			
学修目標			
(1)白話資料の原文に慣れ親しむ。 (2)古代漢語から現代中国語までの語法の変化について、基本的な知識を習得する。			
授業計画			
この授業はオンライン(オンデマンド動画視聴・課題提出)で行う。 第1回 ガイダンス(白話について・講義の進め方)(オンデマンド) 第2回 講義「六朝の漢語」(オンデマンド) 第3回 『世説新語』1(課題提出) 第4回 『世説新語』2(課題提出) 第5回 講義「唐代の漢語」(オンデマンド) 第6回 『唐代伝奇』1(課題提出) 第7回 『唐代伝奇』2(課題提出) 第8回 講義「変文について」(オンデマンド) 第9回 『大目乾連冥間救母变文』1(課題提出) 第10回 『大目乾連冥間救母变文』2(課題提出) 第11回 『大目乾連冥間救母变文』3(課題提出) 第12回 『大目乾連冥間救母变文』4(課題提出) 第13回 講義「宋代の漢語」(オンデマンド) 第14回 『大唐三蔵取経詩話』1(課題提出) 第15回 『大唐三蔵取経詩話』2(課題提出) 第16回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】課題レポートに取り組む前に必ずオンデマンド講義を視聴し、メモをとること。 【復習】オンデマンド講義の内容をヒントに課題のテキスト本文を和訳すること (学習に係る標準時間は4時間)。			
教科書			
随時提示する。			
参考書			
随時紹介する。			
成績の評価基準			
課題レポート100%(レポートからオンデマンド講義未受講であることが明らかになった場合、減点対象となる)			

ので注意すること)。

オフィスアワ -

木曜 2 限目

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

16回中 2 回

備考(受講要件)

受講においては1年以上の中国語の学習経験を必要とする。

平成28年度以前入学生は「中国語学」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2510			
科目名			
現代文化論演習 1 (旧 現代文化論演習)			
英語名			
Culture In Modern Society 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
櫻井芳生		099-285-7544	sakurai.yoshio@nifty.com
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>【遠隔】授業自体を一つのコミュニケーション・メディアと見なす。いろいろな問題意識をもった学生さんの相互啓発・批判の場を構築する。各自の自由研究発表を中心とする。どんなテーマを選んでもけっこうです。やり方は各人の境遇におうじて、くわしく説明します。就職や進学に関心の強い人も歓迎します。</p> <p>授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある</p> <p>本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。</p>			
学修目標			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。性淘汰の理論を（感情でなく）批判的に検討できるようになる			
授業計画			
基本的に「講義資料・課題提示による授業」ですが、希望者が多ければ、ごく少数回「ZOOMによる、わいわい授業」もありえます（履修者の「ノリ」がよければ、ね！）。			
第1回	ガイダンス		
第2回	文献の探し方		
第3回	文献の批判		
第4回	下級生による発表 現代文化的視点		
第5回	履修生によるコメント 現代文化的視点		
第6回	コメントへのリプライ 現代文化的視点		
第7回	上級生による発表 流行論的視点		
第8回	履修生によるコメント 流行論的視点		
第9回	コメントへのリプライ 流行論的視点		
第10回	下級生による発表 メディア論的視点		
第11回	履修生によるコメント メディア論的視点		
第12回	コメントへのリプライ メディア論的視点		
第13回	全体討議		
第14回	フューチャーワークへの示唆		
第15回	総評		
授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある			
授業外学習 (予習・復習)			
期末に対応提出文を提出してもらうので、毎回の議論をよく復習しておくこと 毎回4時間			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
駿台文庫『論文ってどんなもんだい』。拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』（光文社）。桜井のHPの各文章			

成績の評価基準

期末提出物(30%)、平常点(発表40%、発言30%)。黙って休む人には単位を認定しない。

オフィスアワ -

木曜 5 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

ソクラテスメソッド

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中 15回

備考(受講要件)

桜井に論文指導を受けたいひとは、毎年度必ずとってください(同じコマに他の必修や教職関連がある場合をのぞく)。むずかしくはないですが、かなり課題はおおくなるとおもいます。ラクしたいヒトはとらないように。

では、たのしみましょー!

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2206

科目名

西洋歴史・文化研究B(旧 西洋の歴史と社会B)

英語名

Western History & Culture B

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

藤内哲也

099-285-8863

ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

テーマ：中近世ヨーロッパにおけるユダヤ人

ヨーロッパの歴史において、ユダヤ人が差別や迫害の対象となっていたことはよく知られています。しかし、見方を変えれば、キリスト教世界における「内なる他者」であったユダヤ人は、長年にわたってキリスト教徒とまがりなりにも「共生」し、多様な関係を築いていたと考えることもできます。

そこで本講義では、中世・近世ヨーロッパ、とりわけ「海の都」ヴェネツィアを中心としたイタリアにおけるユダヤ人の社会状況やキリスト教徒との関係などについて検討することで、異教徒・異文化集団間の多元的、重層的な関係性について考察していきます。

学修目標

- ・中近世ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史的状況について理解する
- ・異教徒・異文化間の「共生」や「排除」について考察できる
- ・現代世界の諸課題について考える視座を得る

授業計画

本授業は原則として遠隔方式(オンデマンド型)で実施します。ただし、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業時に通知します。

- 第1回：中近世ヨーロッパのユダヤ人へのまなざし
- 第2回：ユダヤ教とキリスト教
- 第3回：ユダヤ人のディアスポラ
- 第4回：中世ヨーロッパにおけるユダヤ人
- 第5回：中世ヨーロッパにおけるユダヤ人迫害
- 第6回：「第2のディアスポラ」
- 第7回：イタリアのユダヤ人
- 第8回：シャイロックはどこに住んでいたのか？
- 第9回：ゲッターのトポグラフィ
- 第10回：ヴェネツィアのゲッターとユダヤ人をめぐる表象
- 第11回：ユダヤ人の社会的結合とネットワーク
- 第12回：ヴェネツィアにおけるユダヤ人とキリスト教徒
- 第13回：都市文化とユダヤ人
- 第14回：強制洗礼と改宗
- 第15回：ユダヤ人の「解放」と近代社会

授業外学習(予習・復習)

【予習】西洋史やユダヤ史に関する知識が不足している場合には、参考書や初回授業時に紹介される概説書などを読んで基本的な事項について理解しておきます。

【復習】授業内容についてまとめ、授業時に紹介される参考文献などを読むことで、さらに理解を深めます。

教科書

とくに指定しません。適宜レジユメを配布します。

参考書

・服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房、2006年
 ・小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』ミネルヴァ書房、2011年
 その他の文献は、授業中に紹介します

成績の評価基準

小レポート(60%) + 期末レポート(40%)
 (1) 小レポート: 授業内容に関する課題への取り組みを評価します
 (2) 期末レポート: 授業内容に関する理解を重視します

オフィスアワー

金曜4限(メールにてアポをとること)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

とくになし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2216

科目名

アジア歴史・文化演習 A 1 (旧 アジア史演習3)

英語名

Asian History & Culture A1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

福永善隆

連絡先 (TEL)

099(285)7561

連絡先 (MAIL)

fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

テーマ：『史記』講読

『史記』は中国歴代王朝で編纂された正史のうち、最初のものである。その形式は以降の歴代正史に継承されている。本演習ではその秦代に関する部分の講読を通じ、司馬遷の歴史観などについて分析を行う予定である。

学修目標

- (1) 基礎的な漢文読解能力を身につける
- (2) 中国古代に関する基礎知識を身につける
- (3) 史料講読を通して、中国史の基礎的な分析視角を身につける

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：『史記』講読及び史料分析(1) テキスト312-313頁

第3回：『史記』講読及び史料分析(2) テキスト314頁

第4回：『史記』講読及び史料分析(3) テキスト317-318頁

第5回：『史記』講読及び史料分析(4) テキスト321頁

第6回：『史記』講読及び史料分析(5) テキスト322頁

第7回：『史記』講読及び史料分析(6) テキスト324頁

第8回：『史記』講読及び史料分析(7) テキスト325頁

第9回：『史記』講読及び史料分析(8) テキスト326頁

第10回：『史記』講読及び史料分析(9) テキスト327頁

第11回：『史記』講読及び史料分析(10) テキスト328頁

第12回：『史記』講読及び史料分析(11) テキスト328-329頁

第13回：『史記』講読及び史料分析(12) テキスト331頁

第14回：『史記』講読及び史料分析(13) テキスト333頁

第15回：総括

授業は対面形式で実施する

授業外学習 (予習・復習)

(予習) 毎回、テキストの指定箇所を前もって講読したうえで、出席することを求180180分程度)

(復習) 授業時に紹介した参考文献を読むことを推奨する(60分程度)。

教科書

『史記会註考証』(上海古籍出版社、2015年)〔授業中に配布〕

参考書

西嶋定生『秦漢帝国』(講談社、1997年)

その他、適宜、参考論文を紹介する

成績の評価基準

授業における質疑応答(70%)、レポート(30%)

オフィスアワ -

月曜3限(13:00~14:20)。事前にメールなどでアポイントをとること。。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

必ず辞書を持参のこと。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2119			
科目名			
哲学研究A (旧 西洋の人間と思想A)			
英語名			
Western Philosophy A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志		099-285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
哲学史上の重要問題を検討します。			
学修目標			
哲学史上の重要問題を理解し、それを明快な言語で叙述する方法を習得ことを到達目標とする。			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 哲学史のストーリー</p> <p>第3回 「魂」という原理</p> <p>第4回 アテナイの哲学</p> <p>第5回 地中海の哲学</p> <p>第6回 科学革命の時代</p> <p>第7回 デカルトの哲学</p> <p>第8回 心身問題</p> <p>第9回 経験論</p> <p>第10回 超越論的観念論</p> <p>第11回 生の哲学</p> <p>第12回 ジェイムズ</p> <p>第13回 ベルクソン</p> <p>第14回 心の哲学</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>オンデマンド</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
予習 テキストの問題点を各自まとめる (2時間)。			
復習 問題点の掘り下げと検討 (2時間)。			
教科書			
伊藤邦武『物語 哲学の歴史』			
参考書			
授業の際に適宜紹介。			
成績の評価基準			
以下の3点からおこなう。?読解の妥当性40% ?理解の発展性30% ?論理の整合性30%			
オフィスアワ -			
月曜・3限			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中3回

備考 (受講要件)

受講要件: 「哲学概論」および「倫理学概説」の単位を取得していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2511			
科目名			
報道論演習1 (旧 マスコミ論演習)			
英語名			
Journalism Studies 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
マスコミ報道の大きな分野である事件事故報道について、さまざまな角度から考える。被疑者の人権、被害者の人権は？ そもそも事件事故報道は社会にとって必要なのか。あなたも裁判員に選ばれる可能性があるなか、社会人としての基本的態度を培いたい。日々のニュースも参考にしながら授業を進める。			
学修目標			
事件報道のありようから社会のありように、より関心を持ってもらう。 ネット社会の下、新聞、テレビという旧来のメディアの存在意義を考えてもらう。			
授業計画			
第1回	逮捕って何？	刑事訴訟法と報道の現状	
第2回	事件記者の現場	報道の自由と社会の受け止め	
第3回	被害者の実名・匿名1	プライバシーと事実の報道	
第4回	被害者の実名・匿名2	メディアスクラム	
第5回	被疑者の実名・匿名1	事実の報道と社会的制裁	
第6回	被疑者の実名・匿名2	事実の報道とえん罪	
第7回	別件逮捕の危険性	警察追従の記者たち	
第8回	性犯罪とえん罪	便利な条例の落とし穴	
第9回	えん罪事件の罪深さ	「供述」情報に乗った責任	
第10回	死刑制度の重さ	世論とどう向き合う	
第11回	国策捜査と報道	国家の思惑と事実	
第12回	調査報道の意義	記者のしたかさと社の覚悟	
第13回	内部告発の重さ	告発者と取材記者の関係	
第14回	災害と報道	問われる記者の覚悟と配慮	
第15回	記者クラブのありよう	日本独自システムの功罪	
授業外学習 (予習・復習)			
事件を報じる新聞、テレビ、ネットニュースにできるだけ目を通す。報じられる中身の背景、メディアの特性にも注意をめぐらす。			
教科書			
なし			
参考書			
共同通信社発行『記者ハンドブック』、日本新聞協会発行『実名と報道』、宮下正昭著『予断』（筑摩書房）、 マーティン・ファクラー著『「放蕩のこと」を伝えない日本の新聞』（双葉新書）、高田昌幸ほか編『権力v s 調査報道』（旬報社）、加藤久晴著『原発テレビの荒野』（大月書店）、清水潔著『殺人犯はそこにいる』（新潮社）			
成績の評価基準			
授業での感想レポートと期末試験の結果から総合的に判断する			
オフィスアワー			
金曜午後 ただし事前に連絡を			

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

基本対面授業の予定です。状況次第では遠隔もあります。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2136

科目名

中国言語文化演習B1 (旧 中国言語文化論演習)

英語名

Chinese Language & Culture B1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

中筋健吉

099-285-8893

gunshi@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

本授業では前年度につづき、杜甫の「封西岳賦」を講読する。

杜甫は同時代の李白とともに「李絶杜律」と併称され、中国古典詩史を代表する詩人として名高いが、生涯において7篇の賦作品を残している。

賦は中国古典文学の文体の一つであり、有韻無韻の文をとりまぜた長文の文芸である。漢代に盛行し、以後時代により様々に形を変化させて存続した。

本篇は杜甫の長安宮廷出仕の契機となったいわゆる獵官運動的の性質をもつ作品の一つであるが、本作の鑑賞を通じて、当時が杜甫おかれていた状況やその心情の理解につとめたい。

学修目標

本作品および関連する作品の講読、またそれを通じて中国古典文学作品や注釈の読解方法、および関連する各種文献の取り扱い方を学ぶ。

授業計画

各受講生が事前に指定された部分の本文および注について、読解発表を行う。発表にあたっては、本文原文、注を訓読し、現代日本語に訳したものを発表する。受講生は

余力があれば、他の作品を読む。

本授業は、全回を対面式で実施するが、種々の状況により変更する可能性がある。

なお、授業形態を変更する場合には、manabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回： オリエンテーション：
- 第2回： 杜甫の経歴：『旧唐書』『新唐書』杜甫本傳
- 第3回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(1)
- 第4回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(2)
- 第5回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(3)
- 第6回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(4)
- 第7回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(5)
- 第8回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(6)
- 第9回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(7)
- 第10回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(8)
- 第11回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(9)
- 第12回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(10)
- 第13回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(11)
- 第14回： 「封西岳賦」講読：発表と討論(12)
- 第15回： まとめ

授業外学習(予習・復習)

予習：毎回の授業で講読する作品について、事前に辞書等を検索し、自らも読解して出席すること。

復習：授業にもとづいて、自分の読解を再検討すること。

教科書

事前にテキストプリントを配布する。

参考書

黒川洋一『杜甫詩選』（岩波文庫）
川合康三『杜甫』（明治書院）

成績の評価基準

授業中の発表報告とレジュメ(50%)および期末レポート(50%)の結果を考慮して総合的に評価する。

オフィスアワ -

不在時以外随時。但し、事前にメールにてご連絡下さい。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中12回(予定)

備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「中国言語文化論演習」に読み替える
本シラバスはあくまで計画であるので、受講者数その他の状況によって、適宜変更の可能性もある。変更の際は通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2227			
科目名			
考古学演習 1 a (旧 物質文化論演習)			
英語名			
Archaeology 1a			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>学術論文はどのような構成になっているか、を理解するために、考古学関係の論文を用いながら、受講生がその論文に関するレジュメを作成し、発表する。また4年生は卒業論文の進捗状況について発表する。</p>			
学修目標			
<p>学術論文の構成を理解するとともに、自らが卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 第2回 学生による発表とディスカッション1 第3回 学生による発表とディスカッション2 第4回 学生による発表とディスカッション3 第5回 学生による発表とディスカッション4 第6回 学生による発表とディスカッション5 第7回 学生による発表とディスカッション6 第8回 学生による発表とディスカッション7 第9回 学生による発表とディスカッション8 第10回 学生による発表とディスカッション9 第11回 学生による発表とディスカッション10 第12回 学生による発表とディスカッション11 第13回 学生による発表とディスカッション12 第14回 学生による発表とディスカッション13 第15回 学生による発表とディスカッション14 (対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業とする)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>各学生による発表を主体とするので、そのための予習は必須 (2時間)。また授業での議論・指摘等をもとに復習する (2時間)。</p>			
教科書			
なし。			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
平常点 (70%)・期末レポート (30%)			
オフィスアワー			
月曜3限目 (12:50~14:20)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
学生が選択した論文をレジュメにまとめ発表し、その内容について議論する。			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

平成23年度以前の入学生は「物質文化論演習」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2143			
科目名			
英語コミュニケーションA			
英語名			
English Communication A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ・コダ		099-285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
None		前期	
授業概要			
<p>The primary goal of this class is discussion about sensitive social topics. You will improve your speaking skills.</p> <p>Due to the university's restrictions on students talking in the classroom, this class will be held real-time on Zoom.</p>			
学修目標			
<p>You will be given vocabulary and reading exercises about the topic overseas as homework to prepare you for the following week's discussion. Each class, you will discuss in small groups as well as work on different activities connected to the theme. Each week will look at a different topic. You will also be expected to continue your discussion practice outside of the classroom as well as look for data from Japan connected with the next topic.</p>			
授業計画			
<p>Due to the university's restrictions on students talking in the classroom, this class will be held real-time on Zoom. If there are any changes to this, I will let you know via Manaba.</p> <p>Week 1 Introduction Week 2 Cosmetic surgery Week 3 Cheating on your partner Week 4 Prostitution Week 5 Sexual harrassment Week 6 Animal rights Week 7 Get married or stay single Week 8 Immigration and racism Week 9 Abortion Week 10 Changing sex Week 11 Gays and jobs Week 12 Vanity Week 13 Euthansia Week 14 Drugs Week 15 Death penalty Week 16 Test</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>You will be expected to gather information to use in your discussions as well as review the words and grammar covered in the class. There will be other homework given during the semester that will</p>			

be explained at the time. You should expect to spend over four hours a week on homework and preparation each week.

教科書

Handouts will be given

参考書

Bring your dictionaries.

成績の評価基準

Classwork/Homework 50% (授業中の活動・課題 50%)

Final test 50% (期末試験50%)

オフィスアワ -

Anytime is ok, but mail me to make sure I'm in!

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

None

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2130			
科目名			
言語と文化演習			
英語名			
Language & Culture 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎		099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>最近の言語と社会や文化の関係についての研究から、言語現象の分析のための視点を養うことを目指す。今学期は、ことばのバリエーションの捉え方を、「翻訳がつくる日本語」(中村桃子著、白澤社)の購読を通して、ことばとアイデンティティおよびメディアとことばの関連の問題を考える。授業は文献の講読、受講生の報告などをもとに進める。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語学の基礎を学び、ことばに関する問題に気づくことができる 2. 言語学の知識にもとづいて、ことばの問題を分析することができる 3. ことばと社会、文化の様々な現象を関連付けて説明できる 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回 ガイダンス(授業概要,成績評価,レポート提出方法の説明など) 第2回 翻訳の不思議1:西洋のヒロインは「女ことば」を話す 第3回 翻訳の不思議2:西洋の若者は「気さくな男ことば」を話す 第4回 翻訳の不思議3:黒人は「方言」を話す 第5回 翻訳には何が現れるか1:ことばづかいとアイデンティティ 第6回 翻訳には何が現れるか2:日本語らしさと女ことば 第7回 翻訳には何が現れるか3:男ことばは何を作り出すか 第8回 翻訳には何が現れるか4:翻訳と差別-方言にまつわる問題- 第9回 翻訳が変える日本語1:親疎という基準でことばを見る 第10回 翻訳が変える日本語2:女ことばと攻撃性 第11回 翻訳が変える日本語3:字幕の日本語-強い女はどう話すか- 第12回 翻訳が変える日本語4:翻訳と言語イデオロギー 第13回 メディアとことばのバリエーション1:メディアはことばにどう影響するか 第14回 メディアとことばのバリエーション2:おネエキャラのことば 第15回 まとめ (内容や順序は変更することもある)</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習: 授業前に必ず教科書,文献等に目を通しておくこと。関係図書が指定された場合は必ず目を通して授業に望むこと。(120分) 復習: 各回の内容を教科書等を読み確認し,課題レポートを提出すること(120分)</p>			
教科書			
中村桃子 著 『翻訳がつくる日本語: ヒロインは「女ことば」を話し続ける』(白澤社)			
参考書			
中村桃子著『新敬語「マジヤバイっす」』白澤社			

<p>中村桃子著『性と日本語』NHK出版 クレア・マリィ著『発話者の言語ストラテジーとしてのネゴシエーション』ひつじ書房 クレア・マリィ著『おネエことば論』青土社 その他適宜指示する</p>
<p>成績の評価基準</p>
<p>毎回の授業に関する課題（レポート）（50%），期末レポート（50%）</p>
<p>オフィスアワ -</p>
<p>月曜5限</p>
<p>アクティブ・ラーニング</p>
<p>その他；</p>
<p>アクティブ・ラーニング（その他の内容）</p>
<p>毎回の授業に関する課題（レポート）の提出による</p>
<p>アクティブ・ラーニング（授業回数）</p>
<p>15回中14回</p>
<p>備考（受講要件）</p>
<p>太田一郎ゼミの2，3年生は必ず受講すること。 毎回PC，タブレット等を持参すること。</p>
<p>実務経験のある教員による実践的授業</p>
<p>該当なし</p>

ナンバリングコード

FHS-CGX2106

科目名

言語と文化

英語名

Language & Culture

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎		099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

最近の方言学と社会言語学の研究成果をもとに、方言と標準語、新しい方言の形成、方言変化と社会の関連などのトピックを中心に、日本語の地域方言の現状を中心に紹介・解説する。方言を取り巻く問題を批判的に考察することを通して、ことばと社会の関係、文化としてのことば、人間にとってのことばという存在の問題を言説に感わされることなく柔軟にとらえるための視点を養うことを目指す。

【注意】テレビのパラエティション等で取り上げられる「面白おかしい方言のはなし」をする講義ではない。その旨注意して受講すること。

学修目標

1. 言語学の基礎を学び、ことばに関する問題に気づくことができる
2. 言語学の知識にもとづいて、ことばの問題を分析することができる
3. ことばと社会、文化の様々な現象を関連付けて説明できる

授業計画

本授業は、原則として毎授業時間（月曜10:30-12:00）にzoomで授業を行う。できるだけリアルタイムでの受講を勧めるが、授業後に映像を視聴するオンデマンド形式での参加も可能である。（ただし、授業映像の公開はレポート提出期限との関係で毎授業週の水曜23:55までとする。）

なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「方言」をどう考えるか
- 第3回 方言を研究するという事
- 第4回 国語の中の「方言」
- 第5回 言語分析の基本概念：音韻，形態，統語
- 第6回 言語の多様性(1)：標準語と方言
- 第7回 言語の多様性(2)：言語変種と言語変異
- 第8回 地域語の多様性(1)：地域方言
- 第9回 地域語の多様性(2)：社会方言
- 第10回 方言の変化(1)：ネオ方言
- 第11回 方言の変化(2)：新方言
- 第12回 言語への意識
- 第13回 中間方言の形成
- 第14回 方言のイメージ
- 第15回 メディアと方言，スタイルとしての方言（方言コスプレ）
- 第16回 まとめ（レポート作成）

【重要な注意】

授業回数や内容は変更になることもある。

授業外学習（予習・復習）

予習：指定された資料等に目を通して授業に参加すること（120分）

復習：毎回講義内容をまとめ、論点を整理し、疑問点等を確認すること（120分）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

真田信治編著『方言学』（朝倉書店）

小林隆ほか『シリーズ方言学』（岩波書店）

徳川宗賢・真田信治編著『新方言学を学ぶ人のために』（世界思想社）

日比谷潤子編著『はじめて学ぶ社会言語学』（ミネルヴァ書房）

井上史雄『日本語ウォッチング』（岩波新書）

田中ゆかり『方言コスプレの時代』（岩波書店）

成績の評価基準

毎授業後のレポート80%（出席していない者のレポートは提出しても採点対象外）

学期末のレポート20%

オフィスアワー

月曜5限 研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

毎授業後のレポート提出

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

(1) ことばの問題に関心のある人。

(2) レポートの提出は毎週水曜日23:55。毎回のレポート提出はかなり負担になることを承知して履修すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2511

科目名

報道論演習1(旧 マスコミ論演習)

英語名

Journalism Studies 1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

宮下正昭

連絡先(TEL)

090-8295-6853

連絡先(MAIL)

mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

人々の暮らしをより豊かに幸せにする、その一翼を報道機関も担っている。しかし、対外的な問題では国籍ジャーナリズムに陥り、国民の暮らしにとっては最悪の事態、戦争へと導きかねない危険性もはらんでいる。

社会を戦争へ駆り立てた戦前、戦中の報道を振り返りながら、現在の日々の出来事、ニュースからその問題点を検証、社会のありようを考える。

随時、ドキュメンタリー番組なども活用し、議論を深めたい

学修目標

マスコミ、報道機関は社会にとって必要か。過去の歴史や他国の例も交えて考える。

歴史を検証しながら、日々のニュースを検証し、報道の在り方を学ぶ。

ネット世論の動向も注視し、旧来のメディアとともにリテラシーを育む。

授業計画

第1回	国家の枠で生きる	国籍ジャーナリズムの限界
第2回	戦争とメディア1	日中戦争 鼓舞する新聞
第3回	戦争とメディア2	太平洋戦争と大本営発表
第4回	領土問題報道	尖閣、竹島、北方領土問題と暮らし
第5回	慰安婦報道	彼我の違い 複合的視野をもつには
第6回	北朝鮮報道1	「拉致被害者を返せ」の熱風
第7回	北朝鮮報道2	国家に囚われるメディア
第8回	在日米軍報道	沖縄メディアと中央メディア
第9回	在日米軍報道	沖縄とニッポン
第10回	皇室報道1	天皇制と日本社会
第11回	皇室報道2	タブーとメディア
第12回	ネット右翼	その吸引力と既存メディア
第13回	戦争を報じる1	問われるスタンス
第14回	戦争を報じる2	プロパガンダの怖さ
第15回	メディアと自分	情報に翻弄されていないか

授業外学習(予習・復習)

日々のニュースをできるだけチェックを。ネットだけでなく新聞、テレビという旧来のメディアからも情報を。

毎回、授業の感想レポートを当日中に提出してもらいます(manaba上で)。提出後、他の受講生のレポートも読んで、復習としてください。

教科書

特に指定しない。興味があれば、以下の参考書を購読すること。授業に必要な資料はコピーして配布する。

参考書

『そして、メディアは日本を戦争に導いた』半藤一利・保阪正康著(東洋経済新報社)

『ネットと愛国』安田浩一著(講談社) 『聖堂の日の丸』宮下正昭著(南方新社)

『「本当のこと」を伝えない日本の新聞』マーティン・ファクラー(双葉新書)

『報道の自己規制』上出義樹著(リベルタ出版)

成績の評価基準

授業での感想レポートと期末試験を基本に、総合的に判断する

オフィスアワー

金曜午後 事前に連絡を

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

授業中にドキュメンタリー番組を上映することも少なくないから対面授業を基本とする。マスク着用のうえ受講すること。教室は空調のうえ、窓を開放するなどコロナ対策をとる。状況によっては遠隔授業に切り替える。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2120			
科目名			
哲学研究B (旧 西洋の人間と思想B)			
英語名			
Western Philosophy B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
近藤和敬		099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
哲学とは何かということについて、重要な近代哲学について学びます。また近代哲学のなかでもそのひとつの中心概念となる「自然」、「法」、「国家」、「人間」の概念を軸に、哲学史との関係について理解を深める。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋哲学についての理解を深める。 2. 近代哲学について理解を深める。 3. 授業で扱う主題について理解する。 4. 哲学を理解するうえで必要な基本的知識を獲得する。 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代社会における法と法則、科学と政治 2. カントの批判哲学 1 3. カントの批判哲学 2 4. ヘーゲルの法哲学と国家論 5. マルクス 1 6. マルクス 2 7. オーギュスト・コント 8. ニーチェ 9. プトゥルーからデュルケムへ 10. デュルケムとその後??モース、レヴィ=ブリュール、マリノフスキー 11. アインシュタインとシュレディンガー 12. ドゥルーズ 13. ドゥルーズとガタリ 14. フーコーからラトウルへ 15. まとめ 人間と自然という問題系 			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業でもちいる資料を授業の前後に読んで予習と復習をすること。 ・ 授業で取り上げた書籍などを授業後などに自分で読むことを復習として行うことが望ましい。予習1時間、復習1時間 			
教科書			
授業中に適宜指示する。主に授業用の資料をワードで提供する予定。			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業後の振り返り (マナバの掲示板への書き込み) とまとめの小テスト (20%) で評価する。 <p>マナバ掲示板への書き込みには一定のルールを設けます (一つの授業の書き込みと次の授業の書き込みのあいだには、最低2日以上あいたを空けること。かつ、最終授業公開日から1週間までの書き込みのみを有効とする。以上から、13回書き込むとして、39日前から3日ごとに書き始めるのが最終期限となります。最終月や最終</p>			

週にまとめて書き込んだものの一部は有効性が認められません)
振り返りの評価基準：1) まとめとしての適切さ、2) 論理的整合性、3) 追加資料などの自主的な学習の有無
オフィスアワ -
随時 (オンデマンドなのでマナバの掲示板などで連絡してください)
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし
アクティブ・ラーニング (授業回数)
すべて
備考 (受講要件)
哲学概論および倫理学概説をすでに受講済みであることが望ましいです (そこで話された内容は知っているものとして講義しますし、実際には続きになっています)。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2217

科目名

アジア歴史・文化演習 B 1 (旧 アジア史演習4)

英語名

Asian History & Culture B1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

大田由紀夫

連絡先 (TEL)

099-285-7560

連絡先 (MAIL)

ota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

テーマ：『明史紀事本末』（課題提出型 + オンデマンド配信遠隔授業）

明朝一代の歴史を簡潔にまとめた『明史紀事本末』の明朝成立史に関する部分を講読していく予定である。

学修目標

基礎的な漢文読解能力を養うことをめざす。

授業計画

各回はすべて対面授業の予定。なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は 変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知します。

第1回 ガイダンス

第2回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-1、テキスト217頁9行目

第3回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-2、テキスト217頁後1行目

第4回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-3、テキスト218頁7行目

第5回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-4、テキスト218頁後5行目

第6回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-5、テキスト219頁2行目

第7回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-6、テキスト219頁5行目

第8回 まとめ(1) 第2~7回の読解部分の復習・確認など

第9回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-7、テキスト219頁9行目

第10回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-8、テキスト219頁後3行目

第11回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-9、テキスト220頁2行目

第12回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-10、テキスト220頁8行目

第13回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-11、テキスト220頁後4行目

第14回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-12、テキスト221頁4行目

第15回 まとめ(2) 第9~14回の読解部分の復習・確認など

授業外学習 (予習・復習)

演習で講読する史料の当該部分を事前に予習しておくことが望ましい(2時間)。また、配布資料をもとに講読した部分について復習することが望ましい(2時間)。

教科書

『明史紀事本末』（中華書局、1977年）。史料プリントを配布。

参考書

参考文献リストを配布。

成績の評価基準

演習における受講態度(30%)、レポート(70%)などから総合評価する。

オフィスアワー

月曜12時~12時50分

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

史料の読解、それに関する質疑応答。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

必ず辞書持参のこと。

平成18年度以降の入学生は2単位、平成17年度以前の入学生は1単位となります。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されています。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2225

科目名

地理学実験 (旧 フィールド学実験(地理学))

英語名

Geographical Experiments

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

実験

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

吉田 明弘・小林 善仁

連絡先 (TEL)

099-285-7543

連絡先 (MAIL)

aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

この実験は地理学分野で用いられている様々な調査法(実験・分析など)を修得することを目的としている。授業内では様々な測量機器や分析機器などを使って、受講生が実際に作業をする。これによって受講者は地理学分野の研究論文や著者などが、どのような方法・技法によって作成されたかを知ることができる。さらに、地理学関係の卒業論文をまとめるためにも、この実験で習得する調査法は必須条件である。

学修目標

地理学の調査・研究に必要な方法・技法を修得することができる。

授業計画

本授業は対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の事情で変更する可能性がある。その際は、予めmanabaのコースニュースなどで通知する。

第1回：オリエンテーション

第2回：平板測量

第3回：水準測量

第4回：地形観察

第5回：気温観測

第6回：地形図判読1 - 地形

第7回：地形図判読2 - 土地利用

第8回：テフラ分析

第9回：空中写真判読1 - 山地

第10回：空中写真判読2 - 平野

第11回：地形分類図作成

第12回：土地利用図作成

第13回：花粉分析

第14回：地形分類図発表会

第15回：授業の総括

授業外学習(予習・復習)

予習(2時間)：各時間で行われる実験、実習の内容を事前に文献等で把握す。また事前に配布された資料を読み、実験の手順や準備品などを確認する。

復習(2時間)：実験で得られた結果を整理するとともに、その意味について文献等で把握すること。

教科書

毎回、プリントを配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

授業終了後に、その回の実験結果をまとめたレポートを課す。この実験レポート(70%)と授業へ取り組む態度(30%)を総合的に評価する。なお、実験レポートを未提出の場合は欠席とみなす。

オフィスアワ -

実験終了後にフィールド学実験室や研究室等で随時受け付ける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

測量，化学実験，写真判読など

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

地理学分野では，室内での実験と野外でのフィールドワークは相互に深く関わっている。受講者は地理学実習を受講することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2212			
科目名			
考古学研究C (旧 考古学地域論)			
英語名			
Archaeology C			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中村直子		099-285-7270	k8315479@kada i . jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
南九州は日本列島の南部に位置し、南西諸島島嶼部とも隣接している。また、世界有数の火山地帯でもあり、南九州先史時代文化にこれらの地理的な特徴が大きく影響している。本授業では、南九州の縄文時代から古墳時代の文化変遷や特徴について、発掘調査の成果や出土品の解析をもとに解説する。			
学修目標			
(1) 南九州の地理的特徴について、説明することができる。			
(2) 南九州先史時代の時代区分とその変遷について説明することができる。			
(3) 南九州先史時代の生業活動とその変遷について説明することができる			
(4) 南九州縄文時代・弥生時代・古墳時代それぞれにおける南九州の文化的な特徴を説明することができる。			
授業計画			
本授業は、毎回オンデマンド形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回：オリエンテーション			
第2回：先史時代の時期区分と地域区分			
第3回：南九州の地形的特徴			
第4回：縄文時代開始期の南九州			
第5回：縄文時代アカホヤ火山灰の文化的影響とその後			
第6回：縄文時代から弥生時代の栽培植物			
第7回：南九州における水田稲作農耕の開始			
第8回：南九州弥生時代の集落と構造			
第9回：南九州古墳時代の集落と構造			
第10回：南九州弥生時代の葬墓制			
第11回：南九州における古墳の築造			
第12回：南九州における古墳以外の葬墓制			
第13回：南九州弥生時代・古墳時代の社会階層			
第14回：南九州における古代社会の開始			
第15回：南九州の先史時代における文化的特徴			
第16回：期末試験			
授業外学習 (予習・復習)			
予めmanabaに掲載された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約2時間)。授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復讐を行う (標準的時間は2時間)。			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
担当教員が適宜指示する。			
成績の評価基準			
manabaでの毎回のコメントと小テスト (70%)、期末レポート (30%) で評価する。			

オフィスアワ -

火曜日 1 限授業終了後30分。質問や相談等あれば、manabaの個別指導、e-maiでも随時受け付けます。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

最新の研究成果や発掘調査情報を随時取り入れるため、当初の講義内容を変更する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2207			
科目名			
地理学講義A(旧 テーマ地理学III)			
英語名			
Physical Geography			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
歴史地理学は、現在の景観を出発点として、過去の地域の仕組みや景観などを考えるものである。本講義では、歴史地理学の問題・関心から研究手法、資料などを概説し、身近な地域である鹿児島(薩摩国・大隅国・鹿児島城下など)や九州各地の事例を日本の他地域の事例と比較しながら、その地域性を考えていく。			
学修目標			
1. 歴史地理学の研究方法を理解できる。 2. 歴史地理学的な問題の発見及びその考察と説明ができる。 3. 鹿児島の歴史地理を理解できる。			
授業計画			
基本的に遠隔方式(オンライン型)で行う予定であるが、一部は対面・課題提出型で行う。授業形態を変更する場合には、予めmanabaのコースニュースと授業内で告知する。			
第1回 ガイダンス【対面】 第2回 歴史地理学の研究手法1 - 地理学の中の歴史地理学【オンライン型】 第3回 歴史地理学の研究手法2 - 地理学の研究視角【オンライン型】 第4回 歴史地理学の研究資料1 - 城下町絵図【オンライン型】 第5回 歴史地理学の研究資料2 - 旧版地形図【オンライン型】 第6回 土地の呼び方1 - 自然地名【オンライン型】 第7回 土地の呼び方2 - 人文地名【オンライン型】 第8回 土地の呼び方3 - 鹿児島の地名【オンライン型】 第9回 鹿児島の歴史地理1 - 旧城下町鹿児島【オンライン型】 第10回 鹿児島の歴史地理2 - 近代初頭の鹿児島の都市景観【オンライン型】 第11回 鹿児島の歴史地理3 - 近代鹿児島の商工業【オンライン型】 第12回 鹿児島の歴史地理4 - 近代鹿児島の観光・交通【オンライン型】 第13回 鹿児島の歴史地理5 - 鹿児島市街地の拡大と郊外【オンライン型】 第14回 フィールドワーク【対面】 第15回 まとめ【課題提出型】			
授業外学習(予習・復習)			
講義で配布する資料の内容・図表を熟読し、興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。 予習: 配付資料の通読(2時間) 復習: 学習内容の振り返り(2時間)			
教科書			
とくに無し。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
期末レポート(80%)・複数回の小レポート(20%)			

オフィスアワ -

講義・会議の時間以外ならいつでも可。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2126			
科目名			
日本近現代文学演習A1 (旧 日本文学演習)			
英語名			
Modern Japanese Literature A1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
多田蔵人		099-285-7525 (法文学部学生係)	hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>テーマ： 幻想小説を読む</p> <p>日本の近代文学のなかには、いわゆる幽霊や妖怪、超常現象、神、魔術といった領域を描いた作品が、少なからざる割合で存在する。これらの作品は、書かれることによって何を夢想し、何を呼び寄せようとし、結果としてどのような事態を引き起こしていたのか。優れた作品を読み、調べてゆく過程で、そのことのヒントを見つけたいと思っている。毎回一篇の短篇を読みあわせ、発表者は調べた上で自分の解釈を発表し、討論を行う。比較的著名な作家とともに、今日あまり顧みられることのないマイナー作家の作品も取り扱う。</p>			
学修目標			
・日本近代文学の基礎知識を習得し、文学的想像力の問題に関する知見を深める。			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：泉鏡花『蠅を憎む記』</p> <p>第3回：三島由紀夫『志賀寺上人の恋』</p> <p>第4回：夢野久作『人の顔』</p> <p>第5回：澁澤龍彦『護法』</p> <p>第6回：谷崎潤一郎『天鷲絨の夢』</p> <p>第7回：石川淳『瓜喰ひの僧正』</p> <p>第8回：宮澤賢治『双子の星』</p> <p>第9回：幸田露伴『望樹記』</p> <p>第10回：佐藤春夫『指紋』</p> <p>第11回：江戸川乱歩『目羅博士の不思議な犯罪』</p> <p>第12回：岡本かの子『過去世』</p> <p>第13回：円地文子『かの子変相』</p> <p>第14回：久生十蘭『新残酷物語』</p> <p>第15回：牧野信一『繰舟で往く家』</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
指定したテキストを必ず読んでくること。			
教科書			
授業時に適宜配布する。			
参考書			
授業時に適宜配布する。			
成績の評価基準			
毎回の提出物 (20%)、発表 (40%)、期末レポート (40%) を総合して評価する。			
オフィスアワー			
月曜3限			

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2151

科目名

哲学演習 A 1 (旧 西洋の人間と思想A演習1)

英語名

Western Philosophy A1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

柴田健志

連絡先 (TEL)

285-7533

連絡先 (MAIL)

siba@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

- (1) 哲学的テキストの読解
- (2) レポートの作成

学修目標

古典的テキストを正確に読解し、レポートを作成する方法の習得を目標にします。

授業計画

- 第1回 テキスト読解ガイダンス
- 第2回 テキスト読解：デカルト『第1省察』懐疑
- 第3回 テキスト読解：デカルト『第1省察』感覚
- 第4回 テキスト読解：デカルト『第1省察』身体
- 第5回 テキスト読解：デカルト『第1省察』数学
- 第6回 テキスト読解：デカルト『第2省察』自由意志
- 第7回 テキスト読解：デカルト『第2省察』知性
- 第8回 テキスト読解：デカルト『第2省察』心身の分離
- 第9回 テキスト読解：デカルト『第2省察』思考作用
- 第10回 テキスト読解：デカルト『第2省察』思考と身体
- 第11回 テキスト読解：デカルト『第2省察』心身の合一
- 第12回 レポート作成法ガイダンス
- 第13回 レポート作成法：テーマ
- 第14回 レポート作成法：校正
- 第15回 レポート作成法：引用

対面

授業外学習 (予習・復習)

予習 テキストの指定された範囲を精読 (2時間)。

復習 問題点の確認および検討 (2時間)。

教科書

デカルト『省察 情念論』中央公論

野田又夫『デカルト』岩波新書

参考書

成績の評価基準

以下の3点からおこなう。?読解の妥当性40% ?理解の発展性30% ?論理の整合性30%

オフィスアワー

月曜・3限

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし
アクティブ・ラーニング(授業回数)
15回のうち3回
備考(受講要件)
特になし
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2128			
科目名			
中国文学演習A1 (旧 中国文学演習)			
英語名			
Chinese Literature A1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
中国文学(詩)の入門編。中国文学を学習するうえでの基礎的知識の習得を目的とする。中国文学において特に重要なジャンルである詩を取り上げて、その詩形、平仄、韻律、押韻等の基本的な知識や文法的特徴を講義し、また、辞書の種類、その使い方、各種参考図書についての基本的知識についても、あわせて説明を行う。			
学修目標			
漢和辞典の歴史、基本的事項についての理解を深める。中国古典詩についての規則を理解した上で、近体詩(五言絶句)の作成を実際に行う。また、テキストに基づいて、中国古典詩の読解を行う。以上を通じて、漢文読解の基本的事項についての理解を深めることを目標とする。			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回	オリエンテーション		
第2回	遊竜門奉先寺		
第3回	望岳		
第4回	登?州城楼	第5回	房兵曹胡馬
第6回	画鷹		
第7回	夜宴左氏莊		
第8回	春日憶李白		
第9回	送孔巢父謝病歸遊江東兼呈李白		
第10回	奉贈韋左丞丈		
第11回	高都護?馬行	第12回	同諸公登慈恩寺塔
第13回	兵車行		
第14回	送高三十五書記		
第15回	陪鄭広文遊何將軍山林		
授業外学習(予習・復習)			
予習: 次の授業で扱う詩について、テキストの注釈を参考に意味を理解し、訓読できるようにしておくこと。約2時間。			
復習: 授業中に学んだ内容について復習し、原文から訓読できるようにしておくこと。約2時間。			
その他: 時間内で学習する中国古典詩は極めて限られています。小川環樹『唐詩概説』(岩波文庫)を始め、中国古典詩の解説書は文庫本で簡単に手に入ります。出来るだけ多くの作品に触れるようにしてください。			
教科書			
黒川洋一『杜甫詩選』(岩波文庫、1991年)			
参考書			
小川環樹『唐詩概説』(岩波文庫、2005年)			
周勳初『中国古典文学批評史』(高津孝訳、勉誠出版、2007年)			
川合康三『新編中国名詩選』上中下(岩波文庫、2015年)			
成績の評価基準			

プレゼンテーション(40%)とミニッツ・ペーパーなど(60%)で評価を行う。

オフィスアワ -

金曜日・2限・高津研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

なし。

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)
ナンバリングコード

FHS-CGX2220

科目名

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)

英語名

Western History & Culture B1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
藤内哲也		099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

中近世イタリア史に関する5つのテーマを取り上げ、日本語論文と英語訳史料を合わせて読むことで、当該テーマに関する知見を深めるとともに、歴史研究における問題の立て方や史料の分析方法、論の進め方について理解します。

学修目標

- ・ヨーロッパの歴史研究に必要な資料や論文の読解力を習得します
- ・ヨーロッパの歴史研究の視点や問題意識を習得します

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行います。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業中に通知します。

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：都市という環境?：日本語テキスト
- 第3回：都市という環境?：英語訳史料（市壁の建設・都市の社会構造）
- 第4回：消費生活?：日本語テキスト
- 第5回：消費生活?：英語訳史料（奢侈条例）
- 第6回：消費生活?：英語訳史料（人口増加と穀物不足）
- 第7回：信仰の世界?：日本語テキスト
- 第8回：信仰の世界?：英語訳史料（教区司祭の選出）
- 第9回：信仰の世界?：英語訳史料（兄弟会）
- 第10回：統治技法?：日本語テキスト
- 第11回：統治技法?：英語訳史料（都市政府による文法教師の雇用）
- 第12回：統治技法?：英語訳史料（文書局）
- 第13回：書物と文化?：日本語テキスト
- 第14回：書物と文化?：英語訳史料（出版契約・分冊システム）
- 第15回：まとめと展望

授業外学習（予習・復習）

【予習】テキストを読み、疑問点などをまとめます。英語訳史料の場合には、テキストを読み、分からない単語や文法、用語などについて調べ、日本語訳を考えます。

【復習】テキストや討論の内容についてまとめます。また、参考文献などを読んで、さらに理解を深めます

教科書

とくに指定しません。適宜プリントを配布します

参考書

服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年
井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年
このほかの文献については授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

テキストの読解と授業への積極的な参加（予習・発表・討論など）：60%

期末レポート(テキストのまとめと批判・考察) : 40%	
	オフィスアワ -
金曜 4 限 (メールにてアポをとること)	
	アクティブ・ラーニング
プレゼンテーション; その他;	
	アクティブ・ラーニング (その他の内容)
日本語・英語テキストの読解	
	アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中13回	
	備考 (受講要件)
とくになし	
	実務経験のある教員による実践的授業
該当なし	

ナンバリングコード

FHS-CGX2230

科目名

考古学実習1 (旧 フィールド学実習(考古学))

英語名

Practical Archaeology 1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

実習

単位数

1単位

開講期

2~4年

担当教員

渡辺芳郎、石田智子

連絡先 (TEL)

099-285-7539

連絡先 (MAIL)

watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

未定

前後期

前期

授業概要

分布調査、発掘調査等をおこなう過程の中で、踏査および資料の記録化の方法、遺跡調査の基本技術としての測量の仕方、機器の扱い方等を実践的に学習する。遺構・遺物に対する正確な認識と実測技術を養成する。

学修目標

考古学研究の前提となる諸技術の習得を目標とする。

授業計画

土・日、祝日、長期休暇中等に学外において実施する。
対面授業。

授業外学習 (予習・復習)

授業で実施する技法修得のための予習 (2時間) ・復習 (2時間) が必要。

教科書

なし

参考書

なし

成績の評価基準

平常点 (100%)

オフィスアワー

月曜日 3 限目

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

考古学調査に必要なさまざまな技術を共同で学ぶ

アクティブ・ラーニング (授業回数)

全回

備考 (受講要件)

「考古学実習2」もあわせて必ず受講すること。
必要経費は自己負担。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2202			
科目名			
日本歴史・文化研究B(旧 日本文化史)			
英語名			
Japanese History & Culture B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
金井静香		099-285-7553	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>文化史は近年多様化しており、日本史においても様々な物事に関して文化史が叙述されている。また、文化史は政治史や社会史、経済史といった中世史の他の分野とも関わっている。こうした状況をふまえ、本授業では、幅広い日本文化のなかから具体的な事物・現象をテーマとして選び、主に中世を中心とするその変遷をたどるとともに、そこから見えてくる中世の政治・社会・経済の実態について考察する。</p> <p>下記の「授業計画」では、「日記」をテーマとする開講期の授業計画を記す。</p>			
学修目標			
<p>(1) 日本の歴史および日本文化についての知識を習得する。</p> <p>(2) 日本史の史料を読み、その内容を理解できる。</p> <p>(3) 日本中世史の研究動向について理解し、自分で説明できる。</p>			
授業計画			
<p>遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する場合は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：建武期の日記(1) 建武新政 第3回：建武期の日記(2) 建武期を記録した日記 第4回：南北朝期の日記(1) 南北朝期の朝廷と幕府 第5回：南北朝期の日記(2) 公家の日記 第6回：南北朝期の日記(3) 女性の日記 第7回：室町期の日記(1) 朝廷と足利義満・義持 第8回：室町期の日記(2) 朝廷と足利義教・義政 第9回：室町期の日記(3) 公家の日記 第10回：室町期の日記(4) 幕府奉行人の日記 第11回：室町期の日記(5) 僧侶の日記 第12回：戦国期の日記(1) 戦国期の朝廷と幕府 第13回：：戦国期の日記(2) 公家の日記 第14回：：戦国期の日記(3) 地方武士の日記 第15回：総括</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習：2時間 予告されているテーマに関する書籍や論文、webサイトなどを探して読む。</p> <p>復習：2時間 講義内容を復習する。</p>			
教科書			
特になし。			
参考書			
授業中に適宜紹介または配布する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(30%)、期末レポート(70%)			

オフィスアワ -

月曜日 5 限

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

responの回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

学芸員資格取得のための単位となる。漢文読解能力を有することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2230

科目名

考古学実習1 (旧 フィールド学実習(考古学))

英語名

Practical Archaeology 1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

実習

単位数

1単位

開講期

2~4年

担当教員

渡辺芳郎、石田智子

連絡先 (TEL)

099-285-7549

連絡先 (MAIL)

ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

分布調査、発掘調査等をおこなう過程の中で、踏査および資料の記録化の方法、遺跡調査の基本技術としての測量の仕方、機器の扱い方等を実践的に学習する。遺構・遺物に対する正確な認識と実測技術を養成する。

学修目標

考古学研究の前提となる諸技術の習得を目標とする。

授業計画

土・日、祝日、長期休暇中等に学外において実施する。
コロナ感染拡大防止のため変更される場合もあります。

授業外学習 (予習・復習)

授業で実施する技法修得のための予習(2時間)・復習(2時間)が必要である。

教科書

なし

参考書

なし

成績の評価基準

平常点 (100%)

オフィスアワ -

授業・会議のないときはいつでも可

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

考古学調査に必要なさまざまな技術を共同で学ぶ

アクティブ・ラーニング (授業回数)

全回

備考 (受講要件)

「考古学実習2」もあわせて履修すること。必要経費は自己負担。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2144

科目名

英語コミュニケーションB

英語名

English Communication B

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ・コダ

099-285-7573

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

None

後期

授業概要

The primary goal of this class is to learn how to structure your ideas for discussions as well as learning how to hold a formal debate.

学修目標

This class will focus on discussion and debate. Each week we will do different tasks in class to build your discussion skills as well as learning how to organise and participate in a formal debate. You will also be expected to continue your discussion practice outside of the classroom. This class will be useful if you are taking the 教員採用試験

授業計画

Due to the university's restrictions on talking in the classroom, this class has to be held real-time on Zoom. If there are any changes to this, I will let you know via Manaba.

Week 1 Introduction

Week 2 Learning how to explain your ideas

Week 3 Practice

Week 4 Learning how to organise your ideas

Week 5 Practice

Week 6 Learning how to support your ideas

Week 7 Practice

Week 8 Learning how to challenge others' ideas

Week 9 Practice

Week 10 Learning how to defend your ideas

Week 11 Practice

Week 12 Feedback

Week 13 Group research for final debate

Week 14 Group preparation for final debate

Week 15 Final debate and peer evaluation (1st group)

Week 16 Final debate and peer evaluation (2nd group)

授業外学習 (予習・復習)

You will be expected to gather information to use in your discussions/debates. You will also be expected to watch debates on Youtube - more information will be given about this in class. You should expect to spend about two hours on homework each week.

教科書

None - handouts will be given.

参考書

You can use your smartphone to access online dictionaries.

成績の評価基準

Classwork 50%

Final debate 50%

オフィスアワ -

Anytime is ok, but to mail me to make sure I'm in!

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

None

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

You can only register for this class if you are doing 教職 (英語)

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2131

科目名

日本古典文学リテラシー実習（旧 書誌学実習）

英語名

Literacy of Classical Japanese Literature

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

実習

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

丹羽謙治

連絡先（TEL）

099-285-8904

連絡先（MAIL）

niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

和漢の古典文学を研究する場合、くずし字を読むことができ、古典籍全般に対する書誌学的知識があることは重要なことである。本実習では、書籍の部位の名称などの基礎知識を持ち書籍の調査法について習熟した後、実際に書籍の調査を行う。また、毎時間さまざまなタイプのくずし字を読む訓練を行う。

学修目標

1. 日本・アジアの古典籍およびその歴史についての基礎知識を持つ。
2. 書誌調査の基本的作業に熟達する。
3. 文学諸ジャンルの形態についての知識を持つ。
4. 基本的なくずし字が読解できる。

授業計画

【授業は対面で実施する】ただし、コロナ感染症拡大の状況によっては遠隔に切り替えることもある。

第1回：導入

第2回：書籍の構造と名称

第3回：日本の書物の歴史 / くずし字の読解練習

第4回：日本の印刷の歴史 / くずし字の読解練習

第5回：近世以前の書物 / くずし字の読解練習

第6回：近世の文学ジャンルと書物の形態（1） 仮名草子と浮世草子 / グループによる書誌調査 / くずし字の読解練習

第7回：近世の文学ジャンルと書物の形態（2） 読本 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習

第8回：近世の文学ジャンルと書物の形態（3） 滑稽本 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習

第9回：近世の文学ジャンルと書物の形態（4） 中本 / 書誌調査の実践 / くずし字の試験（1）

第10回：近世の文学ジャンルと書物の形態（5） 草双紙 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習

第11回：近世の文学ジャンルと書物の形態（6） 和歌・俳諧・漢詩文 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習

第12回：書誌調査の実践 往来物 / くずし字の読解練習

第13回：書誌調査の実践 一枚物・古文書 / くずし字の読解練習

第14回：書誌調査の実践 唐本 / くずし字の読解練習

第15回：まとめとくずし字の試験（2）

授業外学習（予習・復習）

教科書を繰り返し読み、専門用語の習得を行う（予習2時間）、読めなかつたくずし字の確認を行う（復習2時間）。

教科書

堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）

参考書

廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社）

橋口侯之介『和本入門』（平凡社）

藤井隆『日本書誌学総説』（和泉書院）

中野三敏『江戸の板本』（岩波書店）

児玉幸多編『くずし字解説辞典』（東京堂出版）

成績の評価基準

授業および課外で調査した調査カードをレポートとして提出、これを評価する（80％）。また、くずしの読解能力の試験を第9回と第15回に行う（20％）。

オフィスアワ -

月曜5限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

1回

備考（受講要件）

教員免許（国語）の選択科目。平成28年以前入学生は「書誌学実習」（2単位）に読み替え。
manabaを使用して連絡や指示を行うので随時アクセスして確認を怠らないようにすること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2504			
科目名			
現代文化論			
英語名			
Culture In Modern Society			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
櫻井芳生		0992857544	yoshiosakuraig@gmail.com
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>テーマ「現代文化についてのリサーチ（調査）リテラシーの涵養」。まるまる一期（半年）かけて、現代文化に関する調査をおこないます。「手をつかう」課題がおおくなるので、【覚悟！】して履修してください。「どんなヒトが恋愛に成功したか」「最近のスマホの使い方」も調査するかもしれません。</p> <p>本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。</p>			
学修目標			
現代文化に関して、自分で、仮説を構築し、調査を設計し、その検証ができるようになる。性淘汰の理論を批判的に（感情でなく）検討できるようになる			
授業計画			
基本的に「講義資料・課題提示による授業」ですが、希望者が多ければ、ごく少数回「ZOOMによる、わいわい授業」もありえます（履修者の「ノリ」がよければ、ね！）			
<p>第1回ガイダンス</p> <p>第2回先輩学生のプレゼンテーション</p> <p>第3回先行研究の検討</p> <p>第4回先行研究への代案作成</p> <p>第5回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。文化チーム</p> <p>第6回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。流行チーム</p> <p>第7回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。メディアチーム</p> <p>第8回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。スマホチーム</p> <p>第9回アンケートの作成</p> <p>第10回アンケートの配布</p> <p>第11回アンケートの回収</p> <p>第12回収アンケートからのデータ入力</p> <p>第13回データクリーニング</p> <p>第14回データの分析</p> <p>第15回各チームによる分析結果発表と相互評価</p>			
授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある			
授業外学習（予習・復習）			
アンケート案の作成 分析 毎回4時間			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』（光文社）。『文系のためのSPSS超入門』（プレアデス出版）。			

成績の評価基準

平常点50%、レポート50%。

履修者全員による共同プロジェクトですので、遅刻する人・黙って休む人には単位を認定しない。毎回の参加度・提出物による評価。

オフィスアワー

木曜 5 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

遅刻する人・黙って休む人には単位を認定しない。体調不調などの場合は事後でもいいので、必ずメール連絡すること。桜井に論文指導を受けたいひとは、每期とってください（同じコマに他の必修や教職関連がある場合をのぞく）。むずかしくはないですが、かなり課題はおおくなるとおもいます。ラクしたいヒトはとらないように。ITについての予備知識は不要です。繰り返しの履修も可。統計についてはこのコマで十分ご教示できません。ので、統計関係の他の科目の履修を強くおすすめします。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2122

科目名

日本語学演習A1 (旧 日本語構造論演習)

英語名

Japanese Linguistics A1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

内山弘

pon@leh.kagoshima-u.ac.jp

099-285-8906

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

『天正狂言本』は天正六年(1578)七月の奥書を持つ、現存最古の狂言本である。収録曲は重複曲を除けばわずかに103曲、しかも粗筋や歌謡部分を記した梗概本に過ぎないが、室町期に成立した唯一の狂言本であり、日本語学的にも文学的にも極めて重要な資料を提供してくれる文献として知られている。

本演習では、まず『天正狂言本』所収の「恋のおふぢ」を対象として江戸期の改作版である「枕物狂」と比較して中世的狂言がどのように改作されていたのか、その実態を論文を通して見ていく。その後は『天正狂言本』を中心資料として、詞章の比較や語句の解釈等の具体的な作業を通して、室町時代の日本語に関する知識を深めるとともに、文献日本語史研究の方法について実地に習熟を図っていく。

学修目標

- ・ 翻字や語釈の作成、台本の比較等の具体的な作業を通して日本語資料の基礎的な研究方法を具体的に学ぶことができる。
- ・ 狂言台本という親しみやすい文献を通して古典の世界に親しむ下地を養成できる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回: ガイダンス

第2回: 受講生による演習の実施(1)「木のへ殿の申ちやう」前半

第3回: 受講生による演習の実施(2)「木のへ殿の申ちやう」後半

第4回: 受講生による演習の実施(3)「こふうり」前半

第5回: 受講生による演習の実施(4)「こふうり」後半

第6回: 受講生による演習の実施(5)「いもし関」その1

第7回: 受講生による演習の実施(6)「いもし関」その2

第8回: 受講生による演習の実施(7)「いもし関」その3

第9回: 受講生による演習の実施(8)「たちんさとう」前半

第10回: 受講生による演習の実施(9)「たちんさとう」後半

第11回: 受講生による演習の実施(10)「まりさとう」

第12回: 受講生による演習の実施(11)「ぬのかひさとう」

第13回: 受講生による演習の実施(12)「馬かりさとう」その1

第14回: 受講生による演習の実施(13)「馬かりさとう」その2

第15回: 受講生による演習の実施(14)「馬かりさとう」その3

レポート

授業外学習(予習・復習)

予習: 演習担当者は事前に教員に連絡を取り、演習内容についてメールで相談すること(必須)。演習準備にはトータルで30~60時間程度必要。

復習: 演習時に指摘された内容を整理し、問題点について再調査して解決を図ること。(2時間)

教科書

『天正狂言本』法政大学能楽研究所所蔵原本の複写

参考書

特に定めない。

成績の評価基準

授業に対する取り組み態度 (20%) + 演習内容 (20%) + レポート (60%)

オフィスアワ -

金曜5限。事前にメールでアポイントメントを取れば他の時間でも可能。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

本授業に続けて日本語学演習B1も受講することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2215

科目名

日本歴史・文化演習 B 1 (旧 日本史演習V)

英語名

Japanese History & Culture B1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

金井静香

連絡先 (TEL)

099-285-7553

連絡先 (MAIL)

kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

中世古記録の読解を行う。受講者は、テキストのなかから各自の担当箇所を割り当てられ、その箇所に見える語句や登場する人物などについて事前に調べる。授業においては、出席している受講者全員が数行ずつ読み下しと現代語訳を行い、授業担当教員がそれを点検する。また、各受講者は自分に割り当てられた部分のなかから興味深いテーマを見だし、それについて調べ考察したことを発表する。

下記の「授業計画」では、『玉葉』元暦元年2月6日条～3月22日条を読む開講期の授業計画を記す。

学修目標

- (1) 中世古記録の読解力を向上させる。
- (2) 史料を用いた研究の方法に習熟する。
- (3) 自ら課題を設定し、それについて考察することができる。

授業計画

本授業は、毎回対面方式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回：ガイダンス

第2回：元暦元年2月6日～10日条の読み下し及び現代語訳

第3回：元暦元年2月6日～10日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第4回：元暦元年2月11日～14日条の読み下し及び現代語訳

第5回：元暦元年2月11日～14日条の現代語訳及びテーマ考察発表 1時間15分

第6回：元暦元年2月15日～22日条の読み下し及び現代語訳

第7回：元暦元年2月15日～22日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第8回：元暦元年2月23日条の読み下し及び現代語訳

第9回：元暦元年2月23日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第10回：元暦元年2月24日～3月2日条の読み下し及び現代語訳

第11回：元暦元年2月24日～3月2日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第12回：元暦元年3月3日～12日条の読み下し及び現代語訳

第13回：元暦元年3月3日～12日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第14回：元暦元年3月13日～22日条の読み下し及び現代語訳

第15回：元暦元年3月13日～22日条の現代語訳及びテーマ考察発表

授業外学習 (予習・復習)

予習：2時間 各自、テキストの読み下しと現代語訳を行う。発表を担当する受講者は、レジュメの作成も行う。

復習：2時間 再度テキストを通して読んでおく。

教科書

『玉葉』『看聞日記』などの中世古記録を予定している。

参考書

授業中に適宜紹介または配布する。

成績の評価基準

読み下し及び現代語訳 (35%)、テーマ考察の発表もしくはレポート (35%)、授業への取り組み態度 (30%)
。

オフィスアワ -

月曜日 5 限

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

史料の読み下し及び現代語訳、テーマ考察の発表とその後の討論

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

フランス言語・文化演習a (旧 フランス言語文化論演習1)
ナンバリングコード

FHS-CGX2150

科目名

フランス言語・文化演習a (旧 フランス言語文化論演習1)

英語名

French Language & Culture a

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

梁川英俊

099-285-8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

初級仏語で学んだフランス語の基本的な文法事項を確認しながら、フランスのニュースに出て来る生きたフランス語を学びます。

学修目標

- (1) フランス語の文法的な知識を深める。
- (2) フランス語の聴き取り能力を向上させる。
- (3) フランス語による日常生活に必要な語彙を修得する。
- (4) フランス語圏の文化について知識を深める。

授業計画

- 第1回 ガイダンス (課題提出型授業)
第2回~第14回 テキスト購読および指導助言 (課題提出型授業)
第15回 まとめ (課題提出型授業)

なお、今後の状況次第では授業回数や内容が変更となる可能性があります。

授業外学習 (予習・復習)

予習は必ず行ってください (2時間)。授業後は復習として、単語・構文等の見直しを必ず行ってください (2時間)。

教科書

特に指定せず、適宜紹介します

参考書

特に指定せず、適宜紹介します

成績の評価基準

毎回の課題提出 (100%)

オフィスアワー

授業日の昼休み

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

毎回

備考 (受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2223			
科目名			
地理学演習 A 1 (旧 人文地域論演習)			
英語名			
Geography A1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>地域には、自然・人文の諸現象が存在し、地理学はそれらの分析を通じて地域の仕組みや特性を考える学問である。この授業では、人文地理学で取り扱う資料（地図・統計・名鑑）を用いて、地域の地理学的分析視角を解説すると共に、地図・統計類を用いて身近な地域を実際に分析することにより、地域の特性と地域に内在する諸問題の存在を明らかにする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に関する地理学的資料について理解し、取り扱うことができる。 ・ 地域に対する地理学の分析方法を理解することができる。 ・ 地域の地理的特性と地域に内在する諸問題を理解し、説明することができる。 			
授業計画			
<p>本授業は対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の事情で変更する可能性がある。その際は、予めmanabaのコースニュースなどで通知する。</p>			
<p>第1回 ガイダンス 第2回 地理学の諸分野 第3回 地理学の資料1（人口統計） 第4回 地理学の資料2（農業統計） 第5回 地理学の資料3（地形図） 第6回 地理学の資料4（名鑑） 第7回 地理学の文献講読・発表1（人口） 第8回 地理学の文献講読・発表2（集落） 第9回 地理学の文献講読・発表3（農業） 第10回 地理学の文献講読・発表4（工業） 第11回 地域の地理学的分析1（人口） 第12回 地域の地理学的分析2（集落） 第13回 地域の地理学的分析3（農業） 第14回 地域の地理学的分析4（工業） 第15回 総括（課題提出型） 第16回 期末レポート</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。 予習：配付資料の通読（2時間） 復習：授業内容の振り返り（2時間）</p>			
教科書			
プリントを配布。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			

成績の評価基準	
・ 各回の課題提出 (50%)	
・ 期末レポート (50%)	
オフィスアワ -	
授業終了後に、教室で対応。	
アクティブ・ラーニング	
ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;	
アクティブ・ラーニング (その他の内容)	
教員からの発問を受けての思考・回答	
アクティブ・ラーニング (授業回数)	
15回中13回	
備考 (受講要件)	
特になし	
実務経験のある教員による実践的授業	
該当なし	

ナンバリングコード

FHS-CGX2204

科目名

アジア歴史・文化研究B (旧 アジア文化史)

英語名

Asian History & Culture B

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大田由紀夫

099-285-7560

ota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

テーマ：中国近世における人的結合・家族
 社会の基層を構成する人的結合・家族などを題材として取り上げ、現在に至るまでの中国史研究の成果に基づいてそれらの存在形態を論じていくことにより、近世中国社会が持っていた特質を概観する。その際、他の社会（日本・西欧）と中国とを対比させつつ、両者の差異なども浮き彫りにしていく予定。

学修目標

1. 家族や人間関係のあり方から中国近世社会の特質について理解し、2. 東アジア諸社会の各々の異同に関する体系的な歴史知識の獲得を目標とする。

授業計画

各回はすべて遠隔授業（オンデマンド配信型）。なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は 変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知します。

- 第1回 ガイダンス
 第2回 中国の歴史空間 1 生態環境
 第3回 中国の歴史空間 2 歴史空間
 第4回 『阿Q正伝』にみる人間類型 1 「阿Q」の人物像
 第5回 『阿Q正伝』にみる人間類型 2 序列意識
 第6回 『阿Q正伝』にみる人間類型 3 面子
 第7回 旧中国の人間関係の特質 1 「関係」
 第8回 旧中国の人間関係の特質 2 「人情」
 第9回 旧中国の人間関係の特質 3 旧中国の社会観
 第10回 旧中国の家族 1 家族の諸特徴
 第11回 旧中国の家族 2 「同居共財」
 第12回 旧中国の家族 3 総合的考察
 第13回 日本の「家」と中国の家 1 日本の「イエ」
 第14回 日本の「家」と中国の家 2 中国の家
 第15回 まとめ

授業外学習（予習・復習）

（予習）10世紀宋代以降の中国史概説書に目を通しておくことが望ましい（2時間）。（復習）講義資料・ノートをもとに前回の講義内容について復習して理解を深めておくことが望ましい（2時間）。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

受講態度（30%）、提出課題および期末レポート（70%）などから総合評価する。

オフィスアワ -

木曜12時～12時50分

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

講義内容に関するレポート作成、質疑応答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回。

備考(受講要件)

アジア文化史に読み替え可。学芸員資格取得のための選択科目「文化史」の単位となる。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2227			
科目名			
考古学演習 1 b (旧 考古学演習)			
英語名			
Archaeology 1b			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
考古学に関する基礎文献を読む。担当者は文献に関するレジュメを作成して発表する。文献内容や発表方法に対して、全員で議論し、理解を深める。			
学修目標			
1) 考古学の基礎知識や方法論を理解し、説明できるようになる。 2) 情報を収集・整理し、論理的に説明し、議論する一連の過程を通じて、自分の考えを口頭表現・文章表現で他者に的確に伝える技能を修得し、実践する。 3) 卒業論文の作成にむけての基礎スキルを身につける。			
授業計画			
授業は対面形式で実施予定。ただし、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス 第2回 課題文献の選定、役割分担 第3回 学生の発表と議論(1) 第4回 学生の発表と議論(2) 第5回 学生の発表と議論(3) 第6回 学生の発表と議論(4) 第7回 学生の発表と議論(5) 第8回 学生の発表と議論(6) 第9回 学生の発表と議論(7) 第10回 学生の発表と議論(8) 第11回 学生の発表と議論(9) 第12回 学生の発表と議論(10) 第13回 学生の発表と議論(11) 第14回 学生の発表と議論(12) 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
予習：課題文献を読解し、内容を要約する。標準的時間は2時間。 復習：文献や議論の内容を振り返り、学習内容を復習する。標準的時間は2時間。			
教科書			
課題文献を授業内で指示、配布する。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
発表内容(課題文献のまとめかた、発表方法など)(60%)と授業にのぞむ姿勢(事前学習、質疑応答、授業中の発言など)(40%)を評価の基準とする。			
オフィスアワ -			

授業時間終了後30分(12:00~12:30)。質問や相談等があれば、manabaの個別指導、E-mail(ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp)、法文学部1号館4階石田研究室でも随時受け付けます。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2145

科目名

社会言語学演習 1 (旧 社会言語学演習)

英語名

Sociolinguistics 1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

太田一郎

連絡先 (TEL)

099-286-7566

連絡先 (MAIL)

iota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

テキストの講読を通して、英語には音声や文法などに地域的・社会的に多様なバリエーションがあること、そしてその変異は人と社会の様々な側面の反映であることを学ぶことで、ことばから見た英語圏の社会のあり方についての知識を深め、英語圏の文化を理解する幅広い視野を涵養する。また英語の言語変異研究においては、北米で開発された言語変異分析用コンピュータプログラムVARBRULが利用されることが多い。この授業でもVARBRULを使って計量的に英語の多様性をとらえる技法を学び、文献に見られる統計結果の理解力を高める。

学修目標

- (1) 人間のことばの一般的な性質について述べることができる
- (2) ことばにかんする問題の本質を社会との関係でとらえて考えることができる
- (3) 英語圏の社会・文化とことばのバリエーションの関係を説明することができる

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回 ガイダンス

第2回 イングランドの英語と方言変種

第3回 イングランドの方言区画と方言差の起源

第4回 イングランド英語の将来の予測

第5回 アメリカニズムと方言の漂白

第6回 方言の「正しさ」と言語使用の方言差

第7回 イングランド英語の発音の地理的分布 1 : BUTの母音とR音

第8回 イングランド英語の発音の地理的分布 2 : NGの発音とEWの発音の分布

第9回 イングランド英語の発音の地理的分布 3 : EEの母音とAの音の分布

第10回 イングランド北部方言の音声の特徴

第11回 イングランド中央部方言の音声の特徴

第12回 イングランド南部と東部方言の音声の特徴

第13回 イングランド英語の新しい標準変種：エスチュアリ英語

第14回 変異分析用プログラムVARBRULの概説

第15回 VARBRULによるデータ分析実習と分析結果の考察

第16回 まとめ

(回数と内容は変更することもある)

授業外学習 (予習・復習)

予習：指定された資料等に目を通して授業に参加すること (120分)

復習：毎回講義内容をまとめ、論点を整理し、疑問点等を確認すること (120分)

教科書

指定しない (資料を配布)

参考書

Trudgill, Peter. (1999) The Dialects of England, Blackwell. 日比谷潤子 (編著) 『はじめて学ぶ社会言語学 - ことばのバリエーション研究』 ミネルヴァ書房 トラッドギル, P (1975=1974) 『言語と社会』 (土田滋訳) 岩波新書 Trudgill, Peter. (2016) Dialect Matters, Cambridge University Press. Tagliamonte, Sali. (2006) Analysing Sociolinguistic Variation, CUP. Tagliamonte, Sali. (2011) Variationist Sociolinguistics, Wiley-Blackwell.
成績の評価基準
毎回の授業に関する課題 (レポート) (60%) , 期末レポート (40%)
オフィスアワ -
月曜 5 限 研究室
アクティブ・ラーニング
その他;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
毎回の授業に関する課題 (レポート) の提出による
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回
備考 (受講要件)
太田一郎ゼミの3年生は必ず受講すること。 毎回 ノートPC, タブレット等を持参すること
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2124			
科目名			
日本古典文学演習A1 (旧 日本文学演習)			
英語名			
Japanese Linguistics A1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099 (285) 8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
薩摩藩第9代藩主島津齊宣の紀行文「温泉之記」(天保末年成立)を、注を付けながら正確に読解し、当時の知識人のものの見方や価値観について議論を行う。また、関連資料、伊東陵舎の紀行文と比較しながら実際の旅の実態を把握する。大名が領国に与えた文化的な影響について考察をする。			
学修目標			
島津齊宣の紀行文 - 「温泉之記」(天保年間成立)を、注をつけながら読解する。 ・古典読解の基本である注釈の方法を身につける。 ・和歌を正しく理解し解釈する力を身につける。 ・近世後期における旅あるいは交通に関する知識を身に着ける。			
授業計画			
【授業はすべて対面方式で実施】なお、コロナ感染症拡大に伴って遠隔方式に切り替える場合がある。			
第1回：導入(テキスト・演習の方法について) 第2回：近世紀行文の特徴、島津齊宣について 第3回：学生による発表と議論(テキスト1~3丁) 第4回：学生による発表と議論(テキスト4~6丁) 第5回：学生による発表と議論(テキスト7~9丁) 第6回：学生による発表と議論(テキスト10~12丁) 第7回：学生による発表と議論(テキスト13~15丁) 第8回：学生による発表と議論(テキスト16~18丁) 第9回：学生による発表と議論(テキスト19~21丁) 第10回：学生による発表と議論(テキスト22~24丁) 第11回：学生による発表と議論(テキスト25~27丁) 第12回：学生による発表と議論(テキスト28~30丁) 第13回：学生による発表と議論(テキスト31~33丁) 第14回：学生による発表と議論(テキスト34~37丁) 第15回：学生による発表と議論(テキスト38~40丁)			
授業外学習(予習・復習)			
発表者のレジメに目を通し、疑問点を整理しておく(毎回2時間程度)。 事後には発表に基づき、それぞれが発展的な調査を行う(毎回2時間程度)。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
『江戸の紀行文』(中公新書) 三原純孝「翻刻 伊東陵舎「恵の旅笠」」(『国語国文薩摩路』56号、2012年3月)			
成績の評価基準			
発表態度(30%)および期末レポート(70%)を合せて評価する。			
オフィスアワ -			

月曜日13時30分～14時20分

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

教職(国語)の選択科目。平成28年度以前入生は「日本文学演習」に読み替え。
学生の担当範囲などについては、変更する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2209			
科目名			
地誌学講義（旧 テーマ地誌学I）			
英語名			
Regional Geography			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
吉田明弘		099-285-7543	aki_tan@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
この講義では日本・世界の地域を取り上げ、各地の自然環境と人々の暮らしを理解し、それらに関連させながら考える能力を身に着ける。さらに、これら各地の地誌を通して、地域における共通性や相違性、多様性を理解し、その背景となる人文・自然的要因について説明できる力を養う。			
学修目標			
本講義では日本・世界の様々な地域を取り上げ、各地の気候・地形・植生などの自然環境の特徴を捉えると共に、これらを背景にした人々の生活・文化との関連性を様々な視点から紹介する。この講義を通して、世界・日本の各地域における特徴を捉えることで、共通性や相違性、多様性を生み出す要因について理解する。			
授業計画			
第1回：授業ガイダンス - 地誌学の位置づけ 第2回：東北地方の地誌（1） - 杜の都・仙台 第3回：東北地方の地誌（2） - やませとお米 第4回：東北地方の地誌（3） - リアス海岸と地震・津波 第5回：関東地方の地誌（1） - 下町と山の手 第6回：関東地方の地誌（2） - 治水と利水 第7回：東南アジア海岸部の地誌（1） - 自然環境とマングローブ林の成り立ち 第8回：東南アジア海岸部の地誌（2） - マングローブ破壊とえび養殖 第9回：東南アジア海岸部の地誌（3） - 多島海と人々の暮らし 第10回：東南アジア内陸部の地誌（1） - プランテーション農業 第11回：東南アジア内陸部の地誌（2） - モンスーン気候と天水田 第12回：東南アジア内陸部の地誌（3） - 伝統的な灌漑システム 第13回：東南アジア内陸部の地誌（4） - 土壌 第14回：東南アジア内陸部の地誌（5） - 遺跡と石材 第15回：授業の総括			
<p>本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、途中の2回程度、授業内容の質問・応答を行うオンライン授業を実施する予定である。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
予習：manaba等で配布された資料を事前に目を通し、専門用語などは辞典やインターネットで調べる（予習時間の目安：約2時間）。 復習：配布資料やノートを見返すと共に、授業でわからない点などは文献・インターネットで調べる。なお、質問はmanabaの個人指導やメールなどを通じて随時受付ける（予習時間の目安：約2時間）。			
教科書			
毎回manabaを通じて資料についてアップするので各自でダウンロードしてください。なお、配布資料は基本的にはA3版で作成していますので、図表等が小さくならないようにコンビニ等で印刷することをお勧めします。配布資料はA4版のファイルやバインダーなどを用意して、各自で整理するようにしてください。			
2021年度はオンデマンド形式を基本にして授業を実施します。なお、教材や授業映像はmanabaを通じてアクセス			

用URLを把握してください。受講生は必ずmanabaの通知に目を通すようにしてください。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

授業への参加や取り組む姿勢（30%）と授業回の小テスト（70%）を総合的に評価する。

オフィスアワ -

質問等はmanabaの個人指導やメール等で随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

この授業と合わせて、自然地理学概説を履修することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2230

科目名

考古学実習2 (旧 フィールド学実験 (考古学))

英語名

Practical Archaeology 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

実習

単位数

1単位

開講期

2~4年

担当教員

渡辺芳郎、石田智子

連絡先 (TEL)

099-285-7549

連絡先 (MAIL)

ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

考古遺物の整理・観察・記録に対する正確な認識と表現力を養成するため、遺物(土器・石器・陶磁器など)の洗浄、注記、接合、実測、トレース、拓本等一連の作業をおこなう。

学修目標

考古学研究に必要な諸技術の習得を目標とする。

授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 遺物整理の基礎

第3回 遺物整理の実践1(拓本)

第4回 遺物整理の実践2(実測1)

第5回 遺物整理の実践3(実測2)

第6回 遺物整理の実践4(実測3)

第7回 遺物整理の実践5(実測4)

第8回 遺物整理の実践6(実測5)

第9回 遺物整理の実践7(実測6)

第10回 遺物整理の実践8(トレース1)

第11回 遺物整理の実践9(トレース2)

第12回 遺物整理の実践10(トレース3)

第13回 遺物整理の実践11(トレース4)

第14回 遺物整理の実践12(トレース5)

第15回 遺物整理の実践13(トレース6)

(対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業で実施する)

授業外学習(予習・復習)

初めて受講する学生は作業内容についてしっかり復習すること(4時間)。

2回目以上受講の学生は、予習、復習を通じて習熟度を高めること(2時間×2)。

教科書

プリントを適宜配布。

参考書

適宜紹介。

成績の評価基準

平常点(100%)

オフィスアワ -

月曜3限目。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全15回中15回

備考（受講要件）

2コマ授業のため、計2単位修得。必ず2コマ連続で履修すること。

必ず考古学実習1もあわせて履修すること。

考古学実習1および考古学実習2を受講したことがなく、本授業の履修を希望する者は、事前に担当教員に相談に来ること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)
ナンバリングコード

FHS-CGX2219

科目名

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)

英語名

Western History & Culture A1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
細川道久		099-285-7525 (法文学部学生係)	hos leh.kagoshima-u.ac.jp は アットマーク
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

本授業は、毎回対面形式で行なう予定であるが、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更するときは、授業内、あるいはmanabaにおいて連絡する。

『駒形丸事件 インド太平洋世界とイギリス帝国』（ちくま新書、2021年）を読んでいきます。授業の初め（2回目）に分担等を決めるので、途中からの受講・出席は認めません。

- 1) 与えられたテーマ（本書だけではなく、発展した内容も含みます）について、担当者がレジユメを作成して報告し、質疑応答をします。
- 2) 最後に総括のレポートを書いてもらいます。

学修目標

1. グローバルヒストリーに対する理解を深めると同時に、歴史研究や地域研究への関心を深める。
2. 文献読解、レジユメ作成、報告、討論の能力を養う。
3. 西洋史研究で卒業論文を書くために必要な素養を磨く。

授業計画

授業開始までに教科書を入手しておいてください。

- 第1回 授業全般についてのガイダンス
- 第2回 西洋史研究資料検索などについてのガイダンス
- 第3回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（1）
- 第4回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（2）
- 第5回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（3）
- 第6回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（4）
- 第7回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（5）
- 第8回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（6）
- 第9回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（7）
- 第10回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（8）
- 第11回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（9）
- 第12回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（10）
- 第13回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（11）
- 第14回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（12）
- 第15回 総括（課題提出型 or リアルタイム型）

授業外学習（予習・復習）

与えられた課題について、教科書の要約だけでなく、それに関連する調査を十分に行なうこと。また、授業内容について、配布資料や参考文献などで復習しておくことが望ましい。予習・復習に要する時間は、標準的にはそれぞれ1時間。

教科書

秋田茂・細川道久『駒形丸事件 インド太平洋世界とイギリス帝国』ちくま新書、2021年。各自購入して、最

初の授業に臨んでください。

参考書

秋田茂『イギリス帝国の歴史 アジアから考える』中公新書、2012年。細川道久編著『カナダの歴史を知るための50章』明石書店、2017年。その他は、授業時に適宜紹介します。

成績の評価基準

報告・質疑応答など、授業への取り組み状況（80%：出席が前提の授業であるため、欠席は減点になる）。総括レポート（20%）

オフィスアワ -

金曜10時～11時

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

平成28年度以前の入学生については「西洋の歴史と社会演習A1」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2135

科目名

中国言語文化演習A1 (旧 中国言語文化論演習)

英語名

Chinese Language & Culture A1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

中筋健吉

099(285)8893

k9553471@kadai.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

本授業では杜甫の「有事于南賦」を講読する。

杜甫は同時代の李白とともに「李絶杜律」と併称され、中国古典詩史を代表する詩人として名高いが、生涯において7篇の賦作品を残している。

賦は中国古典文学の文体の一つであり、有韻無韻の文をとりまぜた長文の文芸である。漢代に盛行し、以後時代により様々に形を変化させて存続した。

本篇は杜甫の長安宮廷出仕の契機となつたいわゆる獵官運動的の性質をもつ作品の一つであるが、本作の鑑賞を通じて、当時が杜甫おかれていた状況やその心情の理解につとめたい。

学修目標

作品の講読およびそれを通じて中国古典文学作品や注釈の読解方法、および関連する各種文献の取り扱い方を学ぶ

授業計画

各受講生が事前に指定された部分の本文および注について、読解発表を行う。発表にあたっては、本文原文、注を訓読し、現代日本語に訳したものを発表する。受講生は余力があれば、他の作品を読む。

- 第1回： オリエンテーション：「賦」について/杜甫の経歴(1)
 第2回： 杜甫の経歴(2)：『旧唐書』『新唐書』杜甫本傳
 第3回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(1)
 第4回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(2)
 第5回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(3)
 第6回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(4)
 第7回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(5)
 第8回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(6)
 第9回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(7)
 第10回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(8)
 第11回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(9)
 第12回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(10)
 第13回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(11)
 第14回： 「有事于南賦」講読：発表と討論(12)
 第15回： まとめ

授業外学習(予習・復習)

予習：毎回の授業で講読する作品について、事前に辞書等を検索し、自らも読解して出席すること。

復習：授業にもとづいて、自分の読解を再検討すること。

教科書

授業に先立ってプリントを配布する。

参考書

黒川洋一『杜甫詩選』(岩波文庫)

川合康三『杜甫』(明治書院)

成績の評価基準

授業中の発表報告とその際のレジюме(50%)および最終レポート(50%)の結果を考慮して総合的に評価する。

オフィスアワー

授業以外の在室時(随時)。事前に連絡をください。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中12回(予定)

備考(受講要件)

本シラバスはあくまで計画であるので、受講者数その他の状況によって、適宜変更の可能性もある。変更の際は通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2232

科目名

考古学研究D (旧 比較考古学)

英語名

Archaeology D

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

竹中正巳

連絡先 (TEL)

099-254-9191

連絡先 (MAIL)

takenaka@jkajyo.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

遺跡から出土した古人骨を丹念に調べることによって、そこから過去に暮らした人々の人物像や生業、社会、文化、習慣など生活のスタイル全般に関わる情報を解読して行く「骨考古学」的アプローチに関する基本的知識を解説していく。まず、古人骨から情報を得るために必要な人骨や歯に関する解剖学的知識を講義する。そして、現在この日本列島に住む「日本人」はどのような歴史を経て形成されたのか。いわゆる「日本人の起源」について、旧石器時代人や縄文人、あるいは縄文人から弥生人への移行問題、古墳時代人、中近世人の身体特徴や生活誌など、いまでも多くの謎を秘めた日本人の形成史を考えていく。特に、骨考古学からみた南九州や琉球列島の人々の成り立ちに関する最新の研究成果についても紹介していく。

学修目標

古人骨を丹念に調べることによって、そこから過去に暮らした人々の人物像や生業、社会、文化、習慣など生活のスタイル全般に関わる情報を解読して行く「骨考古学」的アプローチに関する基本的知識を説明ができるようになることを目標とする。

授業計画

遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- (1)骨考古学とはなにか、骨考古学から何がわかるか【リアルタイム型】
- (2)古人骨を読み解くために必要な人骨に関する解剖学的知識(体幹骨)【リアルタイム型】
- (3)古人骨を読み解くために必要な人骨に関する解剖学的知識(体肢骨)【リアルタイム型】
- (4)古人骨を読み解くために必要な人骨に関する解剖学的知識(頭蓋)【リアルタイム型】
- (5)古人骨を読み解くために必要な歯に関する解剖学的知識【リアルタイム型】
- (6)発掘現場での古人骨の調査方法【リアルタイム型】
- (7)日本人の起源とは?日本人起源論争を振り返りながら【リアルタイム型】
- (8)日本列島の旧石器時代人骨【リアルタイム型】
- (9)日本列島の縄文時代人骨【リアルタイム型】
- (10)日本列島の弥生時代人骨と渡来人問題【リアルタイム型】
- (11)日本列島の古墳時代人骨【リアルタイム型】
- (12)日本列島の古代人骨【リアルタイム型】
- (13)日本列島の中世人骨【リアルタイム型】
- (14)日本列島の近世人骨【リアルタイム型】
- (15)南九州や琉球列島の人々の成り立ちに関する最新の調査研究の成果【リアルタイム型】

授業外学習(予習・復習)

予習: 事前に紹介された「使用教材・参考文献」を前もって読み、意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと(1授業あたり 2時間)。

復習: 授業で紹介した「参考文献・参考図書」を読み、学習内容の振り返りを行う(1授業あたり 2時間)。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

授業前に適宜指示する。

成績の評価基準

到達目標を踏まえて、骨考古学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。
レポート(100%)で評価する。

オフィスアワ -

授業終了後(火曜日 14:20~14:35)の15分間で対応します。

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

すべて

備考(受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2115

科目名

社会言語学

英語名

Sociolinguistics

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎		099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

英語に見られる「ことばの多様性」について、英語圏各地の社会言語学の研究成果から主なものを取り上げて論じる。この講義では、これまで英語圏の社会言語学があまりにされてきた地理的・社会的集団間の言語的異なり、社会構造の変化と英語の変容の関連など、英語の多様性の諸相について学び、英語の現状と英語圏の社会の関係を深く理解するための幅広い視野を涵養することをめざす。

学修目標

1. 言語学の基礎を学び、ことばに関する問題に気づくことができる
2. 言語学の知識にもとづいて、ことばの問題を分析することができる
3. ことばと社会、文化の様々な現象を関連付けて説明できる

授業計画

本授業は、原則として毎授業時間（月曜10:30-12:00）にzoomで授業を行う。できるだけリアルタイムでの受講を勧めるが、授業後に映像を視聴するオンデマンド形式での参加も可能である。（ただし、授業映像の公開はレポート提出期限との関係で毎授業週の水曜23:55までとする。）

なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会言語学が示すもの：英語の多様性を見つめる視点
- 第3回 英語の標準語，世界共通語としての英語
- 第4回 話者の意識と地理的変異（マーサズヴィンヤード島（米）など）
- 第5回 社会による多様性：社会階層と言語変化（ニューヨーク（米），ノリッチ（英））
- 第6回 社会による多様性：社会階層と変異（英国の容認発音，非標準英語の社会的意味）
- 第7回 言語と民族：アフリカ系アメリカ人の英語
- 第8回 英語とジェンダー：性差を表す英語の特徴
- 第9回 言語と年齢：英語の変化を年齢差にみる（デトロイト（米），モントリール（加））
- 第10回 言語の選択：英語と日本語のコード切り換え
- 第11回 状況に合わせたことばの選択：英語のレジスターとスタイル
- 第12回 英語の丁寧さ：ポライトネス理論
- 第13回 相互行為の分析：英語話者の会話スタイル
- 第14回 会話の解釈の枠組み：インド，ロンドンなどの英語の例にみるコンテクスト化の合図
- 第15回 まとめ：ことばの多様性から見る英語圏の社会と文化

* 授業内容と回数は変更することがある。

授業外学習（予習・復習）

予習：指定された資料等に目を通して授業に参加すること（120分）

復習：毎回講義内容をまとめ，論点を整理し，疑問点等を確認すること（120分）

教科書

岩田祐子ほか『概説 社会言語学』ひつじ書房 2013

参考書

佐野直子2016『社会言語学のまなざし』（三元社）

日比谷潤子（編著）2012『はじめて学ぶ社会言語学』（ミネルヴァ書房）

中尾俊夫ほか1995『社会言語学概論』くろしお出版

レズリー・ミルロイ2001『生きたことばをつかまえる』（太田一郎ほか訳）松柏社

ピーター・トラッドギル1979『言語と社会』岩波書店

Meyerhoff, Miriam. (2011) *Introducing Sociolinguistics*, Routledge.

Labov, William (1972) *Sociolinguistic Patterns*, PUP.

Tagliamonte, Sali. (2006) *Analysing Sociolinguistic Variation*, CUP.

Tagliamonte, Sali. (2011) *Variationist Sociolinguistics*, Wiley-Blackwell.

成績の評価基準

毎授業後のレポート80%

学期末のレポート20%

オフィスアワ -

月曜 5 限

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

毎授業後のレポート提出

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

(1) ことばの問題に関心のある人。

(2) レポートの提出は毎週水曜日23:55。毎回のレポート提出はかなり負担になることを承知して履修すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2107

科目名

日本語学研究A (旧 日本語構造論)

英語名

Japanese Linguistics A

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

内山弘

099-285-8906

pon@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

本講義では、国語教育の基礎ともいべき「仮名遣」を取り上げて、その歴史を概説する。上代から現代まで日本語の音韻史・表記史をたどりつつ、古典仮名遣と現代仮名遣がどのようにして成立していったかを述べる。とりわけ、古典仮名遣の前段階である上代特殊仮名遣や中～近世の仮名遣についても概観することにより、仮名遣についての基本認識を高める。

学修目標

- ・仮名遣の歴史について基本的な知識が得られる。
- ・仮名遣の歴史を通して、日本語の歴史について学ぶことができる。

授業計画

本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回：はじめに かなづかいとは

第2回：かな前史 漢字との出会い

第3回：上代の文字資料

第4回：上代の仮名遣(1) 万葉仮名の成立

第5回：上代の仮名遣(2) 上代特殊仮名遣の発見と意義

第6回：上代の仮名遣(3) 上代特殊仮名遣の概要と歴史

第7回：かなの成立 片仮名・平仮名の成立過程

第8回：中古の文字資料

第9回：日本語の音韻変化と仮名遣(1) ア行の「え」とヤ行の「え」の統合

第10回：日本語の音韻変化と仮名遣(2) 八行転呼

第11回：日本語の音韻変化と仮名遣(3) ア行の「い・え・お」とワ行の「ゐ・ゑ・を」の統合

第12回：日本語の音韻変化と仮名遣(4) 四つがなの混乱

第13回：日本語の音韻変化と仮名遣(5) 定家仮名遣と歴史的仮名遣

第14回：現代仮名遣の諸問題(1) 現代仮名遣の成立過程

第15回：現代仮名遣の諸問題(2) 現代仮名遣の問題点と展望

レポート

授業外学習(予習・復習)

- ・予習：事前に配布された講義資料に一通り目を通しておくこと。(2時間)
- ・復習：配布された講義資料と講義ノートを見返して講義内容を自分なりに整理すること。(2時間)

教科書

manaba上で適宜プリントを配布する。

参考書

特に定めない。

成績の評価基準

レポート(100%)。なお、状況により定期試験が可能になった場合は、定期試験(100%)に変更することがある。その場合はあらかじめ授業内およびmanabaのコースニュース等において告知する。

オフィスアワ -

金曜4限(内山研究室)。電子メールでの相談は常時受け付ける。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答」

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2157			
科目名			
アメリカ小説論			
英語名			
The American Novel			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹内勝徳		8874	takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
19世紀前半に起ったアメリカ最初の文学運動であるアメリカン・ルネサンスについて、作品における越境性やジェンダーに着目して論じる。主な作家としてエマソン、ホーソーン、メルヴィル、ソロー、トウェインを取り上げる。彼らの経歴や文学の特質を時代背景に照らして詳しく紹介し、その作品の抜粋を英語で読む。また、資本主義の進展から生じた産業構造の変化や交通の発達、さらには、それらに付随して起った社会変容や文化の発展についても、文学作品と関連させて述べる。			
学修目標			
19世紀前半に起った文学運動であるアメリカン・ルネサンス、並びに、その後のリアリズム文学について、小説作品における越境性やジェンダーに着目して論じる。主な作家としてホーソーン、メルヴィル、トウェインを取り上げる。彼らの経歴や文学の特質を時代背景に照らして詳しく紹介し、その作品の抜粋を英語で読む。また、資本主義の進展から生じた産業構造の変化や交通の発達、さらには、それらに付随して起った社会変容や文化の発展についても、文学作品と関連させて述べる。			
授業計画			
授業は基本的にオンデマンドで行う。			
第1回：19世紀アメリカ文学の成立			
第2回：ホーソーンの短編「ラパチーニの娘」：科学と自然について			
第3回：ホーソーンの短編「ラパチーニの娘」：ヨーロッパとアメリカ			
第4回：ホーソーンの『緋文字』：ピューリタニズムとの関連について			
第5回：ホーソーンの『緋文字』：ヨーロッパでの革命とアメリカの1850年代			
第6回：メルヴィルの『タイピー』：太平洋島嶼の秩序変化			
第7回：メルヴィルの『白鯨』：labor diaspora			
第8回：メルヴィルの『白鯨』：工場労働としての捕鯨			
第9回：メルヴィルの「バトルビー」：資本主義社会の進展について			
第10回：トウェインの『イノセンツ・アブロード』：ヨーロッパのアメリカ化			
第11回：トウェインの『イノセンツ・アブロード』：プロテスタンティズムの変容			
第12回：トウェインの『ハックルベリー・フィンの冒険』：黒人奴隷制度のインパクト			
第13回：トウェインの『ハックルベリー・フィンの冒険』：国内移動の意味			
第14回：トウェインとメルヴィル			
第15回：19世紀アメリカ文学の越境性			
定期試験			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：授業中に配ったプリントを読み、英文を訳しておく。			
復習：ノートに書いたことを整理し、授業中になされた指示に従って調査等を行う。			
毎週合計4時間要する。			
教科書			
プリントと資料			
参考書			
授業中に指示。			

成績の評価基準
定期試験（60%）、ディスカッション（20%）、小レポート（20%）
オフィスアワ -
月曜の昼休み
アクティブ・ラーニング
グループワーク；ディベート；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
該当なし。
アクティブ・ラーニング（授業回数）
5回
備考（受講要件）
特になし。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2213

科目名

文化人類学研究（旧 宗教文化論）

英語名

Cultural Anthropology

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

兼城系絵

連絡先（TEL）

099-285-8902

連絡先（MAIL）

itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

本講義では、文化人類学でも主要なテーマでありつづけている「宗教」にフォーカスをあてる。日本を含む東アジアや東南アジアにおける多種多様な「宗教」実践の諸相を取り上げながら、「宗教」そのものに対する理解を深めていく。

学修目標

- 1、東アジアを中心とした地域における宗教的多様性について理解することができる。
- 2、宗教研究の基本的な考え方を理解し、説明することができる。
- 3、近代化やグローバル化状況下における宗教について、自分なりの視点で論じることができる。

授業計画

- 1回：オリエンテーション（目標の説明、授業予定の説明、成績評価に関する説明等）
- 2回：「宗教」とは何か？
- 3回：アニミズム
- 4回：呪術とその論理
- 5回：儀礼論
- 6回：祖先崇拜と家族・親族
- 7回：シャマニズム
- 8回：東アジアの宗教事情（1）：「宗教」と植民地化
- 9回：東アジアの宗教事情（2）：民間信仰の世界
- 10回：移民と宗教
- 11回：観光と宗教
- 12回：スピリチュアリティを考える
- 13回：新宗教の世界
- 14回：病気と身体
- 15回：現代社会と宗教人類学

進度によって、講義内容が変わることもあります。

本講義は遠隔形式（オンデマンド型）で行います。ただし、初回のオリエンテーションのみzoomを用いたオンライン型の講義を行います。

授業外学習（予習・復習）

予習：manabaにアップされた資料をもとに予習する（標準的学習時間 2時間）

復習：振り返りのミニレポートを作成しながら、学習内容の復習を行う（標準的学習時間 2時間）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

関一敏・大塚和夫（編）『宗教人類学入門』（弘文堂、2004）

櫻井義秀・三木英（編著）『よくわかる宗教社会学』（ミネルヴァ書房、2007）

成績の評価基準

毎回のミニレポート(50%)と期末レポート(50%)に基づき評価する。

オフィスアワ -

水曜日昼休み(12時-13時)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

レポートはすべてmanabaで提出してもらうため、manabaを使える状態にしておくこと。

また、Microsoft Teamsを用いて授業を行うため、前もってアクティベーションしておくこと。使用方法については初回のガイダンスでレクチャーします。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
FHS-CGX2133			
科目名			
アジア言語演習A1 (旧 中国語学演習)			
英語名			
Asian Linguistics A1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三木夏華		0992857525 (学生係)	hgakusei@leh.kagoshima-u.ac.jp (学生係)
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
中国語を一年以上履習した学生を対象とし、中国語検定試験の3級~2級レベルに相当する教材を用いて、現代中国語の文法知識、読解力、聴力などをより一層向上させることを目的とする。出席者は十分な予習を行っていることが前提となる。毎回単語の小テストを課す。			
学修目標			
(1)初修外国語での中国語の基礎力を前提とした上で、更なる実践力を養う。 (2)中国語検定試験の3級~2級レベルに相当する学修を目指す。			
授業計画			
この授業は対面で行う。なお授業形態は学部からの要請により変更となる可能性もある。授業形態を変更する際はmanabaのコースニュース、または講義中に連絡する。			
第1回ガイダンス 第2回テキスト第一課(文法予習)・小テスト 第3回テキスト第一課(本文講読)・小テスト 第4回テキスト第一課(練習問題)・小テスト 第5回テキスト第二課(文法説明)・小テスト 第6回テキスト第二課(本文講読)・小テスト 第7回テキスト第二課(練習問題)・小テスト 第8回テキスト第三課(文法説明)・小テスト 第9回テキスト第三課(本文講読)・小テスト 第10回テキスト第三課(練習問題)・小テスト 第11回テキスト第四課(文法説明)・小テスト 第12回テキスト第四課(本文講読)・小テスト 第13回テキスト第四課(練習問題)・小テスト 第14回テキスト第五課(文法説明)・小テスト 第15回テキスト第五課(本文講読)・小テスト 第16回期末試験			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】テキスト、及び配付された教材プリントを必ず十分予習した上で授業に臨むこと。 【復習】毎回授業で習った内容を復習すること。未習得の文法、語彙を暗記すること。 (学習に係る標準時間は合計4時間)			
教科書			
『日中ふれあい“漢語”教室』李貞愛著、朝日出版社。			
参考書			
随時紹介する。			
成績の評価基準			
平常点(講義中の発表など):30%、小テスト20%、期末試験50%。			

なお、期末試験、小テストが実施できなくなった場合は平常点のみで評価する。

オフィスアワ -

木曜日 2 限目

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

課題についてのスピーキングトレーニング

アクティブ・ラーニング (授業回数)

16回中15回

備考 (受講要件)

1年以上の中国語の学習経験が必要となる。ただし、中国語を母国語とする学生の受講は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2129

科目名

中国文学演習B1 (旧 中国文学演習)

英語名

Chinese Literature B1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

高津孝

099-285-7562

gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

漢文の基本的事項についての理解を深める。漢文訓読についての規則を理解した上で、和刻本を利用して、中国古典文の読解を行う。以上を通じて、漢文読解の基本的事項についての理解を深めることを目標とする。

学修目標

中国文学(散文)の入門編。中国文学を学習するうえでの基礎的知識の習得を目的とする。中国文学において特に重要なジャンルである散文を取り上げて、その基本的な知識や文法的特徴を講義し、また、各種参考図書についても、あわせて説明を行う。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 漢文訓読の基礎
- 第3回 虚字の概説
- 第4回 『論語』学而
- 第5回 『論語』為政
- 第6回 『論語』八? 第7回 『論語』里仁
- 第8回 『論語』公冶長
- 第9回 『論語』雍也
- 第10回 『論語』述而
- 第11回 『論語』泰伯
- 第12回 『論語』子罕
- 第13回 『論語』郷党
- 第14回 『論語』先進
- 第15回 『論語』顔淵

授業外学習(予習・復習)

予習: 次の授業で扱う詩について、テキストの注釈を参考に意味を理解し、訓読できるようにしておくこと。約2時間。

復習: 授業中に学んだ内容について復習し、原文から訓読できるようにしておくこと。約2時間

その他: 授業では中国古典文のほんの一部しか紹介できません。授業で触れた文章、文学者についてより深い理解に達するために、文庫本で入手できる中国古典文を読んでください。背景知識を得ることで、詩の読み方は変化します。

教科書

加地伸行『ビギナーズ・クラシックス 中国の古典 論語』角川ソフィア文庫(2004年)

参考書

吉川幸次郎『漢文の話』ちくま学芸文庫

成績の評価基準

プレゼンテーション(40%)とミニッツ・ペーパーなど(60%)で評価を行う。

オフィスアワ -

金曜日・2限・高津研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

漢和辞典を使用する。

実務経験のある教員による実践的授業

なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2123

科目名

日本語学演習B1 (旧 日本語構造論演習)

英語名

Japanese Linguistics B1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

内山弘

099-285-8906

pon@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

狂言台本は室町期の話し言葉の実態を知る上で極めて重要な資料として位置付けられているにも関わらず、現在残っている台本形式の狂言資料はすべて江戸期の成立になるものである。その意味では、狂言台本は中世語の資料としてはいろいろ問題が多いと言わざるを得ない。その中において「祝本」と呼ばれる狂言台本は、成立年代も筆者も不明ながら、内容的に見て虎明本(1642年成立)や天理本(1645年頃成立)等、江戸初期の他の狂言台本よりも古態を有しており、中世語の資料としてより貴重な資料であると認められる。本演習では、この祝本狂言集を中心資料として取り上げ、詞章の比較や語句の解釈等の具体的な作業を通して、室町時代の日本語に関する知識を深めるとともに、文献日本語史研究の方法について実地に習熟を図っていく。

学修目標

- ・ 翻字や語釈の作成、台本の比較等の具体的な作業を通して日本語資料の基礎的な研究方法を具体的に学ぶことができる。
- ・ 狂言台本という親しみやすい文献を通して古典の世界に親しむ下地を養成できる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回: ガイダンス

第2回: 受講生による演習の実施(1)「しんばい」その1

* 受講生の人数によって以降の割り当てを変更する場合がある

第3回: 受講生による演習の実施(2)「しんばい」その2

第4回: 受講生による演習の実施(3)「しんばい」その3

第5回: 受講生による演習の実施(4)「しんばい」その4

第6回: 受講生による演習の実施(5)「しんばい」その5

第7回: 受講生による演習の実施(6)「しんばい」その6

第8回: 受講生による演習の実施(7)「くじざい人」その1

第9回: 受講生による演習の実施(8)「くじざい人」その2

第10回: 受講生による演習の実施(9)「くじざい人」その3

第11回: 受講生による演習の実施(10)「くじざい人」その4

第12回: 受講生による演習の実施(11)「くじざい人」その5

第13回: 受講生による演習の実施(12)「くじざい人」その6

第14回: 受講生による演習の実施(13)「くじざい人」その7

第15回: 受講生による演習の実施(14)「くじざい人」その8

レポート

授業外学習(予習・復習)

予習: 演習担当者は事前に教員に連絡を取り、演習内容についてメールで相談すること(必須)。演習準備にはトータルで30~60時間程度必要。

復習: 演習時に指摘された内容を整理し、問題点について再調査して解決を図ること。(2時間)

教科書

『祝本狂言集』法政大学鴻山文庫所蔵原本の複写

参考書

特になし。

成績の評価基準

授業への取り組み態度 (20%) + 演習内容 (20%) + レポート (60%)

オフィスアワ -

金曜5限。事前にメールでアポイントメントを取れば他の時間でも可能。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

日本語学演習A1を受講していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2125			
科目名			
日本古典文学演習B1 (旧 日本文学演習1)			
英語名			
Japanese Linguistics B1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099 (285) 8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
西鶴の雑話ものに分類される浮世草子『懷硯』(貞享4年・1687年刊)を対象とする。学生は1話ずつ担当し、その話の研究史、解釈の問題点などを整理して発表を行い、西鶴の語りの特徴や素材、後世への影響について議論を行う。			
学修目標			
井原西鶴『懷硯』読解 ・地方の説話をあつかった『懷硯』を初めとする西鶴作品の研究史をたどる。 ・浮世草子についての知識を得る。			
授業計画			
対面で実施する。なお、コロナ感染症の状況によって遠隔方式に切り替えることがある。			
第1回: 導入 (文献の調査方法などの概説) 第2回: 西鶴の浮世草子とその時代について 第3回: 西鶴の方法について 第4回: 学生による発表と議論 - 巻2の1 - 第5回: 学生による発表と議論 - 巻2の2 - 第6回: 学生による発表と議論 - 巻2の3 - 第7回: 学生による発表と議論 - 巻2の4 - 第8回: 学生による発表と議論 - 巻2の5 - 第9回: 学生による発表と議論 - 巻3の1 - 第10回: 学生による発表と議論 - 巻3の2 - 第11回: 学生による発表と議論 - 巻3の3 - 第12回: 学生による発表と議論 - 巻3の4 - 第13回: 学生による発表と議論 - 巻3の5 - 第14回: 学生による発表と議論 - 巻4の1 - 第15回: 学生による発表と議論 - 巻4の2 -			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に作品を通読する。発表者のレジメに目を通し、疑問点を整理しておく(1時間程度)。 事後には発表に基づき、それぞれが発展的な調査を行う(1時間程度)。			
教科書			
プリントを配布			
参考書			
『新編西鶴全集 巻二』(勉誠出版)。『対訳西鶴全集5』(明治書院) その他は授業の中で紹介する。			
成績の評価基準			
発表態度(30%)および期末レポート(70%)を合せて評価する。			
オフィスアワ -			
月曜日13時30分~14時20分			

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中12回

備考 (受講要件)

教職 (国語) の選択科目。平成28年度以前入生は「日本文学演習」に読み替え。
対面方式を予定しているが、途中で遠隔方式に変更する場合もある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2203

科目名

アジア歴史・文化研究A (旧 アジア社会史)

英語名

Asian History & Culture A

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

福永善隆

連絡先 (TEL)

099(285)7561

連絡先 (MAIL)

fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

テーマ：秦漢史研究の諸問題

周知のように、秦・漢王朝は中国における最初の統一王朝である。ただし、その「統一」のあり方については近年、地域性・環境史などの面から再検討が行われてきている。本講義では、これら最新の秦漢史研究の成果に基づき、現時点において解明された、新たな秦漢帝国像を浮き彫りにしていきたい。

学修目標

- 1) 秦漢時代に関する研究の新たな視点を理解する。
- 2) 秦漢帝国の歴史展開における各地域の影響を環境史・地域史の視点から理解する。
- 3) 秦漢帝国がどのように各地域の地域性を克服し、統合したのか、儒学思想の展開を通して理解する。

授業計画

- 第1回：イントロダクション
 第2回：秦漢史概説（1）秦～前漢前半期
 第3回：秦漢史概説（2）前漢後半期～後漢
 第4回：秦漢史研究と環境史（1）環境史研究の意義・視点
 第5回：秦漢史研究と環境史（2）中国の風土
 第6回：秦漢史研究と環境史（3）黄河と中国社会
 第7回：秦漢史研究と環境史（4）前漢の歴史展開における黄河問題
 第8回：秦漢史研究と環境史（5）後漢の興起と黄河
 第9回：秦漢史研究における地域性の問題（1）齊魯文化と楚文化
 第10回：秦漢史研究における地域性の問題（2）秦漢帝国と地域
 第11回：秦漢史研究における地域性の問題（3）秦漢帝国における楚文化
 第12回：秦漢時代における儒学と統一（1）儒学
 第13回：秦漢時代における儒学と統一（2）漢代における儒学思想の展開
 第14回：秦漢時代における儒学と統一（3）儒学による改革の諸相
 第15回：総括

オンデマンドにて実施する予定。

授業外学習（予習・復習）

- （予習）参考文献を読むことを推奨する（120分程度）。
 （復習）理解を深めるために授業時に紹介する関係文献を読むことを推奨する（120分程度）。

教科書

特になし

参考書

- 小島 毅『東アジアの儒教と礼』（山川出版社、2004年）
 原 宗子『環境から解く古代中国』（大修館書店、2009年）
 濱下 武志、平勢 隆郎編『中国の歴史：東アジアの周縁から考える』（有斐閣、2015年）
 その他参考文献は適宜紹介する。

成績の評価基準

responによるコメント及び二回の小レポートにて総合的に評価する。

オフィスアワ -

月曜3限(13:00~14:20)。事前にメールなどでアポイントをとること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2501

科目名

英語圏比較文化論（旧 異文化理解）（海外研修）

英語名

English-Speaking Cultures

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

竹内勝徳、中谷純江

連絡先（TEL）

099-285-8874

連絡先（MAIL）

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

A program including one-week fieldworks and a two-week internship in a company in the Silicon Valley area of California, as well as study trips to places of professional interest in the Bay Area hosted by Kagoshima University North American Centre. The internship will enable you to see an American company from the inside. As an intern you will be placed in businesses with Japanese-speaking staff or in educational institutions that offer Japanese as first or second language. On the the seminar:

you will conduct cross cultural fieldworks around San Francisco

you will visit IT companies in Silicon Valley

you will meet Japanese expatriates who work in Silicon Valley

you will visit places of interest in the Bay Area

you will take part in the Japan-US Mirai Forum

学修目標

The programme has three main objectives:

1. You will be able to improve both your Japanese and English communication skills.
2. It will give you an introduction to the global society.
3. You will be able to improve your critical thinking and information processing skills. Finally you will gain valuable work experience that you will be able to use in the future.

授業計画

All dates subject to change

July 6th: Orientation 1

July 20th: Orientation 2

August 24th: Orientation 2

September 1st: Japan - San Francisco

2nd: Orientation

3rd: Fieldwork

4th: Workshop

5th: Volunteer orientation

6th: Visits to Hospital

7th-8th: Home stay program

9th-13th: Internship

14th-15th: Home stay program

16th-20th: Internship

21nd-22nd: San Francisco-Japan

October-November: Debriefing sessions, report-writing and presentation (five meetings)

Session 1: General feedback

Session 2: Report/presentation preparation

Session 3: Report/presentation preparation

Session 4: Presentation Session

5: Report submission

During these sessions you will give feedback on the programme, prepare your report, present your feedback and finally submit your report.

授業外学習（予習・復習）

The students need to study practical English every day.

You need to do this homework for 4 hours every week.

教科書

None

参考書

None

成績の評価基準

You will be graded on:

participation on the programme (30%)

report/presentation (70%)

オフィスアワー

月曜の昼休み。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

ディスカッションにおいてアクティブ・ラーニングを行う。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中5回。

備考 (受講要件)

Only 5 people may participate. If there are more than 5 applicants there will be a selection process. This will include a written statement from you stating your motivation for participating and also a brief interview.

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2152

科目名

哲学演習 B 1 (旧 西洋の人間と思想B演習1)

英語名

Western Philosophy B1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
近藤和敬		099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

現代プラグマティズムに関する本であるロバート・ブランダム『プラグマティズムはどこから来て、どこへ行くのか 上巻』(勁草書房、2020年)を読む

学修目標

哲学の議論を自分で読んで、理解できるようになる。
哲学の議論をまとめなおして、ほかの人に説明できるようになる。

授業計画

途中から担当者を決めて、事前に調べた内容について報告してもらいます。

1. ガイダンス
2. 「序章 ドイツ観念論からアメリカン・プラグマティズムへ」(1-3節:1-22)
3. 「序章 ドイツ観念論からアメリカン・プラグマティズムへ」(4-5節:23-44)
4. 「序章 ドイツ観念論からアメリカン・プラグマティズムへ」(6-7節:45-58)
5. 「第一章 古典的アメリカン・プラグマティズム」(1-4節:65-81)
6. 「第一章 古典的アメリカン・プラグマティズム」(5-7節:82-99)
7. ここまでの振り返りおよび補足説明
8. 「第二章 プラグマティズムを分析する」(1-4節:103-113)
9. 「第二章 プラグマティズムを分析する」(5-9節:114-127)
10. 「第二章 プラグマティズムを分析する」(10-11節:128-144)
11. ここまでの振り返りおよび補足説明
12. 「第三章 カント的合理論に基づくプラグマティズム」(1-2節:155-166)
13. 「第三章 カント的合理論に基づくプラグマティズム」(3節:167-174)
14. 「第三章 カント的合理論に基づくプラグマティズム」(4節:175-185)
15. 「第三章 カント的合理論に基づくプラグマティズム」(5-6節:186-194)

対面授業を予定していますが、状況によってはオンデマンド型に切り替える可能性があります。

授業外学習(予習・復習)

毎回事前に資料を読んでくること。

授業であたった担当者は、該当箇所を読むのに必要と思われる資料を調べ、報告してもらいます。予習1時間、復習1時間

教科書

ロバート・ブランダム(加藤隆文・田中凌・朱希哲・三木那由他訳)『プラグマティズムはどこから来て、どこへ行くのか(上巻)』勁草書房、2020年。

参考書

授業中に適宜指示する。

成績の評価基準

・授業で資料報告を担当 (30%)

評価基準：資料の関連性、説明の適切性、発表全体の構成

・期末のレポート (70%)

評価基準：1) 主題設定の適切さ、2) 文章の説得力、3) 日本語の正しさ、4) 追加資料の有無

オフィスアワ -

授業のあとなど随時

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中11回

備考 (受講要件)

平成 21 年度以前の入学生については「比較思想論演習」に読み替える。

これまでに哲学概論と倫理学概説を受講していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2208

科目名

地理学講義B (旧 テーマ地理学I)

英語名

Physical Geography

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

吉田明弘

連絡先 (TEL)

099-285-7543

連絡先 (MAIL)

aki.tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

地域における風景は自然・人文的な現象によって長い時間をかけて形成されてきた。とくに、地域の自然景観を特徴づける地形や植生は、第四紀の気候変動による影響を大きく受けている。この講義では地域の自然景観を読み解くための素養を身に着けるとともに、自然景観を生み出した第四紀の気候変動の原因や仕組み、それを調べる方法・手法、さらには世界・日本で見られる地形を理解する能力を養う。さらに、大小様々な空間スケール・時間スケールで地域の自然景観を位置づけ、それらを自ら関連付けられる力を獲得することを目標とする。

学修目標

普段から我々が目にする身近な風景は、地域によって多種多様であり、長い時間をかけて形成されてきた。とくに、第四紀の気候変動は、地域の風景を代表する地形や植生などの形成に大きく関わってきた。この講義では1) 地域の風景を作り出した第四紀における環境変動の原因や仕組み、2) それらを調べる方法、3) 世界・日本で見られる各種の地形について解説する。以上のポイントを通して、世界・日本の自然景観を様々な空間スケール・時間スケールで位置づける能力を身に着ける。

授業計画

- 第1回：授業ガイダンス - 授業のテーマと進め方
- 第2回：第四紀の気候変化(1) - 氷期の発見
- 第3回：第四紀の気候変化(2) - 酸素同位体比変動と周期性
- 第4回：第四紀の気候変化(3) - 熱塩循環と急激な気候変動
- 第5回：地層の編年方法(1) - テフラとテフロクロノロジー
- 第6回：地層の編年方法(2) - 放射性同位体の半減期と年代測定法
- 第7回：日本における地表環境の変遷(1) - 地形形成と気候変動
- 第8回：日本における地表環境の変遷(2) - 植生変化
- 第9回：日本における地表環境の変遷(3) - 文明・文化の盛衰
- 第10回：日本における地表環境の変遷(4) - 環境破壊
- 第11回：世界・日本の地形(1) - 組織地形(花崗岩)
- 第12回：世界・日本の地形(2) - 火山地形
- 第13回：世界・日本の地形(3) - 氷河地形1(氷河の形成と運動)
- 第14回：世界・日本の地形(4) - 氷河地形2(氷河による堆積・地形)
- 第15回：世界・日本の地形(4) - 周氷河地形

本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、途中の2回程度、授業内容の質問・応答を行うオンライン授業を実施する予定である。

授業外学習(予習・復習)

予習：manabaで配布された資料を事前に目を通し、専門用語などは辞典やインターネットで調べておくこと(予習時間の目安：約2時間)

復習：配布資料やノートを見返すと共に、授業でわからない点などは文献・インターネットで調べる。なお、質問はmanabaの個人指導やメール等で随時受付ける(復習時間の目安：約2時間)。

教科書

毎回manabaに資料をアップするので、各自でダウンロードして目を通しておくこと。配布資料はA3判で作成しているの、図表等が小さくならないようにコンビニ等で印刷するのを勧めます。配布資料はA4版のファイルやバインダーなどを用意して各自で整理してください。

2021年度はオンデマンド形式を基本にして授業を実施します。なお、教材や授業映像はmanabaを通じてアクセスURLを把握してください。受講生は必ずmanabaの通知に目を通すようにしてください。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

授業への参加や取り組む姿勢 (30%) と授業回の小テスト (70%) を総合的に評価する。

オフィスアワ -

質問等は、manabaの個人指導やメール等で随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

この講義は自然地理学における専門的な内容を講義する。そのため、すでに自然地理学の基礎となる自然地理学概説を履修していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2224			
科目名			
地理学演習 B 1 (旧 地理学演習 I)			
英語名			
Geography B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
吉田明弘		099-285-7543	aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>自然地理学や人文地理学など多くの地理学分野では地域における様々な地理的データを収集し、それを地図化する ことで、空間的・時間的な地域分析を行っている。この演習では、これら地理学の基礎となる地図学や測量学 の基礎知識を習得すると共に、地理情報システム (GIS) を用いて、地域における様々な主題図を作成する ことで、受講生の空間分析・地域分析の能力を養う。</p> <p>なお、2021年度の本演習は対面・遠隔の両方を用いたハイブリット型の授業を展開する。詳細については第1回 目の授業で説明する。</p>			
学修目標			
<p>自然・人文地理学の両分野に共通事項であるが、様々な地域のデータを収集し、それを地図化することは地域分 析における基礎となる。本演習では、地図学・測量学の基礎的な知識を習得するも共に、地理情報システム (GIS) を用いて、地域における様々な地理的データから主題図を作成することで、地理学の視点からの地域分析 をする能力を養う。本演習における一連の作業を通じて、地域分析と言う応用力を身に着けると共に、学位論文 の執筆に必要な研究能力を養うことを到達目標とする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：授業ガイダンス - 履修条件の確認と授業の進め方 第2回：GIS関連ソフトのインストールとプラグインソフトの導入 第3回：GISによる地図表示と属性データ (ベクタ地図) 第4回：GISによる地図表示と属性データ (ラスタ地図) 第5回：GPSの原理とハンディGPSによる位置測定 第6回：ファイル変換とGoogle Earthによる位置情報データの展開 第7回：空間座標システム (測地系・投影法) とファイル形式 第8回：GISにおけるポイント・ライン・ポリゴンの作成と属性データ統合 第9回：アナログ地図のデジタル化 第10回：DEMの地形表現による等高線と日射量の算出法 第11回：農業地図の作成植生データによる耕作放棄地の抽出と面積計算 第12回：防災地図の作成：土石流危険流域の抽出 第13回：学生のグループ分けと調査目的・計画の立案 第14回：野外・室内調査による一次データの取得とGIS解析 第15回：学生による調査・解析結果の発表</p> <p>本演習では対面・遠隔の両方を用いたハイブリット型の授業を展開する。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：manabaで配布する資料をダウンロードして、よく読んで授業内における作業内容を確認しておく (予習時 間の目安：約2時間)。 復習：授業内容を確認するとともに、毎回の授業課題を行って期限内までにmanabaで提出する (復習時間の目安 : 約2時間)。 その他授業中に適宜指示する。</p>			
教科書			

毎回manabaを通じてテキストや資料を配布するので各自でダウンロードして、印刷すること。配布資料はA4版で作成しているので、A4版のファイルやバインダーなどを用意して各自で整理しておいてください。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

毎週の課題における提出物(80%)、授業への取り組む態度(20%)を総合的に評価する。

オフィスアワー

質問等は、manaba(個人指導)やメールで随時受け付けます。また、必要に応じては、Zoomを使った遠隔操作による指導を行いますので、不明な点や理解できない点はそのままにしないようにお願いします。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

GIS及びその関連ソフトを使用したパソコン実習の形式で行う。また、必要に応じて野外にて測量や調査を実施する。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

すでに自然地理学概説を必ず履修していること。この演習ではパソコンを用いて行います。とくに、今年度は遠隔オンデマンド型授業を行うので、各自のPCにて操作をしてもらいます。そのため、各自でPCを用意し、PCやOSの基本的な操作についてはWebなどで各自で調べるようにください。なお、本演習では地理学以外の研究分野を専攻する受講生の履修も受け付けますが、専門的な内容のため、履修前に必ず事前に相談するようにしてください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2211			
科目名			
考古学研究B			
英語名			
Archaeology B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
人間が生活を営む上で、道具は不可欠な存在である。本講義では、旧石器時代から古墳時代を中心とする先史時代の道具を対象に、どのような観察視点や手続きで過去の人間活動や社会を復元するか、具体的な事例に基づいて論じる。特に、考古学的手法だけでなく、多様な自然科学的分析方法や最新技術を適用することで、モノからひきだすことができる豊かな情報を提示する。			
学修目標			
1) 考古資料の観察・分析方法の基礎を学ぶことで、モノから情報をひきだす力を身につける。 2) 考古学と関連諸科学の関係を理解する。 3) 日常生活で触れ合うモノの存在を意識して、考える機会をもつ。 4) 人類史の視野を身につける。			
授業計画			
授業は遠隔（オンデマンド）形式で実施予定。ただし、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。 授業計画を一部変更しました（20210402）。			
第1回 インTRODクシヨN 第2回 道具とはなにか：考古学における研究方法 第3回 道具の作りかた・使いかた1：石器 第4回 道具の作りかた・使いかた2：木器 第5回 道具の作りかた・使いかた3：骨角器・貝器 第6回 道具の作りかた・使いかた4：土器 第7回 道具の作りかた・使いかた5：青銅器・ガラス 第8回 道具の作りかた・使いかた6：鉄器 第9回 道具と社会1：動植物と人間の関係 第10回 道具と社会2：交流と交通 第11回 道具と社会3：分業 第12回 道具と社会4：威信財 第13回 おまつりの道具1：図像表現 第14回 おまつりの道具2：模造品・破壊行為 第15回 道具のリサイクル：再利用・転用			
授業外学習（予習・復習）			
予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する。標準的時間は2時間。 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う。標準的時間は2時間。			
教科書			
特になし。授業中に適宜紹介する。			
参考書			
特になし。授業中に資料を適宜配布する。			
成績の評価基準			

毎回コメント（responで提出：50％）と小テスト（manabaで実施（3回）：50％）で評価する。

オフィスアワ -

授業終了後30分。質問や相談等があれば、manabaの個別指導、E-mail、研究室でも随時受け付けます。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

最新の研究成果や発掘調査情報を随時取り入れるため、当初の講義内容を変更する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2117			
科目名			
ドイツ語圏文化研究			
英語名			
German-Speaking Cultures			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
與倉アンドレーア		099-285-7578	yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
This class will be held in English and Japanese. The topic is Austrian literature in the 20th century. As an introduction a general overview of Austrian history and literature during that period will be given. As most students will not be able to read texts in the original German, translations into English or Japanese will be used. Texts by 3 authors (Zweig, Aichinger, Haslinger) will be the material to show trends in Austrian literature.			
学修目標			
(1) To be able to understand history and trends in Austrian literature during the 20th century. (2) To be able to read representative texts in English and Japanese. (3) Gain an understanding into the literary world of 3 authors.			
授業計画			
第1回 Orientation. Introduction into the subject. 第2回 History of Austria in the 20th century. 第3回 Stefan Zweig (1881-1942): His life and major works. 第4回 Zweig: "チェスのゲーム" "Die Schachnovelle" (1942) :setting, characters 第5回 Zweig: "チェスのゲーム" "Die Schachnovelle" :reading the text 第6回 Zweig: "チェスのゲーム" "Die Schachnovelle": interpretation 第7回 Ilse Aichinger (1921-2016) Her life and major works. 第8回 Aichinger: "Window-theater" "Das Fenster-Theater" (1963):setting, imagery 第9回 Aichinger: "Window-theater": reading the text 第10回 Aichinger: "Window-theater": interpretation 第11回 Josef Haslinger (*1955) His life and major works. 第12回 Haslinger: "オペラ座" "Opernball" (1995) historical background 第13回 Haslinger: "オペラ座" "Opernball": reading the text 第14回 Haslinger: "オペラ座" "Opernball": interpretation 第15回 Conclusion: trends in Austrian literature of the 20th century			
*現時点(2021年2月)では遠隔授業(オンデマンド)の予定です。			
授業外学習(予習・復習)			
予習: 毎回の授業で提示される(ただし、初回はmanabaに掲載する)資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は2時間) 復習: 授業内容を振り返り、理解を深め、さらに読書や情報収集を行う(標準的時間は2時間)			
教科書			
特になし。資料プリントを配布予定。			
参考書			
授業中に紹介する。			
成績の評価基準			
「授業への取り組み態度(コメントペーパー)」「(50%)と「期末レポート」(50%)に基づいて、総合的に評			

価する。
オフィスアワ -
Questions always welcome. Make an appointment please.
アクティブ・ラーニング
グループワーク; ディベート;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし。
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回
備考 (受講要件)
プロジェクター (パソコン、ビデオ、DVD)。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2102			
科目名			
日本古典文学研究B(旧 日本近世文学)			
英語名			
Classical Japanese Literature B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
丹羽謙治		099 - 285-8904	niwa@leh/kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>テーマ：日本古典文学のなかの地獄と極楽</p> <p>本講義では日本古典文学のうち、地獄・極楽を扱った作品を読み解きながら、異界ともいえる地獄。極楽がどのように変化していったのかについて考察する。現在の漫画やアニメに到るまで文学の伏流水ともいえる地獄・極楽世界を描いた作品群の系譜をたどる。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教の歴史と文学との関わりについての理解を深める。 ・ 地獄や極楽を舞台とした作品が作られる時代的な背景を探る。 			
授業計画			
【授業はオンデマンド配信形式で実施する】			
第一回 イン트로ダクション 第二回 古代の説話の中の地獄・極楽 第三回 『往生要集』とその影響 第四回 往生伝の世界 第五回 地獄めぐりと地獄合戦『仏鬼軍』 第六回 古浄瑠璃『義経地獄破り』 第七回 古浄瑠璃『義経地獄破り』と絵本 第八回 『小夜嵐』 第九回 『小夜嵐』とその影響 第十回 『根南志具佐』 第十一回 『根南志具佐』の風刺 第十二回 『小夜時雨』 第十三回 『夢中の夢』と薩摩の習慣 第十四回 『夢中の夢』の特異性 第十五回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
授業で扱うテキストは事前に予習(通読)しておくこと(2時間) 授業資料をもとに、授業内容について毎時復習すること(2時間)			
教科書			
資料をPDFで配布。			
参考書			
『甦る絵巻・絵本? 義経地獄破り』(勉誠出版、2005年) その他は授業の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			

レポートの成績によって評価する (100%)。

オフィスアワ -

月曜日3限 共通教育棟 2号館 3階 日本近世文学研究室

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

該当なし

備考 (受講要件)

教職免許 (国語) の必修授業科目。

28年度以前入学生は、「日本近世文学」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2140

科目名

アメリカ文学演習1(旧 アメリカ文学演習)

英語名

American Literature 1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

竹内勝徳

連絡先(TEL)

099-285-8874

連絡先(MAIL)

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

前半は米国サンノゼ州立大学日本学科の学生と、スカイプ等のテレコミュニケーション・ソフトを使って、遠隔合同授業を行う。具体的には、日本人学生とアメリカ人学生が合同チームを編成し、それぞれのテーマについてディスカッションを行う。調査結果はグループ・プレゼンテーションにより発表する。それを踏まえて後半の授業では、アメリカ作家の短編小説を精読し、テーマに応じたディスカッションやさらなる調査を行う。

学修目標

- (1) アメリカ文学と文化の特徴を掴む。
- (2) アメリカ文化を理解した上で、日本の社会や歴史についてより深く考える力を身に付ける。
- (3) 資料読解やディスカッションを英語でこなすことで、英語力を向上させる。
- (4) 就職活動や教員試験、海外留学などグローバルな視野からキャリア・ビジョンを描く。

授業計画

授業は基本的に毎回対面で行う。

- 第1回 サンノゼ州立大学との合同授業ーグループ紹介(online)
- 第2回 サンノゼ州立大学との合同授業ーアイスブレイキング(online)
- 第3回 サンノゼ州立大学との合同授業ーことわざについて(online)
- 第4回 サンノゼ州立大学との合同授業ーサンノゼ側のリサーチ・クエスチョン(online)
- 第5回 サンノゼ州立大学との合同授業ー鹿大側のリサーチ・クエスチョン(online)
- 第6回 プレゼンテーション準備(online)
- 第7回 プレゼンテーション(online)
- 第8回 スタインベックの短編を読むーカリフォルニアの環境(online)
- 第9回 スタインベックの短編を読むーカリフォルニアとジェンダー(online)
- 第10回 スタインベックの短編を読むーカリフォルニアとヒッピー文化(online)
- 第11回 スタインベックの短編を読むー先端都市としてのシリコンバレー(online)
- 第12回 スタインベックの短編を読むー夢の国としてのカリフォルニア(online)
- 第13回 スタインベックの短編を読むーセクシュアリティについて(online)
- 第14回 スタインベックの短編を読むー先進性と対抗文化(online)
- 第15回 ディスカッション(online)
- 第16回 試験(online)

授業外学習(予習・復習)

- ・予習：授業中に配ったプリントを読み、英文を訳しておく。
 - ・復習：ノートに書いたことを整理し、授業中になされた指示に従って調査等を行う。
 - ・英語教材を各自で決定して、毎日決まったペースで学習すること(予習・復習とも)。
- 毎週合計4時間要する。

教科書

授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。

成績の評価基準

プレゼンテーション30%、授業中の発表30%、試験40%。

オフィスアワ -

月曜昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回。

備考 (受講要件)

英語力の向上に意欲をもっていること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2112

科目名

中国言語文化研究B(旧 中国言語文化論)

英語名

Chinese Language & Culture B

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

中筋健吉

099-285-8893

k9553471@kadai.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

テーマ

「中国詩人論」(李白の巻 Season5)

盛唐の李白は詩仙と称され、杜甫とともに中国を代表する詩人として名高い。唐は帝室李氏が道教を信奉したこともあり、我々が考える以上に道教の色濃い王朝であった。李白も若年より道教に親しみ、籠山修行を積んだこともあり、後、道士の資格である道口(竹/録)を授与されている。今季の授業では前年度に続き、彼の作品の中から、道教的色彩を帯びた幾つかをピックアップして鑑賞し、彼の文学における意義とその本質の一端を追究していく。

学修目標

1. 本授業は中国古典文学史上の著名な作家、作品をとりあげ、作家の人生との関わりを中心にその文学の特色および思想を理解することを目的とする。
2. 今季は李白を取り上げ、彼の人生と文学の本質を考えていく。

授業計画

第1回: ガイダンス/授業計画

第2回: 李白の伝記

第3回: 初盛唐期の文学状況

第4回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(1)

第5回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(2)

第6回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(3)

第7回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(4)

第8回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(5)

第9回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(6)

第10回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(7)

第11回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(8)

第12回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(9)

第13回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(10)

第14回: 李白の擬古文学まとめ

第15回: 授業総括 授業の過程で、本計画は変更することもある。

授業外学習(予習・復習)

予習: 講義で配布した資料、紹介された参考文献等を事前に確認し出席することが望ましい。

復習: 講義資料にもとづいて授業の復習をすることが望ましい。

教科書

授業中に適宜資料を配布する。

参考書

武部利男『中国詩人選集 李白』(上、下)。

松浦友久『李白詩選』(岩波文庫)

和田信一『李白』(明治書院 新釈漢文大系)

他は授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

「学期末レポート」(70%)「ミニッツ・ペーパー」(30%)による。
ただし、授業状況によって変更の可能性あり。その際には通知する。

オフィスアワ -

不在時以外随時。但し事前にメールにてご連絡下さい。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回(予定)

備考(受講要件)

授業計画は状況に応じて変更することもある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2121			
科目名			
書籍文化研究			
英語名			
Book Culture			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一		099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>目的：本授業は、聖職者や王侯貴族の特権であった本の所有と読書が市民や労働者といった一般の人々の間にも普及して行く「読書の民主化」について理解を深めることを目的とする。</p> <p>内容：前半では西洋における中世以降の「読書の民主化」を主要4段階に分けて論じ、後半では20世紀ドイツにおいて「読書の民主化」の大きな推進力となった廉価図書販売組織「ブッククラブ」について詳しく考察する。</p> <p>方法：講義形式で進め、毎回の授業でミニレポートを課す。また、学習者は授業の内容について、学期末にレポートを作成する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「読書の民主化」とはどのようなものかを説明できる。 2. 「読書の民主化」の発展過程について説明できる。 3. 「読書の民主化」における「ブッククラブ」の役割を説明できる。 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認 第2回：「読書の民主化」の概念規定 第3回：「読書の民主化」の発展過程（1）宗教改革期 第4回：「読書の民主化」の発展過程（2）第一次読書革命期 第5回：「読書の民主化」の発展過程（3）第二次読書革命期 第6回：「読書の民主化」の発展過程（4）第三の飛躍期 第7回：「ブッククラブ」の概念規定 第8回：書籍販売における「ブッククラブ」の特異性 第9回：ワイマール共和国時代のドイツにおける「ブッククラブ」の隆昌 第10回：伝統的な書籍販売と「ブッククラブ」（1）両者の対立 第11回：伝統的な書籍販売と「ブッククラブ」（2）対立から共存へ 第12回：1945年以前のドイツにおける「ブッククラブ」（1）市民的ブッククラブ 第13回：1945年以前のドイツにおける「ブッククラブ」（2）保守的ブッククラブ 第14回：1945年以前のドイツにおける「ブッククラブ」（3）左翼的ブッククラブ 第15回：授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認</p> <p>期末試験は行わず、指定期日までにレポートを提出する。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：授業内容に関連する事柄について、読書や情報収集を行う。（学修に係る標準時間は約2時間）</p> <p>復習：授業内容を振り返って理解を深め、興味を持った事柄について情報収集を行う。（学修に係る標準時間は2時間）</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			

参考書

- ・ロジェ・シャルティエ/グリエルモ・カヴァッロ編『読むことの歴史 ヨーロッパ読書史』田村毅他共訳（大修館書店、2000年）
- ・マーティン・ライアンズ『本の歴史文化図鑑』蔵持不三也/三芳康義訳（柘風舎、2012年）
- ・竹岡健一『ブッククラブと民族主義』（九州大学出版会、2017年）
- ・戸叶勝也『ドイツ出版の社会史 グーテンベルクから現代まで』（三修社、1992年）
- ・戸叶勝也『ヨーロッパの出版文化史』（郎文堂、2004年）
- ・犬養道子『本 起源と役割をさぐる』（岩波書店、2004年）

成績の評価基準

授業中に課すミニレポートを60%、期末レポートを40%とする。

オフィスアワー

月曜2限

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

プロジェクター利用。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2153			
科目名			
書籍文化演習 1			
英語名			
Book Culture 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一		099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>目的：本授業は、書籍文化に関する研究を行うために必要な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>内容：書籍文化に関する文献の批判的な講読と討論を行い、書籍文化を研究するための視点や問題意識を学んだ上で、これを実践する。</p> <p>方法：文献の講読と討論の後、学習者自らが書籍文化に関するテーマを設定して発表と討論を行い、レポートを作成する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 先行文献を批判的に読解し、それについて討論することができる。 2. 書籍文化を研究するための視点や問題意識を説明することができる。 3. 書籍文化に関する発表と討論を行い、レポートを作成することができる。 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認</p> <p>第2回：書籍文化に関する文献の講読と討論（1） 書籍の歴史</p> <p>第3回：書籍文化に関する文献の講読と討論（2） 読書の歴史</p> <p>第4回：書籍文化に関する文献の講読と討論（3） 書籍の出版・販売</p> <p>第5回：書籍文化に関する文献の講読と討論（4） 図書館の役割</p> <p>第6回：書籍文化に関する文献の講読と討論（5） 電子書籍</p> <p>第7回：書籍文化に関する文献の講読と討論（6） 絵本</p> <p>第8回：書籍文化に関する文献の講読と討論（7） 雑誌</p> <p>第9回：書籍文化に関する文献の講読と討論（8） メディアミックス</p> <p>第10回：学習者による発表と討論（1）</p> <p>第11回：学習者による発表と討論（2）</p> <p>第12回：学習者による発表と討論（3）</p> <p>第13回：学習者による発表と討論（4）</p> <p>第14回：学習者による発表と討論（5）</p> <p>第15回：授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認</p> <p>期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：次の授業で扱われる文献の講読と発表の準備。（学修に係る標準時間は約2時間）</p> <p>復習：授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について調査・学習を行う。（学修に係る標準時間は2時間）</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
・ブリュノ・ブラセル（荒俣宏監修・木村恵一訳）『本の歴史』（創元社、1998年）			

- ・樺山紘一『図説 本の歴史』（河出書房新社、2011年）
- ・赤木昭夫『書籍文化の未来 電子本か印刷本か』（岩波書店、2013年）
- ・新井紀子『ほんとうにいいの？ デジタル教科書』（岩波書店、2012年）
- ・山下久猛『新聞社・出版社で働く人たち』（ペリかん社、2014年）
- ・荒俣宏『絵のある本の歴史』（平凡社、1987年）
- ・中村証子『子どもの成長と絵本』（大和書房、1983年）
- ・アレックス・ジョンソン『世界の不思議な図書館』（創元社、2016年）
- ・杉浦由美子『ケータイ小説のリアル』（中央公論新社、2008年）
- ・マリオ・インフェーゼ『禁書 グーテンベルクから百科全書まで』（法政大学出版局、2017年）
- ・金治直美文『読む喜びをすべての人に 日本点字図書館を創った本間一夫』（偕成出版社、2019年）
- ・竹岡健一『ブッククラブと民族主義』（九州大学出版会、2017年）

成績の評価基準

文献の講読と討論を30%、発表と討論を50%、期末レポートを20%とする。

オフィスアワ -

月曜2限

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

プロジェクター利用。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2227			
科目名			
考古学演習 1 a (旧 物質文化論演習)			
英語名			
Archaeology 1a			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎		099-285-7549	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>学術論文はどのような構成になっているか、を理解するために、考古学関係の論文を用いながら、受講生がその論文に関するレジюмеを作成し、発表する。また4年生は卒業論文の進捗状況について発表する。</p>			
学修目標			
<p>学術論文の構成を理解するとともに、自らが卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 第2回 学生による発表とディスカッション1 第3回 学生による発表とディスカッション2 第4回 学生による発表とディスカッション3 第5回 学生による発表とディスカッション4 第6回 学生による発表とディスカッション5 第7回 学生による発表とディスカッション6 第8回 学生による発表とディスカッション7 第9回 学生による発表とディスカッション8 第10回 学生による発表とディスカッション9 第11回 学生による発表とディスカッション10 第12回 学生による発表とディスカッション11 第13回 学生による発表とディスカッション12 第14回 学生による発表とディスカッション13 第15回 学生による発表とディスカッション14 (対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>各学生による発表を主体とするので、そのための予習は必須 (2時間)。また授業での議論・指摘等をもとに復習が必要である (2時間)</p>			
教科書			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
平常点 (70%)・期末レポート (30%)			
オフィスアワ -			
月曜日 3 限目			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
学生が選択した論文をレジюмеにまとめ発表し、その内容について議論する。			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

14回

備考(受講要件)

平成23年度以前の入学生は「物質文化論演習」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX2233

科目名

日本歴史・文化研究C(旧 日本文化史)

英語名

Japanese History & Culture C

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

松尾千歳

099-247-1511(尚古集成館)

chitoshi.matsu@shimadzu-ltd.jp
shimadzuはdを入れ忘れないよう
に

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

鹿児島県内外にある文化財を通じて、近世日本文化・技術の歴史・特色を論じる。
特に、薩摩の文化が異国情緒にあふれていたこと、19世紀、通商を求める西欧列強の外圧にさらされ、他地域より早く近代化に踏み切ったこと、そしてそれが世界的にみると、非常に特異な手法であったことなどを重点的に講義する。

学修目標

- 1 鹿児島の歴史・文化に関する知識を身につけることによって、アイデンティティを確立させる
- 2 文化財を通じて鹿児島、さらに日本文化史・技術史の特色を知ることができる
- 3 文化財の活用等について考察することができる

授業計画

- 第1回 ガイダンス 何のために歴史文化を学ぶのか 鹿児島の歴史・文化の特色
- 第2回 倭寇の状況化の薩摩 戦国日本のもう一面 -
- 第3回 Cangoxina - 西欧との出会い -
- 第4回 文化人島津義弘 - 武将にとって文化とは -
- 第5回 海洋国家薩摩 - 特異な薩摩藩 -
- 第6回 城下町鹿児島 - 鹿児島城下図屏風の世界 -
- 第7回 薩摩の食文化 - 異国情緒あふれる薩摩の食 -
- 第8回 竹姫入輿 - 薩摩を変えた姫 -
- 第9回 鹿児島と北海道 - 外圧は北と南から -
- 第10回 お遊羅騒動 - 外圧と家督継承 -
- 第11回 集成館事業 - 近代化をリードした薩摩 -
- 第12回 近代化と在来技術 - 特異な日本の近代化 -
- 第13回 鹿児島の古写真 - 維新前後の鹿児島 -
- 第14回 薩摩にとって維新とは
- 第15回 西南戦争と集成館

なお、期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める

授業外学習(予習・復習)

- 予習 1時間ほど参考書に示した書籍に目を通し事前学習をおこない、予備知識を身につけておく。
- 復習 講義内容を記したレジュメを配布するので、これに目を通し3時間ほど復習する。
参考図書・レジュメを参考に計4時間ほど予習・復習をおこなうこと。

教科書

特になし。随時プリントを配付する。

参考書

原口泉ほか『鹿児島県の歴史』(山川出版社 1999年) 尚古集成館編『島津斉彬の挑戦』(春苑堂文庫、2002年) 松尾千歳『西郷隆盛と薩摩』(吉川弘文館、2014年) 同 『島津斉彬』(戎光祥出版、2017年)

成績の評価基準

講義終了後提出の感想文および期末レポートで総合的に評価する
(講義終了後提出の小レポート60%、期末レポート40%)。

オフィスアワ -

マナバもしくはメールにて対応

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

毎回、授業の感想・質問等を記したカードの提出を求める。また適宜これに回答していく。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

毎回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2146			
科目名			
多文化交流論演習 1			
英語名			
Multicultural Relations 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
この授業では、主に質問紙調査や参与観察などによって、言語行動やコミュニケーション上の多様性、社会言語学的な特徴を導き出すことを目的とする。 研究の基礎的文献や先行文献報告をもとにして、どのような目的・方法で先行研究が行われているかを概観し、質問紙調査の方法や参与観察などの方法論と、分析方法について学ぶ。			
学修目標			
1. 具体的な場面における言語行動やコミュニケーションを対象とした研究について、どのような目的や方法が行われているか説明することができる。 2. 異文化接触における言語行動やコミュニケーションの特徴について説明することができる。 3. 質問紙調査や参与観察の方法を理解し、目的に沿った資料収集の仕方と資料の精査、「問い」の作り方について説明することができる。			
授業計画			
本授業、基本的に対面式で行う予定であるが、種々の状況により変更がある可能性がある。なお、授業形態を変更する場合には、manabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回：オリエンテーション（授業概要とスケジュール：受講生の人数により変更の可能性あり） 第2回：今後のスケジュール グループ分け、資料収集など 第3回：資料収集の方法、事前準備 第4回：事前調べ 第5回：事前調べ報告 第6回：質問紙調査法・参与観察の方法について 第7回：質問紙の作成について 対象と項目選定（1） 第8回：質問紙の作成について 質問方法（2） 第9回：質問紙の作成について 修正と検討（3） 第10回：予備調査の実施と結果 第11回：質問紙の修正 第12回：本調査の実施 第13回：結果のまとめ方 第14回：発表・質疑応答 第15回：まとめ （期末試験は行わない。指定期日までに期末レポートを提出すること。）			
授業外学習（予習・復習）			
予習：次回の授業のための宿題（予習内容）を指示するので、かならず宿題を行ってから授業に参加すること（約2時間）。 復習：授業で扱った内容やグループ活動などの学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（約2時間） なお、すべての課題をmanabaに掲示するので、必ずmanabaを確認すること。			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて、参考書を用いる。			

参考書

石井敏ほか（2005）『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣ブックス
 定延利之編（2015）『私たちの日本語研究』朝倉書店 ほか

成績の評価基準

（1）毎回の授業で提出する振り返り（20%）、（2）授業中の発言（20%）、（3）先行文献発表・報告など（20%）、（4）最終レポート（40%）で総合評価する。

オフィスアワー

木曜日5限（研究室）。他の時間帯でも都合があれば適宜応じます。manabaのコレクションやメールなどで連絡をとってください。zoomによる相談も可能。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

この授業はmanabaのプロジェクト等（他のシステムを使う可能性もある）を利用したグループワークを予定している。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

平成29年度以降の入学生のみ履修可。

この授業は過去に開講した内容とは異なるので再履修は可能である。

今年度は基本的に対面で行う予定。新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、授業運営も流動的である。必ずmanabaを確認すること。

この授業では、manabaのプロジェクト等（他のシステムを使う可能性もある）を利用したグループワークも予定しているので積極的に参加すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX2226

科目名

地理学実習（旧 フィールド学実習(地理学)）

英語名

Geographical Fieldwork

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

実習

1単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

小林 善仁・吉田 明弘

099-285-7557

zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

地理学の醍醐味は野外実習にあるといっても良い。野外で見られる様々な人文・自然地理学の諸現象の観察やヒヤリングなどを1週間程度の長期エクスカージョンと日帰りのエクスカージョンにて行う。

学修目標

- ・実際の地理学の調査はどのように行われるかを理解することができる。
- ・文献に書かれている事柄が野外ではどのように見られるかを修得することができる。

授業計画

基本的に遠隔形式（対面型）で行う予定であるが、状況によって対面形式に変更する可能性がある。その際は、manabaのコースニュースと授業内で通知する。

- 第1回 オリエンテーション 【対面型】
- 第2回 事前講習 地域の調査法 【対面型】
- 第3回 事前準備1 対象地域の概括 【対面型】
- 第4回 事前準備2 調査対象の選定と関連文献の収集 【対面型】
- 第5回 事前準備3 調査項目の選定と統計資料の収集・分析 【対面型】
- 第6回 事前準備4 対象地域の地形図判読 【対面型】
- 第7回 野外実習1 対象地域の自然環境の理解 【対面型】
- 第8回 野外実習2 対象地域の人文・社会環境の理解 【対面型】
- 第9回 野外実習3 地域調査に関する基礎的技術の習得【対面型】
- 第10回 野外実習4 地域調査に関する基礎的技術の実践（景観観察）【対面型】
- 第11回 野外実習5 地域調査に関する基礎的技術の実践（聞き取り調査）【対面型】
- 第12回 野外実習6 地域調査に関する基礎的技術の実践（質問票調査）【対面型】
- 第13回 事後調査1 調査成果の作図・分析【課題提出型】
- 第14回 事後調査2 報告書の作成 【課題提出型】
- 第15回 調査成果報告 【対面型】

授業外学習（予習・復習）

授業時間内に適宜指示する。なお、本授業はエクスカージョン（5～7日間）を実施する。そのため、現地での調査計画や調査準備などの予習が必要である。また、エクスカージョン後における報告書の作成に伴った復習や調査成果の整理を行うこと。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

事前学習と野外調査の準備状況ならびに取り組み態度（30%）
 野外実習への取り組み態度（40%）
 調査報告（レポート）の作成状況・内容（30%）
 なお、野外実習不参加の場合や調査報告が未提出の場合は、不可とする。

オフィスアワ -

質問等は、授業終了後や研究室にて随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

この授業と共に、前期に開講される地理学実験（フィールド学実験（地理学））を履修すること。また、自然地理学概説、人文地理学概説などの地理学関係の講義を履修することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2105			
科目名			
中国文学研究(旧 中国文学)			
英語名			
Chinese Literature			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
この講義においては、学生が中国文学をよりよく理解し、中国文学についての個別的知識を体系化できるよう、中国文学史の全体像とその枠組みについて講義をし、特に中国における文学と絵画の関係について詳述する。			
学修目標			
(1) 中国の文学と絵画についての基礎知識を習得する。 (2) 中国の詩歌と絵画の関係についての深い理解に達する。 (3) 中国における社会と芸術の関係を理解する。			
授業計画			
本授業は、毎回遠隔形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス 第2回 中国文学と絵画についての概説 第3回 六朝の文学と絵画の関係 第4回 杜甫の詩歌と唐代の絵画 第5回 水墨画と中国文学 第6回 蘇軾の文学と絵画理論 第7回 清明上河図と中国文学 第8回 瀟湘八景の東アジアへの展開 第9回 南宋の文学と絵画 第10回 元の文人画と文学 第11回 明代文人の文学と絵画 第12回 董其昌の書画と文学 第13回 明代における唐詩と絵画 第14回 清の絵画と文学 第15回 題跋と中国文学			
授業外学習(予習・復習)			
予習: 次の授業で扱う分野について、テキスト、インターネット、図書館等を利用し、予習しておくこと。約2時間。 復習: 授業中に学んだ内容について復習し、扱われた作品の意味、内容を十分に理解できるようにしておくこと。約2時間。			
教科書			
板倉聖哲・伊藤郁太郎『台北 国立故宮博物院を極める』(新潮社、2009年)			
参考書			
宇佐美文理『中国絵画入門』岩波新書、2014年			
成績の評価基準			
期末試験(70%)およびミニッツ・ペーパーによる評価(30%)。			
オフィスアワ -			

金曜日・2限目・中国文学研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2142			
科目名			
英語オーラルd			
英語名			
Oral English d			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ コーダ		099-285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
None		前期	
授業概要			
<p>This is an upper-intermediate course that will teach you how to give presentations in English. The course will follow a pattern of lecture/activities one week, followed by presentations the next week. You will be expected to make about 6 presentations throughout the course. For the test, the class will be split into two halves, the 1st group will present the first week. The 2nd group will present the second week.</p>			
学修目標			
<p>This course aims to build your confidence in using real English. You will be able to learn how to give an effective presentation. The skills that you learn you will be able to use when you give presentations in Japanese too.</p>			
授業計画			
<p>Due to the university's restrictions on talking in the classroom, this class has to be held real-time on Zoom. If there are any changes to this, I will let you know via Manaba.</p> <p>Week 1 Introduction Week 2 Physical aspects of presentations 1 : Posture and eye contact Week 3 Presentation practice and peer evaluation Week 4 Physical aspects of presentations 2 : Gestures Week 5 Presentation practice and peer evaluation Week 6 Oral aspects of presentations 1 : Voice inflection Week 7 Presentation practice and peer evaluation Week 8 Oral aspects of presentations 2 : Pronunciation Week 9 Presentation practice and peer evaluation Week 10 Presentation structure 1 : Structure Week 11 Presentation practice and peer evaluation Week 12 Presentation structure 2 : Powerpoint Week 13 Presentation practice and peer evaluation Week 14 Individual research for final presentation Week 15 Final presentation and peer evaluation (1st group) Week 16 Final presentation and peer evaluation (2nd group)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>You will be given regular homework that will include preparation for the following class such as preparing for presentations or watching presentations on Youtube or revision of what we have done in class. You should expect the homework to take up two hours to complete each week.</p>			
教科書			
You will be given handouts			

参考書

You will be advised of any extra resources during the course.

成績の評価基準

Presentations in class 50%

Final Presentation 50%

オフィスアワー

Anytime ok, but mail me to make sure I will be available

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

None

アクティブ・ラーニング(授業回数)

Every week

備考(受講要件)

This class is for students who have spent 6 months or more overseas.

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2141			
科目名			
英語ライティング d			
英語名			
Academic Writing in English d			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ コーク		099-285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
None		後期	
授業概要			
You will learn essay structure and how to analyse paragraphs and essays. You will also learn how to use discourse markers and conjunctives effectively. You will be expected to communicate actively with other students about your writing in and outside of the classroom			
学修目標			
This class is an introduction to academic writing in English concentrating on essay structure for advantages and disadvantages essays, problem and solution essays and opinion essays. Classwork will be divided between discussion and writing. This class will be helpful if you are going to take the 教員採用試験 or IELTS or TOEFL.			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>Due to the university's restrictions on talking in the classroom, this class has to be held real-time on Zoom. If there are any changes to this, I will let you know via Manaba.</p> <p>Week 1 Advantages and disadvantages essays: introduction Week 2 Advantages and disadvantages essays: organising your essay Week 3 Advantages and disadvantages essays: writing introductions Week 4 Advantages and disadvantages essays: writing conclusions Week 5 Advantages and disadvantages essays: avoiding generalisations Week 6 Problem and solution essays: introduction Week 7 Problem and solution essays: organising your essay Week 8 Problem and solution essays: contrasting ideas Week 9 Problem and solution essays: writing introductions Week 10 Problem and solution essays: writing conclusions Week 11 Opinion essays: introduction Week 12 Opinion essays: supporting opinions Week 13 Opinion essays: expressing someone else's opinions Week 14 Opinion essays: writing introductions and conclusions Week 15 Essay feedback and test preparation Week 16 Final test</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>You will be expected to gather information for your essays.</p> <p>You will be given regular homework that will include preparation for the following class or revision of what we have done in class. You should expect the homework to take over four hours to complete.</p>			

	教科書
Handouts will be given	
	参考書
Bring your dictionaries!	
	成績の評価基準
Homework 75% (You will have three essays to write as homework each worth 25%) Final essay 25%	
	オフィスアワ -
Anytime is ok, but to be sure mail me. My official office hour is Tuesday 4th period.	
	アクティブ・ラーニング
グループワーク;	
	アクティブ・ラーニング (その他の内容)
None	
	アクティブ・ラーニング (授業回数)
15中15回	
	備考 (受講要件)
This class is for students who have spent at least 6 months in an English-speaking environment.	
	実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。	

ナンバリングコード

FHS-CGX2148

科目名

多言語文化論演習1

英語名

Multilingual Cultures 1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
兼城系絵		099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
中谷純江, Rafael Marmolejo, 森田豊子, 難波美芸		後期	

授業概要

グローバル化が進む世界は、貧困、格差、移民等の様々な課題を抱えている。これらは、飢餓人口の増加、人種差別、民主主義の否定、宗教対立、感染症の蔓延などの形をとって我々の暮らしを揺るがしている。本授業では、これら現在の社会が直面している課題を取り上げて、COIL(Collaborative Online International Learning)とよばれるオンラインを利用した国際協働学習をおこなう。米国の連携大学(University of Wisconsin, La Crosse)の学生と共に、日本とアメリカの社会の課題、中でも移民の問題に焦点をあてて比較検討する。外国人の受け入れに関わる地域社会の課題を具体的に取り上げて議論をおこなう。授業は日本語で行うが、連携大学に配信する講義やプレゼンテーションは英語で行う。

学修目標

1. To understand migration issues (移民問題を理解する)
2. To explore issues of labor migration in Japan (日本における労働移住について調べる)
3. To consider challenges in building a multicultural society. (多文化社会を築くための取り組みについて考察する)
4. To demonstrate greater openness and willingness to interact with those from different background. (異なる背景を持つ人々と接する際に心を開いて積極的な態度をしめす)

授業計画

1. Orientation (COIL連携について説明, プレゼン課題説明)
2. 難民、移民、外国人労働者(移民の受容、各国の政策)
3. 日本の外国人受け入れ政策の変容と現況
4. 日本のマイノリティー、外国ルーツの人々、技能実習生の位置付け
5. 多文化共生への取り組み事例
6. アメリカの移民政策概説
7. アメリカの課題(貧困、人種差別、二極化)
8. 東アジアの移民政策(台湾、韓国等との比較)
9. アメリカの多言語教育の現状
10. UWL学生へのコメント・ディスカッション(日米比較)
11. プロジェクト研究(テーマ発表)
12. プロジェクト研究(資料収集、インタビュー等)
13. プロジェクト研究(中間発表)
14. プロジェクト研究(再考)
15. プロジェクト研究(成果発表)

基本的に対面形式で行うが、状況に応じて遠隔形式に変更することもある。

授業外学習(予習・復習)

予習: 各回ごとに提示される課題に取り組む(標準的学習時間 2時間程度)
 復習: ディスカッションを通じて得られた知見をもとに、課題の内容を振り返りながら復習する(標準的学習時間 2時間程度)

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

田中宏 (2013) 『在日外国人 (第三版) : 法の壁、心の溝』岩波新書
 望月優大 (2019) 『ふたつの日本「移民国家」の建前と現実』講談社現代新書
 宮島喬 (2014) 「 6章 マイグレーションと子ども」 『多文化であることとは : 新しい市民の条件』岩波現代全書
 宮島喬 (2014) 『外国人の子どもの教育』東京大学出版会
 宮島喬他 (2019) 『開かれた移民社会へ 別冊 環』24
 小島祥美 (2016) 『外国人の就学と不就学 : 社会で「見えない」子どもたち』大阪大学出版会
 下地ローレンス吉孝 (2019) 「日本人と外国人の二分法を問い直す」 『現代思想 特集 : 新移民時代』2019年4月号
 ナディ (2019) 『ふるさとして呼んでもいいですか : 6歳で移民になった私の物語』大月書店
 佐久間孝正 (2015) 『多国籍化する日本の学校 : 教育グローバル化の衝撃』勁草書房
 徳田剛他 (2019) 『地方発 外国人住民との地域づくり : 多文化共生の現場から』晃洋書房

成績の評価基準

プレゼンテーション(40%)、プロジェクトの成果(30%)、ディスカッション・サマリー(30%)

オフィスアワ -

火曜日5限目

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

Collaborative Online International Learning

アクティブ・ラーニング(授業回数)

10

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード

FHS-CGX2114

科目名

イギリス演劇研究

英語名

British Drama

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林 潤司		099-285-7525 (法文学部学生係)	jkobayashi@int.iuk.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

シェイクスピアの悲劇の読解を通してイギリス演劇研究に必要な概念や用語を学び、レポートや卒業論文を作成する際にそれらを分析の道具として使いこなせるようにします。

学修目標

1. イギリス演劇の特徴と歴史的展開の概略を述べるができる。
2. 任意のイギリス演劇作品について基本的な演劇用語と概念を用いて分析できる。

授業計画

本授業は、遠隔形式 (Zoomによるリアルタイム型) で行う予定である。(録画配信も行う。) なお、授業形態については、様々の状況により変更となる可能性がある。授業形態変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 インTRODクシヨN(授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明)
- 第2回 シェイクスピアとその時代
- 第3回 初期近代イギリス演劇の概説
- 第4回 『マクベス』研究(1): ジェイムズ時代の演劇
- 第5回 『マクベス』研究(2): 観客反応とドラマティック・アイロニー
- 第6回 『マクベス』研究(3): 予言の語用論
- 第7回 『マクベス』研究(4): ジェンダー・ポリティクス
- 第8回 『マクベス』研究(5): カタルシス理論
- 第9回 『マクベス』研究(6): 自然と人間性
- 第10回 『マクベス』研究(7): リアリズムと象徴主義
- 第11回 『マクベス』研究(8): 時間のテーマ
- 第12回 『マクベス』研究(9): 古典文学との対話
- 第13回 『マクベス』研究(10): 上演史と受容史
- 第14回 『マクベス』研究(11): 日本における受容
- 第15回 まとめとふりかえり

授業外学習 (予習・復習)

単位取得のために必要な授業時間外の学習時間の目安は次の通りです。(1) 授業中に指示したテキストを事前に読み疑問点などを整理する (毎週1時間程度)。(2) 授業中に指示した関連作品および映像作品の鑑賞 (毎週2.5時間程度)。(3) 授業中に指示した参考文献を読む (2.5時間程度)。(4) 期末レポート準備 (5時間程度)

教科書

今西雅章 (編注) 『マクベス』大修館シェイクスピア双書 (大修館書店)

参考書

今西雅章ほか (編) 『シェイクスピアを学ぶ人のために』 (世界思想社)
 日本シェイクスピア協会 (編) 『甦るシェイクスピア 没後400周年記念論集』 (研究社)
 * その他の文献については適宜指示します。

成績の評価基準
授業中の討論等への積極的な参加態度等(30%)、授業内での小論文または小テスト(30%)、レポート(40%)とし、総合的に評価します。
オフィスアワ -
質問等については授業終了後に受け付けるほか、メールでも対応する。
アクティブ・ラーニング
その他;
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
レスポンスシート等
アクティブ・ラーニング(授業回数)
15回中15回
備考(受講要件)
特になし。
実務経験のある教員による実践的授業
該当しない。

ナンバリングコード			
科目名			
イギリス文学演習1			
英語名			
English Literature 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大和 高行		099-285-7570	yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
ロアルド・ダールの真骨頂は、なんといってもストーリーの奇抜さにあり、それは終盤に用意された意外な結末に向けて成功に組み立てられており、まさに、'Unexpected Stories' と呼ぶのにふさわしい。本授業では、そのようなダールの文学世界を味読する。			
学修目標			
1 ロアルド・ダールのストーリーの奇抜さを味わうことができる。 2 'Unexpected Stories' の小美味よさを味読することができる。			
授業計画			
* 対面形式で行う予定であるが、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
* R3.9.3追記:「教育担当理事からの通知」により、10月1日(金)から遠隔授業のみを開始し、10月15日(金)からは対面授業と遠隔授業の実施(予定)とするような要請がなされました。また、夏季休業期間中に鹿児島県外に移動した学生は、9月30日(木)までに通学拠点(鹿児島市内等)に戻り、対面授業の開始まで2週間の健康観察を行うよう指導するようにとの要請も併せてなされました。つまり、当初の予定では本演習は対面形式で行う予定でありましたが、10月最初の2週間は遠隔授業となる点につきまして、ご注意ください。			
第1回 オリエンテーション(授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明)			
第2回 'Lamb to the Slaughter' の精読1 (pp. 1-4)			
第3回 'Lamb to the Slaughter' の精読2 (pp. 5-8)			
第4回 'Lamb to the Slaughter' の精読3 (pp. 9-12)			
第5回 'Lamb to the Slaughter' の精読4 (pp. 13-16)			
第6回 'Lamb to the Slaughter' の小テスト&ディスカッション			
第7回 'Lamb to the Slaughter' のプレゼンテーション			
第8回 'Dip in the Pool' の精読1 (pp. 17-20)			
第9回 'Dip in the Pool' の精読2 (pp. 22-25)			
第10回 'Dip in the Pool' の精読3 (pp. 26-29)			
第11回 'Dip in the Pool' の精読4 (pp. 30-33)			
第12回 'Dip in the Pool' の精読5 (p.34) と小テスト			
第13回 'Dip in the Pool' ディスカッション			
第14回 'Dip in the Pool' のプレゼンテーション			
第15回 'William and Mary' に関するディスカッション			
授業外学習(予習・復習)			
教科書、参考文献などにあらかじめ目を通し、予習しておくこと。(学習に係る標準時間は約2時間) また、毎回の講義を受けた後に、復習しておくこと。(学習に係る標準時間は約2時間)			
教科書			
田島松二(編注)『ダール珠玉短編集<改定増補版>』南雲堂、2012年			
参考書			

佐藤嗣二『ロアルド・ダール論』泉屋書店、1996年。
 佐藤嗣二『ロアルド・ダール論 続』泉屋書店、1997年。
 佐藤嗣二『ロアルド・ダール論 続々』泉屋書店、1999年。
 富田泰子『ロアルド・ダール』（現代英米児童文学評伝叢書 9）KTC中央出版、2003年。
 若島正「乱視読者の短篇講義（出張篇）ダールの「願い」を読む」、「ロアルド・ダール短編解説」『ハヤカワミステリマガジン』2016年9月号（第61巻第5号）、84-87頁、108-112頁。
 ロアルド・ダール『「ダ」ったらダールだ』評論社、2007年。
 金原瑞人編訳『八月の暑さのなかで；ホラー短編集』岩波書店、2010年。
 加畑達夫「教科書としてのダール」『山形県立米沢女子短期大学附属生活文化研究所報告』第34号（2007年）、1-8頁。
 加畑達夫「教科書としてのダール(その2)」『山形県立米沢女子短期大学附属生活文化研究所報告』第35号（2008年）、1-8頁。
 江川泰一郎『英文法解説 改定第三版』、金子書房、1991年、480-481頁（特に§315のうち、481頁の（2））。
 野中涼『文学の用語』、松柏社、2015年。

『ハヤカワミステリマガジン』2016年9月号（第61巻第5号）はプレゼン資料を作成するにあたり、非常に有用となる資料です。私の個人研究費で購入して配架場所を中央図書館4階開架にしていますが、資料作成時には受講生の貸出し依頼が集中することが見込まれます。

<https://www.hayakawa-online.co.jp/shopdetail/000000013286/> にアクセスすれば、1320円と非常に安い価格で手に入れることができます。お財布に余力のある人は是非とも購入することをお勧めします。

その他、適宜紹介する。

成績の評価基準

訳読の出来ばえ（30%）、プレゼン・ディスカッションの出来ばえ（30%）、小テスト（40%）とし、総合的に評価します。

オフィスアワー

Any time is ok, but please email me before you come to make sure I will be available.

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

2/3以上の出席者を評価対象とする。課題は提出期限を厳守すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)
ナンバリングコード

FHS-CGX3203

科目名

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)

英語名

Western History & Culture 2B

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
藤内哲也		099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

本演習では、卒業論文の作成に向けて、各自で研究テーマを設定し、レジュメやパワーポイントを使って発表します。
それぞれの発表後には、全体でディスカッションを行います。

学修目標

1. ヨーロッパの歴史世界に関する知見や研究の視座を獲得します
2. 「人文学基礎 1、2」や「コース基礎演習 1、2」で培った技能をもとに、ヨーロッパの歴史世界を研究するうえで必要な情報分析力、批判的思考力、自己表現力などを身につけます
3. 卒業論文の作成に向けて、各自のテーマについての知見や理解を深めます

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行います。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業中に通知します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒論研究の進め方(1)
- 第3回 卒論研究の進め方(2)
- 第4回 個人発表(1)
- 第5回 個人発表(2)
- 第6回 卒論中間発表会(1)
- 第7回 卒論中間発表会(2)
- 第8回 卒論中間発表会(3)
- 第9回 個人発表(3)
- 第10回 個人発表(4)
- 第11回 個人発表(5)
- 第12回 個人発表(6)
- 第13回 個人発表(7)
- 第14回 個人発表(8)
- 第15回 まとめと課題

授業外学習(予習・復習)

- 【予習】個人発表に向けて、資料を広く読み、レジュメを作成します。
- 【復習】個人発表において受けた質問やコメントをまとめ、今後の研究の展開過程について考えます。

教科書

とくに指定しません。適宜レジュメ等を配布します

参考書

金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年
服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年
井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年
このほかの文献については、授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

発表の準備・内容、プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的な参加、レポートなどにより総合的に判断します

オフィスアワー

金曜 4 限 (メールにてアポを取ることに)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15 回中 11 回

備考 (受講要件)

ゼミ所属生に限ります。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX3116			
科目名			
哲学演習 2 B (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
近藤和敬		099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
参加者の研究発表内容について議論する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の関心にそった文献を選べるようになる。 ・読んだものを適切にまとめられるようになる。 ・ほかの人の発表にたいして適切にコメントが言えるようになる。 ・引用の仕方などを理解する。 ・参考文献表の作り方を覚える。 ・卒論の準備を進める。 			
授業計画			
ゼミ生の研究発表のための授業です。 1回目：ガイダンス 2回目～15回目：ゼミ生の発表			
授業外学習 (予習・復習)			
発表者は、授業外時間に本を読み、まとめてくる必要があります。予習1時間、復習1時間。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表中の議論 (80%)、授業中の課題 (20%)			
オフィスアワ -			
随時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
該当なし。			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
ゼミ生に限ります。			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし。			

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)
ナンバリングコード

FHS-CGX3203

科目名

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)

英語名

Western History & Culture 2A

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

細川道久

099-285-7525 (法文学部学生係)

hos leh.kagoshima-u.ac.jp は
アットマーク

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

卒業論文を作成するための実践的な授業です。テーマ設定、文献検索、レジюме作成、報告、討論、レポート作成を進めながら、実際の卒業論文執筆に必要な能力を養います。

学修目標

1. 卒業論文作成に必要な研究能力を養う。
2. 卒業論文作成を通して、歴史学研究への理解を深める。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒論とは何か
- 第3回 卒論テーマの選び方
- 第4回 参考文献の探し方
- 第5回 文献の読み方
- 第6回 報告の仕方
- 第7回 個々のテーマに応じた助言指導(1)
- 第8回 個々のテーマに応じた助言指導(2)
- 第9回 個々のテーマに応じた助言指導(3)
- 第10回 ディスカッションの仕方
- 第11回 報告とディスカッション(1)
- 第12回 報告とディスカッション(2)
- 第13回 報告とディスカッション(3)
- 第14回 論文執筆の作法
- 第15回 総括

授業外学習(予習・復習)

卒論作成に向けて、予習、復習は必須です。予習・復習に要する時間は、標準的にはそれぞれ1時間ですが、特に自分の報告準備には、それ以上の時間が必要です。

教科書

なし。

参考書

特になし。

成績の評価基準

授業への取り組み態度(課題の準備、討論への参加度)(100%)。

オフィスアワ -

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

受講はゼミ所属生に限ります(ゼミ生は必ず受講してください)。平成28年度以前の入学生については、「西洋の歴史と社会演習A2」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX3115			
科目名			
英語学演習 2 (旧 英語構造論演習)			
英語名			
English Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
末松信子		099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
本演習では、英語学関連の論文を読み、英語および英語学に関する知識を深めるとともに、卒業論文執筆に向けた指導を行う。			
学修目標			
(1) 英語の構造についての理解を深める。 (2) 英語を研究する方法を修得する。 (3) 関心のあるテーマをについて、論理的かつ説得力のあるレポートを作成する。			
授業計画			
* 対面形式でおこなう予定であるが、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス 第2回~第15回 発表と議論 第16回 期末レポート			
発表担当者の準備した資料と発表に基づき授業を進める。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: 指示された参考書、論文などに予め目を通し、課題をして予習しておくこと。(学習に関わる標準的時間は約2時間)			
復習: 授業内容を基に各自参考文献を調べるなど復習をしておくこと。(学習に関わる標準的時間は約2時間)			
教科書			
必要に応じて適宜指示する。			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			
発表の準備・内容(15%)、プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの積極的な参加(15%)、期末レポート(40%)により総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
水曜日: 9:30~12:00			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション; その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
ディベート、プレゼンテーション			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			
備考 (受講要件)			
ゼミ生に限る。			

該当なし

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)
ナンバリングコード

FHS-CGX3112

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)

英語名

Modern Cultural History of Europe & America 2

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

梁川英俊

099-285-8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

この授業では、基本文献の講読と受講生が自らの関心に基づいて選んだテーマによる報告や討論を通じて、ヨーロッパ・アメリカ文化を研究する上での基本的な姿勢や方法について学び、併せてより良い卒業論文の作成に向けた準備をします。

学修目標

1. ヨーロッパ・アメリカ文化に関する基本的な知識を習得する。
2. 自らの関心に合わせたテーマ設定と文献等の調査ができる。
3. 自分の知識や思考を適切な言葉で伝えることができる。

授業計画

第1回 オリエンテーション
第2回~第11回 基本文献の講読および助言指導
第12回~第14回 報告および討論
第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

報告に際しては、必ず事前の予習をし(2時間)、また報告後はプレゼンの手直しを行ってください(2時間)。

教科書

特に指定せず、適宜紹介します

参考書

特に指定せず、適宜紹介します

成績の評価基準

授業に取り組む姿勢という観点から総合的に判断します。

オフィスアワ -

授業日の昼休み

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

毎回

備考 (受講要件)

受講生はゼミ所属生に限ります。

授業形式はコロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX3117

科目名

書籍文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A2)

英語名

Book Culture 2

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一		099-285-7577	takeoka@leh.kagosisima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

目的：本授業は、「書籍文化演習 1」での学習を踏まえて、書籍文化に関する研究を行うためのより高度な能力を身につけることを目的とする。

内容：書籍の歴史に関する文献の批判的な講読と討論を行い、書籍文化を研究するための視点や問題意識を学んだ上で、これを実践する。

方法：文献の講読と討論の後、学習者自らが書籍文化に関するテーマを設定して発表と討論を行い、レポートを作成する。

学修目標

1. 先行文献を批判的に読解し、それについて討論することができる。
2. 書籍文化を研究するための視点や問題意識を説明することができる。
3. 書籍文化に関する発表と討論を行い、レポートを作成することができる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第 1 回：オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認
- 第 2 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (1) 書籍出版の歴史
- 第 3 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (2) 書籍販売の歴史
- 第 4 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (3) 図書館の歴史
- 第 5 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (4) 本の装丁と挿絵
- 第 6 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (5) 書籍のデジタル化
- 第 7 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (6) 絵本とブックスタート
- 第 8 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (7) 大衆誌と女性雑誌
- 第 9 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (8) 近代のメディアミックス
- 第 1 0 回：学習者による発表と討論 (1)
- 第 1 1 回：学習者による発表と討論 (2)
- 第 1 2 回：学習者による発表と討論 (3)
- 第 1 3 回：学習者による発表と討論 (4)
- 第 1 4 回：学習者による発表と討論 (5)
- 第 1 5 回：授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認
- 期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。

授業外学習 (予習・復習)

予習：次の授業で扱われる文献の講読と発表の準備。(学修に係る標準時間は約1時間30分)

復習：授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について調査・学習を行う。(学修に係る標準時間は約1時間)

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

- ・永嶺重敏『モダン都市空間の読書空間』（日本エディタースクール出版部、2001年）
- ・植田康夫『知の創生と編集者の冒険』（出版メディパル、2018年）
- ・中村悦子『幼年絵雑誌の世界』（光文堂、1989年）
- ・戸叶勝也『レクラム百科文庫 ドイツ近代文化史の一側面』（朝文社、1995年）
- ・モスタファ・エル＝アパディ『古代アレクサンドリア図書館よみがえる知の宝庫』（中央公論社、1991年）
- ・池澤夏樹編『本は、これから』（岩波書店、2010年）
- ・平尾陽一郎 江成保徳『電子出版 情報の編集革命』（丸善株式会社、1988年）
- ・竹岡健一『ブッククラブと民族主義』（九州大学出版会、2017年）

成績の評価基準

文献の講読と討論を30%、発表と討論を50%、期末レポートを20%とする。

オフィスアワー

月曜2限

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

ゼミ所属生に限る。

平成28年度以前入学生は「ヨーロッパ言語文化演習A2」に読み替え。

プロジェクター利用。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX3111

科目名

アメリカ文学演習2(旧 アメリカ文学演習)

英語名

American Literature 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

竹内勝徳

連絡先(TEL)

285-8874

連絡先(MAIL)

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

卒論に向けての個別研究をゼミ生全員で共有・議論することで授業を進めていく。4年性は12月10日までに卒論を一旦提出してもらおう。12月5日からの発表では、卒論の概要を提示するとともに、卒論で用いた参考文献のうち、自分の研究方法を学ぶうえで最適と思えるものを選んで、その理論の骨子まとめる。レジメの様式としては、A4で4ページをB4で2枚に縮小コピーして受講生全員に配布。3年生は、前期と同じ作家について研究するか、新たに作家を選定し、教員と相談しながら自分の研究テーマを決定する。その後、参考文献のリストを作成し、自分の発表の日までに文献を読みこなし、テーマに応じた発表を行う。文献は教員から推奨する場合もある。文献リストの提出は10月31日まで。11月中に文献を読みこなし、発表に備える。レジメの様式としては、A4で4ページをB4で2枚に縮小コピーして受講生全員に配布。また、パワーポイントで議論の要点や資料、参考となる写真等を提示する。

学修目標

- (1) グローバルな想像力とコミュニケーション能力を養う。
- (2) 実戦的な英語力を向上させる。
- (3) 批判的思考力とディスカッション能力を向上させる。
- (4) 構造化された文章表現力を養う。
- (5) キャリア・ビジョンを高める。

授業計画

授業は基本的に毎回対面で行う。

- 第1回 オリエンテーション(online)
- 第2回 テーマ決定(online)
- 第3回 調査法(online)
- 第4回 調査法(online)
- 第5回 テキスト輪読(online)
- 第6回 テキスト輪読(online)
- 第7回 テキスト輪読(online)
- 第8回 テキスト輪読(online)
- 第9回 テキスト輪読(online)
- 第10回 3年生発表(online)
- 第11回 3年生発表(online)
- 第12回 3年生発表(online)
- 第13回 4年生発表(online)
- 第14回 4年生発表(online)
- 第15回 4年生発表(online)
- レポート提出(online)

授業外学習(予習・復習)

課題となった図書を精読し、分析してくる。研究課題について継続的に取り組む。
毎週合計4時間要する。

教科書

授業中に指示する。	
	参考書
授業中に指示する。	
	成績の評価基準
授業中の発表25%、小テスト25%、レポート50%。	
	オフィスアワ -
月曜の昼休み	
	アクティブ・ラーニング
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;	
	アクティブ・ラーニング (その他の内容)
ディスカッションにおいてアクティブ・ラーニングを行う。	
	アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回。	
	備考 (受講要件)
特になし。	
	実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。	

ナンバリングコード			
FHS-CGX3116			
科目名			
哲学演習 2 A (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志		099-285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
ゼミ生各人の研究を共同で検討し、討議する。			
学修目標			
自分の研究テーマにかんする文献の検討およびまとめが的確におこなえること。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 発表および討論：4年生(1)			
第3回 発表および討論：4年生(2)			
第4回 発表および討論：4年生(3)			
第5回 発表および討論：4年生(4)			
第6回 発表および討論：4年生(5)			
第7回 反省会(1)			
第8回 発表および討論：3年生(1)			
第9回 発表および討論：3年生(2)			
第10回 発表および討論：3年生(3)			
第11回 発表および討論：3年生(4)			
第12回 発表および討論：3年生(5)			
第13回 反省会(2)			
第14回 まとめ(1)			
第15回 まとめ(2)			
対面			
授業外学習(予習・復習)			
予習：発表者はレジメを準備すること(2時間)。			
復習：問題点の確認と再検討(2時間)。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表レジメ(100%)。評価基準は(1)問題点が明確であること。(2)言語パフォーマンスが的確であること。			
オフィスアワー			
月曜・3限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
該当なし			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回のうち15回

備考 (受講要件)

ゼミの授業です。ゼミ生は必ず受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX3201			
科目名			
日本歴史・文化演習 2 (旧 日本史演習 I)			
英語名			
Japanese History & Culture 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金井静香		099-285-7553	kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
卒業論文において日本史の史料を引用する予定の学生が、その史料を本授業において提示する。授業ではその史料を読解するとともに、その史料や関連する論文についての討論を行う。			
学修目標			
(1) 史料調査の方法を身につける。 (2) 史料の読解力を向上させる。 (3) 日本史の分野における先行研究の成果と課題について理解できる。			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回	ガイダンス		
第2回	4年生の受講者1人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第3回	4年生の受講者2人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第4回	4年生の受講者3人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第5回	4年生の受講者4人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第6回	4年生の受講者5人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第7回	4年生の受講者6人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第7回	4年生の受講者7人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第9回	3年生の受講者1人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第10回	3年生の受講者2人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第11回	3年生の受講者3人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第12回	3年生の受講者4人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第13回	3年生の受講者5人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第14回	3年生の受講者6人目の発表(史料読解を含む)、討論		
第15回	3年生の受講者7人目の発表(史料読解を含む)、討論		
授業外学習(予習・復習)			
予習: 2時間 発表者は事前に、読解予定の史料を他の受講生に提示しておくとともに、その史料について調査する。他の受講生は、提示された史料を読んでおく。			
復習: 2時間 発表者は、授業での討論を卒業論文に活用する方法を考える。他の受講生は、授業で得た知見を確認する。			
教科書			
各回の発表者により提示される史料が、授業で読むテキストとなる。			
参考書			
授業中に適宜紹介または配布する。			
成績の評価基準			
史料の読み下し及び現代語訳(35%)、発表もしくはレポート(35%)、授業への取り組み(30%)			
オフィスアワ -			

月曜日 5 限

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

発表及びその後の討論

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

金井ゼミに所属する学生、及び卒業論文において日本史の史料を取り扱う予定の学生は受講可。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX3202

科目名

アジア歴史・文化演習 2 (旧 アジア史演習2)

英語名

Asian History & Culture 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

大田由紀夫、福永善隆

連絡先 (TEL)

大田 (099-285-7560)、福永 (099-285-7561)

連絡先 (MAIL)

大田 (ota@leh.kagoshima-u.ac.jp)
)、福永 (fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp)

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

テーマ：研究発表 2

この授業は、卒業論文作成の準備を目的とした演習であり、前期の「研究発表 1」の継続授業である。参加者は、前期の発表を踏まえて自分の研究テーマを掘り下げた上で研究発表をし、参加者全員による討論を行う。

学修目標

卒業論文作成のための準備を目的とする。

授業計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 予備 (事前) 報告
- 第 3 回 4 年生の卒論構想発表 (1)
- 第 4 回 4 年生の卒論構想発表 (2)
- 第 5 回 4 年生の卒論構想発表 (3)
- 第 6 回 4 年生の卒論構想発表 (4)
- 第 7 回 4 年生の卒論構想発表 (5)
- 第 8 回 4 年生の卒論構想発表 (6)
- 第 9 回 3 年生の研究発表 (1)
- 第 10 回 3 年生の研究発表 (2)
- 第 11 回 3 年生の研究発表 (3)
- 第 12 回 3 年生の研究発表 (4)
- 第 13 回 3 年生の研究発表 (5)
- 第 14 回 3 年生の研究発表 (6)
- 第 15 回 3 年生の研究発表 (7)

なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。

授業外学習 (予習・復習)

演習での発表のため、自分や他者の発表テーマに関する事前の文献調査・発表内容の検討などの十分な準備をしておくことが望ましい (2 時間)。演習における発表内容を復習して理解を深めることが望ましい (2 時間)。

教科書

特になし。

参考書

担当教員の指示による。

成績の評価基準

演習における発表内容 (60%)、受講態度 (20%)、質疑応答 (20%) などから総合評価する。

オフィスアワー

木曜12時~12時50分

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

福永・大田 (由) ゼミの所属学生に限る。福永・大田 (由) ゼミに所属して卒業論文を書こうとする3、4年生は必ず受講すること。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX3109			
科目名			
社会言語学演習 2 (旧 社会言語学演習)			
英語名			
Sociolinguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎		099-286-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
学生個人の研究指導および研究成果(進捗状況を含む)の発表を行い、卒業論文作成の指導をおこなう。授業は学生の研究発表と討論を中心に進める。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを自分で発見, 設定できる 2. 研究のための調査・分析ができる 3. 先行研究を批判的にとらえ, 多角的に問題を考察することができる 4. 研究成果を論文にまとめ, 成果を発表することができる 			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス 第2回 研究発表と討論 第3回 研究発表と討論 第4回 研究発表と討論 第5回 研究発表と討論 第6回 研究発表と討論 第7回 研究発表と討論 第8回 中間での講評 第9回 研究発表と討論 第10回 研究発表と討論 第11回 研究発表と討論 第12回 研究発表と討論 第13回 研究発表と討論 第14回 研究発表と討論 第15回 授業のまとめと講評			
授業外学習 (予習・復習)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 面談により研究テーマ, 問題点の絞り込みをおこなうため, 下調べを十分におこなうこと 2. 発表後は質疑等への回答を付してレポートを提出すること 			
教科書			
指定しない			
参考書			
適宜指示する			
成績の評価基準			
研究発表 (70%) + 発表後のレポート (30%)			
オフィスアワ -			

月曜 5 限

アクティブ・ラーニング

ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

個人の研究テーマによる研究活動

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

太田一郎ゼミ生のみ

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX3503			
科目名			
現代文化論演習 2 (旧 現代文化論演習)			
英語名			
Culture In Modern Society 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
櫻井芳生		0992857544	yoshiosakuraig@gmail.com
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
遠隔】メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。 授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある			
学修目標			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。			
授業計画			
基本的に「講義資料・課題提示による授業」ですが、希望者が多ければ、ごく少数回「ZOOMによる、わいわい授業」もありえます（履修者の「ノリ」がよければ、ね！）			
第1回	ガイダンス		
第2回	文献の探し方		
第3回	文献の批判		
第4回	下級生による発表		
第5回	履修生によるコメント		
第6回	コメントへのリプライ		
第7回	上級生による発表		
第8回	履修生によるコメントその2		
第9回	コメントへのリプライその2		
第10回	下級生による発表 その2		
第11回	履修生によるコメントその3		
第12回	コメントへのリプライその3		
第13回	全体討議その1		
第14回	全体討議その2		
第15回	総評		
授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある			
授業外学習 (予習・復習)			
期末に対応提出文を提出してもらうので、毎回の議論をよく復習しておくこと 毎回4時間			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
駿台文庫『論文ってどんなもんだい』。拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』（光文社）。桜井のHPの各文章			
成績の評価基準			
期末提出物(30%)、平常点(発表40%、発言30%)。黙って休む人には単位を認定しない。			
オフィスアワ -			
木曜5限			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15 回中 15 回

備考 (受講要件)

桜井ゼミ、ゼミ生は必ず履修の事
黙って休む人には単位を認定しない。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX3107

科目名

英語コミュニケーション演習

英語名

English Communication

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

スティーブ コダ

連絡先 (TEL)

099-285-7573

連絡先 (MAIL)

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

None

前後期

後期

授業概要

This seminar will focus on working towards your dissertation

Due to the current restrictions, this class has to be conducted realtime mainly on Zoom. However the 発表会 will be done face-to-face with Suematsu-zemi, if it is possible. If there is a change in the situation, we will deal with it accordingly.

学修目標

You will work towards your dissertation receiving supervision from me, as well as help from other members of the class.

You will also take part in library guidance and careers advice activities.

授業計画

Due to the university's current restrictions on talking in the classroom, this class has to be conducted realtime mainly on Zoom. However the 発表会 will be done face-to-face with Suematsu-zemi, if it is possible. If there is a change in the situation, we will deal with it accordingly, and I will let you know on Manaba. If you are unable to come to Kadai for the 発表会, you will be able to join via Zoom.

Week 1 Summer progress report

Week 2 Library guidance

Week 3 卒論中間発表会

Week 4 卒論中間発表会

Week 5 Careers advice

Week 6 Careers advice

Week 7 3rd years' progress report and feedback

Week 8 3rd years' progress report and feedback

Week 9 3rd years help 4th years with their dissertations

Week 10 卒論構想発表会

Week 11 卒論構想発表会

Week 12 Dissertation final week

Week 13 3rd year progress report and feedback

Week 14 Introduction of new 2nd years

Week 15 卒論発表会 (This class will take place after exam week)

授業外学習 (予習・復習)

You will be expected to continue with working towards your dissertation outside of class throughout the semester. You should expect this homework to take over four hours to complete.

教科書
None
参考書
None
成績の評価基準
3rd years: Progress reports (20%), 構想発表会(30%) and a final 9000字 report (50%) 4th years: 発表会 s (100%)
オフィスアワ -
Anytime is ok, but to mail me to make sure I'm in!
アクティブ・ラーニング
グループワーク; プレゼンテーション;
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
None
アクティブ・ラーニング(授業回数)
15回中7回
備考(受講要件)
None
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)
ナンバリングコード

FHS-CGX3113

科目名

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)

英語名

German Language & Culture 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

與倉アンドレーア

連絡先 (TEL)

099-285-7578

連絡先 (MAIL)

yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

ヨーロッパ言語文化演習A4(前期)の続きとして開講する。学生の興味に応じてテーマを定め、それに基づき文献検索をする。外国語の文献の場合は、文献の読み方などを学習する。4年次の卒業論文に向けて、論文の書き方なども学習し、適宜レポート作成を行う。

学修目標

文献検索の仕方、文献、特に外国語の文献の読み方、論文の書き方等を習得すること。

授業計画

授業形態は対面授業になります。

第1回 ゼミの進め方など概要の説明

第2回 第14回 英語またはドイツ語の文学のテキストまたは新聞記事などを読んで討論する

第15回 まとめ

*尚、新型コロナウイルス感染拡大の状況次第で、授業日程の変更や遠隔授業になることもあり得ます。

授業外学習 (予習・復習)

予習：毎回の授業 (ただし、初回はmanabaに掲載する) で提示される資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は2時間)

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は2時間)

教科書

適宜参考文献やプリントの配布。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

成績の評価基準

発表とレポートに基づき総合的に評価する。

オフィスアワー

月曜日 2限(10:30 - 12:00)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)
ナンバリングコード

FHS-CGX3203

科目名

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)

英語名

Western History & Culture 2A

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

細川道久

連絡先 (TEL)

099-285-7525 (法文学部学生係)

連絡先 (MAIL)

hos leh.kagoshima-u.ac.jp は
アットマーク

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

本授業(ゼミ)は、毎回対面形式で行なう予定であるが、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更するときは、メール、授業内において連絡する。

卒業論文を作成するための実践的な授業(ゼミ)です。テーマ設定、文献検索、レジュメ作成、報告、討論、レポート作成を進めながら、実際の卒業論文執筆に必要な能力を養います。

学修目標

1. 卒業論文作成に必要な研究能力を養う。
2. 卒業論文作成を通して、歴史学研究への理解を深める。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒論とは何か
- 第3回 卒論テーマの選び方
- 第4回 参考文献の探し方
- 第5回 文献の読み方
- 第6回 報告の仕方
- 第7回 個々のテーマに応じた助言指導(1)
- 第8回 個々のテーマに応じた助言指導(2)
- 第9回 個々のテーマに応じた助言指導(3)
- 第10回 ディスカッションの仕方
- 第11回 報告とディスカッション(1)
- 第12回 報告とディスカッション(2)
- 第13回 報告とディスカッション(3)
- 第14回 論文執筆の作法
- 第15回 総括

授業外学習(予習・復習)

卒論作成に向けて、予習、復習は必須です。予習・復習に要する時間は、標準的にはそれぞれ1時間ですが、特に自分の報告準備には、それ以上の時間が必要です。

教科書

なし。

参考書

特になし。

成績の評価基準

授業への取り組み態度(課題の準備、討論への参加度)(100%)。

オフィスアワ -

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

受講はゼミ所属生に限ります (ゼミ生は必ず受講してください)。平成28年度以前の入学生については、「西洋の歴史と社会演習A2」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)
ナンバリングコード

FHS-CGX3502

科目名

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)

英語名

Popular Culture 2

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴		099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

【前期のポピュラーカルチャー論演習2と合わせて】

ゼミ生のみ受講可。卒論執筆を見据えた演習で、ゼミ生の発表により授業を進める。文章と視覚資料の両方を準備・配布したうえでの、口頭によるプレゼンテーションが基本となる。ゼミ生は自身の興味関心に従って資料を収集し自身の意見を体系化し、自身の主張を述べる事が求められる。

学修目標

1. 卒業論文執筆に関わる、形式の重要性を理解し修得できるようにする
2. オーラルと文章両方のレベルで、自身の主張を明確にできるようにする。
3. 自らの主張を他者へと明確に伝達できるようになる。
4. 卒論に必要な資料に目配りができるようになる。

授業計画

本授業は全て対面型で行う予定である。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学生による発表(1)
- 第3回 学生による発表(2)
- 第4回 学生による発表(3)
- 第5回 学生による発表(4)
- 第6回 学生による発表(5)
- 第7回 中間総括
- 第8回 学生による発表(7)
- 第9回 学生による発表(8)
- 第10回 学生による発表(9)
- 第11回 学生による発表(10)
- 第12回 学生による発表(11)
- 第13回 学生による発表(12)
- 第14回 学生による発表(13)
- 第15回 学生による発表(14)

備考：進行状況次第で、授業形式は課題提出型等に変更される可能性がある。

授業外学習(予習・復習)

自身の卒業論文に必要な資料を継続的に収集し、整理しておくこと。また、自身の主張したい意見や論点について簡潔に述べる事ができるように、考えを巡らせておくこと。

予習：manabaや授業中に掲載・指示された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約2時間)

復習：議論中で提示された質問等の内容を振り返り、論文作成のための復習を行う(標準的時間は2時間)。ま

た、適宜アカデミックな文章・論理的な日本語についての文献に目を通す。

教科書

授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。

成績の評価基準

- (1) ディスカッションへの参加 (口頭・manaba上含む) (50%)
- (2) 適切な資料の作成 (文献リストの形式・量) (50%)

以上より総合的に判断する。

オフィスアワ -

火曜12-13時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

14回中15回

備考 (受講要件)

- 1. 太田純ゼミに所属する学生のみ受講可。
- 2. 発表の順番は、受講生との協議の上で決定する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)
ナンバリングコード

FHS-CGX3113

科目名

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)

英語名

German Language & Culture 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

與倉アンドレーア

連絡先 (TEL)

099-285-7578

連絡先 (MAIL)

yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

学生の興味に応じてテーマを定め、それに基づき文献検索をする。外国語の文献の場合は、文献の読み方などを学習する。4年次の卒業論文に向けて、論文の書き方なども学習し、適宜レポート作成を行う。

学修目標

文献検索の仕方、文献、特に外国語の文献の読み方、論文の書き方等を習得すること。

授業計画

授業形態は対面授業になります。

第1回 ゼミの進め方など概要の説明

第2回 第14回 英語またはドイツ語の文学のテキストまたは新聞記事などを読んで討論する

第15回 まとめ

*尚、新型コロナウイルス感染拡大の状況次第で、授業日程の変更や遠隔授業になることもあり得ます

授業外学習 (予習・復習)

予習：毎回の授業 (ただし、初回はmanabaに掲載する) で提示される資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は2時間)

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は2時間)

教科書

適宜参考文献やプリントの配布。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

成績の評価基準

発表とレポートに基づき総合的に評価する。

オフィスアワ -

月曜日 3限 (12:50 - 14:20)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回中15回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX3504			
科目名			
報道論演習 2 (マスコミ論演習)			
英語名			
Journalism Studies 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
宮下正昭		前期	
授業概要			
4年生はそれぞれの卒論テーマに向けて、随時、質疑を重ね、構想を固める。 3年生は、まずは社会の現状を幅広く知る。ネットだけでなく、新聞、テレビの報道の中身、番組の中身、メディアのありようを探る。課題図書も随時、与える。			
学修目標			
4年生は卒論の構想を固めて、さらに必要な調べは何なのか詰める。 3年生は自分のやりたい卒論テーマを探り、固める。			
授業計画			
4年生は卒論の進捗状況を報告し、数回、ゼミ内で発表も行う。 3年生とは日々のマスコミの動向を一緒に確認しながら、自分なりの社会的な関心事を決めていく。			
授業外学習 (予習・復習)			
図書館で新聞各紙を見る。見出しから、時に j は記事まで読み進み、あらためて見出しを吟味する。			
教科書			
特になし。			
参考書			
随時、提示する。			
成績の評価基準			
毎回の授業の態様と研究成果の発表内容から総合的に判断する。			
オフィスアワー			
金曜午後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
該当なし			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
基本、対面授業の予定。			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし			

ナンバリングコード			
FHS-CGX3116			
科目名			
哲学演習 2 B (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
近藤和敬		099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
参加者の研究発表内容について議論する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の関心にそった文献を選べるようになる。 ・読んだものを適切にまとめられるようになる。 ・ほかの人の発表にたいして適切にコメントが言えるようになる。 ・引用の仕方などを理解する。 ・参考文献表の作り方を覚える。 			
授業計画			
ゼミ生の研究発表のための授業です。			
1回目：ガイダンス			
2回目～15回目：ゼミ生の発表			
授業は主にZOOMを使ったりリアルタイム型の授業を予定しています。			
また、状況によっては授業形態を変更する可能性があります。			
授業外学習 (予習・復習)			
発表者は、授業外時間に本を読み、まとめてくる必要があります (予習1時間、復習1時間)。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表の内容に応じて評価します。毎回の発表中での議論 (80%)、授業中に課される課題 (20%)			
オフィスアワ -			
授業のあとなど随時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
該当なし			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
ゼミ生に限ります。			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし			

ナンバリングコード			
FHS-CGX3109			
科目名			
社会言語学演習 2 (旧 社会言語学演習)			
英語名			
Sociolinguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎		099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
学生個人の研究指導および研究成果（進捗状況を含む）の発表を行い，卒業論文作成の指導をおこなう。授業は学生の研究発表と討論を中心に進める。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを自分で発見，設定できる 2. 研究のための調査・分析ができる 3. 先行研究を批判的にとらえ，多角的に問題を考察することができる 4. 研究成果を論文にまとめ，成果を発表することができる 			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス 第2回 研究発表と討論 第3回 研究発表と討論 第4回 研究発表と討論 第5回 研究発表と討論 第6回 研究発表と討論 第7回 研究発表と討論 第8回 中間での講評 第9回 研究発表と討論 第10回 研究発表と討論 第11回 研究発表と討論 第12回 研究発表と討論 第13回 研究発表と討論 第14回 研究発表と討論 第15回 授業のまとめと講評			
授業外学習（予習・復習）			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 面談により研究テーマ，問題点の絞り込みをおこなうため，下調べを十分におこなうこと 2. 発表後は質疑等への回答を付してレポートを提出すること 			
教科書			
指定しない			
参考書			
適宜指示する			
成績の評価基準			
研究発表（70%）+ 発表後のレポート（30%）			

オフィスアワ -	
月曜 5 限	
アクティブ・ラーニング	
ディベート; フィールドワーク; その他;	
アクティブ・ラーニング (その他の内容)	
個人の研究テーマによる研究活動	
アクティブ・ラーニング (授業回数)	
15回中13回	
備考 (受講要件)	
太田一郎ゼミ生のみ	
実務経験のある教員による実践的授業	
該当なし	

ナンバリングコード

FHS-CGX3117

科目名

書籍文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A2)

英語名

Book Culture 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

竹岡健一

連絡先 (TEL)

099-285-7577

連絡先 (MAIL)

takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

目的：本授業は、「書籍文化演習 1」での学習を踏まえて、書籍文化に関する研究を行うためのより高度な能力を身につけることを目的とする。

内容：書籍の歴史に関する文献の批判的な講読と討論を行い、書籍文化を研究するための視点や問題意識を学んだ上で、これを実践する。

方法：文献の講読と討論の後、学習者自らが書籍文化に関するテーマを設定して発表と討論を行い、レポートを作成する。

学修目標

1. 先行文献を批判的に読解し、それについて討論することができる。
2. 書籍文化を研究するための視点や問題意識を説明することができる。
3. 書籍文化に関する発表と討論を行い、レポートを作成することができる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第 1 回：オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認

第 2 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (1) 書籍出版の歴史

第 3 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (2) 書籍販売の歴史

第 4 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (3) 図書館の歴史

第 5 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (4) 本の装丁と挿絵

第 6 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (5) 書籍のデジタル化

第 7 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (6) 絵本とブックスタート

第 8 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (7) 大衆誌と女性雑誌

第 9 回：書籍文化に関する文献の講読と討論 (8) 近代のメディアミックス

第 1 0 回：学習者による発表と討論 (1)

第 1 1 回：学習者による発表と討論 (2)

第 1 2 回：学習者による発表と討論 (3)

第 1 3 回：学習者による発表と討論 (4)

第 1 4 回：学習者による発表と討論 (5)

第 1 5 回：授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認

期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。

授業外学習 (予習・復習)

予習：次の授業で扱われる文献の講読と発表の準備。(学修に係る標準時間は約2時間)

復習：授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について調査・学習を行う。(学修に係る標準時間は2時間)

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

- ・永嶺重敏『モダン都市空間の読書空間』（日本エディタースクール出版部、2001年）
- ・植田康夫『知の創生と編集者の冒険』（出版メディパル、2018年）
- ・中村悦子『幼年絵雑誌の世界』（光文堂、1989年）
- ・戸叶勝也『レクラム百科文庫 ドイツ近代文化史の一側面』（朝文社、1995年）
- ・モスタファ・エル＝アパディ『古代アレクサンドリア図書館よみがえる知の宝庫』（中央公論社、1991年）
- ・池澤夏樹編『本は、これから』（岩波書店、2010年）
- ・平尾陽一郎 江成保徳『電子出版 情報の編集革命』（丸善株式会社、1988年）
- ・竹岡健一『ブッククラブと民族主義』（九州大学出版会、2017年）

成績の評価基準

文献の講読と討論を30%、発表と討論を50%、期末レポートを20%とする。

オフィスアワ -

月曜2限

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

ゼミ所属生に限る。

平成28年度以前入学生は「ヨーロッパ言語文化演習A2」に読み替え。

プロジェクター利用。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX3206			
科目名			
地理学演習 2 b (旧 地理学演習III)			
英語名			
Geography 2b			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
吉田明弘		099-285-7543	aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
受講者が地理学に関する内外の研究論文を収集・整理し、主要論文を読んで発表し、その内容について討議する。これによって、受講者は自分に興味のあるテーマに関する研究の傾向を把握することができる。自分がどのようなテーマで卒業論文をまとめるかを判断する上で、重要な作業である。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 論文の読み方と書き方について学ぶことができる。 2) 国内外における最新の研究動向を知ることができる。 3) 研究を遂行する上で必要な知識や技術を身に着けることができる。 			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：事前講習(1) - 地理学分野の学術論文</p> <p>第3回：事前講習(2) - 論文の読み方・書き方</p> <p>第4回：事前講習(3) - 論文の読み方・書き方</p> <p>第5回：受講生による発表論文の選定</p> <p>第6回：地形に関する地理学の論文講読と発表・討論</p> <p>第7回：気候に関する地理学の論文講読と発表・討論</p> <p>第8回：植生に関する地理学の論文講読と発表・討論</p> <p>第9回：災害に関する地理学の論文講読と発表・討論</p> <p>第10回：人口に関する地理学の論文講読と発表・討論</p> <p>第11回：都市に関する地理学の論文講読と発表・討論</p> <p>第12回：村落に関する地理学の論文講読と発表・討論</p> <p>第13回：農業に関する地理学の論文講読と発表・討論</p> <p>第14回：漁業に関する地理学の論文講読と発表・討論</p> <p>第15回：授業の総括</p> <p>第6回目以降の論文講読と発表・討論については、受講生の興味関心によって内容を変更する。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習：受講生は事前に発表論文を選定し、発表内容をレジュメと資料としてまとめる。他の受講生は発表者より事前に渡された発表論文を読み、討論内容や専門用語をまとめる(予習時間の目安：2~3時間程度)。</p> <p>復習：各自で発表・討論内容にかかわる問題を他の文献やインターネットで調べる(復習時間の目安：約2時間程度)。</p>			
教科書			
なし			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(50%)、論文発表(50%)を総合的に評価する。			

オフィスアワ -

演習終了後，メールや研究室にて随時受け付けます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

本演習の受講はゼミ生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX3206			
科目名			
地理学演習 2 a (旧 地理学演習II)			
英語名			
Geography 2a			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
受講者が地理学に関する内外の研究論文を収集・整理し、主要論文を読んで発表し、その内容について討議する。これによって、受講者は自分に興味のあるテーマに関する研究の傾向を把握することができる。自分がどのようなテーマで卒業論文をまとめるかを判断する上で、重要な作業である。			
学修目標			
地理学の研究対象・資料と分析視角・方法を理解できる。			
授業計画			
本授業は対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の事情で変更する可能性がある。その際は、予めmanabaのコースニュースなどで通知する。			
第1回	オリエンテーション		
第2回	事前講習 地理学の研究論文		
第3回	講読論文の選定 (課題提出型)		
第4回	地形に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第5回	気候に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第6回	植生に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第7回	災害に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第8回	人口に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第9回	都市に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第10回	村落に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第11回	農業に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第12回	漁業に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第13回	交通に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第14回	観光に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第15回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
予習 (2時間) : 発表者は事前に発表論文を探し、発表内容をまとめること。他の受講生は発表者より事前に渡された論文コピーを読み、討論内容をまとめておくこと。			
復習 (2時間) : 発表・討論内容にかかわる問題を他の文献やインターネットで調べること。			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
各回の発表・意見など授業への取り組み態度 (100%)			
オフィスアワ -			
演習終了後、フィールド学実験室にて対応。			

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

「地理学実習」と深く関連している。受講者は必ず「地理学実習」を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX2228			
科目名			
文化人類学演習1			
英語名			
Cultural Anthropology 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
兼城 系絵		099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
エスノグラフィーを執筆するにあたって必要なライティング技術の基礎を学ぶ。			
学修目標			
1. エスノグラフィーと呼ばれる文章の構造を理解することができる。			
2. 論文執筆に必要な技術を身につけ、実践することができる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 第2回：フィールドワーク（質的研究）について 第3回：エスノグラフィーとは何か？ 第4回：エスノグラフィーの読み方 第5回：論文の構造について??「根拠」のある文章とは？ 第6回：学生による報告とディスカッション？ 第7回：学生による報告とディスカッション？ 第8回：文章表現について??注と引用、カッコの使い方、表とグラフを中心に 第9回：学生による報告とディスカッション？ 第10回：学生による報告とディスカッション？ 第11回：参考文献の探し方とリストの作り方 第12回：学生による報告とディスカッション？ 第13回：学生による報告とディスカッション？ 第14回：書評の書き方について 第15回：本演習のふりかえり			
進度によって授業内容を変更することがある。 本演習は基本的に対面形式で行う予定であるが、状況に応じてオンライン型との併用も行うことがある。			
授業外学習（予習・復習）			
予習：予め出された課題に取り組み、指定した論文等を精読する（標準時間は2時間）			
復習：ディスカッションで示された論点を整理し、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
小田博志『エスノグラフィー入門：＜現場＞を質的研究する』（春秋社、2010）			
住原則也・箭内匡・芹沢知広『異文化の学びかた・描きかた—なぜ、どのように研究するのか』（世界思想社、2001）			
成績の評価基準			

各課題の成果（50％）、最終書評レポート（50％）

オフィスアワ -

水曜日昼休み（12時-13時）

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

基本的には多元地域文化コース所属生に限るが、フィールドワークや質的研究に関心がある場合にはその限りではない。

旧カリキュラム生向けアナウンス：比較地域環境コース所属生に限る。それ以外のコース所属生で履修を希望する者は、教員と要相談。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)
ナンバリングコード

FHS-CGX3112

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)

英語名

Modern Cultural History of Europe & America 2

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

梁川英俊

099-285-8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

この授業では、基本文献の講読と受講生が自らの関心に基づいて選んだテーマによる報告や討論を通じて、ヨーロッパ・アメリカ文化を研究する上での基本的な姿勢や方法について学び、併せてより良い卒業論文の作成に向けた準備をします。

学修目標

1. ヨーロッパ・アメリカ文化に関する基本的な知識を習得する。
2. 自らの関心に合わせたテーマ設定と文献等の調査ができる。
3. 自分の知識や思考を適切な言葉で伝えることができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション (課題提出型授業)
 第2回~第11回 基本文献の講読および助言指導 (課題提出型授業)
 第12回~第14回 報告および討論 (課題提出型授業)
 第15回 まとめ (課題提出型授業)

なお、今後の状況によっては、授業回数や授業内容の見直しもあり得ます。

授業外学習 (予習・復習)

報告に際しては、必ず事前の予習をし (2時間)、また報告後はプレゼンの手直しを行ってください (2時間)。

教科書

特に指定せず、適宜紹介します

参考書

特に指定せず、適宜紹介します

成績の評価基準

課題提出 (100%)

オフィスアワ -

授業日の昼休み

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

毎回

備考 (受講要件)

受講生はゼミ所属生に限ります。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX3504			
科目名			
報道論演習 2 (旧 マスコミ論演習)			
英語名			
Journalism Studies 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
執筆を始めた卒論をチェックし、さらなる調査、取材の必要性などを協議し、読みやすい、分かりやすい、それでも研究に値する作品を仕上げる。			
学修目標			
大学生生活の集大成として、社会人になっても自らを誇れる体験、発見だったと言える卒論を完成させる。			
授業計画			
第 1 - 1 4 回 途上の卒論を個別にチェック、追加取材、追加調査を加えながら協議を続ける。			
第 1 5 回 卒論発表会			
授業外学習 (予習・復習)			
卒論に関する情報を得るために日々のニュースは必ずチェックしてください。授業後の復習にも力をいれてください。			
教科書			
特に指定しない。興味があれば以下の参考書を読むこと。			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
意見発表など毎回の授業態様 (40%) と卒論の取り組み (60%) を総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
金曜午後			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
該当なし			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
1 5 回中 1 5 回			
備考 (受講要件)			
基本、対面授業とする。			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし			

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)
ナンバリングコード

FHS-CGX3502

科目名

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)

英語名

Popular Culture 2

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴		099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

【後期のポピュラーカルチャー論演習2と合わせて】
ゼミ生のみ受講可。卒論執筆を見据えた演習で、ゼミ生の発表により授業を進める。文章と視覚資料の両方を準備・配布したうえでの、口頭によるプレゼンテーションが基本となる。ゼミ生は自身の興味関心に従って資料を収集し自身の意見を体系化し、自身の主張を述べることが求められる。

学修目標

1. 卒業論文執筆に関わる、形式の重要性を理解し修得できるようにする
2. オーラルと文章両方のレベルで、自身の主張を明確にできるようにする。
3. 自らの主張を他者へと明確に伝達できるようになる。
4. 卒論に必要な資料に目配りができるようになる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形式については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表のための諸導入
- 第3回 学生による発表 (1)
- 第4回 学生による発表 (2)
- 第5回 中間総括
- 第6回 学生による発表 (3)
- 第7回 学生による発表 (4)
- 第8回 学生による発表 (5)
- 第9回 学生による発表 (6)
- 第10回 学生による発表 (7)
- 第11回 学生による発表 (8)
- 第12回 学生による発表 (9)
- 第13回 学生による発表 (10)
- 第14回 学生による発表・卒論計画立案 (課題提出型)
- 第15回 総括

リアルタイム型の授業は、課題提出型・オンデマンド型に変更される可能性がある。
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

授業外学習 (予習・復習)

自身の卒業論文に必要な資料を継続的に収集し、整理しておくこと。また、自身の主張したい意見や論点について簡潔に述べるができるように、考えを巡らせておくこと。

予習：manabaや授業中に掲載・指示された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約2時間)

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)

復習：議論中で提示された質問等の内容を振り返り、論文作成のための復習を行う（標準的時間は2時間）。また、適宜アカデミックな文章・論理的な日本語についての文献に目を通す。

教科書

授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。

成績の評価基準

- (1) ディスカッションへの参加（口頭・manaba上含む）（50%）
- (2) 適切な資料の作成（文献リストの形式・量）（50%）

以上より総合的に判断する。

以上を中心に総合的に判断する。

オフィスアワー

火曜2限

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

- 1. ゼミ生のみ受講可。
- 2. 発表の順番は、受講生との協議の上で決定する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード

FHS-CGX3202

科目名

アジア歴史・文化演習2 (旧 アジア史演習2)

英語名

Asian History & Culture 2

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大田由紀夫、福永善隆

大田 (099-285-7560)、福永 (099-285-7561)

大田 (ota@leh.kagoshima-u.ac.jp)、福永 (fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp)

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

テーマ：研究発表1 (オンライン遠隔授業)

この授業は、卒業論文作成を目的とした演習である。演習参加者は、自分の研究テーマを決めて研究発表し、その報告をめぐり参加者全員による討論を行う。

学修目標

卒業論文作成のための準備を目的とする。

授業計画

各回はすべて対面授業。なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は 変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知します。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 予備(事前)報告
- 第3回 卒論作成レクチャー(1)
- 第4回 卒論作成レクチャー(2)
- 第5回 4年生の卒論構想発表(1)
- 第6回 4年生の卒論構想発表(2)
- 第7回 4年生の卒論構想発表(3)
- 第8回 4年生の卒論構想発表(4)
- 第9回 4年生の卒論構想発表(5)
- 第10回 3年生の研究発表(1)
- 第11回 3年生の研究発表(2)
- 第12回 3年生の研究発表(3)
- 第13回 3年生の研究発表(4)
- 第14回 3年生の研究発表(5)
- 第15回 まとめ

授業外学習(予習・復習)

演習での発表のため、自分や他者の発表テーマに関する事前の文献調査・発表内容の検討などの十分な準備をしておくことが望ましい(2時間)。演習における発表内容を復習して理解を深めることが望ましい(2時間)。

教科書

特になし。

参考書

担当教員の指示による。

成績の評価基準

演習における発表内容(60%)、受講態度(20%)、質疑応答(20%)などから総合評価する。

オフィスアワー

木曜12時~12時50分

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

福永・大田(由)ゼミ所属学生に限る。福永・大田(由)ゼミに所属して卒業論文を書こうとする3、4年生は必ず受講すること。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX3115			
科目名			
英語学演習 2 (旧 英語構造論演習)			
英語名			
English Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
末松信子		099-285-7572	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
本演習では、英語学関連の論文を読み、英語および英語学に関する知識を深めるとともに、研究テーマの設定の仕方や論文の作成方法等、卒業論文執筆に向けた指導を行う。			
学修目標			
(1) 英語の構造についての理解を深める。 (2) 英語を研究する方法を修得する。 (3) 関心のあるテーマを見つけ、論理的かつ説得力のあるレポートを作成する。			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。 なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。 授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 オリエンテーション 第2, 3回 卒論のテーマについて、論文要約 第4回 研究テーマの発表 第5, 6回 先行文献調査 第7回 卒業論文の書き方 第8回 先行文献調査 第9~15回 発表と議論 第16回 期末レポート			
授業外学習 (予習・復習)			
予習： 指示された参考書、論文などに予め目を通し、課題をして予習しておくこと。(学習に関わる標準的時間は約2時間) 復習： 授業内容を基に各自参考文献を調べるなど復習しておくこと。(学習に関わる標準的時間は約2時間)			
教科書			
必要に応じて適宜指示する。			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			
発表の準備・内容(15%)、プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの積極的な参加(15%)、期末レポート(40%)により総合的に評価する。			

オフィスアワ -

水曜日 : 9:30 ~ 12:00

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

グループワーク、ディベート、プレゼンテーション

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

ゼミ生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)
ナンバリングコード

FHS-CGX3203

科目名

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)

英語名

Western History & Culture 2B

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
藤内哲也		099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

本演習では、ヨーロッパの歴史世界に関するテキストを講読し、研究の視点や手法についての理解を深めます。また、卒業論文の作成に向けて、各自で研究テーマを設定し、レジュメやパワーポイントを使って発表します。それぞれの発表後には、全体でディスカッションを行います。

学修目標

1. ヨーロッパの歴史世界に関する知見や研究の視座を獲得します
2. 「人文学基礎 1、2」や「コース基礎演習 1、2」で培った技能をもとに、ヨーロッパの歴史世界を研究するうえで必要な情報分析力、批判的思考力、自己表現力などを身につけます
3. 卒業論文の作成に向けて、各自のテーマについての知見や理解を深めます

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行います。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業中に通知します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定・テキストの決定
- 第3回 テキスト講読(1)
- 第4回 テキスト講読(2)
- 第5回 テキスト講読(3)
- 第6回 テキスト講読(4)
- 第7回 テキスト講読(5)
- 第8回 テキスト講読(6)
- 第9回 テキスト講読(7)
- 第10回 個人発表(1)
- 第11回 個人発表(2)
- 第12回 個人発表(3)
- 第13回 個人発表(4)
- 第14回 個人発表(5)
- 第15回 まとめと課題

授業外学習 (予習・復習)

- 【予習】テキストをあらかじめ講読し、疑問点などをまとめます。個人発表に際しては、資料を広く読み、レジュメを作成します。
- 【復習】個人発表において受けた質問やコメントをまとめ、今後の研究の展開過程について考えます。

教科書

とくに指定しません。適宜レジュメ等を配布します。

参考書

- 金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年
- 服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年
- 井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年

このほかの文献については、授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

発表の準備・内容、プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的な参加、レポートなどにより総合的に判断します

オフィスアワ -

金曜 4 限 (メールにてアポをとること)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15 回中 12 回

備考 (受講要件)

ゼミ所属生に限ります

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CGX3111

科目名

アメリカ文学演習2 (旧 アメリカ文学演習)

英語名

American Literature 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

竹内勝徳

連絡先 (TEL)

099-285-8874

連絡先 (MAIL)

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

この演習では、19世紀アメリカの小説家ハーマン・メルヴィルの短編の中から代表的なものを選んで一緒に精読する。併せてそれについての批評にも目を通す。担当あり。

学修目標

- 1) 文学的な英語を読み解く力をつける。
- 2) 創作の経緯、ソース、主題、他の作品との関連などを明らかにする。
- 3) メルヴィル文学の特質を理解する。

授業計画

授業は基本的に毎回対面で行う。

第1回 ガイダンス (授業の進め方、ハーマン・メルヴィルと彼の文学についての説明) (オンデマンド)

第2回 "Benito Cereno" 精読 アメリカとスペイン (オンデマンド)

第3回 "Benito Cereno" 精読 空関係性 (オンデマンド)

第4回 "Benito Cereno" 精読 キャラクター (オンデマンド)

第5回 "Benito Cereno" 精読 言語的特徴 (オンデマンド)

第6回 "Benito Cereno" 精読 政治的背景 (オンデマンド)

第7回 "Benito Cereno" 精読 批評的傾向 (オンデマンド)

第8回 "Benito Cereno" 精読 階級と労働 (オンデマンド)

第9回 "Benito Cereno" 精読 情動と良心 (オンデマンド)

第10回 "Benito Cereno" 精読 法言語と芸術 (オンデマンド)

第11回 "Benito Cereno" 精読 情動の感染 (オンデマンド)

第12回 "Benito Cereno" 精読 犯罪との関連性 (オンデマンド)

第13回 "Benito Cereno" 精読 メルヴィルの真意 (1) (オンデマンド)

第14回 "Benito Cereno" 精読 メルヴィルの真意 (2) (オンデマンド)

第15回 "Benito Cereno" 精読 メルヴィルの真意 (3) (オンデマンド)

最終レポート

授業外学習 (予習・復習)

授業時に報告をしてもらいますので、丹念に予習をしておくこと。また復習をしっかりとってもらうために小レポートを課すことがあります。

毎週合計4時間要する。

教科書

プリントを使用

参考書

授業時に紹介する

成績の評価基準

最終レポート (70%)、授業時の小レポート (30%)

オフィスアワ -

授業終了後

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;	
	アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし	
	アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回	
	備考 (受講要件)
なし	
	実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。	

ナンバリングコード			
FHS-CGX3205			
科目名			
文化人類学演習2			
英語名			
Cultural Anthropology 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
尾崎孝宏、兼城系絵		099-285-8878 (尾崎)	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp (尾崎)
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
独力でエスノグラフィーを書きあげること为目标とする。各自のテーマに即し、資料収集・方法論・具体的な論述方法について指導を行う。			
学修目標			
エスノグラフィー作成に必要なスキルを体得する。			
授業計画			
本授業は、毎回対面と遠隔方式の混在で行う予定である。			
第1回 授業ガイダンス			
第2回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその1)			
第3回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその2)			
第4回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその3)			
第5回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその1)			
第6回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその2)			
第7回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその3)			
第8回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその1)			
第9回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその2)			
第10回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその3)			
第11回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその1)			
第12回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその2)			
第13回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその3)			
第14回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (来年度へ向けた準備作業等)			
第15回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (含: 春休みの課題等)			
授業外学習 (予習・復習)			
予習として、卒論に関わる現地調査、文献整理、文献リストの作成などが要求される (120分程度)。 復習として、各回のディスカッションで指摘された論点を整理し、適宜文献等のデータを収集することが要求される (60分程度)			
教科書			
指定しない。			
参考書			
各自の研究テーマに応じて紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (60%)、研究成果の質 (40%)			
オフィスアワー			
金曜日昼休み、研究室 (尾崎)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

コース所属生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
FHS-CGX3205			
科目名			
文化人類学演習2			
英語名			
Cultural Anthropology 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
尾崎孝宏、兼城系絵		099-285-8878 (尾崎)	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp (尾崎)
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
独力でエスノグラフィーを書きあげること为目标とする。各自のテーマに即し、資料収集・方法論・具体的な論述方法について指導を行う。			
学修目標			
エスノグラフィー作成に必要なスキルを体得する。			
授業計画			
本授業は毎回対面方式で行う予定であるが、遠隔での出席も認める。			
第1回 授業ガイダンス			
第2回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその1)			
第3回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその2)			
第4回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその3)			
第5回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその1)			
第6回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその2)			
第7回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその3)			
第8回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその1)			
第9回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその2)			
第10回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその3)			
第11回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその1)			
第12回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその2)			
第13回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその3)			
第14回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (後期へ向けた準備作業等)			
第15回 エスノグラフィー作成に関わる個別的な質疑応答 (含: 夏休みの課題等)			
授業外学習 (予習・復習)			
予習として、卒論に関わる現地調査、文献整理、文献リストの作成などが要求される (120分程度)。 復習として、各回のディスカッションで指摘された論点を整理し、適宜文献等のデータを収集することが要求される (60分程度)			
教科書			
指定しない。			
参考書			
各自の研究テーマに応じて紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (60%)、研究成果の質 (40%)			
オフィスアワー			
金曜日昼休み、研究室 (尾崎)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

コース所属生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
FHS-CGX3116			
科目名			
哲学演習 2 A (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志		099-285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
ゼミ生各人の研究を共同で検討し、討議する。			
学修目標			
自分の研究テーマにかんする文献の検討およびまとめが的確におこなえること。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 発表および討論：4年生(1)			
第3回 発表および討論：4年生(2)			
第4回 発表および討論：4年生(3)			
第5回 発表および討論：4年生(4)			
第6回 発表および討論：4年生(5)			
第7回 反省会(1)			
第8回 発表および討論：3年生(1)			
第9回 発表および討論：3年生(2)			
第10回 発表および討論：3年生(3)			
第11回 発表および討論：3年生(4)			
第12回 発表および討論：3年生(5)			
第13回 反省会(2)			
第14回 まとめ(1)			
第15回 まとめ(2)			
対面			
授業外学習(予習・復習)			
予習：発表者はレジメを準備すること(2時間)。			
復習：問題点の確認と再検討(2時間)。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表レジメ(100%)。評価基準は(1)問題点が明確であること。(2)言語パフォーマンスが的確であること。			
オフィスアワ -			
月曜・3限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回のうち15回

備考 (受講要件)

ゼミの授業です。ゼミ生は必ず受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX3105			
科目名			
アジア言語演習 2			
英語名			
Asian Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三木夏華		0992857525 (学生係)	hgakusei@leh.kagoshima-u.ac.jp (学生係)
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
2年以上中国語の学習経験がある受講者を対象とし、中国語で書かれた小説や時事論などの難易度の高い文章の講読を行い、読解力の向上を目指す。			
学修目標			
最終的に、中国語の論文の読解や小説などのコーパスの分析が可能になる程度の語学力向上を目指す。			
授業計画			
この授業は対面で行う。なお授業形態は学部からの要請により変更となる可能性もある。授業形態を変更する際はmanabaのコースニュース、または講義中に連絡する。			
第1回ガイダンス 第2回テキスト第一課 第3回テキスト第一課 第4回テキスト第一課 第5回テキスト第二課 第6回テキスト第二課 第7回テキスト第二課 第8回テキスト第三課 第9回テキスト第三課 第10回テキスト第三課 第11回テキスト第四課 第12回テキスト第四課 第13回テキスト第四課 第14回テキスト第五課 第15回テキスト第五課 第16回まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】テキスト、または配付された教材プリントを必ず十分予習した上で授業に臨むこと。 【復習】毎回授業で習った内容を復習すること。(学習に係る標準時間は合計4時間)			
教科書			
『ハッピーエンドの 中国ショートショート』朝日出版社、その他。			
参考書			
講義中に紹介する。			
成績の評価基準			
平常点 (講義中の発表、課題の取り組み、受講態度など) : 100%、			
オフィスアワ -			
木曜2限			
アクティブ・ラーニング			

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

課題についてのスピーキングトレーニング

アクティブ・ラーニング (授業回数)

16回中14回

備考 (受講要件)

2年以上中国語の学習経験があることを前提とする。

中国語を母国語とする学生の受講は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX3107

科目名

英語コミュニケーション演習

英語名

English Communication

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ・コダ

099-285-7573

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

None

前期

授業概要

This class will focus on essay writing, research and translations skills in preparation for your dissertation

学修目標

In this class you will learn how to essay writing and research skills leading towards your dissertation. These activities will include learning reading strategies, how to summarise, how to quote and reference, how to plan and structure your essays, and learning about plagiarism. You will also learn the translation skills needed for an annotated translation.

授業計画

Due to the university's restrictions on students talking in the classroom, this class will have to be split between real-time on Zoom. However for research progress week, when you will present your recent studies, we will meet in the classroom. If there are any changes, then I will let you know by Manaba.

Week 1 Ice-breaking activities

Weeks 2 Essay writing, research and translation activities.

Weeks 3 Essay writing, research and translation activities.

Week 4 Research progress week

Weeks 5 Essay writing, research and translation activities.

Weeks 6 Essay writing, research and translation activities.

Week 7 Research progress week

Weeks 8 Essay writing, research and translation activities.

Weeks 9 Essay writing, research and translation activities.

Week 10 Research progress week

Weeks 11 Essay writing, research and translation activities.

Weeks 12 Essay writing, research and translation activities.

Week 13 Research progress week

Weeks 14 Essay writing, research and translation activities.

Weeks 15 Essay writing, research and translation activities.

In research progress week, you will be given time to present how your individual research is progressing.

授業外学習（予習・復習）

You will be given homework activities throughout the course as well as continuing with your individual research for your final dissertation. You should expect to spend over four hours each week on homework.

教科書

Handouts will be given

参考書

Bring your dictionaries.

成績の評価基準

60% Research progress reports (3 times)
40% Final report

オフィスアワー

Tuesday 4th period is my official office hour, but you can come anytime, just be sure to mail me beforehand

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

None

アクティブ・ラーニング（授業回数）

Every week

備考（受講要件）

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX3204			
科目名			
考古学演習 2			
英語名			
Archaeology 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎・石田智子		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
考古学における卒業論文を書くために必要な資料の収集と整理の方法、分析の方法、記述の方法などのスキルを修得するためのトレーニングを行う。前期と後期とで通年でい、前期では主として資料の収集・整理の方法について学ぶ。			
学修目標			
卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 考古学における資料とその収集方法1			
第3回 考古学における資料とその収集方法2			
第4回 考古学における資料とその収集方法3			
第5回 学生による資料収集の実践1			
第6回 学生による資料収集の実践2			
第7回 学生による資料収集の実践3			
第8回 考古学における資料の整理方法1			
第9回 考古学における資料の整理方法2			
第10回 考古学における資料の整理方法3			
第11回 学生による資料整理の実践1			
第12回 学生による資料整理の実践2			
第13回 学生による資料整理の実践3			
第14回 学生による資料の収集・整理についてのディスカッション1			
第15回 学生による資料の収集・整理についてのディスカッション2 (対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業)			
授業外学習 (予習・復習)			
本授業は方法のレクチャーとその実践よりなるので、実践のための予習 (2時間)・復習 (2時間) は必要不可欠である			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (50%)、期末レポート (50%)			
オフィスアワ -			
月曜日 3 限目			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション; その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
学生がみずから調べた内容について報告し、議論する。			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回

備考（受講要件）

考古学で卒業論文を書きたい学生のみ。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX3204			
科目名			
考古学演習 2			
英語名			
Archaeology 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎・石田智子		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
考古学における卒業論文を書くために必要な資料の収集と整理の方法、分析の方法、記述の方法などのスキルを修得するためのトレーニングを行う。前期と後期とで通年でい、後期では主として資料の分析、記述の方法について学ぶ。			
学修目標			
卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 考古学における分析方法1			
第3回 考古学における分析方法2			
第4回 考古学における分析方法3			
第5回 学生による分析の実践1			
第6回 学生による分析の実践2			
第7回 学生による分析の実践3			
第8回 考古学における記述の方法1			
第9回 考古学における記述の方法2			
第10回 考古学における記述の方法3			
第11回 学生による記述の実践1			
第12回 学生による記述の実践2			
第13回 学生による記述の実践3			
第14回 学生による分析・記述についてのディスカッション1			
第15回 学生による分析・記述についてのディスカッション2			
(対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業)			
授業外学習 (予習・復習)			
本授業は方法のレクチャーとその実践よりなるので、実践のための予習 (2時間)・復習 (2時間) は必要不可欠である			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (50%)、期末レポート (50%)			
オフィスアワ -			
月曜日 3 限目			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
学生がみずから調べた内容について報告し、議論する。			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回

備考（受講要件）

考古学で卒業論文を書きたい学生のみ。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CGX3101

科目名

日本語学演習 2 (旧 日本語構造論演習)

英語名

Japanese Linguistics 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

内山弘

連絡先 (TEL)

099-285-8906

連絡先 (MAIL)

pon@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

本演習は、内山ゼミの三・四年生を対象とした卒業論文作成指導を目的とした授業である。四年生は自身の卒業論文のテーマに基づき調査研究した内容を逐次報告することで、卒論執筆のためのステップアップを図る。三年生は将来の卒論執筆に向けて現在最も興味関心をもっているテーマについて自分なりに調べてきたことを発表することで、将来の卒業論文のテーマ設定のための下準備を行う。

学修目標

- ・卒業論文の執筆に向けて着実に前進することができる。(四年生)
- ・授業を通して卒業論文のテーマを見つけることができる。(三年生)

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回：ガイダンス

第2回：受講生による演習の実施(1) 四年生A1・A2・A3による中間発表

第3回：受講生による演習の実施(2) 四年生A4・A5による中間発表

第4回：受講生による演習の実施(3) 四年生A1・A2による中間発表

第5回：受講生による演習の実施(4) 四年生A3・A4による中間発表

第6回：受講生による演習の実施(5) 四年生A5・三年生B1による発表

第7回：受講生による演習の実施(6) 三年生B2・B3・B4による発表

第8回：受講生による演習の実施(7) 三年生B5・B1による発表

第9回：受講生による演習の実施(8) 三年生B2・B3による発表

第10回：受講生による演習の実施(9) 三年生B4・B5による発表

第11回：受講生による演習の実施(10) 三年生B1・B2による発表

第12回：受講生による演習の実施(11) 三年生B3・B4による発表

第13回：受講生による演習の実施(12) 三年生B5による発表

第14回：受講生による演習の実施(13) 四年生A1・A2・A3による卒論報告

第15回：受講生による演習の実施(14) 四年生A4・A5による卒論報告

授業外学習(予習・復習)

予習：演習担当者は事前に教員に連絡を取り、演習内容についてメールで相談すること(必須)。演習準備にはトータルで30時間程度必要。

復習：演習時に指摘された内容を整理し、問題点について再調査して解決を図ること。(2時間)

教科書

適宜資料を配布する。

* 状況によっては manaba を通して配布することもある。

参考書

特になし。

成績の評価基準

授業への取り組み態度(20%) + 演習内容(80%)

オフィスアワ -

水曜 5 限。事前にメールでアポイントメントを取れば他の時間でも可能。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

内山ゼミのゼミ生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX3108			
科目名			
多文化交流論演習 2			
英語名			
Multicultural Relations 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>今学期は、具体的な研究テーマにそった、文献収集と基本的な図書を理解し、論文を内容を批判的に読み、文献の要点をまとめ、他者に説明することを目的とする。また、特に4年生については、各自の卒論テーマにそった具体的な研究計画を立案し、テーマに沿った具体的なデータ収集の方法を選定し、実践していくことを目指す。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った基本図書を読み、内容を理解し、説明することができる。 2. 具体的なテーマに沿った文献を批判的に読み、問題点を指摘することができる。 3. さまざまな調査方法を学び、具体的なテーマに沿ったデータ収集の方法を選ぶことができる。 4. 文献の要点を適切な表現で文章としてまとめ、さらに口頭で説明することができる。 			
授業計画			
<p>本授業、基本的に対面式で行う予定であるが、種々の状況により変更がある可能性がある。なお、授業形態を変更する場合には、manabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要とスケジュールについて。受講生の人数により変更の可能性あり） 第2回：学生による発表（1） 第3回：学生による発表（2） 第4回：学生による発表（3） 第5回：学生による発表（4） 第6回：学生による発表（5） 第7回：中間総括 第8回：学生による発表（5） 第9回：学生による発表（6） 第10回：学生による発表（7） 第11回：学生による発表（8） 第12回：論文講読（1） 第13回：論文講読（2） 第14回：論文講読（3） 第15回：まとめ （期末試験は行わない。指定された期日までにレポートを提出のこと）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：文献の読解、疑問点の抽出、レジюме作成など（約2時間） 復習：文献の読解、振り返り提出など（約2時間） なお、すべての課題をmanabaに掲示する。必ずmanabaを確認すること。</p>			
教科書			
本授業は特に教科書は定めないが、参考図書を適宜利用する。			
参考書			
浜田麻里ほか（1994）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版			

成績の評価基準

(1) 授業への取り組み方(受講中の発言、振り返り、宿題などを含む)30%、(2)発表30%、(3)期末レポート40%で総合評価する。

オフィスアワー

木曜日5限(研究室)。他の時間帯でも都合があれば適宜応じます。manabaのコレクションやメールなどで連絡をとってください。zoomによる相談も可能。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15中115回

備考(受講要件)

ゼミ生に限る。課題が多いので、積極的に参加すること。再履修可能。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX3102			
科目名			
日本古典文学演習 2 (旧 日本文学演習)			
英語名			
Japanese Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099 (285) 8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
日本古典文学および日本近世文学・近世文化を専攻する学生に対して、基本図書から学問の方法、ジャンルに即した研究方法などについて教授する。また、学生は数あるジャンルから自分の興味のある作品ないしは事象をとりあげ、調査したことを発表する。卒業論文のテーマの設定の方法について教授する。			
学修目標			
日本古典文学および日本近世文学・近世文化に関する広汎かつ正確な知識を有する。 日本古典文学、日本近世文学・近世文化の特色を理解し、問題点を発見する能力を身につける。 各ジャンルに即した調査・研究方法を身につける。			
授業計画			
【対面方式で実施】なお、コロナ感染症拡大の状況によっては遠隔方式で実施する。			
第1回：導入			
第2回：日本古典文学・近世文学のジャンルとその特質			
第3回：日本古典文学史の概略			
第4回：基本文献の講読 『近世初期文藝の研究』前半			
第5回：基本文献の講読 『近世初期文藝の研究』後半			
第6回：基本文献の講読 『戯作論』前半			
第7回：基本文献の講読 『戯作論』後半			
第8回：基本文献の講読 『都市空間の中の文学』前半			
第9回：基本文献の講読 『都市空間の中の文学』後半			
第10回：学生による発表 (1)			
第11回：学生による発表 (2)			
第12回：学生による発表 (3)			
第13回：学生による発表 (4)			
第14回：学生による発表 (5)			
第15回：卒論作成の方法			
授業外学習 (予習・復習)			
与えられたプリントを熟読する (標準時間2時間)。授業で取り上げた作品や言語について再度調査する (標準時間2時間)			
教科書			
プリントを配布する			
参考書			
授業計画で挙げたものの他は、授業中に紹介する。			
成績の評価基準			
発表態度 (50%) とレポート (50%)			
オフィスアワ -			
月曜日 13:00~14:20			
アクティブ・ラーニング			

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15 回中 5 回

備考 (受講要件)

人文学科の丹羽ゼミ所属の学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX3108			
科目名			
多文化交流論演習 2			
英語名			
Multicultural Relations 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本授業では、多文化社会の実態を紹介した文献について、内容を批判的に読み、他者に説明することを目的とする。また、各自が卒業論文等の研究題目に向けて、具体的なテーマを探索し、課題を発見することを目的とする。そのために、各自のテーマに沿った文献調査あるいは、全体で共通したテーマによる調査などを行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化社会の実態を紹介した文献を読み、内容を理解し、説明することができる。 2. 具体的なテーマに沿った文献を批判的に読み、問題点を指摘することができる。 3. 文献の要点を適切な表現で文章としてまとめ、さらに口頭で説明することができる。 4. 調査から得られたデータをまとめることができる 			
授業計画			
<p>今年度は基本的に対面で行う予定。新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、授業運営も流動的である。必ずmanabaを確認すること。</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要とスケジュールについて。受講生の人数と調査の日程により変更の可能性あり） 第2回：基本図書を紹介と分担について 第3回：多文化社会とコミュニケーション 第4回：学生による発表（1） 第5回：学生による発表（2） 第6回：学生による発表（3） 第7回：学生による発表（4） 第8回：調査計画・準備（予定） 第9回：調査（予定） 第10回：調査総括（予定） 第11回：学生による発表（5） 第12回：学生による発表（6） 第13回：学生による発表（7） 第14回：学生による発表（8） 第15回：まとめ （期末試験は行わない。指定された期日までにレポートを提出のこと）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：文献についての読解、疑問点の抽出（約2時間） 復習：毎回の授業の振り返り、その他の宿題（約2時間） なお、すべての課題をmanabaに掲示する。必ずmanabaを確認すること。</p>			
教科書			
この授業は教科書は定めないが、参考書を適宜利用することがある。			

参考書

松原慎ほか(2018)『多文化共生 人が変わる、社会を変える』凡人社

近藤敦(2019)『多文化共生と人権 諸外国の「移民」と日本の「外国人」』明石書店ほか

成績の評価基準

(1) 学習への取り組み(宿題、毎回の授業で提出する振り返りなど)(20%)、(2)発表(20%)、(3)中間レポート(30%)、(4)最終レポート(30%)で総合評価する。

オフィスアワ -

木曜日5限。他の時間帯でも都合があれば適宜応じます。manabaのコレクションやメールなどで連絡をとってください。zoomによる相談も可能。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

ゼミ生に限る。繰り返し受講可能。

課題が多いので積極的に参加すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX3206			
科目名			
地理学演習 2 b (旧 地理学演習III)			
英語名			
Geography 2b			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
吉田明弘		099-285-7543	aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
この演習では受講者が地理学に関する研究論文を収集・整理し、主要論文を読んで発表する。さらに、その内容について受講生間で討議する。受講者は自分に興味のある地理学における研究テーマや研究分野を知るとともに、その最新の研究傾向を把握する。また、受講生自身がどのような研究テーマや目的で卒業論文をまとめるかを判断する上で重要な作業である。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 論文の読み方と書き方について学ぶことができる。 2) 国内外における最新の研究動向を知ることができる。 3) 研究を遂行する上で必要な知識や技術を身に付けることができる。 			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 第2回：事前講習(1)－地理学分野の学術論文 第3回：事前講習(2)－論文の読み方・書き方？ 第4回：事前講習(3)－論文の読み方・書き方？ 第5回：受講生による発表論文の選定 第6回：地形に関する地理学の論文講読と発表・討論 第7回：気候に関する地理学の論文講読と発表・討論 第8回：植生に関する地理学の論文講読と発表・討論 第9回：災害に関する地理学の論文講読と発表・討論 第10回：人口に関する地理学の論文講読と発表・討論 第11回：都市に関する地理学の論文講読と発表・討論 第12回：村落に関する地理学の論文講読と発表・討論 第13回：農業に関する地理学の論文講読と発表・討論 第14回：漁業に関する地理学の論文講読と発表・討論 第15回：授業の総括 第6回目以降の論文講読と発表・討論については、受講生の興味関心によって内容を変更する。			
授業外学習(予習・復習)			
予習：受講生は事前に発表論文を選定し、発表内容をレジュメと資料としてまとめる。他の受講生は発表者より事前に渡された発表論文を読み、討論内容や専門用語をまとめる(予習時間の目安：2~3時間程度)。 復習：各自で発表・討論内容にかかわる問題を他の文献やインターネットで調べる(復習時間の目安：約2時間程度)。			
教科書			
なし			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(50%)、論文発表(50%)を総合的に評価する。			

オフィスアワ -

メールや研究室にて随時受け付けます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

本演習の受講はゼミ生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX3104			
科目名			
中国文学演習 2 (旧 中国文学演習)			
英語名			
Chinese Literature 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
中国古典詩についての基本的知識を身につけるために、できるだけ多くの詩を読み、その内容、意味、意義のついて発表、討論を行う。			
学修目標			
1. 中国古典文学についての基礎的知識の習得 2. 中国古典詩文を読むために必要な文献読解能力の養成 3. 過去の研究書、論文を批判的に検討するのに必要な能力の養成			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 オリエンテーション			
第2回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第3回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第4回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第5回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第6回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第7回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第8回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第9回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第10回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第11回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第12回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第13回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第14回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第15回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：次の授業で扱う分野について、インターネット、図書館等を利用し、予習しておくこと。約2時間。 復習：授業中に学んだ内容について復習し、扱われた作品の意味、内容を十分に理解できるようにしておくこと。約2時間。			
教科書			
『新編 中国名詩選 下』岩波文庫、2015年			
参考書			
松原朗等著『教養のための中国古典文学史』(研文出版、2009年)			
成績の評価基準			
発表 (40%)、課題提出 (20%)、討論参加、授業への取り組み (40%)			
オフィスアワ -			
金曜日・2限・高津研究室			

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

発表と討論

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

高津ゼミ、三木ゼミの受講生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX3104			
科目名			
中国文学演習 2 (旧 中国文学演習)			
英語名			
Chinese Literature 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
中国古典詩についての基本的知識を身につけるために、できるだけ多くの詩を読み、その内容、意味、意義について発表、討論を行う。			
学修目標			
1. 中国古典文学についての基礎的知識の習得 2. 中国古典詩文を読むために必要な文献読解能力の養成 3. 過去の研究書、論文を批判的に検討するのに必要な能力の養成			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 オリエンテーション			
第2回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第3回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第4回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第5回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第6回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第7回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第8回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第9回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第10回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第11回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第12回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第13回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第14回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
第15回 『新編 中国名詩選 下』の読解と討論			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：次の授業で扱う分野について、インターネット、図書館等を利用し、予習しておくこと。約2時間。 復習：授業中に学んだ内容について復習し、扱われた作品の意味、内容を十分に理解できるようにしておくこと。約2時間。			
教科書			
『新編 中国名詩選 下』岩波文庫、2015年			
参考書			
松原朗等著『教養のための中国古典文学史』(研文出版、2009年)			
成績の評価基準			
発表(40%)、課題提出(20%)、討論参加、授業への取り組み(40%)			
オフィスアワ -			
金曜日・2限・高津研究室			

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

発表と討論

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

高津ゼミ、三木ゼミの受講生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX2228			
科目名			
文化人類学演習 1			
英語名			
Cultural Anthropology 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	1単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
兼城系絵		099-285-8902 (研究室直通)	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
本演習は、エスノグラフィーを執筆するにあたって必要なライティング技術の実践編にあたる。研究計画の立案の仕方を学びながら実践し、エスノグラフィー研究の基礎的能力を養う。			
学修目標			
1. フィールドワークをはじめるとして、研究計画の立案の仕方を学び実践することができる。			
2. 研究計画に沿ってフィールドワークを行い、その成果を文字化することができる。			
授業計画			
第1回：フィールドワークに関する簡単なレクチャー			
第2回：研究計画の立て方			
第3回：研究計画書を読んでみよう			
第4回：研究テーマとフィールドの選定、調査倫理について			
第5回：研究計画に関するディスカッション?			
第6回：研究計画に関するディスカッション?			
第7回：フィールドワークの実践			
第8回：フィールドワークの成果に関するディスカッション?			
第9回：フィールドワークの成果に関するディスカッション?			
第10回：データの整理と分析方法			
第11回：データの整理と分析に関するディスカッション?			
第12回：データの整理と分析に関するディスカッション?			
第13回：論文(レポート)の組み立て方			
第14回：論文の組み立て方に関するディスカッション?			
第15回：論文の組み立て方に関するディスカッション?			
本演習は対面形式で行うが、状況に応じてオンライン形式になる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
予習：フィールドワークとデータの整理、関連する文献の調査(標準的学習時間 2時間)			
復習：ディスカッションの整理と関連文献の精査(標準的学習時間 2時間)			
教科書			
小田博志 2010 『エスノグラフィー入門 <現場>を質的研究する』春秋社			
参考書			
岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』(有斐閣、2016)			
成績の評価基準			
授業への取り組み度(50%)、研究成果をまとめた期末レポート(50%)			
オフィスアワー			
水曜日昼休み(12時-13時)			
アクティブ・ラーニング			
フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中9回

備考（受講要件）

多元地域文化コース生に限る。前期の文化人類学演習 1 を受講している方が望ましいが、受講していなくても可とする。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CGX3206			
科目名			
地理学演習 2 a			
英語名			
Geography 2a			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
地理学に関する研究論文を収集・整理し、主要論文を読んで発表し、その内容について討議する。これにより、受講者は自身の興味のあるテーマに関する研究の動向を把握するとともに、卒業論文を作成する際の研究方法を学ぶ。			
学修目標			
地理学の研究対象・資料と分析視角・方法を理解することができる。 地理学の研究資料を適切に扱うことができる。			
授業計画			
本授業は対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の事情で変更する可能性がある。その際は、予めmanabaのコースニュースなどで通知する。			
第1回 オリエンテーション			
第2回 事前講習 - 地理学の研究論文について			
第3回 講読論文の選定			
第4回 地形に関する地理学の論文購読と討論			
第5回 気候に関する地理学の論文購読と討論			
第6回 植生に関する地理学の論文購読と討論			
第7回 災害に関する地理学の論文購読と討論			
第8回 人口に関する地理学の論文購読と討論			
第9回 都市に関する地理学の論文購読と討論			
第10回 村落に関する地理学の論文購読と討論			
第11回 農業に関する地理学の論文購読と討論			
第12回 漁業に関する地理学の論文購読と討論			
第13回 交通に関する地理学の論文購読と討論			
第14回 観光に関する地理学の論文購読と討論			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
予習 (2時間) : 発表者は、論文を熟読し、レジュメにまとめること。他の受講者は講読論文を通読し、討論内容を考えておくこと。			
復習 (2時間) : 授業内容の振り返り。発表・討論内容に関係する問題を文献・インターネットで調べること。			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
各回の発言など授業への取り組み態度 (50%)			
論文発表における内容の理解 (50%)			
オフィスアワ -			

授業終了後、教室にて対応。
アクティブ・ラーニング
ディベート; プレゼンテーション; その他;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
第10回に関する地理学の論文購読と討論
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中14回
備考 (受講要件)
ゼミ所属生に限る。 「地理学実習」と深く関連している。受講者は必ず「地理学実習」も受講すること。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード			
科目名			
中国言語文化演習 2			
英語名			
Chinese Language & Culture2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中筋健吉		099(285)8893	k9553471@kadai.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>後漢・張衡「賦」を読んでみる。</p> <p>張衡(78-139)は後漢の政治家であり、天文学者、また文人としても有名で、長安・洛陽を描いた「二京賦」は前後漢を通じても代表的な作品である。</p> <p>本授業では梁・昭明太子撰『文選』巻十五に収録されている「歸田賦」を唐・李善の注釈に基づいて講読していく。当該作品は新元号「令和」の出典とされる、大伴旅人「梅花歌三十二首序」(『万葉集』巻五)に基づいたであろう作品であり、後漢期の宦官勢力が政治を専横する状況の中で、官を辞して帰郷せんとの思いを述べたものである。</p> <p>なお、該賦は短編であるので、期間内に読了した場合は、引き続き同人による『思玄賦』を購読する。</p>			
学修目標			
作品および関連する文章の講読、またそれらを通じて中国古典文学や注釈の読解方法、および各種文献の取り扱い方を学ぶ。			
授業計画			
<p>各担当者は割り振られた部分について読解発表を行なう。事前に配布するテキストプリントにもとづいて、原文、書き下し、出典、語釈等をレジュメにまとめ、担当当日に受講者全員に配布すること。</p> <p>受講者数またその他の事情により、授業計画を変更する場合がある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 張衡伝記講読(『後漢書』巻59張衡傳) 第3回 張衡伝記講読(『後漢書』巻59張衡傳) 第4回 『文選』について 第5回 発表と討論(1) 第6回 発表と討論(2) 第7回 発表と討論(3) 第8回 発表と討論(4) 第9回 発表と討論(5) 第10回 発表と討論(6) 第11回 発表と討論(7) 第12回 発表と討論(8) 第13回 発表と討論(9) 第14回 発表と討論(10) 第15回 まとめと討論</p> <p>授業外学習(予習・復習) 予習:毎回の授業で講読する部分</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習:毎回の授業で講読する部分を、事前に辞書等を検索し、自らも読解して出席すること。</p> <p>復習:授業にもとづいて、自分の読解を再検討すること。</p>			
教科書			
清・胡克家本『文選』(中華書局)。事前にテキストプリントをmanabaを通じて配布します。			

参考書

梁・昭明太子撰『文選』の日本語訳注本(集英社版、明治書院版あり)を参照のこと。

成績の評価基準

発表および成果物(担当部分のレジュメ)、提出物等により総合的に評価する。

オフィスアワ -

指定なし。ただし来訪の前にメール等でご連絡ください。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

10回。ただし変更の場合もある。

備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「中国言語文化論演習」に読み替える 本シラバスはあくまで計画であるので、受講者数その他の状況によって、適宜変更の可能性もある。変更の際は 通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-CHX3419

科目名

認知心理学演習

英語名

Comparative Psychology 1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
横山春彦		099-285-7535	yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

授業は全15回、オンライン形式で行う。4年生については卒業論文の作成に関し、データを得るための調査や実験の具体的な策定が本授業での目標となる。そのため、個人ごとに卒論計画の策定を進める。3年生については自身の興味ある研究を探索、内容を文書にまとめるなど先行研究に関する情報収集を進めることが本授業での目標となる。そのため、毎月自身にとって興味のあるいくつかの研究を要約し、文書化するなど個人ごとに情報収集を行う。

学修目標

- 4年生の学修目標は以下の通りである。
- ・卒業論文の作成に関し、データを得るための調査や実験の具体的な策定を行うこと。
- 3年生の学修目標は以下の通りである。
- ・自身の興味ある研究を探索し、内容を文書にまとめるなど先行研究に関する情報収集を進めること。

授業計画

全15回オンライン形式で授業を行う。ただし、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

- 第1回 学年ごと個人ごとの課題確認と今後の学修計画の立案（オンライン型）
- 第2回 4年生（個人ごと研究目的の検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介1）（オンライン）
- 第3回 4年生（個人ごと研究目的の再検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介2）（オンライン）
- 第4回 4年生（個人ごと研究目的の再々検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介3）（オンライン）
- 第5回 4年生（個人ごと研究目的の確定）、3年生（担当者別、先行研究の紹介4）（オンライン）
- 第6回 4年生（個人ごと研究方法の検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介5）（オンライン）
- 第7回 4年生（個人ごと研究方法の再検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介6）（オンライン）
- 第8回 4年生（個人ごと研究方法の再々検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介7）（オンライン）
- 第9回 4年生（個人ごと研究方法の確定）、3年生（担当者別、先行研究の紹介8）（オンライン）
- 第10回 4年生（個人ごと統計処理の検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介9）（オンライン）
- 第11回 4年生（個人ごと統計処理の再検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介10）（オンライン）
- 第12回 4年生（個人ごとレジュメの検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介11）（オンライン）
- 第13回 4年生（個人ごとレジュメの再検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介12）（オンライン）
- 第14回 4年生（個人ごと発表の検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介13）（オンライン）
- 第15回 4年生（個人ごと発表の再検討）、3年生（担当者別、先行研究の紹介14）（オンライン）
- 第16回 期末試験（期日までにレポートを作成し提出する形式で行う）

授業外学習（予習・復習）

本授業は2単位の授業科目であるため、単位制度に則り、1回につき4時間の予習・復習が必要となります。すなわち、シラバスに示した学修内容を踏まえた予習に加え（2時間程度）、授業終了後には授業時に出された発問への回答を含め、学修内容に対する復習（2時間程度）を要します。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

高野陽太郎・岡隆編 心理学研究法 有斐閣 2017年

成績の評価基準

個人ごと課題に対する取り組む進捗状況（60%）、また授業に臨む態度・意欲（40%）により評価する。

オフィスアワ -

manabaを用い随時受けつける

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

個人ごとの課題につき様々な角度から発問を行い、各自で考え、検討してもらう

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回中15回

備考（受講要件）

鹿児島大学法文学部人文学科心理学コース所属する学部生のうち横山ゼミに所属する学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

本授業は、大学での学びにとってその集大成ともなる卒業研究の立案・実施につき、実践的に学習する心理学コースの専門授業となります。

ナンバリングコード			
FHS-CFX1501			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園博記		099-285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
(共同: 小林善仁・三木夏華・柴田健志)		前期	
授業概要			
大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・修学や学生生活についての必要な手続きについて学び実行する ・自身の興味関心を明確化し、学びのための土台を構築する ・人文学科の教員についての基礎的な知識を得る 			
授業計画			
第1回	オリエンテーション (対面型)		
第2回	教員紹介と情報交換 (1)		
第3回	人文 / キャリアレクチャー (オンデマンド型)		
第4回	教員紹介と情報交換 (2)		
第5回	教員紹介と情報交換 (3)		
第6回	教員紹介と情報交換 (4)		
第7回	教員紹介と情報交換 (5)		
第8回	教員紹介と情報交換 (6)		
第9回	教員紹介と情報交換 (7)		
第10回	教員紹介と情報交換 (8)		
第11回	教員紹介と情報交換 (9)		
第12回	教員紹介と情報交換 (10)		
第13回	教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化 (1) (対面型)		
第14回	教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化 (2) (対面型)		
第15回	資格関係ガイダンス・夏休みの課題等について (オンデマンド型)		
<p>「教員紹介と情報交換」は、対面型とオンデマンド型を交互に行う予定である 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・修学の手続きなどについて各自で確認が必要です。また、諸手続きについては締め切りに従って各自での対応が求められる可能性があります。 ・随時課題を課しますので、課題についても授業外学習 (予習、復習) が必要となります (目安の学習時間は予習・復習合わせて4時間程度)。 			
教科書			
<p>本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用います。 必要に応じてプリント等をアップロードします。</p>			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
・毎回の課題提出とその内容 (100%)			

・成績に関わる提出物が別途課される場合もある。その場合は事前に連絡する。

オフィスアワ -

授業後。随時。事前にメールで教員と連絡をとること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

・manabaをこまめに確認してください。

・前もって指定されたクラスの授業を受講してください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CFX1502			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園博記 (共同: 小林善仁・三木夏華・柴田健志)		099-285-7538	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
小林善仁・三木夏華・柴田健志		後期	
授業概要			
学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。			
授業計画			
* この授業は対面形式と遠隔形式を併用して行う。ただし、状況によっては授業形式や内容が変更となる可能性がある。授業形態等を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 オリエンテーション(1) (夏休みの課題確認) (対面型)			
第2回 オリエンテーション(2) (質問とその回答) (対面型)			
第3回 教員インタビュー (遠隔・リアルタイム型)			
第4回 グループワーク(1) (遠隔・リアルタイム型)			
第5回 グループワーク(2) (遠隔・リアルタイム型)			
第6回 グループワーク(3) (遠隔・リアルタイム型)			
第7回 教員インタビューの情報交換とまとめ (対面型)			
第8回 グループワーク(4) (遠隔・リアルタイム型)			
第9回 グループワーク(5) (対面型)			
第10回 グループワーク(6) (対面型)			
第11回 留学ガイダンス (遠隔・オンデマンド型)			
第12回 発表会(1) (遠隔・リアルタイム型)			
第13回 発表会(2) (遠隔・リアルタイム型)			
第14回 発表会(3) (遠隔・リアルタイム型)			
第15回 まとめと意見交換 (対面型)			
授業外学習 (予習・復習)			
取材の下準備、取材の実施、集めた資料のまとめなど、綿密な計画を立てて行ってもらいます。調査やグループワークなどで、授業外学習が必要になります (目安となる学習時間: 予習、復習合わせて4時間)。			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用います。 必要に応じてプリント等をアップロードします。			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の授業への取り組み (30%) ・ 発表会 (30%) ・ 授業で指示された課題提出物 (40%) 			

オフィスアワ -

授業後。随時。事前にメールで教員と連絡をとること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

心理学コース基礎I (旧 コース基礎演習1 (人間と文化))
ナンバリングコード

FHS-CHX2401

科目名

心理学コース基礎I (旧 コース基礎演習1 (人間と文化))

英語名

Course Basics 1

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
菅野康太、大園博記		099-285-7624 (菅野)	cano@leh.kagoshima-u.ac.jp ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

心理学においては、研究内容の公表に際して収集したデータの適切な統計処理が必須とされる。本基礎演習では「心理学実験」や「卒業研究」の実施の際に必須とされるデータの集約法と統計処理法について、SPSSやAmos、HADなどの統計処理ソフトを実際に用いながら演習を行うことで、その意味と利用法についての確かな理解と修得を目指す。

学修目標

- (1) 心理学における一般的な統計手法に関する知識と技能を修得する。
- (2) 心理学の分析手続きに則ってデータを分析し、その結果を適切な形で表現できる。
- (3) 現象を統計データに基づき科学的・客観的に理解し、論理的に批評できる能力を養う。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 統計分析のためのデータ入力の注意点およびExcelの基本機能 (菅野)
- 第2回 統計ソフトの基本操作とt検定 (菅野)
- 第3回 ノンパラメトリック分析 (菅野)
- 第4回 1要因の分散分析 (菅野)
- 第5回 2要因の分散分析1 (菅野)
- 第6回 2要因の分散分析2 (菅野)
- 第7回 因子分析1 (大園)
- 第8回 因子分析2 (大園)
- 第9回 因子分析3 (大園)
- 第10回 重回帰分析1 (大園)
- 第11回 重回帰分析2 (大園)
- 第12回 重回帰分析3 (大園)
- 第13回 統計的有意性と効果量 (大園)
- 第14回 発展的分析 (大園)
- 第15回 データ分析の実習 (大園)

授業外学習 (予習・復習)

データ分析の課題が授業中に課される。授業内での小テストやレポートも出題されるので、授業内容についての復習を行う必要がある。事前学習約2時間、授業後の復習 (小テストのための勉強やレポート作成を含む) に約2時間が想定される。

教科書

小宮あすか / 布井 雅人・著 『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 (講談社サイエンティフィク)

参考書

小塩真司 著 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで 第2版』 2011年 東

京図書

成績の評価基準

小テスト (20%)、中間レポート (30%)、後半9回の各回レポート (25%)、および最終レポート (25%) による。

オフィスアワ -

事前にメールにて確認すること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

ソフトウェアを用いた統計解析を、ほぼ全ての回で受講者自信が行う。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

教科書のサイトです。こちらから講義で使うデータもダウンロードできます。

<https://www.kspub.co.jp/book/detail/1548121.html>

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

心理学コース基礎II(旧 コース基礎演習2(人間と文化))(公認心理師の職責1)
ナンバリングコード

FHS-CHX2402

科目名

心理学コース基礎II(旧 コース基礎演習2(人間と文化))(公認心理師の職責1)

英語名

Course Basics 2

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース/必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
飯田昌子・平田祐太郎		099-285-8884(飯田研究室)	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

本授業の目的は、実際に研究計画を作成しながら、心理学における研究手法を修得することと、公認心理師の職責に関して、情報の適切な取り扱いと自己課題発見、解決能力の手段などについて、公認心理師の職責に関する理解を深めることである。

本授業では、講義とグループワークを組み合わせで行う。

学修目標

- (1) 心理学の諸分野における研究手法を習得する
- (2) 情報の適切な取り扱いについて習得する
- (3) 自己課題発見・解決能力の手段についての知識を習得する
- (4) 公認心理師の職責を理解する

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回：オリエンテーション(授業概要の説明)
- 第2回：情報の適切な取り扱いについて；概説
- 第3回：情報の適切な取り扱いについて；グループ・ワーク
- 第4回：情報の適切な取り扱いについて；発表
- 第5回：支援者としての自己課題発見
- 第6回：支援者としての解決能力
- 第7回：自己理解体験
- 第8回：研究計画書作成の概説
- 第9回：様々な研究発表について
- 第10回：研究計画の発表(1)；発表者7名程度
- 第11回：研究計画の発表(2)；発表者7名程度
- 第12回：研究計画の発表(3)；発表者7名程度
- 第13回：研究計画の発表(4)；発表者7名程度
- 第14回：研究計画の発表(5)；発表者7名程度
- 第15回：研究計画の発表(6)；発表者7名程度

期末試験を行わず、指定期日までにレポート提出を求める。

授業外学習(予習・復習)

予習：授業で扱う内容について、事前に予習しておくことが望ましい(学習に関わる標準的時間は約2時間)。
復習：体験学習した内容について復習することが望ましい(学習に関わる標準的時間は約2時間)。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて指示する。

参考書

鈴木 淳子『質問紙デザインの技法 第2版』ナカニシヤ出版 2016年

成績の評価基準

複数回のミニレポート40%、研究計画発表資料60%から総合的に評価を行う。

オフィスアワ -

月曜4限。但し事前にメールにて確認のこと。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

14回

備考(受講要件)

心理学コースの学生に限る。

平成22年度以降入生はコース必修。平成21年度以前入生は「心理学基礎演習2」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX2414

科目名

心理学実験実習（旧 心理学実験1）（心理学実験）

英語名

Psychological Experiment

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 必修
科目

授業形態

実習

単位数

2単位

開講期

2年

担当教員

大園博記・山崎真理子・横山春彦・
菅野康太・富原一哉

連絡先（TEL）

099-285-7538(大園)

連絡先（MAIL）

ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

心理学諸分野における実験手法の中で基礎的かつ習得することが望ましいテーマについて実験（動画視聴による間接的な体験を含む）を行い、その結果についてレポートを作成することにより、心理学の実証的な研究方法について学ぶ。

学修目標

1. 心理学における実験の基本的知識を習得する。
2. 実験の適切な運用方法を修得し、自律的にそれらを実施することができる。
3. 実験によって得られたデータについて、様々な統計的手法を用いて適切に処理できる。
4. 心理学の研究論文の構成を理解し、書式に従った研究レポートを作成できる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。また、各回のテーマや実施順序は変更される場合もあるので、各担当教員の指示に従うこと。

- 第1回：ガイダンス（担当：大園）
- 第2回：論文精読（担当：大園）
- 第3回：集団過程（担当：大園）
- 第4回：社会的ジレンマ（担当：大園）
- 第5回：鏡映描写（担当：横山）
- 第6回：パーソナルスペース（担当：山崎）
- 第7回：触2点域の測定（担当：横山）
- 第8回：これまでのレポート課題へのフィードバック1
- 第9回：行動神経科学講義（担当：菅野）
- 第10回：行動薬理（担当：菅野）
- 第11回：神経組織（担当：菅野）
- 第12回：学習1（担当：富原）
- 第13回：学習2（担当：富原）
- 第14回：これまでのレポート課題へのフィードバック2
- 第15回：ポスターによる発表

授業外学習（予習・復習）

各回の内容についての配布資料の予習、復習やレポート作成（授業1回につき、4時間程度）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

「心理学基礎実験を学ぶ（大和田智文・鈴木公啓編著、2016年、北樹出版）」

その他、授業中、適宜提示する。

成績の評価基準

レポート（80%）と最終ポスター提出（20%）による。また、各担当教員から課されるレポートのうち1つでも未提出のものがあつた場合、単位は認めない。

オフィスアワ -

火曜3限（大菌）。ただし事前に研究室に連絡すること。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

「心理学コース」所属生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-DDF4401			
科目名			
卒業科目（人間と文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
心理学コース長	指導教員によって指示される		指導教員によって指示される
共同担当教員		前後期	
指導教員		後期	
授業概要			
<p>本授業の目的は、これまでの学習を踏まえて自ら設定した研究テーマを探究し、卒業論文を作成するまでの過程を通して、心理学の知識を適切に生かすための実践的判断力や論理的思考及び論文作成法等を修得することである。</p> <p>授業内容は、まず、心理学に関するこれまでの学習成果を基に自ら研究テーマを設定し、次に、研究テーマとなった問題の解決のために、実験・調査等の科学的手法を用いてデータを収集し、さらに、これらを実証的手法によって分析し、結論を得て、論文としてまとめることである。また、研究に付随する倫理的問題とその配慮の方法とプレゼンテーションの方法についても学習する。</p> <p>授業では、指導教員との綿密な打ち合わせやゼミでの討論等を通して、卒業論文を作成し、卒論発表会にて成果を公表する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 卒業論文のテーマにかかる社会的背景や先行研究の概要を説明することができる。 研究目的に合致した実験・調査デザインを組むことができ、それに沿った分析方法を判断できる。 卒業論文作成を通して得た知識や知見を説明することができる。 言語表現を含めて、論文作成上の基本的な作法を習得する。 			
授業計画			
<p>卒業論文は学生が主体的に実施することが必須であり、時間割に記載される以外に多くの時間において行うことになる。そのため15週の授業計画を示すことはできない。しかし、標準的には、以下の内容を含んだものとなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 研究テーマの設定 文献の収集 研究仮説の検討 倫理的問題の検討 研究デザイン的设计 中間発表会とディスカッション データ収集 データ分析と考察 論文の作成 卒論発表会 			
授業外学習（予習・復習）			
<p>上述の通り、卒業論文は学生が主体的に実施することが必須であることから、「予習」と「復習」をわけて示すことはできない。指導教員の指示に従って、研究についての理解を深めておくこと。</p>			
教科書			
担当教員が適宜指示する			
参考書			
担当教員が適宜指示する			
成績の評価基準			
<p>指導教員は、研究の過程と卒業論文及び卒業論文発表会について、他の教員は、事前提出された卒業論文と卒業論文発表会について、「論理性」、「学問的貢献」、「実践的意義」、「プレゼンスキル」等の観点から、[指</p>			

専任教員による評価80%] + [他のコース教員9名による評価20%]で総合的に評価する。

オフィスアワ -

指導教員によって指示される

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

実験や調査

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全て

備考（受講要件）

人間と文化コース所属生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-DDF4401			
科目名			
卒業科目(人間と文化)			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
心理学コース長	指導教員によって指示される		指導教員によって指示される
共同担当教員		前後期	
指導教員		前期	
授業概要			
<p>本授業の目的は、これまでの学習を踏まえて自ら設定した研究テーマを探究し、卒業論文を作成するまでの過程を通して、心理学の知識を適切に生かすための実践的判断力や論理的思考及び論文作成法等を修得することである。</p> <p>授業内容は、まず、心理学に関するこれまでの学習成果を基に自ら研究テーマを設定し、次に、研究テーマとなった問題の解決のために、実験・調査等の科学的手法を用いてデータを収集し、さらに、これらを実証的手法によって分析し、結論を得て、論文としてまとめることである。また、研究に付随する倫理的問題とその配慮の方法とプレゼンテーションの方法についても学習する。</p> <p>授業では、指導教員との綿密な打ち合わせやゼミでの討論等を通して、卒業論文を作成し、卒論発表会にて成果を公表する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文のテーマにかかる社会的背景や先行研究の概要を説明することができる。 2. 研究目的に合致した実験・調査デザインを組むことができ、それに沿った分析方法を判断できる。 3. 卒業論文作成を通して得た知識や知見を説明することができる。 4. 言語表現を含めて、論文作成上の基本的な作法を習得する。 			
授業計画			
<p>卒業論文は学生が主体的に実施することが必須であり、時間割に記載される以外に多く時間において行うことになる。そのため15週の授業計画を示すことはできない。しかし、標準的には、以下の内容を含んだものとなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定 2. 文献の収集 3. 研究仮説の検討 4. 倫理的問題の検討 5. 研究デザイン的设计 6. 中間発表会とディスカッション 7. データ収集 8. データ分析と考察 9. 論文の作成 10. 卒論発表会 			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>上述の通り、卒業論文は学生が主体的に実施することが必須であることから、「予習」と「復習」を別けて示すことはできない。指導教員の指示に従って、研究についての理解を深めておくこと。</p>			
教科書			
担当教員が適宜指示する			
参考書			
担当教員が適宜指示する			
成績の評価基準			
<p>指導教員は、研究の過程と卒業論文及び卒業論文発表会について、他の教員は、事前提出された卒業論文と卒業論文発表会について、「論理性」、「学問的貢献」、「実践的意義」、「プレゼンスキル」等の観点から、[指導教員による評価80%]+[他のコース所属教員9名による評価20%]で総合的に評価する。</p>			

オフィスアワ -

指導教員によって指示される

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

実験や調査

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全て

備考(受講要件)

人間と文化コース所属生で、9月卒業希望者に限る

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX4001			
科目名			
卒業論文（心理学コース）			
英語名			
Dissertation			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
心理学コース長	指導教員によって指示される		指導教員によって指示される
共同担当教員		前後期	
指導教員		後期	
授業概要			
<p>本授業の目的は、これまでの学習を踏まえて自ら設定した研究テーマを探究し、卒業論文を作成するまでの過程を通して、心理学の知識を適切に生かすための実践的判断力や論理的思考及び論文作成法等を修得することである。</p> <p>授業内容は、まず、心理学に関するこれまでの学習成果を基に自ら研究テーマを設定し、次に、研究テーマとなった問題の解決のために、実験・調査等の科学的手法を用いてデータを収集し、さらに、これらを実証的手法によって分析し、結論を得て、論文としてまとめることである。また、研究に付随する倫理的問題とその配慮の方法とプレゼンテーションの方法についても学習する。</p> <p>授業では、指導教員との綿密な打ち合わせやゼミでの討論等を通して、卒業論文を作成し、卒論発表会にて成果を公表する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文のテーマにかかる社会的背景や先行研究の概要を説明することができる。 2. 研究目的に合致した実験・調査デザインを組むことができ、それに沿った分析方法を判断できる。 3. 卒業論文作成を通して得た知識や知見を説明することができる。 4. 言語表現を含めて、論文作成上の基本的な作法を習得する。 			
授業計画			
<p>卒業論文は学生が主体的に実施することが必須であり、時間割に記載される以外に多く時間において行うことになる。そのため15週の授業計画を示すことはできない。しかし、標準的には、以下の内容を含んだものとなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定 2. 文献の収集 3. 研究仮説の検討 4. 倫理的問題の検討 5. 研究デザイン的设计 6. 中間発表会とディスカッション 7. データ収集 8. データ分析と考察 9. 論文の作成 10. 卒論発表会 			
授業外学習（予習・復習）			
<p>上述の通り、卒業論文は学生が主体的に実施することが必須であることから、「予習」と「復習」を別けて示すことはできない。指導教員の指示に従って、研究についての理解を深めておくこと。</p>			
教科書			
担当教員が指示する			
参考書			
担当教員が指示する			
成績の評価基準			
<p>指導教員は、研究の過程と卒業論文及び卒業論文発表会について、他の教員は、事前提出された卒業論文と卒業論文発表会について、「論理性」、「学問的貢献」、「実践的意義」、「プレゼンスキル」等の観点から総合的</p>			

に評価する。

オフィスアワ -

指導教員によって指示される

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

実験や調査

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全て

備考（受講要件）

心理学コース所属生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-CGX4001			
科目名			
卒業論文（心理学コース）			
英語名			
Dissertation			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
心理学コース長	指導教員によって指示される		指導教員によって指示される
共同担当教員		前後期	
指導教員		前期	
授業概要			
<p>本授業の目的は、これまでの学習を踏まえて自ら設定した研究テーマを探究し、卒業論文を作成するまでの過程を通して、心理学の知識を適切に生かすための実践的判断力や論理的思考及び論文作成法等を修得することである。</p> <p>授業内容は、まず、心理学に関するこれまでの学習成果を基に自ら研究テーマを設定し、次に、研究テーマとなった問題の解決のために、実験・調査等の科学的手法を用いてデータを収集し、さらに、これらを実証的手法によって分析し、結論を得て、論文としてまとめることである。また、研究に付随する倫理的問題とその配慮の方法とプレゼンテーションの方法についても学習する。</p> <p>授業では、指導教員との綿密な打ち合わせやゼミでの討論等を通して、卒業論文を作成し、卒論発表会にて成果を公表する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文のテーマにかかる社会的背景や先行研究の概要を説明することができる。 2. 研究目的に合致した実験・調査デザインを組むことができ、それに沿った分析方法を判断できる。 3. 卒業論文作成を通して得た知識や知見を説明することができる。 4. 言語表現を含めて、論文作成上の基本的な作法を習得する。 			
授業計画			
<p>卒業論文は学生が主体的に実施することが必須であり、時間割に記載される以外に多く時間において行うことになる。そのため15週の授業計画を示すことはできない。しかし、標準的には、以下の内容を含んだものとなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定 2. 文献の収集 3. 研究仮説の検討 4. 倫理的問題の検討 5. 研究デザイン的设计 6. 中間発表会とディスカッション 7. データ収集 8. データ分析と考察 9. 論文の作成 10. 卒論発表会 			
授業外学習（予習・復習）			
<p>上述の通り、卒業論文は学生が主体的に実施することが必須であることから、「予習」と「復習」を別けて示すことはできない。指導教員の指示に従って、研究についての理解を深めておくこと。</p>			
教科書			
担当教員が適宜指示する			
参考書			
担当教員が適宜指示する			
成績の評価基準			
<p>指導教員は、研究の過程と卒業論文及び卒業論文発表会について、他の教員は、事前提出された卒業論文と卒業論文発表会について、「論理性」、「学問的貢献」、「実践的意義」、「プレゼンスキル」等の観点から総合的</p>			

に評価する。

オフィスアワ -

指導教員によって指示される

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

実験や調査

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全て

備考（受講要件）

心理学コース所属生で、9月卒業希望者に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-CHX2415

科目名

心理アセスメント実習（旧 心理学実験2）

英語名

Exercises in Psychological Assessment

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 必修
科目

授業形態

実習

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

榑原良太、安部幸志、飯田昌子、平
田祐太郎、米田孝一

連絡先（TEL）

099-285-7815

連絡先（MAIL）

sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

心理アセスメントに関する基礎的な知識や技能を習得すること、またアセスメントに基づいて適切なレポートを作成する能力を身に付けることを目的とする。

学修目標

1. 心理アセスメントの基本的知識を習得する。
2. 心理アセスメントの適切な運用方法を修得し、自律的にそれらを実施することができる。
3. 心理アセスメントによって得られたデータについて、適切に解釈することができる。

授業計画

本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。授業形態・内容・順番については種々の状況により変更となる可能性がある。変更が生じる際は予めmanabaや授業内で通知する。

- 第1回：オリエンテーション・アセスメントにおける倫理【オンデマンド型】
- 第2回：知能検査1：WISCの概説【オンデマンド型】
- 第3回：知能検査2：WISCの体験学習【オンデマンド型】
- 第4回：知能検査3：WISCの体験学習の振り返り【オンデマンド型】
- 第5回：知能検査4：田中ビネー?の概説【オンデマンド型】
- 第6回：知能検査5：田中ビネー?の体験学習【オンデマンド型】
- 第7回：知能検査6：田中ビネー?の体験学習の振り返り【オンデマンド型】
- 第8回：認知症のスクリーニング：HDS-R、MMSE-J【オンデマンド型】
- 第9回：認知症の画像評価：CT、MRI、SPECTの見方【オンデマンド型】
- 第10回：調査票を用いた測定の基礎【オンデマンド型】
- 第11回：YG性格検査【オンデマンド型】
- 第12回：内田クレペリン検査【オンデマンド型】
- 第13回：心の健康の検査【オンデマンド型】
- 第14回：アセスメント実践【オンデマンド型】
- 第15回：まとめ【オンデマンド型】

授業外学習（予習・復習）

- 予習：授業で扱う検査法について予習する（標準時間2時間）
- 復習：授業で扱った検査、その適応などについて学ぶ（標準時間2時間）

教科書

本授業では特に指定せず、各回の担当者が必要に応じて参考書を紹介する。

参考書

各回の担当者が適宜参考資料を紹介する。

成績の評価基準

レポートと授業への取り組み態度による（100%）。また、各担当教員から課されるレポートのうち1つでも未提出のものがあつた場合は単位は認定されない。

オフィスアワ -

月曜5限。ただし事前に連絡すること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

「心理学コース」の所属学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX2406

科目名

消費者心理学（旧 産業・組織心理学）

英語名

Consumer Psychology

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

山崎真理子

099-285-7631

yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

- ・まずは基礎パート。科目担当者が話題提供。まずは基本的な知識に広く浅く触れる。
- ・最後は発展パート。受講者自身が、基礎を発展させてプレゼン資料を作成＆発表。

学修目標

1. 消費者に関わる心理学研究の成果を、データを通じて読み解くことができる。
2. 地域の現状など現場の課題にも目を向け、専門的な観点から眺めることができる。
3. 自分自身の言葉で、学習の成果を第三者に伝える（プレゼン課題）ことができる。

授業計画

本講義は毎回、遠隔形式（録画動画の視聴が中心）で行う予定。
ただし講義形式は、状況により変更する可能性がある。
今後の情報は、manaba上で更新。コースニュースやコンテンツ欄を確認。

基礎パート、 発展パート

- 第 1回...オリエンテーション・（社会）心理学とは
- 第 2回...社会心理学の観点からみた消費者行動
- 第 3回...消費者の価値志向（1）ブランド選択
- 第 4回...消費者の価値志向（2）マーケット・セグメンテーション
- 第 5回...消費者の個人内過程（1）購買の計画性
- 第 6回...消費者の個人内過程（2）価格判断の過程
- 第 7回...消費者間の個人間仮定：口コミの効果
- 第 8回...消費者と企業のコミュニケーション（1）比較広告
- 第 9回...消費者と企業のコミュニケーション（2）悪徳商法
- 第10回...地域性と接客サービス（グループワーク）
- 第11回...心理学研究法（1）質問紙調査法
- 第12回...心理学研究法（2）実験的観察法
- 第13回...市販飲料のブラインド実験
- 第14回...学期末課題（1）作成前の意見交換
- 第15回...学期末課題（2）発表に対するフィードバック

授業外学習（予習・復習）

- ・予習（約2時間）...前回までの内容を再度確認したうえで、講義に臨む。
- ・復習（約2時間）...講義外でも適宜、各自で情報収集したうえで、小課題に取り組む。

教科書

本講義では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

高野陽太郎・岡 隆（編）「心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし」（有斐閣アルマ）2004

成績の評価基準

- ・ 小課題「今日の課題」 ...50%

・学期末課題（全体の振り返り + ）...50%

・学期末試験は実施しない ... 0%

オフィスアワ -

水曜 2 限。

メールやmanaba上での連絡も可能です。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回

備考（受講要件）

特になし。

心理学関連講義未受講者が本科目を受講することも想定して、講義を進める。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX2412

科目名

社会心理学（社会・集団・家族心理学）

英語名

Social Psychology

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

大園 博記

099-285-7538

ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

この授業では社会心理学の代表的な研究を、インターネットや友人関係、幸福感といった身近な問題や、格差や差別、環境破壊といった社会問題と結びつけながら、紹介する。授業後には毎回、短い意見・感想を書いてもらい、その次の授業でフィードバックするなど、双方向的な講義を目指す。さらに、講義の中で実際に社会心理学の実験を体験してもらうことによって、直感的理解と理論的理解の結合を図る。

学修目標

1. 対人関係並びに集団における人の意識、態度及び行動についての心の過程に関する、社会心理学の基礎的な知識と研究法を習得する。
2. 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について、理解する。
3. 社会での人間関係などの個人の問題から、環境破壊や文化摩擦などの社会問題までを、多面的な視点から考察できるようになる。

授業計画

* 本授業は、遠隔で行う予定である。リアルタイムのzoomで行うが、授業動画をアップするため、オンデマンドでも受講可能とする。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

1. オリエンテーション
2. 原因帰属とステレオタイプ：差別を生み出す心理
3. 自己と態度：自己欺瞞の心理
4. 格差と公正：平等な社会を阻む心理
5. 潜在的過程の影響：意識できない自分の心
6. メディアの影響：社会のフィルターを知る
7. 進化してきた心：ヒトの社会性の起源
8. 身近な人間関係：恋愛と家族
9. 友人関係とネットワーク：絆としがらみが作る社会
10. 社会的ジレンマ：集団での協力と裏切り
11. 集団間葛藤：ウチとソトの対立
12. 西洋と東洋の心の違い：文化的自己観と認知スタイル
13. 文化と適応：文化差の起源を求めて
14. 幸福感と社会：幸せとは何か？
15. まとめ：変遷する人間観
16. 期末レポート

授業外学習（予習・復習）

授業前には、次の授業のキーワードを調べてくること（2時間程度）。授業後は、授業中に配布した資料や提示した参考文献を基に復習をし、知識を確かなものとする（2時間程度）。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

参考書

社会心理学（池田謙一ほか 有斐閣） 複雑さに挑む社会心理学（亀田達也・村田光二著 有斐閣） 社会心理学キーワード（山岸俊男編 有斐閣） その他、適宜授業中に提示する。
成績の評価基準
各授業への感想・質問の提出（45%）と複数回の小レポート（30%）、および期末レポート（25%）の成績による。
オフィスアワ -
月曜1限
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
実験デモンストレーション
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回
備考（受講要件）
特になし
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CHX2414			
科目名			
人体の構造と機能及び疾病			
英語名			
Human Body Structure, Function and Diseases			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
米田孝一		内線7663	yoneda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
機能別の臓器解剖学、疾病について学ぶ。心理的支援が必要になる疾患を中心に理解する。			
学修目標			
1. 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について概説できる。 2. 心理支援が必要な主な疾病について概説できる。			
授業計画			
本授業は毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態は、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は予めmanabaのコースニュースで通知する。			
第1回	人体について		
第2回	血液・免疫・感染		
第3回	呼吸器		
第4回	循環器		
第5回	神経(1) 中枢神経		
第6回	神経(2) 末梢神経		
第7回	神経(3) 疾患		
第8回	感覚器		
第9回	運動器		
第10回	消化管		
第11回	肝・胆・膵		
第12回	内分泌・代謝		
第13回	腎臓・泌尿器・生殖器		
第14回	熱中症・食中毒		
第15回	総まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
予習：扱う予定の項目について見ておく (目安時間1時間)。 復習：学習した単元の解剖、生理、疾患について自分なりにまとめて図示出来るようにする。そして小レポートを記載する (目安時間3時間)。			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
本授業では特に指定せず、必要に応じた論文を用いる。			
成績の評価基準			
10回以上の出席をした者は期末試験を受験できる。各回的小レポート45% (1回のレポートが3点)、期末試験55%の計100点で評価する。なお、期末試験が実施できない状況になった場合は試験の代わりにレポート(55%)を課す。			
オフィスアワ -			
月曜日 4限 (メールでご相談ください)			

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員が医師（心療内科専門医）として診療に従事している経験を活かし、臓器別に解剖、機能、疾患について学生は学ぶ。身体のみならず、心と身体の関係、ストレスによる身体疾患、闘病に伴う心理的・精神的変化などについても経験例を交えながら授業を進める。心理学を専攻する者が臨床現場に出るときに最低限必要な知識を持つこと、他専攻の学生にとっては医学一般の基礎を理解できるようになることが目標である。

心理査定学（心理的アセスメント）（旧 臨床援助論）
ナンバリングコード

FHS-CHX2404

科目名

心理査定学（心理的アセスメント）（旧 臨床援助論）

英語名

Psychological Assessment

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
米田孝一		内線7663	yoneda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

心理状態、精神状態、認知機能とそれらを把握するための診断基準や検査について概説する。そして、明らかにしたいことに応じて、どのようにアプローチすればよいかを考えられるようにするのが本授業の目的である。更に一歩進めて、どのようにして治療するのかという臨床的な入り口を学んでいただきたい。臨床場面においては、患者・クライアントと話す一瞬一瞬が検査なき査定でもある。公認心理師や臨床心理士を目指す学生にとっては国家試験や認定試験のみならず、将来の業務の骨格をなすものとなる。

学修目標

1. 心理的アセスメントの目的及び倫理を理解できる。
2. 心理的アセスメントの観点及び展開を理解できる。
3. 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を理解できる。
4. 心理アセスメントの結果についての適切な記録及び報告の意義を理解できる。

授業計画

新型コロナ感染対策を考慮して、対面授業ではなく、全回ともオンデマンド方式（録画授業を各自の都合の良い時間に視聴）で行う予定です。

- 第1回 心理査定とは
- 第2回 認知症
- 第3回 知能
- 第4回 記憶
- 第5回 気分(1)
- 第6回 気分(2)
- 第7回 ストレス
- 第8回 トラウマ、PTSD
- 第9回 虐待、いじめ、解離
- 第10回 パーソナリティ(1)
- 第11回 パーソナリティ(2)
- 第12回 睡眠
- 第13回 摂食
- 第14回 発達障害、統合失調症、高次脳機能障害
- 第15回 総論

授業外学習（予習・復習）

予習：授業で扱う予定の心理的問題、精神的問題について概観する（目安時間2時間）。
復習：授業で理解した心理、精神の捉え方について深く調べてみる（目安時間2時間）。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

本授業では特に指定せず、必要に応じた論文を用いる。

成績の評価基準

10回以上の出席をした者は期末試験を受験できる。各回の小レポート45%（1回のレポートが3点）、期末試験55%

の計100点で評価する。なお、期末試験が実施できない状況になった場合は試験の代わりにレポート(55%)を課す。

オフィスアワ -

火曜日2限（新型コロナ感染対策上、まずメールでご相談ください）

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「臨床援助論」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員が医師（心療内科専門医）として診療に従事している経験を活かし、心、精神について、その働き、健康な状態、歪み、疾病を学生は学ぶ。代表的な心療内科、精神科領域の疾患とともに、心理状態、精神状態、認知機能を把握するために行われる検査、その治療に用いられる心理療法にも言及する。担当教員が日頃臨床現場で行なっていることを「生の教科書」として伝える。

ナンバリングコード			
FHS-CHX2409			
科目名			
発達心理学			
英語名			
Developmental Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
島 義弘		099-285-7788	shima@edu.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本講義では生涯にわたる人の発達を心理学の観点から概説する。全体は3部構成となっており、第I部は生涯発達心理学の概論、第II部、第III部は主として幼児期、児童期の発達の各論を解説する。受講者には事前の調べ学習とディスカッション、講義の振り返りを通して一般的な発達の特徴を理解し、発達支援の在り方について考察することを求める。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達研究の基本的な方法論を説明することができる 2. 発達を支える社会的・文化的環境について説明することができる 3. 認知の発達について説明することができる 4. 社会性の発達について説明することができる 5. 発達と教育の関係について説明することができる 			
授業計画			
<p>本授業はすべて対面で行う予定であるが、種々の状況により変更となる可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション <p>第I部：発達心理学概論</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 身体と運動の発達 3. 乳児期から青年期の発達 4. 成人期・老年期の発達 5. 発達の遅れと障害 <p>第II部：認知の発達</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 認知 7. 言葉 8. 記憶 9. 知能 10. 学習 <p>第III部：社会性の発達</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 動機づけ 12. 感情・情動 13. パーソナリティ 14. 対人関係 15. 遊び <p>期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>【予習】事前配布される資料を通して考えたこと等を、レポートとして提出する (学修に係る標準時間は約2時間)</p> <p>【復習】講義やディスカッション、他の受講生のレポートを通して考えたこと等を、レポートとして提出する (</p>			

学修に係る標準時間は約2時間)
教科書
本授業では特に指定せず，必要に応じて参考書を用いる。
参考書
『シードブック発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』 本郷一夫（編著） 建帛社 『よくわかる発達心理学』 無藤隆 他（編著） ミネルヴァ書房 『発達科学入門』（全3巻） 高橋恵子 他（編） 東京大学出版会
成績の評価基準
事前レポート（毎時）：50% 事後レポート（毎時）：30% 期末レポート：20% 事前レポート，事後レポートのいずれかまたは双方の未提出が3回を超える場合，期末レポートが期限内に提出されない場合は評価の対象としない。
オフィスアワ -
火曜日の午前中
アクティブ・ラーニング
ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回
備考（受講要件）
1.教育学部の「児童心理学」と共同開設。 2.受講者数とCOVID-19の状況によって，対面，遠隔（オンライン）のいずれもあり得る。 3.提出されたレポートは，全て公開する。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX2411

科目名

コミュニティ援助論（福祉心理学）

英語名

Community Psychology

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 選択
科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

平田祐太郎

連絡先（TEL）

099-285-7525（法文学部学生係）

連絡先（MAIL）

hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

現代社会の様々なコミュニティについて、援助論の観点より講義を行う。現代社会は、情報化、国際化、少子高齢化等が進展する中で、これまでのコミュニティのあり方も急速に変化を迫られている。現代社会の課題を特に児童福祉に焦点をあて、学生個々が考え、授業において明らかにすると共に、援助の視点やアプローチについて学ぶ。

学修目標

- ・福祉現場において生じる問題及びその背景，心理社会的課題及び必要な支援に関する知識を説明することができる。
- ・児童虐待についての基本的知識を説明することができる。
- ・コミュニティ援助の特質および考え方を説明することができる。
- ・過去の先行研究から最新のコミュニティ援助技法，福祉心理学に関する知識・視点を判断できる。

授業計画

遠隔形式で行う予定であるが、各回の実施方法や順序は変更される可能性もある。変更が生じる際は、あらかじめmanabaや授業内にて通知する。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション（授業概要の説明）（オンデマンド型）
- 第2回：コミュニティ援助の視点と方法論（定義、歴史、特徴、意義と課題）（オンデマンド型）
- 第3回：子育て支援とコミュニティ援助?（オンデマンド型）
- 第4回：子育て支援とコミュニティ援助?（オンデマンド型）
- 第5回：虐待の理解と対応?（オンデマンド型）
- 第6回：虐待の理解と対応?（オンデマンド型）
- 第7回：社会的養護の実際（オンデマンド型）
- 第8回：コミュニティ援助としての危機介入の視点と技法（オンデマンド型）
- 第9回：心理教育等を用いた予防的アプローチ（オンデマンド型）
- 第10回：訪問援助型の支援（オンデマンド型）
- 第11回：不登校児童・生徒に対する支援（オンデマンド型）
- 第12回：ネットワーキングを用いた支援の展開（連携・協働を用いた援助）（オンデマンド型）
- 第13回：質的研究を用いたコミュニティ援助の評価（オンデマンド型）
- 第14回：コミュニティ援助の討論と総括（オンデマンド型）
- 第15回：総括（課題提出型）

授業外学習（予習・復習）

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）

教科書

毎回資料を配布する。また、必要に応じて参考書を用いる

参考書

コミュニティ・アプローチ 臨床心理学を学ぶ5 高島克子 東京大学出版
 福祉心理学 人の成長を辿って 中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志 ナカニシヤ出版
 コミュニティ心理学 山本和郎 東京大学出版

成績の評価基準

各レポート課題40%、最終レポートの成績60%から総合的に評価を行う。

オフィスアワ -

火曜日4限 研究室

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15

備考（受講要件）

- （1）平成28年度以前入生は「学習心理学」，平成29年度-令和3年度入生は「学校心理学（教育・学校心理学）」に読替。
- （2）平成29年度-令和2年度入生で既修得者は履修不可。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX2408

科目名

認知心理学（知覚・認知心理学）

英語名

Cognitive Psychology

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

横山春彦

099-285-7535

yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

法文学部 人文学科 心理学コース 准教授 横山春彦

後期

授業概要

本講義は、心理学の研究対象であるヒト・動物の行動のうち、感覚などその手掛かりとして機能する部分に焦点を当てた、心理学コースの専門授業となります。私たちにとって感覚は唯一の情報の入り口であり、また自身を実体のあるものとして感知させる重要な働きである。一方、そうした感覚の活動を生み出すのは神経系の作用であるが、インパルスの伝導・伝達を基本とするニューロンがどのようにそれを可能とするのか、そこには依然として大きな謎がある。本講義ではこうした感覚に関するトピックを毎回いくつか取り上げて解説する。それにより受講生自身、人の認知機能の機序及びその障害に関して理解を深め、基本的な説明ができることが目標となる。なお、補足的に私たちを取り巻く身近な環境に生息する動植物等についても具体的な観察記録を交えつつ話題を提供する。

学修目標

学修目標は以下の通りである。

1. 人の感覚・知覚・認知の働きとそのしくみについて理解を深める。
2. 人の感覚・知覚・認知に関する障害等について理解を深める。
3. 身近な事象を、例に感覚・知覚・認知の働きやそのしくみについて説明できる。

授業計画

全15回オンデマンド型の授業となります。ただし、授業形態について変更する場合があること、またその際の対応についてはmanaba上で随時お知らせします。

第1回 感覚・知覚・認知の概念について、その他（大学で学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第2回 聴覚のしくみについて、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第3回 味覚・嗅覚のしくみについて、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第4回 皮膚感覚のしくみについて、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第5回 視覚の成立条件について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第6回 色覚研究の歴史について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第7回 眼球運動、静止網膜像、恒常性について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第8回 色覚（ベツルト・ブリュッ現象、進出色後退色）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第9回 形の知覚（ゲシュタルト要因）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第10回 幾何学的錯視について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第11回 動きの知覚について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第12回 視覚障害（視覚性定位障害、半測空間無視）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第13回 視覚障害（視覚失認、立体視障害）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第14回 視覚障害（反復視、相貌失認）について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第15回 クオリア問題について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究など）

第16回 期末試験（期日までにレポートを作成し提出する形式で行う）

授業外学習（予習・復習）

本講義は2単位の講義科目であるため、単位制度に則り、1回につき4時間の予習・復習が必要となります。すなわち、シラバスに示した学修内容を踏まえた予習に加え（2時間程度）、授業終了後には授業時に出された発問への回答を含め、学修内容に対する復習（2時間程度）を要します。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

犬塚美輪 認知心理学の視点 サイエンス社 2018

御領謙・菊池正・江草浩幸・伊集院睦雄・服部雅史・井関龍太 認知心理学への招待 サイエンス社2016

原田悦子 認知心理学 サイエンス社 2015

成績の評価基準

ショートレポートに対する評価（20%）、毎週の予習・復習など行うべき課題の取り組み状況（20%）、及び期末レポートの成績（60%）によって評価する。

オフィスアワ -

毎週月曜日 5 限の時間帯（16:10～17:40）。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

認知の基礎となる感覚、特に視覚の機能と構造について毎回発問し受講生に考えてもらう

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

重複履修は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

ヒトや動物にとって行動の重要な手掛かりとなる感覚などの機能と構造について、どのようなトピックがあり、またどのような謎や面白さがあるか、視覚に関わる障害のサポートなども視野に実践的に学習する心理学コースの専門授業となります。

ナンバリングコード			
FHS-CHX2413			
科目名			
産業・組織心理学			
英語名			
Industrial & Organizational Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
榊原良太		099-258-7519	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
前後期			
前期			
授業概要			
本講義では、産業・組織心理学に関する知識、知見に基づき、現在の産業・組織をめぐるさまざまな事柄・問題について考えていく。また、産業・組織に関するより良い実践を考案し、その有効性についての議論を行う。			
学修目標			
(1)産業・組織心理学に関する基礎的な知識を習得する。 (2)習得した基礎的な知識をもとに、現在の産業・組織をめぐる様々な問題を指摘できる。 (3)産業・組織心理学の知識・知見に基づいた、よりよい実践を考案できる。 (4)常に「いずれ自身が社会に出ること」を意識しながら講義に臨む。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション (オンデマンド) 第2回：ワーク・モチベーション (オンデマンド) 第3回：ストレスとメンタルヘルス(1)(ストレス理論と対処) (オンデマンド) 第4回：ストレスとメンタルヘルス(2)(精神疾患とその予防、治療) (オンデマンド) 第5回：キャリア発達とその支援 (オンデマンド) 第6回：面接と採用 (オンデマンド) 第7回：人事評価 (オンデマンド) 第8回：チームワーク (オンデマンド) 第9回：リーダーシップ (オンデマンド) 第10回：組織の中の感情とその役割 (オンデマンド) 第11回：ヒューマンエラーと安全対策 (オンデマンド) 第12回：人間工学 (オンデマンド) 第13回：お金に関する心理・行動 (オンデマンド) 第14回：広告 (オンデマンド) 第15回：まとめ (オンデマンド)			
授業外学習 (予習・復習)			
授業前：初回に提示した書籍などに目を通しておく(1時間程度) 授業後：配布した資料を用いて復習を行う(1～2時間程度)			
教科書			
指定しない。			
参考書			
産業・組織心理学 (山口裕幸ほか著、有斐閣アルマ、2006年)			
成績の評価基準			
毎回の授業の小テスト(60%)、レポート課題の点数(20%)、読書レポートの点数(20%)により評価を行う。			
オフィスアワ -			
火曜2限、事前にメールにて連絡すること。			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
実社会に存在する問題について、自身の経験や知識をもとに考える。
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回
備考（受講要件）
なし
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CHX2407			
科目名			
比較心理学（旧 比較行動心理学）			
英語名			
Comparative Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
富原一哉		285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
比較心理学は、ヒトを含めた様々な動物種の行動を比較することで、ヒトのヒトとしての特性（生物としての一般性と種としての特異性）を明らかとすることを目指している。本講義では、比較心理学における主な知見を紹介するなかで、生物学的・科学的な人間観の形成を目指す。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・比較心理学についての基礎知識を習得する。 ・人間を1つの動物種として客観的・科学的に理解する視点を養う。 ・心と行動の進化についての正確な理解と適切な考察が行える。 			
授業計画			
*遠隔形式（オンデマンド型）でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。また、講義内容や順番も変更されることもあるので注意すること。			
第1回：比較心理学とは何か（オンデマンド型） 第2回：比較心理学の方法論（オンデマンド型） 第3回：進化論の誤解と遺伝学の基礎知識（オンデマンド型） 第4回：学習1（定義と分類）（オンデマンド型） 第5回：学習2（基礎理論）（オンデマンド型） 第6回：学習3（遺伝と生理的機構）（オンデマンド型） 第7回：学習4（系統発生と生態学的機能）（オンデマンド型） 第8回：繁殖行動1（分類と調節機構）（オンデマンド型） 第9回：繁殖行動2（雌雄の繁殖戦略）（オンデマンド型） 第10回：繁殖行動3（性淘汰と行動進化）（オンデマンド型） 第11回：繁殖行動4（親的投資と母性発現）（オンデマンド型） 第12回：認知・思考1（認知地図と概念学習）（オンデマンド型） 第13回：認知・思考2（言語と心の理論）（オンデマンド型） 第14回：系統発生と個体発生（オンデマンド型） 第15回：まとめ（オンデマンド型）			
授業外学習（予習・復習）			
予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）			
復習：授業で提示された学習内容の復習と課題を実施する（標準的時間は2時間）			
教科書			
適宜資料をmanabaにアップする。			
参考書			
中島定彦 2019 『動物心理学 一心の射影と発見ー』 昭和堂 M. R. パピーニ著 比較心理学研究会訳 2005 『パピーニの比較心理学』 北大路書房 長谷川真理子 2005 クジャクの雄はなぜ美しい？ <増補改訂版> 紀伊國屋書店			

近藤他編 2010 『脳とホルモンの行動学 ?行動神経内分泌学への招待?』 西村書店

藤田和生 1998 『比較認知科学への招待 「こころ」の進化学』 ナカニシヤ出版

藤田統 編著 1991 『動物の行動と心理学』 教育出版

成績の評価基準

毎回の課題(60%)と最終レポート(40%)にて評価する。

オフィスアワ -

月曜2限(研究室)。ただし,できるだけ事前にメールで連絡のこと。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

平成28年度以前入生は「比較行動心理学」に読み替え。

すでにこの単位を修得している者および平成28年度に「比較行動心理学」の単位を修得している者の、重ねての単位修得は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX2410

科目名

臨床心理学（臨床心理学概論）

英語名

Clinical Psychology

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 選択
科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

飯田昌子

連絡先（TEL）

099-285-8884

連絡先（MAIL）

m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

本授業では、臨床心理学は、人々が抱える困難を心理学的な観点から理解し、援助するための理論と方法を追求する学問であることを理解することを目的とする。

本授業では以下を概説する。1. 臨床心理学の成り立ちと、日本における臨床心理学の発展及び独自性について、2. 支援を必要とする人々に実際に関わる際に必要な専門的援助実践を学ぶための導入として、臨床心理学の主要な理論について。

学修目標

- ・臨床心理学の成り立ちを説明できる。
- ・臨床心理学の代表的な理論を説明できる。

授業計画

本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回：ガイダンス及び臨床心理学の全体構造について

第2回：臨床心理学の成り立ち

第3回：臨床心理学の発展

第4回：日本における臨床心理学の発展と独自性

第5回：臨床心理学の代表的な理論（1）：力動論

第6回：臨床心理学の代表的な理論（2）：精神分析の技法

第7回：臨床心理学の代表的な理論（3）：行動論・認知論

第8回：臨床心理学の代表的な理論（4）：行動療法と認知行動療法

第9回：臨床心理学の代表的な理論（5）：人間性心理学

第10回：臨床心理学の代表的な理論（6）：クライアント中心療法の歴史的発展

第11回：臨床心理学の代表的な理論（7）：自己理論

第12回：臨床心理学の代表的な理論（8）：システム論

第13回：親子のカウンセリング

第14回：被害者相談

第15回：まとめ：臨床心理学のこれからの方向性

定期試験

授業外学習（予習・復習）

予習：講義内容について自ら文献学習する。（学習に関わる標準的時間は約2時間）

復習：講義内容について自ら文献学習する。（学習に関わる標準的時間は約2時間）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

参考書

野島一彦・繁榊算男監修 『公認心理師の基礎と実践3 臨床心理学概論』遠見書房 2018年

成績の評価基準

複数回の小レポート（30%）及び期末レポート（70%）の成績による。

オフィスアワ -

月曜4限。ただし事前に研究室に連絡すること。連絡方法については授業中に指示する。授業直後であれば質問に応じます。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中2回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX2403

科目名

神経科学（神経・生理心理学）

英語名

Neuroscience

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 選択
科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

菅野康太

連絡先（TEL）

099-285-7624

連絡先（MAIL）

canno@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

本講義は、行動を制御する脳の機能に的を絞り解説を行う。脳はあまりに広大で、私の知識もまだまだ及ばないし、神経科学のすべての分野を網羅的に解説することは時間的にも不可能である。一方、神経科学は、心理学、生物学、医学、工学、情報科学、認知科学など、多岐にわたる学問分野の融合領域であるため、教えるべきスタンダードというものが設定しづらい。通常は、脳の構造や細胞の構造などをはじめに教え、その後、様々な分野のトピックを少しずつ取り上げる。しかし本講義では、序盤に偏りがあることを承知の上で、初学者が知識の大海で溺れてしまわないための一つの道標・ストーリーとして、人間を含む様々な動物の行動、とくに後半では他個体との間で起こる行動に的を絞り、脳を理解するための一つのストーリーを提示したい。各章のトピックごとに話を進めながら、その都度、基本知識を補足するスタイルをとり、第10回を過ぎたあたりで基本事項が一通り解説されているように設計をしている。分子・細胞生物学的な基本知識や脳の構造と機能については主に第12回で復習もかねてまとめ、実験技術、歴史的背景などについても最後の3回でまとめる。

さらに、本講義では、近年の神経科学や生物学の発展とともに生じると考えられる社会問題なども取り上げ、課題図書（小説など）を通じて未来の社会を考えるレポートなども実施する。

学修目標

- (1) 脳や生物学の面白さに触れ、以後、自学できるようになる。
- (2) 私たちを客観的に「見る」ということを考察し、体現する姿勢を持つ。
- (3) 自分と他人、ヒトと動物を比較し、異質な他者と「自分」の間に存在する、共通性と差異に対する感性を意識的に維持できるようになる。
- (4) 学問と私たちの生活、そして社会との繋がりについて考えられるようになる。

授業計画

- 第1回 ガイダンスおよび、1章 我々は世界をどのように感じているか（視覚）
 第2回 1章 我々は世界をどのように感じているか（視覚の多様性）
 第3回 1章 我々は世界をどのように感じているか（嗅覚および外部刺激の受容機構の基本）
 第4回 2章 本能的な対他者行動（母子関係、養育行動、触覚）
 第5回 2章 本能的な対他者行動（性分化、攻撃、雌雄間コミュニケーション）
 第6回 3章 そして生まれた私たち（遺伝的個性）
 第7回 3章 そして生まれた私たち（遺伝子・神経の疾患1：神経発生と脳の成り立ち、基本事項）
 第8回 3章 そして生まれた私たち（遺伝子・神経の疾患2：精神疾患、発達障害、精神薬理）
 第9回 4章 形成されるコミュニティ（社会性とは？）
 第10回 4章 形成されるコミュニティ（親和性、家畜化、共感、モラル）
 第11回 4章 形成されるコミュニティ（言語と音）
 第12回 5章 神経科学の基本事項まとめ（脳の構造と機能：復習と補足）
 第13回 6章 社会的な課題（神経倫理、先端技術、人工知能など） *レポート提出の週
 第14回 6章 社会的な課題（先端医療、脳機能の可視化）
 第15回 6章 社会的な課題（全体のまとめと授業を通して伝えたかったこと）

*2021年度はZoomを用いたリアルタイムのオンライン講義として行い、その録画もオンデマンド配信する予定。

授業形態は、コロナウィルス感染症の流行状況により変更となる可能性がある。

授業外学習（予習・復習）

レポートのための引用文献を探して読む。興味を持ったことがあれば随時調べて、質問としてぶつけて欲しい。一般的に、予習：約2時間、復習：約2時間程度が想定される。本授業に関しては、課題図書を読み込みと、それに関してレポート作成、レポート内で考察するための引用文献の検索・熟読で、授業外学習のかなりの部分が費やされるだろう。また、授業後の配布資料の復習が推奨される。配布資料は、全て事前にmanabaを通じて配布される。

教科書

なし。

資料をmanabaを通じて配布する。

レポート用の課題図書3つは、生協書籍部に入荷してもらっているが、初回授業までに用意する必要はない。ガイダンスを聞いた後に購入することをお勧めする（大抵3つのうち1つを購入する人が多い）。

参考書

1. 脳神経科学イラストレイテッド（羊土社）
2. 脳-分子・遺伝子・生理-（裳華房）
3. カールソン神経科学テキスト（丸善）
4. 分子脳科学（化学同人）
5. 脳とホルモンの行動学（西村書店）
6. その他、配布資料に記載する（含む原著論文）。

また、以下は学内ネットワークからは電子版の閲覧が可能

・脳神経科学イラストレイテッド

<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000014673?0>

・はじめて学ぶ、情報伝達の制御と脳の機能システム
（みる見るわかる脳・神経科学入門講座 後編）

<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000014672?3>

・脳 分子・遺伝子・生理 （新・生命科学シリーズ）

<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000023932/wicket:pageMapName/wicket-2?3>

・脳科学エッセンシャル 精神疾患の生物学的理解のために
（専門医のための精神科臨床リュミエール 16）

<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000017512/wicket:pageMapName/wicket-2?5>

成績の評価基準

レポート（50%）、期末テスト（50%）

採点基準は、初回授業のガイダンス資料として配布される。

オフィスアワー

授業が火曜3限なので、そのあとの4限（研究室）でどうでしょうか。

出来れば事前のメールか、授業後に話しかけて確認して下さい。

アクティブ・ラーニング

ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

各回のコメント、および主に第9回授業中のディスカッション。課題図書など、自身で選択したSFなどを読む。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

1

備考（受講要件）

高校生物や共通教育の生物学関連科目など、前提知識は必要としない。

*履修上の注意

心理学コースの学生にとっては「選択科目」、その他のコース・学科の学生にとっては「自由科目」です。

重複履修は不可です。

* 公認心理師対応

公認心理師試験受験資格に必要な「神経・生理心理学」に対応します。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX2405

科目名

生涯発達心理学（旧 発達心理学）

英語名

Life Span Developmental Psychology

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

安部幸志

099-285-7525

kojiabe@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

人間は誕生から死に至るまで常に発達を続け、変化していく生物である。本授業では、人間の生涯のうち、老年期における課題と特性に着目し、具体的なエピソードを交えて概説する。また、それぞれの発達段階における課題について、よりよく理解するためにグループワークにおけるディスカッションを積極的に実施する。

学修目標

1. 老年期の心理的発達課題について理解し、説明できる。
2. 老年期の心理的諸問題と地域における解決方法について関心を持ち、対処方法を考えることができる。

授業計画

本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。

なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースメニューや授業内において通知する。

- 第1回 本授業のねらいと進め方（オンデマンド型）
- 第2回 超高齢社会の現状と課題（オンデマンド型）
- 第3回 身体機能の老化（オンデマンド型）
- 第4回 認知機能の老化（オンデマンド型）
- 第5回 高齢者と交通事故（オンデマンド型）
- 第6回 老年期を対象とした研究アプローチ（オンデマンド型）
- 第7回 認知機能のリハビリテーション（オンデマンド型）
- 第8回 認知機能のリハビリ体験と報告（オンデマンド型）
- 第9回 老年期の心理的問題（オンデマンド型）
- 第10回 認知症とは何か（オンデマンド型）
- 第11回 介護ストレス（オンデマンド型）
- 第12回 介護スタッフのストレス（オンデマンド型）
- 第13回 終末期の心理（オンデマンド型）
- 第14回 心理学の立場から高齢者と地域を支える方法を考える（オンデマンド型）
- 第15回 まとめ（オンデマンド型）

授業外学習（予習・復習）

- 第1回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第2回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第3回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第4回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第5回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）

授業で提示された課題を作成する（2時間）
第6回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
第7回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
第8回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
第9回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
第10回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
第11回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
第12回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
第13回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
第14回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
第15回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
教科書
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる
参考書
大川一郎 他編著 「エピソードでつかむ老年心理学（シリーズ生涯発達心理学）」、ミネルヴァ書房、2011年
成績の評価基準
提出された課題 60%
期末レポート 40%
オフィスアワー
月、金の昼休み
アクティブ・ラーニング
グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中14回
備考（受講要件）
状況が整えば、リアルタイム型グループワークを行う可能性がある。その際は、積極的にコミュニケーションすることが必要である。ただし、接続に不安がある学生がいた場合は、実施しない可能性もある。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3401

科目名

学校心理学（教育・学校心理学）（旧 学習心理学）

英語名

School Psychology

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

森藤悦子

099-285-7774

morifuji@edu.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

学校現場における生徒指導，進路指導，教育相談について，基本的な内容について学習します。調べ学習と講義の振り返りを通して、教育現場において生じる問題及びその背景、対応について理解し、教育現場における支援の在り方について考察していきます。

学修目標

授業の到達目標及びテーマ

1. 学校教育における生徒指導、進路指導、教育相談について説明できる。
2. 児童・生徒の発達段階における心理的危機や行動問題及びその背景について説明できる。
3. 教育現場における心理社会的課題と必要な支援について説明できる。

授業計画

【授業計画・学習内容（予定）】本授業は、毎回遠隔形式で行う予定です。なお授業形態、回数や内容等については、種々の状況により変更となる可能性があります。その際は、manabaのコースニュースや授業内においてお知らせいたします。

第1回：オリエンテーション

第2回：学校に求められる臨床的視点(1)：生徒指導と教育相談

第3回：学校に求められる臨床的視点(2)：キャリア教育と進路相談

第4回：学校に求められる臨床的視点(3)：子どもの発達1

第5回：学校に求められる臨床的視点(4)：子どもの発達2

第6回：学校に求められる臨床的視点(5)：発達障害

第7回：教育現場において生じる問題とその背景(1)：問題行動のとりえ方

第8回：教育現場において生じる問題と必要な支援(1)：いじめ1

第9回：教育現場において生じる問題と必要な支援(2)：いじめ2

第10回：教育現場において生じる問題と必要な支援(3)：いじめ3

第11回：教育現場において生じる問題とその背景(2)：学習に関する問題

第12回：教育現場において生じる問題とその背景(3)：学校臨床におけるアセスメント

第13回：教育現場における心理社会的課題と必要な支援(4)：不登校

第14回：教育現場における心理社会的課題と必要な支援(5)：教師への支援・保護者対応

第15回：これまでの学習と教育現場における支援についてのまとめ（課題テストを含む）

授業外学習（予習・復習）

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する。（学習に係る標準時間は約2時間）

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う。（学習に係る標準時間は約2時間）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

文部科学省 生徒指導提要，2010年

成績の評価基準

復習の小テスト+振り返り+レポートの合計：70％、

課題テスト：30％

出席（小テストと振り返り）が10回に満たない場合は評価の対象としない。

オフィスアワ -

月曜3限（出張や会議等で不在のこともありますので、必ず事前にメール等でアポを取ってからお越しください）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

公認心理師養成用の科目のため、心理学コース3・4年生のみ。

実務経験のある教員による実践的授業

小学校、特別支援学校の勤務経験を有する教員が、生徒指導や教育相談等の教育的課題への対応等について幅広く講義を行う。

ナンバリングコード

FHS-CHX3421

科目名

社会心理学演習

英語名

Social Psychology 1

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園博記		099-255-7438	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。

学修目標

社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。

授業計画

* 対面形式でおこなう予定であるが、教室確保の難しさや状況の悪化により、遠隔形式に変更となる可能性がある。遠隔形式の場合は、全て【リアルタイム型】での実施とする。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 オリエンテーション【対面型】
- 第2回：英語論文発表：inter-group competition【対面型】
- 第3回：グループでの実験研究?計画立案【対面型】
- 第4回：英語論文発表：social dilemma【対面型】
- 第5回：英語論文発表：fairness【対面型】
- 第6回：グループでの実験研究?マテリアル作成【対面型】
- 第7回：英語論文発表：sexual differences【対面型】
- 第8回：英語論文発表：mating behavior【対面型】
- 第9回：グループでの実験研究?マテリアル完成【対面型】
- 第10回：英語論文発表：parental behavior【対面型】
- 第11回：英語論文発表：happiness【対面型】
- 第12回：グループでの実験研究?データ分析【対面型】
- 第13回：英語論文発表：reputation【対面型】
- 第14回：英語論文発表：punishment and reward【対面型】
- 第15回：グループでの実験研究?発表【対面型】

授業外学習（予習・復習）

- 予習：発表の準備（2時間程度）
- 復習：議論の中で提示された問題点について再考（2時間程度）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

参考書

- 社会心理学（池田謙一ほか 有斐閣）
- 複雑さに挑む社会心理学（亀田達也・村田光二著 有斐閣）
- 社会心理学キーワード（山岸俊男編 有斐閣）
- その他、適宜紹介する。

成績の評価基準

発表と討論への取り組み（100％）による。

オフィスアワ -

木曜5限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CHX3420			
科目名			
臨床心理学演習			
英語名			
Clinical Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
飯田昌子		099-285-8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本授業の目的は、自ら臨床心理学に関する「問い」を立て、研究計画に基づいたデータ収集及び解析、論文作成を行うことである。</p> <p>授業内容は、臨床心理学に関する国内外の論文の講読を行い、グループディスカッション等を行い、自らの「問い」を探究する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った研究方法、データ収集及び解析方法を理解する 2. 研究論文としてのまとめ方を理解する 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面方式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>第1回：ガイダンス 第2回：調査デザイン（1）：調査テーマ、目的、タイトルの決定 第3回：調査デザイン（2）：仮説、スケジュール、予算の決定 第4回：調査デザイン（3）：調査対象者、データ収集法 第5回：調査デザイン（4）：データの編集・集計・分析デザインの検討 第6回：研究レポートの構想発表会（1）：テーマ、仮説、デザインについて 第7回：質問紙の構成と体裁 第8回：質問紙の書式やレイアウト 第9回：研究レポートの構想発表会（2）：自作質問紙の体裁について 第10回：データ解析（1）：データの形式、入力と代表値 第11回：データ解析（2）：データの関連をみる 第12回：データ解析（3）：2変数以上の相違をみる 第13回：研究レポートの構想発表（1）：総合ディスカッション 第14回：研究レポートの構想発表（2）：研究倫理について 第15回：総括</p>			
<p>期末試験は行わず、指定期日までにレポート等の提出を求める。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：研究テーマに沿った先行研究を講読しておくこと（学習に関わる標準的時間は約2時間） 復習：授業で指摘された事項をもとに、再度先行研究を検索し、研究テーマを構築すること（学習に関わる標準的時間は約2時間）</p>			
教科書			
<p>本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる</p>			
参考書			

鈴木 淳子『質問紙デザインの技法 第2版』ナカニシヤ出版 2016年

成績の評価基準

臨床心理学に基づいて説明できる技術を習得したか等の観点から，平常の学習状況（10%），発表資料（20%），プレゼンテーション力（30%）。レポート（40%）により，総合的に評価する。

オフィスアワ -

月曜4限。ただし事前に連絡すること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

心理学コースの学生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3418

科目名

比較心理学演習（旧 比較行動心理学演習）

英語名

Comparative Psychology 1

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 選択
科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

富原一哉

連絡先（TEL）

099-285-7536

連絡先（MAIL）

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

比較行動心理学に関する最近の内外の論文や概説書を講読することを通して、心理学研究に必要な知識と技能の修得を目指す。授業においては、毎週授業で取り扱う論文等（英文）を指定し、自習すべき課題を設定する。授業では、英文和訳、内容の概説、課題内容の発表、討論等を行ってもらうため、事前の十分な予習を必要とする。

学修目標

- ・比較心理学と行動神経科学に関する基礎知識を修得する。
- ・心理学における実験的研究技法についての最新の知識を得る。
- ・心理学の原著論文を講読する力を付ける。
- ・自ら問題設定を行い、それを心理学的に研究するための方法を身につける。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：行動研究の基礎（観察法）
- 第3回：行動研究の基礎（実験法）
- 第4回：行動研究の基礎（生理的研究法）
- 第5回：個体行動の基盤（反射と走性）
- 第6回：個体行動の基盤（学習と記憶）
- 第7回：個体行動の基盤（不安と恐怖）
- 第8回：社会行動の基盤（攻撃行動）
- 第9回：社会行動の基盤（性行動）
- 第10回：社会行動の基盤（養育行動）
- 第11回：行動の適応と進化
- 第12回：遺伝子と淘汰
- 第13回：協力と競争
- 第14回：性差と発達
- 第15回：まとめ

* 授業はすべて対面型で行う予定であるが、授業形式等の変更があった場合はmanaba等にて周知する。また、各授業回の内容は変更となる可能性がある。

授業外学習（予習・復習）

予習：毎回の論文訳と課題発表準備（学習に関わる標準的時間は約3時間）

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は1時間）

教科書

適宜指定する。

参考書

授業中に紹介する。

成績の評価基準

毎回の授業における課題の達成度（70%）と討論への参加（30%）により評価する。

オフィスアワ -

月曜2限・研究室（できるだけ事前にメールで連絡をください）

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「比較行動心理学演習」に読み替え。

心理学コース生（平成28年度以前入生は「人間と文化コース」生）に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CHX3412			
科目名			
神経科学演習（旧 比較行動心理学演習）			
英語名			
Neuroscience 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
菅野康太		099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>行動神経科学研究の過去から近年の動向をゼミナール形式で概説し、ディスカッションする。主たるテーマは、マウスの音声コミュニケーション、雌雄間コミュニケーション、養育行動、情動行動、社会行動。読む文献は基本的に英語。前期の内容を引き継ぎ、文献を読んでその内容を発表するジャーナルクラブと自身の研究のプログレスレポートを中心に進め、さらにより実践的な内容を議論する。</p>			
学修目標			
<p>(1) 生物学的神経科学研究の文献の探し方と読み方を理解する。 (2) 生物学的神経科学研究の実験技術を理解し、実施するための知識を準備をする。 (3) 自ら問題設定を行い、良い研究とは何かを考える。 (4) 卒業論文の構想を具現化する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス（研究の実践・研究倫理） 第2回 ジャーナルクラブ & プログレスレポート1 第3回 ジャーナルクラブ & プログレスレポート2 第4回 ジャーナルクラブ & プログレスレポート3 第5回 ジャーナルクラブ & プログレスレポート4 第6回 ジャーナルクラブ & プログレスレポート5 第7回 ジャーナルクラブ & プログレスレポート6 第8回 ジャーナルクラブ & プログレスレポート7 第9回 ジャーナルクラブ & プログレスレポート8 第10回 研究計画の見直し1 第11回 研究計画の見直し2 第12回 データ処理と実践的なプレゼンテーション1 第13回 データ処理と実践的なプレゼンテーション2 第14回 総合発表と討論1 第15回 総合発表と討論2</p>			
*2021年度は実験室での対面式授業を予定。			
授業外学習（予習・復習）			
<p>課題となる文献の読み込み、その内容説明のためのプレゼン資料作成。また、各自の卒論のテーマに応じて必要となる実験技術の習得を授業外で行う（週4時間の授業外学習に相当）。</p>			
教科書			
適宜指定する。			
参考書			
授業中に紹介する。また、講義科目「神経科学」の資料を活用。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（発表内容とそのレジュメの評価点70%、授業での発言の評価点30%）による。			
オフィスアワ -			

木曜2限（研究室）など。ただし、前もってメール等で連絡することが望ましい。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

全てアクティブラーニング

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

心理学コース所属のゼミ生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3416

科目名

産業・組織心理学演習（旧 社会心理学演習）

英語名

Industrial & Organizational Psychology 1

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 選択
科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

榎原良太

連絡先（TEL）

099-285-7518

連絡先（MAIL）

sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。

学修目標

社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。

授業計画

遠隔形式での実施を予定しているが、授業形式や内容は変更される可能性がある。変更が生じる場合、事前にmanabaにて通知する。

第1回 オリエンテーション【リアルタイム型】

第2回：日本語論文発表1：感情の基礎【リアルタイム型】

第3回：日本語論文発表2：感情と認知【リアルタイム型】

第4回：日本語論文発表3：感情と行動【リアルタイム型】

第5回：日本語論文発表4：感情と精神的健康【リアルタイム型】

第6回：日本語論文発表5：感情と進化【リアルタイム型】

第7回：日本語論文発表6：感情と文化【リアルタイム型】

第8回：日本語論文発表7：感情知性【リアルタイム型】

第9回：日本語論文発表8：感情と脳【リアルタイム型】

第10回：英語論文発表1【リアルタイム型】

第11回：英語論文発表2【リアルタイム型】

第12回：英語論文発表3【リアルタイム型】

第13回：英語論文発表4【リアルタイム型】

第14回：英語論文発表5【リアルタイム型】

第15回 まとめ【リアルタイム型】

授業外学習（予習・復習）

予習：発表の準備、事前資料へ目を通す（1時間～3時間程度）

復習：議論の中で提示された問題点について再考する（1時間程度）

教科書

なし

参考書

なし

成績の評価基準

授業への参加、発言、発表を総合的に見て評価する（100%）。

オフィスアワ -

火曜 5 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3411

科目名

コミュニティ援助論演習（旧 臨床援助論演習）

英語名

Community Psychology 1

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
平田祐太郎		099-285-7540	hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

心理学・臨床心理学をはじめとした心理学に関する研究について、各自リサーチ・クエスチョンを設定し、そのテーマに基づき研究計画を立案する。研究計画や実際の調査やデータの整理・分析、考察を行い研究としてまとめる。なお、状況に応じてオンライン型、オンデマンド型を実施する。また今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

学修目標

- ・研究計画に基づき、適切に調査の実施が出来る
- ・収集したデータについて、心理学的手法を用いて分析・考察できる
- ・論文・報告書としてまとめ、適切な方法で周囲に伝えることができる

授業計画

* 本授業形態は種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回：オリエンテーション（対面型）
- 第2回：調査実施計画の立案について（対面型）
- 第3回：文献購読（オンライン型）
- 第4回：調査実施上の方法・ならびに留意点について（対面型）
- 第5回：グループワーク（1）：リサーチクエスチョンの設定（対面型）
- 第6回：グループワーク（2）：データ収集（対面型）
- 第7回：グループワーク（3）：データ分析（対面型）
- 第8回：グループワーク（4）：結果のまとめと考察（対面型）
- 第9回：論文の構成作成（対面型）
- 第10回：結果と先行研究との対比による検討（対面型）
- 第11回：論文作成とプレゼンテーションの準備（対面型）
- 第12回：研究結果/研究計画に関するプレゼンテーション（対面型）
- 第13回：研究結果/研究計画に関するディスカッション（対面型）
- 第14回：研究結果のフィードバックの方法（対面型）
- 第15回：総括（対面型）

授業外学習（予習・復習）

- 予習：発表者が事前に適宜参考文献を熟読し、レジュメを作成すること（標準時間2時間）
- 復習：ディスカッションを受け、各自で研究計画や調査、考察の修正を行うこと（標準時間2時間）

教科書

特に指定しない

参考書

授業中に適宜紹介する

成績の評価基準

発表・提出されたレポート及び研究計画60%，日頃の卒論に対する取り組み40%

オフィスアワ -

月曜4限。ただし事前に連絡すること，連絡方法については授業中に指示する。授業直後であれば適宜質問に応じる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CHX3411			
科目名			
司法・犯罪心理学			
英語名			
Forensic and Criminal Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
田口 真二		099-285-7525 (法文学部学生係)	truth.taguchi@nifty.com
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
司法・犯罪心理学が対象とする範囲は広く、犯罪捜査、裁判、矯正、防犯、犯罪被害及び家事事件などが含まれる。本授業では、これらの領域に関わる基本的事項、犯罪理論、及び心理の支援について学修する。			
学修目標			
1. 犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的事項を説明できる。			
2. 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。			
授業計画			
本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 インTRODクシヨ			
第2回 司法・犯罪心理学の基礎知識 (含心理職)			
第3回 犯罪原因論 (個人要因)			
第4回 犯罪原因論 (学習される犯罪)			
第5回 犯罪原因論 (欲求と権威)			
第6回 環境犯罪学 (街頭犯罪と防犯)			
第7回 殺人の心理			
第8回 捜査心理学			
第9回 犯罪者プロファイリング			
第10回 性犯罪研究 (原因と対策)			
第11回 ハラスメントと犯罪			
第12回 被害者等への心理の支援			
第13回 少年非行と家事事件			
第14回 裁判心理学と矯正・保護			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
第1回 課題作成 (240分)			
第2回 課題作成 (240分)			
第3回 課題作成 (240分)			
第4回 課題作成 (240分)			
第5回 課題作成 (240分)			
第6回 課題作成 (240分)			
第7回 課題作成 (240分)			
第8回 課題作成 (240分)			
第9回 課題作成 (240分)			
第10回 課題作成 (240分)			
第11回 課題作成 (240分)			
第12回 課題作成 (240分)			

第13回 課題作成 (240分)

第14回 課題作成 (240分)

第15回 課題作成 (240分)

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

- ・松村励他編『犯罪心理学事典』丸善出版 2016
- ・田口真二他編『性犯罪の行動科学』北大路書房 2010
- ・バートル・バートル著横井・田口編訳『犯罪心理学』北大路書房 2006
- ・桐生正幸編『司法・犯罪心理学』北大路書房 2019

成績の評価基準

- ・受講態度 20%
- ・提出物 80%

オフィスアワ -

集中講義期間中の授業終了時から90分間以内の時間にメールでお願いします。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

受講制限：心理学コースに限る。

実務経験のある教員による実践的授業

熊本県警の科学捜査研究所に長年勤務した実務家教員として、司法・犯罪現場における心理学の活用事例や経験談などを例証しながら授業を進めます。また、実務で行われている犯罪者プロファイリングも疑似体験してもらいます。

ナンバリングコード

FHS-CHX3424

科目名

コミュニティ心理支援実習（心理実習）

英語名

Exercises in Psychological Support in the Community

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

実習

1単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

米田 孝一・安部 幸志・飯田 昌
子・平田 祐太郎・富原 一哉

099-285-7663（米田）

yoneda@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

心理職の仕事内容、および心理職が勤務する施設の概要について調べるとともに、現場での見学・体験実習を通じて、心理職の役割について学ぶ。具体的には心理職が働く医療現、福祉、司法、教育の領域の現場を見学して、各施設の機能や役割などについて理解を深める。これらの授業を通して、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、他職種連携および地域連携のありかたを学ぶ。

学修目標

心理職の関連する施設見学や体験、専門職者の講話を通じて、施設の特徴・専門職の役割・対象者の多様な生活の場を理解する。また事前学習において習得した各領域で求められる基本的な知識や態度等を学外実習において実践的に学び、事後学習における振り返りで自分自身の今後の課題を見いだすことも目的とする。

1. 対象者に応じた施設の特徴を挙げることができる
2. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて説明することができる
3. 多職種連携および地域連携について説明することができる
4. 対象者、他職種とのコミュニケーションを通じて、良好なコミュニケーションについて説明することができる
5. 心理職（公認心理師等）としての職業倫理及び法的義務について説明することができる

授業計画

本実習は学内実習（事前・事後指導、26時間）、学外実習（54時間）の計80時間で行う。夏季休暇期間中も含めて実施する。そのため、15週の授業計画を示すことはできない。しかし、標準的には以下の内容を含んだものとなる。具体的な日程については適宜掲示版などで指示を行う。

本授業は、毎回対面形式で行う予定であるが、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態や内容等を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

1. 事前指導？ 実習オリエンテーション
2. 事前指導？ 医療・福祉領域の職務内容と施設について
3. 事前指導？ 司法・教育領域の職務内容と施設について
4. 保健医療分野における学外実習？ 病院実習におけるガイダンス
5. 保健医療分野における学外実習？ チームアプローチ、他職種連携及び地域連携
6. 保健医療分野における学外実習？ 精神科病棟・カンファレンス
7. 保健医療分野における学外実習？ 精神疾患に関する医療
8. 保健医療分野における学外実習？ 身体疾患に関する医療
9. 保健医療分野における学外実習？ 心理検査・心理療法
10. 福祉分野における学外実習？ 児童福祉もしくは高齢者福祉の社会的役割と機能等
11. 福祉分野における学外実習？ 精神保健福祉センターの社会的役割と機能等
12. 司法・犯罪分野における学外実習 少年鑑別所の社会的役割と機能等
13. 教育分野における学外実習 鹿児島市教育支援センターの社会的役割と機能等
14. 事後指導？ 医療・福祉領域の実習振り返り

15. 事後指導? 司法・教育領域の実習振り返り

授業外学習（予習・復習）

授業で提示された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）

授業で提示された学習内容を復習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）

教科書

本授業では特に指定せず，必要に応じて参考書を用いる

参考書

河合隼雄『カウンセリングの実際問題』誠信書房 1970年（2015年重版）

成績の評価基準

学修目標について，学内実習及び学外実習への取り組みや，担当教員から課されたレポート等を含めて総合的に評価する。なお，実習の無断欠席や遅刻等，レポート未提出等があった場合は単位修得できない場合がある。

オフィスアワ -

水曜日 4 限

（現場実習時は適宜メールで相談してください）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

実習

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全て

備考（受講要件）

1. 心理学コース所属の学生に限る。
2. 実習にかかる費用は実費負担となる。
3. 学外の施設に行くため学生保険へ加入することが望ましい。
4. 学外実習は大学の休暇期間中も実施する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3415

科目名

消費者心理学演習（旧 社会心理学演習）

英語名

Consumer Psychology 1

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

山崎真理子

099-285-7631

yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

< 4年生 >

卒業研究活動が中心。

計画を詰める作業のため、ゼミでの意見交換を通じて改善策を探る。

< 3年生 >

卒業研究前の準備活動。まずは文献研究を中心に。

先輩たちの活動の裏側を観察する過程で、心理学研究の一連の流れを理解する。

同時に、「消費者の心理学」を主テーマとして模擬研究にも取り組む。

学修目標

1. データを扱う心理学研究の遂行に必要な基礎を理解し、ゼミの諸課題に反映できる。
2. 専門書や論文に繰り返し触れることで、専門性の高い文献を読み解くことができる。
3. 地域の現状など現場の課題にも目を向け、専門的な観点から眺めることができる。

授業計画

本講義は毎回、対面形式で行う予定。

ただし講義形式は、状況により変更する可能性がある。

今後の情報は、基本的にmanaba上で更新。コースニュースやコンテンツ欄を確認。

注： = 科目担当者回、 受講者担当回

- 第1回：自己紹介、オリエンテーション（発表日の調整など）
- 第2回：今後の活動に向けて意見交換会（専門書、論文などを互いに紹介）
- 第3回：卒論進捗報告（1）（4年生×2名）
- 第4回：卒論進捗報告（2）（4年生×2名）
- 第5回：卒論進捗報告（3）（4年生×1名）
- 第6回：追試（1）論文探し
- 第7回：追試（2）論文読解
- 第8回：追試（3）計画検討
- 第9回：追試（4）実験準備
- 第10回：追試（5）データ収集
- 第11回：追試（6）データ分析
- 第12回：研究倫理について
- 第13回：追試（7）成果報告（3年生×5名）
- 第14回：予備調査（1）（4年生×3名）
- 第15回：予備調査（2）（4年生×2名）

上記のスケジュールをベースに、第1回目で相談のうえ日程等を調整。

授業外学習（予習・復習）

プレゼンやディスカッションには、一人ひとりが積極的に参加する姿勢で臨むこと。
 そのために必要な情報収集を各自で行い、ゼミに出席して下さい。
 予習（約2時間）...文献研究に加えて、適宜「研究法」「統計学」などの復習も。
 復習（約2時間）...ゼミ活動を踏まえて、自分自身の研究計画の見直しを中心に。

教科書

本講義では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

山田一成・池内裕美（編著）「消費者心理学」（勁草書房）2018

成績の評価基準

授業中課題100%（期末試験0%）

講義中のプレゼン、ディスカッション、提出物などを評価対象とする。

オフィスアワ -

水曜2限。
 メールやmanaba上での連絡も可能です。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回

備考（受講要件）

コース内ゼミ生に限るが、その他は特になし。
 ただし担当者の以下の科目を受講していた/する方が、受講者間の議論はスムーズに。
 「消費者心理学」
 「説得・交渉心理学」
 「産業心理支援実習」

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3415

科目名

消費者心理学演習（旧 社会心理学演習）

英語名

Consumer Psychology 1

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

山崎真理子

099-285-7631

yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

< 4年生 >

卒業研究活動が中心。

執筆作業の完了を目指して、ゼミでの意見交換を通じて推敲する。

< 3年生 >

卒業研究の計画案のたたき台を作成する活動が中心。

前期の文献研究を踏まえて、研究計画案を具体的に検討する。

学修目標

1. データを扱う心理学研究に実践的に取り組み、その成果をゼミの諸課題に反映できる。
2. 専門性の高い文献を踏まえて、自分自身の研究計画の改善に繋げることができる。
3. 地域の現状など現場の課題にも目を向け、専門的な観点から眺めることができる。

授業計画

本講義は毎回、対面形式で行う予定。

ただし講義形式は、状況により変更する可能性がある。

今後の情報は、基本的にmanaba上で更新。コースニュースやコンテンツ欄を確認。

注： = 科目担当者、 = 受講生

第1回：オリエンテーション（発表日の調整など）

第2回：卒論結果報告（1）（4年生×3名）

第3回：卒論結果報告（2）（4年生×2名）

第4回：研究論文の執筆規定

第5回：卒論計画案（1）（3年生×2名）

第6回：卒論計画案（2）（3年生×2名）

第7回：卒論計画案（3）（3年生×1名）

第8回：卒論アウトライン（1）（4年生×2名）

第9回：卒論アウトライン（2）（4年生×2名）

第10回：卒論アウトライン（3）（4年生×1名）

第11回：その後の修正案（3年生計5名）

第12回：卒論発表会練習（4年生計5名）

第13回：企業との産学連携（1）活動例

第14回：企業との産学連携（2）今後の検討

第15回：今後の活動について

授業外学習（予習・復習）

プレゼンやディスカッションには、一人ひとりが積極的に参加する姿勢で臨むこと。

そのために必要な情報収集を各自で行い、ゼミに出席して下さい。

予習（約2時間）...卒論計画の改善に向けて、総合学習。

復習（約2時間）...ゼミ活動を踏まえて、卒論計画の見直しを中心に。
教科書
本講義では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。
参考書
山田一成・池内裕美（編著）「消費者心理学」（勁草書房）2018
成績の評価基準
授業中課題100%（期末試験0%）
講義中のプレゼン、ディスカッション、提出物などを評価対象とする。
オフィスアワ -
水曜2限。 メールやmanaba上での連絡も可能です。
アクティブ・ラーニング
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
全15回
備考（受講要件）
コース内ゼミ生に限るが、その他は特になし。 ただし担当者の以下の科目を受講していた/する方が、受講者間の議論はスムーズに。 「消費者心理学」 「説得・交渉心理学」 「産業心理支援実習」
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3414

科目名

生涯発達心理学演習（旧 臨床心理学演習）

英語名

Life Span Developmental Psychology 1

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

安部幸志

099-285-7525

kojiabe@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

生涯発達心理学に関する卒業論文作成に必要なスキルを身に付けることを目標とし、関連する文献を調べ、報告していく形で授業を進行する。また、研究を理解するために必要な統計スキル等については、実際のデータを収集・分析する等、一連の研究に参加することで、実践的に身に付けることを目指す。

学修目標

1. 生涯発達心理学分野における最新の研究について理解する
2. 卒業論文作成に必要な研究計画を作成することができる
3. 実際の調査研究に参加することで、高齢者やその家族の諸問題を体験・体感する

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。

なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 オリエンテーション（対面形式）
- 第2回 卒業論文における調査計画と予備調査計画（対面形式）
- 第3回 先行研究結果の発表（対面形式）
- 第4回 先行研究結果の発表（対面形式）
- 第5回 具体的な調査実施の手続きについて（対面形式）
- 第6回 調査準備（対面形式）
- 第7回 データ入力と予備分析（対面形式）
- 第8回 データ分析手法の紹介（対面形式）
- 第9回 個別の分析結果の解釈について（対面形式）
- 第10回 先行研究の紹介と研究論文の解釈について（対面形式）
- 第11回 多変量解析結果に基づく資料作成（対面形式）
- 第12回 卒業論文における調査打ち合わせ（対面形式）
- 第13回 卒業論文における調査内容の確認（対面形式）
- 第14回 卒業論文の構想発表（対面形式）
- 第15回 まとめ（対面形式）

この授業計画は状況によって回数や内容が変更する可能性がある。

授業外学習（予習・復習）

- 第1回 調査計画立案（4時間）
- 第2回 調査計画の作成（4時間）
- 第3回 発表準備（4時間）
- 第4回 発表準備（4時間）
- 第5回 調査方法に関する復習（4時間）
- 第6回 調査準備（4時間）
- 第8回 データ分析（4時間）

第9回 データ分析（4時間）

第10回 発表準備（4時間）

第11回 発表準備（4時間）

第12回 発表準備（4時間）

第13回 卒論調査の準備（4時間）

第14回 発表準備（4時間）

第15回 課題作成（4時間）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

参考書

松井 豊（2010）「改訂新版 心理学論文の書き方-卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社

成績の評価基準

授業における発表：40%

卒業論文における調査計画：60%

オフィスアワ -

月、木の昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

実験や調査

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全て

備考（受講要件）

ゼミ配属生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3414

科目名

生涯発達心理学演習（旧 臨床心理学演習）

英語名

Life Span Developmental Psychology 1

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
安部幸志		099-285-7525	kojiabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

生涯発達心理学に関する卒業論文作成に必要なスキルを身に付けることを目標とし、関連する文献を調べ、報告していく形で授業を進行する。また、研究を理解するために必要な統計スキル等については、実際のデータを収集・分析する等、一連の研究に参加することで、実践的に身に付けることを目指す。

学修目標

1. 生涯発達心理学分野における最新の研究について理解する
2. 卒業論文作成に必要な研究計画を作成することができる
3. 実際の調査研究に参加することで、高齢者やその家族の諸問題を体験・体感する

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。

なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 オリエンテーション（対面形式）
- 第2回 研究論文の検索手法について（対面形式）
- 第3回 研究論文における統計手法について（対面形式）
- 第4回 老年期の諸問題に関する論文紹介（対面形式）
- 第5回 老年期の諸問題に関するレビュー作成（対面形式）
- 第6回 日本における介護者の問題に関する論文紹介（対面形式）
- 第7回 欧米における介護者の問題に関する論文紹介（対面形式）
- 第8回 実際の調査データの分析（対面形式）
- 第9回 実際の調査研究のふり返り（対面形式）
- 第10回 実際のデータから見てきた現状と課題報告（対面形式）
- 第11回 調査研究データの分析と傾向（対面形式）
- 第12回 調査研究データに対する多変量解析結果（対面形式）
- 第13回 研究における考察とまとめの記述方法（対面形式）
- 第14回 次期調査計画の立案（対面形式）
- 第15回 まとめ（対面形式）

今後の状況次第で授業回数、授業形態、内容は変更となる可能性がある。

授業外学習（予習・復習）

- 第1回 課題作成（4時間）
- 第2回 課題作成（4時間）
- 第3回 課題作成（4時間）
- 第4回 課題作成（4時間）
- 第5回 課題作成（4時間）
- 第6回 課題作成（4時間）
- 第7回 課題作成（4時間）

第8回 課題作成（4時間）
 第9回 課題作成（4時間）
 第10回 課題作成（4時間）
 第11回 課題作成（4時間）
 第12回 課題作成（4時間）
 第13回 課題作成（4時間）
 第14回 課題作成（4時間）
 第15回 課題作成（4時間）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

参考書

浦上昌則・脇田貴文（2008）「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」東京図書

成績の評価基準

提出された課題：40%
 ディスカッションへの参加：20%
 研究計画：40%

オフィスアワ -

月、金の昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

実験や調査

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全て

備考（受講要件）

ゼミ配属生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CHX3413			
科目名			
心理査定学演習（旧 心理療法演習）			
英語名			
Psychological Assessment 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
米田孝一		研究室099-285-7663	yonedai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
前期の同演習授業を基に各自の卒業研究を進めていく。			
学修目標			
1．心身医学、認知神経科学の領域の英語論文が読める。 2．研究テーマに必要な心理検査・心理療法が実施できる。 3．自分が取得したデータを分析するための統計解析ができる。 4．統計結果を解釈できる。			
授業計画			
本授業は対面形式で行う予定であるが、種々の状況によりオンライン方式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回	論文報告 / データミーティング 1		
第2回	論文報告 / データミーティング 2		
第3回	論文報告 / データミーティング 3		
第4回	論文報告 / データミーティング 4		
第5回	論文報告 / データミーティング 5		
第6回	論文報告 / データミーティング 6		
第7回	論文報告 / データミーティング 7		
第8回	論文報告 / データミーティング 8		
第9回	論文報告 / データミーティング 9		
第10回	論文報告 / データミーティング 10		
第11回	論文報告 / データミーティング 11		
第12回	論文報告 / データミーティング 12		
第13回	論文報告 / データミーティング 13		
第14回	論文報告 / データミーティング 14		
第15回	研究報告プレゼンテーション		
授業外学習（予習・復習）			
予習：論文を読み、まとめ、発表資料を作成する（目安2時間）			
復習：演習で指摘されたことについて調べる（目安2時間）			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて論文を用いる。			
成績の評価基準			
出席（30%）、各回の報告発表・レポート（70%）			
オフィスアワー			
月曜日 4限（事前にメールでご相談ください）			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3406

科目名

精神医学（精神疾患とその治療）

英語名

Psychiatry

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 選択
科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

中村雅之・佐々木なつき 他

連絡先（TEL）

099-285-7525(法文学部学生係)

連絡先（MAIL）

hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp
(法文学部学生係)

共同担当教員

鹿児島大学医歯学総合研究科精神機能学分野教員及び
鹿児島大学病院メンタルケアセンター教員

前後期

前期

授業概要

本講では精神医学において、代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法を学ぶとともに、本人や家族への支援を含む精神障害への対応を論考する。治療法においては、向精神薬をはじめとする薬剤による症状や心身の変化についても学ぶ。また、医療機関としての役割や連携についても理解を深める。

学修目標

代表的な精神疾患について成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援の観点から説明できる。向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できる。どのような場合に医療機関への紹介が必要か説明できる。

授業計画

本授業は、毎回「課題提出型」もしくは「オンデマンド形式」で行う予定である。

なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 精神医学総論(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第2回 症候学(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第3回 統合失調症(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第4回 気分障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第5回 神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第6回 症状性および器質性精神障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第7回 認知症(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第8回 精神作用物質使用による精神および行動障害とてんかん(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第9回 パーソナリティ障害および行動の障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第10回 心身症および摂食障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第11回 知的障害および心理発達の障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第12回 睡眠医学(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第13回 コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和ケアおよび多職種連携(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第14回 精神保健福祉法(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第15回 精神薬理(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第16回 期末試験(対面式)

授業外学習(予習・復習)

予習: manaba に掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約 2 時間)

復習: 授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(学習に関わる標準的時間は 2 時間)

いずれも授業資料・参考書のみならず、適宜文献を検索し、知識を深めていく。

教科書

毎回資料を配布するため、本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

現代臨床精神医学 改訂第12版（大熊輝雄著、金原出版）2013年

成績の評価基準

期末試験（100％）、ただし3分の2以上の出席がないと受験資格がない。

manaba上の課題の提出をもって出席確認とする。

なお、期末試験が実施できない状況となった場合、期末レポートに変更する可能性がある。

変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

オフィスアワ -

非常勤講師による授業であるので、授業時間外の対応はしない

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

人間と文化コース及び心理学コースの学生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CHX3413			
科目名			
心理査定学演習（旧 心理療法演習）			
英語名			
Psychological Assessment 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
米田孝一		099-285-7663	yoneda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
心身医学、認知神経科学の領域における知見、検査・心理療法・研究手技を習得しながら、各自の卒業研究の土台を築く。			
学修目標			
1. 心身医学の基礎知識の習得 2. 医学一般の基礎知識の習得 3. 論文読解力の養成 4. 研究手法（臨床研究・実験研究）の習得 5. 臨床技法（心理検査・心理療法）の習得 6. 論文作成力の養成			
授業計画			
本授業は毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回	オリエンテーション / ゼミ員の関心領域発表		
第2回	テキスト輪読 / 研究論文の探し方		
第3回	テキスト輪読 / 研究テーマ探索 1		
第4回	テキスト輪読 / 研究テーマ探索 2		
第5回	テキスト輪読 / 研究テーマ発表		
第6回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 1		
第7回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 2		
第8回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 3		
第9回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 4		
第10回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 1		
第11回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 2		
第12回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 3		
第13回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 4		
第14回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 5		
第15回	研究報告（中間発表）		
授業外学習（予習・復習）			
予習：論文を読み、まとめ、発表資料を作成する（目安2時間）			
復習：演習で指摘されたことについて調べる（目安2時間）			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて論文を用いる。			
成績の評価基準			
出席（30%）、報告発表・レポート（70%）			
オフィスアワ -			

月曜日 4限

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3410

科目名

臨床援助論（心理学的支援法）

英語名

Theories of Psychological Support

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 選択
科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

高橋佳代

連絡先（TEL）

099-285-7584(高橋：研究室)

連絡先（MAIL）

takahashi@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

清重 英矩

前後期

前期

授業概要

本授業の目的は、心理療法の基礎を理解することである。代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学んだ上で、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学習する。

なお、本授業は毎回オンデマンド形式で行う予定であるが、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

学修目標

心理療法ならびにカウンセリングの基本的知識を身につける

心理療法の活用現場について知る

心理療法の主な技法や留意点について理解する

授業計画

- 第1回 心理臨床の基礎 プライバシーへの配慮 高橋
 第2回 臨床心理学のなりたちと展開 カウンセリングの歴史 高橋
 第3回 訪問による支援や地域支援の意義 高橋
 第4回 代表的な心理療法（1）力動論に基づく理解 高橋
 第5回 代表的な心理療法（2）行動論・認知論に基づく理解 高橋
 第6回 代表的な心理療法（3）その他の心理療法 高橋
 第7回 代表的な心理療法（4）その他の心理療法 高橋
 第8回 心理療法の諸概念（1） 清重
 第9回 心理療法の諸概念（2） 清重
 第10回 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援 清重
 第11回 心理臨床の対象と領域 清重
 第12回 心理療法の適応と限界 清重
 第13回 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法 清重
 第14回 心の健康教育 清重
 第15回 授業の振り返りとまとめのレポート 清重

授業方法や授業内容については変更する可能性があります。受講生の皆さんにはmanabaを通じて周知しますのでよく見ておいてください。

授業外学習（予習・復習）

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う

予習・復習にかかる標準時間はそれぞれ2時間である

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

参考書

授業内で教員から指示をする

成績の評価基準

提出された課題50%，各教員が指示する期末レポート50%で評価する。
変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

オフィスアワ -

月曜日 3 時間目

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員は、医療・福祉・教育分野等での心理臨床実務経験を持っている

障害児心理学（障害者・障害児心理学）（旧 臨床心理学）
ナンバリングコード

FHS-CHX3403

科目名

障害児心理学（障害者・障害児心理学）（旧 臨床心理学）

英語名

Clinical Psychology of Handicapped Children

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 選択
科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

今村智佳子

連絡先（TEL）

099-285-3287

連絡先（MAIL）

learning-support@gm.kagoshima-u.
ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

この講義では、障害について「人間社会における多様性の1つ」とする視点から理解を深めることを目的とします。人の発達の過程において、障害特性がどのように影響するか、環境によってどのように顕在化するか等について理解を深めます。それぞれの障害の概要や特性理解に基づき心理社会的課題及び必要な支援について理解を深め、多様な社会の一員としてまた、支援者としての基礎的知識を養います。

学修目標

1. 種々の身体障害、知的障害及び精神障害の概要について理解し、説明することができる
2. 障害者・障害児の心理社会的課題及び支援について理解し、説明することができる

授業計画

* 基本的にオンデマンドで実施する。学習内容の定着をはかる目的として、振り返りのためのオンライン講義を数回設ける予定としている。スケジュールについてはmanabaにてお知らせする。

- 第1回 障害の概念
- 第2回 発達の視点について
- 第3回 乳幼児期における障害について
- 第4回 視覚障害について
- 第5回 聴覚障害について
- 第6回 肢体不自由について
- 第7回 病弱・虚弱について
- 第8回 発達障害について
- 第9回 注意欠陥多動性障害について
- 第10回 学習障害について
- 第11回 自閉症スペクトラム障害について
- 第12回 精神障害について（課題提出型）
- 第13回 障害者・障害児の支援のあり方について
- 第14回 障害の受け止め及び家族支援について
- 第15回 社会と障害について

授業外学習（予習・復習）

予習：manabaに掲載された資料、もしくは事前に提示された文献を事前に予習する（60分）

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、理解や疑問点を整理する（90分）

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

参考書

滝川一廣・子どものための精神医学・医学書院・2017

成績の評価基準

授業への取り組み態度（20%）、ミニッツペーパー（20%）

中間・期末レポート（60%）

障害児心理学（障害者・障害児心理学）（旧 臨床心理学）
オフィスアワ -

水曜日14時半～17時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問に対する思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CHX3408			
科目名			
パーソナリティ論 (感情・人格心理学)			
英語名			
Theories of Personality			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
清重英矩		法文学部学生係 099-285-7525	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
心理学における感情および人格に関して概説を行う。感情に関する諸理論, 喚起の機序や行動への影響, およびパーソナリティの概念および形成過程, その類型や特性などの基本的知識について学習する。また, 人間の心の在り方を感情および人格の観点からより深く理解し, その多様性・多面性・個別性・独自性を尊重するための基本的態度について学ぶ。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・心理学における感情に関する理論や仕組みについて説明できる ・感情が行動に及ぼす影響を理解する ・人格に関する心理学理論や測定法, 形成過程について説明できる ・人格の類型や特性について理解する 			
授業計画			
第1回 感情の諸理論, 感情喚起の機序			
第2回 感情が行動に及ぼす影響(1): 感情の表出			
第3回 感情のコミュニケーションと共感			
第4回 感情が行動に及ぼす影響(2): 感情と適応			
第5回 感情の障害			
第6回 パーソナリティの概念			
第7回 パーソナリティ理論: 類型と特性			
第8回 パーソナリティ形成(1): 遺伝と環境			
第9回 パーソナリティ形成(2): 愛着			
第10回 ライフサイクルとパーソナリティ(1): 乳幼児期から思春期			
第11回 ライフサイクルとパーソナリティ(2): 青年期から老年期			
第12回 パーソナリティと精神病理: 心の構造と病理			
第13回 パーソナリティの理解(1): 質問紙法			
第14回 パーソナリティの理解(2): 投映法			
第15回 授業全体のまとめ			
<p>全ての授業は原則オンデマンド型で行う 授業内容や順番等については進捗状況や受講生の理解に応じて変更する場合がある</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: 授業前にmanaba掲載の資料等を一読し, 疑問点等を整理しておく (2時間程度)			
復習: 授業後は資料等を丁寧に読み返すとともに理解しきれなかった点について自ら調べたり議論したりするなど主体的に学習する (2時間程度)			
教科書			
本授業では特に指定せず, 必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
<ul style="list-style-type: none"> ・杉浦義典(編), 2020, 「感情・人格心理学」, 遠見書房 ・鈴木直人(編), 2007, 「感情心理学」, 朝倉書店 			

・中間玲子(編著), 2020, 「感情・人格心理学『その人らしさ』をかたちづくるもの」, ミネルヴァ書房

成績の評価基準

期末試験は行わず, 指定期日までにレポートの提出を求める
 毎回出される課題レポート(40%)と期末レポート(60%)を総合して評価する。

オフィスアワ -

金曜13:00 ~ 14:30

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

パーソナリティの測定に関する体験学習

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員は, 医療・福祉分野等における心理臨床活動の実務経験を有する

ナンバリングコード

FHS-CHX3419

科目名

認知心理学演習

英語名

Cognitive Psychology 1

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
横山春彦		099-285-7535	yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

授業は全15回、オンライン形式で行う。4年生については前期認知心理学演習での成果に基づいて、卒業論文に関するデータの収集と分析を行い、また本論及び要約の執筆、発表の準備等について個人ごとに行う。3年生については自身の興味ある研究を探索、その内容を文書にまとめるなど、先行研究に関する情報収集を個人ごとに進める。

学修目標

4年生については卒業論文の完成に必要な以下3つの作業が学修目標である。

1. 実験・調査の実施
2. 得られたデータの分析
3. 本論及びレジュメの作成と発表の準備

3年生については次年度に取り組むべき卒業研究の実験デザインを完成させることが学修目標である。

授業計画

オンラインによって4年生3年生ともに以下のスケジュールで行う。ただし、授業形態について変更する場合がありますこと、またその際の対応についてはmanaba上で通知します。

- 第1回 4年生(問題と目的、方法、結果の処理に関する検討)、3年生(先行研究の発表計画)
- 第2回 4年生(実験・調査の実施計画)、3年生(担当者別先行研究の紹介1)
- 第3回 4年生(実験・調査実施計画の再検討)、3年生(担当者別先行研究の紹介2)
- 第4回 4年生(実験・調査の実施、3年生(担当者別先行研究の紹介3)
- 第5回 4年生(実験・調査の実施(継続)、3年生(担当者別先行研究の紹介4)
- 第6回 4年生(実験・調査実施計画の再検討、3年生(担当者別先行研究の紹介5)
- 第7回 4年4年生(実験・調査実施計画の再検討、3年生(担当者別先行研究の紹介6)
- 第8回 4年生(実験・調査の再実施)、3年生(担当者別先行研究の紹介7)
- 第9回 4年4年生(実験・調査実施計画の再検討、3年生(担当者別先行研究の紹介8)
- 第10回 4年生(実験・調査データの分析、3年生(担当者別先行研究の紹介9)
- 第11回 4年生(実験・調査データの分性(継続)、3年生(担当者別先行研究の紹介10)
- 第12回 4年生(実験・調査結果のまとめ、3年生(担当者別先行研究の紹介11)
- 第13回 4年生(本論・レジュメの検討)、3年生(担当者別先行研究の紹介12)
- 第14回 4年生(本論・レジュメの再検討)、3年生(担当者別先行研究の紹介13)
- 第15回 4年生(卒論発表のリハーサル)、3年生(担当者別先行研究の紹介14)
- 第16回 期末試験(期日までにレポートを作成し提出する形式で行う)

授業外学習(予習・復習)

本授業は2単位の授業科目であるため、単位制度に則り、1回につき4時間の予習・復習が必要となります。すなわち、シラバスに示した学修内容を踏まえた予習に加え(2時間程度)、授業終了後には授業時に出された発問への回答を含め、学修内容に対する復習(2時間程度)を要します。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

高野陽太郎・岡隆編 心理学研究法 有斐閣 2017年

成績の評価基準

個人ごと課題に対する進捗状況（60%）及び、授業に臨む態度・意欲（40%）により評価する。

オフィスアワ -

manabaを用いて随時受けつける

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

個人ごとの課題につき様々な角度から発問を行い、各自で考え、検討してもらう。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回中15回

備考（受講要件）

鹿児島大学法文学部人文学科心理学コース所属する学部生のうち横山ゼミに所属する学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

本授業は、大学での学びにとってその集大成ともなる卒業研究の立案・実施につき、実践的に学習する心理学コースの専門授業となります。

ナンバリングコード

FHS-CHX3402

科目名

教育心理学概説（旧 心理学特講）

英語名

Introduction to Educational Psychology

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

下木戸 隆司

hgkusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp（
法文学部学生係）

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

教育活動を円滑に進めていくためには、児童生徒の行動と心理を理解しておくことが必要不可欠である。本講義では、教授・学習法、動機づけ、教育評価、学級集団、発達、学習等の内容を取りあげる。それらに関する基礎的知識の習得と諸理論の理解、および自分自身の教師観・教育観の確立を目的とする。

学修目標

1. 効果的な学習の仕組みを理解し、児童生徒の特性や状態を適切に評価した上で、それに応じて指導方法を選択できる。
2. 学級内での人間関係、教師の影響力、集団力学を理解することで学級運営についての自らの考えや見解を深めることができる。
3. 人間の発達の特性を理解し、生涯発達の観点から、個々の児童・生徒に応じた関わり方や指導法について着想できる。
4. グループワークを通じて、仲間と協力しながら課題を成し遂げていくことができる。
5. 学校教育で問題になっている諸事項について、教師として自分がどうすべきか・どうしたいのかについて意見をまとめ、表明できる。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション1 教育心理学の意味 グループ編成
 第2回：オリエンテーション2 授業の進め方 教育心理学の必要性
 第3回：学習の原理 古典的条件づけ オペラント条件づけ 観察学習
 第4回：教授・学習法1 効果的な学習法・学習指導の形態
 第5回：教授・学習法2 様々な学習法
 第6回：動機づけ 動機づけのしくみ
 第7回：教育評価1 教育評価の目的・方法・評価に影響する要因
 第8回：教育評価2 学力・知能の測定評価
 第9回：教育評価3 性格の測定評価
 第10回：学級集団1 学級集団の特徴と機能 教師生徒関係
 第11回：学級集団2 教師の成長と影響力 友人関係
 第12回：発達1 発達の特徴 遺伝と環境
 第13回：発達2 認知発達 社会性の発達
 第14回：発達3 発達障がい（神経発達症群）
 第15回：効率のよい学習、よい授業とは何かを考える

授業外学習（予習・復習）

グループレポート作成のために、各自が課題テーマについて考えたり、メンバー同士で議論したりして意見をまとめる必要がある。

教科書

教科書はとくに指定しない。

参考書

参考書についてはオリエンテーション時に配布する。

成績の評価基準

全12回あるグループレポートの内容と授業への参加状況から成績を評価する。出席は成績評価には加味しないが、無断欠席が4回以上になった場合は不合格とする。授業開始から10分を超えて出席した場合には遅刻として、さらに30分を超えた場合には欠席として扱う。遅刻・早退は0.5回分の欠席と見なす。

オフィスアワ -

金曜 5 限（前期）・金曜 4 限（後期）
メールでの質問は随時

アクティブ・ラーニング

グループワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

12回

備考（受講要件）

教育学部での講義となり、グループワークの関係上、受講者数を10名までに制限します。またこの講義を履修しても、教職課程の免許科目単位にはなりません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CHX3407			
科目名			
医療関連法（関係行政論）			
英語名			
Legal and Administrative Systems			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
上原大祐・伊藤周平		099-285-7626(上原)	
共同担当教員		連絡先（MAIL）	
なし		embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp(上原)	
		前後期	
		後期	
授業概要			
公認心理士として社会で活動する上で必要となる法、制度、そしてその基盤となる考え方について学ぶ。			
学修目標			
公認心理士が活動する上で出会う法制度を把握し、社会における公認心理士の役割について認識する。			
授業計画			
授業の実施形態については、原則遠隔で行う予定である。			
第1回 法・制度の基本と公認心理士			
第2回 公認心理士の法的立場と多職種連携			
第3回 公認心理士の各分野への展開			
第4回 教育分野に関係する法律・制度			
第5回 司法・犯罪分野に関係する法律・制度（1）刑事			
第6回 司法・犯罪分野に関係する法律・制度（2）家事			
第7回 司法・犯罪分野に関係する法律・制度（3）少年非行			
第8回 保健医療分野に関係する法律・制度（1）医療全般			
第9回 保健医療分野に関係する法律・制度（2）精神科医療			
第10回 保健医療分野に関係する法律・制度（3）地域保健・医療			
第11回 福祉分野に関係する法律・制度（1）児童福祉			
第12回 福祉分野に関係する法律・制度（2）障害者・障害児福祉			
第13回 福祉分野に関係する法律・制度（3）高齢者福祉			
第14回 産業・労働分野に関する法律・制度			
第15回 まとめ			
第16回 試験			
授業外学習（予習・復習）			
予習：教科書の該当箇所を事前に予習する（約2時間）			
復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（約2時間）			
教科書			
元永拓郎編『関係行政論 第二版』（2020・遠見書房）			
参考書			
特に指定しない			
成績の評価基準			
期末試験（期末レポートの形で行う可能性あり）100%			
オフィスアワー			
月曜12:00～12:50（上原）			
アクティブ・ラーニング			
その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

教員の質問等を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特に無し

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-CHX3421			
科目名			
社会心理学演習			
英語名			
Social Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園博記		099-285-7538	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。			
学修目標			
社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。お、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 オリエンテーション			
第2回：日本語論文発表1：社会的認知			
第3回：日本語論文発表2：潜在的過程			
第4回：日本語論文発表3：帰属理論			
第5回：日本語論文発表4：自己正当化			
第6回：日本語論文発表5：協力関係			
第7回：日本語論文発表6：集団感葛藤			
第8回：日本語論文発表7：進化と適応			
第9回：日本語論文発表8：文化			
第10回：英語論文発表1：Social Cognition			
第11回：英語論文発表2：Cooperation			
第12回：英語論文発表3：Group			
第13回：英語論文発表4：Evolutionary Psychology			
第14回：英語論文発表5：Cultural Psychology			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：発表の準備 (学習に関わる標準的時間は約2時間)			
複数：議論の中で提示された問題点について再考 (標準的時間は約2時間)			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
社会心理学 (池田謙一ほか 有斐閣)			
複雑さに挑む社会心理学 (亀田達也・村田光二著 有斐閣)			
社会心理学キーワード (山岸俊男編 有斐閣)			
その他、適宜紹介する。			
成績の評価基準			

発表と討論への取り組み態度（発表内容への評価点70%，討論における発言の評価点30%）による。

オフィスアワ -

水曜2限

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CHX3420			
科目名			
臨床心理学演習			
英語名			
Clinical Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
飯田昌子		099-285-8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本授業の目的は、臨床心理学領域で扱うデータの収集と解析方法を学び、それに基づいた研究レポートの作成方法を学ぶことである。</p> <p>授業内容は、臨床心理学に関する国内外の論文の講読し、グループディスカッションを通して研究テーマを設定し、システムティックレビューの方法を用いて文献研究を行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 臨床心理学における論理の構築及び研究法を理解する 研究テーマに沿った研究方法、データ収集及び解析方法を理解する 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：調査デザイン（1）：調査テーマ、目的、タイトルの決定 第3回：調査デザイン（2）：仮説、スケジュール、予算の決定 第4回：調査デザイン（3）：調査対象者、データ収集法 第5回：調査デザイン（4）：データの編集・集計・分析デザインの検討 第6回：研究レポートの構想発表会（1）：テーマ、仮説、デザインについて 第7回：質問紙の構成と体裁 第8回：質問紙の書式やレイアウト 第9回：研究レポートの構想発表会（2）：自作質問紙の体裁について 第10回：回答法について 第11回：質問作成について（1）：ワーディング 第12回：質問作成について（2）：回答バイアスについて 第13回：研究レポートの構想発表（3）：質問項目について 第14回：研究レポートの構想発表（4）：倫理的ガイドラインについて 第15回：総括</p> <p>期末試験は行わず、指定期日までにレポート等の提出を求める。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：研究テーマに沿った先行研究を講読しておくこと（学習に関わる標準的時間は約2時間） 復習：授業で指摘された事項をもとに、再度先行研究を検索し、研究テーマを構築すること（学習に関わる標準的時間は約2時間）</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
鈴木 淳子『質問紙デザインの技法 第2版』ナカニシヤ出版 2016年			
成績の評価基準			

臨床心理学に基づいて説明できる技術を習得したか等の観点から，平常の学習状況（10％），発表資料（20％），プレゼンテーション力（30％）。レポート（40％）により，総合的に評価する。

オフィスアワ -

月曜4限。ただし事前に連絡すること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

13回

備考（受講要件）

心理学コースの学生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3409

科目名

学習心理学（学習・言語心理学）

英語名

Psychology of Learning

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

横山春彦

099-285-7535

yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

本講義は、心理学の研究対象であるヒト・動物の行動そのものを、その成立メカニズムやその障害などの面から実践的に学習する心理学コースの専門授業となります。私たちヒトや動物は、様々な経験を通じてその行動を変化させるしくみ、すなわち学習を有していますが、そえによって複雑な環境への適応を高めることができ、かつ新たな可能性を見出すことにもつながります。その重要な機能について、どのようなトピックがあり、また興味や謎があるのかについて、講義を行います。なお、補足として、私たちヒトや動物を取り囲む身近な環境についても観察記録をまじえつつ話題を提供する。

学修目標

学習目標は以下の通りとする。

1. ヒト・動物の行動に関する現象やしくみ、あるいはその障害等について理解を深める。
2. ヒトの場合、特に言語習得等のトピックについても理解を深める。
3. ヒトや動物の行動及び学習について身近な事象を例にそのトピックやしくみを説明できる。

授業計画

全15回オンデマンド型の授業となります。ただし、今後の状況次第で、授業回数や内容は変更となる可能性があります。

- 第1回 行動の分類について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第2回 古典的条件づけの基礎について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第3回 古典的条件づけの応用について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第4回 オペラント条件づけの基礎について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第5回 オペラント条件づけの応用について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第6回 目標勾配、逃避・回避、学習性無力について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第7回 学習セット、罰の機能、実験神経症について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第8回 フィードバックの効果について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第9回 学習曲線、ガイダンスの効果について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第10回 乳幼児、言語の修得などについて、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第11回 系列位置効果、消しゴムについて、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第12回 短期記憶と作業記憶について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第13回 意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第14回 学習と記憶を支えるニューロンの機能と構造について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第15回 記憶の障害について、その他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
- 第16回 期末試験（期日までにレポートを作成し提出とする形式で行う）

授業外学習（予習・復習）

本講義は2単位の講義科目であるため、単位制度に則り、1回につき4時間程度の予習・復習が必要となります。すなわち、シラバスに示した学修内容を踏まえた予習に加え（2時間程度）、授業終了後には授業時に提出さ

れた発問への回答を含め、学修内容に対する復習（2時間程度）を要します。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

藤田文 発達と老いの心理学 サイエンス社 2017
 SART主導型リラクゼーション療法 大野博之 九州大学出版会 2005
 グラフィック学習心理学行動と認知 山内光哉・春木豊 サイエンス社 2001

成績の評価基準

予習・復習の程度（20%）、毎回のミニツペーパー（20%）及び、期末レポートの成績（60%）により総合的に評価する。

オフィスアワ -

毎週月曜日16：00～17：00

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

経験によって生じるヒトや動物の行動変容について毎回発問し各自で考えてもらう

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回中15回

備考（受講要件）

カリキュラムの構成上、重複履修は認められない。ただし、学習心理学に関わる質問等についてはmanabaを通じて担当教員に随時行うこととします。

実務経験のある教員による実践的授業

ヒトや動物の行動や学習に関する知見について取り上げ、そこにどのような謎や面白さがあるか、またどのような応用が可能なのかなど、実践的に学ぶ心理学コースの専門授業となります。

ナンバリングコード			
FHS-CHX3425			
科目名			
産業心理支援実習			
英語名			
Exercises in Psychological Support in Industry			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	実習	1単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
榊原 良太・大園 博記・山崎 真理子		099-285-7519 (榊原研究室)	sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
この実習では、心理学の知識や方法論を、産業分野に応用させるための実践的な知識、技能を修得する。具体的には、地域の企業と連携し、その企業の実態や抱える課題を把握した上で、その解決方法を心理学の知識や方法を元にして提言し、企業からのフィードバックを得て、実践性を養う。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業が抱える課題に対して、心理学の知識や方法をどのように活用できるかを実践的に考えることができるようになる。 2. 課題に対する解決策を模索し、説得的・客観的な提言ができるようになる。 3. 地域の企業との関わりを通して、地域や企業の現状に触れ、進路に対するイメージを具体的に抱けるようになる。 			
授業計画			
* 原則、対面形式で行う予定であるが、状況によっては遠隔方式で行う可能性もある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回: オリエンテーション 第2回: 連携先を知る 第3回: 提案に向けて1: 討論 第4回: 提案に向けて2: 資料作成 第5回: 提案に向けて3: 発表練習 第6回: 企業への発表1: 企画提案 第7回: 企画1: 調査準備 第8回: 企画2: 調査 第9回: 企画3: 調査結果分析 第10回: 企画4: 企画開催準備 第11回: 企画5: 企画開催 第12回: 成果報告準備1: 資料作成 第13回: 成果報告準備2: 発表練習 第14回: 企業への発表2: 成果報告会 第15回: 成果報告後の振り返り、まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
企業研究、調査の分析、プレゼンの作成など、各授業の前後に予習・復習が必要となる (目安となる学習時間は、毎回合計4時間程度)。			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
適宜授業中に提示する。			
成績の評価基準			

授業への取り組み態度（100％）による
オフィスアワ -
火曜3限（榊原）。
アクティブ・ラーニング
グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回
備考（受講要件）
心理学コースの学生のみ、履修可能。 なお、書籍購入費などがかかる可能性がある。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3423

科目名

心理療法演習（心理演習）

英語名

Psychotherapy 1

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
飯田昌子・平田祐太郎・安部幸志		099 285 8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

心理などの対人援助職においては、心理に関する支援を要する者等へのコミュニケーションのもちかたや、多職種及び地域連携のとりかたが重要になる。本授業では心理支援を行う際に必要な知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。また、心理に関する支援を要する者等へのチームアプローチや連携のありかた等について学ぶ。

学修目標

1. 心理に関する支援を要する者等に関する以下の基本的な知識および技能を修得する。（1）心理に関する支援を必要とする者ならびに多職種連携に必要なコミュニケーション力を身につける，（2）代表的な心理検査の技能を身につける，（3）様々な分野における心理面接の技能を身につける，（4）多様な地域支援の実際について説明する技能を身につける。
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握し、彼らの現実生活を視野に入れた支援計画の作成ができる。
3. 多職種の業務及び地域における様々な職種と業種について理解し、効果的なチームアプローチや連携のありかた及び心理師の果たすべき役割について説明できる。
4. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務を説明できる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回オリエンテーション

第2回傾聴およびインテーク・ロールプレイ

第3回人格検査（質問紙法など）の概説および体験学習

第4回人格検査（投影法など）の概説および体験学習

第5回人格検査（描画法など）の概説および体験学習

第6回知能検査概説および体験学習

第7回支援計画の作成に関する概説

第8回児童期及び青年期の心理的問題に関する心理面接のロールプレイ

第9回児童期及び青年期の支援計画の作成

第10回成人期及び老年期の心理的問題に関する心理面接のロールプレイ

第11回成人期及び老年期の支援計画の作成

第12回チームアプローチと多職種連携の概説とロールプレイ

第13回地域支援に必要な心理教育的手法の概説およびロールプレイ

第14回公認心理師としての職業倫理および法的義務について

第15回まとめと総括

期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。

授業外学習（予習・復習）

予習：個人ワーク等のための論文講読（学習に関わる標準的時間は約2時間）

復習：体験学習等の振り返りや論文購読（学習に関わる標準的時間は約2時間）

教科書

本授業では特に指定せず，必要に応じて指示する。

参考書

田嶋誠一『心の営みとしての病むこと イメージの心理臨床』岩波書店 2011年

成績の評価基準

各回に課されるレポート80%，最終レポート20%によって評価する。

オフィスアワ -

水曜5限。但し，授業担当回の教員に事前にメールで連絡をとること

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

13回

備考（受講要件）

心理学コース（人間と文化コース）の学生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3418

科目名

比較心理学演習（旧 比較行動心理学演習）

英語名

Comparative Psychology 1

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 選択
科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

富原一哉

連絡先（TEL）

099-285-7536

連絡先（MAIL）

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

比較行動心理学に関する最近の内外の論文や概説書を講読することを通して、心理学研究に必要な知識と技能の修得を目指す。授業においては、毎週授業で取り扱う論文等（英文）を指定し、自習すべき課題を設定する。授業では、英文和訳、内容の概説、課題内容の発表、討論等を行ってもらうため、事前の十分な予習を必要とする。

学修目標

- (1) 比較心理学と行動神経科学に関する基礎知識を修得する。
- (2) 心理学における実験的研究技法についての最新の知識を得る。
- (3) 心理学の原著論文を講読する力を付ける。
- (4) 自ら問題設定を行い、それを心理学的に研究するための方法を身につける。

授業計画

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：行動の生理学的基礎（脳と神経系）
- 第3回：行動の生理学的基礎（シナプスと神経伝達物質）
- 第4回：行動の生理学的基礎（ホルモンと神経調節因子）
- 第5回：個体行動の神経内分泌的基盤（学習と記憶）
- 第6回：個体行動の神経内分泌的基盤（不安と恐怖）
- 第7回：個体行動の神経内分泌的基盤（睡眠と覚醒）
- 第8回：社会行動の神経内分泌的基盤（攻撃行動）
- 第9回：社会行動の神経内分泌的基盤（性行動）
- 第10回：社会行動の神経内分泌的基盤（養育行動）
- 第11回：適応と進化のメカニズム（社会生物学と進化心理学）
- 第12回：適応と進化のメカニズム（自然淘汰と性淘汰）
- 第13回：適応と進化のメカニズム（親的投資と繁殖戦略）
- 第14回：適応と進化のメカニズム（遺伝子と行動）
- 第15回：まとめ

* 授業はすべて対面型で行う予定であるが、授業形式等の変更があった場合はmanaba等にて周知する。また、各授業回の内容は変更となる可能性がある。

授業外学習（予習・復習）

予習：毎回の論文訳と課題発表準備（学習に関わる標準的時間は約3時間）

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は1時間）

教科書

適宜指定する。

参考書

授業中に紹介する。

成績の評価基準

毎回の授業における課題の達成度（70％）と討論への参加（30％）により評価する。

オフィスアワ -

月曜 2 限(研究室)。ただし，できるだけ事前にメールで連絡のこと。

アクティブ・ラーニング

ディベート；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「比較行動心理学演習」に読み替え。

心理学コース生（平成28年度以前入生は「人間と文化コース生」）に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-CHX3412			
科目名			
神経科学演習（旧 比較行動心理学演習）			
英語名			
Neuroscience 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
菅野康太		099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
行動神経科学研究の過去から近年の動向をゼミナール形式で概説し、ディスカッションする。主たるテーマは、マウスの音声コミュニケーション、雌雄間コミュニケーション、情動行動、社会行動。読む文献はだいたい英語。ただし、基礎知識を日本語ベースで与えるところから始める。			
学修目標			
(1) 生物学的神経科学研究の文献の探し方と読み方を理解する。 (2) 生物学的神経科学研究の実験技術を理解し、実施するための知識を準備をする。 (3) 自ら問題設定を行い、良い研究とは何かを考える。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2～4回	研究とはどのようなものか？（論文の書き方、読み方、実験の基礎知識）		
第5～7回	マウスの社会行動		
第8～10回	ヒトの疾患モデルとしての動物研究		
第11～14回	自分独自の研究をするための実験計画の進め方		
第15回	まとめ		
2021年度は実験室での対面式を予定			
授業外学習（予習・復習）			
課題となる文献の読み込み、その内容説明のためのプレゼン資料作成。また、各自の卒論のテーマに応じて必要となる実験技術の習得を授業外で行う（週4時間の授業外学習に相当）。			
教科書			
適宜指定する。			
参考書			
授業中に紹介する。また、講義科目「神経科学」の資料を活用。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（発表内容とそのレジュメの評価点70%、授業での発言の評価点30%）による。			
オフィスアワー			
木曜2限（研究室）など。ただし、前もってメール等で連絡することが望ましい。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
「人間と文化コース」もしくは「心理学コース」所属のゼミ学生に限る。			
実務経験のある教員による実践的授業			
該当なし			

ナンバリングコード

FHS-CHX3411

科目名

コミュニティ援助論演習（旧 臨床援助論演習）

英語名

Community Psychology 1

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 選択
科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

平田祐太郎

連絡先（TEL）

099-285-7540

連絡先（MAIL）

hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

心理学・臨床心理学をはじめとした心理学の国内外の論文を講読することを通して、研究動向と手法の理解を目指す。受講生が各自の関心に基づき、テーマを設定し、先行研究について調べ、グループでディスカッションを行う。ディスカッションを通して、批判的に理解・検討を行う中で、研究計画作成を目指す。なお、状況に応じてオンライン型、オンデマンド型を実施する。また今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

学修目標

- ・心理学論文等を適切に参照できる。
- ・先行研究を批判的に理解・検討できる。
- ・心理学的研究計画を作成できる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回：オリエンテーション

第2回：心理学研究法について

第3回：文献検索方法について

第4回：研究計画書の書き方について

第5回：文献講読（1）：テーマ設定について

第6回：文献講読（2）：データ収集の技法（集合調査法）

第7回：文献講読（3）：データ収集の技法（インターネット調査法）

第8回：文献講読（4）：データ収集の技法（構造化面接法）

第9回：質問紙等の調査プロセスについて

第10回：研究倫理ガイドラインの概説：倫理的配慮の必要性

第11回：インフォームド・コンセントの取り方

第12回：匿名性の保障と回答者の権利

第13回：倫理ガイドラインに関するまとめ

第14回：研究発表の方法

第15回：総括

授業外学習（予習・復習）

予習：発表者が事前に適宜参考文献を熟読し、レジュメを作成すること（標準時間120分）

復習：発表レジュメに沿って各自で参考文献等を精読すること（標準時間120分）

教科書

特に指定しない

参考書

授業中に適宜紹介する

成績の評価基準

研究計画発表など（80%）及びディスカッション（20%）

オフィスアワ -

月曜4限。ただし事前に連絡すること。連絡方法については授業中に指示する。授業直後であれば適宜質問に応じる。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15

備考 (受講要件)

心理学コース所属生のみ

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

発達臨床心理学（健康・医療心理学）（旧 発達心理学）
ナンバリングコード

FHS-CHX3404

科目名

発達臨床心理学（健康・医療心理学）（旧 発達心理学）

英語名

Developmental Clinical Psychology

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
安部幸志		099-285-7525	kojiabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	

授業概要

本授業では、発達臨床心理学に関する諸分野のうち、「健康」に焦点を当てて講義を展開する。すなわち、健康の維持と増進、疾病の予防と治療、ヘルスシステムや健康政策の分析や改善などに行動科学の知識と技術で関与するための知識を得ることを目的とした授業である。また、本授業の目的はそれだけでなく、個人が発達過程を通じ、健康で幸福な人生を実現するために必要となる要因について学ぶことも含まれる。

具体的な授業は、高齢者の健康問題、認知症、心理的ストレス、ソーシャルサポート、パーソナリティ（行動様式）と疾患との関連性、ライフスタイル、健康教育、ヘルスケアシステム、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)、ターミナルケア、自殺予防、災害時の心理支援など多岐にわたるもので、それらに関する研究手法と、具体的にどう対処するのかについて学ぶ。

学修目標

1. 発達過程における健康について理解し、説明できる
2. 発達臨床心理学や健康心理学の知識と技法を自分の心身の健康に役立てる力をつけることができる

授業計画

本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。
なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 ガイダンス（オンデマンド型）
- 第2回 健康支援活動とストレスチェック（オンデマンド型）
- 第3回 保健・医療における法律・制度・倫理（オンデマンド型）
- 第4回 ストレスの心理とアセスメント（オンデマンド型）
- 第5回 心の健康とストレスマネジメント（オンデマンド型）
- 第6回 小児科・母子保健領域（オンデマンド型）
- 第7回 神経科・リハビリテーション領域（オンデマンド型）
- 第8回 さまざまな医療現場とコンサルテーション（オンデマンド型）
- 第9回 さまざまな保健活動（オンデマンド型）
- 第10回 高齢者と健康（オンデマンド型）
- 第11回 精神科（成人期（オンデマンド型））
- 第12回 精神科（高齢期）（オンデマンド型）
- 第13回 自殺予防活動（オンデマンド型）
- 第14回 災害時等に必要な心理に関する支援（オンデマンド型）
- 第15回 グループワークの発表（オンデマンド型）

授業外学習（予習・復習）

- 第1回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第2回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）

- 第3回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第4回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第5回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第6回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第7回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第8回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第9回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第10回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第11回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第12回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第13回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第14回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）
- 第15回 manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）
授業で提示された課題を作成する（2時間）

教科書

本授業では、特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

丹野義彦 編「第16巻 健康・医療心理学（公認心理師の基礎と実践）」、遠見書房、2021年

成績の評価基準

- ワークシート：20%
- グループワークでの発表：20%
- 最終レポート：60%（受講者数によって変更の可能性あり）

オフィスアワ -

月、木の昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

本授業は、公認心理師受験資格要件科目のうち「健康・医療心理学」に対応している。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-CHX3416

科目名

産業・組織心理学演習（旧 社会心理学演習）

英語名

Industrial & Organizational Psychology 1

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース / 選択
科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

榊原良太

連絡先（TEL）

099-285-7518

連絡先（MAIL）

sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。

学修目標

社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
 第2回：日本語論文発表1：社会的認知（オンライン）
 第3回：日本語論文発表2：潜在的過程（オンライン）
 第4回：日本語論文発表3：帰属理論（オンライン）
 第5回：日本語論文発表4：自己正当化（オンライン）
 第6回：日本語論文発表5：協力関係（オンライン）
 第7回：日本語論文発表6：集団感葛藤（オンライン）
 第8回：日本語論文発表7：進化と適応（オンライン）
 第9回：日本語論文発表8：文化（オンライン）
 第10回：英語論文発表1：Social Cognition（オンライン）
 第11回：英語論文発表2：Cooperation（オンライン）
 第12回：英語論文発表3：Group（オンライン）
 第13回：英語論文発表4：Evolutionary Psychology（オンライン）
 第14回：英語論文発表5：Cultural Psychology（オンライン）
 第15回 まとめ（オンライン）

授業外学習（予習・復習）

- 予習：発表の準備、事前に資料に目を通す（1～3時間程度）
 複数：議論の中で提示された問題点について再考する（1時間程度）

教科書

指定しない。

参考書

適宜紹介する。

成績の評価基準

授業への参加、発言、発表を総合的に見て評価する（100%）。

オフィスアワ -

火曜4限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3405

科目名

説得・交渉心理学（旧 社会心理学）

英語名

The psychology of Negotiation and Persuasion

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

山崎真理子

099-285-7631

yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

- ・前半は基礎パート。科目担当者が話題提供。まずは基本的な知識に広く浅く触れる。
- ・後半は発展パート。受講者自身が、基礎を発展させてプレゼン資料を作成＆発表。

学修目標

1. 説得・交渉に関わる心理学研究の成果を、データを通じて読み解くことができる。
2. 地域の現状など現場の課題にも目を向け、専門的な観点から眺めることができる。
3. 自分自身の言葉で、学習の成果を第三者に伝える（プレゼン課題）ことができる。

授業計画

本講義は毎回、遠隔形式（録画動画の視聴が中心）で行う予定。
ただし講義形式は、状況により変更する可能性がある。
今後の情報は、manaba上で更新。コースニュースやコンテンツ欄を確認。

基礎パート、 発展パート

- 第 1回：オリエンテーション、心理学の書籍or文献を読む
- 第 2回：心理学における基礎研究の応用
- 第 3回：意図的でない対人的影響（社会的手抜き、傍観者効果）
- 第 4回：意図的でない対人的影響（漏れ聞き効果、行動感染、情動感染）
- 第 5回：意図的な対人的影響（フットインザドア法など）
- 第 6回：説得と態度変容
- 第 7回：態度尺度の妥当性・信頼性
- 第 8回：説得の規定因（スリーパー効果、初頭効果、新近性効果）
- 第 9回：説得のモデルと理論（ヒューリスティックシステムティックモデル）
- 第10回：説得のモデルと理論（精緻化見込みモデル）
- 第11回：実践に向けて（1）学期末課題について説明＆質問
- 第12回：実践に向けて（2）プレゼンテーマを検討＆専門用語の確認
- 第13回：実践に向けて（3）スライド作成
- 第14回：実践に向けて（4）資料の共有＆ポジティブ・フィードバック
- 第15回：実践に向けて（5）総括

授業外学習（予習・復習）

- ・予習（約2時間）... 前回までの内容を再度確認したうえで、講義に臨む。
- ・復習（約2時間）... 講義外でも適宜、各自で情報収集したうえで、小課題に取り組む。

教科書

本講義では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

今井芳昭「依頼と説得の心理学 人は他者にどう影響を与えるか」（サイエンス社）2006

成績の評価基準

- ・ 小課題「今日の課題」 ...50%
- ・ 学期末課題（全体の振り返り + ）...50%
- ・ 学期末試験は実施しない ... 0%

オフィスアワ -

水曜 2 限。

メールやmanaba上での連絡も可能です。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション； 学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回

備考（受講要件）

特になし。

心理学関連講義未受講者が本科目を受講することも想定して、講義を進める。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-CHX3417

科目名

多変量データ解析演習(旧 心理学統計法演習)

英語名

Multivariate Data Analysis

開講学科

人文学科

コース

心理学コース

授業科目区分

人文・心理学コース/選択
科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

榎原良太・山崎真理子

連絡先(TEL)

099-285-7519

連絡先(MAIL)

sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

統計ソフト(HAD)を用いて、これまでに学習した基礎的な分析から、近年盛んに用いられるようになった応用的な分析まで、多変量データの分析手法を広く習得する。

学修目標

- ・HADの基本的な操作法を身につける
- ・データの特性に応じた適切な分析手法を選択、実行することができる
- ・分析結果を適切に読み解き、解釈することができる
- ・卒業論文に向けて、独力でデータを解析できる力を身につける

授業計画

原則、遠隔形式で講義を進めます。HADは無料ソフトなので、大学のPCでなくても利用可能です。録画したオンデマンド型が中心。一部、リアルタイム(質問・相談しやすい)の実施も検討中。後者の場合も、諸事情でリアルタイムに参加できない事態が発生するケースも想定して対応します。担当者との連絡が取りたい場合、メールで問い合わせて下さい。今年度は特に、相談したいこと、確認したいこと、不安があれば遠慮せずにご連絡ください。様々な受講スタイルの学生を想定し、「一部の学生に不利益が生じる」ことのないよう対応します。

第1回 オリエンテーション

第2回 t検定とノンパラメトリック検定

第3回 1要因分散分析

第4回 2要因分散分析

第5回 実際のデータを用いた解析演習(実験計画法、t検定、分散分析)

第6回 探索的因子分析

第7回 重回帰分析

第8回 共分散構造分析(確認的因子分析、モデル検証と適合度)

第9回 共分散構造分析(多母集団同時分析、媒介分析)

第10回 マルチレベル分析(階層性のあるデータの特徴、級内相関)

第11回 マルチレベル分析(階層性のあるデータの分析手法)

第12回 一般化線形モデル(ポアソン回帰)

第13回 一般化線形モデル(ロジスティック回帰)

第14回 欠損値推定、ベイズ統計の概要

第15回 まとめ

授業外学習(予習・復習)

授業前:教科書を読み予習を行う(1時間程度)

授業後:配布資料を読み、課題への取り組みを通じて復習を行う(1~2時間程度)

教科書

『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 著:小宮あすか・布井雅人

参考書

成績の評価基準

授業内課題(100%)

オフィスアワ -

火曜2限、事前にメールにて連絡すること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15

備考(受講要件)

卒業研究で多変量データを扱う予定がある場合は、積極的に受講することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBX1401			
科目名			
社会学概論			
英語名			
Outline of Sociology			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
城戸秀之	099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本講義では、社会学の基礎的な考え方を紹介し、身近な個別のテーマをもとに問題設定や状況分析の例を示して具体的な社会学的思考にふれることを主眼とする。はじめに社会の理解や社会の変化に関する社会学の基礎的な概念や考え方について紹介し、次に1950年代以降の日本社会を対象に現代社会システムのあり方を考察する。この授業は全15回をオンデマンドの遠隔方式で行う（講義資料+ナレーション付きパワーポイントの動画）。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の基礎的な考え方や用語を理解する。 2. 現代日本の生活様式の変化について基礎的な知識を理解をする。 3. 現代社会について関心を持ち、それに基づいて情報を収集する。 4. 現代社会の特徴について自分の考えを述べることができる。 			
授業計画			
<p>第1回 はじめに 講義のガイダンス 第2回 I. 社会学の誕生 第3回 II. 社会学の考え方 (1) 「社会」はいかに理解できるか(行為からの理解) 第4回 II. 社会学の考え方 (2) 「社会」はいかに理解できるか(関係からの理解) 第5回 II. 社会学の考え方 (3) 「社会」はいかに理解できるか(集団・システムからの理解) 第6回 II. 社会学の考え方 (4) 変化する社会 第7回 II. 社会学の考え方 (5) 分析の道具としての概念(理念型・4象限図式) 第8回 II. 社会学の考え方 (6) 分析の道具としての概念(社会意識の類型論) 第9回 中間まとめと小レポートの説明 第10回 IV. 消費社会としての現代 (1) 高度経済成長と生活様式の消費化 第11回 IV. 消費社会としての現代 (2) バブル景気と消費社会 第12回 IV. 消費社会としての現代 (3) 生活様式の転換と「豊かさ」 第13回 IV. 消費社会としての現代 (4) 現代的「豊かさ」のゆくえ 第14回 V. 現代社会の諸相 現代社会の自己存在 第15回 おわりに 講義のまとめ 期末レポート</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習: 事前に掲示された講義テキストを読み、論点を押さえておく(標準的時間は約2時間) 復習: 各回の授業内容を整理し、課題に解答する「復習レポート」を提出する(標準的時間は約2時間) またこれとは別に、課題資料を読み解答する「小レポート」を課す(標準的時間は約2時間)</p>			
教科書			
<p>授業時間ごとに講義資料を配布する。 本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。</p>			
参考書			
奥村隆『社会学の歴史?』有斐閣、2014年。			
成績の評価基準			
復習レポート(45%)、小レポート(10%)、期末試験(45%)により評価する			
オフィスアワ -			

木曜日 2 時限

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

学生が課題テキストを読んで作成する「小レポート」を課す

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

社会学概論は、教職免許「社会」「公民」の必修科目である

オンデマンド等資料の提示、各レポート提出にはmanabaを使用する

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BBX1306

科目名

経済学概論

英語名

Outline of Economics

開講学科

コース

法経社会学科共通

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会学科 / 選択科目

講義

2単位

1~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

日野道啓

099-285-7525

hino@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

本講義では、われわれに身近な事例やテーマを利用しながら、経済学の基礎知識および考え方を学習する。経済原理は、現代社会を構成する基本原理の1つとなっている。市場メカニズムは国境を越えて浸透し、かつ、消費の単位が細分化されることであるいは調整方法として利用されることで、現在、社会の隅々まで行き渡っているためである。経済学を学ぶことで、現代社会の基本構造がより良く理解できるようになる。

本講義の特徴は次の2点である。第1に、本講義では、数学を使用しない。通常、経済学では、数学を用いて概念を説明するが、本講義では、分かりやすさを優先するため、それをしない。第2に、本講義は、経済学を学ぶ上でのファーストステップになるものである。経済学は積み上げの学問であり、「基礎（例：「ミクロ経済学」や「マクロ経済学」等）」を学んだ後、「発展・応用（例：「財政政策論」や「国際経済学」等）」を学習する。本講義は、「基礎」を学ぶための「導入」に該当する。

学修目標

1. 経済学の基礎用語が理解できる。
2. 理論の基礎的な知識が理解できる。
3. 経済学の考え方を利用して、身近な問題にアプローチできるようになる。

授業計画

第1回：ガイダンス 【遠隔形式 (Zoom)】

第2回：経済学へのいざない(1)-経済学の意義と概要 【遠隔形式 (課題提出型)】

第3回：経済学へのいざない(2)-法則と考え方 【遠隔形式 (課題提出型)】

第4回：経済学へのいざない(3)-合理性と経済指標(上) 【遠隔形式 (課題提出型)】

第5回：経済学へのいざない(4)-合理性と経済指標(下) 【遠隔形式 (課題提出型)】

第6回：経済学の歴史(1)-古典派経済学(上) 【遠隔形式 (課題提出型)】

第7回：経済学の歴史(2)-古典派経済学(下) 【遠隔形式 (課題提出型)】

第8回：経済学の歴史(3)-その後の経済学 【遠隔形式 (課題提出型)】

第9回：ミクロ経済学の基礎(1) 【遠隔形式 (課題提出型)】

第10回：ミクロ経済学の基礎(2) 【遠隔形式 (課題提出型)】

第11回：ミクロ経済学の基礎(3) 【遠隔形式 (課題提出型)】

第12回：マクロ経済学の基礎(1) 【遠隔形式 (課題提出型)】

第13回：マクロ経済学の基礎(2) 【遠隔形式 (課題提出型)】

第14回：マクロ経済学の基礎(3) 【遠隔形式 (課題提出型)】

第15回：総括 【遠隔形式 (課題提出型)】

授業外学習 (予習・復習)

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約2時間)

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は2時間)

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

スティグリッツ(2012)『入門経済学』東洋経済新報社、テイラー(2013)『経済学入門』かんき出版、坂井豊貴(2017)『ミクロ経済学入門の入門』岩波文庫ほか (その他にも多数あり、講義中に説明する)。

成績の評価基準

課題レポート(100%)
オフィスアワ -
金曜日3限目。メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける。
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
アクティブ・ラーニング(授業回数)
15回中3回
備考(受講要件)
特になし
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
桑原司	099-285-7525（法文学部学生係）	hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp （法文学部学生係）	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
レジュメの作成方法を指導する。 プレゼンテーションの方法を指導する。 社会科学（中でも社会学）の発想について解説する。			
学修目標			
適切なレジュメを作成できるようになる。 適切にプレゼンテーションを行うことができるようになる。 社会科学的な思考方法が身につく。			
授業計画			
第1回 ガイダンス【遠隔形式（Zoom）】			
第2回 社会学とは何か【遠隔形式（Zoom）】			
第3回 行為論の世界【遠隔形式（Zoom）】			
第4回 相互作用論の世界【遠隔形式（Zoom）】			
第5回 集団論の世界【遠隔形式（Zoom）】			
第6回 社会の構造【遠隔形式（Zoom）】			
第7回 全体としての社会【遠隔形式（Zoom）】			
第8回 社会の変動【遠隔形式（Zoom）】			
第9回 社会学アラカルト【遠隔形式（Zoom）】			
第10回 社会学のあゆみ【遠隔形式（Zoom）】			
第11回 グループ分け、各グループの課題設定【遠隔形式（Zoom）】			
第12回 仮設形成【遠隔形式（Zoom）】			
第13回 資料収集【遠隔形式（Zoom）】			
第14回 仮説検証・資料増補【遠隔形式（Zoom）】			
第15回 各グループの報告（発表）【遠隔形式（Zoom）】			
授業外学習（予習・復習）			
・報告担当者は、レジュメを作成し「授業の前日」までに桑原までメール添付で提出すること（学習に関わる標準的時間は約 2 時間）。			
・報告担当者以外の受講者は、当該授業日の該当箇所の予習を必ず行っておくこと（学習に関わる標準的時間は約 2 時間）。			
・授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は 2 時間）			
教科書			
森下伸也（2000）『社会学がわかる事典』日本実業出版社。 必ず生協書籍部で購入のこと（既に人数分手配済み）。			
参考書			
久恒啓一（2010）『図解で身につく！ドラッカーの理論』KADOKAWA。			
成績の評価基準			

- ・レジュメの完成度（40%）
- ・プレゼンテーションの適切さ（40%）
- ・上記以外の授業への取り組み、態度（20%）

オフィスアワ -

水曜5限目

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

詳細はすべてmanabaを通じてお知らせいたします。

授業で用いるZoomアカウントについては、授業の2日前にmanabaに提示します。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BBX1301

科目名

社会科学基礎演習（旧 基礎演習）

英語名

Preliminary Seminar for Social Science

開講学科

法経社会学科共通

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会学科 / 必修科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

1年

担当教員

片桐資津子

連絡先（TEL）

なし

連絡先（MAIL）

katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

高校までの授業では、学校側が作った問題を解くことに力点がおかれていました。しかし大学では、学生が自ら問題を見つけて、その問題の解決に向けて複数の案を導き出すことが求められます。本基礎演習では、この点を認識し、問題発見能力を習得することを目指します。

この基礎演習のクラスでは、少子高齢化の社会問題を素材に、テキストを輪読します。まずは各自、予習の段階で自分で考えた問いを準備します。そして実際のクラスではグループごとに問いを出して、グループ成員が協力して解決策を話し合うこととなります。受け身の姿勢が許されない、全員参加型の授業です。

学修目標

- (1) 時事問題に敏感になる
- (2) 読解力を身につける（input）
- (3) 思考力を身につける（process）
- (4) 表現力を身につける（output）
- (5) 文献収集力・情報収集力を獲得する

授業計画

- 第01回 オリエンテーション、グループ決め、自己紹介等
- 第02回 新聞記事の発表、自己紹介、レジュメとは
- 第03回 新聞記事の発表、レジュメ作成：Aグループ
- 第04回 新聞記事の発表、レジュメ作成：Bグループ
- 第05回 新聞記事の発表、レジュメ作成：Cグループ
- 第06回 新聞記事の発表とディスカッション
- 第07回 新聞記事の発表、レジュメ作成：Aグループ
- 第08回 新聞記事の発表、レジュメ作成：Bグループ
- 第09回 新聞記事の発表、レジュメ作成：Cグループ
- 第10回 新聞記事の発表とディスカッション
- 第11回 新聞記事の発表、レジュメ作成：Aグループ
- 第12回 新聞記事の発表、レジュメ作成：Bグループ
- 第13回 新聞記事の発表、レジュメ作成：Cグループ
- 第14回 新聞記事の発表、その他
- 第15回 まとめ

グループに分かれます。基本的にすべての授業は、対面方式で実施します。ただし受講生のネット接続といった受講環境や、今後の新型コロナ感染状況次第で、実施方式、授業回数、内容は変更となる可能性があります。

授業外学習（予習・復習）

〔予習〕輪読するテキストを精読します。気になる新聞記事を選定します（学習に関わる標準的時間は2時間）

〔復習〕manabaに更新された資料等を閲覧し、関連する知識の定着をはかります（標準的時間は2時間）。

教科書

講義時までに知らせます

参考書

適宜，manabaに掲載します

成績の評価基準

授業への取り組み態度（100％）

オフィスアワ -

毎週火曜2

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

無断欠席は厳禁です

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
中島宏		099-285-763	h-nakaji@leh.kagoshima-i.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメとレポートの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
本演習は対面での実施を予定しているが、授業形態については種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス（六法、教科書、判例百選等とは何か？） 第2回 法学学習方法 第3回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方 第4回 文献報告レジュメを作ろう！（本を素材にして） 第5回 実際にレジュメを書いて報告してみよう！その1 第6回 実際にレジュメを書いて報告してみよう！その2 第7回 レポートを作ろう！（教員がテーマを与えて） 第8回 レポートを書いて報告しよう！その1 第9回 レポートを書いて報告しよう！その2 第10回 レポートを書いて報告しよう！その3 第11回 アカデミックディベートをやってみよう！その1 第12回 アカデミックディベートをやってみよう！その2 第13回 裁判ディベートをやってみよう！その1 第14回 裁判ディベートをやってみよう！その2 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック〔改訂版〕』（法律文化社、2019年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			

成績の評価基準

レポート（中間・期末で評価の20%）、報告・報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します（平常点80%）。

オフィスアワ -

月曜4限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。

平成24年度入学生より履修は2年生まで、1度きりという制約があります（修学の手引をご覧ください）。しかし、平成23年度以前の入学生については、そのような制約がありませんので、履修年度が1～4年生となっています。とは申せ、この授業は、入学したばかりの1年生に法政策学科の学生としての基本的な素養を学んでもらうものですので、平成23年度以前入学の4年生は特に履修を控えてください。

2年生以上の学生がこの基礎演習を履修する場合には、掲示された期限までに所定の手続きにしたがい、「なぜ基礎演習の履修を志望したのか」という題目で1500字「以上」のレポートを提出いただいたくことになります。その後、教務委員によるレポートの内容についての審査を経て、意欲的であると判断された場合に限り、履修を認めることとなります。履修許可があるまで履修はできません。3年次以上の学生については特に厳格に審査いたします。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。</p>			
学修目標			
<p>(1) 社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2) レジュメの書き方を身につける。 (3) 報告の仕方と討論の仕方を身につける。</p>			
授業計画			
<p>この講義は、原則対面で行います（担当教員としてはそれを希望している）。また、対面を望まない受講生がいるだろうことも踏まえ、Zoomによる同時配信も行います。対面・遠隔どちらに出席しても、期末の評価に影響はしないので、各自で判断してください。</p> <p>なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。場合によっては15回すべてが遠隔になる可能性もあります。従って受講生は予めZoomのアカウント（無料）を取得しておいてください。</p> <p>ネット環境が整っていない学生は、その旨、大野宛にメール（onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp）するか、manabaの掲示板に書き込んでください。大野宛にメールして24時間以上返信がない場合は、必ず掲示板に書き込んでください。</p>			
<p>第1回 ガイダンス 第2回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方 第3回 レポートの書き方（1） 第4回 レポートの書き方（2） 第5回 ディベート（1） 第6回 ディベート（2） 第7回 報告（1） 第8回 報告（2） 第9回 報告（3） 第10回 報告（4） 第11回 報告（5） 第12回 報告（6） 第13回 報告（7） 第14回 報告（8） 第15回 まとめ</p>			

授業外学習（予習・復習）

【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと（80分程度）

【復習】講義で配布したレジュメを再読し、論点について再考すること（160分程度）

【課外活動】コロナの状況次第ですが、可能であれば鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。

また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。

教科書

西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック [改訂版]』（法律文化社、2019年）

参考書

授業中に適宜、指示します。

成績の評価基準

報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。

オフィスアワ -

火曜5限目（研究室）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
志田惣一		7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメとレポートの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける			
授業計画			
*本授業は、原則、対面形式で行う予定である。。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する			
第1回 ガイダンス 第2回 法学学習方法 第3回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方【オンデマンド型】 第4回 文献報告レジュメを作ろう！【課題提示型】 第5回 実際にレジュメを書いて報告してみよう！その1 第6回 実際にレジュメを書いて報告してみよう！その2 第7回 レポートを作ろう！（教員がテーマを与えて） 第8回 レポートを書いて報告しよう！その1 第9回 レポートを書いて報告しよう！その2 第10回 レポートを書いて報告しよう！その3 第11回 アカデミックディベートをやってみよう！ 第12回 アカデミックディベートをやってみよう！ 第13回 裁判ディベートをやってみよう！その1 第14回 裁判ディベートをやってみよう！その2 第15回 まとめ【対面型】			
授業外学習（予習・復習）			
各自の報告の準備と、授業後の報告（文書）の見直し、完成が学習の中心となる。 予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（標準的学習時間は2時間） 復習：授業における学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（2時間）			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
道垣内弘人『プレップ 法学を学ぶ前に』（弘文堂、2017年）			
成績の評価基準			
レポート（中間・期末で評価の20%）及び報告・報告レジュメ及び授業への取り組み態度（80%）。			
オフィスアワ -			

火2限

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

予習を指示した課題についての質疑応答など。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

10回程度

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBX1301

科目名

社会科学基礎演習（旧 基礎演習）

英語名

Preliminary Seminar for Social Science

開講学科

法経社会学科共通

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・法学コース/必修科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

1年

担当教員

鳥飼貴司

連絡先（TEL）

099-285-7623

連絡先（MAIL）

torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし。

前後期

前期

授業概要

現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。

学修目標

- (1) 社会問題を法的な視点から検討することができる。
- (2) レジюмеとレポートの書き方を身につける。
- (3) 報告の仕方と討論の仕方を身につける。

授業計画

各回は、演習科目なので対面授業です。
ただし、コロナの影響でどうしても大学に来られない場合には、遠隔授業（オンデマンド配信）で対応します。
なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は 変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知します。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法学学習方法
- 第3回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方
- 第4回 文献報告レジюмеを作ろう！
- 第5回 実際にレジюмеを書いて報告してみよう！その1
- 第6回 実際にレジюмеを書いて報告してみよう！その2
- 第7回 レポートを作ろう！
- 第8回 レポートを書いて報告しよう！その1
- 第9回 レポートを書いて報告しよう！その2
- 第10回 レポートを書いて報告しよう！その3
- 第11回 アカデミックディベートをやってみよう！その1
- 第12回 アカデミックディベートをやってみよう！その2
- 第13回 裁判ディベートをやってみよう！その1
- 第14回 裁判ディベートをやってみよう！その2
- 第15回 まとめ

授業外学習（予習・復習）

- 【予習】 受講生は、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと（2時間）
 - 【復習】 提示されたレジюме、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること（2時間）
- 鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。
- また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険

加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。

教科書

西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック〔改訂版〕』法律文化社(2019年)
manabaに講義資料をアップします。

参考書

道垣内弘人『ブレップ法学を学ぶ前に <第2版>』弘文堂(2017年) 「第2回 法学学習方法」で使用する。

成績の評価基準

レポート(中間・期末で評価の20%)、報告・報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します(平常点80%)。

オフィスアワー

月曜日～金曜日、12:00～12:50(会議などで不在にしている場合もあります)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。
平成24年度入学生より履修は2年生まで、1度きりという制約があります(修学の手引をご覧ください)。しかし、平成23年度以前の入学生については、そのような制約がありませんので、履修年度が1～4年生となっています。
とは申せ、この授業は、入学したばかりの1年生に法政策学科の学生としての基本的な素養を学んでもらうものですので、平成23年度以前入学の4年生は特に履修を控えてください。
2年生以上の学生がこの基礎演習を履修する場合には、掲示された期限までに所定の手続きにしたがい、「なぜ基礎演習の履修を志望したのか」という題目で1500字「以上」のレポートを提出いただいたくことになります。その後、教務委員によるレポートの内容についての審査を経て、意欲的であると判断された場合に限って、履修を認めることとなります。履修許可があるまで履修はできません。3年次以上の学生については特に厳格に審査いたします。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
米田憲市		099-285-7569	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(subject欄に、科目名、氏名、学籍番号を必ず記載すること)
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第3回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第6回 報告と討論 第7回 報告と討論 第8回 報告と討論 第9回 報告と討論 第10回 報告と討論 第11回 報告と討論 第12回 報告と討論 第13回 報告と討論 第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと（30分程度） 【復習】講義で配布したレジュメを再読し、論点について再考すること（60分程度） 【課外活動】鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック〔改訂版〕』（法律文化社、2019年）			
参考書			

授業中に適宜、指示します。

成績の評価基準

報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します(100%)。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
伊藤周平		099-285-7564	itos@leh.kagoshima-u-ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1) 社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2) レジュメの書き方を身につける。 (3) 報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 これまでのまとめ			
授業外学習（予習・復習）			
鹿児島地方裁判所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワー			
木曜日 2限（研究室）			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。 実務経験のある教員による実践的授業			
なし			

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
本演習は対面での実施を予定しているが、授業形態については種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス（六法、教科書、判例百選等とは何か？） 第2回 法学学習方法 第3回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方 第4回 文献報告レジュメを作ろう！（本を素材にして） 第5回 実際にレジュメを書いて報告してみよう！その1 第6回 実際にレジュメを書いて報告してみよう！その2 第7回 レポートを作ろう！（教員がテーマを与えて） 第8回 レポートを書いて報告しよう！その1 第9回 レポートを書いて報告しよう！その2 第10回 レポートを書いて報告しよう！その3 第11回 アカデミックディベートをやってみよう！その1 第12回 アカデミックディベートをやってみよう！その2 第13回 裁判ディベートをやってみよう！その1 第14回 裁判ディベートをやってみよう！その2 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック・改訂版』（法律文化社、2019年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			

成績の評価基準

レポート（中間・期末で評価の20%）、報告・報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します（平常点80%）。

オフィスアワー

月曜12:00～12:50

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員の質問に対する回答，レポート・レジュメ作成等

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。

平成24年度入学生より履修は2年生まで、1度きりという制約があります（修学の手引をご覧ください）。しかし、平成23年度以前の入学生については、そのような制約がありませんので、履修年度が1～4年生となっています。

とは申せ、この授業は、入学したばかりの1年生に法政策学科の学生としての基本的な素養を学んでもらうものですので、平成23年度以前入学の4年生は特に履修を控えてください。

2年生以上の学生がこの基礎演習を履修する場合には、掲示された期限までに所定の手続きにしたい、「なぜ基礎演習の履修を志望したのか」という題目で1500字「以上」のレポートを提出いただいたことになります。その後、教務委員によるレポートの内容についての審査を経て、意欲的であると判断された場合に限り、履修を認めることとなります。履修許可があるまで履修はできません。3年次以上の学生については特に厳格に審査いたします。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BBX1301

科目名

社会科学基礎演習（旧 基礎演習）

英語名

Preliminary Seminar for Social Science

開講学科

法経社会学科共通

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会学科 / 必修科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

1年

担当教員

松川 太郎

連絡先（TEL）

099-285-7525

連絡先（MAIL）

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

文章の論理をその形式から読み取る方法を学び、実際にその方法を使って論理を正確に理解することを演習する。

毎回、事前に課題を出すので、その出来に応じた指導を行う。したがって、課題提出が受講の前提である。

遠隔授業にあたっては、資料と課題のファイルをmanaで事前に配布し、演習を時間割通りにリアルタイムでZOOMを通じた音声+資料表示の形で実施する。manaでの連絡に注意すること。また、ZOOMのURL、ID、パスワードは絶対 外部に漏らさないこと。これが外部に漏れると、部外者による授業妨害を引き起こす恐れがある。

なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

学修目標

- 1) 文章の論理を正確に読み取る。
- 2) 本の読み方を身につける。
- 3) 議論の仕方を身につける。
- 4) 思考の方法論に触れる。

授業計画

教科書の各章を下記のように分割して、授業概要に挙げた事項を演習する。

- 第1回 自己紹介を通した論理トレーニング(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第2回 自己紹介を通した論理トレーニング(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第3回 「対」と「言い換え」(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第4回 「対」と「言い換え」(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第5回 「比較」と「譲歩」(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第6回 「比較」と「譲歩」(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第7回 「分類」と「矛盾」(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第8回 「分類」と「矛盾」(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第9回 「分類」と「矛盾」(3) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第10回 「媒介」(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第11回 「媒介」(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第12回 「媒介」(3) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第13回 文の流れ [文脈] を読む(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第14回 文の流れ [文脈] を読む(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第15回 文の流れ [文脈] を読む(3) (リアルタイム型 + 課題提出型)

授業外学習（予習・復習）

毎回、事前に課題プリントを渡す。課題をとり、manaで指定した時間までに、manaの「レポート」にて提出すること。締め切り厳守のこと。遅れた提出は原則として受け付けない。

予習に関わる標準的時間は約2時間

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）

教科書

中井浩一『正しく読み、深く考える 日本語論理トレーニング』講談社現代新書、2009年。

参考書

毎回配布する。

成績の評価基準

課題の出来具合と演習時間中のパフォーマンスを総合評価する。両者を合わせて100%とする。

オフィスアワ -

水曜1限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

課題プリントによる学習事項の実践。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

授業の第1回時には、あらかじめ教科書の第1～2章を読んでおくこと。

課題を毎回提出すること。

部活動の試合等で演習に出席できない場合でも、課題だけは提出のこと。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
澤田成章	099 - 285-8888		sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		前期	
授業概要			
本演習では、社会科学の基礎的テキストを輪読しながら、社会科学の基礎的知識を学び、併せて文献資料の収集方法、レジュメの作成方法、発表の方法、討論の方法などを学ぶ。 可能な限り対面形式での開講を模索するが、Zoomやmanabaを活用した遠隔方式の講義となる可能性もある。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献資料の収集方法を身につける。 2. レジュメの作成方法を身につける。 3. プレゼンテーションの方法を身につける。 4. 討論の仕方を身につける。 5. 社会科学の基礎知識を身につける。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第14回 発表と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて、適宜指導する。予習・復習(4H)			
教科書			
『知的複眼思考法誰でも持っている創造力のスイッチ』（講談社+ 文庫）荻谷剛彦著			
参考書			
演習の進展に応じ、適宜指示する。			
成績の評価基準			
授業への取組態度（発表内容、討論への積極性など）による(100%)。			
オフィスアワー			
事前にメールにてご連絡をお願いします。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中14回。			
備考（受講要件）			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード			
FHS-BDX1603			
科目名			
エンドユーザ実習III			
英語名			
End-User Computing III			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
三浦壮	099-285-8905		miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
本実習では、Microsoft社のPowerPointの使い方を身に付けるだけでなく、実際にプレゼンテーションをすることで、プレゼンテーション能力を向上させることを目標とする。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Microsoft社のPowerPointの操作方法を身に付ける 2. プレゼンテーションの技法を身に付ける 3. PowerPointを用いてプレゼンテーションできるようにする 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (対面方式) 2. テキスト実習 (1) (対面方式) 3. テキスト実習 (2) (対面方式) 4. テキスト実習 (3) (対面方式) 5. テキスト実習 (4) (対面方式) 6. 第1回目のプレゼンの準備 (対面方式) 7. 第1回目のプレゼン (1) (対面方式) 8. 第1回目のプレゼン (2) (対面方式) 9. 第1回目のプレゼン (3) (対面方式) 10. 自己評価レポート (1) (対面方式) 11. 第2回目のプレゼンの準備 (対面方式) 12. 第2回目のプレゼン (1) (対面方式) 13. 第2回目のプレゼン (2) (対面方式) 14. 第2回目のプレゼン (3) (対面方式) 15. 自己評価レポート (2) (対面方式) 			
授業外学習 (予習・復習)			
予習・復習 授業を欠席した場合、自宅等でファイルを作成すること。また、授業時間内にプレゼンテーションのスライドを完成できなかった場合、自宅等でスライドを完成させること (各回4時間)			
教科書			
『できる PowerPoint2019』インプレス 必ず購入のこと。			
参考書			
講義中に紹介する			
成績の評価基準			
受講生の中間プレゼンテーションへの評価記入 (50%)。最終プレゼンテーションに対する受講生からの評価 (50%)			
オフィスアワ -			
金曜3限目			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

16回中14回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX1601			
科目名			
エンドユーザ実習I			
英語名			
End-User Computing I			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
馬場武	099-285-7582		baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
エンドユーザとは、ソフトウェアの最終的な使用者のことを意味しています。エンドユーザ実習Iでは、文書作成ソフト (MS Office Word) を使用した演習を通じて、文書作成の基本的な知識や技能について学修します。			
学修目標			
1. 文書作成ソフトの基本的な機能を理解し、目的に合わせて活用することができる。			
2. レポート(論文)の構造と必要な要素を理解し、文書作成ソフトで実現することができる。			
授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め、manabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回：学術情報基盤センター提供のサービス利用の基礎知識と学内ネットワークについて			
第2回：メールの利用やセキュリティについて			
第3回：文章の入力と効果的なキー操作			
第4回：確認課題(1)【予定】			
第5回：文章の配置			
第6回：文章の装飾			
第7回：表の作成			
第8回：図の作成			
第9回：確認課題(2)【予定】			
第10回：文章のレイアウト			
第11回：レポート(論文)構成の基本			
第12回：スタイルとアウトライン			
第13回：セッション区切り・ページ番号と目次・参考文献一覧の自動生成			
第14回：確認課題(3)【予定】			
第15回：まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：次回授業範囲を教科書で確認してください (120分)。			
復習：授業課題を中心に復習してください (120分)。			
教科書			
田中亘 (2019), 『できるWord2019』, インプレス社。			
参考書			
授業内で適宜紹介します。			
成績の評価基準			
授業内で実施する授業課題を総合的に評価します (100%)。			
なお、必修科目および実習科目のため全ての授業に出席することが前提です。3回以上欠席した場合には単位を認めません。			
オフィスアワ -			
金曜3限。必ず事前にメールにてアポイントをとってください。			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

学術情報基盤センターの利用証を毎回持参すること。また，必修科目および実習科目なので欠席は厳禁であることに十分留意すること（出校停止や公欠は除く）。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX1602			
科目名			
エンドユーザ実習II			
英語名			
End-User Computing II			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
下園幸一	099-285-7477		simotozono@cc.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
現代社会では、さまざまなビジネスシーンでコンピュータが利用されています。その最も基本となるものが、文書作成、表計算、プレゼンテーションです。本実習では、マイクロソフト社製 Excel を利用し、表計算ソフトの基礎を学びます。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロソフト社製 Excel を利用して、表作成、グラフ作成ができる。 ・Excel を利用した簡単なデータベースが作成できる。 ・Excel を利用してデータの分析ができる。 			
授業計画			
第01回 チュートリアル 第02回 Excelの基本 第03回 表のレイアウトと印刷 第04回 Excelでの表計算(1) 第05回 Excelでの表計算(2) 第06回 Excelでの表計算(3) 第07回 Excelでのグラフ作成(1) 第08回 Excelでのグラフ作成(2) 第09回 ワークシート間でのセル参照 第10回 総合練習 第11回 データベース(テーブル) 第12回 その他 Excel の機能 第13回 総合練習 第14回 ピボットテーブル 第15回 総合練習および授業の総括			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・manaba 上に、授業で使用するスライドおよび課題を事前にアップしています。これを見て予習および復習をしてください。(予習2時間、復習2時間) 			
教科書			
小舘 由典著/できるシリーズ編集部著、『できる Excel 2019 Office 2019/Office365両対応』, インプレス社. 2019/01			
参考書			
授業中適宜紹介します			
成績の評価基準			
授業の受講態度(20%)、授業中に作成した課題 (40%)、宿題(40%) (4回以上欠席した学生には単位を認めない)			
オフィスアワ -			

・木曜日3限目, 金曜日3限目, 学術情報基盤センター4F研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

複数回

備考(受講要件)

- ・毎回、授業中に作成した課題および宿題をe-Learning システムを利用して提出してもらいます。
- ・PCを利用するためには「鹿児島大学ID」が必要です。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX1602			
科目名			
エンドユーザ実習II			
英語名			
End-User Computing II			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
市川英孝	099-285-7525		ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>表計算ソフトの基本的な技術を習得する。表計算ソフトは、ビジネスではもっとも広く頻繁に使用されているアプリケーションである。</p> <p>受講生は、社会に出た時を想定して受講をする。実践的な実習となる。</p> <p>Excelを利用することで、資料作成が容易にできることを実感し、作業の効率化を図れるようにする。</p> <p>manabaでの掲示板、講義内容を熟読し、テキストを理解したうえで、レポートを実施するように。</p>			
学修目標			
<p>1) 表計算の基本技術を習得する。</p> <p>2) 表計算で表を効率的に作成できる技術を身に着ける。</p> <p>3) 表計算を修正し、目的にあった表を加工できる技術を身に着ける</p>			
授業計画			
<p>基本的にテキストに沿って、各回に1章を習得するようにする。</p> <p>第1回 文章の入力</p> <p>第2回 表を作る(1)</p> <p>第3回 表を作る(2)</p> <p>第4回 見た目のよい表を作る(1)</p> <p>第5回 見た目のよい表を作る(2)</p> <p>第6回 計算式を作成する</p> <p>第7回 関数の利用(1)</p> <p>第8回 関数の利用(2)</p> <p>第9回 グラフなどのプレゼンテーション(1)</p> <p>第10回 グラフなどのプレゼンテーション(2)</p> <p>第11回 より高度な処理とオプション機能について(1)</p> <p>第12回 より高度な処理とオプション機能について(2)</p> <p>第13回 より高度な処理とオプション機能について(3)</p> <p>第14回 より高度な処理とオプション機能について(4)</p> <p>第15回 最終レポート作成</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>Excelでは特に関数について学んでもらいます。予習ではテキストの内容(2時間)を、復習では毎回の課題を再度実施(2時間)するように。</p>			
教科書			
『できるExcel 2019 Windows 10/8.1/7対応』インプレス社			
参考書			
30時間でマスター Excel2019 Windows10対応 実教出版			
成績の評価基準			
<p>毎回のレポート(80%)と最終レポート(20%)により評価。</p> <p>(4回以上欠席した学生は単位を認めない)</p> <p>授業中に必要な学生についてはタイピングのテストを実施する。詳細は授業中に説明します。</p>			
オフィスアワ -			

基本的にはメールにて対応します。
 火曜4限研究室にて対応します。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

パソコンを使った実習

アクティブ・ラーニング(授業回数)

すべて

備考(受講要件)

必修科目なので無断欠席は厳禁であることに十分留意すること。なお、成績評価については、授業初回でアナウンスする。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX1601			
科目名			
エンドユーザ実習I			
英語名			
End-User Computing I			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
萩野誠	7605		mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>コンピュータを学習に本格的に使い出すのは、大学生になってからです。 エンドユーザという表現は、仕事等でパソコンを使っている人のことを意味します。 講義では、エンドユーザとして、社会にでるために、必要なスキルを身につけます。</p>			
学修目標			
<p>学術情報基盤センターの学生へ対するサービスを理解し、利用できるようになる。 パソコンのアプリケーションの代表であるWordを通じて、スキルの大切さを理解し、修得する。</p>			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。 なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。 授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回 . エンドユーザとはなにか 第2章 文字を入力して文書を作成する 第3回 見栄のする文書を作成する 第4回 「第4章 入力した文章を修正する」 第5回 「第5章 表を使った文書を作成する」 第6回 第6章 年賀状を素早く作成する 第7回 第7章 文章のレイアウトを整える 第8回 第8章 もっとWordを使いこなす 第9回 第9章 ほかのソフトウェアとデータをやりとりする 第10回 第10章 Wordをクラウドで使いこなす 第11回 小テスト 第12回 就職活動ケーススタディ 第13回 ケーススタディ：留学・インターンシップ応募書類 第14回 Word Tips 第15回 小テスト</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>適時指導しますが、課題に真剣に取り組み、技能をマスターしてください。 予習：課題をだすので、調べ、manabaのレポート機能で提出すること。(120分) 復習：テキストの各章の練習問題を作成し、manabaのレポート機能で提出すること(120分)</p>			
教科書			
<p>できるWord 2019 大学生協で販売している 直前で新しいバージョンが出版される場合もあるので、 タイトルが違う場合もある。 生協で指定しているので、そのタイトルを購入すること。</p>			
参考書			
なし			

成績の評価基準

毎回授業に課す予習レポート 3点?13回 = 39点(37%)

毎回授業に課す復習レポート(練習問題)

2点?13回 = 26点(25%)

小テスト 20点X2回(38%)

合計105点満点(素点)

本年度で導入される採点分布によって、全体の成績の分布が決定される。

上記の素点は、あくまでも目安となる。

素点は、60点以上でも不合格となることがある。

オフィスアワ -

manabaの掲示板でおこなう

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

連絡は、manabaを利用するので、忘れないように。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX1603			
科目名			
エンドユーザ実習III			
英語名			
End-User Computing III			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
小栗有子	099-285-7598		k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>2年次以降の演習や卒業後の職場等での業務において、プレゼンテーションをする機会は多い。プレゼンテーションでしばしば用いるソフトとして、Microsoft社のPowerPointがある。そこで本実習では、PowerPointの基本的な使い方を身に付け、実際にプレゼンテーションしてもらいプレゼンテーション能力を向上させることを目標とする。</p> <p>また、自己表現活動としてのプレゼンテーションの意味を理解し、プレゼンテーションのマナー、質疑応答の方法についても学ぶことで、社会人としての基礎的な素養を身に付けることができる。</p>			
学修目標			
<p>1. Microsoft社のPowerPointの基本的操作方法を身に付ける。</p> <p>2. プレゼンテーションの意味を理解し、技法を身に付ける。</p> <p>3. 社会人としての基礎的な素養を身に付ける。</p>			
授業計画			
第1回	オリエンテーション		
第2回	プレゼンテーションとは何かを考える		
第3回	プレゼンテーションの良し悪しを考える		
第4回	プレゼンテーション用スライドの作成(1)		
第5回	プレゼンテーション用スライドの作成(2)		
第6回	プレゼンテーション(1)		
第7回	プレゼンテーション(2)		
第8回	プレゼンテーションの振り返り		
第9回	中間まとめ		
第10回	プレゼンテーション用スライドの作成(1)		
第11回	プレゼンテーション用スライドの作成(2)		
第12回	グループによるプレゼンテーション(1)		
第13回	グループによるプレゼンテーション(2)		
第14回	プレゼンテーションの振り返り		
第15回	まとめ+最終レポート		
授業外学習(予習・復習)			
パソコン操作やプレゼンテーション資料作成に関する事前、事後の練習・準備(4H)			
教科書			
授業中に提示			
参考書			
講義中に紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(40点)+プレゼンテーション(40点)+小レポート(20点)			
オフィスアワー			
授業後の時間、もしくは、メールでアポを入れてください。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

複数回

備考（受講要件）

今回は新型コロナの影響により、リモート学習となります。また、講義内でブレイクアウトセッション等を活用したり、実際にプレゼンをしてもらうため、マイク及びカメラの準備を確実にお願いします。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX1601			
科目名			
エンドユーザ実習I			
英語名			
End-User Computing I			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
下園幸一	099-285-7477		simotozono@cc.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
現代社会では、さまざまなビジネスシーンでコンピュータが利用されています。その最も基本となるものが、文書作成、表計算、プレゼンテーションです。本実習では、パーソナルコンピュータ操作の基礎を学ぶと共に、マイクロソフト社製 Word を利用し、文書作成の基礎を学びます。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロソフト社製 Word によりさまざま文章を作成することができる。 ・パソコンによる文書作成は、どのような利点、欠点があるのかを理解する。 			
授業計画			
第01回 チュートリアル(授業の進め方の説明、学術情報基盤センターについて) 第02回 Wordの基礎1 第03回 Wordの基礎2 第04回 文書の装飾と再利用 第05回 図の作成 第06回 表作成 第07回 文章のレイアウト 第08回 表作成の練習 第09回 総合練習1 第10回 年賀状作成 第11回 差し込み文書 第12回 数式の入力 第13回 章立て、目次の作成 第14回 総合練習2 第15回 授業の総括			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・manaba 上に、授業で利用するスライドや課題を事前にアップしていますので、それを見て予習および復習を行ってください(予習2時間、復習2時間) 			
教科書			
田中 亘著/できるシリーズ編集部著、『できる Word 2019 Office 2019/Office365両対応』, インプレス社, 2019/01			
参考書			
授業中適宜紹介します			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の受講態度(20%)、授業中に作成した課題(40%)、宿題(40%) (4回以上欠席した学生には単位を認めない) 			
オフィスアワ -			
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にメールでは随時受け付けます。 			

・木曜日3限, 金曜日3限, 学術情報基盤センター4F研究室
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
アクティブ・ラーニング(授業回数)
複数回
備考(受講要件)
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業中に作成した課題および宿題を manaba を利用して提出してもらいます。 ・PCを利用するためには「鹿児島大学ID」が必要です。
実務経験のある教員による実践的授業
特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX1601			
科目名			
エンドユーザ実習I			
英語名			
End-User Computing I			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
市川英孝	099-285-7525		ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>近年、あらゆる職種の企業において、コンピュータは導入されています。『コンピュータなんか嫌い』とは言っていない状況です。ようは『慣れ』です。とにかくパソコンを日常的に使えるというレベルにするのが、この授業です。まずは、パソコンで動くワープロソフトを使いこなします。授業ではテキストに沿ってその内容を入力したり、いくつかレポートとして自分で「メニュー表」や「パンフレット」等を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンドユーザ実習では、WordというMicrosoft社のアプリケーションを使って、さまざまな情報通信技術を修得することをめざす。 ・パソコン初心者が、広いコンピュータの世界に接する機会をつくり、大学生活に必要な技能を学ぶ。 			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Wordによる詳細な文書の作り方を学ぶ 2. インターネットに関するマナーを修得する 3. パソコン全般の知識を修得する。 4. タッチタイピングを習得する。 			
授業計画			
第1回 学術情報基盤センター利用の基礎知識 (課題提出型) 第2回 日本語入力について(1) (課題提出型) 第3回 日本語入力について(2) (課題提出型) 第4回 基本的な文章作成(1) (課題提出型) 第5回 基本的な文章作成(2) (課題提出型) 第6回 基本的な文章作成(3) (課題提出型) 第7回 高度な文章作成(1) (課題提出型) 第8回 高度な文章作成(2) (課題提出型) 第9回 高度な文章作成(3) (課題提出型) 第10回 高度な文章作成(4) (課題提出型) 第11回 高度な文章作成(5) (課題提出型) 第12回 高度な文章作成(6) (課題提出型) 第13回 高度な文章作成(7) (課題提出型) 第14回 高度な文章作成(8) (課題提出型) 第15回 最終レポート作成 (課題提出型)			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
テキストを事前に予習(2時間)する、授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(2時間)。基本的なパソコンの操作を行います。前期終了までにタッチタイピングができるようになってください。そのための自己学習を求めます。また授業時間中にタイピングのテストを行うので、授業中の指示に従ってください。			
教科書			
『できるWord 2019 Windows 10/8.1/7対応』インプレス社			
参考書			
30時間でマスター Word2019 Windows10対応 実教出版			

成績の評価基準

毎回のレポート(80%)と最終レポート(20%)により評価。
 (4回以上欠席した学生は単位を認めない)
 タイピングのテストを実施する。詳細は授業中に説明します。

オフィスアワ -

基本的にメールでは随時受け付けます。
 木曜日4限に研究室にて対応します。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

パソコンを使った実習

アクティブ・ラーニング(授業回数)

すべて

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX1603			
科目名			
エンドユーザ実習III			
英語名			
End-User Computing III			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
北崎浩嗣	099-285-7592		kitazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
PowerPointの使い方については、(1)ビジネス目的、(2)アカデミック目的、(3)ポスター・チラシの作成など、様々な目的が存在しうる。こうした目的に応じて適切にスライドのデザインを工夫し、効果的なプレゼンテーションを行う能力を身に付けることが本講義の最終目標となる。			
学修目標			
?パワーポイントの使い方を身に付ける ?プレゼンテーションの経験を積む ?TP0に合わせたスライドデザインができるようになる			
授業計画			
第1回：ガイダンス 第2回：テキスト実習 (powerpointの基本操作) 第3回：テキスト実習 (図表の挿入) 第4回：テキスト実習 (アニメーションの設定) 第5回：テキスト実習 (保存形式・プレゼンテーション) 第6回：都道府県紹介ポスター制作 (1) テーマ決定 第7回：都道府県紹介ポスター制作 (2) データ収集・レイアウト作成 第8回：都道府県紹介ポスター制作 (3) ポスター作製 第9回：都道府県紹介ポスター発表・期末課題テーマ決め 第10回：プレゼンテーション資料制作 (テーマ決定) 第11回：プレゼンテーション資料制作 (データ収集) 第12回：グループプレゼンテーション制作 (レイアウト作成) 第13回：グループプレゼンテーション制作 (最終調整) 第14回：プレゼンテーション実演 (前半グループ) 第15回：プレゼンテーション実演 (後半グループ)			
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、原則、講義資料提示・課題提出型の遠隔講義として行う。ただし、適宜対面で進捗報告や課題の進め方の相談など、教員に直接コンタクトが取れるように配慮する。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習(2H)・復習(2H)			
教科書			
『できる PowerPoint2013』インプレス			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
ポスター (50%)、最終レポート (50%) の総合評価による。			
オフィスアワ -			
メールにてアポイントメントをお願いします。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中7回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
日野道啓	099-285-7525		hino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
大学での学習に必要な基礎的な考え方や能力を習うことを目的とする。主として「スタディスキル」の基礎学習を目的とし、「ソーシャルスキル」の確認および獲得を副次的な目的とする。			
学修目標			
1. 文献資料の収集ができるようになる。 2. レジユメを作成できるようになる。 3. クリティカルシンキングについて理解できる。 4. プレゼンテーションおよび討論の仕方について理解できる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス/自己紹介（1）【対面形式】 第2回：自己紹介（2）【対面形式】 第3回：文献資料の収集方法（1）【対面形式】 第4回：文献資料の収集方法（2）【対面形式】 第5回：文献資料の収集方法（3）【対面形式】 第6回：発表と質問（1）【対面形式】 第7回：発表と質問（2）【対面形式】 第8回：クリティカルシンキングを学ぶ（1）【対面形式】 第9回：クリティカルシンキングを学ぶ（2）【対面形式】 第10回：クリティカルシンキングを学ぶ（3）【対面形式】 第11回：輪読と報告（1）【対面形式】 第12回：輪読と報告（2）【対面形式】 第13回：輪読と報告（3）【対面形式】 第14回：輪読と報告（4）【対面形式】 第15回：輪読と報告（5）【対面形式】			
授業外学習（予習・復習）			
予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間） 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）			
教科書			
高橋昌一郎(2010)『東大生の論理』ちくま新書。『Alternative Office book(2)』岡村製作所オフィス研究所。			
参考書			
授業時に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
報告内容（40%）、討論内容（40%）、授業の理解度（20%）			
オフィスアワ -			
火曜日2限目。メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション； アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BBX1302			
科目名			
社会科学基礎			
英語名			
Basics of Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	講義	2単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
中島宏	099-285-7633 (中島)	h-nakaji@leh.kagoshima-i.ac.jp (中島)	
共同担当教員		前後期	
志田惣一 原田いづみ 伊藤周平 平井一臣 桑原司 小栗有子 三浦壮 市川英孝 松川太一郎 日野道啓 王鏡凱 北崎浩嗣		後期	
授業概要			
<p>法経社会学科のすべての学生を対象としたもので、法学、地域社会、経済の各コースの分野に関連する内容を複数の教員がオムニバス形式で講義する。講義の内容は、コースの各専門分野について入門的・基礎的な内容や考え方、トピックを紹介するもので、受講生はそれぞれの講義を受講することによって各教育コースの特徴を知り、自身の興味・関心のあるテーマを見つけるきっかけを得ることができる。</p> <p>講義形態は、毎回異なりますので、シラバス、及び、manabaのコースニュースをよく確認すること。なお、受講者数等により、授業方法に一部変更が生じる場合もあるが、その場合は事前に周知する。</p>			
学修目標			
<p>1. 社会科学を学ぶ学生として、社会科学の多様な学問分野の導入的知見や基礎的な考え方を幅広く身に付けることができる。</p> <p>2. 現代社会の抱える諸問題について関心をもち、様々な社会科学的アプローチによって解決策を考えることができる。</p>			
授業計画			
<p>新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みて、本年度はすべての授業回を遠隔方式で実施する。各回の授業方法は下記のとおりである。適宜変更する場合には、manabaを通じて告知する。</p>			
第1回 ガイダンス (中島宏) 【Zoomによるオンライン授業】			
第2回 日本の刑事裁判 (中島宏) 【Zoomによるオンライン授業】			
第3回 株式会社の仕組みと法律 (志田惣一) 【Zoomによるオンライン授業】			
第4回 ジェンダー法学入門 (原田いづみ) 【Zoomによるオンライン授業】			
第5回 コロナ禍における労働法・社会保障法の役割と課題 (伊藤周平) 【Zoomによるオンライン授業】			
第6回 複眼で見る政治の世界 (平井一臣) 【Zoomによるオンライン授業】			
第7回 社会学の視点(1) (桑原司) 【Zoomによるオンライン授業】			
第8回 社会学の視点(2) (桑原司) 【Zoomによるオンライン授業】			
第9回 地域における学びの位相 (小栗有子) 【Zoomによるオンライン授業】			
第10回 日本経済史の方法と対象 (三浦壮) 【Zoomによるオンライン授業】			

第11回 ムダと商品開発（市川英孝）【Zoomによるオンライン授業】

第12回 経済現象の認識の仕方（松川太一郎）【Zoomによるオンライン授業】

第13回 国際経済学の学びを通じてーグローバル化を題材に（日野道啓）【Zoomによるオンライン授業】

第14回 働くことの意味について（王鏡凱）【Zoomによるオンライン授業】

第15回 食料自給率について（北崎浩嗣）【Zoomによるオンライン授業】

授業外学習（予習・復習）

復習：各回の授業で配布される資料や紹介された参考文献を読んで、当該分野についての知見を深めること(240分)。

教科書

指定しない。

参考書

授業中に適宜指示する。

成績の評価基準

毎回の授業の際に提出する小レポートもしくは、小テストに基づき(100%)評価する。

オフィスアワ -

manabaの個別指導コレクションで各教員に連絡し、その指示に従うこと。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
山本一哉	099-285-7595		yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
本演習では、テキストを分担して報告してもらい、その内容について議論を行う。			
学修目標			
1) テキストの読み方を身につける。 2) レジюме（報告内容のまとめ方）を身につける。 3) 資料収集の仕方を身につける。 4) 資料やデータの分析の仕方を身につける。 5) プレゼンテーションのやり方（報告の仕方）を身につける。 6) ディスカッションの仕方を身につける。			
授業計画			
すべて対面での実施。			
第1回 ガイダンス 第2回 報告及びディスカッション 第3回 報告及びディスカッション 第4回 報告及びディスカッション 第5回 報告及びディスカッション 第6回 報告及びディスカッション 第7回 報告及びディスカッション 第8回 報告及びディスカッション 第9回 報告及びディスカッション 第10回 報告及びディスカッション 第11回 報告及びディスカッション 第12回 報告及びディスカッション 第13回 報告及びディスカッション 第14回 報告及びディスカッション 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
予習：manaba に掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約 2 時間）			
復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は 2 時間）			
教科書			
宮崎雅人『地域衰退』岩波書店（2021年）			

宮崎雅人『地域衰退』（岩波新書） 2021年

参考書

講義の際に紹介する。

成績の評価基準

テキストの報告（50点）及びディスカッション（50点）を総合的に評価する。

オフィスアワ -

曜日・時間：毎週火曜日5限、場所：研究室

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
城戸秀之	099-285-7611		kido@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
現代の日本社会を理解するために必要な、戦後日本の経済構造と社会意識の変化についての知識を習得し、現代と比較することから社会認識と問題意識を深める。また、各時間の報告と質疑応答を通して、報告の仕方や自分の意見を持って討論することを身につける。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えを発言できる。 2. 他者の発言を聞いて討論できる。 3. テキストを読み、報告資料として整理できる。 4. 自分の関心に仕掛けてデータを集め、報告できる。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス 授業の進め方の説明、担当決定			
第2回 テキストの読解と資料作成について			
第3回 発表と討論（テキストをもとに討論をおこなう）			
第4回 発表と討論（テキストをもとに討論をおこなう）			
第5回 発表と討論（テキストをもとに討論をおこなう）			
第6回 発表と討論（テキストをもとに討論をおこなう）			
第7回 発表と討論（テキストをもとに討論をおこなう）【Zoomにて開講】			
第8回 発表と討論（テキストをもとに討論をおこなう）			
第9回 発表と討論（テキストをもとに討論をおこなう）			
第10回 中間討論【Zoomにて開講】			
第11回 自由報告			
第12回 自由報告			
第13回 自由報告			
第14回 自由報告			
第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】次週のテキストを読む（標準的時間は約2時間）。			
【復習】報告・討論資料、講読レポートおよび中間レポートを作成する（標準的時間は約2時間）。			
そのほか授業中に適宜指示をする。			
教科書			
大平健『やさしさの精神病理』（岩波書店 1995年）。			
土井義隆『キャラ化する / される子どもたち』岩波書店、2009年。			
森真一『ほんとは怖い「やさしさ社会」』筑摩書房、2008年。			
参考書			
NHK文化研究所編『現代日本人の意識構造』[第8版]NHK出版、2015年。			
成績の評価基準			
報告、討論（60%）及び演習レポート（40%）によって評価する			
オフィスアワ -			
火曜日 3 時限（研究室）			

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

報告資料の作成

アクティブ・ラーニング(授業回数)

13回 / 15回

備考(受講要件)

基礎演習は各人の意見をふまえた討論でなりたつので、積極的な態度で授業に参加してほしい。
レポート提出にはmanabaを使用する。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
林田吉恵	099-285-7525		yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本演習の目的は、社会科学分野を学習する上で必要な基本的な考え方や方法を学ぶことである。具体的には、文献資料の収集方法、レジュメの作り方、プレゼンテーションの方法等を通して、大学生活において必要なスキルの習得を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、グループを決め、研究テーマを設定する。 2、研究テーマについて情報収集して分析をする 3、演習時間ないに報告（プレゼンテーション）、ディスカッションを行う 			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1、文献資料の収集方法を身につける 2、レジュメの作成方法を身につける <p>問題発見能力：わが国における問題を発見する 情報収集能力：必要な情報を収集する 分析能力：データ分析手法を身につける プレゼンテーション能力：分析したことを発表できるようにする ディスカッション能力：議論する力を身につける</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス 自己紹介 第2回～第12回 研究指導、報告、ディスカッション 第13回～第14回 合同ゼミで発表会 第15回 総括			
授業外学習（予習・復習）			
本演習は授業時間外のグループ研究に基づいて進行していくことから、必ず授業外にグループで集まって研究することが必要になる。 （学修に係る標準時間は約4時間）			
教科書			
研究テーマに応じて適宜指定する。			
参考書			
研究テーマに応じて適宜指定する。			
成績の評価基準			
演習中の研究報告およびレポートによって(100%)評価する。			
オフィスアワー			
火曜日 必ずメールにて事前連絡をすること			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク； ディベート； プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

欠席するときは必ず連絡すること。

無断欠席3回すると、単位認定はしませんので、必ず連絡すること。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。

授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BBX1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
三浦壮		099-285-8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
前半45分は、社会科学に関する著作をもとに、社会科学の手法や考え方を学習する。後半45分は、日経新聞を購入することによって、政治・経済・文化の時事問題をサーベイする。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学の基礎的な素養を身につけること ・経済新聞の読み方を身につけること 			
授業計画			
1回目 オリエンテーション・自己紹介（対面方式）			
2回目 法文学部法経社会学科の説明			
3回目 議論と報告（対面方式）			
4回目 議論と報告（対面方式）			
5回目 議論と報告（対面方式）			
6回目 議論と報告（対面方式）			
7回目 議論と報告（対面方式）			
8回目 議論と報告（対面方式）			
9回目 議論と報告（対面方式）			
10回目 議論と報告（対面方式）			
11回目 議論と報告（対面方式）			
12回目 議論と報告（対面方式）			
13回目 議論と報告（対面方式）			
14回目 議論と報告（対面方式）			
15回目 議論と報告（対面方式）			
16回目 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
予習・復習 購読する本の精読，諸経済データの入力，発表資料の作成，他チーム発表内容に関する予備調査（1回あたり各4時間）			
教科書			
2回目の授業で受講者の意見を聞いて選択			
参考書			
その都度指示する			
成績の評価基準			
議論への参加度（50％）とプレゼンテーション（50％）。 無断欠席は1回，連絡があっても3回以上休むと，単位認定の対象外となる。			
オフィスアワ -			

金曜3限

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

16回中13回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BBX1307			
科目名			
ミクロ経済学I (旧 ミクロ経済学)			
英語名			
Microeconomics I			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
石塚孔信	099-285-7586		ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>現在、ほとんどの先進諸国においては、資源配分、所得分配といった問題を基本的には市場機構に委ねている。市場経済では、資源配分や所得分配のルールは、各経済主体間の取り決めによってつくられている。企業は、自分の責任の下に生産活動を行い、各家計は自らの選択によって労働に従事し、消費を行っている。これらのそれぞれの意思決定を社会的に調整するものが市場メカニズムである。市場経済は、市場における需要と供給を調整する価格メカニズムを組み込んだ経済であり、このメカニズムを解明するのがミクロ経済学の第一の目的である。したがって、ミクロ経済学は、「価格理論」といわれるのである。</p> <p>本講義では、ミクロ経済学の消費者行動と企業行動の基本的考え方とその理論を講義する。</p>			
学修目標			
<p>ミクロ経済学の学習は、経済モデルを用いて数量的に分析する事が多いために文科系の学生にとってはハードルが高く思われがちである。しかし、そのハードルを超える事ができれば自分で考える事が容易になるという特徴も持っている。</p> <p>この講義では、そのハードルを受講生全員が超えることを目標に進めていく。したがって、多くのことをやるよりも教材を厳選して、それを時間をかけて解説することにより、受講生諸君が自分で理解する能力をつけることが出来るようにしたい。</p>			
授業計画			
<p>全ての回(15回)を遠隔授業で行う。すべて、オンデマンド型で進められる。</p> <p>次のようなスケジュールで講義を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回：イントロダクション 第2回：消費者行動の理論-消費者と需要(1) 第3回：消費者行動の理論-消費者と需要(2) 第4回：消費者行動の理論-消費者と需要(3) 第5回：消費者行動の理論-消費者と需要(4) 第6回：消費者行動の理論-消費者行動と需要曲線(1) 第7回：消費者行動の理論-消費者行動と需要曲線(2) 第8回：消費者行動の理論-消費者行動と需要曲線(3) 第9回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(1) 第10回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(1) 第11回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(2) 第12回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(3) 第13回：生産者行動の理論-企業行動と費用関数(1) 第14回：生産者行動の理論-企業行動と費用関数(2) 第15回：生産者行動の理論-企業行動と費用関数(3) 			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約2時間) ・復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は2時間) 			
教科書			
西村和雄『現代経済学入門 ミクロ経済学 第3版』岩波書店、2011年。			

参考書

講義中に紹介する。

成績の評価基準

筆記試験 (80%) と宿題の提出 (20%) による。

オフィスアワ -

木曜日の3時限目

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

講義の内容を定着させるために演習問題を解く。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中5回

備考 (受講要件)

この講義を受講した後、ミクロ経済学IIを受講することが望ましい。

適宜、演習問題を解いて理解を深める。関連科目として、マクロ経済学I・IIを受講することをお勧めする。

実務経験のある教員による実践的授業

・特になし

ナンバリングコード

FHS-BBX1309

科目名

マクロ経済学I (旧 マクロ経済学)

英語名

Macroeconomics I I

開講学科

法経社会学科共通

コース

法経社会学科共通

授業科目区分

法経社会学科 / 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1~4年

担当教員

石塚孔信

連絡先 (TEL)

099-285-7586

連絡先 (MAIL)

ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

経済を構成する単位として消費者（家計）と生産者（企業）の行動の分析から始め、さらに、多数の消費者と企業からなる市場の構造の分析へと積み上げていく方法をミクロ的方法という。

一方、一国全体の経済を一つのものとしてとらえる方法をマクロ的方法という。財やサービスの総生産量や総雇用量、総投資量、総資本ストック高などの集計的データの取扱い、その上で公定歩合の切り下げ、国債の発行、公共投資の増加等が総需要にそして景気に与える影響を分析する。

本講義では、マクロ経済学の基礎理論を学ぶことによって、一国全体の経済の構造について考える能力を身につけてもらうことを目的としている。

2021年度前期の「マクロ経済学?」とは、前任者の講義内容との関係で、かなり重複するので、ご了承ください。

学修目標

?経済学の考え方や方法論を理解する。

?マクロ経済の外観をイメージする能力を身につける。

?財やサービスの総生産量や総雇用量、総投資量、総資本ストック高などの集計的データの取扱い、その上で財政政策、金融政策が総需要にそして景気に与える影響を分析する能力を身につける。

授業計画

今期は、基本的には全回オンデマンド型の講義で行う。

第1回 基礎概念の把握 (1)

? マクロ経済学とは?

? GDPと景気

マクロ経済学の外観を解説して、景気の良し悪しをはかる基準となるGDPの定義と考え方について解説する。

第2回 基礎概念の把握 (2)

? 日本経済のマクロ経済学的概観

一国のマクロ経済を考える際に重要な経済循環について、最初は2部門（家計、企業部門）で考察し、最終的には4部門経済（企業、家計、政府、外国部門）による経済循環を理解する。

第3回 国民所得の決定理論 (1)

? 45度線モデルによる所得決定 ? 貯蓄と投資および投資乗数について

マクロ経済学の財市場の分析で基本となる45度線モデルについて解説し、その上で均衡国民所得水準を導出し、さらに、投資乗数を用いて乗数理論について説明する。

第4回 国民所得の決定理論 (2)

? 総需要管理政策 ? 減税と政府支出

均衡国民所得と完全雇用国民所得とに乖離がある場合に存在するデフレギャップとインフレギャップについて解説し、総需要をコントロールすることによってそのギャップを埋める政策について説明する。

第5回 投資需要の決定 (1)

? 利子率と債券価格

利子率と債券価格との関係について理論的に考察する。

第6回 投資需要の決定 (2)

? 割引現在価値及び投資決定の理論

割引現在価値の考え方をを用いて利子率と投資の限界効率との関係から投資決定のメカニズムについて考察する。

第7回 貨幣の供給(1)

? 貨幣とマネーサプライ ? ハイパワードマネーと貨幣供給

貨幣の定義について考察、その後、日銀によるマネーサプライの定義とマネーサプライをコントロールする際に重要なハイパワードマネーについて解説し、ハイパワードマネーとマネーサプライの関係について言及する。

第8回 貨幣の供給(2)

? 金融政策の手段

日銀の金融政策の代表的な3つの手段について考察する。さらに、ゼロ金利政策や量的緩和政策についても言及する。

第9回 IS - LM分析(1)

? IS曲線の性質

財市場の均衡における利子率と国民所得の水準を表すIS曲線の導出について解説する。

第10回 IS - LM分析(2)

? LM曲線の性質

貨幣市場の均衡における利子率と国民所得の水準を表すLM曲線の導出について解説する。

第11回 IS - LM分析(3)

? 財政政策と金融政策

財市場と貨幣市場が同時に均衡するときの利子率と国民所得水準を導出して、それを基準に景気対策として有効な財政政策と金融政策について考察する。

第12回 IS - LM分析(4)

? 流動性のわな ? クラウディングアウト

景気対策としてとられる財政政策と金融政策の有効性と副産物について考察し、より良い経済政策を模索する。

第13回 トピック1 TPPと日本経済

近年、TPP参加の是非が問われているが、TPPの内容を概観してTPPに参加した場合の日本経済に与える影響を考えてみる。

第14回 トピック2 アベノミクスの評価

第2次安倍政権は8年余り続いたが、その際のメインの経済政策である「アベノミクス」の評価について検討する。

第15回 トピック3 消費税増税と日本経済

平成14年4月から8%、平成15年4月から10%に消費税増税が実行されることになっているが、消費税増税が日本経済に与える影響について検討する。

授業外学習(予習・復習)

- ・予習: manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約2時間)
- ・復習: 授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は2時間)

教科書

特に指定しない。マクロ経済学のテキストがあればそれを参考にすること。

参考書

『入門マクロ経済学』中谷 巖 日本評論社 マクロ経済学の概要をわかりやすく説明。
『経済学ベーシックゼミナール』西村和雄, 八木尚志 実務教育出版 演習問題を題材に経済理論を丁寧に解説。

成績の評価基準

- ・数回の宿題(40%)
- ・定期試験(60%)

オフィスアワー

授業終了後

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

宿題の提出

アクティブ・ラーニング(授業回数)

4~5回

備考(受講要件)

・予備知識は必要ありません。

実務経験のある教員による実践的授業

・特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BBX1315			
科目名			
企業論			
英語名			
Theory of the Firm			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
大芝周子	099-285-7607		oshiba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>「企業とは何か、組織とは何か」について、自分の意見を持つことが最終的な目標である。そのために本講義では、毎回特定の業界の企業事例について、経営学的に説明する。授業時間内には、物事の考え方の練習や分かりやすい文書の書き方についても、時折説明したい。</p> <p>主な受講対象として1年生を想定し、経営学理論の説明というよりは、様々な業界や企業をお話として知ること、企業に関心を持ってもらうことを願っている。既に経営学関連授業を履修した者や上級生には、初歩的レベルと感じられると思われ、専門的な経営学講義を求める方には向かないと思われる。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な業界や企業の活動を知る。 2. 経営学の概念や理論を学ぶ。 3. 企業に関して、自分の興味や問題意識を明確にし、それについて経営学的に論じられる能力を持つ。 			
授業計画			
<p>(1)10/5 イン트로ダクション</p> <p>(2)10/12 組織論とは何か</p> <p>(3)10/19 コンビニ業界 (地場コンビニ)</p> <p>(4)10/26 メガネスーパーの組織改革</p> <p>(5)11/2 ゲストスピーカー (民間救急車・介護タクシーオレンジ)</p> <p>(6)11/9 地域ブランド戦略 (広島レモンの事例)</p> <p>(7)11/16 (冒頭20分) オレンジ様から回答 + 日経新聞を読んでみよう 9日と16日は入れ替わる可能性あり。</p> <p>(8)11/30 百貨店業界 (地場百貨店の衰退と山形屋)</p> <p>(9)12/7 ゲストスピーカー (株式会社オリエンタルランド) リアルタイム配信</p> <p>(10)12/14 日本のものづくり (中村ブレイス)</p> <p>(11)12/21 地域産業 (“スイーツの街・神戸”)</p> <p>(12)1/4 未定</p> <p>(13)1/18 ゲストスピーカー (訪問看護 キュアコネクト)</p> <p>(14)1/25 ソーシャル・ビジネス (東日本大震災から10年)</p> <p>(15)2/1 まとめ</p> <p>期末レポート×切 2-22/2/4 (木) 17:00×切</p> <p>ゲストスピーカーの3回については、放送日 (リアルタイムの場合は、録画映像をmanabaにアップロードした日: 当日or翌日にはアップ予定) から【3日以内】のレポート提出をお願いします。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: 毎回の授業終了時、次回までに考えてくる課題を提示する (約2時間)			
復習: 疑問をもった点について、自分で調べ、整理する (約2時間)			
教科書			
適宜に指示			

参考書

適宜に指示

成績の評価基準

(1)ゲストスピーカーへの感想レポート(500字程度)(提出期限3日以内)×各10点×3回=30点

(2)期末レポート(約4000字)=70点

(1)と(2)の合計点で評価します。

ゲストスピーカーの際、質疑応答に積極的に参加した方には加点があります。

オフィスアワー

メールで受付

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

複数回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BBX1311

科目名

統計作成論（旧 統計学総論）

英語名

Analysis of Compiling Statistics

開講学科

法経社会学科共通

コース

法経社会学科共通

授業科目区分

法経社会学科 / 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1～4年

担当教員

松川太一郎

連絡先（TEL）

099-285-7601

連絡先（MAIL）

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

社会・経済現象の認識材料として用いられる統計資料は、認識が客観的根拠を備えるための経験的情報として不可欠である。しかし、そうした統計情報そのものに何らかの誤りがあるならば、それを用いて導き出された社会・経済現象の認識にも誤りが備ってしまう。そのような状況に陥らないためには、社会・経済現象の認識に先立ち、統計情報の妥当性を吟味することが必要である。そのためのポイントを学習することが本講義のテーマである。具体的には、統計資料の作成過程の内容を理解していく。統計作成過程について、以下の事項を学ぶ。

1) 学習の対象である統計の概念を明確にする。2) 統計が捉える対象と、そのために必要な社会科学理論との関係。3) 統計作成に必要な情報の収集・集計過程の技術的内容。4) 統計作成方法の技術的内容と、その実践的運用を支える統計制度との関係。以上の事項の中で逐次、統計が社会現象を反映する仕方と真実性を検討して、統計情報の妥当性を吟味する。

遠隔授業にあたっては、資料をマナバで事前に配布し、講義を時間割通りにリアルタイムでZOOMを通じた音声 + 資料表示の形で実施する。マナバでの連絡に注意すること。また、ZOOMのURL、ID、パスワードは絶対外部に漏らさないこと。これが外部に漏れると、部外者による授業妨害を引き起こす恐れがある。

なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

学修目標

1. 統計学の学問的性質を理解する。
2. 社会的な集団の性質を示す数値情報 = 統計値の真実性を判断する。
3. 統計の利用を、社会現象の認識過程における経験的な基礎として位置付ける。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、統計学史（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第2回 統計とは何か（1）（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第3回 統計とは何か（2） 統計の背後にあるもの 社会的集団 （リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第4回 統計とは何か（3） 社会的集団の認識方法、統計的方法的枠組み(1) 統計集団 （リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第5回 統計とは何か（4） 統計的方法的枠組み(2) 統計単位の標識 （リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第6回 統計とは何か（5） 統計的方法的枠組み(3) 統計集団の分類 （リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第7回 統計とは何か（6） 統計的方法的枠組み(4) 統計値、(5) 統計調査と実態調査（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第8回 統計とは何か（7） 統計方法における記述と解析、社会認識の中の統計利用（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第9回 統計調査の実践と社会的な制約（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第10回 統計調査の諸形態（1）全数調査（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第11回 統計調査の諸形態（2）一部調査、ランダム・サンプリング（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第12回 統計制度と統計体系（1）（リアルタイム型 + 課題提出型）

第13回 統計制度と統計体系（2）（リアルタイム型＋課題提出型）

第14回 統計分類（リアルタイム型＋課題提出型）

第15回 統計資料の理解と検討（リアルタイム型＋課題提出型）

第16回 期末試験（対面授業（一部の回、または前回いずれの場合も含む）が可能な場合のみ。その他の場合には総合的課題に解答する。）

授業外学習（予習・復習）

毎週、プリント配布による宿題を与えて、予習と復習のための課題問題を解答させる。宿題の提出期限は厳守すること。締め切り後の提出は受け付けない。

予習に関わる標準的時間は約2時間

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）

教科書

毎回事前に資料をマナバを通じて配布する。

参考書

大屋・野村・広田・是永編著『統計学』産業統計研究社、1984年。

成績の評価基準

（1：対面授業（一部の回、または前回いずれの場合も含む）が可能な場合）毎週の課題全体を40点満点（40%）とし、授業に取り組む普段の態度を見る。また、期末試験で60点満点（60%）

の評価をする。ここでは授業内容の理解と応用力を見る。

（2：遠隔授業にみの場合）毎週の課題により全体の成績を評価をする。ここでは授業内容の理解と応用力を見る。

いずれにしても、毎回宿題を提出して合格点の評価を得なければ、単位習得は難しい。

オフィスアワー

火曜日1限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

毎回の宿題と期末の総合的課題

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

社会・経済現象と社会・経済理論との関係性を理解できていない者は、そのような関係性を理解できてからから受講することを勧める。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BBX1402

科目名

家族社会学

英語名

Sociology of the Family

開講学科

法経社会学科共通

コース

法経社会学科共通

授業科目区分

法経社会学科 / 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1～4年

担当教員

片桐資津子

連絡先 (TEL)

なし

連絡先 (MAIL)

katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

家族は、私たちにとってきわめて自明な存在である。そんな「家族」は、社会学という学問においてどのように研究されてきたのか？ この学問を学ぶことによって私たちの日常生活や人生にどのような新たな視点をもたらされるのか？ 経済活動、会社組織、学校、地域社会等と家族はいかなる関係があるのか？ 本講義では、家族研究の歴史と現状、そして学問的な見通しを網羅的に紹介するなかで、こういった受講生の疑問に答える。

学修目標

- (1) 研究対象としての家族を理解する。
- (2) 家族問題の視点から日本の時事問題に迫る。
- (3) 私的な家族の在り方が、実は、軍国主義や経済優先主義といった公的な事柄に規定されていることを知る。
- (4) 家族の在り方が社会的要請で決まることを学ぶ。

授業計画

- 第1回：少子社会と家族
 第2回：超高齢社会と家族
 第3回：家族社会学の学説史の概要(1)
 第4回：家族社会学の学説史の概要(2)
 第5回：古代の家族と結婚
 第6回：中世の家族と結婚
 第7回：近世の家族と結婚 歴史人口学の「宗門改帳」のミクロ分析から
 第8回：近代化と家族 家長的家族、近代家族、ポスト近代家族
 第9回：戦前の家長的家族 イエ・ムラとの関係から
 第10回：戦前の家長的家族 軍国主義・富国強兵イデオロギーへの転用
 第11回：戦後の近代家族 高度経済成長とフェミニズム
 第12回：ポスト近代家族 世帯単位から個人単位へ
 第13回：自然村と同族団 日本人の規範
 第14回：社会的ネットワークと家族 ボット論文とアジアの家族の紹介
 第15回：日米国際比較からみる家族 日本の家族の独自性を探る

基本的にすべての授業は、リアルタイムのオンライン型で実施します。ただし受講生のネット接続といった受講環境や、今後の新型コロナウイルス感染状況次第で、授業回数や内容は変更となる可能性があります。

授業外学習(予習・復習)

〔予習〕事前にmanabaに更新された資料を閲覧し、流れをつかむ。知らない言葉等を事前に調べる(学習に関わる標準的時間は2時間)。

〔復習〕manabaに更新された資料を閲覧し、知識の定着をはかる(標準的時間は2時間)。

教科書

テキストは使用しない。毎回、manabaに資料を更新する。

参考書

適宜、授業中に紹介する。

成績の評価基準

授業への取り組み態度（50%）、中間成果物の提出とお披露目会（20%）、最終成果物の提出とお披露目会（30%）による。

オフィスアワ -

毎週月曜3

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

毎回、他の受講生と話し合ってもらい、140字のプチレポートを提出してもらいます

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中4回

備考（受講要件）

パワーポイントが使えること。

実務経験のある教員による実践的授業

なし。

ナンバリングコード

FHS-BBX1305

科目名

憲法人権I (旧 人権論)

英語名

Constitutional Law :Human Rights I

開講学科

法経社会学科共通

コース

法経社会学科共通

授業科目区分

法経社会学科 / 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1~4年

担当教員

大野友也

連絡先 (TEL)

099-285-7640

連絡先 (MAIL)

onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

立憲主義思想を基盤とした人権条項について、その歴史的成り立ちや、日本における各条項の解釈・判例についての講義を行います。

学修目標

- (1) 人権思想について理解する。
- (2) 日本国憲法の人権条項の意義を学ぶ。

授業計画

この講義は、原則対面で行います(担当教員としてはそれを希望している)。また、対面を望まない受講生がいるだろうことも踏まえ、Zoomによる同時配信も行います。対面・遠隔どちらに出席しても期末の評価に影響はしないので、各自で判断してください。

コロナの影響により、15回全てが遠隔授業となる可能性があります。その場合、ズームを使ってやりますので、各自ズームのアカウント(無料)を取得しておいてください。

ネット環境が整っていない学生は、その旨、大野宛にメール(onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp)するか、manabaの掲示板に書き込んでください。大野宛にメールして24時間以上返信がない場合は、必ず掲示板に書き込むこと。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人権総論
- 第3回 人権共有主体 / 私人間効力論
- 第4回 平等権
- 第5回 幸福追求権
- 第6回 思想・良心の自由 / 信教の自由
- 第7回 表現の自由1
- 第8回 表現の自由2
- 第9回 表現の自由3
- 第10回 学問の自由
- 第11回 経済的自由
- 第12回 人身の自由
- 第13回 社会権1(生存権)
- 第14回 社会権2(労働基本権)
- 第15回 社会権3(労働関係法)
- 第16回 試験(期末レポート)

授業外学習(予習・復習)

【予習】参考文献の該当箇所を読んでおく(80分程度)

【復習】講義レジュメや参考文献の該当箇所を再読する(160分程度)

教科書

使用しない。レジユメを配布する。

なお、最低でも憲法条文を用意すること。六法を持参することが望ましいが、ネットなどで憲法条文だけを入手して印刷した上で持参してもよい。また、参考書に挙げているテキストを一冊準備しておくことが望ましい。

参考書

- ・辻村みよ子『憲法 [第6版]』(日本評論社、2018年)
- ・樋口陽一『憲法 [第3版]』(創文社、2007年)
- ・芦部信喜『憲法 [第7版]』(岩波書店、2019年)
- ・長谷部恭男『憲法 [第6版]』(新世社、2014年)
- ・佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂、2011年)
- ・浦部法穂『憲法学教室 [第3版]』(日本評論社、2016年)
- ・高橋和之『立憲主義と日本国憲法 [第3版]』(有斐閣、2013年)
- ・渋谷秀樹『憲法 [第2版]』(有斐閣、2013年)
- ・野中俊彦・中村睦男ほか『憲法I [第5版]』(有斐閣、2012年)
- ・奥平康弘『憲法III 憲法が保障する権利』(有斐閣、1993年)など。各自で読み比べ、もっとも自分に合っていると思ったものを入手してください。また版が新しくなっている場合があるので、書店などで各自確認してください。

成績の評価基準

期末試験(論述)で評価します(100%)。

ただし法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とします。

なお、コロナの影響で、期末試験を期末レポートに代替する可能性があります。

オフィスアワー

火曜日5限目(研究室)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBX1303			
科目名			
法学の基礎			
英語名			
Introduction to Law			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
原田いづみ	099-285-7651		haradaiz@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
この授業では、法律学の初学者向けにその入門的な講義を行う。法律学を学ぶにあたって、必要となる基礎的事項を講義するとともに、実例をもとに、憲法、民法、刑法の基本的な適用場面を講義し、法がいかなる効力を有し、現実の社会においてどのように機能するのかについて理解してもらう。			
学修目標			
(1) 法律学を学ぶために必要な基礎知識の定着をはかる。 (2) 法律がこういった場面で効力を有し、機能するかについて理解する。 (3) 法的な思考方法、表現方法を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス、法学の基礎について 犯罪がなぜ処罰されるのか(刑法の基礎)(オンライン・オンデマンド型)			
第2回 刑罰、罪刑法定主義など(刑法の基礎)(オンライン・オンデマンド型)			
第3回 刑事裁判、捜査(刑事訴訟法の基礎)(オンライン・オンデマンド型)			
第4回 公訴、公判(刑事訴訟法の基礎)(オンライン・オンデマンド型)			
第5回 上訴、少年法(刑事訴訟法の基礎)(オンライン・オンデマンド型)			
第6回 刑事法まとめ(オンライン・オンデマンド型)			
第7回 私人間の紛争解決、不法行為(民法の基礎/不法行為法)(オンライン・オンデマンド型)			
第8回 不法行為法続き、私的自治、契約(民法の基礎/不法行為法、契約法)(オンライン・オンデマンド型)			
第9回 私的自治続き(民法の基礎/契約法)(オンライン・オンデマンド型)			
第10回 契約、債務不履行(民法の基礎/契約法)(オンライン・オンデマンド型)			
第11回 家族、親族、結婚、離婚(民法の基礎/家族法)(オンライン・オンデマンド型)			
第12回 民法まとめ(オンライン・オンデマンド型)			
第13回 法律の制定(憲法の基礎/統治)(オンライン・オンデマンド型)			
第14回 基本的人権(憲法の基礎/人権)(オンライン・オンデマンド型)			
第15回 憲法まとめ、法学の基礎まとめ(オンライン・オンデマンド型)			
授業外学習(予習・復習)			
予習:教科書の該当箇所を読み、自らの疑問点を明確にした上で講義を受講すること。 復習:その日の講義の範囲について、六法を引きながら教科書を再読する。			
教科書			
松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫著『はじめての法律学HとJの物語』第6版(有斐閣、2020年)			
参考書			
道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』第2版(弘文堂、2017年) 岩志和一郎『新版法学の基礎』(成文堂、2010年) 伊藤正己・加藤一郎『現代法学入門』第4版(有斐閣、2005年) 道垣内正人『自分で考えるちょっと違った法学入門』第4版(有斐閣、2019年)			
成績の評価基準			
授業への出席(10%)及び期末試験の結果(90%)によって評価する。なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以			

内とする。

オフィスアワ -

主に授業後の次の時限に実施する。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

遠隔でも教員は発問をするので、それに対して思考、条文の確認をする。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

指定教科書は必ず入手しておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員は法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する。

ナンバリングコード

FHS-BBX1404

科目名

社会教育概論

英語名

Introduction to Social Education

開講学科

法経社会学科共通

コース

法経社会学科共通

授業科目区分

法経社会学科 / 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1～4年

担当教員

農中至

連絡先 (TEL)

0992857603

連絡先 (MAIL)

nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

本講義は、日本における社会教育の歴史と現代的動向について、法制度、国際的な観点なども含めながら解説するものである。第一に、歴史的な成立経緯に焦点をあてる。第二に、現在につづく戦後日本の社会教育実践の動向と特色を確認する。第三に、国際的な関係のなかで、日本の社会教育が有する特性を示す。このほか、現代社会における地域課題に対して、どのような社会教育の取り組みが全国で生じているのかに関する、最新の情報についても提供していく。授業の方法は、リアクションペーパーを準備し、それを活用しながら進めるものであり、発問に対する応答を基本としながら、双方向的な受講生中心型の講義をおこなう。

学修目標

日本社会における教育の大きな二つの体系である、学校教育と社会教育の関係について理解し、日本の教育を統一的かつ構造的に理解できるようになることを目指す。また、学校教育とは異なる社会教育にはどのような固有の価値があるのか、社会教育の地域社会にとっての意味とはなにかについて考えることができるようになる。

授業計画

対面形式を原則とするが、遠隔授業とする場合があるため、マナバを確認すること。

1. オリエンテーション (社会教育とはなにか)
2. 社会教育の誕生と成立 (近代教育制度・国民国家・戦時体制・民主国家建設と社会教育)
3. 戦後社会教育の動向と推移 (敗戦から1960年代まで)
4. 戦後社会教育の動向と推移 (1970年代から1990年代まで)
5. 戦後社会教育の動向と推移 (2000年代から現在まで)
6. 社会教育の対象とはだれか (社会教育の主体について)
7. 社会教育の方法とはなにか (学習内容・編成について)
8. 社会教育の施設とはどこか (社会教育の固有の空間について)
9. 社会教育の法と行財政に関する諸問題
10. 戦後社会教育実践の特色 (女性・ジェンダーと社会教育のかかわりについて)
11. 戦後社会教育実践の特色 (子ども・学校外教育と社会教育のかかわりについて)
12. 戦後社会教育実践の特色 (地域課題解決・地域づくりと社会教育のかかわりについて)
13. 戦後社会教育実践の特色 (高齢者の生きがいと社会教育のかかわりについて)
14. 戦後社会教育実践の特色 (若者・青年の発達課題・自己形成と社会教育のかかわりについて)
15. 戦後社会教育実践の特色 (文化・公害・人権問題と社会教育のかかわりについて)・確認試験レポート

授業外学習 (予習・復習)

予習：事前配布資料およびmanabaに掲載された学習資料を事前に予習する (2時間)

復習：授業の学習内容を振り返り、レポートを作成する (2時間)

教科書

千野陽一監修・社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育【増補版】』エイデル研究所、2015

参考書

- ・牧野篤『「つくる生活」がおもしろい』さくら舎、2017
- ・佐藤一子編著『地域学習の創造』東京大学出版会、2015

成績の評価基準

授業中レポート50%・期末確認試験レポート30%・予習課題の遂行状況20%

オフィスアワ -

水曜日の昼休み中（12時10分から12時50分）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

発問に対するグループ検討およびそれに基づくグループ・個人による発表

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回

備考（受講要件）

社会教育主事資格取得を目指すもの。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BBX1316			
科目名			
企業会計論（旧 会計学総論）			
英語名			
Corporate Accounting			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
北村浩一	099-285-6296		kitamura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員	前後期		
なし	後期		
授業概要			
企業において「会計」はなくてはならない重要なツールであり、企業の根幹を支えるものである。この講義ではその企業における会計＝企業会計に関して、その基礎である会計・企業・社会・経済・経営といった関連事象と結びつけながら学んでいく。			
学修目標			
企業会計とは何であるのか、企業会計が何故企業においてなくてはならない重要なツールであるのか、それを会計・企業・社会・経済・経営といった関連の事象と、自ら結びつけられる様な理解の修得を目指す。			
授業計画			
第1回 ガイダンス～会計から企業会計へ 第2回～第5回 道具としての会計 第6回～第10回 企業会計とは 第11回～第13回 企業会計を取り巻く関連事象 第14回・第15回 講義まとめ～企業会計論とは			
遠隔による授業を予定している。			
授業外学習（予習・復習）			
授業中、適宜指示をする。 予習(2H)・復習(2H)			
教科書			
検定簿記3級商業簿記			
参考書			
授業中に適宜紹介をする。			
成績の評価基準			
(遠隔の場合)毎回の課題により評価する(100%) (対面の場合)期末試験、レポート(レポートは授業時間中に数回行う予定)			
オフィスアワー			
水曜・12時半?～研究室			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
全15回中5回			
備考(受講要件)			
当講義は北村担当の講義「管理会計論」「工業簿記・原価計算論の内容へと密接に関わっていくので、企業・経営・会計に興味のある場合は、関連して受講することが望ましい。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード

FHS-BBX1312

科目名

統計利用論（旧 統計学総論）

英語名

Analysis of Using Statistics

開講学科

法経社会学科共通

コース

法経社会学科共通

授業科目区分

法経社会学科 / 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1～4年

担当教員

松川太一郎

連絡先（TEL）

099-285-7601

連絡先（MAIL）

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

社会・経済現象は、個人が自由意志の下で様々な行為を行った結果の総体的な現れに思われるが、個人の意識レベルを超えた社会・経済そのものの規則性ないし法則性というものがある。こうした規則性・法則性にアプローチする一つの仕方は、社会科学の理論を基礎として一定の統計数字の集合を構成し、そこから統計的な規則性を見出すということである。そのために必要な統計の利用方法について基本を学ぶのが、本講義のテーマである。そこでは、統計値が数字の形をした情報だからといって、自分勝手に四則演算を施すことはできず、社会科学の理論の下で用いるべき統計の系列と用いるべき分析手法が定まることが理解されてくるはずである。

学修目標

自分が抱く社会・経済理論の下で、社会・経済現象の在り方を定めている社会・経済の法則性をとらえるためのアプローチとして、統計値の系列に適切な解析方法を施し統計的規則性を見出すこと。そのために必要な統計情報をインターネットを通じて収集し、収集した情報にエクセルによる計算処理を施す実践に慣れること。

授業計画

- 第1回 統計の利用と加工
- 第2回 度数分布
- 第3回 統計値の諸形態 総量と平均
- 第4回 平均の意味と性質
- 第5回 度数分布のばらつきの尺度
- 第6回 統計比率 (1)静的比率
- 第7回 統計比率 (2)動的比率：個別指数
- 第8回 統計比率 (3)動的比率：総合指数
- 第9回 相関(1)意味と基本形式
- 第10回 相関(2)応用
- 第11回 回帰(1)意味と基本形式
- 第12回 回帰(2)重回帰
- 第13回 回帰(3)統計系列に対する回帰のあてはまり
- 第14回 回帰(4)統計系列における非線形関係と回帰
- 第15回 時系列解析；移動平均法
- 第16回 期末試験（コロナウィルスへの対応によりレポート提出に変更の可能性あり）

授業外学習（予習・復習）

毎週、宿題プリントを与えて、予習と復習のための課題問題を解答させる。
 予習に関わる標準的時間は約2時間
 復習にかかわる標準的時間は2時間

教科書

田中勝人『経済統計』（第3版）岩波書店、2009年。

参考書

適宜指定する。

成績の評価基準

毎週の課題全体を40点満点（40%）とし、授業に取り組む普段の態度を見る。
 また、期末試験（コロナウィルスへの対応によりレポート提出に変更の可能性あり）で60点満点（60%）の評

価をする。ここでは授業内容の理解と応用力を見る。

オフィスアワ -

火曜日 1 限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

毎回の宿題: 統計資料に統計方法を適用した社会経済の認識を实践する。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15 回中 14 回

備考(受講要件)

数学の演算記号 を用いるので、高校の数学で が理解できなかったものは、この授業の理解も困難である。また、宿題では統計値系列に対して計算を施すが、その際には、エクセルを表計算ソフトとして操作するための基本的知識が必要である。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BBX1405			
科目名			
地域社会を学ぶ			
英語名			
Introduction To Community Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
井原慶一郎	099-285-7525 (法文学部学生係)	hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)	
共同担当教員		前後期	
城戸秀之、桑原司、片桐資津子、井原慶一郎、金子満、農中至、酒井佑輔、中島大輔、片野田拓洋		後期	
授業概要			
住民の生活の場として地域社会を捉え、地域社会コースや法経社会学科での学習の基礎となる、コミュニティ研究の観点からのアプローチと知見を紹介する。地域社会コースの担当教員による総合講義である。			
学修目標			
1. 地域社会について問題意識をもつ 2. 地域社会についてのアプローチについての知識を習得する 3. 現代の地域社会の課題を捉えることができる			
授業計画			
本授業の形態は、Zoomアプリケーションを利用したリアルタイム同時配信授業である（課題提出等はmanabaを利用しておこなうので、各教員の指示に従うこと）。			
第1回 「地域社会を学ぶ」とは（井原慶一郎） 第2回 国際比較の視点から地域社会を学ぶ（社会学 片桐資津子） 第3回 行為の観点から社会を学ぶ（社会学 桑原 司） 第4回 現代社会の視点から地域社会を学ぶ（社会学 城戸秀之） 第5回 社会学からとらえる地域社会（城戸秀之） 第6回 自治体政策の現状と課題を学ぶ（鹿児島県の施策を中心に）（自治体政策 片野田 拓洋） 第7回 ヨーロッパとの比較の視点から地域社会を学ぶ（文化研究 中島大輔） 第8回 芸術文化の視点から地域社会を学ぶ（文化研究 井原慶一郎） 第9回 地域社会における自治体政策・文化研究（中島・井原・片野田） 第10回 社会教育・生涯学習を学ぶ1（原論・制度）（社会教育 農中 至） 第11回 社会教育・生涯学習を学ぶ2（地域課題・主体形成）（社会教育 金子 満） 第12回 社会教育・生涯学習を学ぶ3（社会教育計画・方法）（社会教育 小栗有子） 第13回 社会教育・生涯学習を学ぶ4（比較社会教育・学習論）（社会教育 酒井佑輔） 第14回 地域社会における社会教育・生涯学習の研究（まとめ）（小栗・金子・農中・酒井） 第15回 地域社会を学ぶ（井原慶一郎）			
授業外学習（予習・復習）			
予習については適宜指示をする。復習として毎回の資料にある参考文献などにより理解を深めること。目安としては予習2時間、復習2時間。			
教科書			
授業時間ごとに資料を配付する			
参考書			
授業において適宜紹介する			
成績の評価基準			
授業の際に提出する小レポートに基づき評価する（100％）。			
オフィスアワ -			
各時間の担当教員に確認すること。			

アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

2年次に地域社会コースを希望する1年生は受講することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BBX1304

科目名

司法制度論

英語名

Judicial System

開講学科

法経社会学科共通

コース

法経社会学科共通

授業科目区分

法経社会学科 / 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1～4年

担当教員

中島 宏 / 齋藤善人

連絡先 (TEL)

099-285-7633 (中島) /
099-285-3526 (齋藤)

連絡先 (MAIL)

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp (中島) /
saito@leh.kagoshima-u.ac.jp (齋藤)

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

法学を学ぶ上での基礎的知識として、司法制度のしくみとその担い手について学ぶ。

学修目標

- ・司法制度の全体像をイメージできるようになる。
- ・司法制度の担い手(裁判官、検察官、弁護士など)について説明できるようになる。
- ・民事訴訟や刑事訴訟の手続きの概略を説明できるようになる。
- ・家事審判、少年審判、行政訴訟の特色を説明できるようになる。
- ・司法制度の今日的な課題について、基本的な知識に基づく検討ができるようになる。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。ただし、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 ガイダンス / 法と裁判(その1)
- 第2回 法と裁判(その2)
- 第3回 法と裁判(その3)
- 第4回 裁判所と裁判に係わる人々(その1)
- 第5回 裁判所と裁判に係わる人々(その2)
- 第6回 民事訴訟って何?(その1)
- 第7回 民事訴訟って何?(その2)
- 第8回 行政裁判
- 第9回 刑事裁判その1(刑事裁判手続の概要)
- 第10回 刑事裁判その2(刑事裁判における諸問題)
- 第11回 憲法裁判
- 第12回 裁判を受ける権利
- 第13回 国民の司法参加
- 第14回 司法制度改革
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

授業外学習(予習・復習)

予習: 受講前に教科書の該当箇所や配付資料を通読する(60分程度)。

復習: 授業内容を復習して、レポート課題を提出する(60分程度)。

教科書

市川正人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判 第7版』(有斐閣、2017年)

参考書

教科書に掲載されている「文献案内」に記載されている各文献。

成績の評価基準

平常点 50% (授業期間内に行うレポート提出 [6回])

期末試験 50% (学期末に行う筆記式の期末試験)

なお、期末試験については、感染症拡大等の影響により特別な方法で代替することがある。

オフィスアワ -

月曜 4 限 (中島)

火曜 13:30 ~ 14:30 (齋藤)

個別のメールや、manaba上のスレッドによる対応も可。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)**アクティブ・ラーニング (授業回数)**

15回

備考 (受講要件)

とくに設定しない。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BBX1313			
科目名			
経済史入門			
英語名			
Introduction to Economic History			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法経社会学科共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
三浦壮	099-285-8905		miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>経済史は、理論・政策・歴史に分化される経済学の基幹分野のひとつである。本講義では、経済史の基本的な考え方を紹介したうえで、古代から近代初期の日本を対象とし、経済の側面を中心に、わが国の史的展開を講義することで、世界・国家・社会・人間の関係性、在り方を理解できるように努める。講義にあたっては、最新の研究成果を取り入れる。講義を理解するにあたっては、経済学の初歩的な知識が必要とされる。適宜、講義で振り返る。時々映像資料を使用し、理解を深める。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・経済史の考え方を理解できること ・古代から近代初期までの日本経済の歴史を体系的に理解できるようになること 			
授業計画			
<p>1回 オリエンテーション (対面方式)</p> <p>2回 経済史関係の論文の要約 (対面方式)</p> <p>3回 経済史関係の論文のコメント作成 (対面方式)</p> <p>4回 経済史の学術的な位置づけ (対面方式)</p> <p>5回 世界経済の数値 (対面方式)</p> <p>6回 経済の誕生 (対面方式)</p> <p>7回 大航海時代の到来 (対面方式)</p> <p>8回 グローバル経済の登場 (対面方式)</p> <p>9回 律令制国家の誕生と展開 (国際社会と土地制度) (対面方式)</p> <p>10回 中世社会の誕生 (室町幕府と商業資本) (対面方式)</p> <p>11回 中世社会の展開 (織田信長の経済力) (対面方式)</p> <p>12回 中世社会のおわり (秀吉と太閤検地) (対面方式)</p> <p>13回 近世社会の展開 (幕藩制社会の成立) (対面方式)</p> <p>14回 近世社会の展開 (近世の経済水準) (対面方式)</p> <p>15回 近世社会の終焉 (開講と世界貿易) (対面方式)</p> <p>16回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
予習・復習			
各時間での講義内容に関するリサーチ活動 (各回4時間)			
教科書			
なし。レジュメを配布する			
参考書			
その都度指示する			
成績の評価基準			
講義レポートの集積点 (100%)			
毎回レポートを提出する。提出課題は授業内容の要約と感想である。			

3回レポートの提出がなかった者は成績評価の対象外となる。 そのため、授業を欠席する自信がある者は他の授業を受講をすすめる。	
オフィスアワ -	
金曜3限目	
アクティブ・ラーニング	
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；	
アクティブ・ラーニング（その他の内容）	
アクティブ・ラーニング（授業回数）	
16回中15回	
備考（受講要件）	
特になし。	
実務経験のある教員による実践的授業	
特になし。	

ナンバリングコード

FHS-BBX1310

科目名

マクロ経済学II (旧 マクロ経済学)

英語名

Macroeconomics II

開講学科

法経社会学科共通

コース

法経社会学科共通

授業科目区分

法経社会学科 / 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

石塚孔信

連絡先 (TEL)

099-285-7586

連絡先 (MAIL)

ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし。

前後期

前期

授業概要

経済を構成する単位として消費者（家計）と生産者（企業）の行動の分析から始め、さらに、多数の消費者と企業からなる市場の構造の分析へと積み上げていく方法をミクロ的方法という。

一方、一国全体の経済を一つのものとしてとらえる方法をマクロ的方法という。財やサービスの総生産量や総雇用量、総投資量、総資本ストック高などの集計的データの取扱い、その上で公定歩合の切り下げ、国債の発行、公共投資の増加等が総需要にそして景気に与える影響を分析する。

本講義では、マクロ経済学の基礎理論を学ぶことによって、一国全体の経済の構造について考える能力を身につけてもらうことを目的としている。

学修目標

?経済学の考え方や方法論を理解する。

?マクロ経済の外観をイメージする能力を身につける。

?財やサービスの総生産量や総雇用量、総投資量、総資本ストック高などの集計的データの取扱い、その上で財政政策、金融政策が総需要にそして景気に与える影響を分析する能力を身につける。

授業計画

今期は、基本的には全回オンデマンド型の講義で行う。

第1回 基礎概念の把握 (1)

? マクロ経済学とは?

? GDPと景気

マクロ経済学の外観を解説して、景気の良し悪しをはかる基準となるGDPの定義と考え方について解説する。

第2回 基礎概念の把握 (2)

? 日本経済のマクロ経済学的概観

一国のマクロ経済を考える際に重要な経済循環について、最初は2部門（家計、企業部門）で考察し、最終的には4部門経済（企業、家計、政府、外国部門）による経済循環を理解する。

第3回 国民所得の決定理論 (1)

? 45度線モデルによる所得決定 ? 貯蓄と投資および投資乗数について

マクロ経済学の財市場の分析で基本となる45度線モデルについて解説し、その上で均衡国民所得水準を導出し、さらに、投資乗数を用いて乗数理論について説明する。

第4回 国民所得の決定理論 (2)

? 総需要管理政策 ? 減税と政府支出

均衡国民所得と完全雇用国民所得とに乖離がある場合に存在するデフレギャップとインフレギャップについて解説し、総需要をコントロールすることによってそのギャップを埋める政策について説明する。

第5回 投資需要の決定 (1)

? 利子率と債券価格

利子率と債券価格との関係について理論的に考察する。

第6回 投資需要の決定 (2)

? 割引現在価値及び投資決定の理論

割引現在価値の考え方をを用いて利子率と投資の限界効率との関係から投資決定のメカニズムについて考察する。

第7回 貨幣の供給 (1)

? 貨幣とマネーサプライ ? ハイパワードマネーと貨幣供給

貨幣の定義について考察、その後、日銀によるマネーサプライの定義とマネーサプライをコントロールする際に重要なハイパワードマネーについて解説し、ハイパワードマネーとマネーサプライの関係について言及する。

第8回 貨幣の供給 (2)

? 金融政策の手段

日銀の金融政策の代表的な3つの手段について考察する。さらに、ゼロ金利政策や量的緩和政策についても言及する。

第9回 IS - LM分析 (1)

? IS 曲線の性質

財市場の均衡における利子率と国民所得の水準を表す IS 曲線の導出について解説する。

第10回 IS - LM分析 (2)

? LM 曲線の性質

貨幣市場の均衡における利子率と国民所得の水準を表す LM 曲線の導出について解説する。

第11回 IS - LM分析 (3)

? 財政政策と金融政策

財市場と貨幣市場が同時に均衡するときの利子率と国民所得水準を導出して、それを基準に景気対策として有効な財政政策と金融政策について考察する。

第12回 IS - LM分析 (4)

? 流動性のわな ? クラウディングアウト

景気対策としてとられる財政政策と金融政策の有効性と副産物について考察し、より良い経済政策を模索する。

第13回 トピック 1 TPPと日本経済

近年、TPP参加の是非が問われているが、TPPの内容を概観してTPPに参加した場合の日本経済に与える影響を考えてみる。

第14回 トピック 2 アベノミクスの評価

第2次安倍政権は8年余り続いたが、その際のメインの経済政策である「アベノミクス」の評価について検討する。

第15回 トピック 3 消費税増税と日本経済

平成14年4月から8%、平成15年4月から10%に消費税増税が実行されることになっているが、消費税増税が日本経済に与える影響について検討する。

授業外学習 (予習・復習)

- ・予習: manabaに掲載された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約2時間)
- ・復習: 授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は2時間)

教科書

- ・特に指定しないが、マクロ経済学のテキストがあればそれを参考にしてください。

参考書

- 『入門マクロ経済学』中谷 巖 日本評論社 マクロ経済学の概要をわかりやすく説明。
- 『経済学ベーシックゼミナール』西村和雄, 八木尚志 実務教育出版 演習問題を題材に経済理論を丁寧に解説。

成績の評価基準

- ・数回の宿題 (40%)
- ・期末試験の結果 (60%)

オフィスアワ -

授業終了後

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

宿題の提出

アクティブ・ラーニング (授業回数)

4~5回

備考 (受講要件)

- ・マクロ経済学?を受講していることが望ましいが、受講していなくても理解できるように講義を進める。
- ・今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BBX1308

科目名

ミクロ経済学II (旧 ミクロ経済学)

英語名

MicroeconomicsII

開講学科

法経社会学科共通

コース

法経社会学科共通

授業科目区分

法経社会学科 / 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

石塚孔信

連絡先 (TEL)

099-285-7586

連絡先 (MAIL)

ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

現在、ほとんどの先進諸国においては、資源配分、所得分配といった問題を基本的には市場機構に委ねている。市場経済では、資源配分や所得分配のルールは、各経済主体間の取り決めによってつくられている。企業は、自分の責任の下に生産活動を行い、各家計は自らの選択によって労働に従事し、消費を行っている。これらのそれぞれの意思決定を社会的に調整するものが市場メカニズムである。市場経済は、市場における需要と供給を調整する価格メカニズムを組み込んだ経済であり、このメカニズムを解明するのがミクロ経済学の第一の目的である。したがって、ミクロ経済学は、「価格理論」といわれるのである。

本講義では、ミクロ経済学の市場均衡と経済厚生と経済厚生の理論と不完全競争の理論の基本的考え方を講義する。

学修目標

ミクロ経済学の学習は、経済モデルを用いて数量的に分析する事が多いために文科系の学生にとってはハードルが高く思われがちである。しかし、そのハードルを超える事ができれば自分で考える事が容易になるという特徴も持っている。

この講義では、そのハードルを受講生全員が超えることを目標に進めていく。したがって、多くのことをやるよりも教材を厳選して、それを時間をかけて解説することにより、受講生諸君が自分で理解する能力をつけることが出来るようにしたい。

授業計画

次のスケジュールで講義を行う。基本的にはすべてオンデマンド型で進められる。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：ミクロ経済学の概観
- 第3回：消費者行動の理論の復習
- 第4回：企業行動の理論の復習
- 第5回：市場均衡
- 第6回：市場均衡と安定性
- 第7回：市場均衡と余剰分析（1）
- 第8回：市場均衡と余剰分析（2）
- 第9回：純粋交換経済
- 第10回：エッジワースのボックスダイアグラム
- 第11回：市場の失敗（1）
- 第12回：市場の失敗（2）
- 第13回：独占の理論（1）
- 第14回：独占の理論（2）
- 第15回：まとめ

授業外学習（予習・復習）

ミクロ経済学は積み重ねが必要な分野なので、途中で分からなくなるとその後の学習が困難になるために復習(4H)をこまめにやる必要がある。また、予習をして受講してもらうと講義への理解が効果的である。とにかく、理解を先送りしないように努力して欲しい。

教科書

西村和雄『現代経済学入門 ミクロ経済学 第3版』岩波書店、2011年。

参考書

講義中に紹介する。

成績の評価基準

筆記試験 (80%) と宿題の提出 (20%) による。

オフィスアワ -

月曜日の5限

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

講義の内容を定着させるために演習問題を解く。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中5回

備考 (受講要件)

ミクロ経済学Iを履修しておくことが望ましい。(ミクロ経済学Iで履修した内容を基礎に議論が展開されるため)

適宜、演習問題を解いて理解を深める。関連科目として、マクロ経済学I・IIを受講することをお勧めする。遠隔授業になるので、授業計画に変更が出てくる可能性がある。

実務経験のある教員による実践的授業

なし。

ナンバリングコード

FHS-BBX1301

科目名

社会科学基礎演習（旧 基礎演習）

英語名

Preliminary Seminar for Social Science

開講学科

法経社会学科共通

コース

地域社会コース・経済コース

授業科目区分

法経社会学科 / 必修科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

1年

担当教員

王 鏡凱

連絡先（TEL）

099-285-7525（法文学部学生係）

連絡先（MAIL）

kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

経済学・経営学・社会学に関する問題について様々な角度から討論することにより、理解を深める。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。

授業形態：全授業はZOOMによるリアルタイム配信で実施する。

今後のコロナの感染状況やその他の理由により、授業形態を変更する場合がある。

*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある。

学修目標

- (1) 社会科学の基礎知識を修得し、主な研究手法について理解する。
- (2) 研究手法に沿って資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。
- (3) 物事を論理的にかつ直感的に捉える能力を養う。

授業計画

- 第1回 ガイダンス(対面授業)
 第2回 発表と討論(1)(対面授業)
 第3回 発表と討論(2)(対面授業)
 第4回 発表と討論(3)(対面授業)
 第5回 発表と討論(4)(ZOOMによるオンライン型)
 第6回 発表と討論(5)(ZOOMによるオンライン型)
 第7回 発表と討論(6)(ZOOMによるオンライン型)
 第8回 発表と討論(7)(ZOOMによるオンライン型)
 第9回 発表と討論(8)(ZOOMによるオンライン型)
 第10回 発表と討論(9)(ZOOMによるオンライン型)
 第11回 発表と討論(10)(ZOOMによるオンライン型)
 第12回 発表と討論(11)(ZOOMによるオンライン型)
 第13回 発表と討論(12)(ZOOMによるオンライン型)
 第14回 発表と討論(13)(ZOOMによるオンライン型)
 第15回 総括(ZOOMによるオンライン型)

* 授業内容およびテキストについては、受講生研究上の必要性和関心に応じて追加・変更することがある。

今後のコロナの感染状況によっては、授業形態を変更する場合がある。

*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある。

授業外学習（予習・復習）

ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。
 興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。

予習：テキストを事前に予習（学習に関わる標準的時間は約2時間以上）

復習：授業内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間以上）

教科書

特定の教科書は指定せず，受講生の必要性和関心に応じて参考書を用いる．

教科書決定：

1. ミシェル バデリー（著），土方奈美（訳）『〔エッセンシャル版〕行動経済学』，2021年，ハヤカワ文庫NF570．
2. 砂川伸幸 『コーポレート・ファイナンス入門<第2版>』 2017年（日経文庫）

参考書

1. ミシェル バデリー（著），土方奈美（訳）『〔エッセンシャル版〕行動経済学』，2021年，ハヤカワ文庫NF570．
2. 伊藤秀史(著),小林創(著),宮原泰之(著)，『組織の経済学』，2019年，有斐閣．
3. 砂川伸幸 『コーポレート・ファイナンス入門<第2版>』 2017年（日経文庫）
4. 白石俊輔 『経済学で出る数学 ワークブックでじっくりせめる』2013年（日本評論社）

成績の評価基準

複数回の課題レポートで評価(100%)する．

オフィスアワ -

月曜日・3限目．MANABAの掲示板と電子メールにおいても随時受付しております．

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

実験・シミュレーション

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

授業形態：全授業はZOOMによるリアルタイム配信で実施する．

今後のコロナの感染状況やその他の理由により，授業形態を変更する場合がある．

*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある．

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない．

ナンバリングコード			
FHS-BDX1602			
科目名			
エンドユーザ実習II			
英語名			
End-User Computing II			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		地域社会コース・経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
馬場武	099-285-7582		baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>エンドユーザとは、ソフトウェアの最終的な使用者のことを意味しています。エンドユーザ実習IIでは、表計算ソフト (MS Office Excel) を使用した演習を通じて、表計算の基本的な知識や技能について学修します。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフトの基本的な操作技術を修得する 2. 表計算ソフトを用いて、行列データから適切なグラフを作成することができる 3. 表計算ソフトを用いて、計算式や関数によって行列データを加工することができる 			
授業計画			
<p>対面形式でおこなう予定であるが、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>第1回：第1章 第2回：第2章 第3回：第3章 第4回：第4章 第5回：第5章 第6回：第6章 第7回：第7章 第8回：第8章 第9回：第9章 第10回：第10章 第11回：総合課題(1) 第12回：総合課題(2) 第13回：総合課題(3) 第14回：総合課題(4) 第15回：総合課題(5)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：教科書の次回授業範囲を確認する (60分) 復習：授業で実施した範囲をPC上で再度確認する (60分)</p>			
教科書			
『できるExcel2019』, インプレス社。			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
<p>授業内で実施する課題を総合的に評価します (100%)。 なお、必修科目および実習科目のため全ての授業に出席することが前提です。3回以上欠席した (3回以上課題を提出しなかった) 場合には単位を認めません。</p>			
オフィスアワ -			
メールにてアポイントをとってください。zoomなどでも個別対応します。			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

必修科目かつ実習科目なので欠席（課題未提出）は厳禁であることに十分留意すること（出校停止や公欠は除く）。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX1603			
科目名			
エンドユーザ実習III			
英語名			
End-User Computing III			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		地域社会コース・経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
酒井佑輔	099-285-7292		sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>2年次以降の演習や卒業後の職場等での業務において、プレゼンテーションをする機会は多い。プレゼンテーションでしばしば用いるソフトとして、Microsoft社のPowerPointがある。そこで本実習では、PowerPointの使い方を身に付け、実際にプレゼンテーションしてもらいプレゼンテーション能力を向上させることを目標とする。また、メールの送り方やプレゼンテーションのマナー、質疑応答の方法を学ぶことで、社会人としての基礎的な素養を身に付けることができる。</p>			
学修目標			
<p>1. Microsoft社のPowerPointの操作方法を身に付ける。 2. プレゼンテーションの技法を身に付ける。 3. 社会人としての基礎的な素養を身に付ける。</p>			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション 第2回 プレゼンテーション準備 第3回 紙芝居プレゼンテーション 第4回 プレゼンテーション準備 第5回 紙芝居プレゼンテーション 第6回 プレゼンテーション準備 第7回 紙芝居プレゼンテーション 第8回 プレゼンテーション準備 第9回 PPTを用いたプレゼンテーション 第10回 プレゼンテーション準備 第11回 PPTを用いたプレゼンテーション 第12回 プレゼンテーション準備 第13回 PPTを用いたプレゼンテーション 第14回 PPTを用いたプレゼンテーション 第15回 まとめ+最終レポート</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約2時間) 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は2時間)</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
<ul style="list-style-type: none"> ・井上香緒里『できるPowerPoint 2013』インプレス、2013 ・川嶋直『KP法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション』みくに出版、2013 			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (40%) + プレゼンテーション (40%) + 最終レポート (20%)			
オフィスアワ -			
メール等で事前に連絡があれば随時対応。			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全て

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
科目名			
法政特殊講義			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義		2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
共同担当教員			前後期
			前期
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I (ジェンダーと法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Gender and Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
原田いづみ		099-285-7651	haradai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>意思決定機関での女性の比率、性被害における被害者の救済、LGBTQの人たちの人権問題といった現代社会における問題の背景には、ジェンダーバイアス、ジェンダーへの無配慮が存在している。これらの問題を解決するためには、ジェンダーの視点からのアプローチが必要である。本演習では、このようなジェンダーの視点を持った法的な問題解決のアプローチの手法を学んでいく。前期は教員からの問題提起と演習形式を組み合わせる形で進めていく。</p> <p>ジェンダーの基礎からジェンダーと法(内容、適用)の関係まで学ぶ。</p>			
学修目標			
ジェンダーの視点をもった法的な問題解決のアプローチを身につける。			
授業計画			
<p>原則対面方式で行い、情勢によっては遠隔(オンライン、場合によってはオンデマンド)で行う。外部講師の場合は、遠隔で行うこともある。</p> <p>第1回 ガイダンス、演習の狙い、ジェンダー、ジェンダーバイアス一般 第2回 LGBTQ 第3回 LGBTQ続き 第4回 同性婚訴訟弁護団弁護士のお話 第5回 婚姻制度とジェンダー 第6回 性暴力、性被害 第7回 刑事裁判におけるジェンダー 第8回 学生によるテーマ抽出 第9回 雇用の場における性差別 第10回 雇用の場における性差別続き 第11回 意思決定機関での女性の比率と世界の中の日本の状況 第12回 選挙制度とポジティブアクション 第13回 海外の選挙制度(ネパールなど、外部講師) 第14回 学術機関における多様性 第15回 学生によるテーマ抽出、まとめ</p> <p>法律実務に携わる弁護士や、行政担当者などのゲストスピーカーや、教員が行っている性的マイノリティの人権問題についての調査研究の紹介も予定している。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習 演習1週間前に課題を提示するので、検討してくる。</p> <p>復習 演習で出てきた問題点について検証する。</p>			
教科書			
加藤秀一著『はじめてのジェンダー論』(有斐閣ストゥディア、2017年)			
参考書			
石田仁『はじめて学ぶLGBT』(ナツメ社、2019年)			
南和行『同性婚-私たち弁護士夫婦です。』(祥伝社、2015年)			

角田由紀子『性と法律 - 変わったこと、変えたいこと』(岩波新書、2013年)
 辻村みよ子『ポジティブ・アクション - 「法による平等」の技法』(岩波新書、2011年)
 前田健太郎『女性のいない民主主義』(岩波新書、2019年)

成績の評価基準

出席及び発言、課題に対する回答、分担テーマの発表、討論への参加状況を総合的に判定して評価する。

オフィスアワー

木曜5限

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

実際に訴訟や活動をしている弁護士等の法律実務家を呼んで、法的問題への解決の取組みを肌で知ってもらう。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

積極的に演習に参加する意欲のある学生。

実務経験のある教員による実践的授業

教員は弁護士であり、新聞記者、地方自治体弁護士などの経験も有しており、これらの経験を基に多角的な問題解決アプローチの可能性を提示する。

ナンバリングコード

FHS-BCX3320

科目名

演習I (ジェンダーと法)

英語名

Seminar I: Gender and Law

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

学部共通

授業科目区分

法経社会・法学コース/必修科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3年

担当教員

原田いづみ

連絡先 (TEL)

099-285-7651

連絡先 (MAIL)

haradaiz@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

意思決定機関での女性の比率、性被害における被害者の救済、LGBTQの人たちの人権問題といった現代社会における問題の背景には、ジェンダーバイアス、ジェンダーへの無配慮が存在している。これらの問題を解決するためには、ジェンダーの視点からのアプローチが必要である。本演習では、前期の演習を基に、国際的な動向も取り入れ、このようなジェンダーの視点を持った法的な問題解決のアプローチの手法を学んでいく。題材は前期に学修した内容を前提に、ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例を学生それぞれが選択して、検討、報告、討論をする。

学修目標

ジェンダーの視点をもった法的な問題解決のアプローチを身につける。
社会問題や裁判例の検討を通じて実践的な法律の考え方を習得する。

授業計画

原則対面方式で行い、情勢によっては遠隔（オンライン、場合によってはオンデマンド）で行う。外部講師の場合は、遠隔で行うこともある。

第1回 ガイダンス、演習の狙い

第2回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第3回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第4回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第5回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第6回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第7回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第8回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第9回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第10回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第11回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第12回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第13回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第14回 ジェンダーが問題となる社会的事象、裁判例、判例の検討、報告、討論

第15回 まとめ

法律実務に携わる弁護士などのゲストスピーカーも予定している。

リアルタイム型により実施する。

その他、教員が取り組む性的マイノリティの人権問題についての調査研究の紹介や、鹿児島県内の地方都市における女性活躍推進のための方策に対する提言の取り組みも適宜入れる。

授業外学習 (予習・復習)

予習 発表担当者はテーマを決め、発表に備える。

それ以外の者はディスカッションに備える。

復習 演習で出てきた問題点について自分で再度検証する。

教科書

適宜提示

参考書

辻村みよ子著『概説ジェンダーと法』〔第2版〕(信山社、2016年)

成績の評価基準

出席及び発言、課題に対する回答、分担テーマの発表、討論への参加状況を総合的に判定して評価する。

オフィスアワ -

木曜5限

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

実際に訴訟や人権救済活動をしている弁護士等の法律実務家を呼んで、法的問題への解決の取組みを肌で知ってもらう。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

演習に積極的に参加する意欲のある学生。

実務経験のある教員による実践的授業

教員は弁護士であり、新聞記者、地方自治体弁護士などの経験も有しており、これらの経験を基に多角的な問題解決アプローチの可能性を提示する。

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I (法社会学) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Socio-Legal Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
米田憲市	質問等はメールで受け付けます	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp (subject欄に [演習:法社会学] と用件を記載し、本文には氏名と学籍番号を、必ず記載すること)	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>小難しい言い方をすれば、法社会学は、法やルールの社会的性質をその状況的事実とともに明らかにすることを志向し、理解を深めようとする研究実践とその成果の総体の呼称である。</p> <p>この研究領域では、多様な研究主題に多様な研究手法がとられることに鑑み、まず、これまでどのような主題がどのような手法で研究されているのかを明らかにしながら、これとほぼ並行して行う共通主題の調査研究と合わせて、この分野が法に関する研究分野の中で最も自由な性質を持つ分野であることを実感してもらい、「法についての知的で体験的で実践的な冒険」を授業の概要にしたい。</p>			
学修目標			
<p>再び小難しい言い方をすると、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひとつぶ」意欲を持つことを、学修目標とする。</p>			
授業計画			
<p>おおむね、次の5つのテーマに取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いわゆる"法社会学"にはどのような研究があるかリサーチする。 2. いわゆる"法社会学"の研究に、どのような研究手法がとられているかをリサーチする。 3. 法に関する諸場面や諸活動の位置づけや構造を説明する。 4. 新聞やニュースなどで法社会学的な現象を取り上げ、それがいかに法社会学的かを説明する。 5. 日常生活の中の場面にルールを発見し、そのルールを説明する。 <p>対面予定ですが、状況に応じて、課題提出型、オンデマンド型、リアルタイム型を併用します。</p>			
第1回	ガイダンス		
第2回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】	
第3回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】	
第4回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】	
第5回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】	
第6回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】	
第7回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】	
第8回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】	
第9回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】	
第10回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】	
第11回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】	
第12回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】	

第13回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】
第14回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】
第15回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】
授業外学習(予習・復習)		
ゼミでの発表・報告に向けた準備のため、時間外の共同作業が必須である。 また、より充実した成果を上げるために、地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。		
教科書		
指定しない		
参考書		
随時、紹介するとともに、みんなで探す。		
成績の評価基準		
上記、学修目標などに対して、積極的かつ意欲的に取り組んでいるかを基準とする。(100%)		
オフィスアワ -		
月曜5限(その他、随時対応する。)		
アクティブ・ラーニング		
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);		
アクティブ・ラーニング(その他の内容)		
該当なし		
アクティブ・ラーニング(授業回数)		
15回中15回		
備考(受講要件)		
<ul style="list-style-type: none"> ・「法社会学」「法情報論」の在学中の履修(履修後でなくてよい)が必須である。 ・学生の研究活動の進捗や課題に合わせて、開講時間を変更することがある。 ・法情報論ほか法政策学科で開講される、法に関する実践的な科目の受講を推奨する。 ・法社会学の学会、研究発表会に遠征して学修してもらうことがある。 ・繰り返しだが、課外の時間に開催される地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。 ・これまた、繰り返しになるが、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひとつぶ」意欲を持つ者を歓迎する。 		
実務経験のある教員による実践的授業		
該当なし		

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II (法政策論・行政法務論) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Public Policy and Administrative Practice

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp

メールには、必ず学籍番号と氏名
を明記し、パソコンからのメール拒
否設定を解除しておいて下さい。

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

研究論文作成のための指導を行います。報告に当たっては、Wordでの資料作成はもとより、プレゼン用にPowerPointの資料も作成することが必要です。

学修目標

- (1) 行政法における基本的な原理、原則について理解を深める。
- (2) 研究論文を作成する。

授業計画

研究における各プロセスの報告及びこれに対する討論を行います。

- 第1回 報告及び討論
- 第2回 報告及び討論
- 第3回 報告及び討論
- 第4回 報告及び討論
- 第5回 報告及び討論
- 第6回 報告及び討論
- 第7回 報告及び討論
- 第8回 報告及び討論
- 第9回 報告及び討論
- 第10回 報告及び討論
- 第11回 報告及び討論
- 第12回 報告及び討論
- 第13回 報告及び討論
- 第14回 報告及び討論
- 第15回 報告及び討論

授業外学習 (予習・復習)

【予習】

本ゼミでは、報告者以外の参加者についても、能動的かつ積極的に討論に参加することを求めます。したがって、参加者全員が報告テーマについて十分な予習をすることが必要です。報告の資料はWordにより作成し、報告はPowerPointにより行うことを予定しています(報告者にとっては10時間程度、報告者以外の者にとっては2時間程度の予習が必要)。

【復習】

報告テーマに関連して指示された事項について復習してください(2時間程度の復習が必要)。

【その他】

報告者が、他の参加者からの質問等に答えられなかった場合には、当該質問事項等について再度報告する必要

があります (2時間程度)。
教科書
適宜指示します。
参考書
適宜指示します。
成績の評価基準
演習における報告内容 (70%)、討論への参加内容 (30%) により評価します。なお、正当な理由がなく報告をしない場合、あるいは無断で欠席した場合には、単位を与えないことがあるので注意して下さい。
オフィスアワー
水曜日2限目。不在の場合もあるので、メールであらかじめ日程調整をしておくことと確実です。なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、対面ではなくWEBを使った会議システム (ZOOM) により対応する場合があります。
アクティブ・ラーニング
ディベート; プレゼンテーション;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回
備考 (受講要件)
演習Iを受講していることが必要です。
実務経験のある教員による実践的授業
自治体の職員として、25年間にわたり、公共政策の立案などの実務に従事してきました。その経験から法理論だけではなく、臨床面も意識した研究を行っており、その研究成果をみなさんに還元できるような授業を心掛けています。

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II(憲法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
課題研究作成のための指導を行う。			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的理解を深める (2) 論文作成能力を身につける			
授業計画			
この講義は、原則対面で行います(担当教員としてはそれを希望している)。また、対面を望まない受講生がいるだろうことも踏まえ、Zoomによる同時配信も行います。対面・遠隔どちらに出席しても期末の評価に影響はないので、各自で判断してください。			
コロナの影響により、15回全てが遠隔授業となる可能性があります。その場合、ズームを使ってやりますので、各自ズームのアカウント(無料)を取得しておいてください。			
ネット環境が整っていない学生は、その旨、大野宛にメール(onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp)するか、manabaの掲示板に書き込んでください。大野宛にメールして24時間以上返信がない場合は、必ず掲示板に書き込むこと。			
第1回 オリエンテーション、自己紹介【遠隔】 第2回 プレゼン(1)【遠隔】 第3回 プレゼン(2)【遠隔】 第4回 報告(1)【遠隔】 第5回 報告(2)【遠隔】 第6回 報告(3)【遠隔】 第7回 報告(4)【遠隔】 第8回 プレゼン(3)【遠隔】 第9回 報告(5)【遠隔】 第10回 報告(6)【遠隔】 第11回 報告(7)【遠隔】 第12回 報告(8)【遠隔】 第13回 報告(9)【遠隔】 第14回 プレゼン(4) 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと(80分程度)。 【復習】配布したレジュメを再読し、論点を再考すること(160分程度)。			

【課外活動】合宿、社会科見学など、学外での研修等を予定しています。
 コロナの状況次第です。

教科書

各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)

参考書

なし。

成績の評価基準

授業への取り組み態度で評価する。

オフィスアワー

火曜5限目(研究室)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

演習Iを受講していることが必要です。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II(海商法)(旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Maritime Law

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

学部共通

授業科目区分

法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

4年

担当教員

松田忠大

連絡先(TEL)

099-285-7653

連絡先(MAIL)

tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

商取引法IおよびII、演習Iで学習したことを踏まえて、各自が選んだ商法・海商法に関する研究テーマについて研究し、その内容をプレゼンテーション形式で報告するとともに、最終的には論文としてまとめる。

学修目標

- (1) 講義および演習で学習してきた海商法に関する知識および理論を定着させる。
- (2) 法学に関する論説文を書くための知識、技術および能力を身につける。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。

なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回：ガイダンス【対面方式】

第2回：学生による研究報告1【対面方式】

第3回：学生による研究報告2【対面方式】

第4回：学生による研究報告3【対面方式】

第5回：学生による研究報告4【対面方式】

第6回：学生による研究報告5【対面方式】

第7回：学生による研究報告6【対面方式】

第8回：学生による研究報告7【対面方式】

第9回：学生による研究報告8【対面方式】

第10回：学生による研究報告9【対面方式】

第11回：学生による研究報告10【対面方式】

第12回：学生による研究報告11【対面方式】

第13回：学生による研究報告12【対面方式】

第14回：学生による研究報告13【対面方式】

第15回：学生による研究報告14【対面方式】

授業外学習(予習・復習)

予習：自分の研究テーマについての報告内容を事前に準備する(2時間)

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(2時間)

なお、この授業では、国内または国外における学外研修を行うことを予定しています。また、他大学のゼミとの合同研究会の開催も計画しています。

教科書

授業中に適宜指示する。

参考書

授業中に適宜指示する。

成績の評価基準

研究報告の内容および質疑応答など、授業への取り組み態度(100%)で評価します。

オフィスアワ -

毎週火曜日 3 限
アクティブ・ラーニング
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし。
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回
備考 (受講要件)
演習Iを受講している必要があります。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II(海商法)(旧 課題研究)

英語名

Research Seminar II

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

学部共通

授業科目区分

法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

4年

担当教員

松田忠大

連絡先(TEL)

099-285-7653

連絡先(MAIL)

tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

商取引法IおよびII、演習Iで学習したことを踏まえて、各自が選んだ商法・海商法に関する研究テーマについて研究し、その内容をプレゼンテーション形式で報告するとともに、最終的には論文としてまとめる。

学修目標

- (1) 講義および演習で学習してきた海商法に関する知識および理論を定着させる。
- (2) 法学に関する論説文を書くための知識、技術および能力を身につける。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。

なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回：ガイダンス【対面方式】

第2回：学生による研究報告1【対面方式】

第3回：学生による研究報告2【対面方式】

第4回：学生による研究報告3【対面方式】

第5回：学生による研究報告4【対面方式】

第6回：学生による研究報告5【対面方式】

第7回：学生による研究報告6【対面方式】

第8回：学生による研究報告7【対面方式】

第9回：学生による研究報告8【対面方式】

第10回：学生による研究報告9【対面方式】

第11回：学生による研究報告10【対面方式】

第12回：学生による研究報告11【対面方式】

第13回：学生による研究報告12【対面方式】

第14回：学生による研究報告13【対面方式】

第15回：学生による研究報告14【対面方式】

授業外学習(予習・復習)

予習：自分の研究テーマについての報告内容を事前に準備する(2時間)

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(2時間)

なお、この授業では、国内または国外における学外研修を行うことを予定しています。また、他大学のゼミとの合同研究会の開催も計画しています。

教科書

授業中に適宜指示する。

参考書

授業中に適宜指示する。

成績の評価基準

研究報告の内容および質疑応答など、授業への取り組み態度(100%)で評価します。

オフィスアワ -

毎週火曜日 2 限
アクティブ・ラーニング
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし。
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回
備考 (受講要件)
演習Iを受講している必要があります。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II (刑事訴訟法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Criminal Procedure

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

学部共通

授業科目区分

法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

4年

担当教員

中島宏

連絡先 (TEL)

099-285-7633

連絡先 (MAIL)

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

この演習では、刑事訴訟（捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済）の諸問題について、3年次の演習で行ってきた共同研究をさらに進めるとともに、各自のテーマについて研究論文をまとめる。学生の研究報告と討論を中心に進行し、随時、論文の完成に向けた個別指導を行う。また、2年生の演習と合同での討論を行う。

学修目標

- 1) 刑事訴訟法の内容や制度について高度に専門的な知識を踏まえつつ説明できるようになる。
- 2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景や本質を深く分析し、独自の視点から説明できるようになる。
- 3) 刑事訴訟における判例の機能について、様々な事例を踏まえながら、高度に専門的な観点から考察できるようになる。
- 4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、最先端の学説や実務の潮流を踏まえつつ、自説を形成できるようになる。
- 5) 正確で網羅的な文献調査をできるようになる。
- 6) 研究成果を文章および口頭で正しく伝えられるようになる。
- 7) 研究成果を学術論文として公開できるようになる。

授業計画

本授業は対面式で実施する。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 今後の方針決定
- 第2回 研究課題の策定
- 第3回 研究報告と討論（捜査 その1）
- 第4回 研究報告と討論（公訴 その1）
- 第5回 研究報告と討論（公判・証拠 その1）
- 第6回 研究報告と討論（少年法・刑事政策 その1）
- 第7回 研究報告と討論（捜査 その2）
- 第8回 研究報告と討論（公訴 その2）
- 第9回 研究報告と討論（公判・証拠 その2）
- 第10回 研究報告と討論（少年法・刑事政策 その2）
- 第11回 研究論文執筆（捜査 その3）
- 第12回 研究論文執筆（公訴 その3）
- 第13回 研究論文執筆（公判・証拠 その3）
- 第14回 研究論文執筆（少年法・刑事政策 その3）
- 第15回 振り返りと総括

授業外学習（予習・復習）

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習

(研究)のメインである。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である(90分程度)。また、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる(共同研究のマナーとして)(30分程度)。

教科書

特に指定しない。

参考書

各自の研究テーマに応じて随時アドバイスする。

成績の評価基準

研究報告、発言の頻度と内容、卒業論文などの水準を踏まえて評価する。

なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席は厳禁である。複数回繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

オフィスアワー

月曜4限。ただし、指定の時間以外にも随時研究室を訪問して、質問、研究計画の相談、資料閲覧などを積極的に行うことが好ましい。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

演習I(刑事訴訟法)を3年次に受講していること。

主体的に学び問う意欲を持った学生のみ歓迎する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II(商法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Business Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
志田惣一		099-285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>会社法に関する具体的な事例を分析しいかなる法的問題点があるか、解決策はどうかを検討する。 授業は、基礎的な論点を復習した後、学生の報告をもとに検討する。</p>			
学修目標			
<p>演習?における研究成果を踏まえつつこれを発展させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事象(事実関係、判決を含む資料)を正確に分析する能力を身につける。 2 法的推論・思考力を身につける。 3 表現力、論理的で明確な報告(文章)ができるようになる。 			
授業計画			
<p>*本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>会社法に関する裁判例を中心とした会社法の個別問題についての検討。 学生の報告(選択した裁判例に関する分析)を中心に演習を進める(討議・教員による講評)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 会社の法人性 2回 設立(設立に関する責任) 3回 設立(設立中の法律関係) 4回 株式の共有 5回 利益供与 6回 株式の流通・譲渡 7回 募集株式の発行 8回 株式発行の瑕疵 9回 新株予約権・社債 10回 株主総会(決議瑕疵) 11回 取締役と会社の関係 12回 取締役の責任 13回 事業譲渡 14回 帳簿閲覧請求権 15回 合併 			
授業外学習(予習・復習)			
<p>学生の報告に基づき演習を進める。 各自の資料作成・報告準備が学習の中止院となる。 予習: manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(標準的学習時間は2時間) 復習: 授業における学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(2時間)</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			

神田秀樹・会社法・弘文堂・2021 岩原伸作・会社法判例百選・有斐閣・2016年
成績の評価基準
報告(60%)・授業への参加度「討論への取り組み態度等」(40%)
オフィスアワ-
火2限
アクティブ・ラーニング
ディベート; プレゼンテーション;
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
該当なし
アクティブ・ラーニング(授業回数)
10回
備考(受講要件)
演習Iを受講している必要があります。
実務経験のある教員による実践的授業
なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II(商法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Business Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
志田惣一		099-285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>会社法に関する具体的な事例を分析しいかなる法的問題点があるか、解決策はどうかを検討する。 授業は、基礎的な論点を復習した後、学生の報告をもとに検討する。</p>			
学修目標			
<p>前期の演習?における研究成果を踏まえつつこれを発展させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事象(事実関係、判決を含む資料)を正確に分析する能力を身につける。 2 法的推論・思考力を身につける。 3 表現力、論理的で明確な報告(文章)ができるようになる。 			
授業計画			
<p>*本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>事例問題の解決を中心とした会社法の個別問題についての検討。 学生の報告(選択した事例問題に関する分析)を中心に演習を進める(討議・教員による講評)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 会社の法人性 2回 設立(設立に関する責任) 3回 設立(設立中の法律関係) 4回 株式の共有 5回 利益供与 6回 株式の流通・譲渡 7回 募集株式の発行 8回 株式発行の瑕疵 9回 新株予約権・社債 10回 株主総会(決議瑕疵) 11回 取締役と会社の関係 12回 取締役の責任 13回 事業譲渡 14回 帳簿閲覧請求権 15回 合併 			
授業外学習(予習・復習)			
<p>学生の報告に基づき演習を進める。 各自の資料作成・報告準備が学習の中止院となる。 予習: manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(標準的学習時間は2時間) 復習: 授業における学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(2時間)</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			

神田秀樹・会社法・弘文堂・2021

岩原伸作・会社法判例百選・有斐閣・2016年

成績の評価基準

報告(60%)・授業への参加度「討論への取り組み態度等」(40%)

オフィスアワ-

火2限

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

10回

備考(受講要件)

演習Iを受講している必要があります。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II (刑事訴訟法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Criminal Procedure

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

この演習では、刑事訴訟（捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済）の諸問題について、3年次の演習で行ってきた共同研究をさらに進めるとともに、各自のテーマについて研究論文をまとめる。学生の研究報告と討論を中心に進行し、随時、論文の完成に向けた個別指導を行う。また、2年生の演習と合同での討論を行う。

学修目標

- 1) 刑事訴訟法の内容や制度について高度に専門的な知識を踏まえつつ説明できるようになる。
- 2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景や本質を深く分析し、独自の視点から説明できるようになる。
- 3) 刑事訴訟における判例の機能について、様々な事例を踏まえながら、高度に専門的な観点から考察できるようになる。
- 4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、最先端の学説や実務の潮流を踏まえつつ、自説を形成できるようになる。
- 5) 正確で網羅的な文献調査をできるようになる。
- 6) 研究成果を文章および口頭で正しく伝えられるようになる。
- 7) 研究成果を学術論文として公開できるようになる。

授業計画

本授業は対面式で実施する。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 今後の方針決定
- 第2回 研究課題の策定
- 第3回 研究報告と討論（捜査 その1）
- 第4回 研究報告と討論（公訴 その1）
- 第5回 研究報告と討論（公判・証拠 その1）
- 第6回 研究報告と討論（少年法・刑事政策 その1）
- 第7回 研究報告と討論（捜査 その2）
- 第8回 研究報告と討論（公訴 その2）
- 第9回 研究報告と討論（公判・証拠 その2）
- 第10回 研究報告と討論（少年法・刑事政策 その2）
- 第11回 研究論文執筆（捜査 その3）
- 第12回 研究論文執筆（公訴 その3）
- 第13回 研究論文執筆（公判・証拠 その3）
- 第14回 研究論文執筆（少年法・刑事政策 その3）
- 第15回 振り返りと総括

授業外学習（予習・復習）

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習（研究）のメインである。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である(90分程度)。また、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる(共同研究のマナーとして)(30分程度)。

教科書

特に指定しない。

参考書

各自の研究テーマに応じて随時アドバイスする。

成績の評価基準

研究報告、発言の頻度と内容を踏まえて評価する。

なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席は厳禁である。複数回繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

オフィスアワ -

月曜4限。ただし、指定の時間以外にも随時研究室を訪問して、質問、研究計画の相談、資料閲覧などを積極的に行うことが好ましい。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

演習I(刑事訴訟法)を3年次に受講していること。
主体的に学び問う意欲を持った学生のみ歓迎する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301[
科目名			
演習II (法社会学) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Legal Practices			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
米田憲市		099-285-8860	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(必ず件名に「演習?(法社会学):氏名」を入れること)
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
履修学生個々の法社会学に関する研究課題に基づいた研究指導を行う。			
課題提出型、オンデマンド型、リアルタイム型を併用します。			
学修目標			
法社会学の問題関心に基づく研究論文を完成させる。			
授業計画			
第1講 研究指導(1)			
第2講 研究指導(2)			
第3講 研究指導(3)			
第4講 研究指導(4)			
第5講 研究指導(5)			
第6講 中間発表会(1)			
第7講 研究指導(6)			
第8講 研究指導(7)			
第9講 研究指導(8)			
第10講 研究指導(9)			
第11講 中間発表会(2)			
第12講 研究指導(10)			
第13講 研究指導(11)			
第14講 研究指導(12)			
第15講 最終発表会			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導 個々に研究の進捗や課題について随時報告できるようにする。 ・中間発表 論文全体が完成していることを想定してプレゼンを行う。 ・最終発表会 演習?の履修者と合同で開講し、完成した研究を報告発表する。 			
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
研究の進捗に合わせて随時指示される。			
成績の評価基準			
平常点である。ゼミでの取り組みや議論の充実への貢献度による。(100%)			
オフィスアワ -			

随時
アクティブ・ラーニング
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回
備考 (受講要件)
法社会学に関わる演習?を履修していること。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II(法社会学)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Socio-Legal Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
米田憲市		099-285-8860	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(必ず件名に「演習?(法社会学):氏名」を入れること)
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
履修学生個々の法社会学に関する研究課題に基づいた研究指導を行う。			
学修目標			
法社会学の問題関心に基づく研究論文を完成させる。			
授業計画			
第1講 研究指導(1)			
第2講 研究指導(2)			
第3講 研究指導(3)			
第4講 研究指導(4)			
第5講 研究指導(5)			
第6講 中間発表会(1)			
第7講 研究指導(6)			
第8講 研究指導(7)			
第9講 研究指導(8)			
第10講 研究指導(9)			
第11講 中間発表会(2)			
第12講 研究指導(10)			
第13講 研究指導(11)			
第14講 研究指導(12)			
第15講 最終発表会			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導 個々に研究の進捗や課題について随時報告できるようにする。 ・中間発表 論文全体が完成していることを想定してプレゼンを行う。 ・最終発表会 演習?の履修者と合同で開講し、完成した研究を報告発表する。 			
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
研究の進捗に応じて随時指示される。			
成績の評価基準			
平常点である。ゼミでの取り組みや議論の充実への貢献度による。(100%)			
オフィスアワー			
随時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

法社会学に関わる演習14単位と前期の演習IIを履修していること。ただし、それを踏まえてあえてというものも歓迎する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II (行政法・地方自治法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Administrative and Local Government Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

森尾成之

manabaで受け付けます

manabaで受け付けます

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

講義や演習で学んだことを踏まえて、各自が選んだ行政法に関するテーマにつき報告し、それをレポートにまとめる。

学修目標

講義で学んだ理論、判例、学説の理解と演繹。
講義で学んだことを踏まえつつ、自分自身の考えを聞き手に分かるように論理的に表現できるようになること。
学修の成果をレポートにまとめる。

授業計画

前期、後期とも

第1回 ガイダンス
第2回 報告と討論
第3回 報告と討論
第4回 報告と討論
第5回 報告と討論
第6回 報告と討論
第7回 報告と討論
第8回 報告と討論
第9回 報告と討論
第10回 報告と討論
第11回 報告と討論
第12回 報告と討論
第13回 報告と討論
第14回 報告と討論
第15回 報告と討論

授業外学習 (予習・復習)

事前に報告レジюмеに目を通し質問事項を提出ください。事後には報告レジюмеを再確認ください。

教科書

特に指定しない

参考書

必要に応じて指定する

成績の評価基準

ゼミでの参加状況 (報告、発言など) で評価する。

オフィスアワ -

manabaでご連絡くださった後、必要に応じて対応します。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

15回中15回

備考 (受講要件)

演習? (行政法・地方自治法) の単位を 4 単位修得済であること。

実務経験のある教員による実践的授業

実務経験のある教員による授業ではありません。

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II (ジェンダーと法)			
英語名			
Seminar II: Gender and Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
原田いづみ		099-285-7651	haradaiz@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>これまでジェンダーと法について学修してきた内容や書籍の題材を前提に、地方自治体の助成活躍推進施策を検討し、地方におけるジェンダーの問題について検討、報告する。</p> <p>原則対面で行う。情勢によっては遠隔となる。</p>			
学修目標			
<p>ジェンダーの視点をもった法的な問題解決のアプローチを身につけ、自らどのように考え行動すべきかの判断能力を身につける。</p> <p>大学生として求められる調査能力、報告能力を身につける。</p> <p>社会人となる前に、社会人として求められる常識を身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス (対面、オンライン型)</p> <p>第2回 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面、オンライン)</p> <p>第3回 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面、オンライン)</p> <p>第4回 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面、オンライン)</p> <p>第5回 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面、オンライン)</p> <p>第6回 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面、オンライン)</p> <p>第7回 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面、オンライン型)</p> <p>第8回 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面、オンライン型)</p> <p>第9回 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面、オンライン型)</p> <p>第10回 地方自治におけるジェンダー 書籍ワークデザイン検討 (対面、オンライン型)</p> <p>第11回 地方自治におけるジェンダー 書籍ワークデザイン検討 (対面、オンライン型)</p> <p>第12回 地方自治におけるジェンダー 書籍ワークデザイン検討 (対面、オンライン型)</p> <p>第13回 地方自治におけるジェンダー 書籍ワークデザイン検討 (対面、オンライン型)</p> <p>第14回 地方自治におけるジェンダー 書籍ワークデザイン検討 (対面、オンライン型)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>法律実務に携わる弁護士などのゲストスピーカーも予定している。</p> <p>その他、鹿児島県内の地方都市における女性活躍推進のための方策などに対する地方自治体との連携の取り組みも適宜入れる。</p> <p>オンラインは必要に応じてオンデマンドも入れることがある。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
予習 自らの報告の準備			

教科書

ワークデザイン
レジュメ

参考書

辻村みよ子著『ジェンダーと法』第2版(信山社、2016年)

成績の評価基準

出席及び発言、報告内容、討論への参加状況を総合的に判定して評価する。

オフィスアワ -

木曜4限

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

地方自治体の男女共同参画担当課との協働

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

学生同士の討論に参加できる学生
各種レポートや書類について提出期限を守ることができる学生
欠席などの連絡がきちんとできる学生
演習Iを受講している学生
以上が受講要件ですので、注意してください。

実務経験のある教員による実践的授業

教員は弁護士であり、新聞記者、地方自治体弁護士などの経験も有しており、これらの経験を基に多角的な問題解決アプローチの可能性を提示する。

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II (ジェンダーと法)			
英語名			
Seminar II: Gender and Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
原田いづみ		099-285-7651 (原田)	haradaiz@leh.kagoshima-u.ac.jp (原田)
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>これまでジェンダーと法について学修してきた内容や書籍の題材を前提に、地方自治体の助成活躍推進施策を検討し、地方におけるジェンダーの問題について検討、報告する。</p> <p>原則対面で行う。情勢によっては遠隔となる。 学生の事情により対面が難しい場合は、ズームで他の学生が参加する対面実施の講義室にアクセスして参加する方法とする。</p>			
学修目標			
<p>ジェンダーの視点をもった法的な問題解決のアプローチを身につけ、自らどのように考え行動すべきかの判断能力を身につける。 大学生として求められる調査能力、報告能力を身につける。 社会人となる前に、社会人として求められる常識を身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス (対面型) 第2回 書籍ワークデザイン検討 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面) 第3回 書籍ワークデザイン検討 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面) 第4回 書籍ワークデザイン検討 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面) 第5回 書籍ワークデザイン検討 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面) 第6回 書籍ワークデザイン検討 地方自治体の女性活躍推進施策検討 (対面) 第7回 地方自治におけるジェンダー、SDGs 検討 (対面型) 第8回 地方自治におけるジェンダー、SDGs 検討 (対面型) 第9回 地方自治におけるジェンダー、SDGs 検討 (対面型) 第10回 地方自治におけるジェンダー、SDGs 検討 (対面型) 第11回 地方自治におけるジェンダー、SDGs 検討 (対面型) 第12回 地方自治におけるジェンダー、SDGs 検討 (対面型) 第13回 地方自治におけるジェンダー、SDGs 検討 (対面型) 第14回 地方自治におけるジェンダー、SDGs 検討 (対面型) 第15回 まとめ</p> <p>法律実務に携わる弁護士などのゲストスピーカーも予定している。 その他、鹿児島県内の地方都市における女性活躍推進のための方策などに対する地方自治体との連携の取り組みも適宜入れる。</p>			

必要に応じてオンラインも入れることがある。

授業外学習 (予習・復習)

予習 自らの報告の準備

復習 演習で指示された事項

教科書

ワークデザイン、レジュメ

参考書

辻村みよ子著『ジェンダーと法』第2版 (信山社、2016年)

成績の評価基準

出席回数及び発言、報告内容、討論への参加状況を総合的に判定して評価する。

オフィスアワー

木曜 4 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

学生同士の対話や討論に参加する意欲がある学生

各種レポートや書類について提出期限を守ることができる学生

欠席などの連絡がきちんとできる学生

やむを得ない理由を除き演習に出席する学生

manabaの連絡事項を可及的すみやかに確認し、必要な対応をする学生

演習Iを受講している学生

以上が受講要件です。

また、受講を希望する学生は1回目に必ず出席したうえで、上記受講要件などの説明を受けてください。

実務経験のある教員による実践的授業

教員は弁護士であり、新聞記者、地方自治体弁護士などの経験も有しており、これらの経験を基に多角的な問題解決アプローチの可能性を提示する。

ナンバリングコード

FHS-BCX1301

科目名

憲法人権II (旧 法律学特殊講義 (人権論特論))

英語名

Constitutional Law :Human Rights II

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

学部共通

授業科目区分

法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1~4年

担当教員

大野友也

連絡先 (TEL)

099-285-7640

連絡先 (MAIL)

onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

憲法が保障する権利について、様々な問題を受講生に検討してもらい、発表・討論を行います。いわゆるアクティブラーニング型の講義となります。

少なくとも数時間の予習・復習が毎週求められる講義になりますので、履修者はそのつもりでお願いします。また予習・復習はグループワークで行なってもらいます。

グループについてはmanabaで連絡します。

学修目標

1. 憲法が保障する権利についての理解を深める。
2. 自身と異なる見解について、批判的に検討できる。

授業計画

この講義は、原則対面で行います(担当教員としてはそれを希望している)。また、対面を望まない受講生がいるだろうことも踏まえ、Zoomによる同時配信も行います。対面・遠隔どちらに出席しても期末の評価に影響はしないので、各自で判断してください。

コロナの影響により、15回全てが遠隔授業となる可能性があります。

- 第1回：オリエンテーション / 幸福追求権
- 第2回：自己決定権 (1) 校則と自己決定権
- 第3回：自己決定権 (2) 中絶と自己決定権
- 第4回：自己決定権 (3) 安楽死と自己決定権
- 第5回：平等 - 同性婚
- 第6回：思想・良心の自由 - 「君が代」強制の是非
- 第7回：信教の自由と政教分離 - 学校における信教の自由の尊重と政教分離
- 第8回：表現の自由 (1) 性表現の自由
- 第9回：表現の自由 (2) 特定秘密保護法と取材の自由
- 第10回：表現の自由 (3) 広島暴走族追放条例事件
- 第11回：学問の自由 - クローン技術規制法と学問の自由
- 第12回：経済的自由 - 営業の自由とタクシー規制
- 第13回：人身の自由 - 死刑制度
- 第14回：社会権 - 生活保護受給者の権利
- 第15回：教育を受ける権利 - 生徒会誌切り抜き事件

講義テーマは変更があり得ます。その場合、事前に告知します。

講義の代わりに、ゲストスピーカーによる講演会を行うこともあります。

授業外学習 (予習・復習)

講義の1週間前に予習課題を示します。グループでそれをやってきて下さい (120分)。
グループについてはmanabaを通じて連絡します。

また各講義後、課題をグループで行なって提出してください (120分)

教科書

適宜指示します。

参考書

適宜指示します。

成績の評価基準

期末レポート (60%) と平常点 (講義中の発表、課題提出) (40%) で評価します。

ただし法学コースの学生については、秀 (90 点以上) とする人数の上限を成績評価対象者 (他コース・他学科に所属する学生を除く) の20%以内とします。

オフィスアワ -

火曜5限 (研究室)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

「憲法人権I」 (法政策学科生は「人権論」) の内容を前提に行うので、この科目を履修していることが望ましいです (もちろん、未履修でも履修は可能です)。

なお、法政策学科の学生が履修した場合、単位認定科目名は「法政特殊講義 (人権論特論)」となります。

受講に際しZ o o mにログインする際に使用しているメールアドレスを大野宛に連絡してください。連絡方法はメール、manabaいずれでも構いません。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3307			
科目名			
債権法III(旧 債権法)			
英語名			
Debtor and Creditor III			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
采女博文		099-285-7525(法文学部学生係)	hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>授業の範囲は、債権法総論〔民法第3編債権第1章(399条~520条)〕である。内容は、債権の目的、債権の効力、債権の移転、債権の消滅である。債権法総論部分は抽象度の高い規範の集合体であるから、具体的事例の検討も行う(要件事実論の入門を含む)。また、契約法(債権法I)、不法行為法(債権法II)と関連づけて債権法・民法全体の理解度を深めるものとする。</p>			
学修目標			
<p>1. 債権法総論部分の知識(各制度の趣旨, 法律要件と法律効果)を修得する。民法総則、物権法で修得した知識との連続性、総合性のある知識の修得を目標とする。</p> <p>2. 民法全体(民法総則、物権法を含む)を見渡しながら法的な判断ができる能力、規範=ルールを発見する能力を涵養する(法の解釈)。</p> <p>3. ルールを具体的な事件にあてはめて結論を出す実際的能力を身につける(法の適用)。</p>			
授業計画			
<p>「本授業は、オンラインまたはオンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。」</p> <p>第1回 債権法の構造, 債権目的 第2回 種類物債権と特定物債権 第3回 弁済の提供と受領遅滞 第4回 債務の履行(履行請求権, 履行の強制), 第三者による債権侵害, 債務不履行(要件論) 第5回 債務不履行責任(効果論: 損害賠償の範囲、代償請求権) 第6回 責任財産の保全(債権者代位権) 第7回 債権者取消権1(導入、要件論) 第8回 債権者取消権2(効果論) 第9回 多数当事者の債権債務関係、連帯債権、連帯債務 第10回 保証債務1(導入) 第11回 保証債務2(応用, 事例検討) 第12回 個人根保証契約、事業に係る債務についての保証契約 第13回 債権譲渡1(導入) 第14回 債権譲渡2、事例検討)、債務引受、有価証券 第15回 債権の消滅(代物弁済、相殺、弁済による代位、更改・免除・混同など)</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習 事前に指示された教科書と配付資料の該当箇所を学習する。授業は予習(2時間以上)を前提にして進行させる。</p> <p>復習 教科書等の疑問点や各回での設例に解答してみる。復習は2時間以上を要する。</p>			
教科書			
柳/采女編『債権法総論(第3版)』(嵯峨野書院, 2019)			

参考書

参考書・参考資料等

- ・『民法判例百選?債権(第8版)』(有斐閣)
- ・潮見義男・債権総論(第5版)信山社,2018

民法(債権法)改正関係資料

大村敦志,道垣内弘人編『解説 民法(債権法)改正のポイント』有斐閣,2017年
 中田 裕康,大村 敦志,道垣内 弘人,沖野 眞己『講義 債権法改正』商事法務2017年
 日本弁護士連合会『実務解説 改正債権法』弘文堂,2017年
 潮見佳男,北居 功,高須順一,赫高規,中込一洋,松岡久和編『Before/After 民法改正』弘文堂,2017年
 潮見 佳男『民法(債権関係)改正法の概要』きんざい,2017年
 潮見佳男,北居功,高須順一,赫高規,中込一洋,松岡久和編『Before/After 民法改正』弘文堂,2017
 潮見佳男,千葉恵美子,片山直也,山野目章夫編『詳解 改正民法』商事法務,2018年
 筒井健夫,村松秀樹『一問一答 民法(債権関係)改正』商事法務,2018年

成績の評価基準

学生に対する評価

「manaba上での質疑応答、課題提出」(80%),「manaba上での期末試験」(20%)の合計点による。学生の到達度を確かめながら授業を進行させる。

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

manaba上で随時実施する。授業内容への質問等はmanaba上でおこなう。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

授業中の質疑応答として、原告・被告側双方の立場で論理を展開することを求める。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

原則として毎回試みる。

備考(受講要件)

民法総則、物権法を履修していることが望ましいが、必須ではない。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX3314

科目名

会社法II(旧 企業組織法)

英語名

Corporation Law II

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

志田惣一

099-285-7637

icns@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

会社法のうち、前期開講の「企業の法システム」において取り扱わなかった株式会社の機関、計算、組織再編などについて講義します。

学修目標

- (1) 会社法の基本的な考え方を理解する。
- (2) 株式会社の機関(機関総論・株主総会・取締役会等)の仕組みを理解する。
- (3) 株式会社の役員等の責任を理解する。
- (4) 株式会社の計算、社債、組織再編に関する基本的な事項を理解する。
- (5) 会社訴訟の特質を理解する。

授業計画

*本授業は、毎回遠隔形式(課題呈示型)で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 株主総会(手続)
- 第3回 株主総会(決議瑕疵)
- 第4回 役員等の選解任
- 第5回 取締役・取締役会・代表取締役
- 第6回 代表取締役(代表権)
- 第7回 取締役と会社との関係
- 第8回 取締役等の責任
- 第9回 株主代表訴訟・差止請求権
- 第10回 監査役会・監査等委員会・指名委員会等
- 第11回 計算
- 第12回 社債
- 第13回 組織再編(総論・合併)
- 第14回 組織再編(会社分割・その他)
- 第15回 解散・清算、持分会社

授業外学習(予習・復習)

予習として、各回の講義項目につき、教科書の該当する部分を読むこと。また、復習として、講義で話したことを参考に、各講義項目につきまとめをすること

予習: manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(標準的学習時間は2時間)

復習: 授業における学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(2時間)

教科書

神田秀樹『会社法』(弘文堂、2021年)

参考書

岩原紳作他編『会社法判例百選』(有斐閣、2016年)

成績の評価基準

期末試験(70%)、レポート点(20%)、授業への参加度(10%)を総合的に評価する。

* 期末試験(対面式)が実施できない場合、
授業への参加度「到達度小テスト」(80%)、(授業内)レポート(20%)

なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

火曜日2限(研究室)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

13回

備考(受講要件)

特に無し

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3315			
科目名			
商取引法I (旧 企業取引法)			
英語名			
Commercial Transactions Law I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
松田忠大		099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
この授業では、商取引法の基礎をなす商法総則および商行為法の分野を取り扱い、これらの分野の基礎的知識・条文解釈に関する判例および学説について講義する。			
学修目標			
(1) 商法総則・商行為法の基本的な考え方を理解する。			
(2) 各授業項目の基礎的事項を理解する。			
(3) この分野の基本的な法律問題に適切な条文を当てはめ、自分なりの解決策を提案できるようになる。			
授業計画			
この授業は、基本的には、遠隔方式で実施予定であるが、場合によっては対面方式に変更となる可能性がある。なお、授業形態を変更する場合には、予めmanabaのコースニュースや授業時間等に通知する。			
第1回 商法の学び方【遠隔形式】			
第2回 商法の意義・商法の法源とその適用【遠隔形式】			
第3回 商人の意義【遠隔形式】			
第4回 商号【遠隔形式】			
第5回 商業使用人【遠隔形式】			
第6回 営業譲渡【遠隔形式】			
第7回 商業登記【遠隔形式】			
第8回 商業帳簿【遠隔形式】			
第9回 代理商【遠隔形式】			
第10回 商行為の概念【遠隔形式】			
第11回 商行為の特則【遠隔形式】			
第12回 商事売買・交互計算【遠隔形式】			
第13回 仲立営業【遠隔形式】			
第14回 問屋営業【遠隔形式】			
第15回 場屋営業・倉庫営業【遠隔形式】			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：各回の授業項目に対応する教科書の記述およびmanabaに掲載された授業資料を事前に予習する (2時間)。			
復習：各回の授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (2時間)			
教科書			
藤田勝利・北村雅史編『プライマリー商法総則商行為法』〔第4版〕(法律文化社・2018)			
参考書			
神作裕之・藤田友敬編『商法判例百選』(有斐閣・2019)			
成績の評価基準			
期末試験(筆記)80%に、レポート点および授業への取組状況(20%)を評価して加算する。			

オフィスアワ -

毎週火曜日 2 限

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BCX3316

科目名

商取引法II (旧 法律学特殊講義(海商法))

英語名

Commercial Transactions Law II

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

松田忠大

099-285-7653

tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

この講義では、「商行為法」の一部（運送営業）と「海商法」の分野について取り扱います。海商法は海上物品運送を中心とした海上活動を対象とする法分野です。あまり知られていない法分野かもしれませんが、わが国の経済は、国際貿易に支えられており、多くの企業が海上運送に頼って活動しています。したがって、海商法は、海上運送企業のみならず、様々な業種の企業実務に密接に関連しています。海商法の歴史は古く、また、海上運送を中心とする海上活動は、広い海をその舞台とし、諸外国との間で行われることが多いことから、国際性をも兼ね備えた法分野でもあります。この授業では、海商法の基本概念を理解するとともに、海上物品運送契約の内容、海上運送人の責任制度、その他海上航行に関する法制度等を学習します。

学修目標

- (1) 海商法に関する基本的な知識を身につける。
- (2) 商取引法の基礎理論を理解する。
- (3) 商取引の観点からの法的思考能力を身につける。

授業計画

この授業は、基本的には、遠隔方式で実施予定であるが、場合によっては対面方式に変更となる可能性がある。なお、授業形態を変更する場合には、予めmanabaのコースニュースや授業時間等に通知する。

- 第1回：授業ガイダンス・商事売買（1）【遠隔形式】
 第2回：商事売買（2）・仲立人【遠隔形式】
 第3回：問屋営業【遠隔形式】
 第4回：運送契約の意義【遠隔形式】
 第5回：運送契約の効力【遠隔形式】
 第6回：運送人の責任【遠隔形式】
 第7回：海商法の意義【遠隔形式】
 第8回：海商法上の船舶【遠隔形式】
 第9回：船舶運航の主体と補助者（1）【遠隔形式】
 第10回：船舶運航の主体と補助者（2）【遠隔形式】
 第11回：船舶所有者の責任制限【遠隔形式】
 第12回：海上物品運送契約の意義・種類【遠隔形式】
 第13回：船荷証券の意義・船荷証券の効力【遠隔形式】
 第14回：運送契約の履行・海上運送人の責任【遠隔形式】
 第15回：船舶の衝突【遠隔形式】

授業外学習（予習・復習）

予習：各回の授業項目に対応する教科書の記述およびmanabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）。

復習：各回の授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（2時間）

教科書

藤田勝利・北村雅史編『プライマリー商法総則商行為法』〔第4版〕（法律文化社・2018）
 箱井崇史『基本講義 現代海商法』〔第4版〕（成文堂・2021）

参考書

神作裕之・藤田友敬編『商法判例百選』(有斐閣・2019)

成績の評価基準

期末試験(80%)とレポート・授業への取り組み態度(20%)を加味して評価します。

オフィスアワ -

毎週火曜日2限

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中5回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BCX3302

科目名

行政争訟法（旧 行政救済法）

英語名

Administrative Dispute Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース / 選択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

行政法学を構成する分野として、行政法総論、行政組織法及び行政救済法があります。このうち、行政救済法は、行政活動に対する私人の権利救済をどのように実現していくのかという学問領域ですが、この分野はさらに、行政行為をめぐる救済制度について定める行政争訟法と国家補償法に分かれます。この授業では、特に、行政争訟法の全体像及び行政訴訟の典型である「取消訴訟」について、その訴訟要件、審理及び判決の効力について扱います。その後、取消訴訟以外の訟類型の順にとりあげます。最後に、行政不服申立制度を概観します。

学修目標

- (1)行政争訟法の全体像を理解する。
- (2)行政事件訴訟法の論点について理解する。
- (3)行政不服審査法の基本構造を分析する。
- (4)行政訴訟法と行政不服審査法との関係を理解する。
- (5)主要な判例の内容を理解する。

授業計画

本授業は、毎回オンライン形式（オンデマンド併用）で行う予定です。なお、種々の状況によりオンデマンド方式のみ、対面で行うなどに変更する可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。manabaのコースニュースは常に注意して見るようにしてください。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 序論・裁判を受ける権利と多様な行政訴訟
- 第3回 取消訴訟の基本構造
- 第4回 訴訟要件(1) - 被告適格など
- 第5回 訴訟要件(2) - 処分性
- 第6回 訴訟要件(3) - 原告適格
- 第7回 訴訟要件(4) - 狭義の訴えの利益
- 第8回 取消訴訟の審理方法
- 第9回 取消訴訟の終了
- 第10回 出訴期間経過後の救済方法 - 処分の無効等確認訴訟，争点訴訟，公法上の当事者訴訟
- 第11回 義務付け訴訟
- 第12回 差止訴訟
- 第13回 公法上の当事者訴訟
- 第14回 行政不服申立制度(1)
- 第15回 行政不服申立制度(2)
- 第16回 期末レポート（期末テストの場合もあり）

授業外学習（予習・復習）

【予習】manabaにより配布する授業資料を事前に予習する（標準時間は約2時間）

【復習】授業で示された学習内容を振り返り復習を行う（標準時間は約2時間）。

教科書

・大橋洋一『行政法2 現代行政救済論〔第3版〕』（有斐閣、2018）

・授業の際に配布する講義資料（manabaニュースに添付して配布）。
教科書・参考書（判例百選）はできるかぎり、最新のものを購入してください。

参考書

- ・宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選1〔第7版〕』（有斐閣、2017）
- ・宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選2〔第7版〕』（有斐閣、2017）
- ・大橋洋一『行政法1〔第4版〕』（有斐閣、2019）
- ・宇賀克也『行政法概説1〔第7版〕』（有斐閣、2020）
- ・宇賀克也『行政法概説2〔第6版〕』（有斐閣、2018）
- ・宇賀克也『行政法概説3〔第5版〕』（有斐閣、2019）

成績の評価基準

manaba等を通じて出題する3回の課題レポート（期末レポートを除く）30%，期末レポート70%により評価します。ただし、対面による試験実施が可能となった場合には、期末テスト（六法，講義資料，六法全て持ち込み不可）をもって期末レポートに代えることがあります。

【注】法学コースの学生については、秀（90点以上）とする人数の上限を成績評価対象者（他コース・他学科に所属する学生を除く）の20%以内とします。

オフィスアワ -

毎週水曜日2限目。公務による不在の場合もあるので、メールであらかじめ訪問の内容と希望訪問日時を連絡していただくと確実です。ただし、新型コロナウイルス対策のため、WEB上の会議システムZOOMにより対応する場合があります。

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

課題レポートの提出

アクティブ・ラーニング（授業回数）

3回

備考（受講要件）

- 1．行政法総論1及び行政法総論2を受講していることを前提として授業を進めます。
- 2．授業の際には、必ず、六法を用意してください。
- 3．授業で取り上げる裁判例は、各自、事前に予習して講義に臨んでください。
- 4．シラバスの内容は若干変更することがあります。
- 5．合格点が得られない場合にあっても、再レポートの提出、再テストなどによる救済措置は行いません。

実務経験のある教員による実践的授業

自治体の法務担当職員として20年間にわたり訴訟法務などの実務に従事してきました。その経験から法理論だけではなく、臨床面も意識した研究を行っています。その研究成果をみなさんに還元できるような授業を心掛けています。

ナンバリングコード

FHS-BCX3317

科目名

有価証券法

英語名

Negotiable Instrument Law

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

学部共通

授業科目区分

法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

志田惣一

連絡先 (TEL)

099-285-7637

連絡先 (MAIL)

icns@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

有価証券制度の基礎的な理論を理解するために、特に、手形・小切手の経済的機能を念頭に置きつつ、手形法および小切手法の基本的事項を中心に講義を行う。

学修目標

- (1) 手形法および小切手法についての基礎的知識を修得する。
- (2) 商法的なものの見方、考え方を修得する。
- (3) 具体的な裁判例の分析を通して法的思考能力を定着させる。

授業計画

*本授業は、毎回遠隔形式（課題呈示型）で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 有価証券制度の概要
- 第2回 手形行為・手形抗弁論
- 第3回 手形要件・振出
- 第4回 他人による手形行為
- 第5回 手形の偽造と変造
- 第6回 白地手形
- 第7回 手形の裏書
- 第8回 裏書の連続
- 第9回 善意取得
- 第10回 人的抗弁の切断
- 第11回 特殊の裏書
- 第12回 手形保証
- 第13回 支払・遡求
- 第14回 為替手形
- 第15回 小切手

授業外学習（予習・復習）

予習として、各回の講義項目につき、教科書の該当する部分を読むこと。また、復習として、講義で話したことを参考に、各講義項目につきまとめをすること

授業への理解度を確保するための小テストを実施する

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（標準的学習時間は2時間）

復習：授業における学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（2時間）

教科書

神田秀樹他編『手形小切手判例百選』（有斐閣、2014年）

参考書

自習用

早川徹『基本講義 手形・小切手法（ライブラリ法学基本講義）』（新世社、2018年）

その他
成績の評価基準
<p>期末試験（70%）、レポート点（20%）、授業への参加度(10%)を総合的に評価する。</p> <p>* 期末試験（対面式）が実施できない場合、授業への参加度「到達度小テスト」（80%）、（授業内）レポート（20%）</p>
オフィスアワ -
火曜2限
アクティブ・ラーニング
<p>学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；</p> <p style="text-align: center;">アクティブ・ラーニング（その他の内容）</p>
該当なし
アクティブ・ラーニング（授業回数）
10回
備考（受講要件）
特になし
実務経験のある教員による実践的授業
なし

実践演習（模擬裁判）（旧 法律学特殊講義（模擬裁判））
ナンバリングコード

FHS-BCX2332

科目名

実践演習（模擬裁判）（旧 法律学特殊講義（模擬裁判））

英語名

Practice Seminar : Practical Training on Criminal Trial

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

原田いづみ

099-285-7651

haradaiz@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

模擬裁判を実施することを通じて、刑事裁判がどのようなものか体験し、裁判制度の意義や内容について理解を深める。模擬裁判用ではあるが、実際の事件記録を模した資料を使用するので、刑事裁判に対する具体的なイメージをもつことができる。

具体的には、事務所に入った被告人がその場にいた事務員に対してナイフをつきつけて、金員を奪った事案で、弁護士、検察官、被告人の役になり、複数の目撃者の証人尋問や被告人質問を行い、有罪か無罪を決める。

学修目標

1. 刑事裁判とはどのようなものかを知る。
2. 刑事裁判の流れと刑事訴訟法の条文の確認（条文の文言や法律の原理・原則を実際の訴訟行為に結びつけて理解する。）
3. 具体的な事案において、どのような事実があれば犯罪が成立するのかを判断できるようになる。
4. 具体的な事案において、どのような証拠によって事実を認定できるのかを理解する。
5. 法廷という空間の臨場感を味わう。
6. 裁判で明らかになる真実は本当の真実ではなく、裁判所に見えた真実であることを理解する。

授業計画

原則対面方式で実施、情勢によっては遠隔（オンライン、オンデマンド）も織り交ぜる。

第1回 オリエンテーション

- ・刑事裁判の流れの解説。
- ・起訴状について説明
- ・刑事訴訟法上、起訴状についてどのように規定されているか確認、検討する。
- ・捜査記録を見て、これから刑事裁判にかけられる事実について考えてみる。
- ・無罪推定の原則について学ぶ。

第2回 ・捜査記録の見方
・捜査記録を検討

第3回 ・被告人や証人の供述調書を読んで、現場で何が起きたのか、検討する。

第4回 ・起訴状起案（1回目）
・実体法について講義
・講義を受けて起訴状見直し（宿題）

第5回 ・刑事裁判において、裁判官、弁護士、検察官それぞれがどのような役割なのか 学ぶ。
・この裁判で、検察官、弁護士が何を裁判でしなければならないのかを検討する。
・弁護士、検察官のグループわけ。
・被告人、証人役も、弁護士チーム、検察官チームからそれぞれ選ぶ。

- 第 6 回 ・ 検察官の立証方針、弁護人の弁護方針を立て、どういったことを立証するのか を検討する。
- 第 7 回 ・ 証人尋問事項の検討、被告人質問事項の検討
- 第 8 回 ・ 証人との打ち合わせ（検察官）
・ 被告人との打ち合わせ（弁護人）
- 第 9 回 ・ 証人との打ち合わせ（検察官）
・ 被告人との打ち合わせ（弁護人）
- 第 10 回 ・ 証人との打ち合わせ（検察官）
・ 被告人との打ち合わせ（弁護人）
- 第 11 回 ・ 第 1 回公判期日
・ 起訴状朗読、冒頭陳述省略、証人 1 尋問
・ ふりかえり
- 第 12 回 ・ 第 2 回公判期日
・ 証人 2 尋問
・ ふりかえり
- 第 13 回 第 3 回公判期日
・ 被告人質問
・ 論告、弁論
・ ふりかえり
- 第 14 回、合議、判決（結果）を検討
第 4 回公判期日 判決宣告
全員が振り返って結論を検討する。
- 第 15 回 ・ 講評など

進行は、学生の学修状況に応じて適宜修正を加える。

授業外学習（予習・復習）

予習

授業外にグループごとに必要な書面を作成したり、方針を協議するなどの活動を行う必要がある。各回の内容によって異なるが、おおむね90分程度を予定されたい。

復習

次回の準備を行う前提として、前回の講義内容を振り替える必要がある。30分程度。

教科書

資料配付

参考書

田口守一、佐藤博史、白取祐司『目で見える刑事訴訟法教材』第3版（有斐閣、2018年）
原田 國男 著『裁判の非情と人情』（岩波新書、2017年）

成績の評価基準

平常点100%。作成・提出する書面等の内容、尋問・質問などの内容による。
やむをえないもの以外、欠席は減点する。

オフィスアワ -

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

履修登録者が4人以下の場合は開講しない。

在籍する学年までに配当されている刑法・刑事訴訟法関連の科目を履修済みまたは併行履修中であることが望ましい。

manabaの連絡事項を確認する学生。

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員は法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する。

法政特殊講義（民事訴訟法特論）（旧 法律学特殊講義（民事訴訟法特論））
ナンバリングコード

FHS-BCX2330

科目名

法政特殊講義（民事訴訟法特論）（旧 法律学特殊講義（民事訴訟法特論））

英語名

Law, Policy and Political Science

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

齋藤 善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

民事訴訟法特論の中味は、「国際民事訴訟法」である。民事訴訟法?・?が国内の民事訴訟事件を考察対象にしていたのに対し、この授業は、国際的な民事訴訟事件を処理するための手続・ルールを学ぶ。「特論」の意味する所以である。

グローバル化は時代の必然であり、わが国の国民生活は、国際的な物資や人の流れを抜きには成り立たない。かような財や人の交流を基礎づける様々な国際取引は、国民の日常生活に深く浸透している。そして、物品や資金の国境を越えた移動が日常化し、その頻度が増えるほど、当然一定数のトラブルが生じることは回避できない。一旦トラブルが生じると、文化や慣習さらには法制度自体も異なるため、その解決は容易でない事態を招く。

国ごとに文化や裁判の仕組みが異なるため、どこの国の裁判所で裁判されるかによって結論が異なる可能性があるだけでなく、適用される法（準拠法）をどの国の法にするかを定める国際私法（わが国では、「法の適用に関する通則法」）が国によって異なるため、どこの国の裁判所で裁判されるかによって、適用される法も違ってくる。

そこで、国際取引等をめぐる民事訴訟事件について、裁判するためのルールを検討し、明らかにする作業が求められる。これが「国際民事訴訟法」である。この授業においては、テキストを基本に、該当条文の理解を中心に国際民事訴訟法を講ずることになるが、その際、でき得る限り、関連する主要な判例をケーススタディの形で採り上げたい。

学修目標

テキストの内容を正確に「読解する」ことができる。

国際民事訴訟法に係る条文を正しく「読む」ことができる。

国際民事訴訟法の主要な判例の内容を理解し、説明することができる。

授業計画

【1】序論【国際民事訴訟法の世界】

【2】民事裁判権の免除【外国国家の主権的行為と民事裁判権の免除】

【3】国際裁判管轄（1）【国際裁判管轄の法理（管轄配分説 / 「特段の事情」説）】

【4】国際裁判管轄（2）【被告の住所地 / 債務履行地 / 営業所所在地】

【5】国際裁判管轄（3）【不法行為地】

【6】国際裁判管轄（4）【合意管轄】

【7】国際民事訴訟の訴訟物

【8】国際訴訟競合【承認予測説 / 管轄規制説】

【 9 】外国人の訴訟上の地位（ 1 ）【当事者能力 / 訴訟能力】

【 1 0 】外国人の訴訟上の地位（ 2 ）【当事者適格】

【 1 1 】国際司法共助（ 1 ）【外国裁判所への送達】

【 1 2 】国際司法共助（ 2 ）【外国裁判所からの送達】

【 1 3 】国際司法共助（ 3 ）【外国の証拠調べ】

【 1 4 】外国判決の承認・執行（ 1 ）

【 1 5 】外国判決の承認・執行（ 2 ）

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、授業の実施方法など変更を生じる可能性もあり得る。

授業外学習（予習・復習）

受講に際しての準備・事前学習として、講義resume、教科書、配布資料（判例）の通読 / 140分程度。

受講後の理解度の確認作業・疑問点の抽出など / 100分程度。

教科書

本間靖規=中野俊一郎=酒井一・国際民事手続法 [第2版]（有斐閣・平成24年）

参考書

櫻田嘉章=道垣内正人編・国際私法判例百選 [第2版]（有斐閣・平成24年）

古田啓昌・国際民事訴訟法入門（日本評論社・平成24年）

小林秀之=村上正子・国際民事訴訟法（弘文堂・平成21年）

佐藤達文=小林康彦編・一問一答平成23年民事訴訟法等改正（商事法務・平成24年）

小林秀之編集代表・国際裁判管轄の理論と実務（新日本法規・平成29年）

成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する（100%）。なお、授業の場で、予習対象の判例等につき、報告あるいは質疑応答を経由したときには、その都度プロセス評価として、+3から-3点の範囲で、試験の点数に加減することがある。

オフィスアワー

対面の形式でのオフィスアワーは、当面、予定してはいない。個別のメールでの対応や、manaba上のスレッドによる対応となる。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

予習を指示した課題についての質疑応答など。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

備考（受講要件）

とくに履修の必要条件とするものではないが、授業内容を十分に咀嚼し理解するには、民事訴訟法や国際私法を履修していること、そして、民事の実体規範の基本である民法（主に財産法）の基礎を習得していることが求められる。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

キャリア形成演習（法職入門B）（旧 法律学特殊講義（法職入門B））
ナンバリングコード

FHS-BCX2333

科目名

キャリア形成演習（法職入門B）（旧 法律学特殊講義（法職入門B））

英語名

Career Development Seminar : Legal Professions B

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	実習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
原田いづみ、米田憲市		099-285-7651（原田）	haradai@leh.kagoshima-u.ac.jp（原田）
共同担当教員		前後期	
志田惣一、齋藤善人、中島宏、森尾成之、上原大祐		前期	

授業概要

将来、法曹（弁護士・裁判官・検察官）となるため、法科大学院の法学既修者コースへの入学（または、司法試験予備試験の合格）を目指す学生を対象とする。法律基本科目について、事例問題を検討して法的思考能力を高めるとともに、答案を作成して文章での表現力を身につける。

各回とも課題提出型の遠隔授業を実施する。毎回出題する事例問題について学生が作成・提出する答案を添削した上で、講評・指導を行う。

全体を原田・米田が統括するが、各回の授業では様々な法律基本科目を内容とするため、各分野の教員の協力を得る。また、他大学の法科大学院の教員の指導を受ける機会を設ける可能性がある。

学修目標

- 1) 実定法学の各科目に共通して必要とされる法的思考力を身につける。
- 2) 講義等で学ぶ法律知識を用いて具体的な事案を解決するための応用力を鍛える。
- 3) 法的推論を文書によって表現するための基本的な力を身につける。
- 4) 法科大学院における学修や司法試験の受験に対する具体的なイメージを形成する。
- 5) 法科大学院の2年修了コースに合格するために必要な力を身につける。

授業計画

各回において課題提出（毎回）、対面型（随時）、オンデマンド型（随時）、リアルタイム型（随時）を併用します。各回の実施方法は、manabaによって事前に告知します。

なお、感染症の状況が変化した場合は実施方式に変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

科目の順序、担当については変更もあります。

- 第1回 履修確認・ガイダンス及び事例問題（憲法分野1、原田）
対面で実施しますので、必ず指定された教室に来てください。
- 第2回 事例問題（行政法分野1、原田）
- 第3回 事例問題（民法分野1、采女）
- 第4回 事例問題（商法分野1、志田）
- 第5回 事例問題（民訴法分野1、齋藤）
- 第6回 事例問題（刑訴法分野1、中島）
- 第7回 事例問題（刑法分野1、上原）
- 第8回 事例問題（行政法分野2、森尾）
- 第9回 事例問題（憲法分野2、原田）
- 第10回 法科大学院教員による民法講義【オンライン型】
- 第11回 事例問題（商法分野2、志田）

第12回 事例問題（民訴法分野2、齋藤）
 第13回 事例問題（刑法分野2、上原）
 第14回 事例問題（刑訴法分野2、中島）
 第15回 法科大学院教員による行政法講義【オンライン型】

授業外学習（予習・復習）

予習

出題される分野の関連知識を各自で確認する。60分程度

復習

事例問題の答案を提出して添削指導を受けることによって遠隔授業の受講が成立する。受講後は、返却された答案について、添削の内容や講評の内容を参考にしながら見直しを行い、必要があれば書き直すことが求められる。120分程度

教科書

特に定めない。

参考書

適宜指示する。

成績の評価基準

毎回行う答案提出の状況とその点数によって評価する。

オフィスアワー

追って指定する。なお、質問等での研究室訪問は随時可。

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

答案作成及びこれに対する起案指導

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

開講目的を確実に達成するため、履修者の上限を20名とする。履修希望者がこれを超えた場合は、過去の法律科目の成績等を参考にして選抜を行う。選抜方法等については、別途掲示するので注意すること。

履修希望者は、所定の期間に履修申請を行った上で、第1回目の授業（対面）に必ず出席すること。第1回目の授業にやむを得ない事情で参加できない者は、開講前日までに原田に連絡し、面談等の指示を受けること。

- ・法曹（あるいはそれに準じる法律専門職）を目指して学習することを前提とする。
- ・法学コースで開講されている法律科目を体系的に学習し、成果を上げていることを前提とする。

実務経験のある教員による実践的授業

法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する教員が他の教員と共同で担当する。

ナンバリングコード			
FHS-BCX3318			
科目名			
労働法（旧 雇用の法と政策）			
英語名			
Labour Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
畑井清隆	099-285-7525（法文学部学生係）	hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp （法文学部学生係）	
共同担当教員	前後期		
なし	後期		
授業概要			
労働法の基本的事項を法令の規定および判例を紹介しながら講義します。			
学修目標			
労働法の体系ならびに基本的な法令の規定および判例の概要など労働法の基本的事項について説明することができる。			
授業計画			
本授業は、毎回、遠隔授業（かつオンデマンド）で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 労働法の課題と役割（第1章）・労働法上の当事者（第2章）			
第2回 有期労働契約（第4章）			
第3回 労働契約上の権利・義務（第5章） 第1、2回の小テスト			
第4回 就業規則と労働契約（第6章）			
第5回 労働契約の変更（第7章）・人事異動・配転・出向（第8章）			
第6回 懲戒（第10章）・解雇（第11章） 第3～5回の小テスト			
第7回 平等・均衡と人権（第13章）			
第8回 雇用平等（第14章）			
第9回 賃金（第16章） 第6～8回の小テスト			
第10回 労働時間（第17章）			
第11回 休憩・休日と年次有給休暇（第18章）			
第12回 労働組合（第21章）・団体交渉（第22章） 第9～11回の小テスト			
第13回 労働協約（第23章）			
第14回 団体行動（第24章）			
第15回 不当労働行為（第25章） 第12～14回の小テスト			
授業外学習（予習・復習）			
・予習：manabaに掲載された教科書の該当箇所を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は2時間）。			
・復習：授業で提示された学習内容を振り返り、また、小テストに向けて、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）。			
教科書			
・野田進・山下昇・柳澤武（編）『判例労働法入門（第7版）』（有斐閣、2021年9月27日刊行予定）。			
参考書			
・菅野和夫『労働法（第12版）』（弘文堂、2019年）等。			
成績の評価基準			
・小テスト（20%×5回＝100%）			
・小テストは、manabaのレポート機能を使用して、計5回実施します。			

オフィスアワ -

随時、manabaにて受け付けます。

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

学習内容の定着を確認するために小テストを実施します。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

5回実施。

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

民事訴訟法II (旧 法律学特殊講義 (民事紛争処理手続特論))
ナンバリングコード

FHS-BCX3308

科目名

民事訴訟法II (旧 法律学特殊講義 (民事紛争処理手続特論))

英語名

Civil Procedure II

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
齋藤 善人		099-285-3526	saito@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

この授業は、前学期に開講された民事訴訟法1の授業を引き継ぐ形で実施される。ゆえに、そのコンセプトに変わるところはなく、ここでは、大きな民事紛争解決手続の流れを把握するのみではなく、民事訴訟手続の各場面で生起する主要な論点にフォーカスし、条文の解釈や判例法理の検討を通して、重要な論点を考察し、理解する力を涵養したい。基本書を咀嚼できる読解力を身に着けるとともに、本格的なケース・メソッド(判例研究)への橋渡しを意図したケース・スタディの方式を通じて、時に演繹的に、また場合によっては帰納的に、民事訴訟法の基礎理論を学習するという方法論を採用したい。

その際、制度趣旨とか定義といった基本概念については、適宜簡明に説明することに留意し、基本的な概念と論点の関係を把握して思考できるような能力の開発に資するようにしたい。なお、基本的事項については、教科書や参考文献等を検索すれば、記されているところであり、その点で受講生各位の自学自習が不可欠の要素となる。それを前提に、授業の場では、できる限り判例教材などを用いて、論点を具体的に考察することを試みたい。もちろん、「考察する」ためには、必要最小限の正確な基礎学力(基本概念等の理解)が不可欠なことは承知しているが、授業が単なる知識の伝達に終始することは本旨でない。その意味で、所期の成果を達成し得る授業を構築するには、受講生各位の協力が是非とも必要となるだろう。

学修目標

民事訴訟法の主要な論点を素材に、自らテキストなど文献を検索し、それを正しく「読解する」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に係る条文を正確に「読む」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に関する判例法理を理解し、その内容を説明することができる。

民事訴訟法の主要な論点につき、基本概念や定義、判例を踏まえて思考回路を設計し、説明することができる。

授業計画

- 【1】 弁論主義【主要事実と間接事実】/ 自白の拘束力【自白の成立要件/ 撤回要件/ 権利自白】
- 【2】 証明責任【自由心証主義と訴訟上の証明/ 証明責任の分配】
- 【3】 証拠の収集【書証(文書の証拠調べ/ 二段の推定)/ 文書提出命令】
- 【4】 既判力の時的範囲【基準時と遮断効/ 基準時後の取消権】
- 【5】 処分権主義【引換給付判決/ 債務不存在確認請求の訴え】
- 【6】 既判力の客観的範囲(1)【判決主文と理由中の判断/ 相殺の抗弁】
- 【7】 既判力の客観的範囲(2)【争点効/ 信義則による後訴の遮断】
- 【8】 既判力の主観的範囲(1)【既判力の相対性と人的範囲の拡張/ 口頭弁論終結後の承継人】

【9】既判力の主観的範囲(2)【反射効】

【10】通常共同訴訟

【11】必要的共同訴訟【固有必要的共同訴訟 / 類似必要的共同訴訟】

【12】訴えの主観的併合【追加的併合 / 予備的併合と同時審判申出共同訴訟】

【13】補助参加と訴訟告知

【14】独立当事者参加 / 訴訟承継

【15】上訴【上訴の利益 / 控訴と上告】 / 再審

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、変更を生じる可能性もあり得る。

授業外学習(予習・復習)

受講に際しての準備・事前学習として、講義resume、教科書、配布資料(判例)の通読 / 140分程度。

受講後の理解度の確認作業・疑問点の抽出など / 100分程度。

教科書

野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法(北樹出版・平成30年)

参考書

【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論(有斐閣・平成28年)
川嶋四郎・民事訴訟法概説[第2版](弘文堂・平成28年)
和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法(商事法務・平成24年)
山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)

【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法(上)[第2版補訂版]、(下)[第2版補訂版](有斐閣・平成25、26年)

伊藤眞・民事訴訟法[第6版](有斐閣・平成30年)
川嶋四郎・民事訴訟法(日本評論社・平成25年)
河野正憲・民事訴訟法(有斐閣・平成21年)
小島武司・民事訴訟法(有斐閣・平成25年)
新堂幸司・民事訴訟法[第5版](弘文堂・平成23年)
中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義[第3版](有斐閣・平成30年)
藤田広美・講義民事訴訟[第3版](東大出版会・平成25年)
藤田広美・解析民事訴訟[第2版](東大出版会・平成25年)
松本博之=上野泰男・民事訴訟法[第8版](弘文堂・平成27年)
三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法[第2版](有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタール民事訴訟法1[第2版追補版]、2[第2版]、3、4、5、6(日本評論社・平成26、18、20、22、24、26年)

松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法[第2版](弘文堂・平成23年)

加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法1、2(日本評論社・平成30年)

笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法[第2版](日本評論社・平成25年)

【4】学習用判例教材

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法(弘文堂・平成31年)

高橋宏志=高田裕成=畑瑞穂編・民事訴訟法判例百選[第5版](有斐閣・平成27年)

成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する(100%)。なお、授業の場で、予習対象の判例等につき、報告あるいは質疑応答を経由したときには、その都度プロセス評価として、+3から-3点の範囲で、試験の点数に加減することがある。

なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

対面の形式でのオフィスアワーは、当面、実施することを予定していない。個別のメールによる対応や、manaba上のスレッドによる対応となる。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

予習を指示した課題についての質疑応答など。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

備考(受講要件)

受講生各位が、判例等を素材にして具体的に「考える」作業に取り組む授業にできれば理想的だろう。判例の事案を理解するには、多くの場合、その前提として、民法(主に財産法)の基本的理解を要するはずなので、受講生各位には、その部分の事前学習も求められよう。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BCX3319			
科目名			
企業法務論			
英語名			
Theory of the Firm			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
松田忠大、米田憲市	米田：099-284-8860 松田：099-285-7653	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp (subject欄に、科目名、氏名、学籍番号を必ず記載すること)	
共同担当教員	前後期		
該当なし	後期		
授業概要			
現在調整中です。興味のある人は責任教員の米田憲市先生に現段階での情報を問い合わせして下さい。			
学修目標			
1. 企業法務という実務領域の実態を学び、その概要を説明できるようになる。 2. 「企業法務」という実務領域の発展と現状について学び、その概要を説明できるようになる。 3. 企業法務で扱う諸業務について学び、その概要を説明できるようになる。			
授業計画			
この授業は、基本的には、遠隔方式で実施予定であるが、場合によっては対面方式に変更となる可能性がある。なお、授業形態を変更する場合には、予めmanabaのコースニュースや授業時間等に通知する。			
第1講 企業法務の役割 第2講 企業法務のキャリア 第3講 企業法務への来歴 第4講から14講までは、下記のうちから、教員が適宜選択したものを取り上げる。 <ul style="list-style-type: none"> 契約の審査と管理 取締役会運営 インサイダー取引 株主総会運営 知的財産権 危機管理 グローバル法務 贈収賄防止 訴訟 下請法 育成・評価・採用・弁護士 競争法 コンプライアンス 景品表示 消費者対応 債権回収 事業再編 M & A 情報管理 ハラスメント 			

第15講 企業法務の横のつながり

授業外学習（予習・復習）

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（2時間）

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（2時間）

教科書

教科書を変更します。（9/9）

参考書

経営法友会（編集）『新型コロナ危機下の企業法務部門』商事法務（2020）経営法友会企業法務入門テキスト
編集委員会編著『企業法務入門テキスト ありのままの法務』商事法務（2016）
のほか、適宜指示する。

成績の評価基準

最終レポート：50%（特徴のある方法で実施するので、授業で説明をよく聞くこと。）

提出物（ネット上のコメントなどを含む）：20%

その他：授業の充実への貢献などで20%

オフィスアワー

随時。上記mailで事前アポがあることが望ましいが、遠慮する必要はない。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

随時質問をすることにより、双方向多方向の授業を展開する。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

FHS-BCX3305

科目名

刑法各論II(旧 法律学特殊講義(犯罪と刑罰特論))

英語名

Criminal Law:Specific Offences II

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

上原大祐

099-285-7626

embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

刑法各論のうち財産犯についての講義を行います。刑法は法規範の一つですが、刑罰という峻厳な強制力を有する点に他の法規範には見られない特徴があり、それ故、条文解釈においては場当たりのにならないよう緻密な議論がなされています。他方、法益侵害が発生したならば適切な規定を適用し、社会秩序を維持して法益の保護が図られなければならないのも当然です。条文を解釈するにあたっては、メリット・デメリットを意識しながら結論を導くことが求められます。

財産犯は、他の法益を保護する犯罪よりも複雑な様相を呈しているといっても過言ではありません。それは、法益が(ほぼ)同じであり、行為態様の相違によって成立する犯罪が区別されていると見得るからでしょう。それから、各犯罪の相互関係が重要となってきます。本講義では、事例を頻繁に用いつつ、各犯罪の成立要件を考察し、犯罪相互の関係を明らかにしていきます。

学修目標

以下の点の修得を目標とします。

1. 財産犯の保護法益、行為の客体等、財産犯の基本的事項について理解する。
2. 各財産犯の成立要件を理解し、各財産犯相互の関係について把握する。
3. 判例や主要な学説を理解し、多角的視野に基づいて結論を導くことができるようにする。

授業計画

本授業は、毎回リアルタイム配信形式で行い、それを録画したものをオンデマンド形式でも配信する予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内等において通知する。

第1回 財産犯総論・壹(客体等)

第2回 財産犯総論・貳(保護法益、不法領得の意思)

第3回 窃盗罪・壹:占有の意義等

第4回 窃盗罪・貳:窃取行為,不動産侵奪罪・親族相盗例

第5回 強盗罪・壹:強盗罪総論

第6回 強盗罪・貳:事後強盗罪,準強盗罪,240条

第7回 詐欺罪・壹:詐欺罪総論

第8回 詐欺罪・貳:財物・財産上の利益の移転,準詐欺罪,電子計算機使用詐欺罪

第9回 恐喝罪

第10回 横領罪・壹:横領罪総論

第11回 横領罪・貳:業務上横領罪,遺失物等横領罪

第12回 背任罪:背任罪総論,横領と背任の区別

第13回 盗品等に関する罪:盗品等関与罪

第14回 毀棄及び隠匿に関する罪:毀棄罪,器物損壊罪,隠匿罪等

第15回 財産犯の現代的問題

第16回 試験

授業外学習(予習・復習)

【予習】 事前に配布するレジюмеに目を通し、レジюмеで挙げられている教科書の該当箇所を通読する(約2時間)

【復習】 授業で扱った内容につき、レジюмеで復習し、理解が十分でない箇所は教科書で再確認する(約2時間)。

教科書

井田良=城下裕二編『刑法各論判例インデックス』(2016年・商事法務)

参考書

木村光江『刑法 第4版』(2018年・東京大学出版会)

成績の評価基準

通常の授業の履修態度および期末試験(論述式を含む)を総合して評価する(期末レポートの形で行う可能性あり)【期末試験90%,その他10%】

なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワ -

月曜12:00~12:50

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員の質問等を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全回

備考(受講要件)

授業には六法を持参すること。刑法総論?をすでに受講していることが望ましいですが、必要に応じて総論に関する事項につき補足しますので、それらの科目を受講していない人でも本講義を受講して構いません。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX3306

科目名

刑事訴訟法II(旧 刑事訴訟法)

英語名

Criminal Procedure II

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
中島宏		099-285-7633	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

この科目では、刑事訴訟法が規定する内容のうち、公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済に関する部分を扱う。すなわち、捜査を遂げた事件について検察官が裁判に公訴を提起し、これを受けて裁判所における公判手続き(およびその準備のための手続き)が開始され、一定の要件を満たした証拠に基づいて事実認定と刑の量定がなされて判決が言い渡されるまでの手続き、さらには、誤った判決を是正するための上訴・非常救済手続きについて学ぶ。各段階における手続きの概要を理解したうえで、刑事訴訟法の解釈論上の争点を、判例などを素材にして検討していく。

刑事訴訟は、犯罪に対して刑罰を科すための手続きである。具体的な事案について、捜査がなされ、被告人が起訴されて、公判において有罪が立証され、判決が言い渡されなければ、刑法の規定する内容も「絵に描いた餅」となってしまうだろう。その意味で、刑事訴訟法を学ぶことは、刑事法全体の中でも、刑法に匹敵する重要な意味をもつ。さらに裁判員制度の導入によって、犯罪捜査や刑事裁判の手続きに関する知識は、専門職に就く者だけでなく、すべての市民にとって必要なものとなっている。

なお、他の学期に別途に開講する「刑事訴訟法I」(2018年度以前入学生は「法律学特殊講義(捜査法)」)では、事件が起訴される前に行われる捜査手続きに関する部分を扱っている。できるだけ両科目をあわせて履修することが望ましい。

学修目標

- (1)公判・証拠・裁判・救済手続きの基本原則を正確に理解して説明できるようになる。
- (2)公判手続きと証拠法の運用における実状を把握して説明できるようになる。
- (3)公判・証拠・裁判・救済手続きをめぐる刑事訴訟法の解釈における重要論点について、判例・学説の正しい理解に基づき、具体例を用いながら説明できるようになる。
- (4)判例の分析を通じて、公判・証拠・裁判・救済手続きに関わる具体的な事例に刑訴法の規定を解釈・適用して結論を示すことができるようになる。

授業計画

本授業は、毎回(1)オンデマンド動画の配信と(2)Zoomミーティングによるオンライン授業の両方を組み合わせて行う。学生が動画をあらかじめ視聴した上で、オンライン授業に参加することになる。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。」

- 第1回...オリエンテーション・公訴総説
- 第2回...公訴提起の手続き
- 第3回...審判の対象
- 第4回...公判前整理手続き
- 第5回...公判の諸原則
- 第6回...公判手続き
- 第7回...裁判員の参加する刑事手続き
- 第8回...証拠法総論

第9回...関連性
 第10回...違法収集証拠排除法則
 第11回...自白
 第12回...伝聞法則(1)
 第13回...伝聞法則(2)
 第14回...公判の裁判
 第15回...救済手続き

授業外学習 (予習・復習)

予習

オンデマンド方式で行うため、講義動画視聴前の予習は不要。

復習

- (1) 講義動画をオンデマンドで視聴後、manabaでワークシートに回答して提出する。
- (2) 質問や補足説明のためのZoomミーティングに参加し、質疑応答や議論を行う。
- (3) さらに疑問などがあれば、manabaの掲示板に書き込みをする。120分程度。

教科書

- 1) 三井誠・酒巻匡『入門刑事手続法(第8版)』(有斐閣、2020年)
- 2) 井上正仁編『刑事訴訟法判例百選(第10版)』(有斐閣、2016年)

なお、法曹志望の学生は上記(1)に代えて、下記のいずれか1冊を使用すること。

- 酒巻匡『刑事訴訟法 第2版』(有斐閣、2020年)
- 宇藤崇・松田岳士・堀江慎司『刑事訴訟法』第2版(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2018年)

参考書

体系書

田宮裕『刑事訴訟法(新版)』(有斐閣、1996年)

注釈書

- 松尾浩也監修『条解刑事訴訟法[第4版増補版]』(弘文堂、2016年)
- 河上和雄・中山善房ほか『大コンメンタール刑事訴訟法[第2版]』全10巻
- 三井誠ほか『新基本法コンメンタール 刑事訴訟法[第2版追補版]』(日本評論社、2017年)
- 後藤昭ほか『新・コンメンタール刑事訴訟法(第3版)』(日本評論社、2018年)

成績の評価基準

期末試験(70%)、ワークシート(30%)

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

月曜4限。ただし、指定の時間以外でも質問などのため研究室を積極的に訪問することを歓迎する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回

備考(受講要件)

自ら主体的に学び問う意欲のある者だけを「学生」と認める。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

国家補償法（旧 法律学特殊講義（行政救済法特論））
ナンバリングコード

FHS-BCX3301

科目名

国家補償法（旧 法律学特殊講義（行政救済法特論））

英語名

State compensation law

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
森尾成之		manabaで受け付けます	manabaで受け付けます
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

国内法体系は、憲法を頂点として、私的な当事者間の相対的な利害調整を行う民事法、犯罪・刑罰に関する刑事と、多数者間の利害を調整する行政法の3分野に大きく分類されます。
この中の、行政救済法のうち国家補償法の分野が本講の対象です。

学修目標

行政救済法分野のうち国家補償法分野について理解を深めることを目標とする。

授業計画

- 第1回：国家補償法概観
 - 第2回：国家賠償（1）国家賠償制度の沿革、民法と国家賠償
 - 第3回：国家賠償（2）国賠法1条（公権力の行使、公務員、職務を行うについて）
 - 第4回：国家賠償（3）国賠法1条（違法行為）
 - 第5回：国家賠償（4）国賠法1条（過失）
 - 第6回：国家賠償（5）国賠法1条（危険防止責任）
 - 第7回：国家賠償（6）国賠法2条（道路管理）
 - 第8回：国家賠償（7）国賠法2条（河川管理、機能的瑕疵）
 - 第9回：国家賠償（8）国賠法3条等（費用負担者、民法・特別法との関係、相互保証主義）
 - 第10回：損失補償（1）憲法29条の損失補償、土地収用
 - 第11回：損失補償（2）補償の要否、補償の範囲
 - 第12回：損失補償（3）事業損失、文化財的価値の補償、生活補償
 - 第13回：行政上の利害の調整のための制度
 - 第14回：国家補償の谷間（予防接種禍、犯罪被害者給付金制度、戦争犠牲補償）
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

授業外学習（予習・復習）

講義の前に指定テキストの該当箇所を読んでおくこと。

教科書

大橋洋一『行政法? 第3版』（有斐閣、2018年）
宇賀克也＝交告尚史＝山本?司『行政判例百選?（第7版）』（有斐閣、2017年）

参考書

村上裕章＝下井康史『判例フォーカス行政法』（三省堂、2019年）
稲葉馨＝人見剛＝村上裕章＝前田雅子『行政法（第4版）』（有斐閣、2018年）
宇賀克也『国家補償法』（有斐閣、1997年）
神橋一彦『行政救済法（第2版）』（信山社、2016年）
櫻井敬子＝橋本博之『行政法〔第6版〕』（弘文堂、2019年）
塩野宏『行政法?（第6版）』（有斐閣、2019年）
阿部泰隆『行政法解釈学?』（有斐閣、2009年）

阿部泰隆『国家補償法』（有斐閣、1988年） 阿部泰隆『行政法再入門 下（第2版）』（信山社、2016年） 阿部泰隆『国家補償法の研究?』（信山社、2019年） 阿部泰隆『国家補償法の研究?』（信山社、2019年） 高木光『行政法』（有斐閣、2015年） 高橋滋『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2015年） 中原茂樹『基本行政法（第3版）』（日本評論社、2018年） 木村琢磨『プラクティス行政法（第2版）』（信山社、2017年）
成績の評価基準
<p>期末レポートで評価する。</p> <p>法学コースの学生については、秀（90点以上）とする人数の上限を成績評価対象者（他コース・他学科に所属する学生を除く）の20%以内とする。</p>
オフィスアワー
manaba受け付け、必要に応じて時間を設定します。
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
該当なし
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中3回
備考（受講要件）
<p>行政法総論1、行政法総論2、憲法人権2、債権法2を受講していることを前提として講義を進める。</p> <p>六法必携，シラバスの内容は若干変更することもある。</p> <p>オンラインで授業を行う</p>
実務経験のある教員による実践的授業
該当しない。

ナンバリングコード

FHS-BCX2319

科目名

国際取引法

英語名

International Trade Law

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

学部共通

授業科目区分

法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

眞砂康司

連絡先 (TEL)

090-8418-0813

連絡先 (MAIL)

hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp
(法文学部学生係)

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

本講義は国際取引法の基本問題を概観するものである。私の専門との関係もあり国際取引における法適用のあり方の問題を念頭において講義を進める。加えて、国際取引の当事者たる外国会社に対する法規制のあり方も概観する予定である。

学修目標

国際取引における基本的な法律問題の概要を習得する。また、そこでの法規制をめぐる法理論を理解する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 序論
- 第3回 国際取引に適用される法(1) 総説
- 第4回 国際取引に適用される法(2) 国際私法
- 第5回 国際取引に適用される法(3) 統一私法
- 第6回 国際取引の当事者(1) 総説
- 第7回 国際取引の当事者(2) 個人
- 第8回 国際取引の当事者(3) 企業、法人
- 第9回 国際取引の当事者(4) 企業、法人
- 第10回 国際取引の当事者(5) 企業、法人
- 第11回 国際取引の当事者(6) その他
- 第12回 国際的な物品の売買(1) 総説
- 第13回 国際的な物品の売買(2) 国際売買契約
- 第14回 国際的な物品の売買(3) 国際売買契約
- 第15回 国際的な物品の売買(4) その他

*原則としては対面授業が中心になるが、コロナの感染状況の程度いかんでは、manabaによるアンケート・レポート・課題提出等の手法の授業のほか、ZOOMによるONLINE授業の併用あるいはこれが中心になる可能性もある。

多くのアンケート・レポート (manabaかrespon) を提出し、manabaやZOOMのONLINE等への参加が評価の必須項目となるでしょう。ストリーム配信を使う可能性もある。

出欠は種々の方法でとりますので、その都度、注意してください。

遠隔授業をすることになる場合がありますので、

MANABA(manabaマナバ)や大学に登録の諸君のメールアドレスについて受信拒否の設定をしないでください。

授業外学習 (予習・復習)

教科書等について次回の講義が行われる部分を予習しておくことが望ましい。また、すでに行われた講義内容については不明部分を質問することが望ましい。

教科書

山田録一・佐野寛著『国際取引法』(有斐閣)第4版を用いる。

参考書

適宜、指示します。

成績の評価基準

授業中、アンケート・レポート提出を多用する。課題提出型・オンライン型問わず、これらの型式のほかに、オンデマンド型も併せて使用する可能性もある。これらの3型式は今後変動する可能性がある。また「今後の状況次第で授業回数や内容・授業手法は変更となる可能性もある。

通常試験が実施できないこともあるので、原則として出席をした上での講義への参加態度とアンケート・レポートあるいは小テストの評価によります。アンケート・レポート提出あるいは小テストは、授業の進み具合にもよりますが、3回～6回要求あるいは実施する予定にしています。当然でしょうが受講生は全回出席するつもりでいましょう。

出欠は種々の方法でとりますので、その都度、注意してください。

オフィスアワ -

集中講義のため特に設けません。授業後に1時間、対面あるいはメールによる質問を受け付けます。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

3～4回に1回実施予定

備考（受講要件）

国際私法の基礎知識を習得していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BCX3309

科目名

民事執行・保全法

英語名

Civil Execution and Civil Provisional Remedies

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

齋藤 善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

ローマ最古の成文法とされる「十二表法」には、次のような定めがあった。いわく、「債務の支払を認める判決がされると、それから30日以内に、債務者が全額を支払うか、あるいは、その支払を保証する者が現れない場合、債権者は債務者を逮捕し、60日の間、足枷で束縛する。その間、債権者は債務者を3回、市場に引き出し、親族や友人が名乗り出るのを待つが、誰も名乗り出てこないときには、債務者は奴隷として国外に売却される」(その後、この規定は改正され、債務者は、債権者のもとで債務奴隷として労働することになった)、と。

これは、強制執行の方法を規定したものに他ならず、古の時代より、債務の実現に苦心した様子を窺い知ることができる。「執行は、法の終局であり果実である」との法諺が示すとおり、債権債務関係において、法の果実へと最終的に到達するための術が、強制執行である。たとえば、民法に規定された請求権が、民事訴訟で確定された後、それを具体的に実現する過程が強制執行であり、権利の現実的形成といわれる所以である。

その意味で、債権債務の法律関係を体系として理解したというためには、その最終段階である執行の過程を知らないで済ませる訳にはいかないはずである。実務的でテクニカルな法分野であることは確かだが、勉強して損はないだろう。

学修目標

民事執行の全体像や手続の流れをマクロに理解し、説明することができる。

民事執行法の条文をミクロに検討し、その内容を正しく「読み取る」ことができる。

民事執行に係る判例を正確に「読解する」ことができる。

授業計画

【1】執行と保全－民事保全/民事執行概説－

【2】形式的競売と担保権実行競売 1

【3】担保権実行競売 2

【4】強制執行と債務名義

【5】請求異議の訴え

【6】執行文

【7】第三者異議の訴え

【8】不動産執行 1

【9】不動産執行 2

【10】不動産執行 3

【11】債権執行 1

【12】債権執行 2

【13】非金銭執行

【14】仮差押

【15】仮処分

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、変更を生じる可能性もあり得る。

授業外学習（予習・復習）

受講に際しての準備・事前学習として、講義resume、配布資料（判例）の通読 / 140分程度。

受講後の理解度の確認作業・疑問点の抽出など / 100分程度。

教科書

特定のテキストは使用しない。
適宜判例プリント等を配布する予定。

参考書

【1】学習用判例教材

上原敏夫=長谷部由起子=山本和彦編・民事執行・保全判例百選 [第3版]（有斐閣・令和2年）
古賀政治編 霞総合法律事務所著・民事執行・保全判例インデックス（商事法務・平成21年）

【2】体系書

中野貞一郎・民事執行法 [増補新訂6版]（青林書院・平成22年）
中西正=中島弘雅=八田卓也・民事執行・民事保全法（有斐閣・平成22年）
福永有利・民事執行法・民事保全法 [第2版]（有斐閣・平成23年）
生熊長幸・わかりやすい民事執行法・民事保全法 [第2版]（成文堂・平成24年）

【3】注釈書

山本和彦=小林昭彦=浜秀樹=白石哲編・新基本法コンメンタール民事執行法（日本評論社・平成26年）
山本和彦=小林昭彦=大門匡=福島政幸編・新基本法金コンメンタール民事保全法（日本評論社・平成26年）

成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する（100%）。なお、授業の場で、予習内容とされた判例等につき報告したり、質疑応答を経由した場合には、プロセス評価として、その都度+3点から-3点の範囲で、試験の点数に加減することがある。

オフィスアワー

対面の形式によるオフィスアワーは、当面、実施を予定していない。個別のメールによる対応や、manaba上のスレッドによる対応となろう。

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

予習を指示した課題についての質疑応答など。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

備考（受講要件）

とくに具体的に設定はしないが、科目の性格上、民法（財産法分野）や民事訴訟法の基礎を理解していない

と、学習は困難な作業の連続となるだろう。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BCX3304

科目名

公共法務論（旧 法政策論）

英語名

Law and Public Policy

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース / 地域社会コース / 選択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

宇那木正寛

285 - 7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

国や地方公共団体は、災害、少子化問題、高齢者福祉、サイバー犯罪など様々な公共課題に対処するために政策を立案します。この政策は、特に公共政策と呼ばれ、目的及び手段の体系から構成されます。

この目的及び手段の体系からなる公共政策は、法令や条例などによって規範化（立法）されます。この規範化においては、法律学的観点からすると、国の政策については憲法に反してはならず、また、地方公共団体の政策においては、憲法を含む国法秩序に調和的であることが求められます。

この授業では、特に身近な地方公共団体の政策（地域公共政策）を中心に、政策を規範化するために必要な法学上の基礎的理論と政策を実現するための手段（行政手法）について講義します。あわせて、政策の規範化に必要な立法技術論の基礎知識についても講義します。

学修目標

1. 法学の視点から、いかなる行政手法をどの様な基準で選択し、政策を立案すべきかについて討論できる能力を養う。
2. 公共政策を規範化（立法）するために必要な基礎知識を習得する。

授業計画

本授業は、毎回オンライン形式（オンデマンド併用）で行います。ただし、新型コロナウイルス感染状況によっては、対面授業など授業形態を変更する場合があります。授業形態を変更する場合には、予めmanabaシステムのコースニュースや授業内において通知します。manabaのコースニュースは常に注意して閲覧するようにして下さい。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 公共政策の意義
- 第3回 公共政策とその規範化
- 第4回 国、地方公共団体の政策と憲法 - 基礎
- 第5回 国、地方公共団体の政策と憲法 - 応用
- 第6回 立法事実
- 第7回 国と地方公共団体の政策分担
- 第8回 国と地方公共団体の政策分担規範
- 第9回 都道府県と市町村の政策分担規範
- 第10回 政策目的実現のための行政手法
- 第11回 行政手法の実効性担保のシステム
- 第12回 行政義務の強制的履行システム
- 第13回 公共政策規範化のための立法技術 - 法令の構成
- 第14回 公共政策規範化のための立法技術 - 実体的規定
- 第15回 まとめ

授業外学習（予習・復習）
<p>【予習】 manabaにより配布された講義資料を事前に予習する（標準時間は2時間）</p> <p>【復習】 授業で示された学習内容を振り返り復習を行う（標準時間は2時間）</p>
教科書
宇那木正寛『自治体政策立案入門』（ぎょうせい、2015）
参考書
必要に応じて指示します。
成績の評価基準
manaba等を通じて出題する3回の課題レポート（期末レポートを除く）10%×3=30%、期末レポート70%により評価します。
オフィスアワ -
水曜日2限目。ただし、不在の場合もあるのでメールであらかじめ面談の日時を調整しておくことと確実です。なお、新型コロナウイルス対策の観点から対面ではなくWEBを使った会議システム（ZOOM）により対応する場合があります。
アクティブ・ラーニング
その他；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
課題レポートの提出
アクティブ・ラーニング（授業回数）
3回
備考（受講要件）
<ol style="list-style-type: none"> 1．行政法総論1，行政法総論2，行政争訟法，国家補償法を受講していることを前提に講義を行います。 2．第1回目の講義の際に、ガイダンスを行います。受講希望者は必ず出席して下さい。 3．授業中に、質問をしたり、意見を求める場合があります。 4．毎回、必ず六法を持参して下さい（有斐閣のポケット六法など小型六法で可）。 5．シラバスの内容は若干変更することがあります。 6．合格点が得られない場合であっても、再テストや再レポートの提出による救済措置は一切行いません。
実務経験のある教員による実践的授業
<p>自治体の職員として、25年間にわたり、公共政策の立案などの実務に従事してきました。その経験から法理論だけではなく、臨床面も意識した研究を行っており、その研究成果をみなさんに還元できるような授業を心掛けています。</p>

ナンバリングコード

FHS-BCX2330

科目名

法政特殊講義（リーガルライティング入門A）

英語名

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2年

担当教員

原田いづみ・上原大祐

連絡先（TEL）

099-285-7626（上原）

連絡先（MAIL）

embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp（上
原）

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

民法と刑法を題材として、実践的なリーガル・ライティング能力を滋養する。判例を題材として規範を抽出し、事例に当てはめて結論を導くという、リーガルライティングに必要な能力を養う事を目的とする。ほぼ毎回のように答案作成が求められる。また、受講者参加型の判例・事案等の分析を行う場合もある。

学修目標

1. 判例を読み、規範を抽出する能力を身に着ける。
2. 事例の法的論点を抽出し、適切な判例の規範を用いて結論を導く能力を身に着ける。
3. 法実務家に必要なリーガル・ライティング能力の基礎を身に着ける。

授業計画

- 第1回 事例の論点抽出・壱（刑法を題材として）
 第2回 判例の読解・壱
 第3回 答案のための骨子作成
 第4回 答案作成・壱
 第5回 講評/再提出・壱
 第6回 事例の論点抽出および判例の読解・弐
 第7回 答案作成・弐
 第8回 講評/再提出・弐
 第9回 民法物権判例、ミニテスト
 第10回 民法担保物権判例、ミニテスト
 第11回 民法事例問題 検討（関連判例、論点抽出）、答案作成
 第12回 講評、再作成、再提出
 第13回 民法債権各論判例、ミニテスト
 第14回 民法事例問題 検討（関連判例、論点抽出）答案作成
 第15回 講評、再作成、再提出

対面での実施を予定している。

授業外学習（予習・復習）

授業内で指示する。

教科書

井田良・城下裕二編『刑法総論判例インデックス 第2版』（2019・商事法務）
 井田良・城下裕二『刑法各論判例インデックス』（2016年・商事法務）
 民法判例百選?（総則・物権）?（債権）最新のもの

参考書

民法演習サポート210問第2版（2020年・弘文堂）

成績の評価基準

講義中に作成する答案等により評価を行う。

オフィスアワ -

月曜12：00～12：50（上原）

アクティブ・ラーニング

ディベート；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

法政特殊講義（憲法特論）（旧 法律学特殊講義（憲法特論））
ナンバリングコード

FHS-BCX2330

科目名

法政特殊講義（憲法特論）（旧 法律学特殊講義（憲法特論））

英語名

Special Lecture on Law, Policy and Political Science : Special Lecture on Constitutional Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

大野友也

099-285-7640

onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

この講義は、法学コースの2年生しか履修できません。1・3・4年生は履修できませんので注意して下さい。

「講義」の形を取っていますが、実質的には、演習形式で、憲法に関する様々な問題を討論します。受講生は、少なくとも1度は報告を担当してもらいます（受講生の人数次第で個人またはグループでの報告となります）。

なお、新型コロナの影響で、講義が遠隔となる可能性があります。

学修目標

- 1 憲法の問題について判例・学説を踏まえて自身の見解を展開できる。
- 2 他者の意見を批判的に検討できる。

授業計画

この講義は、原則対面で行います（担当教員としてはそれを希望している）。また、対面を望まない受講生がいるだろうことも踏まえ、Zoomによる同時配信も行います。対面・遠隔どちらに出席しても期末の評価に影響はしないので、各自で判断してください。

コロナの影響により、15回全てが遠隔授業となる可能性があります。

- 第1回 オリエンテーション、自己紹介
- 第2回 プレゼン（1）
- 第3回 プレゼン（2）
- 第4回 報告（1）
- 第5回 報告（2）
- 第6回 報告（3）
- 第7回 報告（4）
- 第8回 プレゼン（3）
- 第9回 報告（5）
- 第10回 報告（6）
- 第11回 報告（7）
- 第12回 報告（8）
- 第13回 報告（9）
- 第14回 プレゼン（4）
- 15回 まとめ

1回目に受講生同士の自己紹介をしますので、各自、3分程度の自己紹介をできるよう準備しておいて下さい。

授業外学習（予習・復習）

予習：事前に配布する資料を読む（80分）

復習：当日の議論を踏まえ、改めて自己の見解を検討し直す（160分）

法政特殊講義（憲法特論）（旧 法律学特殊講義（憲法特論））
教科書

講義時に指示します。

参考書

講義時に指示します。

成績の評価基準

討論に積極的に参加したかどうか、自身の見解を論理的に展開できているかどうかなどを総合的に判断します。
試験は行いません。

オフィスアワ -

火曜5限（研究室）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

「憲法人権I」の単位を修得していることを前提とします。

この講義（木曜5限）の前に行われる、木曜4限の「演習?（憲法）」にも可能な限り参加してください。

また、学外での課外活動も予定しています。その際、生協の保険に入ることになりますので、受講生は必ず生協に加入しておいて下さい（生協の組合員でないと生協の保険に加入できませんので）。 2020年度は実施しません

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(財産法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Property and Contract			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
植本幸子		0992857525;メール後半 kagoshima-u.ac.jp (下記と組み合わせること)	uemt05@leh.
共同担当教員		前後期	
該当無し		前期	
授業概要			
民法総則と財産法に関連する問題を中心に、法律学習の基本を身につける。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・法解釈に関する記述を正確に読みとり説明する能力を身につける。 ・事実関係の記述から、関係する法的な論点を見つけ出し説明することが出来る。 ・主要な判例を調べ事実と判旨を説明することが出来る。 ・論点に関連する主要な学説を調べ説明することが出来る。 ・民法上の問題に関して私見を説明し報告することが出来る。 			
授業計画			
<p>今後の状況次第で授業回数における内容は変更となる可能性がある。 リアルタイムZoom双方向が可能な環境を用意すること(無理な場合には相談のこと)。 以下については、状況が許す場合にのみ対面の可能性があるが、全員の移動状況と健康状況、参加者の在宅希望のすべてを勘案し、感染予防を優先する。</p>			
第1回	演習における学び方、資料の収集分析方法、教材についての研究打ち合わせ (対面)		
第2回	研究倫理、資料の収集・分析の実践、報告と討論(物権法に関する主要論点1)(対面)		
第3回	報告と討論(物権法に関する主要論点2)(対面)		
第4回	報告と討論(物権法に関する主要論点3)(対面)		
第5回	報告と討論(民法総則に関する主要論点4)(対面)		
第6回	報告と討論(民法総則に関する主要論点5)(対面)		
第7回	報告と討論(民法総則に関する主要論点6)(対面)		
第8回	報告と討論(物権法に関する主要論点1)(対面)		
第9回	報告と討論(物権法に関する主要論点2)(対面)		
第10回	報告と討論(物権法に関する主要論点3)(対面)		
第11回	報告と討論(物権法に関する主要論点4)(対面)		
第12回	報告と討論(物権法に関する主要論点5)(対面)		
第13回	報告と討論(物権法に関する主要論点6)(対面)		
第14回	報告と討論(物権法に関する主要論点7)(対面)		
第15回	主要論点の確認と復習(対面)		
前期においては、民法判例百選I,IIを用いる(2021年2月現在)。			
上記テーマは一例である。参加者の履修範囲や理解に応じて変更可能性がある。また、参加者希望のテーマがあればそれを優先する。			

なお、平成31年度は百選を用いた債権法分野の事例分析が中心となった。

- ・ゼミの人数によるが、最低でも1回の課題について報告することが必要である。
- ・報告を担当しない課題については質問票を提出した上で議論に参加する。例年、A4で1枚程度に判例通説による解決を示した上で質問する人が多いが、2～3行でも構わない。ただし、欠席の際に出席に替えるものとしては前者によること。
- ・設例の事実関係から論点を見つけ出すことから課題となるが、テーマについて希望のある場合には尊重するので適宜相談すること。

ゼミの人数1～3名(移動・健康状態に問題が無く、全員の同意がある場合にのみ部分的に対面授業を行う。)

: 個別の進度に応じて、一人ずつ特定の問題について、資料の収集と配布、レジメの作成、板書による説明などを報告者が行う。報告担当以外の者も、板書による説明や私見の説明により、積極的に授業に参加すること。

ゼミの人数4名以上(講義室が確保できない場合には対面授業は行わない。)

: 1人1つずつ特定の問題について、資料の収集と配布、レジメの作成、図による説明を行い、報告の機会は1回である。それ以上の指導は、事後レポートの作成により受けることができる。報告担当以外の者には、段階に応じて質問票の提出が求められ、板書による説明や私見の説明により、積極的に授業に参加する。

授業外学習(予習・復習)

(予習) 演習は予習がメインとなる。前の週までに、報告者は報告用レジメ、報告者以外は質問票を提出する。資料室や図書館を利用しできる限りの予習を行う。本演習は、演習の準備自体を授業時間中に行うことは無い。資料の用意と通読(目安2～3時間)、書類作成(1～2時間)。

(復習) 報告した課題についてのみ、修正・追加の必要がある場合には事後レポートを作成し提出する(適宜)。

教科書

手持ちの教科書を手元に用意すること。

参考書

- ・六法を必ず携行すること。
- ・教材は初回に相談して以下より決める。
松久三四彦他『事例で学ぶ民法演習』(成文堂2014年)
民法判例百選?、?
その他教科書で気になる論点や裁判例

成績の評価基準

- ・授業への取り組み態度(発言内容、報告回数、質問票提出、報告部分の事後レポートによる。)100%。
- ・演習なのですべての回に出席することが原則となる。事情のある場合も無い場合にも、必ず連絡相談すること。

オフィスアワー

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当無し

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

・民法を通じて基本的な解釈学、裁判例の読み方、文献収集スキル等の基礎を身につけることになる。例年の受講生もLSなど大学院進学者もいれば、司法書士を中心に様々な資格取得する者、各種公務員、民間就職者等様々、進路や理解度も様々である。年度によって雰囲気や全く違うがいかなる状況にも流されることなく、批判を前提に自らの能力を伸ばすよう努力する態度が望まれる。

・高校卒業程度の国語力は当然の前提である。苦手な者は授業に関連した予習等で多くの努力が必要となろう。科目として無関係であると思いきみ、スタートラインが違うのに努力無しに履修可能と思わないこと。例えば、大審院の判例に当たる場合には当然に旧字体の漢字を調べ、古語に近い言い回しについて辞書等を使って理解す

ることが必要となる。逆に今までの差は少しの差に過ぎない。今後の努力や勉強が、年を経るごとに実力の蓄積となることを意識してあらゆる勉強に励んでもらいたい。

実務経験のある教員による実践的授業

該当無し

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I (社会保障法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
伊藤周平		099-285-7564	itos@leh.kagoshima-u-ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
日本の社会保障法の現状と課題について、テーマごと(生活保護、年金、医療、介護保険、労災、雇用保険、社会福祉など)に各人の報告を中心に行う。福祉現場へのインタビューや施設見学なども予定している。			
学修目標			
小冊子の作成を義務づけ、自分たちの言葉で社会保障の仕組みをわかりやすく説明できるようにすることを目標とする。			
授業計画			
社会保障法関係の文献を読み、各自報告、討論。および判例研究			
第1回 文献報告, 判例研究及び討論			
第2回 文献報告, 判例研究及び討論			
第3回 文献報告, 判例研究及び討論			
第4回 文献報告, 判例研究及び討論			
第5回 文献報告, 判例研究及び討論			
第6回 文献報告, 判例研究及び討論			
第7回 文献報告, 判例研究及び討論			
第8回 文献報告, 判例研究及び討論			
第9回 文献報告, 判例研究及び討論			
第10回 文献報告, 判例研究及び討論			
第11回 文献報告, 判例研究及び討論			
第12回 文献報告, 判例研究及び討論			
第13回 文献報告, 判例研究及び討論			
第14回 文献報告, 判例研究及び討論			
第15回 文献報告, 判例研究及び討論			
授業外学習 (予習・復習)			
各グループによる事前のレジメ作りが必要となる。施設見学等の実施(コロナ終息後)			
教科書			
特に定めない。授業の中で適宜指示する。			
参考書			
別冊ジュリスト『社会保障判例百選(第5版)』(有斐閣)、『社会福祉六法』(ミネルヴァ書房)など			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告書の内容)			
オフィスアワ -			
木曜2限			
アクティブ・ラーニング			
フィールドワーク; その他;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

福祉施設見学・聞き取り

アクティブ・ラーニング (授業回数)

2回

備考 (受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(憲法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
演習形式で、憲法判例や学説についての整理・検討を行う。取り上げる判例・学説については、学生と相談して決める			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的な概念・判例・学説を理解する。 (2) 現代の憲法問題について知り、解決策を考える。 (3) ディベート能力を身につける。			
授業計画			
この講義は、原則対面で行います(担当教員としてはそれを希望している)。また、対面を望まない受講生がいるだろうことも踏まえ、Zoomによる同時配信も行います。対面・遠隔どちらに出席しても期末の評価に影響はしないので、各自で判断してください。			
コロナの影響により、15回全てが遠隔授業となる可能性があります。その場合、ズームを使ってやりますので、各自ズームのアカウント(無料)を取得しておいてください。			
ネット環境が整っていない学生は、その旨、大野宛にメール(onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp)するか、manabaの掲示板に書き込んでください。大野宛にメールして24時間以上返信がない場合は、必ず掲示板に書き込むこと。			
第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 社会科見学プレゼン 第3回 社会科見学(1) 第4回 報告(1) 第5回 報告(2) 第6回 報告(3) 第7回 報告(4) 第8回 社会科見学(2) 第9回 報告(5) 第10回 報告(6) 第11回 報告(7) 第12回 報告(8) 第13回 報告(9) 第14回 社会科見学(3) 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおく(80分程度)			

【復習】配布したレジユメを再読し、自身で論点を再考する(160分程度)

【課外活動】社会科見学として、鹿児島刑務所、鹿児島検察庁などへ行きます。また、夏休みには合宿に行きます。

その際、大学生協の保険に入りますが、大学生協に加入していないと、この保険には入れませんので、かならず大学生協に加入しておいてください。

教科書

各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)

参考書

適宜指示する。

成績の評価基準

授業への取り組みの姿勢、報告内容や討論での発言などを含めて総合的に評価する。

オフィスアワー

火曜5限目(研究室)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

第一回目にレポート講評をします。レポートのテーマは、「憲法ゼミを志望した理由」です。字数は1500字以上、用紙サイズはA4で、横書き。締め切りは4月7日午後4時(manabaで提出するか、研究室に持参すること)。

4・5限通してゼミを行いたいので(4年生の課題研究と合同)、できれば木曜4限には別の講義を履修しないようにして下さい(もちろん強制ではありませんが、可能な限りあけておいてください)。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I (政治学)			
英語名			
Seminar I:Politics			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	
平井一臣		099-285-8855	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
授業概要			
文献講読を中心に、政治学の基本的な考え方を学ぶ。			
学修目標			
政治学の基本的な考え方を理解し、文献の読解、読解に基づく発表、討論の能力を身につける。			
授業計画			
第1回 夏期課題学習成果の発表 (第1次)			
第2回 夏期課題学習成果の発表 (第2次)			
第3回 合同ゼミ			
第4回 文献講読 (第1章前半)			
第5回 文献講読 (第1章後半)			
第6回 文献講読 (第2章前半)			
第7回 文献講読 (第2章後半)			
第8回 文献講読 (第3章前半)			
第9回 文献講読 (第3章後半)			
第10回 文献講読 (第4章前半)			
第11回 文献講読 (第4章後半)			
第12回 鹿児島を政治を考える (ゲスト・スピーカーを囲んで)			
第13回 研究課題計画報告 (前半)			
第14回 研究課題計画報告 (後半)			
第15回 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
事前にテキストの予定の箇所を熟読し、疑問点を整理する (標準的学習時間は約1時間)。 毎回の授業で討論した内容の要旨を整理し、論点について自分の考えをまとめる (標準的学習時間は1~2時間)。			
教科書			
今井照『原発事故 自治体からの証言』、ちくま新書。			
参考書			
授業中に適宜紹介する			
成績の評価基準			
授業 (発表・討論) への取り組み態度 (100%)			
オフィスアワー			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
該当なし			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回			

備考 (受講要件)

特に無し

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(海商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Maritime Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
松田忠大		099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>対象となる運送・海商法に関する裁判例を受講者に提示し、受講者は、これらを題材にして、当該裁判において争点となった事項を中心に研究を行い、判例研究として報告します。</p> <p>なお、対象となる裁判例は授業開始前に提示し、判例研究報告の進め方については、学生と相談して決定します。</p>			
学修目標			
<p>(1) 海商法に関する基本的な知識を定着させる。</p> <p>(2) 商取引の基本的な考え方を理解し、商法的な視点から法解釈を行うことができる能力を身につける。</p> <p>(3) コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。</p>			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。</p> <p>なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：オリエンテーション【対面形式】</p> <p>第2回：判例研究(研究報告と討論)1【対面形式】</p> <p>第3回：判例研究(研究報告と討論)2【対面形式】</p> <p>第4回：判例研究(研究報告と討論)3【対面形式】</p> <p>第5回：判例研究(研究報告と討論)4【対面形式】</p> <p>第6回：判例研究(研究報告と討論)5【対面形式】</p> <p>第7回：判例研究(研究報告と討論)6【対面形式】</p> <p>第8回：判例研究(研究報告と討論)7【対面形式】</p> <p>第9回：判例研究(研究報告と討論)8【対面形式】</p> <p>第10回：判例研究(研究報告と討論)9【対面形式】</p> <p>第11回：判例研究(研究報告と討論)10【対面形式】</p> <p>第12回：判例研究(研究報告と討論)11【対面形式】</p> <p>第13回：判例研究(研究報告と討論)12【対面形式】</p> <p>第14回：判例研究(研究報告と討論)13【対面形式】</p> <p>第15回：判例研究(研究報告と討論)14【対面形式】</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習：報告予定の裁判例を事前に予習する(2時間)</p> <p>復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(2時間)</p> <p>なお、この演習では、国内または国外における学外研修を行うことを予定しています。また、他大学のゼミとの合同研究会の開催も計画しています。</p>			
教科書			
<p>中村眞澄＝箱井崇史『海商法』(第2版)(成文堂・2013年)</p> <p>箱井崇史『基本講義現代海商法』(第4版)(成文堂・2021年)</p>			
参考書			

その他の参考文献等は適宜指示します。

成績の評価基準

研究報告の内容および質疑応答など、授業への取り組み態度(100%)で評価します。

オフィスアワ -

毎週火曜日 2 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(海商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Maritime Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
松田忠大		099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>この演習では、海商法分野の法的諸問題を取り扱います。 前半は船荷証券(Bill of Lading)の裏面約款(英文の運送約款)を輪読して海上運送契約についての理解を深めます。 なお、演習の進め方についての詳細は、第1回目の授業にて説明します。</p>			
学修目標			
<p>(1) 海商法に関する基本的な知識を定着させる。 (2) 商取引の基本的な考え方を理解し、商法的な視点から法解釈を行うことができる能力を身につける。 (3) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および討論の能力を身につける。</p>			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。 なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：オリエンテーション【対面形式】 第2回：船荷証券の意義および機能【対面形式】 第3回：船荷証券裏面約款の読解1【対面形式】 第4回：船荷証券裏面約款の読解2【対面形式】 第5回：船荷証券裏面約款の読解3【対面形式】 第6回：船荷証券裏面約款の読解4【対面形式】 第7回：船荷証券裏面約款の読解5【対面形式】 第8回：船荷証券裏面約款の読解6【対面形式】 第9回：船荷証券裏面約款の読解7【対面形式】 第10回：船荷証券裏面約款の読解8【対面形式】 第11回：船荷証券裏面約款の読解9【対面形式】 第12回：船荷証券裏面約款の読解10【対面形式】 第13回：船荷証券裏面約款の読解11【対面形式】 第14回：船荷証券裏面約款の読解12【対面形式】 第15回：まとめ(対面型)</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習：報告予定の裁判例を事前に予習する(2時間) 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(2時間) なお、この演習では、国内または国外における学外研修の実施を予定しています。また、他大学ゼミとの合同研究会を実施する計画もあります。</p>			
教科書			
<p>中村眞澄＝箱井崇史『海商法』(第2版)(成文堂・2010年) 箱井崇史『基本講義現代海商法』(第4版)(成文堂・2021年)</p>			
参考書			

その他の参考文献等は適宜指示します。

成績の評価基準

発表内容および質疑応答など、授業への取り組み態度(100%)で評価します。

オフィスアワ -

毎週火曜日 3 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

商取引法IIを必ず受講してください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I (法政策論・行政法務論) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Public Policy and Administrative Practice			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宇那木正寛		285-7628	unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>演習参加者は、各行政分野における重要判例あるいは文献を選択し、報告します。報告後は、当該報告に基づいて全員で討論を行います。</p> <p>この演習では、判例研究だけではなく、そこで問題となる法令、条例の構造・仕組みを丹念に分析することも重視します。</p> <p>なお、報告方法については、原則として個人報告とします。</p>			
学修目標			
<p>(基本的学修目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーション能力の基礎を養う。 2. リーガル・コミュニケーション能力の基礎を養う。 3. 思考言語化能力の基礎を養う。 <p>(専門的学修目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現実の社会に惹起する様々な問題を行政法学的視点で議論できる能力を養う。 2. 公共政策立案に必要な法的基礎を構築する。 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabのコースニュースや授業内において案内します。</p> <p>第1回から15回まで 報告及び討論を行います。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>【予習】</p> <p>本ゼミでは、報告者以外の参加者についても、能動的かつ積極的に討論に参加することを求めます。したがって、参加者全員が報告テーマについて十分な予習をすることが必要です。報告資料はWordにより作成し、報告に当たってはPowerPointにより行うことを予定しています (報告者にとっては10時間程度、報告者以外の者にとっては3時間程度の予習が必要)。</p> <p>【復習】</p> <p>報告テーマに関連して指示された事項について復習してください (2時間程度の復習が必要)。</p> <p>【その他】</p> <p>報告者が、他の参加者からの質問等に答えられなかった場合には、当該質問事項等について再度報告する必要があります (2時間程度)。</p>			
教科書			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編 『行政判例百選 1 [第7版]』 (有斐閣、2017) ・ 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編 『行政判例百選 2 [第7版]』 (有斐閣、2017) 			

参考書

- ・大橋洋一『行政法1〔第4版〕』（有斐閣、2019年）
- ・大橋洋一『行政法2〔第3版〕』（有斐閣、2018年）
- ・宇賀克也『行政法概説1〔第7版〕』（有斐閣、2020年）
- ・宇賀克也『行政法概説2〔第6版〕』（有斐閣、2018年）
- ・宇賀克也『行政法概説3〔第5版〕』（有斐閣、2019年）
- ・宇那木正寛『自治体政策立案入門』（ぎょうせい、2015年）

成績の評価基準

演習における報告内容（70%）、討論への参加内容（30%）により評価します。なお、正当な理由がなく報告をしない場合、あるいは無断で欠席した場合には、単位を与えないことがあるので注意して下さい。

オフィスアワ -

水曜日2限。ただし、公務による不在の場合もあるので、事前にメールで日程調整をすることを勧めます。なお、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、WEB会議システムZOOMにより対応する場合があります。

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

公共課題における課題解決において行政法がいかなる役割を果たしているかについて真剣に学びたいという意欲のある学生の参加を歓迎します。

ゼミ参加者は、報告・討論については、もちろん、ゼミの運営についても主体的かつ能動的な役割を果たすことを求めます。

ゼミが共に学ぶ者の組織である以上、ゼミ参加者は、ゼミ運営における約束を守り、挨拶や連絡といった最低限のマナーを守ることはもちろん、自己の行動や発言に責任を持たなければなりません。

ゼミの主役は参加者ひとりひとりです。共に学び、共に悩み、共に成長しましょう。

実務経験のある教員による実践的授業

自治体の職員として25年間にわたり公共政策の立案などの実務に従事してきました。その経験から法理論だけではなく、臨床面も意識した研究を行っています。その研究成果をみなさんに還元できるような授業を心掛けています。

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(刑法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Criminal Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
刑法に関する文献を分析し、全員で討論を行う。基本的に、毎回発表者を決め、各自担当の文献に関して分析・報告し、その後、全員で討論を行う、という形を採る。報告の仕方に関しては、授業の最初に指示する。また、模擬裁判等のアクティブ・ラーニングを通じて、刑事法学の知識を体験的に修得することを目指す。			
学修目標			
文献の分析の仕方およびその報告の仕方を習得する。講義等で得た知識を手実際に適用する方法を学ぶ。			
授業計画			
本演習は対面での実施を予定しているが、授業形態については種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
(前期)			
第1回 ガイダンス。各自担当する文献の決定。報告の仕方に関する指導。			
第2回 報告と討論			
第3回 報告と討論			
第4回 報告と討論			
第5回 報告と討論			
第6回 報告と討論			
第7回 報告と討論			
第8回 報告と討論			
第9回 報告と討論			
第?回 報告と討論			
第11回 報告と討論			
第12回 報告と討論			
第13回 報告と討論			
第14回 報告と討論			
第15回 報告と討論			
模擬裁判等を行うこともある。			
授業の回数等は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
報告者は報告の準備に努力を要する。			
また、報告者以外の受講者も事前に資料に目を通し、発言等を事前に準備しておくこと。			
教科書			
特になし			
参考書			
必要に応じて指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)を総合的に評価する【総合評価100%】			

オフィスアワ -	
月曜12:00 ~ 12:50	
アクティブ・ラーニング	
グループワーク; ディベート;	
アクティブ・ラーニング (その他の内容)	
該当なし	
アクティブ・ラーニング (授業回数)	
全回	
備考 (受講要件)	
刑法理論に関する基本的な知識を備えていることが望ましい。	
実務経験のある教員による実践的授業	
なし	

ナンバリングコード

FHS-BCX3320

科目名

演習I(租税法)(旧 演習)

英語名

Seminar I:Tax Law

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・法学コース/必修科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3年

担当教員

鳥飼貴司

連絡先(TEL)

099-285-7623

連絡先(MAIL)

torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし。

前後期

前期

授業概要

前期は、重要租税判例の報告・討論を通じて各人の問題提起力と議論展開力を養成する。

学修目標

1. 主要な租税法規・租税判例を知る。
2. 議論における基礎力を養う。

授業計画

各回は、演習科目なので対面授業です。
ただし、コロナの影響でどうしても大学に来られない場合には、遠隔授業(オンデマンド配信)で対応します。
なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知します。

(前期)

- 第1回 ガイダンス(租税判例研究とは何か)
- 第2回 大嶋訴訟(最高裁大法廷昭和60年3月27日判決)
- 第3回 どぶるく裁判(最高裁平成元年12月14日判決)
- 第4回 夫婦所得課税(最高裁大法廷昭和36年9月6日判決)
- 第5回 酒類販売免許制(最高裁平成4年12月15日判決)
- 第6回 川崎民商事件(最高裁大法廷昭和47年11月22日判決)
- 第7回 犯罪嫌疑者に対する質問調査と黙秘権(最高裁昭和59年3月27日判決)
- 第8回 刑罰と重加算税の併科(最高裁大法廷昭和33年4月30日判決)
- 第9回 通達課税(最高裁昭和33年3月28日判決)
- 第10回 旭川市国民健康保険条例事件(最高裁大法廷平成18年3月1日判決)
- 第11回 税法における遡及立法(最高裁平成23年9月22日判決)
- 第13回 神奈川県臨時特例企業税事件(最高裁平成25年3月21日判決)
- 第14回 ホステス源泉徴収事件(最高裁平成22年3月2日判決)
- 第15回 まとめ(税法演習を振り返って)

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

授業外学習(予習・復習)

【予習】 報告担当者以外の受講生も、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと(学習に関わる標準的時間は約2時間)。

【復習】 提示されたレジュメ、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること(標準的時間は2時間)。

教科書

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に <第2版>』弘文堂(2017年)
 中里実・増井良啓『租税法判例六法』有斐閣

参考書

『租税判例百選 第6版』有斐閣
 金子宏『租税法』弘文堂
 三木義一『よくわかる税法入門』有斐閣
 三木義一・中村芳昭編『演習ノート租税法〔第3版〕』法学書院

成績の評価基準

授業への取り組み態度

オフィスアワ -

月曜日～金曜日、12:00～12:50(会議などで不在にしている場合もあります)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BCX3320

科目名

演習I(刑事訴訟法)(旧 演習)

英語名

Seminar I:Criminal Procedure

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/必修科目

演習

2単位

3年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

この演習では、刑事訴訟(捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済)の諸問題について、学生の報告と討論による共同研究を行う。刑事訴訟は、いわゆる「平成の司法制度改革」を経て、近年その姿を大きく変容させたところであるが(裁判員制度の導入、検察審査会の権限強化、公判前整理手続の導入など。また、司法制度改革後の動きとして、被害者参加制度の導入があった)、2016年には更なる刑事訴訟法の改正が行われ、捜査や公訴の質的な大転換がもたらされようとしている(取調べの可視化、いわゆる司法取引の導入など)。他方では、冤罪事件などを通じて、わが国の刑事訴訟の伝統的な問題点が今なお明みに出て続けている。今まさに激動期を迎えている刑事訴訟法は、学習・研究の対象として、最もホットな領域と言ってよいだろう(意見には個人差があります)。

講義科目である「刑事訴訟法」や「法律学特殊講義(捜査法)」では、刑事訴訟法を体系的に解説し、解釈論上の争点をほぼ網羅的に取り扱っている【体系的アプローチ】。これに対して、演習では、刑事訴訟に関する具体的な問題点に着目し、その内容を掘り下げつつ、解決のための方法を明らかにするし、それを通じて刑事訴訟全体の構造や特質の理解を獲得することを目指す【問題解決型アプローチ】。

具体的なテーマは、教員のアドバイスを踏まえつつ、学生が自分の興味関心に従って自由に設定する。法解釈の枠にとどまらず、立法論や運用論にかかるテーマも積極的に扱う(たとえば、別件逮捕、科学的捜査、取調べ可視化、代用監獄、司法取引、被害者の権利、検察審査会、裁判員制度、証拠開示など)。また、ケース研究として、具体的な事件に注目し、掘り下げてもよい(たとえば、志布志事件、大崎事件など)。

学期末には、各人のテーマについての研究成果を小論文にまとめて、インターネットで公開する。これを通じて他大学の刑事訴訟法ゼミとの交流を促進する。

なお、学生の関心および研究上の必要性に応じて、裁判所、検察庁、刑務所などの参観を行う。また、実務家などをゲストに招いてお話を伺うこともある(かもしれない)。

学修目標

- 1) 刑事訴訟法の基本的な概念や制度を正しく説明できるようになる。
- 2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景と本質を正しく分析できるようになる。
- 3) 刑事訴訟における判例の機能について考察できるようになる。
- 4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、自説を形成できるようになる。
- 5) 正確で網羅的な文献調査をできるようになる。
- 6) 研究成果を文章および口頭で正しく伝えられるようになる。

授業計画

本授業は対面式で行う。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回 今後の方針決定

- 第2回 研究課題の策定
- 第3回 研究報告と討論(捜査 その1)
- 第4回 研究報告と討論(公訴 その1)
- 第5回 研究報告と討論(公判・証拠 その1)
- 第6回 研究報告と討論(少年法・刑事政策 その1)
- 第7回 研究報告と討論(捜査 その2)
- 第8回 研究報告と討論(公訴 その2)
- 第9回 研究報告と討論(公判・証拠 その2)
- 第10回 研究報告と討論(少年法・刑事政策 その2)
- 第11回 研究報告と討論(捜査 その3)
- 第12回 研究報告と討論(公訴 その3)
- 第13回 研究報告と討論(公判・証拠 その3)
- 第14回 研究報告と討論(少年法・刑事政策 その3)
- 第15回 振り返りと総括 / 論文作成

授業外学習(予習・復習)

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習(研究)のメインであると心得てほしい(いわゆる「反転授業」の考え方)。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である(90分程度)。また、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる(共同研究のマネー)(30分程度)。

教科書

刑事訴訟法の教科書を最低1冊は手元に置くこと。たとえば以下のようなものがある。

[入門書]

- ・三井誠・酒巻匡『入門刑事手続法 第8版』(有斐閣、2020年)
- ・笹倉香奈・中島宏・宮木康博『刑事訴訟法』(日本評論社、2021年刊行予定)

[体系書]

- ・酒巻匡『刑事訴訟法』(2016年、有斐閣)
- ・白取祐司『刑事訴訟法[第9版]』(日本評論社、2017年)
- ・池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義[第5版]』(東大出版会、2015年)
- ・上口裕『刑事訴訟法[第4版]』(成文堂、2015年)
- ・宇藤崇ほか『刑事訴訟法』(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2013年)
- ・田口守一『刑事訴訟法[第7版]』(弘文堂、2017年)

法令集は当然ながら必携である。ボールなしにサッカーはできないのと同じ。

参考書

学生の研究テーマに応じて随時案内する。

成績の評価基準

研究報告の水準、発言の頻度と内容、学期末に作成する論文などを踏まえて評価する。

なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席は厳禁である。複数回繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

オフィスアワー

月曜4限。なお、指定された時間以外でも質問等のため必要があれば研究室を随時来訪することを歓迎する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

楽しく厳しいゼミを目指したい。司法に関わる仕事を目指す者はもちろんであるが、そうでなくても犯罪捜査や刑事裁判に関心がある学生の参加を期待する。

主体的に学び問う意欲を持った学生のみ歓迎する。

その他、ゼミの指導方針などはこちらを参照のこと。

<http://www.ceres.dti.ne.jp/h-nakaji/news17.html#01092018>

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Business Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
志田惣一		285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>会社法に関する具体的な事例を分析しいかなる法的問題点があるか、解決策はどうかを検討する。 授業は、基礎的な論点を確認した後、学生の報告をもとに検討する。</p>			
学修目標			
<p>前期の演習?における研究成果を踏まえつつこれを発展させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事象(事実関係、判決を含む資料)を正確に分析する能力を身につける。 2 法的推論・思考力を身につける。 3 表現力、論理的で明確な報告(文章)ができるようになる。 			
授業計画			
<p>*本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>会社法の個別問題についての検討</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 株主総会決議の瑕疵 2 議決権行使・利益供与 3 設立 4 利益相反取引 5 取締役の責任(法令違反・任務懈怠) 6 取締役の責任(対第三者責任) 7 新株発行 8 帳簿・名簿閲覧請求 9 剰余金配当 10 取締役の報酬 11 事業譲渡 12 合併・会社分割 13 特殊の株式・譲渡制限 14 持分会社 15 ディベイト(名義書換) 			
授業外学習(予習・復習)			
<p>学生の報告に基づき講義を進める。 各自の報告の準備と、授業後の報告(文書)の見直し、完成が学習の中心となる。 予習: manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(標準的学習時間は2時間) 復習: 授業における学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(2時間)</p>			
教科書			
岩原神作他編『会社法判例百選』(有斐閣)・2016			
参考書			
神田秀樹・会社法・弘文堂・2021			
成績の評価基準			

報告 (40%)・授業への参加度「討論への取り組み態度等」(60%)

オフィスアワ -

火曜2限

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

10回

備考 (受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(民事手続法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Civil Procedure			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
齋藤 善人		099-285-3526	saito@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>前期の学習の継続。基本判例をベースとした問題演習の手法によって、基礎学力を検証しつつ、議論・思考できることを目標としたい。</p> <p>演習の場では、受講生全員が対象判例等に関し、十分な予習を尽くしていることを前提に、適宜、教員の側からの質疑を交えながら双方向の遣り取りをしつつ、受講生相互間の多方向の議論まで展開することを旨とする。</p>			
学修目標			
<p>問題演習やケース・スタディを通じて、帰納的に民事訴訟法の基礎理論を学習する。 判例を正確に「読み解く」ことができる。 問題演習に際して、民事訴訟法の基礎学力に依拠して思考回路を設計し、それを説明することができる。</p>			
授業計画			
<p>具体的な問題演習の実施形態等、その方法や内容に関しては、その都度、事前に告知したい。</p> <p>統一的なテーマを「当事者の訴訟行為/弁論主義」に設定する。因みに、現在予定している具体的な学習内容等は、以下のとおり……</p> <p>第1講/第2講 問題解法の手法(前学期民訴?試験問題を題材に)</p> <p>第3講/第4講 事前提示課題の考察解題/起案内容の比較検討【不特定概念への弁論主義の適用/不利益陳述/文書成立の真正と自白の成否/補助事実の自白】</p> <p>第5講/第6講 事前提示課題の考察解題/起案内容の比較検討【主張共通と不利益陳述/法的観点詩的義務と既判力の縮小】</p> <p>第7講/第8講 即日起案/検討解題【陳述擬制と証拠調べの要否/弁論準備手続における自白】</p> <p>第9講/第10講 事前提示課題の考察解題/起案内容の比較検討【抗弁事実を認める陳述と裁判所の認定/不意打ちの防止】</p> <p>第11講/第12講 即日起案/検討解題【自白の成否と裁判所の認定/相殺の抗弁認容時の既判力の生じる範囲】</p> <p>第13講/第14講 事前提示課題の考察解題/起案内容の比較検討【自白の撤回要件/控訴審での自白の撤回と157条】</p> <p>第15講 学習の総括【弁論主義と自白】</p>			

受講生は、日々の問題演習や判例学習を契機として、より本格的な判例研究に進展したり、民訴の論点研究へと深化することが期待される。

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、授業の実施方法など変更を生じる可能性もあり得る。

授業外学習(予習・復習)

毎回、事前に提示される「論点と考えるヒント」を考察・検討する作業を経由して、演習の現場に臨むこと(所要時間120分程度)。

多様な質疑や議論の展開を把握するには、相応の事前学習、すなわち、参考となる判例の法理、その事案の概要や判旨を読んで、分からないところや不明確な部分を抽出し、それを読解するために、適宜、参考文献にあたって調べておくことが、演習参加の必要条件となる。

授業後の理解度の確認作業(所要時間120分程度)。

教科書

野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法(北樹出版・平成30年)

参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

【1】概説書

- 高橋宏志・民事訴訟法概論(有斐閣・平成28年)
- 川嶋四郎・民事訴訟法概説[第2版](弘文堂・平成28年)
- 山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)
- 和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法(商事法務・平成24年)

【2】定評のある体系書

- 高橋宏志・重点講義民事訴訟法(上)[第2版補訂版]、(下)[第2版補訂版](有斐閣・平成25,26年)
- 伊藤眞・民事訴訟法[第6版](有斐閣・平成30年)
- 川嶋四郎・民事訴訟法(日本評論社・平成25年)
- 河野正憲・民事訴訟法(有斐閣・平成21年)
- 小島武司・民事訴訟法(有斐閣・平成25年)
- 新堂幸司・民事訴訟法[第5版](弘文堂・平成23年)
- 中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義[第3版](有斐閣・平成30年)
- 藤田広美・講義民事訴訟[第3版](東大出版会・平成25年)
- 藤田広美・解析民事訴訟[第2版](東大出版会・平成25年)
- 松本博之=上野泰男・民事訴訟法[第8版](弘文堂・平成27年)
- 三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法[第2版](有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

- 秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタール民事訴訟法1[第2版追補版]、2[第2版]、3、4、5、6(日本評論社・平成26,18,20,22,24,26年)
- 松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法[第2版](弘文堂・平成23年)
- 加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法1,2(日本評論社・平成30年)
- 笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法[第2版](日本評論社・平成25年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス(報告や質疑応答の頻度、その内容等)により評価する。その際、即日起案やレポート起案といった成果も評価の対象に含まれる。

演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評

価される(いわんや、欠席をや...)。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワー -

対面の形式でのオフィスアワーは、当面、実施する予定はない。個別のメールによる対応や、manaba上のスレッドによる対応となろう。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向および多方向の議論。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

授業内容の進捗に応じて、適宜臨機応変に...

備考 (受講要件)

手続法は円環的構造をもつといわれる。民事訴訟法についてみれば、たとえば、訴えの提起という訴訟の最初の段階で設定される、その訴訟のテーマたる「訴訟物」の範囲で、訴訟の最後の段階である、判決の効力、すなわち、「既判力」が生ずるとされており、訴訟手続の最初の段階の概念である訴訟物が、訴訟手続の最後の段階の既判力の範囲に大きく影響する。逆にいえば、既判力の生ずる範囲を明らかにするには、訴訟物を理解しなければならない。このように、訴訟法では、ある概念が、実は別のところで重要な意義をもち、訴訟手続の局面に応じて登場してくるということが多い。かような構造が、初学者にとっては学習の全体像が見えないことも相俟って、理解を難しくしている。その意味で、訴訟法の学習には、分からないことに耐えて継続する力が不可欠だろう。分からないからといって、すぐに投げ出さず、努力を続けていれば、やがて必ず視界が開けてくる。

ただし、判例の事案を把握するためには、民事実体法、とくに民法、具体的には民法総則、物権法、担保物権法、債権総論、契約法、不法行為法の基礎を理解している必要がある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I (社会保障法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
伊藤周平		099-285-7652	itos@leh.kagoshima-u-ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
小冊子の作成を行う。			
学修目標			
小冊子の作成を義務づけ、自分たちの言葉で社会保障の仕組みをわかりやすく説明できるようにすることを目標とする。			
授業計画			
グループに分かれ、社会保障法に関するテーマをひとつとりあげ（昨年は改正介護保険法をとりあげた）、討議し、わかりやすい小冊子をつくる。			
第1回 ガイダンス			
第2回 小冊子の作成に向けた発表			
第3回 小冊子の作成に向けた発表			
第4回 小冊子の作成に向けた発表			
第5回 小冊子の作成に向けた発表			
第6回 小冊子の作成に向けた発表			
第7回 小冊子の作成に向けた発表			
第8回 小冊子の作成に向けた発表			
第9回 小冊子の作成に向けた発表			
第10回 小冊子の作成に向けた発表			
第11回 小冊子の作成に向けた発表			
第12回 小冊子の作成に向けた発表			
第13回 小冊子の作成に向けた発表			
第14回 小冊子の作成に向けた発表			
第15回 小冊子の作成に向けた発表			
打ち合わせ 1回を含む			
授業外学習 (予習・復習)			
学生はグループで話し合い発表レジュメを作成			
教科書			
特になし。			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
授業 (発表・討論) への取り組み態度 (100%)			
オフィスアワー			
木曜 2限			
アクティブ・ラーニング			
フィールドワーク; その他;			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

資料集めと聞き取り

アクティブ・ラーニング (授業回数)

6回

備考 (受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Business Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
志田惣一		0992857637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>会社法に関する具体的な事例を分析しいかなる法的問題点があるか、解決策はどうかを検討する。 授業は、基礎的な論点を確認した後、学生の報告をもとに検討する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1 事象(事実関係、判決を含む資料)を正確に読解する能力を身につける。 2 基本的な思考力を身につける。 3 資料の収集分析能力を身につける。 4 法的な問題についての報告(文書)をする能力を身につける。 			
授業計画			
<p>*本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>会社法に関する基本的な判決例についての検討</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会社の政治献金 2 法人格の否認と第三者異議の訴え 3 発起人の開業準備行為 4 株式の仮払込 5 株式の共有 6 譲渡制限と株式の譲渡 7 有利発行・新株発行の瑕疵(無効) 8 新株発行の瑕疵(差止め) 9 決議取消の訴え(訴えの利益) 10 取締役権利義務者等 11 表見代表取締役 12 取締役会決議 13 帳簿閲覧請求事件 14 事業譲渡・重要財産の譲渡 15 合併無効事由 			
授業外学習(予習・復習)			
<p>学生の報告を中心に講義を進めるので、報告の準備と、授業後の報告(文書)の見直し、完成。 予習: manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(標準的学習時間は2時間) 復習: 授業における学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(2時間)</p>			
教科書			
岩原伸作他編・会社法判例百選・有斐閣・2016年			
参考書			
神田秀樹・会社法・弘文堂・2021年			

成績の評価基準	
報告 (4 0 %) ・ 授業への参加度 「 討論への取り組み態度等 」 (6 0 %)	
オフィスアワ -	
火 2 限	
アクティブ・ラーニング	
ディベート; プレゼンテーション;	
	アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし	
	アクティブ・ラーニング (授業回数)
1 0 回	
備考 (受講要件)	
とくになし	
	実務経験のある教員による実践的授業
なし	

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I (刑事訴訟法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Criminal Procedure			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島宏		099-285-7633 (研究室)	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>この演習では、刑事訴訟（捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済）の諸問題について、学生の報告と討論による共同研究を行う。刑事訴訟は、いわゆる「平成の司法制度改革」を経て、近年その姿を大きく変容させたところであるが（裁判員制度の導入、検察審査会の権限強化、公判前整理手続の導入など。また、司法制度改革後の動きとして、被害者参加制度の導入があった）、2016年には更なる刑事訴訟法の改正が行われ、捜査や公訴の質的な大転換がもたらされようとしている（取調べの可視化、いわゆる司法取引の導入など）。他方では、冤罪事件などを通じて、わが国の刑事訴訟の伝統的な問題点が今なお明みに出て続けている。今まさに激動期を迎えている刑事訴訟法は、学習・研究の対象として、最もホットな領域と言ってよいだろう（意見には個人差があります）。</p> <p>講義科目である「刑事訴訟法I・II」では、刑事訴訟法を体系的に解説し、解釈論上の争点をほぼ網羅的に取り扱っている【体系的アプローチ】。これに対して、演習では、刑事訴訟に関する具体的な問題点に着目し、その内容を掘り下げつつ、解決のための方法を明らかにするし、それを通じて刑事訴訟全体の構造や特質の理解を獲得することを目指す【問題解決型アプローチ】。</p> <p>具体的なテーマは、教員のアドバイスを踏まえつつ、学生が自分の興味関心に従って自由に設定する。法解釈の枠にとどまらず、立法論や運用論にかかるテーマも積極的に扱う（たとえば、別件逮捕、科学的捜査、取調べ可視化、代用監獄、司法取引、被害者の権利、検察審査会、裁判員制度、証拠開示など）。また、ケース研究として、具体的な事件に注目し、掘り下げてもよい（たとえば、志布志事件、大崎事件など）。</p> <p>学期末には、各人のテーマについての研究成果を小論文にまとめて、インターネットで公開する。これを通じて他大学の刑事訴訟法ゼミとの交流を促進する。</p> <p>なお、学生の関心および研究上の必要性に応じて、裁判所、検察庁、刑務所などの参観を行う。また、実務家などをゲストに招いてお話を伺うこともある（かもしれない）。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 刑事訴訟法の基本的な概念や制度を正しく説明できるようになる。 2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景と本質を正しく分析できるようになる。 3) 刑事訴訟における判例の機能について深く考察できるようになる。 4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、自説を形成できるようになる。 5) 正確で網羅的な文献調査ができるようになる。 6) 研究成果を文章および口頭で正しく伝えられるようになる。。 			
授業計画			
<p>本授業は対面式で実施する。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回 今後の方針決定 第2回 研究課題の策定 第3回 研究報告と討論（捜査 その1） 第4回 研究報告と討論（公訴 その1） 第5回 研究報告と討論（公判・証拠 その1） 第6回 研究報告と討論（少年法・刑事政策 その1）</p>			

- 第7回 研究報告と討論(捜査 その2)
- 第8回 研究報告と討論(公訴 その2)
- 第9回 研究報告と討論(公判・証拠 その2)
- 第10回 研究報告と討論(少年法・刑事政策 その2)
- 第11回 研究報告と討論(捜査 その3)
- 第12回 研究報告と討論(公訴 その3)
- 第13回 研究報告と討論(公判・証拠 その3)
- 第14回 研究報告と討論(少年法・刑事政策 その3)
- 第15回 振り返りと総括 / 論文作成

授業外学習(予習・復習)

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習(研究)のメインであると心得てほしい(いわゆる「反転授業」の考え方)。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である(90分程度)。また、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる(共同研究のマネー)(30分程度)。

教科書

刑事訴訟法の教科書を最低1冊は手元に置くこと。たとえば以下のようなものがある。

[入門書]

- ・三井誠・酒巻匡『入門刑事手続法』(有斐閣、2020年)
- ・笹倉香奈・中島宏・宮木康博『刑事訴訟法』(日本評論社、2021年刊行予定)

[体系書]

- ・酒巻匡『刑事訴訟法』(2016年、有斐閣)
- ・白取祐司『刑事訴訟法[第8版]』(日本評論社、2015年)
- ・池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義[第5版]』(東大出版会、2015年)
- ・上口裕『刑事訴訟法[第4版]』(成文堂、2015年)
- ・宇藤崇ほか『刑事訴訟法』(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2013年)
- ・田口守一『刑事訴訟法[第6版]』(弘文堂、2012年)

法令集は当然ながら必携である。ボールなしにサッカーはできないのと同じ。

参考書

学生が設定する研究テーマに応じて随時案内する。

成績の評価基準

研究報告の水準、発言の頻度と内容、学期末に作成する論文などを踏まえて評価する。なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席については、減点の対象とする。無断欠席を繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

オフィスアワー

月曜4限。ただし、指定された時間以外でも積極的に研究室を訪問し、質問や相談や資料閲覧を行うことが好ましい。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

楽しく厳しいゼミを目指したい。裁判実務に関わる仕事を目指す者はもちろんであるが、希望する将来の進路を

問わず犯罪捜査や刑事裁判に関心があり、主体的に学ぶ意欲を持った学生の参加を期待する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BCX3320

科目名

演習I (民事手続法) (旧 演習)

英語名

Seminar I: Civil Procedure

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

3年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

齋藤 善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

この演習は、「民事手続法」と銘打った。無論、このような名称の法令は存在せず、受講生各位には初耳かもしれない。民事手続法とは、ひろく民事の権利関係の生成、実現に係る手続を対象とする法領域を指す呼称であり、民事訴訟法をはじめ、民事調停法や仲裁法など、そして、民事執行法や民事保全法、さらには、各種の倒産法（破産法や民事再生法等）を含む、包括的な概念と思ってもらえばよい。

こういって、この演習で学習の対象とするのは、極めて広範な領域であるかのように捉えられ、気後れするかもしれないが、そのような不安は当たらない。種明かしをすれば、ここでは民事訴訟法の主要な判例を素材に採った問題演習を中核とし、ケース・スタディの手法を適宜容れながら、民事訴訟法の基礎学力の整備を第一義と考えているところ、受講生各位は、前年度に開講されている民事訴訟法の授業を履修しているとはいえ、その学習時間や学習内容に鑑みれば、いまだ民事訴訟法の初学者の範疇にあらうことは想像に難くない。そこで、本格的なケース・メソッドなど民事訴訟法のコア的学習への導入の意味で、基本的な問題演習やケース・スタディの作法をトレーニングする場合、その素材を判例に採っていることから、事案によっては、民事訴訟法ばかりでなく執行法や倒産法といった他の民事手続法への言及が余儀なくされる。「民事手続法」演習とは、かような点を配慮したわけである。したがって、まずは判例を素材とした問題演習等の学習を通して、制度趣旨、基本的概念や定義をはじめ、民事訴訟法の基礎理論を正確に理解することに意を用いた質疑応答を軸にしながら、これら基礎学力を駆使して議論し、思考できることを目標としたい。

演習の場では、受講生全員が対象判例に関し、十分な予習を尽くしていることを前提に、適宜、教員の側からの質疑を交えながら双方向の遣り取りをしつつ、受講生相互間の多方向の議論まで展開することを旨とする。

学修目標

問題演習やケース・スタディを通じて、帰納的に民事訴訟法の基礎理論を学習する。

判例を正確に「読み解く」ことができる。

問題演習に際して、民事訴訟法の基礎学力に依拠して思考回路を設計し、それを説明することができる。

授業計画

基本判例をベースにした問題演習が中心となる。

日程や内容等の詳細については、受講生各位と調整のうえ、改めて連絡する予定。

統一的なテーマを「訴訟物と既判力」とする。因みに、現在のところ、予定する具体的内容等は以下の通り
.....

第1講 / 第2講 問題解法 / 答案作成の作法【前学期試験問題（民訴?）を題材に】

第3講 / 第4講 事前提示課題の検討解題【重複訴訟の禁止（既判力の抵触 / 争点共通） / 既判力の生じる範囲】

第5講 / 第6講 事前提示課題の検討解題【処分権主義 / 一定額を超えて債務が存在しないことの確認を求める訴え / 重複訴訟の禁止（債務不存在確認請求の訴えとその給付を求める訴え）】

第7講/第8講 即日起案/検討課題【一部請求後の残部請求の可否/一部請求棄却判決後の残部請求の可否/一部請求の全部認容判決の取得と控訴の利益】

第9講/第10講 事前提示課題の検討課題【一部請求に対する一部認容判決/一部請求に対する一部認容判決後の残部請求】

第11講/第12講 即日起案/検討課題【引換給付判決と既判力の生じる範囲/基準時後の建物買取請求権の行使/賃料相当損害金請求(現在の給付と将来の給付)】

第13講/第14講 事前提示課題の検討課題【一部請求と相殺の抗弁/重複訴訟の禁止と相殺の抗弁】

第15講 学習の総括【訴訟物と既判力の生じる範囲】

なお、上記の授業計画の実施方法は、通常の対面方式か、あるいはZoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する方式によって実施することを予定している。ただ、事情の変動により、適宜変更を生じる可能性もあり得る(その場合は、改めて連絡する)。

授業外学習(予習・復習)

毎回、予め提示された「論点と考えるヒント」を考察・検討する作業を経由して、演習の現場に臨むこと(所要時間120分程度)。

多様な質疑や議論の展開を把握するには、相応の事前学習、すなわち、参考となる判例の法理、その事案の概要や判旨を読んで、分からないところや不明確な部分を抽出し、それを読解するために、適宜、参考文献にあたって調べておくことが、演習参加の必要条件となる。

授業後の理解度の確認作業(所要時間120分程度)。

教科書

野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法(北樹出版・平成30年)

参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論(有斐閣・平成28年)
川嶋四郎・民事訴訟法概説[第2版](弘文堂・平成28年)
山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)
和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法(商事法務・平成24年)

【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法(上)[第2版補訂版]、(下)[第2版補訂版](有斐閣・平成25,26年)

伊藤眞・民事訴訟法[第6版](有斐閣・平成30年)
川嶋四郎・民事訴訟法(日本評論社・平成25年)
河野正憲・民事訴訟法(有斐閣・平成21年)
小島武司・民事訴訟法(有斐閣・平成25年)
新堂幸司・民事訴訟法[第5版](弘文堂・平成23年)
中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義[第3版](有斐閣・平成30年)
藤田広美・講義民事訴訟[第3版](東大出版会・平成25年)
藤田広美・解析民事訴訟[第2版](東大出版会・平成25年)
松本博之=上野泰男・民事訴訟法[第8版](弘文堂・平成27年)
三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法[第2版](有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタル民事訴訟法 1 [第2版追補版], 2 [第2版], 3, 4, 5, 6 (日本評論社・平成26, 18, 20, 22, 24, 26年)

松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法 [第2版] (弘文堂・平成23年)

加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタル民事訴訟法 1, 2 (日本評論社・平成30年)

笠井正俊=越山和広編・新コンメンタル民事訴訟法 [第2版] (日本評論社・平成25年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス(報告や質疑応答の頻度、その内容等)により評価する。その際、即日起案やレポート起案といった成果も評価の対象に含まれる。

演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評価される(いわんや、欠席をや...)。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワ -

対面の形式でのオフィスアワーは、当面、実施する予定はない。個別のメールでの対応や、manaba上のスレッドによる対応となる。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向および多方向の議論。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

授業内容の進捗に応じて、適宜臨機応変に...

備考(受講要件)

手続法は円環的構造をもつといわれる。民事訴訟法についてみれば、たとえば、訴えの提起という訴訟の最初の段階で設定される、その訴訟のテーマたる「訴訟物」の範囲で、訴訟の最後の段階である、判決の効力、すなわち、「既判力」が生ずるとされており、訴訟手続の最初の段階の概念である訴訟物が、訴訟手続の最後の段階の既判力の範囲に大きく影響する。逆にいえば、既判力の生ずる範囲を明らかにするには、訴訟物を理解しなければならない。このように、訴訟法では、ある概念が、実は別のところで重要な意義をもち、訴訟手続の局面に応じて登場してくるといことが多い。かような構造が、初学者にとっては学習の全体像が見えないことも相俟って、理解を難しくしている。その意味で、訴訟法の学習には、分からないことに耐えて継続する力が不可欠だろう。分からないからといって、すぐに投げ出さず、努力を続けていれば、やがて必ず視界が開けてくる。

ただし、判例の事案を把握するためには、民事実体法、とくに民法、具体的には民法総則、物権法、担保物権法、債権総論、契約法、不法行為法の基礎を理解している必要がある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(刑法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Criminal Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>刑法/刑事政策に関し、文献を分析し、討論を行う。また、刑事政策分野に関して、特定の問題点に関する現状をまず分析し、その上で、問題を解決するための解決方法としてどのようなものが考えられるか、議論を行い、政策立案を行う。</p> <p>上記授業は対面で行う予定である。また、授業の回数等は変更となる可能性がある。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献の分析の仕方およびその報告の仕方を習得する。 2. 現状を踏まえた上での、政策立案能力を養う 			
授業計画			
<p>授業の実施形態については、後期になる際に改めて提示する。</p> <p>(後期)</p> <p>第1回 ガイダンス。各自担当する文献の決定。報告の仕方に関する指導。</p> <p>第2回 報告と討論</p> <p>第3回 報告と討論</p> <p>第4回 報告と討論</p> <p>第5回 報告と討論</p> <p>第6回 報告と討論</p> <p>第7回 報告と討論</p> <p>第8回 報告と討論</p> <p>第9回 報告と討論</p> <p>第10回 報告と討論</p> <p>第11回 報告と討論</p> <p>第12回 報告と討論</p> <p>第13回 報告と討論</p> <p>第14回 報告と討論</p> <p>第15回 報告と討論</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>報告者は報告の準備に努力を要する。</p> <p>また、報告者以外の受講者も事前に資料に目を通し、発言等を事前に準備しておくこと。</p>			
教科書			
特になし			
参考書			
必要に応じて指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)を総合的に評価する【総合評価100%】			
オフィスアワ -			

月曜12:00 ~ 12:50

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

全回

備考 (受講要件)

刑法理論に関する基本的な知識を備えていることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(租税法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Tax Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
鳥飼貴司		099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		後期	
授業概要			
全授業回対面形式で行う予定である。 後期は、2021年度は鹿児島税務署の「租税教室」への参加のための事前学習。			
学修目標			
1. 主要な租税法規・租税裁判例を知ること。 2. 「租税教室」でプレゼンができること。			
授業計画			
全授業回「対面授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。 (後期) 第1回ガイダンス 第2回報告と討論(1) 第3回報告と討論(2) 第4回報告と討論(3) 第5回報告と討論(4) 第6回報告と討論(5) 第7回報告と討論(6) 第8回報告と討論(7) 第9回報告と討論(8) 第10回報告と討論(9) 第11回報告と討論(10) 第12回報告と討論(11) 第13回報告と討論(12) 第14回報告と討論(13) 第15回まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】 報告担当者以外の受講生も、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと(学習に関わる標準的時間は約2時間)。			
【復習】 提示されたレジュメ、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること(標準的時間は2時間)。			
教科書			
中里実・増井良啓編『租税判例六法』有斐閣			
参考書			
『租税判例百選』有斐閣 『憲法判例百選』有斐閣 金子宏『租税法』弘文堂			

三木義一『よくわかる税法入門』有斐閣

成績の評価基準

3分の2以上の出席で、報告・討論の内容を評価する(100%)

オフィスアワ -

月曜日～金曜日、12:00～12:50(会議などで不在にしている場合もあります)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(財産法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Property and Contract			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
植本幸子	0992857525 下記の後に @leh.kagoshima-u.ac.jp	uemt05	
共同担当教員	前後期		
該当無し	後期		
授業概要			
財産法に関する設例につき論点を整理し、自ら調べ議論する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・法解釈に関する記述を正確に読みとり説明する能力を身につける。 ・事実関係の記述から、当事者の対立する利益を的確に理解して、関係する法的な論点を見つけ出し説明することが出来る。 ・主要な判例を調べ事実と判旨を説明することが出来る。 ・論点に関連する主要な学説を調べ説明することが出来る。 ・民法上の問題に関して私見を説明し報告することが出来る。 ・関連する法的資料を収集して参照し、適切に引用して説明することができる。 			
授業計画			
<p>以下は変更の可能性がある。 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。 リアルタイムZoom双方向が可能な環境を用意すること(無理な場合には相談のこと)。 感染状況や参加者の体調、移動状況に応じて遠隔で実施する。</p>			
第1回	演習における学び方、研究倫理(引用)、教材についての研究打ち合わせ(対面)		
第2回	報告と討論(債権総論に関する主要論点1)(対面)		
第3回	報告と討論(債権総論に関する主要論点2)(対面)		
第4回	報告と討論(債権総論に関する主要論点3)(対面)		
第5回	報告と討論(債権総論に関する主要論点4)(対面)		
第6回	報告と討論(債権総論に関する主要論点5)(対面)		
第7回	報告と討論(債権総論に関する主要論点6)(対面)		
第8回	報告と討論(債権総論に関する主要論点7)(対面)		
第9回	報告と討論(債権各論に関する主要論点1)(対面)		
第10回	報告と討論(債権各論に関する主要論点2)(対面)		
第11回	報告と討論(債権各論に関する主要論点3)(対面)		
第12回	報告と討論(債権各論に関する主要論点4)(対面)		
第13回	報告と討論(債権各論に関する主要論点5)(対面)		
第14回	報告と討論(債権各論に関する主要論点6)(対面)		
第15回	報告と討論(債権各論に関する主要論点7)、主要論点の確認と復習(対面)		
<p>上記テーマは一例であり、参加者の履修範囲や理解に応じて変更可能性がある。また、参加者希望のテーマがあればそれを優先する。 2019年度は百選の2版から一人一題ずつ内容の確認を行っているが、テーマや教材を指定した希望には随時応じる。 見学期間にかかわらずいつでも見学には応じるので、低学年生や別のゼミ所属の場合、いつでもメールで相談</p>			

されたい。

(通常スタイル)

・百選や教科書より、特定の問題について自ら判例と学説を調べ、報告し、判例・学説のスタンスについて議論する。

(上記が困難な場合)

・民法判例百選より、任意の裁判について、審級状況を含む事実関係、判旨、結論を説明できるようにする。報告時、教科書の該当ページの確認、事実関係等の把握の真偽については参加者皆で考察し議論する。

授業外学習(予習・復習)

(予習) 4時間

報告者以外は事前に問題と教科書を勉強し、質問票(数行でも良いが通常はA4で1~2枚程度の場合が多い)を作成する。

報告者は問題と上記事前質問に照らし、教科書、判例、評釈等を収集しレジメを作成する。

(復習) 適宜

修正、追加がある場合には、定められた期限までに事後レポートを提出する。

教科書

手持ちの教科書を必ず持参すること。

参考書

松久三四彦他『事例で学ぶ民法演習』(成文堂2014年)等

六法を必ず携行すること。

成績の評価基準

・授業への取り組み態度100%。

(報告回数、報告以外の回における発言、質問票提出、報告部分の事後レポートによる。)

・演習なのですべての回に出席することが原則となる。事情のある場合も無い場合にも、必ず連絡相談すること。

オフィスアワー

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当無し

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

・民法を通じて基本的な解釈学、裁判例の読み方、文献収集スキル等の基礎を身につけることになる。例年の受講生もLSなど大学院進学者もいれば、司法書士を中心に様々な資格取得する者、各種公務員、民間就職者等様々、進路や理解度も様々である。年度によって雰囲気は全く違うがいかなる状況にも流されることなく、批判を前提に自らの能力を伸ばすよう努力する態度が望まれる。

・高校卒業程度の国語力は当然の前提である。苦手な者は授業に関連した予習等で多くの努力が必要となろう。科目として無関係であると思いき、スタートラインが違うのに努力無しに履修可能と思わないこと。例えば、大審院の判例に当たる場合には当然に旧字体の漢字を調べ、古語に近い言い回しについて辞書等を使って理解することが必要となる。逆に今までの差は少しの差に過ぎない。今後の努力や勉強が、年を経るごとに実力の蓄積となることを意識してあらゆる勉強に励んでもらいたい。

・本学在学生の見学、参加を歓迎する。低学年生の下見や参考の場合には早めの連絡と参観が推奨される(ゼミの抽選関係で掲示される参観期間等には拘束されない)。

実務経験のある教員による実践的授業

該当無し

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I(憲法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
演習形式で、憲法判例や学説についての整理・検討を行う。取り上げる判例・学説については、学生と相談して決める			
遠隔の可能性あり。			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的な概念・判例・学説を理解する。			
(2) 現代の憲法問題について知り、解決策を考える。			
授業計画			
原則として対面で行う。対面を望まない学生向けに遠隔(Zoom)でも同時配信を行う。またコロナの状況次第ですべて遠隔になる可能性もある。			
第1回 オリエンテーション、自己紹介【遠隔】			
第2回 プレゼン(1)【遠隔】			
第3回 プレゼン(2)【遠隔】			
第4回 報告(1)【遠隔】			
第5回 報告(2)【遠隔】			
第6回 報告(3)【遠隔】			
第7回 報告(4)【遠隔】			
第8回 プレゼン(3)【遠隔】			
第9回 報告(5)【遠隔】			
第10回 報告(6)【遠隔】			
第11回 報告(7)【遠隔】			
第12回 報告(8)【遠隔】			
第13回 報告(9)【遠隔】			
第14回 プレゼン(4)			
15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと(80分程度)。			
【復習】配布したレジュメを再読し、論点を再考すること(160分程度)。			
【課外活動】学外研修として、裁判所・刑務所等の見学を予定しています(詳細は講義の際に指示します)。また合宿も予定しています。2020年度は実施しません。			
保険に入る際に必要なので、大学生協に加入しておいてください。			
教科書			
各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日			

本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)

参考書

適宜指示する

成績の評価基準

授業への取り組みの姿勢などを総合的に評価する。

オフィスアワ -

火曜5限(研究室)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特に無し

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3320			
科目名			
演習I (政治学)			
英語名			
Seminar I:Politics			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	
平井一臣		099-285-8855	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
授業概要			
政治学の基本的な考え方、社会事象を政治学的な観点から捉え、客観的なデータに基づいて分析する方法を学ぶ。			
学修目標			
政治学の基礎知識とその応用を修得する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 文献講読 (権力)			
第3回 文献講読 (権威)			
第4回 文献講読 (古代の民主主義)			
第5回 文献講読 (近代の民主主義)			
第6回 文献講読 (現代の民主主義)			
第7回 文献講読 (参加)			
第8回 文献講読 (異議申し立て)			
第9回 文献講読 (地方自治)			
第10回 文献講読 (ジェンダー)			
第11回 文献講読 (戦争と平和)			
第12回 文献講読 (歴史認識)			
第13回 文献講読 (グローバリズム)			
第14回 文献講読 (政治の課題)			
第15回 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
事前にテキストの予定の箇所を熟読し、疑問点を整理する (標準的学習時間は約1時間)。 毎回の授業で討論した内容の要旨を整理し、論点について自分の考えをまとめる (標準的学習時間は1~2時間)。			
教科書			
宇野重規『民主主義とは何か』講談社現代新書。			
参考書			
授業中適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業 (発表・討論) への取り組み態度 (100%)			
オフィスアワ -			
火曜3限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
該当なし			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

14回

備考 (受講要件)

特に無し

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX3320

科目名

演習I (法政策論・行政法務論) (旧 演習)

英語名

Seminar I: Public Policy and Administrative Practice

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

3年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

演習参加者は、各自が関心を持つ安全・安心、環境、まちづくりなどの行政法領域のテーマを定め、当該政策の現状と課題（関連裁判例を含む）について報告を行います。この報告を受けて参加者全員で討論を行います。この演習では、法令、条例の構造・仕組みを丹念に分析することも重視します。

学修目標

(基本的学修目標)

1. プレゼンテーション能力の基礎を養う。
2. リーガル・コミュニケーション能力の基礎を養う。
3. 思考言語化能力の基礎を養う。

(専門的学修目標)

1. 現実の社会に惹起する様々な問題を行政法学的視点で議論できる能力を養う。
2. 公共政策立案に必要な法的基礎を構築する。

授業計画

- 第1回 報告及び討論
- 第2回 報告及び討論
- 第3回 報告及び討論
- 第4回 報告及び討論
- 第5回 報告及び討論
- 第6回 報告及び討論
- 第7回 報告及び討論
- 第8回 報告及び討論
- 第9回 報告及び討論
- 第10回 報告及び討論
- 第11回 報告及び討論
- 第12回 報告及び討論
- 第13回 報告及び討論
- 第14回 報告及び討論
- 第15回 報告及び討論

授業外学習 (予習・復習)

【予習】

本ゼミでは、報告者以外の参加者についても、能動的かつ積極的に討論に参加することを求めます。したがって、参加者全員が報告テーマについて十分な予習をすることが必要です。報告資料はWordにより作成し、報告に当たってはPowerPointにより行うことを予定しています（報告者にとっては10時間程度、報告者以外の者にとっては3時間程度の予習が必要）。

【復習】

報告テーマに関連して指示された事項について復習してください(2時間程度の復習が必要)。

【その他】

報告者が、他の参加者からの質問等に答えられなかった場合には、当該質問事項等について再度報告する必要があります(2時間程度)。

教科書

- ・宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選1〔第7版〕(有斐閣、2017年)
- ・宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選2〔第7版〕』(有斐閣、2017年)

参考書

- ・宇賀克也『行政法概説1〔第7版〕』(有斐閣、2020年)
- ・宇賀克也『行政法概説2〔第6版〕』(有斐閣、2018年)
- ・宇賀克也『行政法概説3〔第5版〕』(有斐閣、2019年)
- ・宇那木正寛『自治体政策立案入門』(ぎょうせい、2015年)

成績の評価基準

演習における報告内容(70%)、討論への参加内容(30%)により評価します。なお、正当な理由がなく報告をしない場合、あるいは無断で欠席した場合には、単位を与えないことがあるので注意して下さい。

オフィスアワ -

水曜日2限目。ただし、不在の場合もあるので、メールであらかじめ面談について日程調整をしておくが確実です。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

本演習により、公共における課題解決において行政法がいかなる役割を果たしているかについて真剣に学びたいという意欲のある学生の参加を歓迎します。

ゼミ参加者は、報告・討論については、もちろん、ゼミの運営についても主体的かつ能動的な役割を果たすことを求めます。

ゼミが共に学ぶ者の組織である以上、ゼミ参加者は、ゼミ運営における約束を守り、挨拶や連絡をとるといった最低限のマナーを守ることはもちろん、自己の行動や発言に責任を持たなければなりません。

ゼミの主役は参加者ひとりひとりです。共に学び、共に悩み、共に成長しましょう。

実務経験のある教員による実践的授業

自治体の職員として、25年間にわたり、公共政策の立案などの実務に従事してきました。その経験から法理論だけではなく、臨床面も意識した研究を行っており、その研究成果をみなさんに還元できるような授業を心掛けています。

ナンバリングコード

FHS-BCX3320

科目名

演習I (法社会学) (旧 演習)

英語名

Seminar I: Socio-Legal Studies

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

3年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

米田憲市

099-285-8860

kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp (subject欄に、科目名と用件を記載し、本文には氏名と学籍番号を、必ず記載すること)

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

小難しい言い方をすれば、法社会学は、法やルールの社会的性質をその状況的事実とともに明らかにすることを志向し、理解を深めようとする研究実践とその成果の総体の呼称である。

この研究領域では、多様な研究主題に多様な研究手法がとられることに鑑み、まず、これまでどのような主題がどのような手法で研究されているのかを明らかにしながら、これとほぼ並行して行う共通主題の調査研究と合わせて、この分野が法に関する研究分野の中で最も自由な性質を持つ分野であることを実感してもらい、「法についての知的で体験的で実践的な冒険」を授業の概要にしたい。

学修目標

再び小難しい言い方をすると、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひつとぶ」意欲を持つことを、学修目標とする。

授業計画

おおむね、次の5つのテーマに取り組む。

1. いわゆる"法社会学"にはどのような研究があるかリサーチする。
2. いわゆる"法社会学"の研究に、どのような研究手法がとられているかをリサーチする。
3. 法に関する諸場面や諸活動の位置づけや構造を説明する。
4. 新聞やニュースなどで法社会学的な現象を取り上げ、それがいかに法社会学的かを説明する。
5. 日常生活の中の場面にルールを発見し、そのルールを説明する。

対面予定ですが、状況に応じて、課題提出型、オンデマンド型、リアルタイム型を併用します。

第1回 ガイダンス

第2回 設定された課題についての調査 / 検討結果の報告、討論 【対面予定】

第3回 設定された課題についての調査 / 検討結果の報告、討論 【対面予定】

第4回 設定された課題についての調査 / 検討結果の報告、討論 【対面予定】

第5回 設定された課題についての調査 / 検討結果の報告、討論 【対面予定】

第6回 設定された課題についての調査 / 検討結果の報告、討論 【対面予定】

第7回 設定された課題についての調査 / 検討結果の報告、討論 【対面予定】

第8回 設定された課題についての調査 / 検討結果の報告、討論 【対面予定】

第9回 設定された課題についての調査 / 検討結果の報告、討論 【対面予定】

第10回 設定された課題についての調査 / 検討結果の報告、討論 【対面予定】

第11回 設定された課題についての調査 / 検討結果の報告、討論 【対面予定】

第12回 設定された課題についての調査 / 検討結果の報告、討論 【対面予定】

第13回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】
第14回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】
第15回	設定された課題についての調査/検討結果の報告、討論	【対面予定】
授業外学習(予習・復習)		
ゼミでの発表・報告に向けた準備のため、時間外の共同作業が必須である。 また、より充実した成果を上げるために、地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。		
教科書		
指定しない。		
参考書		
随時紹介する。		
成績の評価基準		
上記、学修目標などに対して、積極的かつ意欲的に取り組んでいるかを基準とする(100%)。		
オフィスアワ -		
水曜5限(その他、随時対応する。)		
アクティブ・ラーニング		
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);		
アクティブ・ラーニング(その他の内容)		
該当なし		
アクティブ・ラーニング(授業回数)		
15回中15回		
備考(受講要件)		
<ul style="list-style-type: none"> ・「法社会学」「法情報論」の在学中の履修(履修前でなくてよい)が必須である。 ・学生の研究活動の進捗や課題に合わせて、開講時間を変更することがある。 ・法情報論ほか法政策学科で開講される、法に関する実践的な科目の受講を推奨する。 ・法社会学の学会、研究発表会などに遠征する学修が含まれることがある。 ・繰り返したが、課外の時間に開催される地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。 ・これまた、繰り返しになるが、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひとつぶ」意欲を持つ者を歓迎する。 		
実務経験のある教員による実践的授業		
該当なし		

ナンバリングコード

FHS-BCX3320

科目名

演習I (行政法・地方自治法) (旧 演習)

英語名

Seminar I: Administrative and Local Government Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

3年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

森尾成之

manabaで受け付けます

manabaで受け付けます

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

行政法・地方自治法 (含、環境法) に関する解釈論、政策法学的検討を行う。

(1) 受講者が、現在、国や地方公共団体が抱えている行政法上の問題の中から関心のあるテーマを選んで報告を行う。具体的には、住民参画と法、まちづくりや災害と法、行政訴訟改革、情報公開と個人情報保護、ゴミ問題、放置自転車対策、体罰やいじめの問題、議会と長の関係、食品の安全性、耐震偽装の問題、災害さらには危機管理と法の問題、等々。こうしたテーマの中から、現行法制の仕組み、判例や学説の立場と解釈上の限界を踏まえて、さらによりよい仕組みはないかを皆で検討する。必要に応じて、役所や問題となっている現場に赴き実態調査やインタビューを行うことも求められる。

(2) 近時の行政に関する時事的なテーマにつきディベートを行う。

(3) 条例や政策立案の基礎を学ぶ。

以上のような中から、受講学生の興味・関心も参考としながら、適宜選択、組み合わせを進めていく。

国、地方公共団体の公務員志望者、マスコミ関係志望者などを主たる対象としつつ、報告のテーマ選びと基礎学力固め、プレゼンテーション、ファシリテーション能力の養成を目指す。

学修目標

講義で学んだ理論、判例、学説の理解と演繹。

講義で学んだことを踏まえつつ、自分自身の考えを聞き手に分かるように論理的に表現できるようになること。

他者の意見を聞きつつ、より妥当な解決方法はないかを考える眼を養う。

授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 報告と討論 (1)

第3回 報告と討論 (2)

第4回 報告と討論 (3)

第5回 報告と討論 (4)

第6回 報告と討論 (5)

第7回 報告と討論 (6)

第8回 報告と討論 (7)

第9回 報告と討論 (8)

第10回 報告と討論 (9)

第11回 報告と討論 (10)

第12回 報告と討論 (11)

第13回 報告と討論 (12)

第14回 報告と討論 (13)

第15回 報告と討論 (14)

授業外学習 (予習・復習)

ゼミ合宿なり社会見学、出前授業などを実施することがある。

教科書

授業中に適宜指示する。

参考書

授業中に適宜指示する。

成績の評価基準

ゼミでの参加状況(報告、発言など)で評価する。
事前の連絡なく欠席する者には単位を与えないことがある。

オフィスアワ -

演習終了後に受け付け適宜対応します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

六法必携, シラバスの内容は若干変更することもある。
オンラインで授業を行う。

実務経験のある教員による実践的授業

実務経験のある教員による授業ではありません。

ナンバリングコード

FHS-BCX3320

科目名

演習I (行政法・地方自治法) (旧 演習)

英語名

Seminar I: Administrative and Local Government Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

3年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

森尾成之

manabaで受け付けます

manabaで受け付けます

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

行政法・地方自治法 (含、環境法) に関する解釈論、政策法学的検討を行う。

(1) 受講者が、現在、国や地方公共団体が抱えている行政法上の問題の中から関心のあるテーマを選んで報告を行う。具体的には、住民参画と法、まちづくりや災害と法、行政訴訟改革、情報公開と個人情報保護、ゴミ問題、放置自転車対策、体罰やいじめの問題、議会と長の関係、食品の安全性、耐震偽装の問題、災害さらには危機管理と法の問題、等々。こうしたテーマの中から、現行法制の仕組み、判例や学説の立場と解釈上の限界を踏まえて、さらによりよい仕組みはないかを皆で検討する。必要に応じて、役所や問題となっている現場に赴き実態調査やインタビューを行うことも求められる。

(2) 近時の行政に関する時事的なテーマにつきディベートを行う。

(3) 条例や政策立案の基礎を学ぶ。

以上のような中から、受講学生の興味・関心も参考としながら、適宜選択、組み合わせを進めていく。

国、地方公共団体の公務員志望者、マスコミ関係志望者などを主たる対象としつつ、報告のテーマ選びと基礎学力固め、プレゼンテーション、ファシリテーション能力の養成を目指す。

学修目標

講義で学んだ理論、判例、学説の理解と演繹。

講義で学んだことを踏まえつつ、自分自身の考えを聞き手に分かるように論理的に表現できるようになること。

他者の意見を聞きつつ、より妥当な解決方法はないかを考える眼を養う。

授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 報告と討論 (1)

第3回 報告と討論 (2)

第4回 報告と討論 (3)

第5回 報告と討論 (4)

第6回 報告と討論 (5)

第7回 報告と討論 (6)

第8回 報告と討論 (7)

第9回 報告と討論 (8)

第10回 報告と討論 (9)

第11回 報告と討論 (10)

第12回 報告と討論 (11)

第13回 報告と討論 (12)

第14回 報告と討論 (13)

第15回 報告と討論 (14)

授業外学習 (予習・復習)

ゼミ合宿なり社会見学、出前授業などを実施することがある。

教科書

授業中に適宜指示する。

参考書
授業中に適宜指示する。
成績の評価基準
ゼミでの参加状況(報告、発言など)で評価する。 事前の連絡なく欠席する者には単位を与えないことがある。
オフィスアワ -
授業終了後に受け付け、適宜対応する。
アクティブ・ラーニング
グループワーク; プレゼンテーション;
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
なし
アクティブ・ラーニング(授業回数)
15回中15回
備考(受講要件)
シラバスの内容は若干変更することがある。
実務経験のある教員による実践的授業
実務経験のある教員による授業ではありません

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II(刑法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Criminal Law Advanced			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
刑法に関し、他の学問分野との関係性を理解するための演習をゼミ形式で行う。			
学修目標			
刑法が他の学問分野とどのような関係性を有するのか概観し、社会の中で刑法の占めるべき位置について理解すること。			
授業計画			
本演習は対面での実施を予定しているが、授業形態については種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
(前期)			
第1回 ガイダンス。各自担当する文献の決定。報告の仕方に関する指導。			
第2回 報告と討論			
第3回 報告と討論			
第4回 報告と討論			
第5回 報告と討論			
第6回 報告と討論			
第7回 報告と討論			
第8回 報告と討論			
第9回 報告と討論			
第10回 報告と討論			
第11回 報告と討論			
第12回 報告と討論			
第13回 報告と討論			
第14回 報告と討論			
第15回 報告と討論			
授業の回数等に変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
報告者は報告の準備に努力を要する。			
教科書			
後日、指示する。			
参考書			
特に無し			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)を総合的に評価する【総合評価100%】			
オフィスアワ -			
月曜12:00 ~ 12:50			

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全回

備考(受講要件)

3年次に演習?(刑法)を受講していること。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II(租税法)(旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Tax Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

鳥飼貴司

099-285-7623

torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし。

前期

授業概要

課題研究作成のための指導を行う。

学修目標

1. 租税の法的問題点についての基本的理解を深める。
2. 論文作成能力を身につける。

授業計画

各回は、演習科目なので対面授業です。
ただし、コロナの影響でどうしても大学に来られない場合には、遠隔授業(オンデマンド配信)で対応します。
なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は 変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知します。

(前期)

- 第1回ガイダンス
- 第2回報告と討論(1)
- 第3回報告と討論(2)
- 第4回報告と討論(3)
- 第5回報告と討論(4)
- 第6回報告と討論(5)
- 第7回報告と討論(6)
- 第8回報告と討論(7)
- 第9回報告と討論(8)
- 第10回報告と討論(9)
- 第11回報告と討論(10)
- 第12回報告と討論(11)
- 第13回報告と討論(12)
- 第14回報告と討論(13)
- 第15回まとめ

授業外学習(予習・復習)

予習:教科書や配布された授業資料等について事前に学習すること(2時間)、復習:参考文献などを読み、当該分野についての知見を深めること(2時間)。

教科書

細川 健『租税法修士論文の書き方』 白桃書房

参考書

金子宏『租税法』(弘文堂)
毎年改訂されているので、最新版を購入すること。

成績の評価基準

報告・討論の内容を評価する(100%)。

オフィスアワ -

月曜日～金曜日、12:00～12:50(会議などで不在にしている場合もあります)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

演習Iを受講している必要があります。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II (財産法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Property and Contract

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

植本幸子

@leh.kagoshima-u.ac.jp

メール前半: uemt05 ; 電話
0992857525

共同担当教員

前後期

該当無し

前期

授業概要

民法領域に関連する課題を各自で設定し、口頭報告と討論を行う。

学修目標

- ・民法に関連する問題についての資料を集めまとめ、説明することができる。
- ・民法に関連する問題について行われる報告に関連して、私見を示すことができる。
- ・民法に関連する問題について報告書としてまとめ私見を示すことができる。

授業計画

2021年度は、「演習?」の時間帯についてもリアルタイムZoom双方向の用意をすること。
テーマについては希望を優先する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究倫理
- 第3回 財産法問題に関する討論と議論
- 第4回 財産法問題に関する討論と議論
- 第5回 財産法問題に関する討論と議論
- 第6回 財産法問題に関する討論と議論
- 第7回 財産法問題に関する討論と議論
- 第8回 財産法問題に関する討論と議論
- 第9回 財産法問題に関する討論と議論
- 第10回 財産法問題に関する討論と議論
- 第11回 財産法問題に関する討論と議論第12回
- 第13回 財産法問題に関する討論と議論第14回
- 第15回 重要ポイントの復習と確認

進捗状況報告日においては、テーマ設定の状況を報告する。さらに、学期前に連絡した任意の教材により
主要な論点について一通り概要を説明することにより、各テーマ設定に役立てる。

口頭報告を行わない者は、指示された期日に報告者への質問票を提出する。

就職活動などやむを得ぬ事情で欠席の場合には、レポートをもって出席に替えることがある。

授業外学習 (予習・復習)

(予習)

報告者以外は報告者の研究テーマに従って教科書等により疑問点や私見を固める。
報告者は課題研究に相当するレポートを作成する。

(復習)

報告者以外は、報告時の議論にを反映させ関連論点につき自己の私見を固める。
報告者は、報告時の議論を反映させて課題研究の作成を行う。

教科書

手持ちの物を必ず持参すること。

参考書

六法

自己の報告に関連する資料や教科書は必ず持参すること

成績の評価基準

- ・授業への取り組み態度(口頭報告への取り組み態度と深度、発言の回数、質問票の提出状況。発言の内容より予習による理解度が深く、優れた考察が見られた場合には加点となる。)
- ・レポート(指導を反映させた報告書を作成できているかどうか。口頭報告までの準備状況や最終提出分の内容が深く優れている場合には加点。)

オフィスアワ -

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当無し

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

演習?(財産法)を4単位履修済みであること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当無し

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II (社会保障法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
伊藤周平		099-285-7564	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		itos@leh.kagoshima-u-ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
研究報告書の作成指導を行う。			
学修目標			
研究報告書の作成を目標とする。			
授業計画			
第1回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第2回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第3回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第4回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第5回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第6回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第7回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第8回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第9回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第10回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第11回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第12回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第13回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第14回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
第15回	研究報告書の作成に向けてのガイダンス、	テーマの設定のアドバイス	
授業外学習 (予習・復習)			
事前のレジュメの準備			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (研究報告書の内容)			
オフィスアワ -			
木曜 2 限			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
該当なし			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
14回			
備考 (受講要件)			
演習?を受講していることが必要です			

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II (民事手続法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II: Civil Procedure

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース / 選択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

齋藤 善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

前年度および前学期の判例学習や問題演習を踏まえ、学習を一層、深化そして進化させるべく、ワンランクアップした問題演習等に取り組む。

学修目標

問題演習のテーマについて、文献や判例を検索・狩猟し、「読み込む」作業を尽くすこと。
 そうして読解した内容を分析・整理すること。
 そこで得られた知見をもとに、問題解法のための理屈を考察すること。
 結論に至る思考過程について、説得力のある説明ができること。

授業計画

判決手続の問題演習 (含、判例研究)。

各回のテーマについては、今のところ凡そ以下を予定するが、変更の可能性を留保したい。なお、詳細は、開講前に改めて連絡する。

第1講 / 第2講 事前提示課題の検討解題【文書の成立の真正を認める陳述 / 判決理由中の判断の拘束力 / 口頭弁論終結後の承継人】

第3講 / 第4講 事前提示課題の検討解題【訴状や判決の補充送達と再審の補充性 / 裁量移送の適否 / 別訴先行時の相殺の抗弁の適否】

第5講 / 第6講 即日起案【否認と抗弁 / 別訴先行時の相殺の抗弁の適否 / 当事者からの主張の要否と弁論主義違反】

第7講 / 第8講 事前提示課題の検討解題【原告欠席時に答弁書記載の事実を変更する陳述 / 弁論準備手続における自白の撤回 / 主要争点共通時の142条の適否】

第9講 / 第10講 即日起案【重複訴訟の禁止】

第11講 / 第12講 即日起案【権利自白 / 信義則による後訴の遮断】

第13講 / 第14講 事前提示課題の検討解題【債務不存在確認請求の訴えとその給付請求の訴え / 重複訴訟の禁止 / 確認の利益】

第15講 学習の総括

なお、授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、授業の実施方法など変更を生じる可能性もあり得る。

授業外学習 (予習・復習)

毎回、予め提示された「論点と考えるヒント」を考察・検討する作業を経由して、演習の現場に臨むこと(所要時間120分程度)。

多様な質疑や議論の展開を把握するには、相応の事前学習、すなわち、参考となる判例の法理、その事案の概要や判旨を読んで、分からないところや不明確な部分を抽出し、それを読解するために、適宜、参考文献にあたって調べておくことが、演習参加の必要条件となる。

授業後の理解度の確認作業(所要時間120分程度)。

教科書

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法(弘文堂・平成31年)

参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論(有斐閣・平成28年)
 川嶋四郎・民事訴訟法概説[第2版](弘文堂・平成28年)
 山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)
 和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法(商事法務・平成24年)
 野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法(北樹出版・平成30年)

【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法(上)[第2版補訂版]、(下)[第2版補訂版](有斐閣・平成25,26年)
 伊藤眞・民事訴訟法[第6版](有斐閣・平成30年)
 川嶋四郎・民事訴訟法(日本評論社・平成25年)
 河野正憲・民事訴訟法(有斐閣・平成21年)
 小島武司・民事訴訟法(有斐閣・平成25年)
 新堂幸司・民事訴訟法[第5版](弘文堂・平成23年)
 中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義[第3版](有斐閣・平成30年)
 藤田広美・講義民事訴訟[第3版](東大出版会・平成25年)
 藤田広美・解析民事訴訟[第2版](東大出版会・平成25年)
 松本博之=上野泰男・民事訴訟法[第8版](弘文堂・平成27年)
 三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGA QUEST民事訴訟法[第2版](有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタル民事訴訟法1[第2版追補版],2[第2版],3,4,5,6(日本評論社・平成26,18,20,22,24,26年)
 松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法[第2版](弘文堂・平成23年)
 加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタル民事訴訟法1,2(日本評論社・平成30年)
 笠井正俊=越山和広編・新コンメンタル民事訴訟法[第2版](日本評論社・平成25年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス(報告や質疑応答の頻度、その内容等)も斟酌しつつ、即日起案などの成果も加味して評価する。

演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評価される。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワ -

対面の形式でのオフィスアワーは、当面、実施する予定はない。個別のメールによる対応や、manaba上のスレッドによる対応となろう。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向の議論。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

授業内容に応じて、適宜臨機応変に...

備考 (受講要件)

とくに設定しない。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II (民事手続法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II: Civil Procedure

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

齋藤 善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

前年度の判例学習や問題演習を踏まえ、学習を一層、深化そして進化させるべく、ワンランクアップした判例研究や問題演習等に取り組む。

学修目標

判例研究や問題演習のテーマについて、文献や参考判例を検索・狩猟し、「読み込む」作業を尽くすこと。そうして読解した内容を分析・整理すること。そこで得られた知見をもとに、問題の解法のための理屈を考察すること。結論に至る思考過程について、説得力のある説明ができること。

授業計画

判決手続の領域を中心とした判例研究や問題演習。

各回のテーマについては、今のところ凡そ以下の通りを予定するが、変更の可能性を留保したい。なお、詳細は、開講前に改めて連絡する。

- 第1講 / 第2講 事前提示課題の検討解題【一部請求棄却判決後の残部請求の可否】
- 第3講 / 第4講 判例研究【最判平成10.6.12】
- 第5講 / 第6講 事前提示課題の検討解題【別訴債権を本訴での相殺の抗弁に提出することの許否】
- 第7講 / 第8講 判例研究【最判平成10.6.30】
- 第9講 / 第10講 即日起案 / 検討解題【債務不存在確認請求の訴え】
- 第11講 / 第12講 判例研究【最判平成16.3.25】
- 第13講 / 第14講 即日起案 / 検討解題【法人格なき社団による登記手続請求の訴え】
- 第15講 学習の総括

なお、授業計画の実施方法は、通常の対面方式か、あるいはZoomによるリアルタイム配信を基調としながら、必要に応じ、manabaによる資料等の提供やメール等の送受信による指導等も交えて行う方式によることを予定している。ただ、事情の変動により、適宜変更を生じる可能性もあり得る（その場合は、改めて連絡する）。

授業外学習 (予習・復習)

毎回、予め提示された「論点と考えるヒント」を考察・検討する作業を経由して、演習の現場に臨むこと（所要時間120分程度）。

多様な質疑や議論の展開を把握するには、相応の事前学習、すなわち、参考となる判例の法理、その事案の概要や判旨を読んで、分からないところや不明確な部分を抽出し、それを読解するために、適宜、参考文献にあた

って調べておくことが、演習参加の必要条件となる。

授業後の理解度の確認作業 (所要時間 120 分程度)。

教科書

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法 (弘文堂・平成 31 年)

参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論 (有斐閣・平成 28 年)
 川嶋四郎・民事訴訟法概説 [第 2 版] (弘文堂・平成 28 年)
 山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法 [第 3 版] (有斐閣・平成 30 年)
 和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法 (商事法務・平成 24 年)

【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法 (上) [第 2 版補訂版], (下) [第 2 版補訂版] (有斐閣・平成 25, 26 年)
 伊藤眞・民事訴訟法 [第 6 版] (有斐閣・平成 30 年)
 川嶋四郎・民事訴訟法 (日本評論社・平成 25 年)
 河野正憲・民事訴訟法 (有斐閣・平成 21 年)
 小島武司・民事訴訟法 (有斐閣・平成 25 年)
 新堂幸司・民事訴訟法 [第 5 版] (弘文堂・平成 23 年)
 中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義 [第 3 版] (有斐閣・平成 30 年)
 藤田広美・講義民事訴訟 [第 3 版] (東大出版会・平成 25 年)
 藤田広美・解析民事訴訟 [第 2 版] (東大出版会・平成 25 年)
 松本博之=上野泰男・民事訴訟法 [第 8 版] (弘文堂・平成 27 年)
 三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGA QUEST 民事訴訟法 [第 2 版] (有斐閣・平成 27 年)

【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタル民事訴訟法 1 [第 2 版追補版], 2 [第 2 版], 3, 4, 5, 6 (日本評論社・平成 26, 18, 20, 22, 24, 26 年)
 松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法 [第 2 版] (弘文堂・平成 23 年)
 加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタル民事訴訟法 1, 2 (日本評論社・平成 30 年)
 笠井正俊=越山和広編・新コンメンタル民事訴訟法 [第 2 版] (日本評論社・平成 25 年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス (報告や質疑応答の頻度、その内容等) も斟酌しつつ、即日起案などの成果も加味して評価する。

演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評価される。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワー

対面の形式でのオフィスアワーは、当面、実施する予定はない。個別のメールによる対応や、manaba 上のスレッドによる対応となる。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向の議論。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

授業内容に応じて、適宜臨機応変に...

備考(受講要件)

とくに設定しない。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II(刑法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Criminal Law Advanced			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
これまで行ってきた刑事法に関する研究を基にして、よりレベルアップした議論を行う。			
学修目標			
これまでに行ってきた演習において養ってきた下記2つのスキル・能力を完成させる。			
1. 文献の分析の仕方およびその報告の仕方を習得			
2. 現状を踏まえた上での、政策立案能力			
授業計画			
授業の実施形態については対面を予定している。			
(後期)			
第1回 ガイダンス。各自担当する文献の決定。報告の仕方に関する指導。			
第2回 報告と討論			
第3回 報告と討論			
第4回 報告と討論			
第5回 報告と討論			
第6回 報告と討論			
第7回 報告と討論			
第8回 報告と討論			
第9回 報告と討論			
第10回 報告と討論			
第11回 報告と討論			
第12回 報告と討論			
第13回 報告と討論			
第14回 報告と討論			
第15回 報告と討論			
授業の回数に変更となる場合がある。			
授業外学習(予習・復習)			
報告者は報告の準備に努力を要する。			
教科書			
特になし。			
参考書			
必要に応じて指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)および研究報告書を総合的に評価する【総合評価100%】			
オフィスアワ -			

月曜12:00 ~ 12:50

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

全回

備考 (受講要件)

3年次に演習? 「刑法」を受講していること。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II (社会保障法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
伊藤周平		099-285-7564	itos@leh.kagoshima-u-ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
研究報告書の作成指導を行う。			
学修目標			
研究報告書の作成を目標とする。			
授業計画			
第1回 研究報告書の作成の指導			
第2回 研究報告書の作成の指導			
第3回 研究報告書の作成の指導			
第4回 研究報告書の作成の指導			
第5回 研究報告書の作成の指導			
第6回 研究報告書の作成の指導			
第7回 研究報告書の作成の指導			
第8回 研究報告書の作成の指導			
第9回 研究報告書の作成の指導			
第10回 研究報告書の作成の指導			
第11回 研究報告書の作成の指導			
第12回 研究報告書の作成の指導			
第13回 研究報告書の作成の指導			
第14回 研究報告書の作成の指導			
第15回 研究報告書の作成の指導			
授業外学習 (予習・復習)			
事前にレジュメの準備			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (研究報告書の内容)			
オフィスアワ -			
木曜 2 限			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
該当なし			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
14回			
備考 (受講要件)			
演習?を受講していることが必要です			

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II(財産法)(旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Property and Contract

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

植本幸子

0992857525メール統:
@leh.kagoshima-u.ac.jp

uemt05

共同担当教員

前後期

該当無し

後期

授業概要

民法領域に関連する課題を各自で設定し、口頭報告と討論を行う。

学修目標

- ・民法に関連する問題についての資料を集めまとめ、説明することができる。
- ・民法に関連する問題について行われる報告に関連して、私見を示すことができる。
- ・民法に関連する問題について報告書としてまとめ私見を示すことができる。

授業計画

(後期)

2021年度は、「演習?」の時間帯についてもリアルタイムZoom双方向の用意をすること。

テーマについては希望を優先する。

対面実施は全員の同意がある場合、かつ安全が確保される場合にのみ実施する。

- 第1回 ガイダンス(遠隔)
- 第2回 研究倫理(対面)
- 第3回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第4回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第5回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第6回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第7回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第8回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第9回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第10回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第11回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第12回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第13回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第14回 財産法問題に関する討論と議論(対面)
- 第15回 重要ポイントの復習と確認(対面)

進捗状況報告日においては、テーマ設定の状況を報告する。さらに、学期前に連絡した任意の教材により主要な論点について一通り概要を説明することにより、各テーマ設定に役立てる。

口頭報告を行わない者は、指示された期日に報告者への質問票を提出する。

就職活動などやむを得ぬ事情で欠席の場合には、レポートをもって出席に替えることがある。

授業外学習(予習・復習)

報告の準備(資料の読破と論文作成)のために、理想は最低でも3×15時間の予習が必要である。

ただし、令和2年2月からのコロナ対策期間中は過労を避け、無理のない進行に配慮する。

復習としては、授業中の議論と論点を復習しよりよいレポートに修正する(適宜)。

教科書

民法の講義を受ける際に使用するよう指導されていた教科書を用意すること。

参考書

六法を必ず用意すること。

報告時には、本文中引用の資料を必ず持参すること。

成績の評価基準

・授業への取り組み態度(口頭報告への取り組み態度と深度、発言の回数、質問票の提出状況。発言の内容において予習による理解度が深く、優れた考察が見られた場合には加点となる。)

・レポート(指導を反映させた課題研究報告書作成し、期限通りに提出できるかどうか。口頭報告までの準備状況や最終提出分の内容が深く優れている場合には加点。)

オフィスアワ -

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当無し

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

・演習?(財産法)を4単位履修済みであること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当無し

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II(租税法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Tax Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
烏飼貴司		099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		後期	
授業概要			
全授業回対面形式で行う予定である。 課題研究作成及び大学院進学のための指導を行う。			
学修目標			
1. 租税の法的問題点についての基本的理解を深める。 2. 論文作成能力を身につける。			
授業計画			
全授業回「対面授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。 (後期) 第1回ガイダンス 第2回報告と討論(1) 第3回報告と討論(2) 第4回報告と討論(3) 第5回報告と討論(4) 第6回報告と討論(5) 第7回報告と討論(6) 第8回報告と討論(7) 第9回報告と討論(8) 第10回報告と討論(9) 第11回報告と討論(10) 第12回報告と討論(11) 第13回報告と討論(12) 第14回報告と討論(13) 第15回まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
各自のテーマについて授業外で調査・分析を進める。			
教科書			
細川 健『租税法修士論文の書き方』 白桃書房			
参考書			
金子宏『租税法』(弘文堂) 毎年改訂されているので、最新版を購入すること。			
成績の評価基準			
課題研究報告の内容を評価する(100%)。			
オフィスアワー			
月曜日～金曜日、12:00～12:50(会議などで不在にしている場合もあります)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

演習Iを受講している必要があります。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II (法政策論・行政法務論) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Public Policy and Administrative Practice

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
メールには、必ず学籍番号と氏名
を明記し、パソコンからのメール拒
否設定を解除しておいて下さい。

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

受講生1人1人が研究テーマを決定します(決定に関しては、担当教員がアドバイスをします)。各人が選択した研究テーマについて、その研究の進行状況を毎回報告し、報告内容について参加者全員で議論します。

学修目標

- (1) 研究手法及び論文の作成方法を学ぶ。
- (2) 論文を作成する。

授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabのコースニュースや授業内において案内します。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 報告及び報告内容についての討論
- 第3回 報告及び報告内容についての討論
- 第4回 報告及び報告内容についての討論
- 第5回 報告及び報告内容についての討論
- 第6回 報告及び報告内容についての討論
- 第7回 報告及び報告内容についての討論
- 第8回 報告及び報告内容についての討論
- 第9回 報告及び報告内容についての討論
- 第10回 報告及び報告内容についての討論
- 第11回 報告及び報告内容についての討論
- 第12回 報告及び報告内容についての討論
- 第13回 報告及び報告内容についての討論
- 第14回 報告及び報告内容についての討論
- 第15回 報告及び報告内容についての討論

授業外学習(予習・復習)

【予習】

本ゼミでは、能動的かつ積極的に討論に参加することを求めます。したがって、参加者全員が他の報告者の報告内容について十分な予習を行い、討論に参加しなければなりません(予習には2時間程度必要です)。

【復習(次回報告に向けた準備)】

各回、次回の報告に向けた課題を担当教員が指導するので、当該指導にしたがって、当該報告者は、次回の報告に向けた準備をして下さい(約3時間程度が必要)。

【その他】

報告者が、他の参加者からの質問等に答えられなかった場合には、再度報告する必要があります。

教科書

授業中に適宜指示します。

参考書

授業中に適宜指示します。

成績の評価基準

演習における報告内容(70%)、討論への参加内容(30%)により評価します。なお、正当な理由がなく報告をしない場合、あるいは無断で欠席した場合には、単位を与えないことがあるので注意して下さい。

オフィスアワ -

水曜日2限目。ただし、公務により不在の場合もあるので、来訪時は、事前メール等で日程調整をしたほうが確実です。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、WEB会議システムZOOMにより行う場合があります。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

演習Iを受講していることが必要です。

実務経験のある教員による実践的授業

自治体の職員として25年間にわたり公共政策の立案などの実務に従事してきました。その経験から法理論だけではなく臨床面も意識した研究を行っています。その研究成果をみなさんに還元できるような授業を心掛けています。

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II (政治学) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Politics			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
平井一臣		099-285-8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
政治学の基礎を踏まえた、日本政治の歴史と現状についての分析手法を学ぶ。授業はリアルタイム型 (オンライン型) で行う。			
学修目標			
現代社会の様々な問題に関心をもち、広い視野で考える力を身につける。 政治学の方法を使った歴史・社会の分析を理解する能力を身につける。 文章や他者の発言を正確に理解したうえで、自らの考えを明確に伝達できる能力を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 文献講読、発表及び討論 (権力と政治)			
第3回 文献講読、発表及び討論 (権威と政治)			
第4回 文献講読、発表及び討論 (君主制と共和制)			
第5回 文献講読、発表及び討論 (絶対主義)			
第6回 文献講読、発表及び討論 (自由主義と民主主義)			
第7回 文献講読、発表及び討論 (社会主義)			
第8回 文献講読、発表及び討論 (ファシズム)			
第9回 文献講読、発表及び討論 (福祉国家)			
第10回 文献講読、発表及び討論 (開発独裁)			
第11回 文献講読、発表及び討論 (権威主義体制)			
第12回 文献講読、発表及び討論 (ポピュリズム)			
第13回 文献講読、発表及び討論 (グローバリズム)			
第14回 総括			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
事前にテキストの予定の箇所を熟読し、疑問点を整理する (標準的学習時間は約1時間)。 毎回の授業で討論した内容の要旨を整理し、論点について自分の考えをまとめる (標準的学習時間は1~2時間)。 。			
教科書			
授業開始時に指定する。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワ -			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

演習?を受講していることが必要です

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II (政治学) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Politics			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
平井一臣		099-285-8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
政治学の基礎を踏まえた、日本政治の歴史と現状についての分析手法を学ぶとともに、学生によるプレゼンテーションや討論を行う。			
学修目標			
現代社会の様々な問題に関心をもち、広い視野で考える力を身につける。 政治学の方法を使った歴史・社会の分析を理解する能力を身につける。 文章や他者の発言を正確に理解したうえで、自らの考えを明確に伝達できる能力を身につける。			
授業計画			
*遠隔授業により行います。 **状況によっては対面形式での授業に変更となる可能性があります。授業形態の変更の場合は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内で通知します。			
第1回 夏期課題学習成果の発表 (第1次)			
第2回 夏期課題学習成果の発表 (第2次)			
第3回 合同ゼミ			
第4回 文献講読 (第1章前半)			
第5回 文献講読 (第1章後半)			
第6回 文献講読 (第2章前半)			
第7回 文献講読 (第2章後半)			
第8回 文献講読 (第3章前半)			
第9回 文献講読 (第3章後半)			
第10回 文献講読 (第4章前半)			
第11回 文献講読 (第4章後半)			
第12回 鹿児島政治を考える (ゲスト・スピーカーを囲んで)			
第13回 研究課題報告 (前半)			
第14回 研究課題報告 (後半)			
第15回 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
事前にテキストの予定の箇所を熟読し、疑問点を整理する (標準的学習時間は約1時間)。 毎回の授業で討論した内容の要旨を整理し、論点について自分の考えをまとめる (標準的学習時間は1~2時間)。 。			
教科書			
授業開始時に指定する。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワ -			

授業終了後	
	アクティブ・ラーニング
ディベート; プレゼンテーション;	
	アクティブ・ラーニング (その他の内容)
該当なし	
	アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回	
	備考 (受講要件)
演習?を受講している必要があります	
	実務経験のある教員による実践的授業
なし	

ナンバリングコード

FHS-BCX4301

科目名

演習II (行政法・地方自治法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Administrative and Local Government Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

森尾成之

manabaで受け付けます

manabaで受け付けます

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

講義や演習で学んだことを踏まえて、各自が選んだ行政法に関するテーマにつき報告し、それをレポートにまとめる。

学修目標

講義で学んだ理論、判例、学説の理解と演繹。
講義で学んだことを踏まえつつ、自分自身の考えを聞き手に分かるように論理的に表現できるようになること。
学修の成果をレポートにまとめる。

授業計画

前期、後期とも

第1回	ガイダンス
第2回	報告と討論
第3回	報告と討論
第4回	報告と討論
第5回	報告と討論
第6回	報告と討論
第7回	報告と討論
第8回	報告と討論
第9回	報告と討論
第10回	報告と討論
第11回	報告と討論
第12回	報告と討論
第13回	報告と討論
第14回	報告と討論
第15回	報告と討論

授業外学習 (予習・復習) :

事前に報告レジюмеに目を通し質問事項を提出ください。事後には報告レジюмеを再確認ください。

授業外学習 (予習・復習)

事前に報告レジюмеに目を通し質問事項を提出ください。事後には報告レジюмеを再確認ください。

教科書

特に指定しない

参考書

必要に応じて指定する

成績の評価基準

ゼミでの参加状況 (報告、発言など) で評価する。

オフィスアワ -

manabaでご連絡くださった後、必要に応じて対応します。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

演習? (行政法・地方自治法) の単位を 4 単位修得済であること。

実務経験のある教員による実践的授業

実務経験のある教員による授業ではありません。

ナンバリングコード			
FHS-BCX1302			
科目名			
民法総則(旧 民法総論)			
英語名			
General Provisions of Civil Code			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
高影娥		099-285-7525(学生係)	goh@shigakukan.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>講義では、民法の共通ルールである民法総則の各制度及びこれに関連する判例・学説の状況について解説する。民法は、私たちの生活の中でも最も身近な法分野である一方で、その対象となる社会現象の多さや抽象的な規定振りに戸惑う者も少なくない。そこで、本講義では、受講者が具体的なイメージを持てるように、できる限り具体的な事例を中心に据えて検討を加えていきたい。</p> <p>* 2021年度の講義は、遠隔授業方式(リアルタイム配信方式、オンデマンド配信方式)によって実施する予定である(一部対面方式を併用。)</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・民法の全体的なイメージを把握する ・民法総則の基本的知識を習得する ・習得した基本的知識を用いて具体的問題を解決する能力を涵養する 			
授業計画			
<p>第01回：ガイダンス・民法の全体像 第02回：権利の主体1(権利能力、意思能力、行為能力) 第03回：権利の主体2(住所、法人) 第04回：権利の客体(物、動産と不動産) 第05回：法律行為1(法律行為の成立) 第06回：法律行為2(意思表示の有効性) 第07回：法律行為3(法律行為の有効性) 第08回：法律行為4(無効、取消し) 第09回：代理1(代理の意義、代理人、代理行為) 第10回：代理2(無権代理) 第11回：代理3(表見代理) 第12回：時効1(期間、時効の意義) 第13回：時効2(時効の援用) 第14回：時効3(取得時効、消滅時効) 第15回：まとめ</p> <p>* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】事前にレジュメ・教科書等の該当箇所に通してから授業に臨む(1時間)			
【復習】授業で十分に理解できなかった部分を中心に内容を確認して、理解を定着させる(1時間)			
教科書			
山田卓生=河内宏=安永正昭=松久三四彦『民法I総則(第4版)』(有斐閣、2018年)			
参考書			
<ul style="list-style-type: none"> ・佐久間毅『民法の基礎1総則(第5版)』(有斐閣、2020年) ・潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選1総則・物権(第8版)』(有斐閣、2018年) 			

* 以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書であり、必要に応じて図書館で確認すること。

【民法の入門書】

- ・道垣内弘人『リーガルベイス民法入門(第3版)』(日本経済新聞出版社、2019年)
- ・潮見佳男『民法(全)(第2版)』(有斐閣、2019年)
- ・山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』(岩波書店、2017年)
- ・潮見佳男ほか編『18歳からはじめる民法(第4版)』(法律文化社、2019年)

【総則】

- ・池田真朗『スタートライン民法総論(第3版)』(日本評論社、2018年)
- ・近江幸治『民法講義1民法総則(第7版)』(成文堂、2018年)
- ・遠藤研一郎『基本テキスト民法総則(第2版)』(中央経済社、2020年)
- ・大村敦志『新基本民法総則編(第2版)』(有斐閣、2019年)
- ・山野目章夫『民法概論1民法総則』(有斐閣、2017年)
- ・原田昌和=寺川永=吉永一行『民法総則(補訂版)』(日本評論社、2018年)
- ・四宮和夫=能見善久『民法総則(第9版)』(弘文堂、2018年)
- ・池田真朗編『民法VisualMaterials(第2版)』(有斐閣、2017年)

【民法(債権法)改正関係】

- ・潮見佳男『民法(債権関係)改正法の概要』(きんざい、2017年)
- ・中田裕康ほか『講義債権法改正』(商事法務、2017年)
- ・筒井健夫=松村秀樹編『一問一答民法(債権関係)改正』(商事法務、2018年)
- ・山野目章夫『新しい債権法を読みとく』(商事法務、2017年)

成績の評価基準

各回における「ミニッツ・ペーパー」の提出：50%
 期末レポート：50%

* 法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

質問についてはメールで対応するので、学籍番号・氏名を明示して、連絡先(MAIL)までメールすること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX2313			
科目名			
債権法II(旧 現代不法行為法)			
英語名			
Debtor and Creditor II			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
植本幸子	uemt05(以下と組み合わせること)	メール続:@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
・民法の事務管理・不当利得・不法行為(法定債権)に関する基本的な法制度、関連する判例・学説について講義を行う。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・事務管理・不当利得・不法行為の基本的知識を習得する。 (期末テストの知識問題および論述問題で判断する。) ・習得した基本的知識を用いて具体的問題を解決する能力を養う。 (期末テストの論述問題で判断する。) 			
授業計画			
以下については、順番や回数が変更となる可能性がある。			
第1回：ガイダンス、法定債権総説(法定債権とは何か、財産法における法定債権の位置づけ) (遠隔)			
第2回：事務管理(概要、事務管理の成立要件・効果、準事務管理) (遠隔)			
第3回：不当利得1(概要、一般不当利得の成立要件) (遠隔)			
第4回：不当利得2(一般不当利得の効果、特殊の不当利得) (遠隔)			
第5回：不法行為法総説(不法行為制度の意義と機能、不法行為法の基本原理、不法行為法の構造) (遠隔)			
第6回：不法行為の要件1(故意・過失、権利・法益侵害) (遠隔)			
第7回：不法行為の要件2(第三者による権利侵害) (遠隔)			
第8回：不法行為の要件2(損害、因果関係) (遠隔)			
第9回：不法行為の要件3(責任能力、不法行為阻却事由) (遠隔)			
第10回：不法行為の効果1(損害賠償の範囲、損害の金銭的評価、損害額の調整) (遠隔)			
第11回：不法行為の効果2(損害賠償請求権者、損害賠償請求権と時効、差止請求) (遠隔)			
第12回：不法行為の効果3(損害賠償請求権と相殺、後遺症と示談、請求権の競合) (遠隔)			
第13回：特殊な不法行為1(責任無能力者の監督義務者の責任、使用者責任) (遠隔)			

第14回：特殊な不法行為2(工作物責任、製造物責任)

(遠隔)

第15回：共同不法行為

(遠隔)

以上については、音声付パワーポイントまたはpdfファイルの配信を行う。
音声付配信の回については、準備が遅れる場合がある。正規の時間割までには告知する。
法曹進路志望者と希望者については2回程度の面接を行い、学習状況の確認をしたり質問への説明を行う。

授業外学習(予習・復習)

【予習：1時間】事前に教科書・条文の該当箇所を目を通し、どの部分に何が書いてあるのかを前後の頁を開ける程度に把握し、自分で読んでわからない部分をチェックしておくことが望ましい。

【復習：3時間】授業で十分に理解できなかった部分を中心に内容を確認する、manaba(responを含む)による小テストを提出し、正誤を確認、不明の部分を相談する。

教科書

前期終了後に指示する。

参考書

- ・窪田充見=森田宏樹編『民法判例百選2 債権(第8版)』(有斐閣、2018年)以降の版。
- ・六法あるいは判例付の六法(有斐閣、岩波、三省堂のいずれか)。

成績の評価基準

- ・15%：小テスト等への取り組み態度として(正誤は問わない)提出状況と掲示板書き込み内容をもって出席の有無と取り組み態度を判断する。
- ・85%：期末試験：manabaによる課題提出(論述を含む)とZoomによる口頭試問を行う。優以上の評価を希望しない場合には口頭試問は免除となる。事前に意向調査、環境確認を行う。

合格答案については、各設問の平均や理解度、表現力による評価を行う。

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

追って指示する

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当無し

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

・六法を必ず用意すること。有斐閣、岩波、三省堂のものから判例や解説のついていないものを選ぶこと。(期末試験の口頭試問においては、判例のついていない六法の持ち込みを認める。)

実務経験のある教員による実践的授業

該当無し

キャリア形成演習（法職入門A）（旧 法律学特殊講義（法職入門A））
ナンバリングコード

FHS-BCX2333

科目名

キャリア形成演習（法職入門A）（旧 法律学特殊講義（法職入門A））

英語名

Career Development Seminar : Legal Professions A

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
原田いづみ、米田憲市		099-285-7651（原田）	haradaiz@leh.kagoshima-u.ac.jp（原田）
共同担当教員		前後期	
志田惣一、齋藤善人、中島宏、森尾成之、大野友也、上原大祐		後期	

授業概要

この科目は、将来、法曹（弁護士・裁判官・検察官）となるため、法科大学院の法学既修者コースの進学（あるいは司法試験予備試験の合格）を目指す学生を履修者として想定している。履修者が法曹を目指すことを前提に、法律基本科目の基本的な思考方法を定着させ、具体的事案の解決に向けた応用力、文書による表現力を鍛えるために、主に各法律分野の事例問題を用いて授業を展開する。また、法律家の仕事のあり方や法曹界を取り巻く様々な問題に対する理解を深めたり、法科大学院における学修や司法試験の受験に対する具体的なイメージを持つための企画も随時実施する。

原田・米田が全体を統括するが、各回の授業では様々な法律基本科目を内容とするため、各分野の教員をゲストスピーカーに招きつつ、幅広く指導・訓練する。

具体的に扱う領域は、法律基本7科目（司法試験科目・予備試験科目であり、各法科大学院の既修者試験の科目となる基本科目のこと。憲・民・刑・商・行・民訴・刑訴）を予定している。「法職入門B」と同じ目的・開講形態であるが、扱う内容（事例問題）は異なる。したがって、両方とも履修することが好ましい（法曹養成連携プログラムの履修者はいずれも必修である）。

学修目標

- 1) 講義で学ぶ法律知識を基礎に、具体的な事案を解決するための論理力を身につける。
- 2) 法的三段論法を用いた法的解決のアプローチを表現するためのライティング力を身につける。
- 3) 法科大学院における学修や司法試験の受験のためにどのような知識、能力が必要なのか具体的なイメージを形成する。
- 4) 法科大学院の2年修了コースに合格するために必要な力を身につける。
- 5) 将来、司法分野において貢献できる学識と人格を備えた法曹になる基盤を身につける。

授業計画

講座前半は、憲法、民法の講義及びミニテスト、後半から答案練習を実施する。前半は原則対面型とし情勢に応じて遠隔方法とする。後半は各回において課題提出（毎回）、対面型（随時）、オンデマンド型（随時）、リアルタイム型（随時）を併用する。各回の実施方法は、manabaによって事前に告知します。

なお、感染症の状況が変化した場合は実施方式に変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

また、科目の担当や順番については変更もあります。

- 第1講 憲法講義+ミニテスト（原田）
- 第2講 憲法講義+ミニテスト（原田）
- 第3講 憲法講義+ミニテスト（原田）
- 第4講 憲法講義+ミニテスト（原田）

- 第5講 民法講義+ミニテスト（原田）
- 第6講 民法講義+ミニテスト（原田）
- 第7講 民法講義+ミニテスト（原田）
- 第8講 事例問題（憲法分野、大野）
- 第9講 事例問題（民法分野、采女）
- 第10講 事例問題（刑法分野、上原）
- 第12講 事例問題（商法分野、志田）
- 第12講 事例問題（民事訴訟法分野、齋藤）
- 第13講 事例問題（刑事訴訟法分野、中島）
- 第14講 事例問題（行政法分野、森尾）
- 第15講 事例問題（刑法分野、上原）

授業外学習（予習・復習）

予習

前半は、毎回の授業の範囲の教科書と判例百選をあらかじめ熟読しておく。
 後半は、各科目で学んだことを確認して、課題に備える。講義の目的に照らして、高い水準での予習が求められることを十分に覚悟されたい。目安60分程度。

復習

授業で検討した事例問題について、授業中の指摘事項等を踏まえ、あらためてどのような論述をすべきか、各自で検討する。その際、わからないことがあれば教員に質問する。また、必要に応じて復習のための課題（応用問題や基礎を確認するための問題）が示されるので、その場合は解答を作成する。目安90分程度。

教科書

憲法?人権〔第2版〕新井誠ほか 日本評論社
 民法の基礎1 総則 佐久間毅 有斐閣

参考書

適時指示する。

成績の評価基準

前半は出席、出席中の発言（10%）、ミニテストの点数（90%）により評価
 後半は、毎回提出する答案の点数及び提出点（100%）
 前半と後半の平均によって評価する。

オフィスアワ -

追って指定する。なお、質問等での研究室訪問（またはオンラインミーティング）は随時可。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

ミニテスト、答案作成及びこれに対する起案指導

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

開講目的を確実に達成するため、履修者の上限を20名とする。履修希望者がこれを超えた場合は、過去の法律科目の成績等を参考にして選抜を行う。選抜方法等については、別途掲示するので注意すること。

- ・法曹を目指して学習することを前提とする。
- ・法学コースで開講されている法律科目を体系的に学習し、成果を上げていることを前提とする。

受講を考えている学生は、受講に当たって一定の予習事項があるので、できるだけ早く原田にコンタクトを取ってください。（履修登録することを確定していなくても大丈夫です。）

実務経験のある教員による実践的授業

法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する教員が他の教員と共同で担当する。

ナンバリングコード

FHS-BCX2311

科目名

物権法II(旧 法律学特殊講義(担保物権法))

英語名

Ownership, Possession, Various Tenancy and Collateral II

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

植本幸子

0992857525 ;メール後半
kagoshima-u.ac.jp(下記と組み合
わせよ。タイトル部分に必ず授業名
と学年・氏名を表記のこと。)

uemt05@leh.

共同担当教員

前後期

該当無し

後期

授業概要

・担保物権を中心に、担保物権と担保物権以外の他物権についての講義を行う。

遠隔時に必要な環境(支障のある人は諦めずに必ず相談してください)

- ・音声付パワーポイントファイルが視聴可能な環境
- ・音声の脱落、アップロード困難から動画配信は原則的に行いません
- ・中間確認、期末テスト時のZoom双方向環境(映像有りが原則)

学修目標

1. 他物権に関するテクニカルタームを理解する。

(選択問題、自由記述を問わず定義と具体例を理解しているかが問われます。遠隔テストの場合には、きちんと記憶し口頭で答えられれば完璧、曖昧な場合に記載箇所をすぐに確認できれば一定水準です。)

2. 他物権に関連する主要な問題について、登場する当事者の利害関係と権利関係をイメージして説明し、法的解決を導くことができる。

(授業内容で説明のある事案問題について、表現を変えた選択肢を適切に選べるか、また、事案についての論述問題で誤解の無い表現で論述できるかということが試されます。)

3. 他物権に関する主要な問題点を理解するために、学説や判例についての基本書や学習用判例

集の記述を正確に読みとる能力を身につける。(1や2の結果が高ければきちんとできていると判断されます。また、小テストや期末テストなどを通してよりグレードアップできます。)

授業計画

以下の項目については必ず取り扱いますが、回がずれる場合があります。

- 第1回 他物権の概要と学び方、物権の種類、担保物権以外の他物権(遠隔)
- 第2回 人的担保と物的担保、相殺の概要、担保物権の意義と性質(遠隔)
- 第3回 留置権その1(概要と効果、要件)(遠隔)
- 第4回 留置権その2(債権と物の牽連関係、人的範囲、物的範囲)(遠隔)
- 第5回 先取特権その1(効果と要件の概要、一般の先取特権、特別の先取特権)(遠隔)
- 第6回 先取特権その2(動産先取特権と物上代位)(遠隔)
- 第7回 優先権相互の順位(遠隔)
- 第8回 質権(遠隔)
- 第9回 抵当権1(被担保債権)(遠隔)
- 第10回 抵当権2(目的物の範囲、物上代位)(遠隔)
- 第11回 抵当権3(法定地上権と一括競売)(遠隔)
- 第12回 抵当権4(実行前の効力、順位の変更)(遠隔)

- 第13回 抵当権5(実行、消滅、根抵当、抵当証券)(遠隔)
- 第14回 非典型担保1(概要、仮登記担保、所有権留保とファイナンスリース等、譲渡担保権その1((概要、不動産、集合動産)))(遠隔)
- 第15回 非典型担保2(譲渡担保権その2(集合債権))(遠隔)
- 第16回 期末テスト(遠隔)

授業方式：音声付パワーポイントファイルまたはPDFファイルの配信。
 環境理由での断念が無いように配慮します。何かあったらすぐに相談して下さい。

法曹進路希望者と希望者に2回程度、Zoom面談を行います。

授業外学習(予習・復習)

(予習：1時間)

上記「授業計画」やレジメに照らして教科書と条文に目を通す。その際には、どの部分に何が書いてあるのかを前後の頁を開ける程度に把握し、自分で読んでわからない部分をチェックしておく。

(復習：3時間)

プリントとノートを見直し、教科と条文に照らし合わせ、manabaで小テストを提出し、答えの公表後に答え合わせをする(授業直後、一週間後、テスト対策期間の3回が望ましい)。また、主要な設例と小テストを参考に、テストで再現することを念頭において解答草案を作成し、記憶の定着を図る。

教科書

道垣内弘人・担保物権法 [第4版] 有斐閣 2017年(2019年8月5日時点)

上記時点以降に最新版が出た場合にはそちらを推奨する。

遠隔の場合にメインとするには難しいので内田貴『民法3[第4版]』東京大学出版会との併用を推奨します。できれば9月休み中に前半の「相殺」と後半と通読して下さい。

参考書

- ・六法を必ず用意すること。有斐閣、岩波、三省堂のものから判例や解説のついていないものを選ぶこと。(期末試験においては、判例のついていない六法の持ち込みを認める。)
- ・授業中は判例付の六法を用いて差し支えない。
- ・物権法?で使用した教科書等。
- ・債権法?で使用した教科書・資料。

成績の評価基準

- ・15%：取り組み態度として小テスト提出(正誤は問わない)と対面でのやり取り(正誤は問わない)、掲示板への書き込みの内容を平常点として評価する。
- ・85%：期末試験として、manabaによる課題提出(論述を含む)とZoomによる口頭試問を行う(無理な場合には個別相談)。優以上の評価を希望しない場合には口頭試問は免除となる。事前に意向調査、環境確認を行う。

合格者については、各設問の平均、理解度、表現力に応じた評価を行う。

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当無し

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

以下に納得の上受講して下さい。

- ・内容が物権法?の学習を前提としています。
- ・文字情報に抵抗のある人は各自で対応して下さい。こちらからの配慮教材の作成はありません。動画の教材配信は行わない予定です。
- ・音声をつける場合もありますので音声環境を用意して下さい。前期の段階で環境のあることを前提としていま

すが、機材不調等の場合には早めに相談して下さい。

- ・原則的に文字情報の教材配信による授業です。学習効果のために音声をつける場合があります。
- ・個人的な達成度と学習フォローのためにZoom利用を行うことがあります。本来の時間割に間に合わない人については、教材配信ではなく時間調整により対応します。言い切れなかったことがあると感じた人は再度日程調整の希望を出して下さい。
- ・遠隔の教材配信は一定の幅を持って行われます。また、通常の休講に代替する補講措置は日程をずらした教材配信で行われます。Zoomのやり取りは個別調整を前提として時間割以外の時間帯に行われることがあります。
- ・音声教材は一時停止しながらの利用を前提とした遊びのない形式で予定されています。配信が一度であっても、休みながら複数回に分けて学習することで対応してください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当無し

ナンバリングコード

FHS-BCX2321

科目名

英米法（旧 法律学特殊講義（英米法））

英語名

Anglo-AmericanLaw

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

植本幸子

0992857525; メール後半は
kagoshima-u.ac.jp (下記と組み合
わせよ。タイトル部分に必ず授業名
と学年・氏名を表記のこと。)

uemt05@leh.

共同担当教員

前後期

該当無し

前期

授業概要

アメリカ法を中心に、英米法について日本語で講義を行う。

学修目標

- ・日本法と英米法を比較した際の基本的な特徴を理解して説明することができる。
- ・英米法に関する基礎的な専門用語を理解し説明することができる。
- ・授業で扱った代表的なケースについて、事実、判旨、理由付けを説明し、その意義を説明することができる。

授業計画

今後の状況次第で授業回数や内容、授業方式は変更となる可能性がある。

2021年度4月現在で全回原則Zoomリアルタイム配信に変更(5/12)。

オンデマンド配信では、mp3, パワーポイントファイル、pdfファイルを利用する。

リアルタイムZoomでは音声でのやり取りを行う(環境については前期開始後に調査を行う)。

第1回 比較法原論【リアルタイムZoom】

第2回 英米法と大陸法、ローマ法の継受(オンデマンド配信)

第3回 英米法の派生的特徴1.(歴史的継続性、法源論、コモン・ローとエクティ)【リアルタイムZoom】

第4回 英米法の派生的特徴2.(手続重視、演繹、意思理論と関係理論)【リアルタイムZoom】

第5回 連合王国の裁判所制度と法曹養成

第6回 アメリカの裁判所制度、連邦法と州法【リアルタイムZoom】

第7回 アメリカの法曹【リアルタイムZoom】

第8回 アメリカの裁判手続【リアルタイムZoom】、伝聞証拠排除

第9回 陪審制と陪審判断によらない手続【リアルタイムZoom】

第10回 アメリカの警察制度

第11回 人権保障と刑事手続(ミランダ警告)、主要な憲法訴訟

第12回 封建制と不動産法

第13回 訴訟方式の発展と合意の保護(引受訴訟、約因理論の発展)

第14回 合意の保護(詐欺防止法と書面性の要件、パルレエビデンスルール、非良心性の法理)

第15回 特徴的な損害賠償制度

Zoom 双方向(映像不要)の回と音声付ファイル配信によるブレンド型授業の予定である。

双方向時の録音配信については編集を行わない。録音失敗の場合には文書ファイルの提供となる。

対面授業や移動時間の関係で当該時間割中のリアルタイム双方向が難しい人はmanaba開設後に前もって連絡をお願いします。

授業外学習(予習・復習)

(予習:2時間)

教科書に目を通し、わからない言葉を調べる。

読めない漢字や意味のわからない言葉は紙媒体の国語辞典や英和辞典、英米法辞典で確認する（インターネットは使用しないこと。電子辞書の使用と携行は推奨される。）

（復習：2時間）

プリントとノートを見直し、テストで再現することを念頭において、用語や事案の説明を書き出して記憶の定着を図る（授業直後に書き出しを行い、一週間後とテスト対策期間に見直すことが推奨される）。そのうえで、どのような解決方法が望ましいのかということや、学習に際し得られた知識を分析し、あらゆる事象について応用可能な学ぶべきことがないのか多面的に検討することが望ましい。

重要ポイントについて小テストで確認し、提出、復習をする。

教科書

伊藤 正己・木下 毅『アメリカ法入門』（日本評論社 第5版）

参考書

追って指示する。

なお、英和辞典、国語辞典、漢和辞典を備えた電子辞書の携行が推奨される。

携帯電話の使用は特に指示をする場合以外は許可されない。

成績の評価基準

80%：期末テスト：manabaを利用して、選択・筆記問題を出題する。

20%：授業態度として、授業中の問いや読み上げに際し無言を減点、正答を加点、掲示板への意義ある書き込みは加点。

期末テスト受験の要件は、小テスト提出10回以上。

オフィスアワー

授業の前後

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当無し

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

教科書の音読から始めるため、教科書を必ず持参すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当無し

ナンバリングコード			
FHS-BCX2320			
科目名			
国際関係論			
英語名			
International Relations			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
平井一臣		099-285-8855	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
藤村一郎・森田豊子		isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>近現代の国際関係について、アジア地域の問題を中心に取り上げる。最初に、近代日本の歩みのなかでアジア世界とどのような国際関係を築いた（築こうとした）のか、次に第二次世界大戦後の東アジア地域の変化を、最後に視野をさらに拡大して、イスラム世界を含むアジア・アフリカの国際関係を考察する。授業は、課題提出型とオンデマンド型を組み合わせで行う。</p> <p>授業は、遠隔授業で実施します。</p>			
学修目標			
<p>(1) 私たちが生きる国際社会の様々な変化に関心をもつことができる。</p> <p>(2) アジアを中心とした国際関係について、多角的な視点から考えることができる。</p> <p>(3) 異文化や異なる社会についての理解を深め、共生社会の一員として活動する能力を身につける。</p>			
授業計画			
第1回	今国際関係を考えると？（平井）		
第2回	近代日本と国際関係（1）西欧国家体系（福沢諭吉の理解1）（藤村）		
第3回	近代日本と国際関係（2）脱亜論（福沢諭吉の理解2）（藤村）		
第4回	近代日本と国際関係（3）帝国主義と反帝国主義：東アジアにおける帝国主義体制（藤村）		
第5回	近代日本と国際関係（4）アジア連帯の発想と国家主義の発想（藤村）		
第6回	近代日本と国際関係（5）まとめ（藤村）		
第7回	戦後東アジアの国際関係（1）東アジアの冷戦体制（中国・台湾・朝鮮半島）（平井）		
第8回	戦後東アジアの国際関係（2）ベトナム戦争と東アジア（平井）		
第9回	戦後東アジアの国際関係（3）冷戦終焉と東アジアの政治変動（平井）		
第10回	戦後東アジアの国際関係（4）東アジア国際関係の現在（平井）		
第11回	アジア・アフリカ諸国の国際関係論（森田）		
第12回	イスラーム主義（森田）		
第13回	パレスチナ問題（森田）		
第14回	世界の中のムスリム移民の問題（森田）		
第15回	まとめ（森田）		
授業外学習（予習・復習）			
<p>授業で取り上げるテーマに関連する新聞記事等を読んで授業に臨むこと（標準学習時間は約1時間）。また、授業終了後には配布プリント及び授業中筆記したメモを基に復習すること（標準学習時間は約1～2時間）。</p>			
教科書			
使用しない。			
参考書			
適宜授業の中で紹介する。			
成績の評価基準			
第1回目の課題レポートと、各授業毎のコメントシートによる。			
オフィスアワー			
水曜日2限			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

12回

備考（受講要件）

特に無し

実務経験のある教員による実践的授業

無し

ナンバリングコード			
FHS-BCX2305			
科目名			
政治史			
英語名			
Political History			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
平井一臣		8855	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>戦後日本の政治について、とくに1960年代の高度経済成長期の政治を中心にとりあげる。この時期の日本の政治は、国内的には持続的な経済成長による国民生活の変化を背景に自民党の安定的な支配が形成されるが、一方で、様々な異議申し立ての運動が展開されもした。こうした一見矛盾した現象がなぜ生じたのか、当時の国際政治上の問題も視野に入れながら考察する。</p> <p>授業は遠隔で実施します。</p>			
学修目標			
戦後日本政治の歩みを歴史的な展開に則して理解するとともに、国際政治と国内政治、政治と経済と社会といった複眼的な視点から政治を考察する方法を身につける。			
授業計画			
第1回 研究史から見た1960年代論 第2回 高度経済成長の始まり 第3回 東京オリンピックと作家たちの視線 第4回 戦争体験と戦後体験 小田実「難死の思想」を中心に 第5回 戦後平和運動の出発 原水禁運動の推移 第7回 60年安保と声なき声の会 第8回 戦後社会運動の刷新 初期ベ平連運動 第9回 地域ベ平連運動の展開 第10回 脱走兵支援運動 第11回 70年安保 第12回 60年代後半の文化 フォークとハンパク 第13回 70年代の変容 三島事件・解散論 第14回 ベ平連の解散 70年代の社会運動 第15回 「身ぶりとしての政治」を考える			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>事前にmanabaで配布した資料プリントを熟読する (学習に関わる標準的時間は約1時間)。</p> <p>授業で行った解説について復習し、授業中に提示した論点について、意見をまとめる (標準的時間は約1～2時間)。</p>			
教科書			
平井一臣『ベ平連とその時代 身ぶりとしての政治』有志舎、2020年。			
参考書			
講義中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
小テスト及び期末試験による。			
オフィスアワ -			
火曜3限			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BCX2307			
科目名			
刑法総論II(旧 刑法特論)			
英語名			
Criminal Law:General PartII			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>刑法学は、犯罪行為を行った者に刑罰を科すための要件としての犯罪がどのように成立するか、を学ぶ学問であるが、その内容として、刑法総論と各論とに大別される。本講義では、刑法総論の後半部分について講義する。</p> <p>。 </p> <p>遠隔で授業実施の予定である。</p>			
学修目標			
<p>(1) 刑法総論の基礎的知識を学ぶ。</p> <p>(2) 犯罪論の体系的理論構造を理解する。</p> <p>(3) 犯罪論における基礎理論を理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 違法論総論</p> <p>第2回 違法性阻却事由?(正当行為)</p> <p>第3回 違法性阻却事由?(正当防衛)</p> <p>第4回 違法性阻却事由?(緊急避難)</p> <p>第5回 責任論・総論および責任能力/原因において自由な行為</p> <p>第6回 責任論・故意?(故意論総論)</p> <p>第7回 責任論・故意?(錯誤論? 事実の錯誤)</p> <p>第8回 責任論・故意?(錯誤論? 違法性の錯誤)</p> <p>第9回 責任論・故意? (錯誤論? 規範的事実の錯誤, 違法性阻却事由の錯誤)</p> <p>第10回 責任論・過失?(過失犯総論)</p> <p>第11回 責任論・過失?(過失犯の諸問題)・期待可能性</p> <p>第12回 共犯論?(共犯総論)</p> <p>第13回 共犯論?(共同正犯)</p> <p>第14回 共犯論?(教唆犯と幫助犯)</p> <p>第15回 共犯論?(共犯の因果問題等、共犯における諸問題)</p> <p>第16回 試験</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>【予習】 事前に配布するレジюмеに目を通し、レジюмеで挙げられている教科書の該当箇所を通読する(約2時間)</p> <p>【復習】 授業で扱った内容につき、レジюмеで復習し、理解が十分でない箇所は教科書で再確認する(約2時間)</p>			
教科書			
井田良・城下裕二編『刑法総論判例インデックス 第2版』(2019・商事法務)			
【『刑法総論?』受講時に購入している場合は、改めて購入する必要はない】			
参考書			
木村光江『刑法 第4版』(2018・東京大学出版会)			

成績の評価基準

通常の授業の履修態度および期末レポート(論述式を含む)を総合して評価する【期末試験90%, その他10%】
 なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワ -

月曜12:00 ~ 12:50

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員の質問等を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全回

備考(受講要件)

刑法総論?を受講していることが望ましい。なお、授業には必ず六法を持参すること。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX2324			
科目名			
外国書講読（韓国語A）			
英語名			
Reading Foreign Papers(Korean A)			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
平井一臣		099-285-8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
現代韓国の政治・社会・文化に関する韓国語の文献について、その解説とディスカッションを行う。文在寅大統領の自伝『運命』を取り上げる。授業は、文書資料による課題提示型とリアルタイム型を組み合わせで行う。			
学修目標			
韓国語の読解力を身につけながら、現代韓国の政治・社会・文化に関する理解を深める。			
授業計画			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
第1回 オリエンテーション			
第2回 韓国語文献講読（父と母）			
第3回 韓国語文献講読（貧困）			
第4回 韓国語文献講読（問題児）			
第5回 韓国語文献講読（大学時代）			
第6回 韓国語文献講読（兵役）			
第7回 韓国語文献講読（弁護士時代）			
第8回 韓国語文献講読（盧武鉉と文在寅）			
第9回 韓国語文献講読（人権派弁護士）			
第10回 韓国語文献講読（維新体制）			
第11回 韓国語文献講読（釜馬闘争）			
第12回 韓国語文献講読（6月抗争）			
第13回 韓国語文献講読（労働争議）			
第14回 韓国語文献講読（盧武鉉を国会へ）			
第15回 総括：現代韓国社会を考える			
授業外学習（予習・復習）			
授業で取り扱う予定の頁について、辞書を用いて事前に調べておくこと（学習に関わる標準的時間は約1時間）。			
毎回の授業で読み進んだ箇所について、要約を作成すること（標準的時間は約1時間）。			
教科書			
文在寅『運命』（韓国語版）。			
??			
??? ?? 10,000?			
??? 10,000?			
? ?????? ??			

? ??? ??

? ????

????

???? ?? (?? ??)

参考書

授業時間中に適宜紹介する。

成績の評価基準

出席及びレポート

オフィスアワ -

火曜3限

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

韓国語学習の経験がある者に限る。（韓国語初心者は受講できません）。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX2331

科目名

会社法I (旧 企業の法システム)

英語名

Corporation Law I

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

志田惣一

099-285-7653

icns@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

この授業では、第4期に開講される「企業組織法」との接続を考慮して、会社の概念、会社の類型と種類、会社法の総則規定、株式会社の特質、株式会社の設立、株式、新株の発行、新株予約権などを中心に講義します。

学修目標

- (1) 商取引に関する法律および会社法の基本的な考え方を理解する。
- (2) 会社の概念、その種類と特質を理解する。
- (3) 会社の設立手続を理解する。
- (4) 株式会社における株式の意義と機能を理解する。
- (5) 会社に関する法律問題を題材に、法的な思考能力を身につける。

授業計画

*本授業は、毎回遠隔形式(課題呈示型)で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 会社の意義・種類
- 第3回 会社の法人性(権利能力、法人格否認)
- 第4回 会社法総則
- 第5回 株式会社の設立(設立手続き)
- 第6回 株式会社の設立(設立に関する責任)
- 第7回 株式会社の設立(設立中の法律関係)
- 第8回 株式(株式の意義)
- 第9回 株式(株式の内容と種類)
- 第10回 株式(株式の流通)
- 第11回 株式(株式の消却・分割・併合、単元株)
- 第12回 株式会社の資金調達
- 第13回 募集株式の発行
- 第14回 株式発行の瑕疵
- 第15回 新株予約権

授業外学習(予習・復習)

予習として、各回の講義項目につき、教科書の該当部分を読むこと。また、復習として、講義で話したことを参考に、各講義項目につきまとめをすること。

到達度確認のための小テストを実施する

予習: manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(標準的学習時間は2時間)

復習: 授業における学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(2時間)

教科書

神田秀樹『会社法』(弘文堂、2021年)

参考書

岩原紳作・神作裕之・藤田友編『会社法判例百選』(有斐閣、2016年)

成績の評価基準

期末試験(70%)、レポート点(20%)、授業への参加度(10%)を総合的に評価する。

* 期末試験(対面式)が実施できない場合、
授業への参加度「到達度小テスト」(80%)、(授業内)レポート(20%)

なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

火曜日2限(研究室)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

13回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX2306			
科目名			
刑法総論I (旧 刑法総論)			
英語名			
Criminal Law:General PartII			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
刑法学は、犯罪行為を行った者に刑罰を科するための要件としての犯罪がどのように成立するか、を学ぶ学問であるが、その内容として、刑法総論と各論とに大別される。本講義では、刑法総論の前半部分について講義する。			
学修目標			
(1) 刑法総論の基礎的知識を学ぶ。 (2) 犯罪論の体系を学ぶ。 (3) 犯罪論における基礎理論を学ぶ。			
授業計画			
本授業は、毎回リアルタイム配信形式で行い、それを録画したものをオンデマンド形式でも配信する予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内等において通知する。			
第1回 ガイダンス、刑法の意義および機能(刑法の適用範囲・刑罰正当化根拠論等)			
第2回 罪刑法定主義(罪刑法定主義の原理・刑法の時間的適用範囲)			
第3回 犯罪論体系			
第4回 構成要件論・概論			
第5回 構成要件論・正犯性(直接正犯と間接正犯)			
第6回 構成要件論・不作為犯			
第7回 構成要件論・因果関係?(条件関係)			
第8回 構成要件論・因果関係?(相当因果関係論・客観的帰属論)			
第9回 構成要件論・主観的構成要件要素			
第10回 構成要件論・未遂犯総論			
第11回 構成要件論・不能犯			
第12回 構成要件論・中止犯			
第13回 罪数論			
第14回 構成要件論の具体的事例への展開			
第15回 まとめ			
第16回 試験			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】 事前に配布するレジюмеに目を通し、レジюмеで挙げられている教科書の該当箇所を通読する(約2時間)			
【復習】 授業で扱った内容につき、レジюмеで復習し、理解が十分でない箇所は教科書で再確認する(約2時間)			
教科書			
井田良・城下裕二編『刑法総論判例インデックス 第2版』(2019・商事法務)			
参考書			

木村光江『刑法 第4版』(2018・東京大学出版会)

成績の評価基準

通常の授業の履修態度および期末試験(論述式を含む)を総合して評価する(期末レポートの形で行う可能性あり)【期末試験90%, その他10%】

なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

月曜12:00~12:50

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員の質問等を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全回

備考(受講要件)

六法を必ず持参すること

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX2310			
科目名			
物権法I(旧 物権法)			
英語名			
Ownership, Possession, Various Tenancy and Collateral I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
植本幸子		0992857525 メール後半は kagoshima-u.ac.jp(下記と組み合わせよ。タイトル部分に必ず授業名と学年・氏名を表記のこと。)	uemt05@leh.
共同担当教員		前後期	
該当無し		前期	
授業概要			
物権変動と他物権の概要、担保物権以外の物権についての講義を行う。			
学修目標			
<p>1. 物権法に関するテクニカルタームを理解する。 (選択問題、自由記述を問わず定義と具体例を理解しているかが問われます。口頭試問においては、きちんと記憶し口頭で答えられれば完璧、曖昧な場合に記載箇所をすぐに確認できれば一定水準です。)</p> <p>2. 物権法に関連する主要な問題について、登場する当事者の利害関係と権利関係をイメージすることができる。 (授業内容で説明のある事案問題について、表現を変えた選択肢を適切に選べるか、また、事案についての論述問題で誤解の無い表現で論述できるかということが試されます。)</p> <p>3. 物権法に関連する主要な問題についての法的解決を、根拠をもって説明することができる。 (同上)</p> <p>4. 物権法に関する主要な問題点を理解するために、学説や判例についての基本書や学習用判例集の記述を正確に読みとる能力を身につける。 (期末テストの達成度が高ければきちんとできていると判断されます。また、小テストや期末テストの過程を通してよりグレードアップが達成できます。)</p>			
授業計画			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
第1回 物権法の全体像と学び方、民法の体系、所有権の絶対、物権と債権、物権法定主義(オンデマンド配信)			
第2回 物、不動産と動産、主物と従物(オンデマンド配信)			
第3回 物権的請求権(オンデマンド配信)			
第4回 物権変動1(所有権の取得)(オンデマンド配信)			
第5回 物権変動2(変更、消滅)、対抗要件その1(概要、公示と公信)(オンデマンド配信)			
第6回 対抗要件その2(登記)、登記と時効等(オンデマンド配信)			
第7回 即時取得(オンデマンド配信)			
第8回 占有その1(占有、準占有、占有訴権)(オンデマンド配信)			
第9回 占有その2(占有移転の対応)(オンデマンド配信)			
第10回 所有権(オンデマンド配信)			
第11回 相隣関係(オンデマンド配信)			
第12回 共有(オンデマンド配信)			

第13回 区分所有(オンデマンド配信)
 第14回 用益物権その1(地上権、借地借家法)(オンデマンド配信)
 第15回 用益物権その2(永小作権、地役権)(オンデマンド配信)

原則、音声付パワーポイント配信のオンデマンド授業である(ワンドライブによる)。毎回manabaの機能を利用した小テストを提出することになる。

Zoom双方向での個別面談を行うことがある(時間割時間帯が無理な者は日程調整に協力のこと)。

授業外学習(予習・復習)

(予習:1時間)

上記「授業計画」やレジメに照らして教科書と条文に目を通す(原則的に条文の順番に沿っている)。その際には、どの部分に何が書いてあるのかを前後の頁を開ける程度に把握し、自分で読んでわからない部分をチェックしておく。

(復習):3時間

プリントとノートを見直し、教科と条文に照らし合わせ、テストで再現することを念頭において記憶の定着を図る(授業直後、一週間後、テスト対策期間の3回が望ましい)。小テストを提出し、解答を照らし合わせてわからない部分は質問し理解する。

教科書

千葉恵美子・藤原正則・七戸克彦『民法2 物権 [第3版]』(有斐閣アルマシリーズ 2018年4月)

参考書

- ・六法を必ず用意すること。有斐閣、岩波、三省堂のものから判例や解説のついていないものを選ぶこと。(期末試験においては、判例のついていない六法の持ち込みを認める。)
- ・授業中は判例付の六法を用いて差し支えない。

成績の評価基準

- ・20%:小テストの提出状況(正誤は問わない)と期末テスト以外でのZoomやり取り(正誤は問わない)による取り組み態度、掲示板への書き込み内容により平常点を判断する。
- ・80%:期末試験(manabaによる課題提出(論述を含む)とZoomによる口頭試問を行う(無理な場合には個別相談)。優以上の評価を希望しない場合には口頭試問が免除となることがある。事前に意向調査、環境確認を行う。

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当無し

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

平成28年度より前に入学した旧カリキュラム生については「物権法」に該当するが、過年度と違い担保物権については扱わないので注意すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当無し

ナンバリングコード			
FHS-BCX2316			
科目名			
社会保障法			
英語名			
Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
伊藤周平		099-258-7652	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		itos@leh.kagoshima-u-ac.jp	
前後期		後期	
なし			
授業概要			
<p>1・2回の総論部分では、日本の社会保障をめぐる現状と課題をあきらかにし、憲法と社会保障法にかかわる問題を、いくつかの判例をもとに検討する。3回以降は、各論で、生活保護法、年金法、社会手当、労災保険法、雇用保険法などについて現状と課題を解説する。</p>			
学修目標			
日本の社会保障の法体系の知識を学ぶだけでなく、政策提言ができるような応用力を修得することを目標とする。			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障をめぐる現状と法体系 2 社会保障法と憲法 3 生活保護法(その1) 4 生活保護法(その2) 5 年金法(その1) 6 年金法(その2) 7 社会手当法 8 労災保険法 9 雇用保険法 10 医療保障法(その1) 11 医療保障法(その2) 12 社会福祉法総論 13 介護保険法 14 児童福祉法 15 障害者福祉の法 			
授業外学習(予習・復習)			
テキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと			
教科書			
伊藤周平『社会保障法』自治体研究社、2021年			
参考書			
『社会保障判例百選(第5版)』有斐閣、2016年、その他適宜指示する。			
成績の評価基準			
期末試験と出席点で評価。			
オフィスアワー			
木曜3限			
アクティブ・ラーニング			
その他;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
授業内で質問・応答			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回の授業のうち5回目、8回目、15回目の計3回で実施予定

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX2312			
科目名			
債権法I (旧 現代契約法)			
英語名			
Debtor and Creditor I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
采女博文		099-285-7525 (法文学部学生係)	hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>授業の範囲は、契約法総論及び契約法各論〔民法第3編債権第2章（第521条～第694条）〕である。契約法総論では、契約の成立・効力・解除を扱う。契約法各論では、典型契約のうち法的思考力を涵養するのに適していると考えられる売買・賃貸・請負・委任の契約類型を中心に扱う。授業は、抽象的な知識に墮することを避けるために、必要に応じて具体的事例を素材に法的判断力を培うものとする。</p>			
学修目標			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 契約法の知識（各制度の趣旨，法律要件と法律効果）を修得する。民法総則，物権法で修得した知識との連続性，総合性のある知識の修得を目標とする。 2. 民法全体（民法総則，物権法を含む）を見渡しながら法的な判断ができる能力，規範＝ルールを発見する能力を涵養する（法の解釈）。 3. ルールを具体的な事件にあてはめて結論を出す実際的能力を身につける（法の適用）。 			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>「本授業は、オンラインまたはオンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。」</p> <ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 契約の基礎(法律行為論を含む) 第 2 回 契約の成立(基礎理論・定型約款を含む) 第 3 回 契約の効力(同時履行の抗弁権,危険負担,事情変更の原則, 第三者のためにする契約, 契約上の地位の移転) 第 4 回 契約の解除 第 5 回 贈与・売買の成立(手付,買戻し), 交換 第 6 回 売買の効力1(物の担保責任, 契約不適合) 第 7 回 売買の効力2(権利の担保責任) 第 8 回 消費貸借, 使用貸借, 賃貸借の成立(権利金, 敷金) 第 9 回 賃貸借の効力(貸與人・賃借人の地位の移転, 譲渡・転貸) 第 10 回 賃貸借と妨害排除請求権, 借地借家法 第 11 回 請負1(注文者と請負人の地位) 第 12 回 請負2(工事の完成と所有権の移転時期, 危険負担, 担保責任) 第 13 回 雇用 第 14 回 委任・寄託・組合・終身定期金・和解 第 15 回 契約の解釈の方法 			
授業外学習(予習・復習)			
予習 事前に指示された教科書と配付資料の該当箇所を学習する。授業は予習(2時間以上)を前提にして進行さ			

せる。
復習 教科書等の疑問点や各回での設例に解答してみる。2時間以上を要する。

教科書

堀田泰司他編「債権法各論(第2版)」(嵯峨野書院,2020)

参考書

参考書・参考資料等

- ・『民法判例百選?債権(第8版)』(有斐閣)
- ・潮見佳男『債権各論?(第3版)』(新世社,2017)
- ・平井宜雄『債権各論?上契約総論』(弘文堂,2008)

民法(債権法)改正関係資料

大村敦志,道垣内弘人編『解説 民法(債権法)改正のポイント』有斐閣,2017年
中田 裕康,大村 敦志,道垣内 弘人,沖野 眞己『講義 債権法改正』商事法務2017年
日本弁護士連合会『実務解説 改正債権法』弘文堂,2017年
潮見佳男,北居 功,高須順一,赫高規,中込一洋,松岡久和編『Before/After 民法改正』弘文堂,2017年
潮見 佳男『民法(債権関係)改正法の概要』きんざい,2017年
潮見佳男,北居功,高須順一,赫高規,中込一洋,松岡久和編『Before/After 民法改正』弘文堂,2017
潮見佳男,千葉恵美子,片山直也,山野目章夫編『詳解 改正民法』商事法務,2018年
筒井健夫,村松秀樹『一問一答 民法(債権関係)改正』商事法務,2018年

成績の評価基準

学生に対する評価

「manaba上での質疑応答、課題提出」(80%),「manaba上での期末試験」(20%)の合計点による。学生の到達度を確かめながら授業を進行させる。

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワ -

本年度はmanaba上で行う。授業内容等についての質疑はすべてmanaba上で行う。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

授業中の質疑応答として、原告・被告側双方の立場で論理を展開することを求める。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

基本的に毎回試みる

備考(受講要件)

民法総則、物権法を履修していることが望ましいが、必須ではない。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX2301

科目名

憲法統治（旧 統治機構論）

英語名

Constitutional Law:Theory of the Frame of Government

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

大野友也

099-285-7640

onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

憲法の統治分野について講義をします。

学修目標

- (1) 憲法の統治分野について理解する。
- (2) 憲法の統治分野に関する諸問題につき、自分なりの考えを述べられる。

授業計画

この講義は、原則対面で行います（担当教員としてはそれを希望している）。また、対面を望まない受講生がいるだろうことも踏まえ、Zoomによる同時配信も行います。対面・遠隔どちらに出席しても期末の評価に影響はしないので、各自で判断してください。

コロナの影響により、15回全てが遠隔授業となる可能性があります。その場合、ズームを使ってやりますので、各自ズームのアカウント（無料）を取得しておいてください。

ネット環境が整っていない学生は、その旨、大野宛にメール（onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp）するか、manabaの掲示板に書き込んでください。大野宛にメールして24時間以上返信がない場合は、必ず掲示板に書き込むこと。

- (1) 憲法とは何か
- (2) 日本国憲法制定史
- (3) 国民主権と天皇制
- (4) 平和主義（1）
- (5) 平和主義（2）
- (6) 国会（1）
- (7) 国会（2）
- (8) 内閣（1）
- (9) 内閣（2）
- (10) 裁判所（1）
- (11) 裁判所（2）
- (12) 違憲審査制度
- (13) 財政
- (14) 地方自治
- (15) 憲法改正

ゲスト講師による特別授業が入る可能性もあります。

授業外学習（予習・復習）

レポート課題を毎回出しますので、それをやってきて下さい（120分）。また講義後にはそのレポートと講義レジュメを見直して、レポートを修正して下さい（120分）。

教科書

講義中に指示します。
参考書
講義中に指示します。
成績の評価基準
<p>期末試験80%、平常点（講義中の発言、レポートなど）20% ただし法学コースの学生については、秀（90点以上）とする人数の上限を成績評価対象者（他コース・他学科に所属する学生を除く）の20%以内とします。</p> <p>コロナの影響で、期末試験ではなく、期末レポートで代替する可能性があります。</p>
オフィスアワー
火曜日5限（研究室）
アクティブ・ラーニング
グループワーク；ディベート；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
該当なし
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回
備考（受講要件）
特にありませんが、「憲法人権I」についての理解を前提とします。
実務経験のある教員による実践的授業
なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX2324			
科目名			
外国書講読（英語）			
英語名			
Study of Foreign Legal Works			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
鳥飼貴司		099 - 285-7630	
共同担当教員		連絡先（MAIL）	
なし		torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
授業概要			
<p>原則「対面授業」を行う予定。 なお、【重要】「法政策学科・法学コースの学生に限る。対面授業における輪読という形態上、受講人数10名に制限する」 法学の文献を原文（英語）で輪読する。 原文の構文・文法構造を理解する。 原文の翻訳（邦訳）を試みる。</p> <p>授業形態について変更する場合は、その際にその方法等については別途報告する。</p>			
学修目標			
<p>日本法を外国語（英語）で理解する。 文献を原文（英語）で読めるようになる。 翻訳作業を通じて日本語の表現力を鍛える。</p>			
授業計画			
<p>【重要】「法政策学科・法学コースの学生に限る。対面授業による輪読という形態上、受講人数を10名に制限する」 受講生は前もって割り当てられた英文を訳出し、発表します。授業形態について変更する場合は、その際にその方法等については別途報告する。</p> <p>1回 ガイダンス【例外の遠隔】 2回 Japanese Lawの輪読(1)【例外の遠隔】 3回 Japanese Lawの輪読(2)【第3回以降、原則「対面」】 4回 Japanese Lawの輪読(3) 5回 Japanese Lawの輪読(4) 6回 Japanese Lawの輪読(5) 7回 Japanese Lawの輪読(6) 8回 Japanese Lawの輪読(7) 9回 Japanese Lawの輪読(8) 10回 Japanese Lawの輪読(9) 11回 Japanese Lawの輪読(10) 12回 Japanese Lawの輪読(11) 13回 Japanese Lawの輪読(12) 14回 Japanese Lawの輪読(13) 15回 Japanese Lawの輪読(14)</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：あらかじめ伝えられている訳出部分については全ての学生が予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）。</p>			

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の定着を行う（標準的時間は2時間）。

教科書

資料をmanabaで配付する（ただし公開期間は限定する）。

参考書

適宜、指示する。

成績の評価基準

授業への取り組み態度（それぞれの学生の訳出分に対する評価、授業中の積極的参加態度に対する評価）によって評価する。

成績評価基準について変更する場合は、その際にその基準ないし方法等については別途報告する。

オフィスアワ -

月曜日～金曜日、12：00～12：50（会議などで不在にしている場合もあります）

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

訳出と発表およびその際の疑問を素材にして、学生間の議論および教員と学生間での知識の相互交通を行う。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中ガイダンスを除いた14回

備考（受講要件）

【重要】「法政策学科・法学コースの学生に限る。対面授業における輪読という形態上、受講人数を10名に制限する」

前もって割り当てられた英文を訳出し、発表する努力ができる者を受講生とします。

授業形態について変更する場合は、その際にその内容等については別途報告する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

キャリア形成演習（公益事業の法実務）（旧 法律学特殊講義（公益事業の法実務））
ナンバリングコード

FHS-BCX2333

科目名

キャリア形成演習（公益事業の法実務）（旧 法律学特殊講義（公益事業の法実務））

英語名

Career Development Seminar : Legal Practices in Public Corporations

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

米田憲市

099-285-7569

kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(su
bject欄に、科目名、氏名、学籍番
号を必ず記載すること)

共同担当教員

前後期

該当なし

前期

授業概要

【新型コロナ対応についての学部の方針に従って、不開講になる場合があります。】

公益事業（主として電力事業）にかかる法実務について、実務に就いている方による指導や現地視察などを踏まえて実践的理解を深める。

学修目標

- 1．公益事業の現状と社会的意義を理解する
- 2．公益事業（主として電力事業）における法の役割を理解する
- 3．公益事業（主として電力事業）における法実務のあり方を理解する

授業計画

【第1日】

- 第1講 「公益事業と法」ガイダンス
- 第2講 公益事業における法制度の役割：総論
- 第3講 テーマ学習（グループワーク）
- 第4講 テーマ学習（プレゼンテーション）

【第2日】

- 第5講 現地視察（1）
- 第6講 テーマ学習（グループワーク）
- 第7講 現地視察（2）
- 第8講 テーマ学習（グループワーク）

【第3日】

- 第9講 公益事業における法実務
- 第10講 テーマ学習（グループワーク）
- 第11講 テーマ学習（グループワーク）
- 第12講 テーマ学習（プレゼンテーション）

【第4日】

- 第11講 現地視察（3）
- 第12講 テーマ学習（グループワーク）
- 第13講 現地視察（4）
- 第14講 テーマ学習（グループワーク）
- 第15講 テーマ学習（プレゼンテーション）

授業外学習（予習・復習）

キャリア形成演習（公益事業の法実務）（旧 法律学特殊講義（公益事業の法実務））

現地視察の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。いずれも、大学生協で取り扱っています。滞りなく手続きを済ませておいてください。

加入しているかの確認は、学生係で可能です。

教科書

指定しない

参考書

指定しない（必要に応じて紹介する）

成績の評価基準

平常点：参加時の取組、成果物：最終レポートを含む提出物すべてを対象として、総合的に評価する。（100%）

オフィスアワ -

随時

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

【新型コロナウイルスの状況により、不開講となることがある。】
 受講者は10名を上限とし、それ以上の場合、選考を行う。そのため、履修を検討しているものための説明会を開催するので参加すること。（日程については、別途通知する。）
 授業では、manaba以外のシステムと利用することがありうる。
 詳細は履修確定者に通知する。
 各種通知に留意すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ゲストとして実務に就いている人の助言を受けることがある。

ナンバリングコード			
科目名			
法政特殊講義（医療と刑法）			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
上原大祐		099-285-7626（上原）	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
『刑法総論』『同各論』で身に着けた知識を前提として、医療を巡る刑法的問題点について学ぶ。教員による発問を随時行い、これに対する受講生の回答を求める。また、受講生によるディスカッションも行う。			
学修目標			
『刑法総論』『同各論』で身に着けた基礎的知識・基本原則を、医療を題材とする実際に生じている問題や将来生じ得る問題に当てはめ、結論を導く能力を身に着ける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 終末期医療と刑法？ 総論			
第3回 終末期医療と刑法？ 安楽死			
第4回 終末期医療と刑法？ 尊厳死			
第5回 終末期医療と刑法？ 振り返り			
第6回 医療過誤と刑法？ 総論			
第7回 医療過誤と刑法？ 事例			
第8回 医療過誤と刑法？ 振り返り			
第9回 精神医学・神経科学と刑法？ 総論			
第10回 精神医学・神経科学と刑法？ 責任能力・総論			
第11回 精神医学・神経科学と刑法？ 責任能力・各論			
第13回 精神医学・神経科学と刑法？ 少年法			
第14回 生命科学・人体の利用と刑法 概論			
第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
刑法の基礎的知識を前提とするので、受講前に予習として『刑法総論』『同各論』の復習をしておく必要がある。また、随時問答を行うので、回答するための準備が求められる。			
教科書			
指定しない			
参考書			
講義中に随時紹介する。			
成績の評価基準			
受講態度および期末レポートを総合して評価する。			
オフィスアワー			
月曜12：00～12：50			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
教員の発問を受けての応答			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			

備考（受講要件）

『刑法総論?・?』 『刑法各論?』を受講済みであることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX2308

科目名

刑法各論I (旧 犯罪と刑罰)

英語名

Criminal Law: Specific Offences I

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

上原大祐

099-285-7626

embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

刑法各論のうち財産犯を除く個人的法益、主要な社会的法益、国家的法益に関する犯罪についての講義を行います。刑法は法規範の一つですが、刑罰という峻厳な強制力を有する点に他の法規範には見られない特徴があり、それ故、条文解釈においては場当たりのにならないよう緻密な議論がなされています。他方、法益侵害が発生したならば適切な規定を適用し、社会秩序を維持して法益の保護が図られなければならないのも当然です。条文を解釈するにあたっては、メリット・デメリットを意識しながら結論を導くことが求められます。

刑法各論での学修は、各犯罪の法益および成立要件を明らかにしていくことが主たる目的となります。法益の捉え方次第によって、犯罪の成立要件が異なってきますので、その解釈は重要ですし、また、一つ一つの要件は犯罪の成否に直結するため、丁寧に解釈されなければなりません。本講義では、事例を頻繁に用いつつ、各犯罪の法益および成立要件を考察し、各犯罪を網羅的に解明していきます。

なお、講義はレジュメを配布し、それに従って進めていきます。

遠隔で授業実施の予定です。

学修目標

以下の点の修得を目標とします。

1. 財産犯を除く個人的法益、主要な社会的法益、国家的法益に関する各犯罪の法益、成立要件を理解する。
2. 各犯罪の相違を理解し、区別ができるようにする。
3. 判例や主要な学説を理解し、多角的視野に基づいて結論を導くことができるようにする。

授業計画

授業の実施形態については、後期になる際に改めて提示する。

第1回 生命に対する罪：人の始期・終期，自殺幫助・同意殺人罪と殺人罪の区別，墮胎の罪

第2回 身体に対する罪・壹：傷害罪・暴行罪・凶器準備集合罪

第3回 身体に対する罪・貳：過失傷害罪等，『自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律』

第4回 身体に対する罪・参：遺棄の罪

第5回 自由に対する罪・壹：意思決定の自由を侵害する罪（脅迫罪・強要罪）

第6回 自由に対する罪・貳：身体的移動の自由を侵害する罪（逮捕監禁罪，略取誘拐罪）

第7回 自由に対する罪・参：性的自己決定の自由を侵す罪

第8回 平穏に対する罪：個人の私的領域を侵す罪

第9回 名誉に対する罪

第10回 信用・業務に対する罪

第11回 社会的法益に対する罪・壹：放火・失火の罪，その他の公共危険罪（騒乱罪・往来妨害罪等）

第12回 社会的法益に対する罪・貳：偽造の罪・壹(通貨偽造罪・証券偽造罪)

第13回 社会提起法益に対する罪・参：偽造の罪・貳(文書偽造罪等)，風俗犯罪

第14回 国家的法益に対する罪・壹：国家作用に対する罪(公務執行妨害罪等【司法に対する罪を含む】)，その他の国家的法益に対する罪（内乱・外患の罪等）

第15回 国家的法益に対する罪・貳：汚職の罪（賄賂罪、職権濫用罪）

第16回 試験

授業外学習 (予習・復習)

【予習】 事前に配布するレジюмеに目を通し、レジюмеで挙げられている教科書の該当箇所を通読する (約2時間)

【復習】 授業で扱った内容につき、レジюмеで復習し、理解が十分でない箇所は教科書で再確認する (約2時間)。

教科書

井田良 = 城下裕二 『刑法各論判例インデックス』 (2016年・商事法務)

参考書

木村光江 『刑法 第4版』 (2018年・東京大学出版会)

成績の評価基準

通常の授業の履修態度および期末レポート (論述式を含む) を総合して評価する。

なお、法学コースの学生については、秀 (90 点以上) とする人数の上限を成績評価対象者 (他コース・他学科に所属する学生を除く) の20%以内とする。

オフィスアワ -

月曜12:00 ~ 12:50

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

教員の質問等を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング (授業回数)

全回

備考 (受講要件)

授業には六法を持参すること。刑法総論を並行して受講していることが望ましいですが、必要に応じて総論に関する事項につき補足しますので、それらの科目を受講していない人でも本講義を受講して構いません。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX2332			
科目名			
実践演習（法情報論）（旧 法情報論）			
英語名			
Practice Seminar : Legal Infomatics			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
中島宏、米田憲市		099-285-7633(中島)	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp (中島)
共同担当教員		前後期	
角田篤泰（司法政策研究教育研究センター特任教授）		後期	
授業概要			
<p>この科目は、将来の法実務を先取りし、コンピュータおよびネットワークを活用した法学の学習・研究方法を実践的に学ぶ。具体的な事案を用いながら、法律家が法的な問題を解決していく実際のプロセスに沿って、すなわち、事実の「発見」 法情報の集と分析 法的判断とその正当化 口頭および書面による説得という過程を経験する。その中で、情報科学の成果を活用し、法的な問題を効果的・効率的に処理していく術を修得する。また、本学の学生のみで行うのではなく、遠隔講義システムを活用して、大阪大学の学生との共同作業やディベートを取り入れる。</p>			
学修目標			
<p>以下のようなスキルを身につけることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題解決のために必要な法情報（事実に関する情報・法的判断に関する情報）の特定 2. 各種ツールを用いたリーガル・リサーチ 3. 文献リストや調査メモによる資料整理 4. 判例の読み方・分析方法 5. 問題解決のための資料の読み方 6. 書面による主張 7. 口頭弁論の技法 8. 情報通信ツールを用いた論争 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回（1）Zoomミーティングによる遠隔授業（一部分は大阪大学と合同実施）、（2）専用のLMSを利用した課題提出の両方を組み合わせて行う。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>この科目は、将来の法実務を先取りし、コンピュータおよびネットワークを活用した法学の学習・研究方法を実践的に学ぶ。具体的な事案を用いながら、法律家が法的な問題を解決していく実際のプロセスに沿って、すなわち、事実の「発見」 法情報の集と分析 法的判断とその正当化 口頭および書面による説得という過程を経験する。その中で、情報科学の成果を活用し、法的な問題を効果的・効率的に処理していく術を修得する。また、本学の学生のみで行うのではなく、遠隔講義システムを活用して、大阪大学の学生との共同作業やディベートを取り入れる。</p>			
<p>第1回...班編制、自己紹介など 第2回...社会的事実としての事案の分析 第3回...判例データベースの使い方 第4回...事実調査（1） 第5回...事実調査（2） 第6回...法律構成の検討（1） 第7回...事案に関連する法分野の講義</p>			

第 8 回...法律構成の検討（ 2 ）
第 9 回...事案処理のために必要な法情報の収集と分析
第 1 0 回...民事訴訟制度に関する講義
第 1 1 回...他大学との共同作業（ 訴状・答弁書の作成 ）
第 1 2 回...他大学との共同作業（ Web 論争システムによる議論 ）
第 1 3 回...他大学との共同作業（ Web 論争システムによる議論 ）
第 1 4 回...他大学との共同作業（ Web 論争システムによる議論 ）
第 1 5 回...他大学との共同作業（ 原告と被告のディベート ）
授業外学習（ 予習・復習 ）
この科目では、ほぼ毎回、授業外に各自が行うべき課題が出題され、受講者は次回までにそれを確実に実施し、提出する必要がある。また、他大学との共同作業においては、授業外に他大学の仲間と打ち合わせをしたり、議論を進める必要がある。課題の内容には、次回の予習と前回の復習の両方が含まれている。課題を実施するために、120分程度の自学自修が必要である。
教科書
なし
参考書
田中規久雄・松浦好治『法学新入門』（デザインエッグ、2017年） 加賀山茂・松浦好治『法情報学（第2版補訂）』（有斐閣、2006年） いしかわまりこ・藤井康子・村井のり子『リーガル・リサーチ〔第5版〕』（日本評論社、2016年） = = 【以下は、ややハイレベル】 川崎政司『法律学の基礎技法』（法学書院、2011年） 田中豊『法律文書作成の基本』（日本評論社 2011年） 小島武司編『実践民事弁護の基礎』（レクシスネクシスジャパン 2008年）
成績の評価基準
授業時間内での課題に対する取り組み、授業時間外に取り組んで提出する課題への取り組みによって評価する。欠席は減点する。（100%）
オフィスアワ -
月曜4限（中島）
アクティブ・ラーニング
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
該当なし
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回
備考（受講要件）
法学コースの学生に限定する。なお、下記を了解の上で受講すること。 （ 1 ）法律を生きたい形で学びたい者、3年次以降になった時に法学系のゼミでしっかり学びたい者、法科大学院進学を道に考えている者、法律を武器にした仕事に就くこと考えている者の履修を歓迎する。 （ 2 ）毎回のように課題が出されるので、労を厭うことなく、法的な思考能力と問題処理能力を高めることを真に望む学生の履修を歓迎する。 （ 3 ）グループでの作業を行うため、中途での離脱は、本人の権利放棄にとどまらず、他人の学修の妨げとなる。履修登録をする以上、必ず最後まで履修すること。 （ 4 ）端末室の制約から受講制限をする（20名）。履修を希望する学生は、所定の期間に履修申請をした上で、初回の講義に必ず出席すること（出席できない事情がある場合は、事前に必ず担当教員に連絡すること）。履修申請者が上限を超えた場合は、初回の講義の後、直ちに選抜を実施するので、掲示等を確認すること。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし

ナンバリングコード

FHS-BCX2309

科目名

刑事訴訟法I (旧 法律学特殊講義 (捜査法))

英語名

Criminal Procedure I

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

この科目では、刑事訴訟法が規定する内容のうち、捜査手続きに関する部分を扱う。捜査機関が犯罪を発見し、証拠を収集するとともに、被疑者の身柄を保全するための手続きについて、その概要を理解したうえで、刑事訴訟法の捜査に関する規定の解釈論上の争点を、判例などを素材にして検討していく。

刑事訴訟は、犯罪に対して刑罰を科すための手続きである。具体的な事案について、捜査がなされ、被告人が起訴されて、公判において有罪が立証され、判決が言い渡されなければ、刑法の規定する内容も「絵に描いた餅」となってしまうだろう。その意味で、刑事訴訟法を学ぶことは、刑事法全体の中でも、刑法に匹敵する重要な意味をもつ。さらに裁判員制度の導入によって、犯罪捜査や刑事裁判の手続きに関する知識は、専門職に就く者だけでなく、すべての市民にとって必要なものとなっている。

なお、他の学期において別途に開講する「刑事訴訟法II」では、公訴・公判・証拠・裁判に関する部分（狭義の訴訟手続き）を扱っている。できるだけ両科目とも履修することが望ましい（順序は問わない）。

学修目標

- (1) 捜査・公訴の流れを正確に理解して説明できるようになる。
- (2) 捜査・公訴の運用における実状を把握して説明できるようになる。
- (3) 捜査・公訴をめぐる刑事訴訟法の解釈における重要論点について、判例・学説の正しい理解に基づき、具体例を用いながら説明できるようになる。
- (4) 判例の分析を通じて、捜査・公訴に関わる具体的な事例に刑訴法の規定を解釈・適用して結論を示すことができるようになる。

授業計画

本授業は、毎回(1)オンデマンド動画の配信と(2)Zoomミーティングによるオンライン授業の両方を組み合わせて行う。学生が動画をあらかじめ視聴した上で、オンライン授業に参加することになる。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。」

第1回...捜査機関/捜査総説

第2回...捜査の端緒

第3回...任意捜査の限界

第4回...証拠の収集(1) - 令状による捜索・差押え・検証 -

第5回...証拠の収集(2) - 令状によらない捜索・差押え・検証 -

第6回...証拠の収集(3) - 体液の採取 -

第7回...証拠の収集(4) - 通信傍受 -

第8回...逮捕・勾留(1)

第9回...逮捕・勾留(2)

第10回...逮捕・勾留(3)

第11回...被疑者の取調べ(1)

第12回...被疑者の取調べ(2) / 協議・合意制度

第13回...被疑者の防御活動

第14回...検察官の事件処理

第15回...公訴提起の手続き

授業外学習 (予習・復習)

予習

オンデマンド方式で行うため、講義動画視聴前の予習は不要。

復習

- (1) 講義動画をオンデマンドで視聴後、manabaでワークシートに回答して提出する。
- (2) 質問や補足説明のためのZoomミーティングに参加し、質疑応答や議論を行う。
- (3) さらに疑問などがあれば、manabaの掲示板に書き込みをする。120分程度。

教科書

1)三井誠・酒巻匡『入門刑事手続法(第8版)』(有斐閣、2020年)

2)井上正仁編『刑事訴訟法判例百選(第10版)』(有斐閣、2016年)

なお、法曹志望の学生は上記(1)に代えて、下記のいずれか1冊を使用すること。

酒巻匡『刑事訴訟法 第2版』(有斐閣、2020年)

宇藤崇・松田岳士・堀江慎司『刑事訴訟法』第2版(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2018年)

参考書

体系書・概説書

白取祐司『刑事訴訟法[第10版]』(日本評論社、2021年)

上口裕『刑事訴訟法[第5版]』(成文堂、2021年)

吉開多一・緑大輔・設楽あづさ・國井恒志『基本刑事訴訟法1手続理解編』(日本評論社、2020年)

吉開多一・緑大輔・設楽あづさ・國井恒志『基本刑事訴訟法2論点理解編』(日本評論社、2021年)

池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義[第6版]』(東大出版会、2018年)

田口守一『刑事訴訟法[第7版]』(弘文堂、2017年)

田宮裕『刑事訴訟法(新版)』(有斐閣、1996年)

注釈書

松尾浩也監修『条解刑事訴訟法[第4版増補版]』(弘文堂、2016年)

河上和雄・中山善房ほか『大コンメンタール刑事訴訟法[第2版]』全10巻

三井誠ほか『新基本法コンメンタール 刑事訴訟法[第2版追補版]』(日本評論社、2017年)

後藤昭ほか『新・コンメンタール刑事訴訟法(第3版)』(日本評論社、2018年)

成績の評価基準

期末試験(70%)、ワークシート(30%)

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワ -

月曜4限。ただし、指定時間外でも質問等のための来訪を歓迎する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回

備考(受講要件)

自ら主体的に学び問う意欲のある者だけを「学生」と認める。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BCX2304

科目名

政治学

英語名

Political Science

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

平井一臣

8855

isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

政治学の基本的な知識や情報を踏まえたうえで、国際的に生起している出来事や日本政治の現在について理解する。

学修目標

本授業は、政治及び政治学についての基本的な考え方を学ぶとともに、先進社会の政治を理解することを基本的な課題としています。そのために、権力と権威、デモクラシーなどの基本的な概念や議会、政党、政治制度、国家などの政治学の用語の意味を理解し、それに基づいて、様々な政治現象について考えてみることを目標にしています。ジェンダー、グローバル化、ポピュリズム、政治的無関心等、国の内外で生起している出来事を政治学の知識や情報でより立体的・有機的に理解することができるはずです。

授業計画

授業計画

- 第1回：日本政治の現在 コロナ問題を中心に
- 第2回：税と政治
- 第3回：ジェンダーと政治
- 第4回：地域の政治
- 第5回：安全保障と政治
- 第6回：核と政治
- 第7回：グローバリズムと政治
- 第8回：戦争責任と戦後責任
- 第9回：国境をめぐる政治
- 第10回：民主主義を考える
- 第11回：選挙と政治
- 第12回：政策と政治
- 第13回：政治学の世界
- 第14回：日本政治の課題（国内政治）
- 第15回：日本政治の課題（対外政策）

授業外学習（予習・復習）

毎回、授業開始前に、教科書の該当箇所を精読し、manabaにコメント・シートとして、感想や質問を予め提出してもらいます（標準学習時間は約1時間）。授業は、事前に提出されたコメント・シートに対する解説を中心にを行います。授業での解説を聞いたうえで、改めて教科書の該当箇所を読み復習してください（標準学習時間は約1～2時間）。

教科書

平井一臣・土井勲嗣編『つながる政治学』法律文化社

参考書

授業の中で適宜紹介します。

成績の評価基準

毎回提出してもらうコメント・シートと、学期末試験による。
オフィスアワ -
火曜3限
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
該当なし
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回
備考（受講要件）
特に無し
実務経験のある教員による実践的授業
なし

ナンバリングコード

FHS-BCX2317

科目名

民事訴訟法I (旧 民事紛争処理手続)

英語名

Civil Procedure I

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
齋藤 善人		099-285-3526	saito@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

この授業では、大きな民事紛争解決手続の流れを把握するのみではなく、民事訴訟手続の各場面で生起する主要な論点にフォーカスし、条文の解釈や判例法理の検討を通して、重要な論点を考察し、理解する力を涵養したい。基本書を咀嚼できる読解力を身に着けるとともに、本格的なケース・メソッド（判例研究）への橋渡しを意図したケース・スタディの方式を通じて、時に演繹的に、また場合によっては帰納的に、民事訴訟法の基礎理論を学習するという方法論を採用したい。

その際、制度趣旨とか定義といった基本概念については、適宜簡明に説明することに留意し、基本的な概念と論点の関係を把握して思考できるような能力の開発に資するようにしたい。なお、基本的事項については、教科書や参考文献等を検索すれば、記されているところであり、その点で受講生各位の自学自習が不可欠の要素となる。それを前提に、授業の場では、できる限り判例教材などを用いて、論点を具体的に考察することを試みたい。もちろん、「考察する」ためには、必要最小限の正確な基礎学力（基本概念等の理解）が不可欠なことは承知しているが、授業が単なる知識の伝達に終始することは本旨でない。その意味で、所期の成果を達成し得る授業を構築するには、受講生各位の協力が是非とも必要となるだろう。

学修目標

民事訴訟法の主要な論点を素材に、自らテキストなど文献を検索し、それを正しく「読解する」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に係る条文を正確に「読む」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に関する判例法理を理解し、その内容を説明することができる。

民事訴訟法の主要な論点につき、基本概念や定義、判例を踏まえて思考回路を設計し、説明することができる。

授業計画

- 【1】はじめに / 民事の裁判とADR
- 【2】民事訴訟手続の概要
- 【3】訴えの提起（1）【審判の対象と訴訟物?】
- 【4】訴えの提起（2）【審判の対象と訴訟物?】
- 【5】訴えの提起（3）【裁判管轄と移送】
- 【6】訴えの提起（4）【送達の問題と再審】
- 【7】訴え提起の効果（1）【重複訴訟の禁止 / 趣旨と要件】
- 【8】訴え提起の効果（2）【重複訴訟の禁止と相殺の抗弁】
- 【9】訴えの利益（1）【訴訟の3類型 / 権利保護の資格と必要性】

【10】訴えの利益(2)【確認の利益/遺言無効確認の訴え】

【11】当事者能力と当事者適格(1)【当事者の確定/権利能力なき団体の当事者能力/訴訟能力】

【12】当事者能力と当事者適格(2)【権利能力なき団体と登記手続請求権/第三者の訴訟担当】

【13】弁論主義(1)【主張ルール/自白ルール/主要事実と間接事実】

【14】弁論主義(2)【主張ルールと不意打ちの防止】

【15】弁論主義(3)【釈明権と法的観点指摘義務】

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、授業の実施方法など変更を生じる可能性もあり得る。

授業外学習(予習・復習)

受講に際しての準備・事前学習として、講義resume、教科書、配布資料(判例)の通読/140分程度。

受講後の理解度の確認作業・疑問点の抽出など/100分程度。

教科書

町村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法(北樹出版・平成30年)

参考書

【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論(有斐閣・平成28年)
川嶋四郎・民事訴訟法概説[第2版](弘文堂・平成28年)
和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法(商事法務・平成24年)
山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)

【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法(上)[第2版補訂版]、(下)[第2版補訂版](有斐閣・平成25、26年)
伊藤眞・民事訴訟法[第6版](有斐閣・平成30年)
川嶋四郎・民事訴訟法(日本評論社・平成25年)
河野正憲・民事訴訟法(有斐閣・平成21年)
小島武司・民事訴訟法(有斐閣・平成25年)
新堂幸司・民事訴訟法[第5版](弘文堂・平成23年)
中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義[第3版](有斐閣・平成30年)
藤田広美・講義民事訴訟[第3版](東大出版会・平成25年)
藤田広美・解析民事訴訟[第2版](東大出版会・平成25年)
松本博之=上野泰男・民事訴訟法[第8版](弘文堂・平成27年)
三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)

【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタール民事訴訟法1[第2版追補版]、2[第2版]、3、4、5、6(日本評論社・平成26、18、20、22、24、26年)
松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法[第2版](弘文堂・平成23年)
加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法1、2(日本評論社・平成30年)
笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法[第2版](日本評論社・平成25年)

【4】学習用判例教材

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法 (弘文堂・平成31年)

高橋宏志=高田裕成=畑瑞穂編・民事訴訟法判例百選 [第5版] (有斐閣・平成27年)

成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する(100%)。なお、授業の場で、予習対象の判例等につき、報告あるいは質疑応答を経由したときには、その都度プロセス評価として、+3から-3点の範囲で、試験の点数に加減することがある。

なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

対面の形式でのオフィスアワーは、当面、設定する予定はない。個別のメールでの対応や、manaba上のスレッドによる対応となろう。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

予習を指示した課題についての質疑応答等。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

備考(受講要件)

受講生各位が、判例等を素材にして具体的に「考える」作業に取り組む授業にできれば理想的だろう。判例の事案を理解するには、多くの場合、その前提として、民法(主に財産法)の基本的理解を要するはずなので、受講生各位には、その部分の事前学習も求められよう。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BCX2322			
科目名			
法社会学			
英語名			
Socio-Legal Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
米田憲市		099-285-8860	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp (subject欄に、科目名、氏名、学籍番号を必ず記載すること)
共同担当教員		前後期	
該当なし		後期	
授業概要			
<p>「法社会学」とは、法やルールの社会的性質をその状況的事実とともに明らかにすることを志向し、理解を深めようとする研究実践とその成果の総体の呼称である。</p> <p>この授業では、法社会学の学問分野の成立・背景から現在までの変遷、法社会学の「教科書」の比較、よく取り上げられる研究主題、法制度にかかるドキュメント、法制度から卑近なルールに至るまでの実証研究などを取り上げる。</p>			
学修目標			
<p>この授業を通じて、法社会学が法に関する研究分野の中で最も自由な性質を持つ分野であることを実感してもらい、「法についての知的で体験的で実践的な冒険」の一端に触れて、法やルールに関わる場面についての観察力、分析力、説明力を高めることを目標とする。</p>			
授業計画			
<p>第1講 ガイダンス：法社会学の研究主題</p> <p>第2講 法専門職</p> <p>第3講 法サービスの提供 / 確保</p> <p>第4講 日本の法社会学の沿革</p> <p>第5講 法社会学の教科書のいろいろ</p> <p>第6講 法と権力</p> <p>第7講 法と文化</p> <p>第8章 法と言語：立法過程・公文書作成・法解釈を手がかりに</p> <p>第9講 実践演習：事例問題から洞察力を鍛える</p> <p>第10講 ビデオ教材による演習(1)</p> <p>第11講 ビデオ教材による演習(2)</p> <p>第12講 ビデオ教材による演習(3)</p> <p>第13講 ビデオ教材による演習(4)</p> <p>第14講 組織論から見る裁判官制度</p> <p>第15講 約束を守る / が守られるという事態と社会組織</p>			
履修者数が過大、過小の場合には、授業の内容を変更することがある。			
課題提出型、オンデマンド型、リアルタイム型を併用します。			
授業外学習 (予習・復習)			
この科目専用のCMS (manabaやrespon等) を活用し、事前の学習や課外時間の提出を求めることがある。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
村山 眞維, 濱野 亮 『法社会学 第3版 (有斐閣アルマ)』 有斐閣(2019)			

ISBN-10: 4641124760 / ISBN-13: 978-4641221246

宮澤節生, 武蔵勝宏, 上石圭一, 大塚浩 『ブリッジブック法システム入門〔第4版〕 法社会的アプローチ』 信山社 (2018)

ISBN-10: 4797223405 / ISBN-13: 978-4797223408

和田仁孝編 『法社会学(NJ叢書)』 法律文化社(2006)

ISBN-10: 4589029774 / ISBN-13: 978-4589029775

ほか

木佐 茂男, 宮澤 節生, 佐藤 鉄男, 川嶋 四郎, 水谷規男 『テキストブック現代司法 第6版』 日本評論社 (2015)

成績の評価基準

最終試験：60%（特徴のある方法で実施するので、授業で説明をよく聞くこと。）

提出物（ネット上のコメントなどを含む）：20%

その他：授業の充実への貢献などで20%

オフィスアワー

随時。上記連絡先でアポを取ることが望ましい。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

双方向多方向の議論、ICTを活用した教員・受講者間のコミュニケーション、学生による成果発表

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全授業をアクティブラーニング型授業として実施する。

備考（受講要件）

同時間に開講されている実定法科目がある場合、そちらの履修を優先すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX2314			
科目名			
家族法（旧 家族の法と政策）			
英語名			
Family Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
阿部純一		099-285-7525（法文学部学生係）	famerb2021@gmail.com
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本講義では、民法の親族法（第四編）・相続法（第五編）に関する基本的な法制度、関連する判例・学説について解説する。親族法・相続法は、社会関係の中でも最も身近な「家族」にかかわる法領域であり、各人の経験及び価値観を反映した議論に傾きやすい危険をはらむ一方、「家族」をめぐる社会的・経済的諸条件や社会意識の変化にともない、近時、注目すべき判例及び立法が展開されている法分野である。講義では、できるだけ客観的に制度を説明するとともに、近年の家族を取り巻く社会状況や価値観の変化を踏まえた法政策的議論にも目を向け、家族と法の問題を多角的に検討する。</p> <p>* 2021年度の講義は、遠隔授業方式（オンデマンド配信方式）によって実施する。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・親族法・相続法の基本的知識を習得する ・習得した基本的知識を用いて具体的問題を解決する能力を養う ・家族をめぐる現代的諸課題について考える 			
授業計画			
第01回：ガイダンス・家族法総論（家族法の歴史、家事事件の手続、親族の範囲）【遠隔授業：オンデマンド型】			
第02回：婚姻の成立（婚姻意思、婚姻障害事由、婚姻の無効・取消）【遠隔授業：オンデマンド型】			
第03回：婚姻の効果（夫婦の氏、同居協力扶助義務（貞操義務）、夫婦の財産）【遠隔授業：オンデマンド型】			
第04回：離婚の成立（離婚法総論、離婚原因、離婚の種類、有責配偶者からの離婚請求）【遠隔授業：オンデマンド型】			
第05回：離婚の効果（財産分与、子の監護・養育費）【遠隔授業：オンデマンド型】			
第06回：婚姻外の男女関係（内縁、事実婚、婚約）【遠隔授業：オンデマンド型】			
第07回：実親子関係（親子関係法総論、嫡出親子関係、非嫡出親子関係、準正）【遠隔授業：オンデマンド型】			
第08回：養親子関係（養子制度総論、普通養子縁組、特別養子縁組）【遠隔授業：オンデマンド型】			
第09回：親権・後見・扶養（親権者、親権の内容、親権の制限（児童虐待への法的対応）、後見・補佐・補助、扶養制度の概要）【遠隔授業：オンデマンド型】			
第10回：相続人と相続分（相続人の種類と順位、法定相続分、代襲相続）【遠隔授業：オンデマンド型】			

第11回：相続資格の剥奪（相続欠格、相続廃除）【遠隔授業：オンデマンド型】

第12回：相続の承認と放棄（単純承認、限定承認、相続放棄）【遠隔授業：オンデマンド型】

第13回：遺産共有・遺産分割（相続財産の範囲、遺産共有の性質、遺産分割の手続・効果、配偶者の居住の権利、特別の寄与）【遠隔授業：オンデマンド型】

第14回：相続回復請求権【遠隔授業：オンデマンド型】

第15回：遺言・遺留分（遺贈）【遠隔授業：オンデマンド型】

* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。

授業外学習（予習・復習）

【予習】事前にレジュメ・教科書等の該当箇所を目を通してから授業に臨む（45分）

【復習】授業で十分に理解できなかった部分を中心に内容を確認する、manaba上で実施する「ドリル」課題（必須）によって理解を定着させる（1時間）

教科書

指定しない（参考書の中から一冊を各自で選択して準備すること）

参考書

・水野紀子=大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続（第2版）』（有斐閣、2018年）

* 以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書である（各参考書については、初回授業で説明する）。

・高橋朋子=床谷文雄=棚村政行『民法7 親族・相続（第6版）』（有斐閣、2020年刊行予定）

・二宮周平『家族法（第5版）』（新世社、2019年）

・常岡史子『家族法』（新世社、2020年）

・窪田充見『家族法 民法を学ぶ（第4版）』（有斐閣、2019年）

・前田陽一=本山敦=浦野由紀子『民法6 親族・相続（第5版）』（有斐閣、2019年）

・本山敦=青竹美佳=羽生香織=水野貴浩『家族法（第2版）』（日本評論社、2019年）

・青竹美佳ほか『民法5 親族・相続 判例30!』（有斐閣、2017年）

成績の評価基準

各回における「ドリル」課題の提出：30%

期末レポート（論述式を含む）：70%

* 法学コースの学生については、秀（90点以上）とする人数の上限を成績評価対象者（他コース・他学科に所属する学生を除く）の20%以内とする。

オフィスアワー

質問については遠隔（Zoom）で対応するので、学籍番号・氏名を明示して、連絡先メールアドレスまでメールすること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

授業には六法を必ず持参すること。

テキスト・参考書については初回授業で説明する。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BCX3312			
科目名			
法哲学(旧 法理論)			
英語名			
Legal Philosophy			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
石川英昭	099-285-7525(法文学部学生係)	hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)	
共同担当教員	前後期		
なし	後期		
授業概要			
法理論を中心に法哲学の主たる分野を講義する。			
学修目標			
様々な方法論、法理論および正義論を知ること、法の様々な理解が可能であることを認識させることにより、法についての各自自身の考えを批判的に再考させ一層深めることを目的とする。			
授業計画			
1. 法哲学とは何か? 2. 対象としての「法」 その概念定義の難しさ 3. 言葉の問題 4. 法哲学者による「法」の定義 5. 法学方法論 1 6. 法学方法論 2 7. 正義論 1 8. 正義論 2 9. 正義論 3 10. 法と不正義 11. 法理論 1 12. 法理論 2 13. 法理論 3 14. 法理論 4 15. 法理論 5 16. 法理論 6 17. 法理論 7 18. 現代法理論の位相 計画は、1単元1コマではない。又、適宜変更もある。			
授業外学習(予習・復習)			
適宜取り上げる参考文献を読むこと。 レポートには十分な時間を準備すること。			
教科書			
特になし。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
質問(10点)、レポート(テーマ及び締切は授業中に示す。)またはミニ・テスト(40点)、期末試験(50点)			

の総合点の判定による。尚、配点は、変更もある。

欠席は、理由の如何を問わず3回まで。欠席4回で自動的に評価の対象としない。尚、遅刻3回は欠席1回とする。また、欠席1回は総合点から3点減点する。

オフィスアワ -

授業中及び授業後に適宜行う。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

14回

備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BCX2302

科目名

行政法総論I (旧 行政の法システム)

英語名

Administrative Law I

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

森尾成之

manabaで受け付けます

manabaで受け付けます

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

講学上の行政法総論とよばれる分野の中で、行政作用法という分野の講義を中心に行う。
国内法体系は、憲法を頂点として、私的な当事者間の相対的な利害調整を行う民事法、犯罪・刑罰に関する刑事法と、多数者間の利害を調整する行政法の3分野に大きく分類されます。
この中の、行政法の総論(救済法を除く)の前半部分が本講の対象です(後半は行政法総論II)。

学修目標

- (1) 法治行政の仕組みについて理解する
- (2) 行政が行政目的実現のために私人に働きかける各種手段とその限界につき理解する

授業計画

- 第1回：行政法入門(1)
 - 第2回：行政法入門(2)
 - 第3回：行政法入門(3)
 - 第4回：行政・行政法とは何か
 - 第5回：行政組織
 - 第6回：行政法規の諸形式、訓令・通達
 - 第7回：法治行政
 - 第8回：行政立法
 - 第9回：行政行為(1) 行政行為の効力
 - 第10回：行政行為(2) 行政行為の種類と附款
 - 第11回：行政行為(3) 行政行為と裁量
 - 第12回：行政行為(4) 行政行為の無効と取消
 - 第13回：行政行為(5) 行政行為の取消と撤回
 - 第14回：行政計画
 - 第15回：私人による行政
- 定期試験

授業外学習(予習・復習)

毎回の講義の前にテキストの該当箇所に目を通し、講義後に講義の内容につきご確認ください。

教科書

高橋滋 = 野口貴公美 = 磯部哲 = 大橋真由美編著、織朱美 = 岡森識晃 = 小舟賢 = 服部麻理子 = 寺田麻佑 = 周せい = 田中良弘 = 宮森征司 = 吉岡郁美 『行政法 Visual Materials(第2版)』(有斐閣、2020年)
宇賀克也 = 交告尚史 = 山本隆司編 『行政判例百選1 第7版』(有斐閣、2017年)

参考書

大橋洋一 『行政法1 第4版』(有斐閣、2019年)
村上裕章 = 下井康史編 『判例フォーカス行政法』(三省堂、2019年)
原田大樹 『グラフィック行政法入門』(新世社、2017年)
大橋洋一 『社会とつながる行政法入門』(有斐閣、2017年)

藤田宙靖『行政法入門[第7版]』(有斐閣、2016年)
 芝池義一=太田直史=北村和生=山下竜一編『判例行政法入門〔第6版〕』(有斐閣、2017年)
 野呂充=野口貴公美=飯島淳子=湊二郎『行政法』(有斐閣、2020年)
 石川敏行=藤原静雄=大貫裕之=大久保規子=下井康史『はじめての行政法(第4版)』(有斐閣、2015年)
 宇那木正寛『自治体政策立案入門』(ぎょうせい、2015年)
 藤田宙靖『行政法入門[第7版]』(有斐閣、2016年)
 塩野宏『行政法1 行政法総論第6版』(有斐閣、2015年)
 櫻井敬子=橋本博之『行政法 第6版』(有斐閣、2019年)
 原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂版〕』(学陽書房、2011年)
 宇賀克也『行政法概説1 行政法総論〔第7版〕』(有斐閣、2020年)
 阿部泰隆『行政法解釈学1』(有斐閣、2008年)
 曾和俊文『行政法総論を学ぶ』(有斐閣、2014年)
 曾和俊文=山田洋=亘理格『現代行政法入門(第3版)』(有斐閣、2015年)
 山本隆司『判例から探究する行政法』(有斐閣、2012年)
 亘理格=北村喜宣編、村上裕章=人見剛=須藤陽子=前田雅子=藤谷武史著『重要判例とともに読み解く 個別行政法』(有斐閣、2013年)
 高田敏『新版行政法 法治主義具体化法としての』(有斐閣、2009年)
 畠山武道=下井康史『はじめての行政法(第3版)』(三省堂、2016年)
 北村和生=佐伯彰洋=佐藤英世=高橋明男『行政法の基本(第7版)』(法律文化社、2019年)
 稲葉馨=人見剛=村上裕章=前田雅子『Legal Quest 行政法(第4版)』(有斐閣、2018年)
 中原茂樹『基本行政法(第3版)』(日本評論社、2017年)
 磯部力=小早川光郎=芝池義一編『行政法の新構想1 行政法の基礎理論』(有斐閣、2011年)
 大橋洋一『法学テキストの読み方』(有斐閣、2020年)

成績の評価基準

期末レポートで評価する。
 法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

質問は、講義終了後に受け付け、適宜対応する。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中3回

備考(受講要件)

六法必携, シラバスの内容は若干変更することもある。
 オンラインで授業を行う。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない。

行政法総論II (旧 法律学特殊講義 (行政の法システム特論))
ナンバリングコード

FHS-BCX2303

科目名

行政法総論II (旧 法律学特殊講義 (行政の法システム特論))

英語名

Administrative Law II

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

森尾成之

manabaで受け付けます

manabaで受け付けます

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

国内法体系は、憲法を頂点として、私的な当事者間の相対的な利害調整を行う民事法、犯罪・刑罰に関する刑事法と、多数者間の利害を調整する行政法の3分野に大きく分類されます。

この中の、行政法の総論(救済法を除く)の後半部分が本講の対象です(前半は行政法総論I)。

学修目標

行政法総論分野の後半部について理解を深めることを目標とする。

授業計画

第1回: はじめに

第2回: 行政手続(1)(比較法的沿革、制定法準拠主義)

第3回: 行政手続(2)(行政手続法概観、パブリックコメント、ノータクシオンレター)

第4回: 行政指導

第5回: 行政契約

第6回: 民事執行と行政上の強制執行

第7回: 行政代執行、行政上の強制徴収

第8回: 行政罰

第9回: 即時強制

第10回: 誘導

第11回: 行政情報の収集(行政調査、公益通報者保護)

第12回: 行政情報の管理(個人情報保護、公文書管理法、特定秘密保護法)

第13回: 行政情報の利用(番号法、住民基本台帳法など)

第14回: 行政情報の公開(情報公開制度、請求手続、開示要件など)

第15回: おわりに

定期試験

授業外学習(予習・復習)

教科書と判例の該当箇所を読み、授業終了後に講義内容とともに復習すること。

教科書

高橋滋=野口貴公美=磯部哲=大橋真由美『行政法 Visual Materials 第2版』(有斐閣、2020年)

宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選1 第7版』(有斐閣、2017年)

参考書

村上裕章=下井康史編『判例フォーカス行政法』(三省堂、2019年)

大橋洋一『行政法1 第4版』(有斐閣、2019年)

阿部泰隆『行政法解釈学1』(有斐閣、2008年)

阿部泰隆『行政法再入門 上』(信山社、2015年)

櫻井敬子=橋本博之『行政法〔第6版〕』(弘文堂、2019年)

高木光『行政法』(有斐閣、2015年)

成績の評価基準

オンラインで授業する。

小課題と冬休みに課すレポートで評価する。

行政法総論II (旧 法律学特殊講義 (行政の法システム特論))

法学コースの学生については、秀 (90 点以上) とする人数の上限を成績評価対象者 (他コース・他学科に所属する学生を除く) の20%以内とする。

オフィスアワ -

manabaで受け付け、必要に応じて時間を設けます。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中3回

備考 (受講要件)

平成28年度以前入生は「法律学特殊講義 (行政の法システム特論)」として読み替えるため履修可能。行政法総論I (旧 行政の法システム) を受講していることを前提として講義をする。

六法必携, シラバスの内容は若干変更することもある。

オンラインで授業を行う。

実務経験のある教員による実践的授業

実務経験のある教員による授業ではありません。

ナンバリングコード			
FHS-BCX2323			
科目名			
外国法特論（中国法）			
英語名			
Special Lectures on Foreign Law :Chinese Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
張 秀娟		099-285-7085	k7017538@kadai.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
中国と日本は一衣帯水の隣国であり、歴史的・文化的なつながりも深い。今日では、人や物の往来がますます盛んになり、両国は経済分野でも相互にきわめて重要な存在になってきており、中国の法制度を学ぶ意義と必要性も高まっている。この授業では、日本法との比較を視野に入れて、中国の法制度の構造、内容及び運用実態について講義する。			
学修目標			
中国の法制度の基礎知識について学び、中国法の全体像を理解するとともに、比較法的考察の素養を身につける。			
授業計画			
授業実施方法：遠隔			
第1回	ガイダンス【オンデマンド配信型】		
第2回	法と国家【オンデマンド配信型】		
第3回	憲法（1）【オンデマンド配信型】		
第4回	憲法（2）【オンデマンド配信型】		
第5回	裁判制度（1）【オンデマンド配信型】		
第6回	裁判制度（2）【オンデマンド配信型】		
第7回	民法典--総則【オンデマンド配信型】		
第8回	民法典--物権編（1）【オンデマンド配信型】		
第9回	民法典--物権編（2）【オンデマンド配信型】		
第10回	民法典--契約編（1）【オンデマンド配信型】		
第11回	民法典--契約編（2）【オンデマンド配信型】		
第12回	民法典--契約編（3）【オンデマンド配信型】		
第13回	民法典--不法行為編（1）【オンデマンド配信型】		
第14回	民法典--不法行為編（2）【オンデマンド配信型】		
第15回	民法典--不法行為編（3）【オンデマンド配信型】		
授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			
授業外学習（予習・復習）			
授業の際に指示する。			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
高見澤磨 = 鈴木賢 = 宇田川幸則・現代中国法入門[第7版]（有斐閣,2016）			
田中信行・入門中国法（弘文堂,2013）			
小口彦太 = 田中信行・現代中国法[第2版]（成文堂,2012）			
西村幸次郎・現代中国法講義〔第3版〕（法律文化社,2008）			
成績の評価基準			

課題レポートに基づき評価する。

オフィスアワ -

水曜3限

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全て

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BCX2330

科目名

法政特殊講義（行政組織法）

英語名

Special Lecture on Law, Policy and Political Science :Law of Administrative Organizations

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

宇那木正寛

連絡先（TEL）

285 - 7626

連絡先（MAIL）

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメールを拒否をしないように注意して下さい。

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

行政の目的を遂行するためには、道具が必要です。この道具を（広義の）行政組織といい、この行政組織を考察の対象とする法領域が行政組織法です。この法領域は、3つの分野に細分化することができます。すなわち、(1)国、地方公共団体といった行政主体の組織のあり方を考察の対象とする（狭義の）行政組織法、(2)人的手段である国家公務員、地方公務員の勤務関係等を考察の対象とする公務員法、(3)物的手段である道路、公園、下水道などの公共施設の設置管理、利用関係等を考察の対象とする公物法です。これらの3つの法領域は、行政の目的を遂行する手段であるという点では同じですが、それぞれ固有の法原理とその法的仕組みをもっています。そこで、この授業では、できる限り具体例を挙げながら、3つの法領域における固有の法原理及び法的仕組みについて理解を深めます。

学修目標

- (1)（狭義の）行政組織法、公務員法、公物法の各分野における基本的事項についての理解を得る。
 (2)「民法総論」、「物権法」、「行政法総論1」、「行政法総論2」の授業で得た知識などと連動させ、（狭義の）行政組織法、公務員法、公物法を理解する。

授業計画

本授業は、毎回、オンライン形式（オンデマンド併用）で行う予定です。ただし、種々の状況により、オンデマンド方式のみ、あるいは、対面で行うなどに変更する場合があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。manabaのコースニュースは常に注意して見るようにしてください。

- 第1回 ガイダンス
 第2回 行政組織法総論
 第3回 行政機関とその権限
 第4回 権限の委任と代理
 第5回 国の組織
 第6回 地方公共団体の組織
 第7回 国と地方公共団体との関係
 第8回 公務員法総論
 第9回 公務員の勤務関係
 第10回 公務員の権利及び義務（1）
 第11回 公務員の権利及び義務（2）
 第12回 公物法の基礎概念
 第13回 公物の基礎理論（1）
 第14回 公物法の基礎理論（2）
 第15回 まとめ
 第16回 期末レポートの提出（期末テストの場合もあり）

授業外学習（予習・復習）

【予習】manabaにより配布された講義を事前に予習する（標準時間は約2時間）

【復習】授業で示された学習内容を振り返り復習を行う（標準時間は約2時間）。

教科書

- ・塩野宏『行政法3〔第5版〕』（有斐閣、2021）
教科書は、現在、第5版へ改訂中です。4月中旬以降に生協に入荷予定です。
- ・授業の際に配布する講義資料（manabaニュースに添付して配布）

参考書

- ・宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選1〔第7版〕』（有斐閣、2017）
- ・宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選2〔第7版〕』（有斐閣、2017）
- ・宇賀克也『行政法概説3〔第5版〕』（有斐閣、2019）
- ・藤田宙靖『行政組織法』（有斐閣、2005）

成績の評価基準

manaba等を通じて出題する3回の課題レポート（期末レポートを除く）30%、期末レポート70%により評価します。ただし、対面による試験実施が可能となった場合には、期末テスト（六法、講義資料、六法全て持ち込み不可）をもって期末レポートに代える場合があります。

オフィスアワ -

毎週水曜日2限目。ただし、公務により不在の場合もあるので、来訪前にメールでの事前調整をしておくほうが確実です。なお、新型コロナウイルスの感染状況により、WEB上の会議システムZOOMを利用して対応する場合があります。

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

課題レポートの提出

アクティブ・ラーニング（授業回数）

3回

備考（受講要件）

1. 受講の際には、必ず、六法を用意してください（有斐閣のポケット六法など小型六法で可）。
2. シラバスの内容は若干変更することがあります
3. 授業は、民法総則、物権法を履修済みであることを前提に進めます。
4. できる限り、行政法総論1も同時に受講するようにしてください。
5. 合格点が得られない場合であっても、再レポートの提出や再テストによる救済措置は行いません。

実務経験のある教員による実践的授業

自治体の職員として25年間にわたり公共政策の立案などの実務に従事してきました。その経験から法理論だけではなく、臨床面も意識した研究を行っています。その研究成果をみなさんに還元できるような授業を心掛けています。

ナンバリングコード

FHS-BCX2329

科目名

刑事政策

英語名

Criminology

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

武内謙治

092 (802) 5362

takeuchi@law.kyushu-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

この集中講義は、対面で行います。もっとも、新型コロナウイルスの感染拡大などの社会的状況により授業形態を変更する可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースで通知します。

授業形態がどのようなものであれ、授業は知識の伝達を一方的に行うだけでなく、対話を通した双方向の授業を目指します。

「ここに家があります。この家は修理、改築または建替えが必要でしょうか。それが必要であるか否かはどのように判断すればよいでしょうか。また、それが必要であるとして、どこをどのように、どのような方法で修理・改築・建替えを行えばよいでしょうか。それは、修理で済みそうでしょうか、改築まで必要でしょうか、それとも建替えまで行わなければならないでしょうか」

この「家」を「刑事司法制度」に置き換えて下さい。この授業で考えることは、ごくごく大ざっぱに言えば、これとほぼ同じことです。

具体的に言えば、この授業は、下記の事項を考えていきます。

- (1) 日本の刑事司法制度の基本構造と運用 (現在の「家」の土台と構造)
- (2) 日本の犯罪現象 (現在の「家」の修理・改築・建替えを促すもの)
- (3) 日本の刑事司法制度の改革課題 (「家」の修理・改築・建替えの必要性とその方法・度合い)

学修目標

(1)以下の事項に関する基本的知識を修得すること

- (a) 「犯罪」の原因と成行きについてどのようなとらえ方があるか
- (b) 「刑罰」による「犯罪」対応としてどのような制度があるか、そこにはどのような課題があるか
- (c) 「刑罰」と隣接する「犯罪」対応としてどのような制度があるか、そこにはどのような課題があるか
- (d) 「犯罪者」の処遇にはどのようなものがあるか、そこにはどのような課題があるか

(2)(1)の基本知識をもとに、現在の日本における刑事制度の意義と課題を具体的に考察できるようになること

授業計画

1日目:犯罪とは何か?

- 01 刑事司法制度の概観・刑事政策とは何か
- 02 犯罪統計の基礎と犯罪情勢
- 03 犯罪の原因
- 04 犯罪の原因とそれへの対応(刑罰論の基礎)・
- 05 今日の復習

2日目:刑罰・処分とは何か?

- 06 生命刑
- 07 自由刑

- 08 財産刑
- 09 保安処分、医療観察制度
- 10 今日の復習

3日目：犯罪者処遇とは何か？

- 11 施設内処遇(1)
- 12 施設内処遇(2)
- 13 社会内処遇(1)
- 14 社会内処遇(2)
- 15 今日の復習

授業外学習（予習・復習）

事前に学修課題を提示します。教科書の関連箇所を読み、それに対する回答を準備しておいてください。

教科書

武内謙治 = 本庄武 『刑事政策学』（日本評論社、2019年）

参考書

法務省法務総合研究所編 『令和2年版・犯罪白書』

* ウェブ版：

<http://hakusyo1.moj.go.jp/jp/67/nfm/mokuji.html>

http://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00027.html

成績の評価基準

授業中の発言および授業への貢献度（30%）と試験またはレポート（70%）によります。上記の「学修目標」に即して成績評価を行います。

オフィスアワ -

集中講義のため特に設けません。授業の前後で捕まえて質問してください。また、メールによる質問も受け付けます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

授業は、可能な限り双方性をもったものにします。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BCX2330

科目名

法政特殊講義（医療福祉論）

英語名

Special Lecture on Law, Policy and Political Science :Social Welfare Studies

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

伊藤周平

099-285-7652

itos@leh.kagoshima-u-ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

今回の新型コロナの感染拡大は、日本の医療・介護といった社会保障・雇用保障のみならず住宅保障、教育保障（高い学費とローン化する奨学金）の脆弱さを可視化した。

医療費抑制など社会保障給付の引き下げが相次いでなされ、新型コロナのような危機的状况に対応しきれない医療・福祉体制の何が問題なのかを明らかにし、医療・福祉制度の拡充の対案を提言していく作業が求められている。本講義は、こうした視点から、医療福祉に関する法律をわかりやすく読み解き、医療福祉の課題を展望することを目的としている。

学修目標

日本の医療福祉の法体系の知識を学ぶだけでなく、政策提言ができるような応用力を修得することを目標とする。

授業計画

- (1) 医療福祉をめぐる現状と医療福祉の法体系 - 新型コロナ対策を中心に
- (2) 医療保障の沿革と医療制度改革
- (3) 医療保険の仕組みと法
- (4) 医療保険の財政方式と高齢者医療
- (5) 医療提供体制
- (6) 保健衛生法と感染症対策
- (7) 介護保険と高齢者福祉
- (8) 児童福祉
- (9) 障害者福祉
- (10) 生活保護（その1）
- (11) 生活保護（その2）
- (12) 生活困窮者自立支援法
- (13) 医療福祉の行財政
- (14) 医療福祉の課題
- (15) まとめ

試験（論文方式・2問、場合によっては課題レポートに）

授業外学習（予習・復習）

テキストの該当箇所を事前に読んで授業に臨むこと

教科書

伊藤周平『社会保障法』自治体研究社、2021年

参考書

- ・岩村正彦編『社会保障判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2016年）
- ・甲斐克則・手嶋豊編『医事法判例百選〔第2版〕』（有斐閣、2014年）

成績の評価基準

出席点と期末試験

オフィスアワ -

木曜3限

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

授業内で質問・応答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

科目名

法政特殊講義（リーガルライティング入門B）

英語名

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

中島宏 / 齋藤善人

099-285-7633（中島）

h-nakaji@leh.kagoshima-i.ac.jp（
中島）

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

将来、法科大学院に進学して法曹となることを目指している学生を対象として、具体的な事案に法規を適用して結論を導く思考のプロセスと、それを文章で的確に表現して伝える訓練を行う。民事訴訟法と刑事訴訟法のうち、2年後期までに履修可能な領域の基本的な知識が身につけていることを前提に、初見の事例の即日起案（授業内に問題が提示され、その場で答案を作成すること）を行った上で、その内容についての解説講義（双方向型：教員と学生の問答で進行する）と個別の文書作成指導を行う。

学修目標

- 1) 具体的事例に対する法的判断を文章で的確に表現できるようになる。
- 2) 具体的事例に対する法的判断の思考プロセスを正しく実践できるようになる。
- 3) 民事訴訟法および刑事訴訟法の基本的な知識を活用できるようになる。

授業計画

全回ともZoomミーティングを活用したリアルタイムの遠隔方式で実施する。ただし、社会状況や大学の方針に応じて変更することがある。その場合は遅滞なくmanabaで告知する。

なお、各回の詳細な内容（扱う事項）は、即日起案において初見の事例から「何が論点であるか」を検討・抽出する訓練を行う本講義の目的に照らし、ここには記載しない。

第1回（2月15日1限）オリエンテーション

第2回（2月15日2限）刑事訴訟法[1]即日起案

第3回（2月15日4限）刑事訴訟法[1]解説講義

第4回（2月16日2限）民事訴訟法[1]即日起案

第5回（2月17日2限）民事訴訟法[2]即日起案

第6回（2月17日4限）民事訴訟法[1]解説講義

第7回（2月18日2限）刑事訴訟法[2]即日起案

第8回（2月18日4限）民事訴訟法[2]解説講義

第9回（2月21日2限）刑事訴訟法[3]即日起案

第10回（2月21日4限）刑事訴訟法[2]解説講義

第11回（2月22日2限）刑事訴訟法[4]即日起案

第12回（2月22日4限）刑訴訴訟法[3]解説講義

第13回（2月24日2限）民事訴訟法[3]即日起案

第14回（2月24日4限）民事訴訟法[3]解説講義

第15回（2月24日5限）刑事訴訟法[4]解説講義・全体のふりかえり

授業外学習（予習・復習）

予習：即日起案を行う分野の法的知識の確認（90分）

復習：答案指導で指摘された事項の確認と修正（30分）

教科書

特に指定しない。民事訴訟法および刑事訴訟法のいわゆる「基本書」を各自が手もとに用意すること。

参考書

講義内で適宜指示する。

成績の評価基準

各回（合計7回）の即日起案の提出状況およびその内容（100%）

即日起案の答案が提出されなかった場合は、特段の事情がない限り欠席となり、当該回の点数は与えられない。

オフィスアワ -

月曜 4 限（中島）

木曜 4 限（齋藤）

アクティブ・ラーニング

ディベート；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

毎回の文書作成と添削指導

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

1）「民事訴訟法Ⅰ」「刑事訴訟法Ⅰ」を履修したことがある者（単位修得までは必須としないが、学期途中で履修を放棄した者は含まない）であること。

2）将来法科大学院へ進学し、法曹となることを目指す者であること。

主体的に学び問う意欲を持つものを「学生」と認める。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BCX2327			
科目名			
行政学			
英語名			
Public Administration			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
森尾成之		manabaで受け付けます	manabaで受け付けます
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
行政学につき概説する。			
学修目標			
行政学の基礎を理解する。			
授業計画			
1 はじめに 行政学の対象 2 行政サービスの範囲と官僚制の展開 3 行政学説史と経営学との交錯 4 執政制度と内閣制度 5 中央省庁と政官関係 6 官僚制の特質と官僚制の生理(1)、日本の行政システム 7 官僚制の生理(2)と病理 8 官民関係の再編とNPM・新しい公共 9 国家公務員の採用・昇任・退職と天下り 10 中央省庁の予算編成と決算 11 中央地方関係と地方公務員 12 地方財政の制度と課題 13 大都市行政と広域行政 14 行政責任と行政統制 15 おわりに 社会科学としての行政学			
授業外学習(予習・復習)			
講義前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。講義終了後に適宜復習すること。			
教科書			
真淵勝『行政学案内[第2版]』(慈学社、2014年)			
参考書			
真淵勝『行政学〔新版〕』(有斐閣、2020年) 堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識(第3版)』(一藝社、2014年) 曾我謙悟『行政学』(有斐閣ARMA、2013年) 城山英明『国際行政論』(有斐閣、2013年) 佐々木信夫『日本行政学』(学陽書房、2013年) 西尾隆『現代行政学』(放送大学教育振興会、2012年) 村上弘=佐藤満編著『よくわかる行政学』(ミネルヴァ書房、2009年) 今村都南雄=武藤博己=沼田良=佐藤克廣『ホーンブック行政学(改訂版)』(北樹出版、2009年) 藤井浩司=縣公一郎編『コレーク行政学』(成文堂、2007年) 森田朗『現代の行政』(放送大学教育振興会、2002年) 西尾勝『行政学[新版]』(有斐閣、2001年) 村松岐夫『行政学教科書 現代行政の政治分析(第二版)』(有斐閣、2001年) 西尾勝『行政の活動』(有斐閣、2000年) 足立忠夫『行政学[新訂]』(日本評論社、1991年) 村松岐夫編『新版 行政学講義』(青林書院、1985年)			
成績の評価基準			
出席を前提として適宜課す小課題で評価する。			
オフィスアワ -			

授業終了後にアポイントを受付、必要に応じて別途時間を設ける。
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
なし
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中3回
備考（受講要件）
特になし。 シラバスの内容は若干変更することもある。 オンラインで授業を行う。
実務経験のある教員による実践的授業
実務経験のある教員による授業ではありません。

実践演習（模擬交渉）（旧 法律学特殊講義（模擬交渉））
ナンバリングコード

FHS-BCX2332

科目名

実践演習（模擬交渉）（旧 法律学特殊講義（模擬交渉））

英語名

Practice Seminar: : Legal Negotiation

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

実習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

米田憲市

099-285-7569

kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

法的紛争の解決手段として真っ先に思い浮かぶのは裁判ですが、示談、和解、調停など、話し合いによって解決される紛争も多く、今後このような解決手段の重要性はますます増していきます。そのような中で必要とされる交渉術の基礎を学びます。本演習で学ぶ交渉の理論や技術は、法曹のみならず社会に出た後、すべての職業に就く社会人が仕事をする上で、また、生活をしていく上で役立ちます。

学修目標

1. 社会において交渉がどのような場面で出てくるか知る。
2. 交渉の理論や構造を学び、概要を説明できるようになる。
3. 法的交渉を含む様々な交渉技術を、模擬交渉の中で実践することを通じて、交渉技能を高める。
4. 交渉の成果を文書にまとめるスキルを身につける。

授業計画

【特殊な開港日程であるので、履修登録時に十分注意すること】

【リモートでの実施を想定している。】

日程 曜日 時限 時間 内容

12月7日	火	10:30-	ガイダンス
12月11日	土	? 10:30-	専門職の理念と法律相談
12月11日	土	? 12:50-	心理測定尺度と法律相談
12月11日	土	? 14:30-	依頼者目線の弁護活動
12月14日	火	10:30-	法律相談の留意事項
12月18日	土	? 10:30-	模擬相談（1）
12月18日	土	? 12:50-	模擬相談（1）振り返り
12月21日	火	10:30-	事例検討
12月25日	土	? 10:30-	模擬相談（2）
12月25日	土	? 12:50-	模擬相談（2）振り返り
12月25日	土	? 14:30-	模擬交渉（1）
12月26日	日	? 10:30-	模擬交渉（1）振り返り
12月26日	日	? 12:50-	模擬交渉（2）
12月26日	日	? 14:30-	模擬交渉（2）振り返り
1月4日	火	10:30-	総括

課題提出型、オンデマンド型、リアルタイム型を併用します。

授業外学習（予習・復習）

予習課題を提示

教科書

特に指定しない予定

（適切なレベルのものが出版された場合、採用することがある。）

参考書

随時紹介する。

ロジャー フィッシャー（著）、ウィリアム ユーリー（著）、『ハーバード流交渉術』三笠書房知的生き方文庫（1989）

小林秀之編『交渉の作法 法交渉学入門』弘文堂（2012）

小島武司編『法交渉学入門』商事法務（1991）

太田勝造・野村美明編『交渉ケースブック』商事法務（2005）

大田勝造ほか編『ロースクール交渉学』白桃書房（2005）

成績の評価基準

講義への参加・貢献度、出席時の発言、実習や文章作成、課題回答の内容などを総合して判定（100%）

オフィスアワ -

随時。要事前アポ（メール）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

模擬交渉の場면을ビデオ撮影して、振り返りに用いる。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

原則リモートを想定して開講する。

開講日程は、上記の通り。

交渉の実習を内容とするため、最低2名の受講生をもって開講とする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BCX3311

科目名

租税法（旧 税の法システム）

英語名

Tax Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

鳥飼貴司

099-285-7623

torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし。

前期

授業概要

全授業回遠隔形式で行う予定である。

税務争訟（再調査の請求・審査請求・訴訟）分野について、その制度や手続、訴訟となった場合の留意点や「闘いかた」を解説し、「納税者の権利」を重視した税法の適用・解釈について講義する。

「基本原理編」では、勝訴のコツとして、税務争訟に必要な民事訴訟法の四つの基本原理を説明する。

とくに、税法解釈（一般の法学における趣旨解釈と文理解釈、税法における文理解釈優先の原則、借用概念の解釈と固有概念の解釈との違い等）、及び事実認定（要件事実の主張、間接事実の主張、立証責任の分配、証明の程度 本証と反証等）のポイントを解説する。

「事例編」では、「基本原理編」で述べたポイント、勝訴のコツを、民法総則～家族法までの具体的事例にあてはめて体得してもらう。

学修目標

1. 各税法の基本的な仕組みを理解する。
2. 税法の諸問題について理解を深める。

授業計画

全授業回「オンデマンド配信授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。

第1回 ガイダンス/税法の全体構造

第2回 租税とは。

第3回 税法の法体系

第4回 所得税法

第5回 法人税法

第6回 相続税法

第7回 消費税法

第8回 地方税法

第9回 税務行政法

第10回 勝訴のコツ 基本原理編

1 税法・税務争訟に必要な「民事訴訟法の基本原理」

2 民事訴訟法の基本原理の第1（法の世界は「要件 効果システム」）

3 民事訴訟法の基本原理の第2（訴訟の三段構造）

4 民事訴訟法の基本原理の第3（「法律上の主張」の三つのポイント）

5 民事訴訟法の基本原理の第4（「事実上の主張」と「立証」の四つのポイント）

第11回 事例で学ぶ税法解釈と事実認定

事例1 - 売買契約の存否：その1（売買と譲渡担保）

事例2 - 売買契約の存否：その2（売買と虚偽表示等）

事例3 - 契約の錯誤

事例4 - 契約の解除

第12回 事例で学ぶ税法解釈と事実認定

<p>事例5 - 取得時効 事例6 - 消滅時効 事例7 - 無資力者の資産の譲渡と非課税 事例8 - 保証人の資産の譲渡と非課税</p> <p>第13回 事例で学ぶ税法解釈と事実認定 事例9 - 相続に関する民事上の判断と税務上の判断の基準 事例10 - 課税相続財産と要件事実 事例11 - 課税控除債務と要件事実</p> <p>現場の税法解釈と事実認定 実例1 - 妻名義の預金が夫の相続財産として課税された事件</p> <p>第14回 現場の税法解釈と事実認定 実例2 - 譲渡契約で納めた税金を解除によって取り戻せるか争った事件 実例3 - 企業買収に法人税・所得税・贈与税が課税された事件 実例4 - 法人の滞納法人税について清算人に第二次納税義務の課税がされた事件 実例5 - 税額控除規定と更正の請求の可否が争われた事件</p> <p>第15回 現場の税法解釈と事実認定 実例6 - 船舶の権利の買受けが課税仕入れに当たらないとされた事件 実例7 - 先物取引被害の回復金に課税できるかが争われた事件 実例8 - ライブドア株取引被害の回復金に課税できるかが争われた事件 実例9 - 弁護士必要経費事件 / まとめ（税法学の特質と課題）</p> <p>期末試験は行わない（指定期日までにレポートを提出）</p>
授業外学習（予習・復習）
授業計画の当該部分の民法の範囲を事前に予習すること（2時間）。講義内容について他者に伝えられるように復習すること（2時間）。
教科書
manabaにアップする。
参考書
金子宏・清永敬次・宮谷俊胤・畠山武道『税法入門 第7版(有斐閣新書)』有斐閣 中里実・増井良啓(編集)『租税法判例六法 第4版』有斐閣
成績の評価基準
3分の2以上の出席（レポート提出要件）と期末レポート（100%） 期末レポートはA4で1枚。2枚以上は減点（場合によっては不可）。表紙は必要なし。
オフィスアワー
月曜日～金曜日、12:00～12:50（会議などで不在にしている場合もあります）
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
該当なし。
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回
備考（受講要件）
特になし。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BCX3313			
科目名			
司法政策論			
英語名			
Policy Science on Judicial System			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島宏・米田憲市		099-585-7633(中島)	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp(中島)
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
この授業では、わが国の司法制度がいかにあるべきかについて、法政策的な広い視野から深く議論し検討することを目的とする。司法制度の設計や運用に関する政策的な基礎を踏まえた上で、いわゆる「平成の司法制度改革」から今日に至るまでの様々な動きについて、その内容と到達点を検証し、今後の司法制度や法律家のあるべき姿について考察する。			
学修目標			
1) 司法制度改革の理念や具体的方策について説明できるようになる。 2) 司法制度改革が目指した内容の実現過程および現実の達成状況を分析できるようになる。 3) 司法制度が直面している現在の課題を認識し、それに対する自分の意見を述べられるようになる。			
授業計画			
本授業は、基本的に全15回をZoomミーティングでのオンライン授業によって実施する。ただし、種々の状況によっては、オンデマンド動画による授業を組み込むことがある。各回の授業形態については、manabaのコースニュースで適宜通知する。			
具体的な講義内容は以下を予定している。			
1.オリエンテーション(司法政策とは何か) 2.司法制度改革 3.法曹養成 4.司法過疎 5.日本司法支援センター 6.国民の司法参加(1)(裁判員制度はなぜ導入されたのか?) 7.国民の司法参加(2)(司法参加の現状と課題) 8.刑事司法制度改革(日本型「精密司法」の功罪) 9.企業法務(1) 10.企業法務(2) 11.行政機関における弁護士の役割 12.対人援助職としての弁護士 13.司法制度改革と法教育(1) 14.司法制度改革と法教育(2) 15.まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
予習：事前に指定する資料を熟読し、あらかじめ支持した簡単な課題を行った上で講義に出席すること(60分)。 課題：講義内容を踏まえて毎回示される課題についてレポートを作成する。(60分)。			
教科書			
司法制度改革審議会意見書 http://www.kantei.go.jp/jp/sihouseido/report/ikensyo/index.html			

その他は、講義等を通じて紹介する。

参考書

手軽な参考図書としては、市川正人ほか『現代の裁判（第7版）』（有斐閣,2017）、木佐茂男・宮澤節生ほか『テキストブック現代司法（第6版）（日本評論社、2015）』、宮澤節生ほか『ブリッジブック法システム入門』（信山社,2008）、村山真維、濱野亮『法社会学』（有斐閣,2003）があげられる。

成績の評価基準

複数回提出するレポートによる(100%)

オフィスアワ -

月曜 4 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

特になし。将来、法曹（裁判官、検察官、弁護士）や隣接士業（司法書士、行政書士、税理士、社会保険労務士など）はもちろん、司法関係機関の職員（裁判所職員、検察事務官、警察官など）を目指す学生には履修をお勧めする。

実務経験のある教員による実践的授業

実務経験を有するゲストスピーカーを招く予定である（15回中3回程度）

ナンバリングコード			
FHS-BCX3303			
科目名			
地方自治法（旧 自治体行政法）			
英語名			
Local Government Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
宇那木正寛		2 8 5 - 7 6 2 8	unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
地方自治法を中心とした地方自治に関する法について解説します。			
学修目標			
地方自治に関する法制度及び法理論の基礎について理解することを目標とします。			
授業計画			
<p>本授業は、毎回オンライン形式（オンデマンド併用）で行います。ただし、新型コロナウイルス感染状況によっては、対面授業など授業形態を変更する場合があります。授業形態を変更する場合には、予めmanabaシステムのコースニュースや授業内において通知します。manabaのコースニュースは常に注意して閲覧するようにして下さい。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 地方自治の基礎理論と地方公共団体の構成要素 第3回 普通地方公共団体 第4回 特別地方公共団体 第5回 地方公共団体の事務(1) - 地方公共団体の事務の種類 第6回 地方公共団体の事務(2) - 地方分権改革 第7回 地方公共団体の権能(1) - 自主組織権、自主行政権 第8回 地方公共団体の権能(2) - 自主立法権の種類 第9回 地方公共団体の権能(3) - 自主立法権の限界(1) 第10回 地方公共団体の権能(4) - 自主立法権の限界(2) 第11回 地方公共団体の機関 第12回 住民の権利義務 第13回 住民監査請求と住民訴訟 第14回 普通地方公共団体に対する国・都道府県の関与 第15回 まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>【予習】 manabanにより配布する講義資料を事前に予習する（標準時間は2時間）</p> <p>【復習】 授業で示された学習内容を振り返り、学習の復習を行う（標準時間は2時間）</p>			
教科書			
宇賀克也『地方自治法概説〔第9版〕』（有斐閣、2021）			

参考書

宇那木正寛『自治体政策立案入門』（ぎょうせい、2015）

磯部力＝小幡純子＝斎藤誠編『地方自治判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2013）

成績の評価基準

manaba等を通じて出題する3回の課題レポート（期末レポートを除く）10%×3＝30%、期末レポート70%により評価します。

オフィスアワー

水曜日2限目。ただし、不在の場合もあるので、メールであらかじめ面談日程を調整しておくことと確実です。なお、新型コロナウイルス感染状況により対面ではなくWEBを使った会議システム（ZOOM）により対応する場合があります。

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

課題レポートの提出

アクティブ・ラーニング（授業回数）

3回

備考（受講要件）

- 1．行政法総論1、2、行政争訟法を受講済みであることを前提として授業を進めます。
- 2．六法の持参は当然ですが、授業で取り上げる法律や条例の条文を各自、事前に用意してください。
- 3．授業で取り上げる裁判例は、各自、事前に用意してください。
- 4．シラバスの内容は若干変更することがあります。
- 5．受講希望者は、第1回目のガイダンスに必ず出席してください。
- 6．課題レポートの提出（3回）を求めます。
- 7．合格点が得られない場合であっても、再テストや再レポートの提出による救済措置は一切行いません。

実務経験のある教員による実践的授業

自治体の職員として、25年間にわたり公共政策の立案などの実務に従事してきました。その経験から法理論だけでなく、臨床面も意識した研究を行っており、その研究成果をみなさんに還元できるような授業を心掛けています。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中至		099-285-7785	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
社会教育・生涯学習研究の歴史的動向を中心に検討し、卒業研究に向けた基礎的な学習の推進および研究姿勢の体得を進めます。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・研究・問題関心の確立 ・社会教育・生涯学習研究の歴史的動向に関する知識の修得 			
授業計画			
対面形式を原則とするが、遠隔授業とする場合があるため、マナバを確認すること。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 自己の問題関心と向き合う 3. 各人の問題関心を知り合う 4. 各人の問題関心に注意を向け合う 5. 自己の問題関心をより深める 6. 自己の問題関心に関する研究成果を探求する 7. 自己の問題関心と他者の問題関心の共通点を探る 8. 社会教育・生涯学習研究の動向と自己の問題関心の関係を探る 9. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認-子ども編 10. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 青年編 11. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 成人編 12. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 高齢者編 13. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 女性問題・ジェンダー編- 14. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 マイノリティ編 15. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 人権問題編 			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：事前配布資料およびmanabaに掲載された学習資料を事前に予習する (2時間)			
復習：授業の学習内容を振り返り、レポートを作成する (2時間)			
教科書			
適宜指示する。			
参考書			
雑誌『現代思想』(青土社)各年版 岩波書店)各年版		雑誌『思想』(
成績の評価基準			
授業中レポート60%・議論・討論への貢献度30%・小レポート10%			
オフィスアワ -			
適宜対応する			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

グループによる討論、報告資料の作成とそれに基づくプレゼンテーション、学習理解の確認のための発話・小レポートの作成

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中10回以上

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片野田拓洋		099-285-8872	t-katanoda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
自治体政策の事例研究、グループ学習、討論等を通じて課題解決能力及びコミュニケーション能力を高めるとともに、自治体政策について理解を深める。			
学修目標			
1 論理的に考え、相手の主張を的確に理解し、自分の意見を分かりやすく伝えることにより、質の高い対話を行うことができる。			
2 自治体政策について現状や課題等を理解し、解決策を提示できる。			
3 お互いに協力しながら、積極的に組織の運営ができる。			
授業計画			
本授業は、ZOOMを利用としたリアルタイムのオンライン型授業の予定。			
第1回 ガイダンス			
第2回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第3回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第4回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第5回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第6回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第7回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第8回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第9回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第10回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第11回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第12回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第13回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第14回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第15回 まとめ			
状況をみながらフィールドワーク等を適宜実施する。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：事前に提示するテーマ等に基づき、調査や事例研究を行う (学習に関わる標準的時間は約2時間)			
復習：学習内容を振り返り、復習を行う (標準的時間は約2時間)			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
伊藤修一郎『政策リサーチ入門』東京大学出版会、2011年			
成績の評価基準			
出席・受講態度 (60%)、調査・研究発表内容 (30%)、ゼミ活動への貢献度 (10%)			

オフィスアワ -

月曜日 - 金曜日 1~4限目
事前にメール等で問い合わせること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

なし

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島県庁出身の教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BDX3101			
科目名			
外国書研究			
英語名			
Studies on Foreign Works			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
桑原司		099-285-7525 (法文学部学生係)	hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>社会学の学術文献を読了する。 1970年代後半の社会科学の諸前提を理解する。 社会学の観点について解説する。 適切な訳語の当て方について指導する。</p>			
学修目標			
<p>学術論文を独力で読む力を身につける。 社会学の視点を習得する。 適切な訳し方を身につける。</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス【遠隔形式 (Zoom)】			
第2回 テキスト及びその著者について【遠隔形式 (Zoom)】			
第3回 パースペクティブとは何か【遠隔形式 (Zoom)】			
第4回 「観点」：十人十色【遠隔形式 (Zoom)】			
第5回 パースペクティブの変化と現実の変化との関係【遠隔形式 (Zoom)】			
第6回 パースペクティブを比較する基準について【遠隔形式 (Zoom)】			
第7回 パースペクティブの種類【遠隔形式 (Zoom)】			
第8回 中間考察【遠隔形式 (Zoom)】			
第9回 パースペクティブの一つとしての社会科学【遠隔形式 (Zoom)】			
第10回 社会科学と自由の問題【遠隔形式 (Zoom)】			
第11回 パースペクティブの一つとしての社会学【遠隔形式 (Zoom)】			
第12回 パースペクティブの一つとしての心理学【遠隔形式 (Zoom)】			
第13回 パースペクティブの一つとしての社会心理学【遠隔形式 (Zoom)】			
第14回 社会学と社会心理学【遠隔形式 (Zoom)】			
第15回 シンボリック相互作用論とは【遠隔形式 (Zoom)】			
第16回 期末試験【対面式】			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：manaba に掲載された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約 2 時間)			
復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は 2 時間)			
教科書			
J. M. Charon, 1979, Symbolic Interactionism 1st edition, Prentice Hall (第1章、第2章)。			
参考書			
Tsukasa Kuwabara and Ken'ichi Yamaguchi, 2013, An Introduction to the Sociological Perspective of			

Symbolic Interactionism, The Joint Journal of the National Universities in Kyushu, Education and Humanities, 1(1): 1-11.

桑原司(2000)『社会過程の社会学』関西学院大学出版会BookPark。

成績の評価基準

授業への取り組み態度(50%)

期末試験(50%)

ただし、出席日数が全講義日数の2/3に満たない場合には、単位取得資格を失うものとする。

講義中の無断退出(中途退出)を禁止する。無断退出は欠席扱いとする。

オフィスアワ -

水曜5限目

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

14回

備考(受講要件)

1)「報告」は毎回「ランダムに」当ててゆく。予めその週の報告者を決めるという方法は採らない。従って「毎回」「全員が」訳の報告を出来るように予習してくること。

2)「四年生・卒業生等」への特別措置(救済措置)はない。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BDX3502

科目名

比較地域社会論

英語名

Comparative Study of Regional Societies

開講学科

法経社会学科地域社会コース

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

中島大輔

連絡先 (TEL)

099-285-8895

連絡先 (MAIL)

nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

本授業はすべて遠隔方式（Zoomによる同時双方向通信型）で行う。

近年、まちづくりや公共交通政策などの観点から、ヨーロッパ、とりわけ地方分権の進んだドイツの中小都市が日本の自治体のモデルとして注目を集めている。しかしドイツをはじめとするヨーロッパの都市と日本の都市を比較考察する場合、都市の成立・発展という歴史のプロセスだけでなく、都市を取り巻く政治制度や社会的環境においても両者の間には大きな相違がある。その一つが欧州連合（EU）という枠組みである。

この授業ではまず第二次大戦後の欧州統合の経緯を辿りながら、国境を越えた統合（拡大・深化）がどのように進展してきたかを紹介し、欧州連合（EU）の機構組織や意思決定の仕組み、EUの抱える課題を概説する。

その上で公共交通、旧市街の保全、環境対策などで先進的な取り組みを行っているヨーロッパの都市の現状を紹介し、私たちの自治体との比較考察を試みたい。

なお毎回、授業の最後で授業内容に関するレポート提出を求める。

学修目標

- ・ 欧州連合（EU）の機構組織と国境を越えた統合の状況を説明することができる
- ・ ヨーロッパの都市の公共交通と旧市街の保全や環境対策などの状況を説明することができる
- ・ 日本とヨーロッパのまちづくりや公共交通政策を比較考察することができる

授業計画

本授業はすべて遠隔方式（Zoomによる同時双方向通信型）で行う。

第1回：オリエンテーション、参考文献紹介

第2回：欧州連合（EU）とは何か？：欧州統合の思想、第二次大戦後の統合の歩み

第3回：欧州統合の歩み（1）：ベルリンの壁崩壊と欧州連合の成立

第4回：欧州統合の歩み（2）：EUの東方拡大とシェンゲン圏拡大

第5回：欧州連合の現在：国境を越える生活圏（動画「激動のEU」より）

第6回：欧州統合の中の都市（1）：ストラスブール（フランス）の旧市街保全

第7回：欧州統合の中の都市（2）：ストラスブールの交通まちづくり

第8回：欧州統合の中の都市（3）：フライブルク（ドイツ）の旧市街保全

第9回：欧州統合の中の都市（4）：フライブルクの交通まちづくり

第10回：欧州統合の中の都市（5）：フライブルクの商店街保護政策

第11回：欧州統合の中の都市（6）：フライブルクのソーシャルエコロジー地区ヴォーバン

第12回：欧州統合の中の都市（7）：ドイツの都市の樹木保護条例（マンハイムの例など）

第13回：欧州統合の中の都市（8）：公共交通の無料化と自転車の活用：ダンケルク（フランス）、ハウテン（オランダ）

第14回：日本の都市の公共交通とまちづくり

第15回：まとめ

授業外学習（予習・復習）

予習：manabaに掲載した資料について予習を行う（学習に関わる標準的時間は1授業当たり約2時間）。

復習：授業で学んだ学習内容を復習し、レポートを作成する（標準的時間は1授業当たり約3時間）。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

藤井良弘『EUの知識』（第16版）日経文庫
 遠藤乾『欧州複合危機』中公新書
 辰巳浅嗣（編）『EU 欧州統合の現在』（創元社）
 ヴァンソン藤井由美『ストラスブールのまちづくり』（学芸出版社）
 村上敦『フライブルクのまちづくり』（学芸出版社）
 村上敦『ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか』（学芸出版社）
 そのほか授業中に紹介する。

成績の評価基準

毎回の授業のレポートを70%、期末レポートを30%とし、その合計で評価する。

オフィスアワー

火曜 4 限（これ以外の時間も対応しますので、メールで連絡してください）。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2413			
科目名			
社会教育演習II			
英語名			
Seminar on Social Education II			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	演習	1単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
金子満	099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>近年、少子高齢化、高度情報化、高度消費社会化を背景に、子どもの遊びを取り巻く環境は、空間・時間・仲間といった「三間」の減少とともに質的にも量的にも大きく変化しているといえる。こうした遊びの環境の変化にうまく適合する形で年々増加しつつあるのが消費型のマルチメディアゲームによる遊びの形態であり、その結果、これまで自然な形で成立していた遊びの場そのものの解体が進みつつある。本実践演習では、子どもの遊びの空間、特に集団遊びの場の現代的な再構築を目指すための理論や方法について学習する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1、子どもの遊びを取り巻く環境を理解する 2、子どもの遊びの実態について調査活動をおこなう 3、具体的な遊びを考察する。 			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 子どもの遊びの実態を把握（内閣府のデータより）			
第3回 子どもの自己形成空間の衰弱化について文献から理解する？			
第4回 子どもの自己形成空間の衰弱化について文献から理解する？			
第5回 子どもの自己形成空間の衰弱化について文献から理解する？			
第6回 子どもの自己形成空間の衰弱化について文献から理解する？			
第7回 子どもの自己形成空間の衰弱化について文献から理解する？			
第8回 子どもの自己形成空間の衰弱化について文献から理解する？			
第9回 子どもの自己形成空間の衰弱化について文献から理解する？			
第10回 具体的な子どもの遊びの準備をする？			
第11回 具体的な子どもの遊びの準備をする？			
第12回 子どもの遊びを考察し発表する？			
第13回 子どもの遊びを考察し発表する？			
第14回 子どもの遊びを考察し発表する？			
第15回 総括討論（ふりかえり）			
授業外学習（予習・復習）			
【予習2H・復習2H】講義内で適宜指示する			
教科書			
高橋勝『子どもの自己形成空間』川島書店、1992年（絶版のため講義内で配布）			
参考書			
講義内で適宜指示			
成績の評価基準			
出席 20点			
授業態度 50点			
最終レポート 30点			
オフィスアワ -			

火曜日4限
アクティブ・ラーニング
グループワーク; フィールドワーク;
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
話し合い、実践活動
アクティブ・ラーニング(授業回数)
13回
備考(受講要件)
基本対面で行います。ただし新型コロナの影響による遠隔講義の可能性もあります。その際は、Zoomを使って行います。今後の状況も踏まえつつ柔軟に対応していきたいと思ひます。
実務経験のある教員による実践的授業
なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2102			
科目名			
実用英語			
英語名			
Practical English			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
井原慶一郎	099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
実用英語の内容は、TOEIC対策（中級レベル）である。本講義は、ある程度のレベルの英語力を有する学生を対象に、TOEIC対策をおこなうことを目的としている。			
学修目標			
1. TOEICテストにおいて600点以上のスコアを取得できる。 2. 日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる英語力を身につける。			
授業計画			
本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。			
第1回 インTRODクシヨン			
第2回 新形式（サンプル問題）			
リスニングセクシヨン			
第3回 写真描写問題			
第4回 応答問題			
第5回 会話問題			
第6回 説明文問題			
リーディングセクシヨン			
第7回 短文穴埋め問題			
第8回 長文穴埋め問題			
第9回 読解問題（1つの文書）			
第10回 読解問題（複数の文書）			
模擬試験			
第11回 リスニングセクシヨン（問題）			
第12回 リスニングセクシヨン（解答）			
第13回 リーディングセクシヨン（問題）			
第14回 リーディングセクシヨン（解答）			
第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
[予習]ウェブサイトなどを利用して、英語のリスニング、リーディングを一定時間定期的に行う。（標準的時間は2時間）			
例) http://learningenglish.voanews.com/			
[復習]授業で行った演習問題を再確認し、わからない単語はすべて調べて覚える。（標準的時間は2時間）			
教科書			

manabaを通じて教材を配布する。

参考書

『TOEIC(R)テスト 非公式問題集 至高の400問』（アルク）、2016年。

『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 2』（国際ビジネスコミュニケーション協会）、2017年。

成績の評価基準

manabaでの授業参加と課題の達成度による。毎授業ごとのリアクションペーパーまたは小テスト（100％）。

オフィスアワ -

木曜日・5時限・研究室（共通教育棟2号館2階）

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

13

備考（受講要件）

過去にTOEICを受験し、500点以上のスコアを取得していることが望ましい。

40名に制限する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2405			
科目名			
生涯教育概論			
英語名			
Introduction to Lifelong Education			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満・農中至		099-285-7603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
金子満		前期	
授業概要			
<p>戦後日本社会における生涯教育政策の動向とユネスコなどの世界的に影響力の強い国際機関の果たしてきた役割について理解することを目的とします。その際、産業・社会構造の転換にともなう教育体制の再編成・再統合の観点から、教育そのものの在り方 / 教育理解のされ方の変化がどのように推移してきたのかを理解し、国際的な影響関係 = 政策推進の社会的文脈を理解することも目指します。講義を中心としつつ、グループワーク、討論、文献講読などをおこないながら授業を進めます。</p>			
学修目標			
<p>・「生涯教育」といえば民間産業のイメージが強いですが、このイメージを打破し、?政策的影響、?国際的な影響、?教育の捉えなおしの影響などの諸点から現代的「生涯教育」概念を適切に理解できるようになることを目標とします。</p>			
授業計画			
<p>遠隔授業を基本とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 生涯にわたる教育がなぜ要請されたのか? 3. 生涯教育の現代的段階 4. 生涯教育の推進の国際的な動向 5. 産業構造の転換と生涯教育 6. 新たな社会モデルの誕生と生涯教育への要請 7. 既存の学校システムと生涯教育の関係 8. 諸外国における生涯教育の実践 9. 日本における生涯教育政策の展開 10. 国際的生涯教育政策と日本への影響 11. 生涯教育理念の浸透と日本の教育への影響 12. 日本の生涯教育と社会教育の関係 13. 日本の生涯教育と学校教育の関係 14. 来るべき未来に向けた生涯教育の姿 15. 2020年代の生涯教育の在り方 			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：事前配布資料およびmanabaに掲載された学習資料を事前に予習する (2時間)			
復習：授業の学習内容を振り返り、レポートを作成する (2時間)			
教科書			
適宜指示する。			
参考書			
宮原誠一『生涯学習』東洋経済新報社、1974			
成績の評価基準			
・授業毎のレポートと予習課題(45%)			

- ・授業への貢献度 (25%)
- ・最終レポート(30%)

オフィスアワ -

火曜日の昼休み中 (12時10分から12時50分)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

グループによる討論、学習理解の確認のための発話・小レポートの作成

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中8回以上を予定。

備考 (受講要件)

- ・社会教育主事資格取得を目指すもの
- ・社会教育・生涯学習に関する職業に関心があるもの
- ・住民の学習の組織化に取り組むことを希望するもの

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2401			
科目名			
社会的コミュニケーション論			
英語名			
Social Communication Theory			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
桑原司		099-285-7525 (法文学部学生係)	hgakusei@kuas.kagoshima-u.ac.jp (法文学部学生係)
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>社会学とは、「個人と社会」という視点から「自明性の剥奪」という研究姿勢をつうじて、日常世界を構成するさまざまな現象にアプローチしようとする学問である。</p> <p>本講義では、「コミュニケーション」就中「社会的コミュニケーション」という現象をテーマに取り上げ、まずその自明性と問題点を指摘し、次いでその問題点を克服しうるコミュニケーション観及び人間観を社会学等の観点から考察し、最後にそのコミュニケーション観に立脚したコミュニケーション理論を「シンボリック相互作用論」(Symbolic Interactionism)の視座と方法を用いて構築する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 常識的なコミュニケーション観の特徴と問題点について理解する。 2. 社会的なコミュニケーション観及び人間観の特徴について理解する。 3. 社会的なコミュニケーション理論について理解する。 			
授業計画			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス【遠隔。課題なし。manabaにアクセスのこと】 2) コミュニケーションの自明性【課題提示型】 3) 二つの人間観【課題提示型】 4) 情報とは何か【課題提示型】 5) 認識としてのコミュニケーション【課題提示型】 6) 交流としてのコミュニケーション【課題提示型】 7) 社会学のシカゴ学派【課題提示型】 8) シンボリック相互作用論の三つの前提【課題提示型】 9) シンボリック相互作用論の4つのテーゼ【課題提示型】 10) 相互作用と合意(前編) 相互作用と合意(後編)【課題提示型】 12) 自己呈示論【課題提示型】 13) 釈明【課題提示型】 14) セルフハンディキャッピング【課題提示型】 11) ラベリング理論【課題提示型】 15) 総括【課題提示型】 			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習: manaba に掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約 2 時間)</p> <p>復習: 授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は 2 時間)</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
後藤将之(1999)『コミュニケーション論』中公新書。			

桑原司（2000）『社会過程の社会学』関西学院大学出版会。
 船津衛・安藤清志編（2002）『自我・自己の社会心理学』北樹出版。
 伊藤勇・徳川直人編（2002）『相互行為の社会心理学』北樹出版。

成績の評価基準

レポート [14回] (100%)

オフィスアワ -

水曜5限目（新型コロナウイルス感染症のため、今年度はZoomにて行います。希望者は前日までに「kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp」まで連絡のこと。参加者が0名の場合には開催しない。）

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

教員からの発問を受けての思考・回答

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2414			
科目名			
社会教育経営論I			
英語名			
Management of Social Education I			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小栗有子・農中至		099-286-7299	yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
農中至		前期	
授業概要			
<p>めまぐるしい技術革新の一方で、人口減少という事態が着実に進行している。こうした社会的条件の変化は日本の社会教育に対して多大な影響を及ぼすことになる。本講義では、地域社会における持続可能な社会教育の体制を築く上で、どのような視点が今日求められるのかについて、社会教育のガバナンス、マネジメント、持続的・計画的な経営の視点から、現代社会教育のあり様を展望していくこととする。双方向型の授業を通じて、社会教育の現代的な経営に関する基本的な知識の獲得、現代社会教育の再編に寄与できる力量の形成をねらいとしていく。</p>			
学修目標			
<p>現代において持続可能な社会教育を展望するためには、従来の社会教育計画に関する知識とともに新たな社会教育経営という視点が欠かせない。本講義では、今日的な社会教育の新たなガバナンスとマネジメントに資する知識を習得することで、より効果的で持続可能な社会教育の経営のあり方を理解することを目標とする。</p>			
授業計画			
<p>原則対面形式とするが、遠隔授業とする場合があるため、マナバを確認すること。</p>			
1. オリエンテーション (小栗・農中)			
<p>社会教育経営の基礎</p>			
2. 社会教育経営の基礎 1 (国と地域との関係から考える社会教育の経営) (小栗)			
3. 社会教育経営の基礎 2 (制度と行政計画から考える社会教育の経営) (小栗)			
4. 社会教育経営の基礎 3 (社会教育経営の範囲とはなにか) (小栗)			
<p>社会教育経営の歴史・評価</p>			
5. 社会教育経営の歴史・評価 1 (社会教育を経営するとはなにか) (農中)			
6. 社会教育経営の歴史・評価 2 (社会教育を誰が経営してきたのか) (農中)			
7. 社会教育経営の歴史・評価 3 (社会教育をどう経営していくのか) (農中)			
8. 中間まとめ (小栗・農中)			
<p>理念から照らす課題 (小栗)</p>			
9. 理念から照らす課題 1 (都市部における現代的事例の検討) (小栗)			
10. 理念から照らす課題 2 (農村部における現代的事例の検討) (小栗)			
11. 理念から照らす課題 3 (離島・僻地における現代的事例の検討) (小栗)			
<p>理念から照らす可能性 (農中)</p>			
12. 理念から照らす課題 1 (社会教育経営をどう実現するか) (農中)			
13. 理念から照らす課題 2 (社会教育経営と持続可能な社会教育体制をどう接続するか) (農中)			
14. 理念から照らす課題 3 (社会教育経営の視点の可能性とはなにか) (農中)			

15.全体まとめ（小栗・農中）

授業外学習（予習・復習）

（予習）現代社会の諸問題および基礎自治体、広域自治体を取り巻く社会環境、財務状況の変化について理解しておくこと（2時間）。（復習）鹿児島県や出身都道府県の状況については講義内容に照らしながら適宜社会環境の変化の理解に努めること（2時間）。

教科書

適宜指示する。

参考書

牧野篤『公民館をどう実践してゆくのか』東京大学出版会、2019
 牧野篤編『人生100年時代の多世代共生』東京大学出版会、2020
 牧野篤『公民館はどう語られてきたのか』東京大学出版会、2018

成績の評価基準

授業後の小レポート（40%）、課題遂行状況（10%）、試験（50%）

オフィスアワ -

毎水曜日（12時10分から12時50分）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

特になし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回を予定

備考（受講要件）

社会教育主事資格取得を目指すもの。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない。

ナンバリングコード			
FHS-BCX2328			
科目名			
自治体政策論			
英語名			
Policy of Local Administration			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片野田拓洋		099-286-8872	t-katanoda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>自治体政策を巡るトピックとして毎回一つのテーマを取り上げ、地域における現状や課題、実施されている政策等について、鹿児島県内の事例を中心に説明するとともに、データに基づいて、地域の実情を把握・分析する方法等について紹介する。</p> <p>また、自治体政策に精通したゲスト講師による、自治体政策の実例紹介や分析・評価の講義を行う。</p>			
学修目標			
<p>地域における現状や課題、実施されている政策等について理解するとともに、データに基づいて、地域の実情を把握・分析する方法等を修得する。</p>			
授業計画			
<p>本授業は、ZOOMを利用したリアルタイムのオンライン型授業の予定。</p> <p>第1回 ガイダンス・総論 第2回 少子高齢化 第3回 共生・協働の地域社会づくり 第4回 文化・スポーツ行政 第5回 地域経済分析システム (RESAS) の活用 (基礎編) 第6回 地方行財政 第7回 地域経済分析システム (RESAS) の活用 (応用編) 第8回 観光 第9回 自治体の観光施策の取組事例 (ゲスト講師：予定) 第10回 地方創生 第11回 地方創生の取組事例 (ゲスト講師：予定) 第12回 社会保障・貧困 第13回 離島 第14回 農業 第15回 まとめ</p> <p>講義テーマや順番、ゲスト講師登場回は都合により変更の可能性あり。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>新聞・テレビのニュース等を通じ、社会情勢や自治体政策に関する情報に日頃から関心を持っておくこと。</p> <p>予習：各回テーマの事前学習 (標準的時間は約2時間) 復習：学習内容の振り返り・レポート作成 (標準的時間は約2時間)</p>			
教科書			
<p>本授業では特に指定せず。必要に応じて参考書を用いる。</p>			
参考書			
<p>増田寛也『地方消滅』中公新書、2014年</p>			

成績の評価基準

受講態度（出席及び授業中に指定したテーマに対するミニレポート）60%、期末レポート40%
6回以上欠席した場合には単位を認めない。

オフィスアワ -

月曜日 - 金曜日 1~4限目
事前にメール等で問い合わせること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

なし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

出席は、原則として毎回のミニレポートの提出（manabaによるオンライン提出）をもって確認する。
なお、講義後1週間程度は動画視聴を可能とする予定。

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島県庁出身の教員が、毎回一つの地方を取り巻くテーマを取り上げ、現状や課題、実施している政策等について鹿児島県の事例を中心に解説する。

ナンバリングコード			
FHS-BDX3409			
科目名			
地域社会実習			
英語名			
Practical of Community Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	実習	1単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片野田拓洋		099-285-8872	t-katanoda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
地域社会の現状・課題や現在実施されている自治体の政策等について、各自が調査し、分析した上で、新たな提案としてまとめることにより、地域社会が抱える様々な課題について把握し、自ら解決策を検討することを実践する。			
学修目標			
1 地域社会の現状や課題について、自ら調査し、把握することができる。 2 県や市町村の政策等について、自ら調査し、把握することができる。 3 自ら調査した内容をまとめ、分析し、新たな提案を行うことができる。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション、地域社会をめぐる現状と課題 第2回 地域社会の現状と課題の調査、分析方法 第3回 新聞の活用方法 1 第4回 役所等への調査依頼（メール、電話及び訪問）の方法 第5回 新聞の活用方法 2 第6回 個人課題の設定 第7回 県庁等の訪問 1 第8回・第9回 個人課題の検討 第10回 県庁等の訪問 2 第11回 個人課題の中間まとめ 第12回・13回 政策提案の検討 第14回・15回 政策提案発表、まとめ			
鹿児島県庁等に出向いて2回程度現地調査を行うので、時間割上の時間より活動時間が長くなることがある。			
その他、県庁や市役所等に自らアポイントを取って、自分の設定した課題について調査を行う。 授業のスケジュール及び内容は、訪問先等の都合により変更することがある。			
授業外学習（予習・復習）			
予習：自ら設定したテーマに関する調査、研究等（標準的時間は約3時間） 復習：学習内容の振り返り（標準的時間は約2時間）			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
伊藤修一郎『政策リサーチ入門』東京大学出版会、2011年			
成績の評価基準			
出席・受講態度（40%）、調査及び政策提案の内容（60%）			
オフィスアワー			
月曜日 - 金曜日 1～4限目 事前にメール等で確認すること。			

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

なし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

受講生の上限を20人とし、地域社会コースの学生を優先する。

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島県庁出身の教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BDX3405			
科目名			
青年の主体形成論			
英語名			
Theory on Empowerment of Adolescents			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
近年の子ども・若者における最新の動向をとらえながら、現代社会における青年期の課題について明らかにしつつ、これらの課題に主体的に関わることが出来る青年に着目し、理解を深める。その際、青年期の持つ課題をより身近なものとしてとらえるために、同時期の学生たちの考えや意見を講義内において反映させながら学びを深める。また、本講義では、青年の主体形成にむけた具体的な実践についても考察する。			
学修目標			
既存世代としての大人世代からみた青年像ではなく、なるべく実態に即した青年像にもとづいたあらたな青年の主体形成について理解することを目的とする。さらに自身もまた主体であるという認識のもと、具体的な社会問題にどのようにアプローチできるかについて考察できるようになることを目的とする。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
「第1部」理論編			
2、現代における青年期の課題について理解を深める			
3、身近な青年期の課題について話し合う			
4、既存世代における青年論を歴史的にとらえる。			
5、近年における青年（若者）研究の課題と到達点についての理解その1			
6、近年における青年（若者）研究の課題と到達点についての理解その2			
7、近年における青年（若者）問題に対する新たな研究的アプローチその1			
8、近年における青年（若者）問題に対する新たな研究的アプローチその2			
「第2部」実践編			
9、「遊び」と青年の主体形成			
10、「コミュニティ」と青年の主体形成その1			
11、「コミュニティ」と青年の主体形成その2			
12、「観光」と青年の主体形成			
13、「労働」と青年の主体形成その1			
14、「労働」と青年の主体形成その2			
15、まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
メディアで取り上げられている近年のニュースや若者に対する視角について事前に予習(2H)し、また授業で学んだ内容に対する具体的な関連事項を調べるという復習(2H)を行うのが望ましい。			
教科書			
講義内で随時指示する。			
参考書			
講義内で随時指示する。			
成績の評価基準			
出席 20%			
レポート 70%			
授業態度 10%			

オフィスアワ -

月曜日3限

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

10

備考(受講要件)

この講義は対面で実施したいのですが、受講人数によってはZOOMでの講義になる可能性がございます。その点についてご理解をお願いします。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX3413			
科目名			
社会教育実習Ⅳ			
英語名			
Practical of Social Education Ⅳ			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	実習	1単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
教育基本法第13条を根拠に、学区を中心とした地域の文化や歴史を教育活動にとりいれたり、保護者・地域住民・地域組織と連携する取り組みが広がっている。本講義では、上記のような取り組みについて、「政策動向」を踏まえつつ、具体的な活動に参加しながらそれらの活動の意義や問題点について理解を深める。			
学修目標			
1、近年における校区コミュニティを取り巻く社会状況について理解する 2、校区コミュニティを核とした社会教育実践について理解を深める 3、具体的に校区コミュニティ活動に参加し、課題や展望について明らかにできるようにする			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2回 校区を取り巻く社会状況についての理解 第3回 校区コミュニティに対する政策動向についての整理 第4回 校区コミュニティの選定と調査の準備? 第5回 校区コミュニティの選定と調査の準備? 第6回 校区コミュニティの選定と調査の準備? 第7回 校区コミュニティの選定と調査の準備? 第8回 校区コミュニティ活動への参加(調査)? 第9回 校区コミュニティ活動への参加(調査)? 第10回 校区コミュニティ活動への参加(調査)? 第11回 校区コミュニティ活動への参加(調査)? 第12回 校区コミュニティ活動への参加(調査)? 第13回 校区コミュニティ活動への参加(調査)? 第14回 校区コミュニティ活動への参加(調査)? 第15回 総括討論			
授業外学習(予習・復習)			
講義内で課題を提示する 予習(2H)・復習(2H)			
教科書			
講義内で指示			
参考書			
講義内で指定			
成績の評価基準			
出席 20% 授業態度 30% レポート 50%			
オフィスアワ -			
随時			
アクティブ・ラーニング			

フィールドワーク;	
	アクティブ・ラーニング(その他の内容)
なし	
	アクティブ・ラーニング(授業回数)
7回	
	備考(受講要件)
基本実習は対面です。またフィールドワークも予定しております。ただし、新型コロナの状況に応じて遠隔の可能性もあり、その際は柔軟に対応していくことにします。なお、フィールドワークにおける交通費等の費用は実費となりまので、ご了承ください。不明な点があれば、事前にご連絡いただくか、オリエンテーションの際にご質問ください。	
	実務経験のある教員による実践的授業
なし	

ナンバリングコード

FHS-BDX3506

科目名

多文化共生の地域づくり

英語名

Multicultural Community Development

開講学科

法経社会学科地域社会コース

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

酒井 佑輔

連絡先 (TEL)

099-285-7292

連絡先 (MAIL)

sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし。

前後期

前期

授業概要

(2021.2.17改定/revised)

現代の日本社会ではヘイト・スピーチに象徴されるような人種主義や排外主義の高揚、マイノリティに対する不寛容さの常態化傾向が指摘されてきた。最近では、新型コロナウイルス感染拡大により、外国人に対する制度上の排外主義や、日常生活での差別や排除・いじめ等の問題も顕在化しはじめています。

その一方で、少子高齢化や労働力人口の穴埋め策としての移民受け入れは加速度的に進んでおり、彼ら・彼女らの存在抜きに私たちの生活は成立しない現実もある。したがって、「地域づくり」を考える際には、排外主義に抗する多文化共生を目指した国内外の取り組みを知り、その内実を捉え直すことが大変重要であると言える。

以上を踏まえて、本講義では「新型コロナウイルス感染拡大と排外主義」をテーマに、諸外国や日本で発生している外国人に対する排除やいじめ・差別の問題を知り、それを克服するための多文化共生に向けた取り組みを学び理解を深める。また、自らがそれらの問題を克服する多文化共生を目指した地域づくりの取り組みを企画・立案することで、身近な多文化共生の望ましい在り方を考える。

Because of serious labour shortages, aging population etc, Japan will formally open doors to foreign workers. However, racism, xenophobia and related intolerance have been expanded all over the world, and a lot of Japanese cities have worried about receiving more foreign workers. Focusing on this kind of situation, we can say that it is very important to think about multiculturalism and promote multicultural community development.

This class aims to understand multiculturalism and multicultural community development and, design project related to these topics.

学修目標

- 1) 新型コロナウイルス感染拡大に伴って可視化しないしは生じた外国人に対する排外主義の問題について理解する。
- 2) 日本における多文化共生を目指した地域づくりの事例を多角的な視点から理解する。
- 3) 排外主義を越える多文化共生の地域づくりを進めるために何ができるのか、自ら志向し考え企画する能力を身につける。

授業計画

本授業は、毎回zoomまたは対面形式で実施予定である。授業形態を変更する際にはmanabaのコースニュースで随時通知する。

1. オリエンテーション? 排外主義に抗う多文化共生の地域づくりに向けて
2. オリエンテーション?—新型コロナウイルスとわたしたち—
3. 日本で目指されてきた多文化共生とは何か
4. 新型コロナウイルス感染拡大により世界で生起する排外主義の現状を調べる
5. 新型コロナウイルス感染拡大により世界で生起する排外主義の現状を発表する
6. 新型コロナウイルス感染拡大により世界で生起する排外主義の現状を分析する
7. 日本での新型コロナウイルス感染拡大と排外主義の現状を調べる

8. 日本での新型コロナウイルス感染拡大と排外主義の現状を発表する
9. 日本での新型コロナウイルス感染拡大と排外主義の現状を分析する
10. 鹿児島県の排外主義及び多文化共生の現状を知る
11. 鹿児島県の排外主義及び多文化共生の現状を知る
12. グループワーク:排外主義に抗う多文化共生の地域をデザインする(1)
13. グループワーク:排外主義に抗う多文化共生の地域をデザインする(2)
14. グループワークの発表
15. 総括
16. 期末試験は行わない(指定期日までに期末レポートを提出)

授業外学習(予習・復習)

予習2h:授業ごとに提示する資料(新聞記事や論文)を必ず事前に読んでおくこと。

復習2h:授業で学んだ内容を振り返りまとめること。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

- ・塩原良和・稲津秀樹編『社会的分断を越境する 他者と出会いなおす想像力』青弓社、2017
- ・宮島 喬『多文化であることとは 新しい市民社会の条件』岩波書店、2014

成績の評価基準

授業毎の小レポートと予習課題(35%)

(Prepare resume about assignment for every class(35%))

授業・グループワークへの参加・貢献度(35%)

(Participation in group discussion, and collaboration with cohort(35%))

期末レポート(30%)

(Final report(30%))

オフィスアワー

水曜2限。

ただし、メール等で事前に連絡があれば随時対応。

(Make appointment by email)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

反転型授業、PBL/CBL

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全て

備考(受講要件)

- ・留学生が授業に参加する予定のため、日本語以外にも英語等の外国語で授業をすすめる。したがって、旅行会話程度の英語ないしは他の外国語(中国語やスペイン語、ポルトガル語、インドネシア語、ベトナム語等)ができないと授業についてこれない可能性が大きい。
- ・受講を希望する学生は必ずオリエンテーションに出席すること。
- ・全授業への出席を原則とし、授業数の1/3を欠席した場合、つまり5回の欠席で、学則上、成績評価の対象外とする。受講生には、授業やグループワーク、グループ発表への能動的な参加が求められる。
- ・授業ではzoomを頻繁に利用するため、無制限のwifi環境があること及びノートPCやタブレット等を持っていることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX4401			
科目名			
特殊研究			
英語名			
Special Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	6単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
各担当教員		各授業担当教員の電話番号	各授業担当教員のメールアドレス
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
各人の問題関心に応じて担当教員の指導の下に特殊研究レポートの作成を行う。			
学修目標			
(1) 問題関心を踏まえてリサーチ・クエッションを設定できる。 (2) リサーチ・クエッションを踏まえて文献、データを収集・整理・分析し、成果を適切に表現できる。 (3) 特殊研究レポートの作成を通じて地域社会への理解を深められる。			
授業計画			
(1) リサーチ・クエッションの設定 (2) 文献及びデータの収集・整理 (3) 文献及びデータの分析・考察 (4) 特殊研究レポートの作成 なお、この授業計画は状況によって変更することがある。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：文献の収集、データの収集、その整理・分析、報告資料の作成など (標準的時間は約2時間)			
復習：報告に対する意見・指摘事項の整理、研究方針の検討 (標準的時間は約2時間)			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
担当教員より適宜紹介する			
成績の評価基準			
レポート作成に当たった学習、及び提出された特殊研究レポートを評価する (100%)			
オフィスアワー			
各授業担当教員が授業中に指示する			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション; その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
ディベート、プレゼンテーション、学習の振り返り アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
全回			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード			
FHS-BDX4401			
科目名			
特殊研究			
英語名			
Special Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	6単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
各担当教員		各授業担当教員の電話番号	各授業担当教員のメールアドレス
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
各人の問題関心に応じて担当教員の指導の下に特殊研究レポートの作成を行う。			
学修目標			
(1) 問題関心を踏まえてリサーチ・クエッションを設定できる。 (2) リサーチ・クエッションを踏まえて文献、データを収集・整理・分析し、成果を適切に表現できる。 (3) 特殊研究レポートの作成を通じて地域社会への理解を深められる。			
授業計画			
(1) リサーチ・クエッションの設定 (2) 文献及びデータの収集・整理 (3) 文献及びデータの分析・考察 (4) 特殊研究レポートの作成 なお、この授業計画は状況によって変更することがある。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：文献の収集、データの収集、その整理・分析、報告資料の作成など (2時間)			
復習：報告に対する意見・指摘事項の整理、研究方針の検討 (2時間)			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
担当教員より適宜紹介する			
成績の評価基準			
レポート作成に当たった学習、及び提出された特殊研究レポートを評価する (100%)			
オフィスアワ -			
各授業担当教員が授業中に指示する			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション; その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
文献の収集、データの収集、その整理・分析、報告資料の作成、論文作成			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
全回			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
井原慶一郎		099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
「アート・マネジメント」の理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・アートマネジメントの理論 ・ファシリテーション ・企画の立て方 ・デザインの基本 ・広報・PRの仕方 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 「アート・マネジメント」の理論(1) 第3回 「アート・マネジメント」の理論(2) 第4回 「アート・マネジメント」の理論(3) 第5回 「アート・マネジメント」の理論(4) 第6回 「アート・マネジメント」の実践(1) 第7回 「アート・マネジメント」の実践(2) 第8回 「アート・マネジメント」の実践(3) 第9回 「アート・マネジメント」の実践(4) 第10回 「アート・マネジメント」の実践(5) 第11回 「アート・マネジメント」の実践(6) 第12回 「アート・マネジメント」の実践(7) 第13回 「アート・マネジメント」の実践(8) 第14回 「アート・マネジメント」の実践(9) 第15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>[予習2H] 普段からアートやカルチャーに関心を持ち、関連する記事などを見つけたら保存しておく。 [復習2H] 出された課題を行う。 授業外のイベントにも積極的に参加する。</p>			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(30%)、リアクションペーパー(60%)による。			
オフィスアワ -			

木曜日・5時限・研究室（共通教育棟2号館2階）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片桐資津子		なし	katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>ゼミでは、社会的視点を身につけてもらいます。おもに「卒論の執筆準備」と「ディスカッションの徹底訓練」の2つをおこないます。そのため、具体的にはつぎの3つの学問的な問いに向き合います。</p> <p>第1に、マクロ的観点から、ウィズコロナ時代のデジタル社会のウェルビーイングのあり方を探究します。具体的には日本社会における少子高齢化と人口減少化といった社会現象は、DX化によりいかなる影響を受けるのでしょうか。第2に、プレコロナ時代までの歴史的経緯を踏まえて、ミクロ的観点からみて、デジタル社会下における個人の価値観・ライフスタイルと深く関連するウェルビーイングは、どのように変化してきた/変化していくのでしょうか。第3に、マクロとミクロを媒介する集団や組織の観点から、「集団の創発性 (Emergence)」と「組織の生産性 (Productivity)」は、社会や個人に対していかなる働きをしてきた/していくのでしょうか。こういった3つの学問的な問いを念頭において、社会学を学んでいきます。</p>			
学修目標			
<p>(1) 一枚のスライドでアウトプットする練習をします</p> <p>(2) SNS発信力を高めます</p> <p>(3) ディスカッションの作法を知り、実践します</p> <p>(4) 時事問題に敏感になります</p> <p>(5) 卒業論文の下準備をします</p> <p>(6) グループワークに積極的にかかわります</p>			
授業計画			
第1回	オリエンテーション		
第2回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(1)		
第3階	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(2)		
第4回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(3)		
第5回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(4)		
第6回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(5)		
第7回	時事問題のディスカッション		
第8回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(6)		
第9回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(7)		
第10回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(8)		
第11回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(9)		
第12回	3年生の卒論構想発表会		
第13回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(10)		
第14回	4年生の卒論構想発表会		
第15回	まとめ		
<p>ゼミ生に相談しながら、計画を改善することがあります。基本的にすべての授業形式は対面型で実施します。ただし今後の新型コロナウイルス感染状況次第で、授業様式は変更となる可能性があります。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
〔予習〕 各自で選んだテキストをプレゼンします。気になる新聞記事を選定します (学習に関わる標準的時間			

は2時間) .	
〔復習〕 manabaに更新された資料等を閲覧し, 関連する知識の定着をはかります (標準的時間は2時間) .	
	教科書
講義時までには知らせます	
	参考書
適宜, manabaにアップします	
	成績の評価基準
授業への取り組み態度 (100%)	
	オフィスアワ -
毎週月曜3	
	アクティブ・ラーニング
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);	
	アクティブ・ラーニング (その他の内容)
なし	
	アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回	
	備考 (受講要件)
なし	
	実務経験のある教員による実践的授業
なし	

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
桑原司		099-285-7581	kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>社会学の古典文献を原文（英語）で輪読する。 原文の構文・文法構造を理解する。 原文の翻訳（邦訳）を試みる。</p>			
学修目標			
<p>社会的な視点を身につける。 古典文献を原文（英語）で読めるようになる。 翻訳作業を通じて日本語の表現力を鍛える。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス【対面】 第2回 古典文献の読解・検討・翻訳作（1）【対面】 第3回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（2）【対面】 第4回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（3）【対面】 第5回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（4）【対面】 第6回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（5）【対面】 第7回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（6）【対面】 第8回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（7）【対面】 第9回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（8）【対面】 第10回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（9）【対面】 第11回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（10）【対面】 第12回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（11）【対面】 第13回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（12）【対面】 第14回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（13）【対面】 第15回 総括【遠隔形式（Zoom）】 次期役員の決定。 役員業務の引き継ぎ作業。 ゼミ・オリエンテーション（演習紹介）出席メンバーの選定。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：manaba に掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約 2 時間） 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は 2 時間）</p>			
教科書			
J. M. Charon, 1979, Symbolic Interactionism, Prentice-Hall.			
参考書			
桑原司（2000）『社会過程の社会学』関西学院大学出版会BookPark.			
成績の評価基準			
授業（発表・討論）への取り組み態度（100%）。			
オフィスアワ -			
水曜5限目			

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

該当なし。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

14回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片桐資津子		なし	katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>この演習は社会学ゼミです。オンライン・ディスカッション力とSNS発信力、おもにこれら2つの能力を高めるトレーニングをします。</p> <p>ゼミでは「卒論の執筆準備」と「グループワークでの貢献と業績づくり」の2つをおこないます。そのため、具体的には、つぎの3つの学問的な問いに向き合います。</p> <p>第1に、マクロ的観点から、日本社会における少子高齢化と人口減少化といった社会現象は、グローバル資本主義のなか、いかなる歴史的経緯により引き起こされたのか。第2に、そのような歴史的経緯のなかで、ミクロ的観点からみて、個人の価値観・ライフスタイルと深く関連する「幸福 (Happiness, Well-being)」は、どのように変化してきたのか。第3に、日本、米国、中国の3カ国の国際比較を念頭に、グローバル化・複雑化・AI化が進展してきた21世紀以降、ポストモダンの観点から、家庭・地域・職域における「共同性」と「関係性」のあり方はどのように変化しているのか。こういった3つの学問的な問いを念頭において、社会学を学んでいきます。</p>			
学修目標			
<p>(1) オンライン・ディスカッションを実践する</p> <p>(2) グループワークに貢献する</p> <p>(3) SNS発信力を高める</p> <p>(4) 時事問題に触れ、日本社会の仕組みを知る</p> <p>(5) 国際感覚を身につける</p> <p>(6) Push the Boundariesの精神で、卒業論文における「研究の問い」を探す</p>			
授業計画			
第1回	オリエンテーション		
第2回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(1)		
第3階	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(2)		
第4回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(3)		
第5回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(4)		
第6回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(5)		
第7回	時事問題のディスカッション		
第8回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(6)		
第9回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(7)		
第10回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(8)		
第11回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(9)		
第12回	3年生の卒論構想発表会		
第13回	テキストを素材にレジュメ発表、ディスカッション(10)		
第14回	4年生の卒論構想発表会		
第15回	まとめ		
<p>ゼミ生に相談しながら、計画を改善することがあります。基本的にすべての授業は、対面方式で実施します。ただし受講生のネット接続といった受講環境や、今後の新型コロナ感染状況次第で、実施方式、授業回数、内容</p>			

は変更となる可能性があります。
授業外学習（予習・復習）
〔予習〕 輪読するテキストを精読します。気になる新聞記事を選定します（学習に関わる標準的時間は2時間）
・ 〔復習〕 manabaに更新された資料等を閲覧し、関連する知識の定着をはかります（標準的時間は2時間）。
教科書
講義時までには知らせます
参考書
適宜、授業中に紹介します
成績の評価基準
授業への取り組み態度（100%）
オフィスアワ -
毎週火曜2
アクティブ・ラーニング
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
なし
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回
備考（受講要件）
なし
実務経験のある教員による実践的授業
なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
桑原司		099-285-7581	k8716665@kada i . jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>社会学の古典文献を原文（英語）で輪読する。 原文の構文・文法構造を理解する。 原文の翻訳（邦訳）を試みる。</p>			
学修目標			
<p>社会的な視点を身につける。 古典文献を原文（英語）で読めるようになる。 翻訳作業を通じて日本語の表現力を鍛える。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス【遠隔形式（Zoom）】 第2回 古典文献の読解・検討・翻訳作（1）【遠隔形式（Zoom）】 第3回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（2）【遠隔形式（Zoom）】 第4回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（3）【遠隔形式（Zoom）】 第5回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（4）【遠隔形式（Zoom）】 第6回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（5）【遠隔形式（Zoom）】 第7回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（6）【遠隔形式（Zoom）】 第8回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（7）【遠隔形式（Zoom）】 第9回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（8）【遠隔形式（Zoom）】 第10回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（9）【遠隔形式（Zoom）】 第11回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（10）【遠隔形式（Zoom）】 第12回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（11）【遠隔形式（Zoom）】 第13回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（12）【遠隔形式（Zoom）】 第14回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（13）【遠隔形式（Zoom）】 第15回 総括【遠隔形式（Zoom）】</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：manaba に掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約 2 時間） 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は 2 時間）</p>			
教科書			
J. M. Charon, 1979, Symbolic Interactionism, Prentice-Hall.			
参考書			
桑原司（2000）『社会過程の社会学』関西学院大学出版会BookPark.			
成績の評価基準			
授業（発表・討論）への取り組み態度（100%）。			
オフィスアワ -			
水曜5限目			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

該当なし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
城戸秀之		099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
現代社会は多様で複雑な現象の相互連関からなっている。このような社会の理解を深めるために、授業では現代社会が抱える様々な問題とそれを考える手がかりとなる社会学的思考について学習する。そして、各人が討論に参加し、自分の問題意識と重ね合わせることによって、学習した知識を借り物ではない生きた知識にしてほしい。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の基本的考え方および用語を現実の社会とむすびつけて理解できる。 2. テキストを整理し、報告資料を作成できる。 3. 共通のテーマのもとで討論ができる。 4. 討論に関して自分の知見をもとに話題提供できる。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス 授業の進め方の説明、担当決定			
第2回 報告と討論(1)第2章			
第3回 報告と討論(2)ドラマツルギー			
第4回 報告と討論(3)第4章			
第5回 報告と討論(4)第5章			
第6回 報告と討論(5)第7章			
第7回 報告と討論(6)第8章【Zoomにて開講】			
第8回 報告と討論(7)中間討論【Zoomにて開講】			
第9回 報告と討論(8)第9章			
第10回 報告と討論(9)第10章			
第11回 報告と討論(10)第11章			
第12回 報告と討論(11)第12章			
第13回 報告と討論(12)第13章			
第14回 報告と討論(13)第16章			
第15回 総括討論【Zoomにて開講】			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読み、内容を理解する(標準的時間は約2時間)			
【復習】報告・討論資料、演習レポート、中間レポートの作成(標準的時間は約2時間)			
このほか、授業中適宜指示をする			
教科書			
友枝敏雄ほか『社会学のエッセンス 新版』有斐閣、2017年。			
参考書			
濱島・竹内・石川編『社会学小事典』有斐閣、1997年。			
成績の評価基準			
授業中の報告、討論(50%)及び各レポート(50%)によって評価する。			
オフィスアワ -			
火曜日 3時限			

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

報告資料の作成

アクティブ・ラーニング(授業回数)

14回/15回

備考(受講要件)

演習は各人の意見をふまえた討論で成立するものなので、積極的な態度で授業に出席してほしい。

レポート提出にはmanabaを使用する。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
井原慶一郎		099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
「アート・マネジメント」の理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・アートマネジメントの理論 ・ファシリテーション ・企画の立て方 ・デザインの基本 ・広報・PRの仕方 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 「アート・マネジメント」の理論(1)</p> <p>第3回 「アート・マネジメント」の理論(2)</p> <p>第4回 「アート・マネジメント」の理論(3)</p> <p>第5回 「アート・マネジメント」の理論(4)</p> <p>第6回 「アート・マネジメント」の実践(1)</p> <p>第7回 「アート・マネジメント」の実践(2)</p> <p>第8回 「アート・マネジメント」の実践(3)</p> <p>第9回 「アート・マネジメント」の実践(4)</p> <p>第10回 「アート・マネジメント」の実践(5)</p> <p>第11回 「アート・マネジメント」の実践(6)</p> <p>第12回 「アート・マネジメント」の実践(7)</p> <p>第13回 「アート・マネジメント」の実践(8)</p> <p>第14回 「アート・マネジメント」の実践(9)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>[予習] 普段からアートやカルチャーに関心を持ち、関連する記事などを見つけたら保存しておく。(標準的時間は2時間)</p> <p>[復習] 出された課題を行う。</p> <p>授業外のイベントにも積極的に参加する。(標準的時間は2時間)</p>			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(40%)、リアクションペーパー(60%)による。			

オフィスアワ -

木曜日・5時限・研究室（共通教育棟2号館2階）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島大輔		099-285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>全15回の授業を対面形式で実施する。授業はテキスト講読と受講生の発表から成る。</p> <p>近年まちづくりや公共交通政策、歴史景観の保全や活用などの観点から、ドイツの旧市街が注目を集めている。確かにドイツでは小さな自治体でも総じて自立性が高く、基本的な都市機能も充実しており、旧市街は美しく活気に満ちているケースが多い。</p> <p>しかしドイツの事例がそのまま日本のまちづくりに当てはまるわけではない。そもそも都市の成り立ちや市民意識、行政や法制度などにおいて、両国の間には大きな相違がある。</p> <p>そこで授業ではまず、北ドイツのハンザ都市の800年の街並みの変化を扱った歴史絵本を読み進めながら、ドイツの都市がどのように成立し、時代ごとにどのように発展ないし変遷していったかを街並みの推移から辿る。受講生(全員)は各自担当する時代の街並みについて、図版と文章からその特徴を読み解き、報告(プレゼンテーション)を行う(テキスト講読)。</p> <p>また2年生は任意のドイツの中小都市(人口4万人未満)について、参考文献やネット情報を用いて歴史的旧市街の特徴や教育・文化施設、商業施設、公共交通などを調べ、日本の同規模の自治体と比較考察を行う。調査の結果は授業中にパワーポイントで発表する(ドイツ中小都市調査)。</p> <p>3年生には各自関心のあるテーマについてパワーポイントによる報告を求める(テーマ研究)。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツの都市の成り立ちと中世から近代に至る街並みの様式的特徴を説明することができる ・ドイツの旧市街の歴史的、社会的、文化的特徴を説明することができる ・パワーポイントによるプレゼンテーションと活発な質疑応答を行うことができる 			
授業計画			
<p>全15回の授業を対面形式で実施する。</p> <p>第1回：オリエンテーション、参考文献紹介</p> <p>第2回：テキスト講読「都市が生まれる」(1176年)テーマ研究発表(1)</p> <p>第3回：テキスト講読「大火災」(1276年)テーマ研究発表(2)</p> <p>第4回：テキスト講読「皇帝の入城」(1376年)テーマ研究発表(3)</p> <p>第5回：テキスト講読「トーアシュトラレーセの日常」(1476年)テーマ研究発表(4)</p> <p>第6回：テキスト講読「刑場への行進」(1576年)テーマ研究発表(5)</p> <p>第7回：テキスト講読「冬の日」(1676年)テーマ研究発表(6)</p> <p>第8回：テキスト講読「穏やかな夏の夕べ」(1776年)テーマ研究発表(7)</p> <p>第9回：テキスト講読「新しい時代の幕開け」(1876年)ドイツ中小都市調査発表(1)</p> <p>第10回：テキスト講読「不穏な時代」(1926年)ドイツ中小都市調査発表(2)</p> <p>第11回：テキスト講読「悲惨な戦争が終わって」(1946年)ドイツ中小都市調査発表(3)</p> <p>第12回：テキスト講読「トーアシュトラレーセの交通渋滞」(1966年)ドイツ中小都市調査発表(4)</p> <p>第13回：テキスト講読「最後の古い建物の取り壊し」(1976年)ドイツ中小都市調査発表(5)</p> <p>第14回：テキスト講読「個性のない歩行者ゾーン」(現在)ドイツ中小都市調査発表(6)</p> <p>第15回：テキスト講読「人々が楽しく集う場所」(現在)</p>			
授業外学習(予習・復習)			
予習：テキストの担当章、ドイツ中小都市(2年生)または特殊研究につながるテーマ研究(3年生)について参			

<p>考文献等を用いて調べる（学習に関わる標準的時間は1授業当たり約3時間）。</p> <p>復習：授業で学んだ学習内容を振り返り、復習を行う（標準的時間は1授業当たり約2時間）。</p>
教科書
<p>ハインツ=ヨアヒム・ドレーガー『トーアシュトラッセ 街並みに見るハンザ都市の歴史』（朝日出版社）2013年（こちらで用意します）</p>
参考書
<p>宇都宮浄人『地域再生の戦略』（ちくま新書）2015年、村上敦『ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか』（学芸出版社）2017年他、適宜授業中に紹介する。</p>
成績の評価基準
<p>テキストに関する理解と報告を40%、ドイツ中小都市調査またはテーマ研究を40%、授業への取り組み（質疑応答）を20%とし、その総合で評価する。</p>
オフィスアワー
<p>火曜4限。（その他の時間帯も対応します。あらかじめメールで連絡してください。）</p>
アクティブ・ラーニング
<p>ディベート；プレゼンテーション；</p>
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
<p></p>
アクティブ・ラーニング（授業回数）
<p>15回中14回</p>
備考（受講要件）
<p>条件が許せば、希望者を対象に9月上旬から中旬にかけて、2週間程度の「ヨーロッパ社会研修」を実施する。</p>
実務経験のある教員による実践的授業
<p>特になし。</p>

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
城戸秀之		099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
現代の社会システムは物質的な繁栄をきわめる一方で、いくつかの深刻な問題を抱えている。そのひとつが自己存在の問題としての人間観のゆらぎであり、それは、若者の生において凝縮されてあらわれている。授業では「若者」をめぐるいくつかの議論の検討を通して、自分と等身大の問題としての現代社会の問題について考えてほしい。			
学修目標			
1) 社会学の基本的考え方および用語をもとに現実社会の分析できる 2) 現代社会についての理解を深められる 3) テキストを整理し、報告資料を作成できる 4) 共通のテーマのもとで討論ができる 5) 討論に関して自分の知見をもとに話題提供できる			
授業計画			
この授業は下記の通り、一部遠隔方式でおこなう。			
第1回 ガイダンス 授業の進め方の説明、担当決定【オンライン配信】 第2回 報告と討論(1) テキスト1【オンライン配信】 第3回 報告と討論(2) 中間討論?【オンライン配信】 第4回 報告と討論(3) テキスト2 第5回 報告と討論(4) 中間討論?【オンライン配信】 第6回 報告と討論(5) テキスト3 第7回 報告と討論(6) 中間討論?【オンライン配信】 第8回 報告と討論(7) テキスト4 第9回 報告と討論(8) 中間討論?【オンライン配信】 第10回 報告と討論(9) テキスト5(前半) 第11回 報告と討論(10) テキスト5(後半) 第12回 報告と討論(11) 中間討論?【オンライン配信】 第13回 総括討論?【オンライン配信】 第14回 総括討論?【オンライン配信】 第15回 共同研究発表会			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読み、要点を理解する(標準的時間は約2時間)			
【復習】討論の材料を探す、演習レポートの作成(標準的時間は約2時間)			
このほか、授業中適宜指示をする。			
教科書			
大平健『やさしさの精神病理』(岩波書店 1995年)。 土井義隆『友だち地獄』筑摩書房、2007年。 森真一『ほんとは怖い「やさしさ社会」』筑摩書房、2008年。			
参考書			

NHK文化研究所編『現代日本人の意識構造』[第8版]NHK出版、2015年。

成績の評価基準

授業中の報告、討論(55%)及び各レポート(45%)によって評価する。

オフィスアワ -

火曜日 2 時限

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

報告資料の作成

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

演習は各人の意見をふまえた討論で成立するものなので、積極的な態度で授業に出席してほしい。
レポート提出にはmanabaを使用する。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島大輔		099-285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>全15回の授業を対面形式で実施する。</p> <p>授業はテキスト講読と調査発表の2部構成をとる。テキスト講読ではドイツ環境省のパンフレットDie Stadt fuer Morgen (『明日の都市』)のDie Massnahmen(施策)を読み進めながら、ドイツが国レベルでどのようなまちづくりを提言しているかを理解する。</p> <p>調査発表(2年生)では任意の日本の中小都市の中心部の都市機能について各自が調査を行う。調査は文献資料やインターネットおよび可能な範囲の現地調査で行う。調査結果は授業中のプレゼンテーションで報告する。また3年生は特殊研究につながる自身のテーマについて報告を行う(テーマ発表)。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツが国レベルで提唱する将来のまちづくりの概要を説明することができる ・日本の中小都市の中心部についてその特徴や都市機能を説明することができる ・ドイツとの比較から、日本の都市の課題と可能性を説明することができる 			
授業計画			
<p>全15回の授業を対面形式で実施する。ただし第1回(10月7日)と第2回(10月14日)は大学の方針により、Zoomによる遠隔授業とする。manabaで連絡されるZoomアドレスに注意すること。</p> <p>第1回: オリエンテーション</p> <p>第2回: 『明日の都市』(施策1)</p> <p>第3回: 『明日の都市』(施策1)</p> <p>第4回: 『明日の都市』(施策2)</p> <p>第5回: 『明日の都市』(施策2)</p> <p>第6回: 『明日の都市』(施策3)</p> <p>第7回: 『明日の都市』(施策4)</p> <p>第8回: 『明日の都市』(施策5)</p> <p>第9回: 『明日の都市』(施策5)調査発表・テーマ発表1</p> <p>第10回: 『明日の都市』(施策6)調査発表・テーマ発表2</p> <p>第11回: 『明日の都市』(施策7)調査発表・テーマ発表3</p> <p>第12回: 『明日の都市』(施策8)調査発表・テーマ発表4</p> <p>第13回: 『明日の都市』(施策9)調査発表・テーマ発表5</p> <p>第14回: 『明日の都市』(施策10)調査発表・テーマ発表6</p> <p>第15回: 『明日の都市』(施策10)調査発表・テーマ発表7</p>			
授業外学習(予習・復習)			
予習3時間(テキスト講読および調査発表)、復習2時間(テキスト講読)			
教科書			
ドイツ環境省パンフレットDie Stadt fuer Morgen(『明日の都市』)...オリエンテーション時に配布または提示する			
参考書			
高松平蔵『ドイツの地方都市はなぜ元気なのか』(学芸出版社)、村上敦『フライブルクのまちづくり』(学芸			

出版社)、ヴァンソン藤井由美『ストラスプールのまちづくり』(学芸出版社)。
その他適宜授業中に紹介する。

成績の評価基準

テキスト講読を40%、中小都市調査を40%、授業に対する取り組み(質疑、討論等)を20%とし、その総合で評価する。

オフィスアワー

火曜4限

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

週末または休日を利用して1泊2日程度の現地調査(国内)を行う場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
酒井佑輔		099-285-7292	sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
社会教育と地域づくりの理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
社会教育と地域づくりの理論と実践を理解する。			
授業計画			
授業は遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回：ガイダンス			
第2回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第3回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第4回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第5回：プロジェクト実施			
第6回：文献購読、地域でのプロジェクトの振り返り			
第7回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第8回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第9回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第10回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第11回：プロジェクト実施			
第12回：文献購読、プロジェクトの振り返り			
第13回：文献購読、プロジェクトの振り返り			
第14回：文献購読、プロジェクトの最終発表			
第15回：総括			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約2時間)			
復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は2時間)			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
パウロ・フレイレ『被抑圧者の教育学』			
成績の評価基準			
授業への参加度 (グループディスカッションへの参加・貢献度 (50%)、予習課題 (25%) 最終発表 (25%) 等を総合的に判断します)			
オフィスアワ -			
水曜 1 限 (ただし、必ず事前に連絡すること)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

全て	
	アクティブ・ラーニング（授業回数）
全て	
	備考（受講要件）
特になし。	
	実務経験のある教員による実践的授業
特になし。	

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中至		099-285-7603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
社会教育・生涯学習研究の最新動向を中心に検討し、卒業研究に向けた基礎的な学習の推進および研究姿勢の体得を進めます。文献講読を主とし、最新の研究理解を目指します。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育・生涯学習研究の最新動向をつかむこと ・社会教育・生涯学習研究の方法・課題を理解すること 			
授業計画			
対面形式を原則とするが、遠隔授業とする場合があるため、マナバを確認すること。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 社会教育・生涯学習研究はなにを主題とするのか 3. 社会教育・生涯学習研究はだれにとって意味があるのか 4. 社会教育・生涯学習研究はどのような社会構想を有するのか 5. 社会教育・生涯学習研究の課題とはなにか 6. 社会教育・生涯学習研究の可能性とはなにか 7. 社会教育・生涯学習研究はなぜ必要なのか 8. 社会教育・生涯学習研究の今日的な課題とはなにか 9. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ-子ども編 10. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 青年編 11. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 成人編 12. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 高齢者編 13. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 女性問題・ジェンダー編- 14. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ マイノリティ編 15. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 人権問題編 			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：事前配布資料およびmanabaに掲載された学習資料を事前に予習する (2時間)			
復習：授業の学習内容を振り返り、レポートを作成する (2時間)			
教科書			
適宜指示する。			
参考書			
日本社会教育学会年報 (東洋館出版社)・紀要 (日本社会教育学会) 各年版			
成績の評価基準			
授業中レポート 60%・議論・討論への貢献度 30%・小レポート 10%			
オフィスアワ -			
水曜日の昼休み中 (12時10分から12時50分)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

グループによる討論、報告資料の作成とそれに基づくプレゼンテーション、学習理解の確認のための発話・小レポートの作成

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中10回以上

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片野田拓洋		099-285-8872	t-katanoda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
自治体政策の事例研究、グループ学習、討論等を通じて、課題解決能力及びコミュニケーション能力を高めるとともに、自治体政策について理解を深める。			
学修目標			
1 論理的に考え、相手の主張を的確に理解し、自分の意見を分かりやすく伝えることにより、質の高い対話を行うことができる。			
2 自治体政策について現状や課題等を理解し、解決策を提示できる。			
3 お互いに協力しながら、積極的に組織やプロジェクトの運営ができる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第3回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第4回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第5回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第6回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第7回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第8回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第9回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第10回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第11回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第12回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第13回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第14回 自治体政策等に関する調査、事例研究、発表、討論			
第15回 まとめ			
状況をみながらフィールドワーク等を適宜実施する。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：事前に提示するテーマに基づき、調査や事例研究を行う (学習に関わる標準的時間は約2時間)。			
復習：学習内容を振り返り、復習を行う (標準的時間は約2時間)。			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
伊藤修一郎『政策リサーチ入門』東京大学出版会、2011年			
成績の評価基準			
出席・受講態度 (60%)、調査・研究発表内容 (30%)、ゼミ活動への貢献度 (10%) による。			
オフィスアワ -			
月曜日 - 金曜日 1～4限目			
事前にメールで問い合わせること。			

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島県庁出身の教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小栗有子		099-285-7293	oguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本演習は、卒論の準備期間として位置づけ、研究のための基本姿勢とスキルを身に付けます。演習は、研究室として探究するテーマに関する学術誌等の論文を中心に輪読し、時事問題も適宜取り上げながら、知識を深め、論理的に考え、自己表現することの訓練を行います。また、必要に応じて机上で学んだことを現場に出向き検証し、学習支援のための対話技術を習得する機会をつくります。</p> <p>演習のテーマは、地域における人の育ちと環境です。地域の持続性や内発的発展を一方で踏まえつつ、それを創造していく主体との関係について、基礎理論、政策、現場それぞれの観点から検討していきます。演習は、縦軸にゼミ共通の課題を、横軸に個人の研究関心や研究課題を位置づけて内容を編成していきます。</p>			
学修目標			
<p>共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的好奇心をもって情報を集め、分析できるようになること ・ 獲得する知識を相互に関連づけられるようになり、視野を広げること ・ 問題の本質を捉え、論理的に思考し、表現できるようになること <p>各自に期待されること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の読む、書く、聴く、話すスキルについて、苦手な分野を克服し、得意な分野を高めること ・ 学習支援のための基礎となる対話のスキルを身につけること 			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 文献講読・討論・グループワーク</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを精読し、レジュメを準備する (標準時間約2時間) ・ 演習内周を予習し、研究日誌を作成する (標準時間約2時間) ・ その他、適宜指示する 			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
<p>授業参加態度 (個人・グループ活動等) 85%</p> <p>自己評価15%</p>			
オフィスアワー			
火曜日3限目 (事前にメールで連絡してください)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

特になし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

各自、パソコンでワードやパワーポイントの資料等が作成できる環境を確保してください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>近年における、少子高齢化の急激な進展と人口減少、急速なメディアの発達による高度情報化社会の浸透など、日本の若者たちを取り巻く社会環境は目まぐるしく変化している。特に1990年代初頭の景気後退以降、若年労働市場が急速に縮小したことにより、戦後の人材選抜機能を担ってきた学校から労働市場を結ぶ制度的仕組みが機能不全を起し、安定した雇用につくことができない若者が大量に生み出される状態が今日も続いている。本演習では、こうした若者を取り巻く社会環境についての一定の理解を深めつつ、次世代の主体としての若者の存在について共に考えることをしたい。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1、少子高齢化社会、高度情報化社会、高度消費化社会について一定の理解を深める 2、テキストを整理し、報告資料を作成する 3、共通のテーマのもとで討論ができる 4、調査や分析能力をつける 5、討論をもとに自身の問題として省察し、吟味できる力をつける。 			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2回 報告と検討 ? 第3回 報告と検討 ? 第4回 報告と検討 ? 第5回 報告と検討及び実践 ? 第6回 報告と検討及び実践 ? 第7回 報告と検討及び実践 ? 第8回 報告と検討及び実践 ? 第9回 報告と検討及び実践 ? 第10回 報告と検討及び実践 ? 第11回 報告と検討及び実践 ? 第12回 報告と検討及び実践 ? 第13回 報告と検討及びまとめ作業 ? 第14回 報告と検討及びまとめ作業 ? 第15回 総括討論			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読む (2H)			
【復習】演習の内容を踏まえ、自分独自の視点で問題を省察する (2H)			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
授業内にて適宜指示する			
成績の評価基準			
発表80%、授業態度20%			

オフィスアワ -

火曜日4限（研究室）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

13回

備考（受講要件）

基本、対面での講義となります。ただし、新型コロナの影響もあるため、遠隔講義の実施など柔軟に対応するつもりです。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
酒井佑輔	099-285-7292	sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし	前期		
授業概要			
社会教育 (ノンフォーマル教育) 並びに地域づくりの理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
社会教育 (ノンフォーマル教育) 並びに地域づくりの理論と実践を学ぶ。			
授業計画			
授業は遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回：ガイダンス			
第2回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第3回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第4回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第5回：プロジェクト実施			
第6回：文献購読、地域でのプロジェクトの振り返り			
第7回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第8回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第9回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第10回：文献購読、地域でのプロジェクト準備			
第11回：プロジェクト実施			
第12回：文献購読、プロジェクトの振り返り			
第13回：文献購読、プロジェクトの振り返り			
第14回：文献購読、プロジェクトの最終発表			
第15回：総括			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約2時間)			
復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は2時間)			
教科書			
パウロ・フレイレ『被抑圧者の教育学』			
参考書			
必要に応じて適宜指示をする。			
成績の評価基準			
授業への参加度 (グループディスカッションへの参加・貢献度 (30%)、予習課題 (30%) プロジェクト最終発表 (40%) 等を総合的に判断します)			
オフィスアワ -			
水曜 2 限。 ただし、メール等で事前に連絡があれば随時対応。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

PBL
アクティブ・ラーニング（授業回数）
全て
備考（受講要件）
特になし。
実務経験のある教員による実践的授業
特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>近年における、少子高齢化の急激な進展と人口減少、急速なメディアの発達による高度情報化社会の浸透など、日本の若者たちを取り巻く社会環境は目まぐるしく変化している。特に1990年代初頭の景気後退以降、若年労働市場が急速に縮小したことにより、戦後の人材選抜機能を担ってきた学校から労働市場を結ぶ制度的仕組みが機能不全を起し、安定した雇用につくことができない若者が大量に生み出される状態が今日も続いている。本演習では、こうした若者を取り巻く社会環境についての一定の理解を深めつつ、次世代の主体としての若者の存在について共に考えることをしたい。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1、少子高齢化社会、高度情報化社会、高度消費化社会について一定の理解を深める 2、テキストを整理し、報告資料を作成する 3、共通のテーマのもとで討論ができる 4、調査や分析能力を身につける 4、討論をもとに自身の問題として省察し、吟味できる力をつける。 			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2回 報告と検討 ? 第3回 報告と検討 ? 第4回 報告と検討 ? 第5回 報告と検討及び実践 ? 第6回 報告と検討及び実践 ? 第7回 報告と検討及び実践 ? 第8回 報告と検討及び実践 ? 第9回 報告と検討及び実践 ? 第10回 報告と検討及び実践 ? 第11回 報告と検討及び実践 ? 第12回 報告と検討及び実践 ? 第13回 報告と検討及びまとめ作業 ? 第14回 報告と検討及びまとめ作業 ? 第15回 総括討論			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読む (2H)			
【復習】演習の内容を踏まえ、自分独自の視点で問題を省察する (2H)			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
授業内にて適宜支持する			
成績の評価基準			
発表80%、授業態度20%			

オフィスアワ -

火曜日4限（研究室）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

13回

備考（受講要件）

基本、対面での講義となります。ただし、新型コロナの影響もあるため、遠隔講義の実施など柔軟に対応するつもりです。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小栗有子		099-295-7293	yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本演習は、卒論の準備期間として位置づけ、研究のための基本姿勢とスキルを身に付けます。演習は、研究室として探究するテーマに関する学術誌等の論文を中心に輪読し、時事問題も適宜取り上げながら、知識を深め、論理的に考え、自己表現することの訓練を行います。また、必要に応じて机上で学んだことを現場に出向き検証し、学習支援のための対話技術を習得する機会をつくります。</p> <p>演習のテーマは、地域における人の育ちと環境です。地域の持続性や内発的発展を一方で踏まえつつ、それを創造していく主体との関係について、基礎理論、政策、現場それぞれの観点から検討していきます。演習は、縦軸にゼミ共通の課題を、横軸に個人の研究関心や研究課題を位置づけて内容を編成していきます。</p>			
学修目標			
<p>共通目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的好奇心をもって情報を集め、分析できるようになること ・ 獲得する知識を相互に関連づけられるようになり、視野を広げること ・ 問題の本質を捉え、論理的に思考し、表現できるようになること <p>各自に期待されること：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の読む、書く、聴く、話すスキルについて、苦手な分野を克服し、得意な分野を高めること ・ 学習支援のための基礎となる対話のスキルを身につけること 			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 文献講読・討論・グループワーク</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを精読し、レジュメを準備する (標準時間約2時間) ・ 演習内周を予習し、研究日誌を作成する (標準時間約2時間) ・ その他、適宜指示する 			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
<p>授業参加態度 (個人・グループ活動等) 90%</p> <p>自己評価10%</p>			
オフィスアワー			
木曜日2限目 (事前にメールで連絡してください)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

特になし

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

各自、パソコンでワードやパワーポイントの資料等が作成できる環境を確保してください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BDX3401

科目名

歴史のなかの社会学

英語名

Sociology in History

開講学科

法経社会学科地域社会コース

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

城戸秀之

連絡先 (TEL)

099-285-7611

連絡先 (MAIL)

kido@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

19世紀前半、近代社会の成立期に社会学は生まれた。伝統社会から近代社会へという歴史の転換期が要請した「新しい科学」として、社会学は以後歴史の変動とともに学問体系を組み立て、理論構築を進めることとなる。講義では、欧米の社会学的思考の流れを近代社会の歴史との関わりからとらえ、社会学がとらえた「時代の問題」から現代社会のあり方について考えたい。

学修目標

1. 社会学的思考の学説史の流れを理解できる
2. 社会学的志向の学問的特徴を理解できる
3. 社会学的思考と社会との歴史的な関わりを理解できる
4. 以上をふまえて、現代社会について考察を行うことができる

授業計画

この授業は遠隔方式【リアルタイム型】でおこなう。

第1回 はじめに 講義のガイダンス

第2回 社会学の誕生

第3回 19世紀とコントの社会学

第4回 ジンメル近代

第5回 ウェーバーと近代化

第6回 デュルケムとドレーフェス事件

第7回 ファシズムとフランクフルト学派

第8回 中間まとめ

第9回 リースマンと「豊かな社会」

第10回 60年代の社会学の危機

第11回 ポートリヤールと消費社会

第12回 ベックと「リスク社会」

第13回 バウマンと脱構造化する社会

第14回 アーリとモバイル社会

第15回 おわりに 講義のまとめと期末レポートの説明

期末レポート

授業外学習 (予習・復習)

予習：講義資料を読み理解する (標準的時間は約2時間)

復習については、各回の授業内容を整理し、課題に解答する「復習レポート」を提出する (標準的時間は2時間)

またこれとは別に、課題資料を読み解答する「小レポート」を課す (標準的時間は2時間)

教科書

授業時間ごとに資料を配布する

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

参考書

奥村隆『社会学の歴史?』有斐閣、2014年。

成績の評価基準

復習レポート(30%)、小レポート(10%レポート)期末レポート(60%)により評価する。

オフィスアワ -

火曜3限

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

授業中の課題としての小レポートを提出する

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

講義資料の提示、レポート提出にはmanabaを使用する

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX3504			
科目名			
アートマネジメント論			
英語名			
Theory of Art Management			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
井原慶一郎		099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>「芸術と社会をつなぐ仕事」としてのアートマネジメントについて多角的に考察し、社会や人間関係を活性化するアートの役割を総合的に理解することを目的とする。アートやアートマネジメントの概要について学習したのち、テーマごと、トピックごとに理解を深める。講義に加え、フィールドワーク、ワークショップなども取り入れる。また、鹿児島という地域の特性も考慮する。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化活動を、芸術と社会を「つなぐ」アートマネジメントの観点から説明できる。 ・芸術の社会的役割、機能について総合的に理解する。 ・地域において芸術文化活動を実施、支援、情報伝達する際の基本的な知識を身につける。 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回遠隔（ZOOM）でおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(10/7) 2. アートマネジメントとは(10/14) 3. アートとは(10/21) 4. アートと歴史(10/28) 5. アートと社会(11/4) 6. コレクターの役割(11/11) 7. ギャラリー&美術館の役割(11/18) 8. フィールドワーク（鹿児島市立美術館10/14-11/7） 9. 地域とアート(1)全国の事例(12/9) 10. 地域とアート(2)鹿児島県&鹿児島市の事例(12/16) 11. 事例紹介(12/23) 12. パブリック&コミュニティーアート(1/6) 13. ワークショップ(1)企画(1/13) 14. ワークショップ(2)広報(1/20) 15. まとめと振り返り(1/27) 			
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習：指定されたテキストを読む(2H) ・復習：授業で紹介された事例をさらに詳しく調べる(2H) 			
教科書			
林容子『進化するアートマネジメント』（レイライン、2004年）			
参考書			
プリント資料を配布する			

成績の評価基準
リアクションペーパー(60%)、発表(10%)、最終レポート(30%)
オフィスアワ -
木曜日・5時限・ZOOM (授業後に要予約)
アクティブ・ラーニング
フィールドワーク; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
ワークショップ
アクティブ・ラーニング(授業回数)
15回中3回
備考(受講要件)
40名に制限する。
実務経験のある教員による実践的授業
該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BDX2409

科目名

社会教育と地域創造の関わりを学ぶ

英語名

Relation between Social Education and Community Development

開講学科

法経社会学科地域社会コース

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

小栗有子

連絡先 (TEL)

099-285-7299

連絡先 (MAIL)

yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

農中至、金子満、酒井佑輔

前後期

前期

授業概要

今日の地域社会の成り立ちには社会教育が深く関わっています。社会教育を通じて学び合い、地域を変容させる（地域に働きかけることのできる）主体は地域創造の担い手でもあります。戦後社会教育の実践と研究は多様な広がりを見せ、いまなお地域との関わりを深めながら進展しています。本講義は、地域社会コースに所属する社会教育・生涯学習担当教員による総合講義であり、各教員の社会教育研究への取り組みや内容も取り上げます。講義方法は、各教員の研究紹介、教員同士の対話、教員と学生同士の対話の三つの方法で進め、授業を通して社会教育的手法についても体験します。

学修目標

- ・地域が抱える課題と社会教育の実践や活動との関係性について多元的に捉えることができる。
- ・社会教育と地域創造の関わりを理解する。

授業計画

講義は原則すべてリアルタイム配信授業（ZOOM）で実施し、講義内容はオンデマンドでも配信します。

1. オリエンテーション
2. 社会教育において地域を創造するとはどういうことか 主体と地域
3. 社会教育における地域創造の主体とはだれか だれが担うのか？
4. 社会教育における地域創造の主体とはだれか どんな担い手がいるのか？
5. 地域創造の主体と「私」の関係を考える？ どんな関係があるのか
6. 地域創造の主体と「私」の関係を考える？ だれに関係するのか
7. ポストモダン社会の中の地域創造と主体 どう地域を創造するのか
8. 産業と暮らしと社会教育1 課題を探る
9. 産業と暮らしと社会教育2 課題へのアプローチを探る
10. 産業と暮らしと社会教育3 課題へのアプローチを理解する
11. 地域住民と社会教育1 課題を探る
12. 地域住民と社会教育2 課題へのアプローチを探る
13. 現代社会教育の実践1 社会教育のアプローチを知る
14. 現代社会教育の実践2 社会教育のアプローチの理解を深める
15. 社会教育と地域創造の関わりでの想像力
16. 期末試験は行わない（指定期日までに期末レポートを提出）

授業外学習（予習・復習）

予習：manabaに掲載された学習資料等を事前に予習する（標準時間約2時間）

復習：授業の学習内容を振り返り、レポートを作成する（標準時間約2時間）

教科書

授業ごとに適宜紹介する。

参考書

授業ごとに適宜紹介する。

成績の評価基準

授業毎の小レポートと予習課題(50%)

授業（グループワーク）への能動的参加・貢献度(25%)

期末レポート(25%)	
	オフィスアワ -
メール等で事前に連絡があれば随時対応	
	アクティブ・ラーニング
グループワーク; ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);	
	アクティブ・ラーニング(その他の内容)
特になし	
	アクティブ・ラーニング(授業回数)
15回中8回以上を予定	
	備考(受講要件)
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育主事資格取得希望のもの ・社会教育に関する基本的知識を有するもの ・将来住民の学習の組織化に貢献したいもの
	実務経験のある教員による実践的授業
該当なし	

ナンバリングコード

FHS-BDX2201

科目名

比較地域文化論

英語名

Comparative Study of Regional Cultures

開講学科

法経社会学科地域社会コース

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

中島大輔

連絡先 (TEL)

099-285-8895

連絡先 (MAIL)

nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

全15回の授業を遠隔形式（Zoomによる同時双方向通信型）で実施する。

ドイツと日本はほぼ同じ面積にそれぞれ約8千万、1億2千万の人口を擁する大国である。しかし自治体や都市のありかたには両国で大きな相違が見られる。地方分権の進んだドイツの自治体と都市の数は日本を大きく上回り、その規模も日本よりずっと小さい。一方で小さな自治体や都市でも総じて自立性や市民意識が高く、基本的な都市機能も充実している。この相違はどこに由来するのだろうか。

この授業では中世から近世、近代に至るドイツの都市の成立と発展を歴史的・文化的視点から解説するとともに、かつての中世都市の区域である旧市街が現在どのように保全され、活用されているか、またそれぞれの都市にとってどのような意味を持っているのかも併せて紹介する。またドイツの都市との比較的視点から日本の都市の特徴を学び、鹿児島を含む日本の都市の特徴と可能性を考える。

学修目標

- ・ドイツの都市の成り立ちと自治へのあゆみを説明することができる
- ・ドイツの旧市街の歴史的、社会的、文化的特徴と意義を説明することができる
- ・ドイツの都市との比較的視点から日本の都市の特徴を理解し、その文化的可能性を説明することができる

授業計画

授業はすべて遠隔授業（Zoomによる同時双方向通信型授業）で行う。

第1回：オリエンテーション：都市論の射程、都市の概念と定義、中世都市にみる共同体としての性格

第2回：中世における都市の成立：「成長都市」と「建設都市」

第3回：自治への道のり（1）：都市の種類、都市領主からの独立

第4回：自治への道のり（2）：ツunft闘争（市民闘争）からツunft市制へ

第5回：自治への道のり（3）：ツunftと市民生活

第6回：自治への道のり（4）：ネルトリンゲンの政治体制

第7回：中世都市の防衛体制と市民の義務

第8回：中世ドイツの都市同盟（1）：シュヴァーベン都市同盟の例

第9回：中世ドイツの都市同盟（2）：商人ハンザから都市ハンザ

第10回：中世ドイツの都市同盟（3）：リューベックとハンザ

第11回：中世都市から近代都市へ：都市の要塞化から市域拡大・市壁撤去

第12回：日本の都市：日本に自治都市は存在したか？（1）

第13回：日本の都市：日本に自治都市は存在したか？（2）

第14回：ドイツの歴史的都市外観（大都市編、中小都市編）

第15回：ドイツの都市と鹿児島市の都市：歴史的旧市街の可能性

授業外学習（予習・復習）

予習：manabaに掲載された授業に関する資料の予習（標準的学習時間は1授業あたり約2時間）

復習：授業で学んだ学習内容を振り返り、復習およびレポート作成を行う（標準的時間は1授業あたり約3時間）。

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

<p>鯖田豊之『ヨーロッパ封建都市』講談社学術文庫、1994年 カール・グルーバー『図説ドイツの都市造形史』西村書店、1999 斯波照雄『西洋の都市と日本の都市 どこが違うのか - 比較都市史入門』学文社、2015年 村上敦『ドイツのコンパクトシティーはなぜ成功するのか』学芸出版社、2017年 水島信『ドイツ流 街づくり読本』鹿島出版会、2006年 片野優『ここが違う、ヨーロッパの交通政策』白水社、2011年 ヴァンソン藤井由美『ストラスブールのまちづくり』学芸出版社、2011年 H.J.ドレーガー『トーアシュトラッセ 街並みに見るハンザ都市の歴史』朝日出版社、2013年</p>
成績の評価基準
授業レポート（70％）と期末レポート（30％）の総合で評価する。
オフィスアワ -
火曜 4 限（これ以外の時間も対応します。あらかじめメールで連絡してください。）
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
授業内容に関するレポートとそのフィードバック（レポート課題に関する解説と良い内容のレポートの紹介）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回
備考（受講要件）
特になし。
実務経験のある教員による実践的授業
特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2415			
科目名			
社会教育経営論II			
英語名			
Management of Social Education II			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
池水聖子		099-285-7603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>社会教育施設の経営の実際を学びながら、多様な主体との連携・協働の回り方、学習成果を地域課題解決等につなげていくための知識の習得を図る。</p> <p>生涯学習の理念をふまえ、社会教育事業として展開されている計画や経営をマネジメントの視点からグループワークなどで考察・分析する。さらに、実際に学習対象ごとの社会教育施設の経営計画を作成し、発表・評価する。</p>			
学修目標			
<p>1. 社会教育事業や社会教育施設の経営において必要な基礎知識が説明できるようになる。</p> <p>2. グループワークを通し、協働で社会教育を推進するためのネットワークやプログラムを構築できるようになる。</p> <p>3. 社会教育施設の経営計画の作成を通し、各人のコーディネート能力やプレゼンテーション能力の向上を図る。</p>			
授業計画			
<p>対面形式を原則とするが、遠隔授業とする場合があるため、マナバを確認すること。</p> <p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 社会教育行政と地域課題</p> <p>3. 社会教育行政と社会教育の展開の場 【青少年教育施設の施設経営をもとに】</p> <p>4. 社会教育事業（施設）の経営戦略その？ ・基本的な考え方（理念）</p> <p>5. 社会教育事業（施設）の経営戦略その？ ・学習課題の把握と事業計画の作り方</p> <p>6. 社会教育事業（施設）の経営戦略その？ ・広報戦略と連携・協力体制の作り方</p> <p>7. 社会教育の場づくり（施設運営と予算）</p> <p>8. 社会現場における人づくりと地域 【社会教育事業や施設を分析・評価】（グループワーク）</p> <p>9. 社会教育事業や施設のマネジメントについて</p> <p>10. 社会教育事業や施設経営の評価</p> <p>11. 社会教育事業や施設経営の改善 【社会教育事業や施設経営計画を作成する】（グループワーク）</p> <p>12. 社会教育事業（行政）や社会教育経営の分析</p> <p>13. 社会教育事業計画の改善案の提案・まとめ</p> <p>14. 社会教育事業改善計画の発表</p> <p>15. 全体まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：事前配布資料およびmanabaに掲載された学習資料を事前に予習する（2時間）</p> <p>復習：授業の学習内容を振り返り、レポートを作成する（2時間）</p>			

自分の身近な社会教育施設（公民館、図書館、博物館、青少年教育施設、女性教育施設等）、様々な施設の運営やサービス、利用者の状況や、空間（場）づくりを観察するなど、地域の社会教育を推進する現場に注意を払うこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

竹内?『生きるための図書館?一人ひとりのために』岩波書店、2016年。

成績の評価基準

授業中レポート30%・議論・討論への貢献度30%・最終レポート40%

社会教育経営の実務の内容を理解し、実際の事業計画や運営計画の立案ができる。

オフィスアワ -

なし

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

特になし。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回

備考（受講要件）

社会教育主事資格の取得希望者

実務経験のある教員による実践的授業

実務家の経験的知見を踏まえ、社会教育施設経営にかかわる諸問題を理解する。

ナンバリングコード

FHS-BDX2501

科目名

地域づくりとNPO

英語名

Community Development and NP

開講学科

法経社会学科地域社会コース

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

酒井佑輔

連絡先 (TEL)

099-285-7292

連絡先 (MAIL)

sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

特定非営利活動法人（以下、NPO）という言葉が注目されるようになったのは、1996年の阪神・淡路大震災以降であろう。1998年に特定非営利活動法が施行され、内閣府の調査によれば全国で認証されたNPO数は2020年度06月末現在で5万を超えている。鹿児島県内にも2018年には800を超えるNPOがあり、人口10万人当たりの認証数は全国で3番目に多い。こうしたNPOが環境保護や若者の居場所づくり、国際協力、外国人支援、生涯学習の場の提供等の多様なテーマで活動をすすめる、「新たな公共」を担う存在として注目されている。しかしながら、その一方でNPOの6割以上は財政規模が500万円未満でボランティアの支援によって支えられていたり、後継者不足や活動資金確保の困難等を理由に活動を休止をしている組織も多い。したがって、本授業では、NPOの歴史の変遷やその存在の今日的意義を多角的な視点から理解したうえで、地域づくりにおけるNPOの可能性について検討する。

なお、授業は原則zoomを用いたリアルタイム型形式で実施する。また、反転型授業のため、授業ごとに論文講読等の予習課題が必ずかされる。

学修目標

- 1) NPOの歴史的系譜や現代社会におけるその存在意義について多角的な視点から理解を深める。
- 2) 鹿児島県において地域づくりをすすめるNPOの事例を理解し検証する。
- 3) 地域づくりにおけるNPOの可能性について説明できるようになる。

授業計画

(2021.7.12改定/revised)

授業はすべてリアルタイム型の遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

1. オリエンテーション(1) 授業の進め方・概要を理解する
2. オリエンテーション(2) 地域づくりにおけるNPOの現代的意義を探る
3. NPOの歴史を知る
4. 鹿児島のNPOのこれまでと現在
5. 鹿児島のNPOと地域づくり(1) 事前学習
6. 鹿児島のNPOと地域づくり(1) ゲストスピーカー講義 (僻地での若者の就労・自立支援：一般社団法人P S支援機構)
7. 鹿児島のNPOと地域づくり(1) 事後学習
8. 鹿児島のNPOと地域づくり(2) 事前学習
9. 鹿児島のNPOと地域づくり(2) ゲストスピーカー講義 (外国人の学習権保障：支えあいネットATLAS)
10. 鹿児島のNPOと地域づくり(2) 事後学習
11. 鹿児島のNPOと地域づくり(3) 事前学習
12. 鹿児島のNPOと地域づくり(3) ゲストスピーカー講義 (鹿児島県共生・協働センターco.collabo(予定))
13. 鹿児島のNPOと地域づくり(3) 事後学習
14. 鹿児島の地域づくりを担うNPOと私
15. まとめ 地域づくりにおけるNPOの可能性と課題
16. 期末試験は行わない(指定期日までに期末レポートを提出)

授業外学習(予習・復習)

予習2h: 授業ごとに提示する資料(教科書や新聞記事、論文)を必ず事前に読んでおくこと。

復習2h: 授業で学んだ内容を振り返りまとめること。

教科書

早瀬昇 『「参加の力」が創る共生社会～市民の共感・主体性をどう醸成するか～』 ミネルヴァ書房、2018。

参考書

佐藤一子編 『NPOの教育力 生涯学習と市民的公共性』 東京大学出版会、2004や

西川正 『あそびの生まれる場所? 「お客様時代」の公共マネジメント』 ころから株式会社、2017等、適宜授業で紹介。

成績の評価基準

授業毎の小レポートと予習課題(35%)

授業・グループワークへの参加・貢献度(35%)

期末レポート(30%)

詳細は第1回のオリエンテーション時に提示予定。

オフィスアワー

木曜1限。ただし、メール等で事前に連絡があれば随時対応する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

PBL、反転型授業

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全て

備考(受講要件)

- ・「社会教育概論」及び「地域社会を学ぶ」をすでに履修しているもののみ受講可とする。
- ・受講を希望する学生は必ずオリエンテーションに出席すること。
- ・全授業への出席を原則とし、授業数の1/3を欠席した場合、つまり5回の欠席で、学則上、成績評価の対象外とする。受講生には、授業やグループワーク、グループ発表への能動的な参加が求められる。
- ・授業計画は暫定のものであり確定版はオリエンテーション時に案内予定である。
- ・授業は原則zoomを用いて行いグループワーク時には顔出し必須とする。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX3403			
科目名			
環境教育論			
英語名			
Fundamentals of Environmental Education			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小栗有子		099-285-7293	yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本講義は、従来の環境教育論を批判的に考察し、環境問題を教育学的に捉え直すことで、人間形成における環境の意味を生命(いのち)という観点から環境教育を論じる。講義では、科学技術の発達や社会経済制度の高度化によってもたらされた環境変化が、人の成長にいかなる影響を与えてきたのかについて考察し、人と自然、人と人の関わりの断絶と再結合の意味について掘り下げていく。</p> <p>講義の方法としては、環境教育の研究や政策動向を示しつつ、答えなき問いに、個人で、また、グループで考えることを重視する。加えて、鹿児島市環境未来館や森の幼稚園等で活躍する方をゲスト講師として招聘し、現場から課題を探り、解決方を検討する。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> 暮らしにおける人と自然環境とのかかわりが変化する原因と影響について説明ができる 人の暮らしと自然環境との関わり方を取り戻す意味と方法について考えることができる 			
授業計画			
<p>講義は、リアルタイム同時配信 (ZOOM) で実施予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 「私」と環境との関わり 環境教育(論)で扱う「問い」 環境問題の捉え方 外なる自然と内なる自然 生活世界の中の環境教育 今と昔 人が育つ環境変化1: 開発と科学技術の発達 人が育つ環境変化2: 生活世界と学校教育 環境教育実践の現状と課題1: 事例を知る 環境教育実践の現状と課題2: 事例から考える 環境教育実践の現状と課題3: 事例を知る 環境教育実践の現状と課題4: 事例から考える 環境教育の視座と論点1: 歴史と政策 環境教育の視座と論点2: 歴史と理論 これからの環境教育を考える1: 世界の動き これからの環境教育を考える2: 日本の動き まとめ 			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習: 授業の副教材として提示する資料を読むこと、及び、授業中に出された課題(問い)について適宜、調べ考えること(標準時間約2時間)</p> <p>復習: 講義内容を復習し、レポートを提出すること(標準時間約2時間)</p>			
教科書			
授業の中で紹介する			
参考書			
今村光章編『環境教育学の基礎理論』法律文化社			

大田堯『大田堯自選集成1 - 生きることは学ぶこと』藤原書店 高野孝子編『PBE - 地域に根ざした教育』海象社
成績の評価基準
各回のレポート(70%)、最終レポート(30%)
オフィスアワー
メールで事前連絡上、随時対応
アクティブ・ラーニング
グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); アクティブ・ラーニング(その他の内容)
特になし
アクティブ・ラーニング(授業回数)
12回
備考(受講要件)
特になし
実務経験のある教員による実践的授業
特になし

ナンバリングコード			
FHS-BDX3602			
科目名			
図書館論			
英語名			
Study of Library			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
横山政子	099-812-8501	miwashita@shigakukan.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし	前期		
授業概要			
アクティブラーニングを常に意識した授業を行う。急激な社会の変化に伴い図書館に求められている最近の動向と、今後の図書館の姿について考察し理解を深める。公共図書館、大学図書館、学校図書館のそれぞれの特性・機能・役割を通して、生涯学習に結びついた図書館の役割を理解する。今後の図書館のあり方についてグループワークを通して柔軟な発想力、企画力を培う。			
学修目標			
1. 公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館の特色・機能・役割を理解する。 2. 図書館員としての資質を高めるためのスキルを学ぶ。 3. 最近の図書館の動向を理解する。 4. 最近の図書館の設計・デザインの動向を学ぶ。			
授業計画			
1. 図書館の意義 2. 生涯学習と図書館 3. 公共図書館経営 (1) 鹿児島県立図書館 サービス1 4. 公共図書館経営 (2) 鹿児島県立図書館 サービス2 5. 公共図書館経営 (3) 鹿児島市立図書館1 (企画運営) 6. 公共図書館経営 (4) 鹿児島市立図書館2 (企画運営) 7. 公共図書館経営 (5) 鹿児島県立図書館1 (企画運営) 8. 公共図書館経営 (6) 鹿児島県立図書館2 (企画運営) 9. 公共図書館をデザインする (1) まちなか図書館 10. 公共図書館をデザインする (2) まちなか図書館 11. 海外の図書館—大学図書館 (1) 12. 海外の図書館—大学図書館 (2) 13. 先駆的な公共図書館 (1) 小布施 鳥取 海士 14. 先駆的な公共図書館 (2) 武雄 伊万里 沖縄 15. 先駆的な公共図書館 (3) 海外の図書館			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：事前に提示する学習資料等を読み、疑問点を事前に用意する。(標準時間2時間) 予習：講義内容を復習し、小レポートを提出する。(標準時間約2時間)			
教科書			
教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。			
参考書			
"「つながる図書館」猪谷千香 ちくま新書 「未来をつくる図書館」菅谷明子 岩波新書"			
成績の評価基準			
毎回の授業の際に提出する小レポートに基づき評価する(100%)。			
オフィスアワー			
応相談			

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

特になし

アクティブ・ラーニング(授業回数)

8回実施予定

備考(受講要件)

社会教育主事資格取得を希望する者

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BDX3408

科目名

社会教育実践論

英語名

Practical Study of Social Education

開講学科

法経社会学科地域社会コース

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

金子満・農中至

連絡先 (TEL)

099-285-7603

連絡先 (MAIL)

nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

金子満

前後期

後期

授業概要

社会教育実践の歴史と現状について学び、戦後の社会教育の発展過程ともたらされた成果、残された課題について理解します。戦後の社会教育実践は社会の発展とともにさまざまに変化してきました。なかでも地域課題解決に向けた住民主体のとりくみからは、今日学ぶべき点が多く存在します。たとえば、現代社会教育実践・活動の事例としては長野県下の事例が多く取り上げられます。この「長野モデル」の分析を手はじめに、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州、沖縄などの全国各地の事例から社会教育の実践分析を進めます。またそれぞれの実践が生起した歴史的な文脈を整理し、その理解を進めます。

学修目標

社会教育の実践にはどのようなタイプのものが存在するのか、その類型化と特色の抽出・分析ができるようになることを目指します。さらに有効な実践をつくるうえでなにが重要になってくるのか、その理念をつかむことができるようになることを目指します。最後に、住民自治や住民の参加・参画がなぜ不可欠なのか自分なりの視点で説明できるようになることを目指します。

授業計画

対面形式を原則とするが、遠隔授業とする場合があるため、マナバを確認すること。

1. オリエンテーション
2. 社会教育活動と社会教育実践とは？
3. 戦後社会教育の展開
4. 戦後社会教育の展開とその地域的多様性
5. 戦後社会教育の展開と都市・農村格差
6. 1950年代・社会教育実践と方法
7. 1960年代・社会教育実践の課題と方法
8. 1970年代・社会教育実践の困難と課題
9. 1980年代・社会教育実践の到達点と臨界
10. 1990年代・生涯学習と社会教育実践
11. 2000年代・不安定化する社会における社会教育実践
12. 民主的社会教育実践とはなんだったのか？
13. 戦後社会教育実践は地域社会になにをもたらしたのか？
14. 社会教育実践の価値はどのように言語化できるのか？
15. 地域づくり・地方創生と社会教育実践はどのように付き合っていけばよいのか？（確認小試験を含む）

授業外学習（予習・復習）

予習：事前配布資料およびmanabaに掲載された学習資料を事前に予習する（2時間）

復習：授業の学習内容を振り返り、レポートを作成する（2時間）

社会教育にとどまらず、戦後の日本の地域住民はどのような教育を受け、学びを深めてきたのか考え、理解してください。社会教育実践の展開と社会教育の条件整備には地域差があり、一概に全国的な到達点を示すのは困難です。社会的文脈に照らして、なにが優良で、価値があり、見込みのある実践といえるのかを判断するために必要な情報を積極的に収集するようにしてください。

教科書

授業中に提示する。

参考書

藤岡貞彦『社会教育実践と民衆意識』草土文化、1977

大串隆吉・

田所祐史『日本社会教育史』有信堂、2021

成績の評価基準

授業後の小レポート（50%）・最終レポート（20%）・予習課題の遂行状況（30%）

オフィスアワー

木曜日の昼休み中（12時10分から12時50分）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

個人学習成果物の作成とそれに基づくグループによる討論、学習理解の確認のための発話・小レポートの作成

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回以上

備考（受講要件）

社会教育主事資格取得を強く希望するもの。

社会教育概論および生涯教育概論を履修し、

その他社会教育主事資格関連科目を履修済みのもの。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX3102			
科目名			
観光英語			
英語名			
Tourism English			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
山崎美智子		099-227-5173	yamasaki@ists.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>配布資料で基礎的な情報を学習し、小テストや課題を通じて、鹿児島に関する知識を深め、英語の語彙力や表現力を強化する。授業への積極的な参加がベースとなる。</p> <p>効果的な英語のプレゼンができるようになるため、予習・復習を確実にし、学習内容を毎回授業中に発表し、それに対するフィードバックを通して英語コミュニケーション能力を高める。</p> <p>まとめ、総括の時間に複数回分の総合的なプレゼンを行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 効果的な英語のプレゼンができるようになる。 自己紹介（専門分野の説明等）が英語でできるようになる。 鹿児島について自分の英語で説明できるようになる。 キーワードをもとに英語でのプレゼンができるようになる 英語のコミュニケーション能力を高める。 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。</p> <p>第1回 自己紹介・英語によるプレゼンの基礎 第2回 鹿児島大学、自分の専門の紹介 第3回 鹿児島の位置・地理的特徴（自分の出身地の紹介） 第4回 鹿児島の気候、生活 第5回 まとめ 第6回 鹿児島の環境（国立公園、世界自然遺産、ジオパーク） 第7回 鹿児島の自然（離島） 第8回 鹿児島の産業 第9回 鹿児島の食 第10回 まとめ 第11回 鹿児島の歴史 第12回 鹿児島の歴史（世界文化遺産） 第13回 鹿児島の観光地 第14回 鹿児島の観光地 第15回 総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>授業の内容を次週に発表できるよう、必ず復習(2H)すること。 クラスによっては事前予習(2H)を課題として出すこともある。</p>			
教科書			
プリントを配布予定			
参考書			
「英語で説明する日本の文化 必須表現グループ100」 語研 発行			

成績の評価基準

授業への積極的な取り組み態度・発表内容・小テスト(100%)
3回以上の欠席は認めない。
期末テストは行わない。

オフィスアワ -

授業後に可能であれば対応する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

12

備考(受講要件)

地域社会コースの学生(旧カリは経済情報学科学生)に限る。
受講者数は最大20名とする。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし。

ナンバリングコード

FHS-BDX3503

科目名

コミュニティ論

英語名

Community

開講学科

法経社会学科地域社会コース

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

横田尚俊

連絡先 (TEL)

083-933-5240

連絡先 (MAIL)

n.y@yamaguchi-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

「災害とコミュニティ」を中心テーマに設定した上で、災害に対する人々や集団・組織の対応行動（避難行動、愛他行動、社会的支援）、災害の地域社会（コミュニティ）に対するインパクトなど、災害の社会過程をめぐるテーマに検討を加えるとともに、災害社会学の基本的な視点や研究枠組みについて説明する。

学修目標

1. 災害社会学の基本的視座や概念、研究方法などを学び、災害の特質を現代社会の構造・変動との関連で理解することができる。
2. 現代社会の脆弱性、および災害に強いコミュニティ・社会をどう構築していくかという課題について考察できる。
3. 災害と現代社会をめぐる諸問題について、自主的に資料・データを調べたり、参考文献を渉猟したりすることができる。
4. 災害と現代社会をめぐる諸問題を、レポートなどにおいて的確に表現できる。

授業計画

この授業は遠隔方式【リアルタイム型】でおこなう。

第1回 インTRODクシヨン：現代日本の災害

第2回 災害をどうとらえるか（1）災害の社会学的定義

第3回 災害をどうとらえるか（2）都市災害の特質

第4回 災害研究の諸相：災害の社会学・社会心理学の展開

第5回 災害研究の枠組み

第6回 災害と集合行動（1）集合行動とは何か

第7回 災害と集合行動（2）災害とパニック

第8回 災害と避難行動

第9回 避難行動の特質

第10回 避難行動に影響を及ぼす諸要因：災害下位文化、家族・地域社会と避難行動

第11回 災害と援助行動・愛他行動

第12回 愛他行動としてのボランティア活動、災害ボランティア・NPOのネットワーク化

第13回 災害と社会的支援：自治体間支援における創発ガバナンス型支援の意義

第14回 災害とコミュニティ

第15回 コミュニティと災害回復力

授業外学習（予習・復習）

（予習）現代日本における災害事例やその被害の特徴、災害をめぐるトピックなどについて、内閣府防災情報のページ（HP）や、最近の防災白書などによって調べておく（標準的時間は約2時間）。

（復習）講義資料を読み返し、講義の中で紹介した参考文献を読んでみる（標準的時間は約2時間）。

教科書

テキストを使用しない。毎回、資料を配付し、その説明と板書により授業を進める。

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

大矢根淳・浦野正樹ほか編『災害社会学入門』弘文堂、2007年
 浦野正樹・大矢根淳ほか編『復興コミュニティ論入門』弘文堂、2007年
 岩崎信彦・鶴飼孝造ほか編『阪神・淡路大震災の社会学』（全3巻）昭和堂、1999年（昭和堂のHPにて無料公開されています。 <http://www.showado-kyoto.jp/news/> ）
 田中重好・黒田由彦ほか編『防災と支援』有斐閣、2019年
 その他の参考文献については、講義の中で適宜紹介する。

成績の評価基準

「期末試験」（80%）、「小レポート（複数回）」（20%）

オフィスアワー

各時間の終了後。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

ビデオ・DVD映像などを積極的に活用し、視聴した感想や浮かんだ疑問点などを受講生に報告してもらう予定である。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回中3回程度

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない。

ナンバリングコード			
FHS-BDX3407			
科目名			
人権教育と平和			
英語名			
Human Rights and Peace Education			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中至		0992857603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
近代国家の誕生とともに根付く人権思想の展開過程に着目しつつ、現代的人権思想とその構造を理解し、それを具現化する営みとしての人権を確立し、平和を実現する教育実践の意味と役割について考えていきます。			
学修目標			
人権にかかわる教育・学習体験の差異を理解し、地域ごとの人権課題および平和に関する諸問題を適切に理解することができるようになる。			
授業計画			
対面形式を原則とするが、遠隔授業とする場合があるため、マナバを確認すること。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「人権問題」はどのように語られてきたか? 3. 人権問題に地域差はあるのか 4. 人権はなぜ重要視されてきたのか 5. 人権概念と生活の関係 6. 世界の人権問題 7. 近代日本の人権思想と実践 8. 現代日本の人権課題と実践 9. 人権教育の実践的諸相 10. 人権教育とその範囲 11. 現代人権教育にもとめられている基本的視点 12. 現代人権教育の可能性 13. 平和教育の基本原則 14. 平和教育の諸外国の実践 15. 人権教育と平和の未来 (確認試験含む) 			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: 事前配布資料およびmanabaに掲載された学習資料を事前に予習する (2時間)			
復習: 授業の学習内容を振り返り、レポートを作成する (2時間)			
世界の人権問題の状況をつかみ、日本国内の差別・人権問題についてもよく理解しておくようにしてください (予習)。特に鹿児島県内にはどのような人権課題が存在しているのか、その地域的特性について理解するように努めてください (復習)。			
教科書			
適宜指示する。			
参考書			
内田龍史『部落問題と向き合う若者たち』解放出版社、2014			
岸政彦『マンゴーと手榴弾』勁草書房、2018			
ジョルジョ・アガンベン『人権の彼方に』以文社、2000			
スラヴォイ・ジジェク・岡崎玲子『人権と国家』集英社新書、2006			
成績の評価基準			
授業後の小レポート (50%)・確認試験 (50%) 確認試験は対面での実施が困難になった場合、最終課題レポー			

トとする場合もあります。

オフィスアワ -

随時対応します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

個人学習成果物の作成とそれに基づくグループによる討論、学習理解の確認のための発話・小レポートの作成

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中12回を予定

備考（受講要件）

社会教育主事資格取得を希望するもの。

社会教育概論および生涯教育概論を履修し、

成人教育論を履修済みもしくは履修予定のもの。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BDX3404

科目名

成人教育論

英語名

Theory on Adult Education

開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中至		0992857603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

子どもを対象とする学校教育の実践・理論とは異なる成人のための学習に関する基礎理論と学習方法・内容について学びます。具体的には、成人を対象とする教育がどこで、どのように生起し、そこにどういった学習が成立するのかを欧米諸外国の実践も視野に探究していきます。とりわけ、これまでの自己の学習経験や教育体験からは想像できない学びのひろがりや奥行き、それに付随する基礎理論の成立と展開について、質疑応答、意見交換の過程を経ながら考えを深めます。

学修目標

現代日本および諸外国の成人教育の実践と基礎理論に関する知識の獲得および基礎理論の実践への応用可能性を含めた態度の育成を目的とします。

授業計画

遠隔授業を基本とする。

1. オリエンテーション
2. 学校教育における教育・学習観
3. 成人のための教育・学習理解がなぜ必要なのか？
4. 成人を学習対象者と想定する施設
5. 成人を学習対象者と想定する実践
6. 成人教育の理論と実践 歴史的な視点から
7. 成人教育の理論的動向 近年の動向を中心に
8. 成人教育の実践 都市と農村との差異
9. 諸外国における成人教育の展開(一) 東アジア地域を中心に
10. 諸外国における成人教育の展開(二) ヨーロッパ・北米地域を中心に
11. 諸外国における成人教育の展開(三) 中南米・アフリカ地域を中心に
12. 成人のための教育活動・実践のための制度/法/機会
13. 成人の教育・学習を支える教育専門職
14. 社会構造の変容と成人教育に求められるもの
15. 現代成人教育の課題と展望

授業外学習(予習・復習)

予習：事前配布資料およびmanabaに掲載された学習資料を事前に予習する(2時間)

復習：授業の学習内容を振り返り、レポートを作成する(2時間)

各回の授業中に適宜資料を配布します。それらの資料を読み込んだ上でレポート作成に取り組んでください。また復習については各回の冒頭で振り返り・内容確認等を実施する場合がありますので、学んだ内容に関する記憶の定着化を進めてください。

教科書

授業中に提示します。

参考書

マルカム・ノールズ『成人教育の現代的実践』(鳳書房、2002)

成績の評価基準

授業レポート・予習課題状況（50%）・参画・貢献状況（25%）・最終レポート（25%）

オフィスアワ -

随時対応します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

グループによる討論、発表資料の作成とそれに基づくプレゼンテーション、学習理解の確認のための発話・小レポートの作成

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回を予定

備考（受講要件）

社会教育概論、生涯教育概論などの地域社会コース開設科目の社会教育・生涯学習関連科目を3科目以上受講し、単位を取得しているもの。なお、この条件を満たさないものは個別に事前に個別相談の上、受講することを必須としてください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BDX3412

科目名

社会教育実習III

英語名

Practical of Social Education III

開講学科

法経社会学科地域社会コース

コース

経済コース

授業科目区分

法経社会・経済コース/選
択科目

授業形態

実習

単位数

1単位

開講期

3~4年

担当教員

農中至

連絡先 (TEL)

099-285-7603

連絡先 (MAIL)

nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

社会教育の実践や現場の理解に向けた切り口は多様です。本実習では住民の基層組織としての自治公民館活動の実態に着目し、自治公民館施設の在り様と地域住民によるそれらの受容の程度、自治公民館を拠点とした学びの実際について探究し、自治公民館の地域的機能と現代地域社会において果たしている役割について理解することを目指します。鹿児島県内の複数地域または特定地域における調査実習を予定しています。

学修目標

現代社会教育の解釈において欠くことのできない自治公民館の役割と機能、そこで生成する学びについて理解し、行政組織や公的社会教育、学校、住民組織、住民生活とのかかわりについて探究することを目的とします。

授業計画

対面形式を原則とするが、遠隔授業とする場合があるため、マナバを確認すること。

1. オリエンテーション 社会教育実習?事前指導
2. 地域社会教育実践報告書の読解と分析 長野県の事例を中心に考える自治公民館理解の観点
3. 地域社会教育実践報告書の読解と分析 遠隔地の事例のなかから考える自治公民館の役割と住民組織
4. 調査仮説と探究課題の設定
5. 鹿児島大学周辺自治公民館の予備的調査 どこにあるのか?
6. 鹿児島市内の自治公民館の定点観測および成果報告 だれがそこへいくのか?
7. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査 活用の実際と実態調査
8. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査
9. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査
10. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査
11. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査
12. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査
13. 調査成果の確認と成果報告の作成
14. 調査成果の報告
15. 調査成果の現場への還元可能性の検討 社会教育実習?事後指導
16. 確認試験

授業外学習 (予習・復習)

予習: 事前配布資料およびmanabaに掲載された学習資料を事前に予習する (2時間)

復習: 授業の学習内容を振り返り、レポートを作成する (2時間)

社会教育職員を希望する人は、具体的な実践を多く知るとともに (予習)、社会教育学の理論・歴史に関する知識も求められます。質の高い豊富な学習量こそ実践現場で生きてくるということを十分に理解してください (復習)。また、専門領域にとどまらず関連諸学問との接点を見つけ出す努力を進めるようにしてください (予習・復習)。

教科書

授業中に提示します。

参考書

牧野篤『生きることとしての学び』(東京大学出版会、2014)

牧野篤『社会づくりとしての学び』(東京大学出版会、2018)

牧野篤『公民館はどう語られてきたのか』（東京大学出版会、2018）

成績の評価基準

授業後の小レポート（25%）・課題の準備状況と内容（35%）・参加・参画状況（40%）

オフィスアワ -

水曜日の昼休み中（12時10分から12時50分）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

グループによる討論、フィールド調査に基づく発表資料の作成とそれによるプレゼンテーション、学習理解の確認のための発話・小レポートの作成

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回を予定

備考（受講要件）

社会教育主事資格取得を希望するもの。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BDX2403

科目名

福祉と地域の社会学（旧 福祉社会学）

英語名

Welfare Sociology and Community Studies

開講学科

コース

法経社会学科地域社会コース

地域社会コース・経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

片桐資津子

なし

katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

この講義では、日本の少子高齢化に着目し、国際比較の観点から、福祉・介護・医療の諸問題を体系的にかつ分かりやすく整理したうえで、毎回、受講生と意見交換をします。

福祉社会学に関する既存の理論や常識について、日本、米国、中国の多様なデータから検討し、新しい仮説の構築や理論の修正のプロセスを学習してもらいます。具体的なトピックは、家族、地域社会、高齢者ケア施設、認知症ケア、年金・介護保険制度、世界の尊厳死と安楽死、障害者福祉、生涯発達、生活保護など、予定しています。

学修目標

- (1) 少子高齢化研究と時事問題の関連を知る
- (2) 社会学の概念を学ぶ
- (3) 受講生が各自で、福祉について何らかの問題意識を抱けるようにする

授業計画

- 第1回：個人の長寿化と社会の高齢化
- 第2回：QOL（生活の質）研究と福祉概念
- 第3回：措置から契約への変化とノーマライゼーション
- 第4回：20世紀以降の高齢者福祉の小史
- 第5回：高齢者差別への社会的挑戦
- 第6回：米国オレゴン州の尊厳死
- 第7回：米国のコミュニティと高齢者介護施設
- 第8回：福祉多元社会論と福祉ミックス
- 第9回：都市化するコミュニティと高齢者福祉の変化
- 第10回：地域社会における福祉的役割
- 第11回：障害者福祉と社会モデル
- 第12回：障害者福祉と地域から排除される家族
- 第13回：地域福祉の主流化と地域包括ケア
- 第14回：ワーキングプアとグローバル資本主義
- 第15回：生活保護とワーキングプアの社会的包摂

基本的にすべての授業は、リアルタイムのオンライン型で実施します。ただし受講生のネット接続といった受講環境や、今後の新型コロナ感染状況次第で、授業回数や内容は変更となる可能性があります。

授業外学習（予習・復習）

〔予習〕前週に配付された次回のプリントをみて流れをつかみます。知らない言葉等を事前に調べます（学習に関わる標準的時間は2時間）。

〔復習〕manabaに更新されたプリントを閲覧し知識の定着をはかります（標準的時間は2時間）。

教科書

テキストは使用しません。毎回事前に、manabaにプリントをアップします。

参考書

適宜、manabaに掲載します。

成績の評価基準

授業への取り組み態度（50%）、中間報告書（20%）、授業中に指示されたパワポ最終成果物の提出とお披露目会（30%）による

オフィスアワ -

毎週火曜2

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

授業時間内にmanabaのresponで質問する学生には、その内容によって加点する場合があります。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

パワーポイントを使えること。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX3101			
科目名			
外国書研究			
英語名			
Studies on Foreign Works			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース・経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北崎浩嗣		099-285-7592	ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
特になし		後期	
授業概要			
経済学の古典であるアダム・スミスの「諸国民の富（通称・国富論）」を原典で読み、スミスの経済学理論を学び、当時の時代背景、思想も学ぶ。			
学修目標			
1) 経済学に関する英語の文献を、和訳することができる。 2) 経済学に関する英語の文献を、経済学的に解釈できる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 「諸国民の富の性質および諸原因に関する一研究」			
第2回 序論および本書の構想			
第3回 第1章 分業について			
第4回 第1章 分業について			
第5回 第1章 分業について			
第6回 第1章 分業について			
第7回 第2章 分業を引き起こす原理について			
第8回 第2章 分業を引き起こす原理について			
第9回 第3章 分業は市場の広さによって制限されるということ			
第10回 第3章 分業は市場の広さによって制限されるということ			
第11回 第4章 貨幣の起源および使用について			
第12回 第4章 貨幣の起源および使用について			
第13回 第4章 貨幣の起源および使用について			
第14回 第5章 諸商品の実質価格および名目価格について			
第15回 第5章 諸商品の実質価格および名目価格について			
授業外学習 (予習・復習)			
講義前には、前もって与えられた範囲分を和訳し、内容を理解しておくこと (2H)			
講義後には、正式な解釈で、内容を確認すること (2H)			
教科書			
Adam Smith 『The Wealth of Nations』The Cannon Edition			
参考書			
特になし			
成績の評価基準			
毎回の講義で担当した和訳の箇所を発表する (80点) と期末レポート (20点) で評価する。			
オフィスアワ -			
月曜日3時間目、研究室			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

16回中14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

特になし

ナンバリングコード			
FHS-BCX4301			
科目名			
演習II(憲法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		学部共通	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
大野友也		099 - 285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
課題研究作成のための指導を行う			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的理解を深める (2) 論文作成能力を身につける			
授業計画			
この講義は、原則対面で行います(担当教員としてはそれを希望している)。また、対面を望まない受講生がいるだろうことも踏まえ、Zoomによる同時配信も行います。対面・遠隔どちらに出席しても期末の評価に影響しないので、各自で判断してください。			
コロナの影響により、15回全てが遠隔授業となる可能性があります。その場合、ズームを使ってやりますので、各自ズームのアカウント(無料)を取得しておいてください。			
ネット環境が整っていない学生は、その旨、大野宛にメール(onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp)するか、manabaの掲示板に書き込んでください。大野宛にメールして24時間以上返信がない場合は、必ず掲示板に書き込むこと。			
第1回 ガイダンス 第2～15回 卒業研究の作成指導			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと(120分程度)。 【復習】配布したレジュメを再読し、論点を再考すること(160分程度)。			
【課外活動】合宿・社会科見学などの研修を予定しています。			
教科書			
各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
講義への取り組み、卒業論文の内容などを総合的に(100%)評価します。			
オフィスアワ -			
火曜5限目(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX4401			
科目名			
特殊研究			
英語名			
Special Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	6単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
各担当教員		各教員に確認すること	各教員に確認すること
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
各人の問題関心に応じて担当教員の指導の下に特殊研究レポートの作成を行う。			
学修目標			
(1) 問題関心を踏まえてリサーチ・クエッションを設定する。 (2) リサーチ・クエッションを踏まえて文献、データを収集・整理・分析し、成果を適切に表現する。 (3) 特殊研究レポートの作成を通じて経済や経営・会計への理解を深める。			
授業計画			
(1) リサーチ・クエッションの設定 (2) 文献及びデータの収集・整理 (3) 文献及びデータの分析・考察 (4) 特殊研究レポートの作成 なお、この授業計画は状況によって変更することがある。			
授業外学習 (予習・復習)			
文献の収集、データの収集、その整理・分析、報告資料の作成など。			
予習(2H)・復習(2H)			
教科書			
特になし。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
レポート作成に当たっての学習、及び提出された特殊研究レポートを評価する(100%)。			
オフィスアワ -			
各教員に確認すること			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
各教員に確認すること			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
萩野誠	7605		mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
経営学に関するさまざまな分野の書籍を読むことにする。			
<p>図書の選定は、日本経済新聞社の書評による。 令和2年～3年7月に掲載された書籍から、経営情報に関係する文献を選定する。 教科書のリストは8月末までに、シラバスで公開する。</p> <p>、 各著作の内容を中心に、ドラッカーマネジメントの観点から議論を深める。 とくに、ICTに関する部分には重点をおいて学習をする。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当した本の内容を的確に要約し、解説し、評価(コメント)する能力をつける。 2. ディスカッションに積極的に参加できるようになる。 3. ドラッカーマネジメントによる戦略計画の概念を活用できるようになる。 			
授業計画			
授業回数 対象本 2020年～2021年8月において、日本経済新聞の書評に掲載された図書から選定する。決定は8月下旬 毎回1冊を報告・討論する。			
授業外学習(予習・復習)			
合計60時間(単位の実質化) 予習: 口頭で本の内容ができるまで、繰り返し通読し、要点をノートに手書きすること。 このときに本の各章に対してコメントを記入すること。(各3時間30分: 52時間30分) 復習: ノートに得られた知識を記載し、改めて本の内容をふりかえること(各30分: 7時間30分)			
教科書			
直前にmanabaに掲示する。			
参考書			
ドラッカー『マネジメント(上)』ダイヤモンド社			
成績の評価基準			
下記の事項の達成度を授業中確認し、評価をおこなう。 ノート評価: 5点満点×15回=75点(71%) ディスカッション 2点満点×15回=30点(29%)			
オフィスアワー			
manabaにておこなう			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

やむを得ない理由で欠席する場合、学生がなんらかの方法で証明すること。診断書の場合は、コピーの提出でよい。欠席した翌週に限りノート提出を認める。

それ以外の欠席は、無断欠席とみなし、ノートの未提出分5点を減点する。

また、法科大学院の先進的な例にしたがい、授業の質向上と授業中の教員と学生の誤解を防ぐために、すべての授業を記録する。授業初日に個人情報の取扱について確認をとるので、認印を忘れないようにすること。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX2605			
科目名			
システム構築実習			
英語名			
Actual Training of System Audit			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	実習	1単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
市川英孝		099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
現在の社会は、多くのシステムが相互に影響することによって成立している。特に、ITの発達により、Webシステム上で非常に多くの情報の発信だけでなく、受信も可能にしている。そこで本授業では、企業の情報発信源としてのメインツールとなっているホームページの作成を通して、その仕組みと現代企業が行っているWebシステムを学習する。			
学修目標			
HTML言語を使用し、自分のホームページを作成する。多くのツールが発達している状況下、企業がどのようなツールを用いてステークホルダーと情報共有を行っているかを理解する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス、キーボード操作について			
第2回 HTML、HPとは(1)			
第3回 HTML、HPとは(2)			
第4回 HTML、HPとは(3)			
第5回 HTML、HPとは(4)			
第6回 文章を構成するタグ(1)			
第7回 文章を構成するタグ(2)			
第8回 文章を構成するタグ(3)			
第9回 HPへのリンク(1)			
第10回 HPへのリンク(2)			
第11回 CSS スタイルシートとは(1)			
第12回 CSS スタイルシートとは(2)			
第13回 HPへの画像を表示する			
第14回 表を作成する、複数のページで構成する			
第15回 デザイン、JavaScriptの使用方法、HP公開			
授業外学習(予習・復習)			
授業時間内では、HP作成は完了しないので、必要に応じて各自でのHP作成を行う。最低でも授業時間外で50時間は作業の時間を確保するように。			
教科書			
『できるホームページ HTML&CSS入門 Windows 10/8.1/7対応』(インプレス社)			
参考書			
今すぐ使えるかんたん ホームページHTML&CSS入門 リブワークス 技術評論社(2019)			
成績の評価基準			
作成した成果物(自身のHP)100%			
オフィスアワー			
メールにて連絡後、適宜対応 水曜2限研究室にて			
アクティブ・ラーニング			
その他;			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

パソコンを使った実習

アクティブ・ラーニング（授業回数）

すべて

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX2327			
科目名			
商学総論			
英語名			
Outline of Commerce Science			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>商学や商業の中心的概念のひとつに、交換と売買取引があります。また、近年では、交換や売買取引を超えて、組織の市場へのコミュニケーションとして展開されるマーケティングが商学や商業の議論の中心になってきています。</p> <p>本講義では、マーケティングを中心とした商学の基礎について、個人を中心としたミクロ的視点から、広く社会を中心としたマクロ的視点に至るまで幅広い基礎的視座を習得することを目指します。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 商学・商業・流通・マーケティングについての包括的かつ基礎的な理解 2. 自分の身近な商学的現象をマーケティングの観点から説明できる 3. 社会でおこっている商学的現象をマーケティングの観点から説明できる 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：ガイダンス 概論（商学・商業・流通・マーケティング） 第2回：STPマーケティング(1) 第3回：STPマーケティング(2) 第4回：STPマーケティング(3) 第5回：マーケティングデザインとマーケティングミックス 第6回：Product 製品戦略 第7回：Price 価格戦略 第8回：Place 流通戦略 第9回：Promotion プロモーション戦略 第10回：小括 第11回：マーケティングリサーチ(1) 第12回：マーケティングリサーチ(2) 第13回：ECとデジタルマーケティング(1) 第14回：ECとデジタルマーケティング(2) 第15回：まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：次回授業までに調査すべきことなど授業内で指示します（学習に関わる標準的時間は約2時間）。</p> <p>復習：レジュメや資料に沿って復習してください（標準的時間は2時間）。</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用います。			
参考書			
<p>石川和男（2013），『基礎からの商業と流通〔第3版〕』，中央経済社。</p> <p>フィリップ・コトラーほか（2014），『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント〔第12版〕』，丸善</p>			

出版。

石原武政ほか（2018），『1からの流通論＜第2版＞』，碩学舎。

石井淳蔵ほか（2019），『1からのマーケティング＜第4版＞』，碩学舎。

成績の評価基準

授業内課題（100％）によって総合的に評価します。

なお，授業内課題は複数回実施されます。全ての課題を提出していないと単位は認められません。

オフィスアワ -

金曜3限。必ず事前にメールにてアポイントをとってください。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

平成29年度以降入学の商業免許取得希望者の必修科目となっています。隔年開講の科目なので，履修には十分留意してください（次回開講予定は2023年度以降になります）。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX2001			
科目名			
アクティブ・プログラム			
英語名			
Active Program			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	実習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
西村知		099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
フィリピン・ポリテクニク大学 (PUP)、フィリピン大学農学部 (UPLB) などを訪れ、英語による交流会を行う。フィリピンの経済や社会を視察する。			
学修目標			
英語によるコミュニケーション力を高める。東南アジア経済に関する理解を深める。			
授業計画			
* 新型コロナウイルスの影響で中止の可能性がある。			
1. オリエンテーション：授業に関する説明			
2. フィリピンの社会経済			
3. フィリピンの言葉			
4. 視察に関する解説			
5. 教員、学生による視察内容の再構築			
6. フィリピン旅行における注意			
7. 博物館を視察し自然、歴史、社会などを学ぶ			
8. 自然・社会・歴史に関するディスカッション			
9. 特定テーマに関わるサイト視察			
10. 上記サイト視察に関するディスカッション			
11. PUPにおけるプレゼン			
12. PUP学生との交流			
13. UPLB視察			
14. 近接する農業研究所視察			
15. 帰国後に研修の総括			
授業外学習 (予習・復習)			
事前授業に授業においては、課題を課す。			
視察においては、デジタルデータを事前にしっかり予習するようにする(2H)。			
事前授業、視察の内容は復習によってしっかりとみにつける(2H)。			
教科書			
開講後に指示。			
参考書			
開講後に指示。			
成績の評価基準			
レポートによる (100%)。			
オフィスアワー			
毎週水曜日の正午から30分間 (メールで予約)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

演習（西村）、初級フィリピン語（西村）を受講した（している）ことが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BEX2309

科目名

国際貿易投資論 I

英語名

International Trade and Investment I

開講学科

法経社会学科経済コース

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会・経済コース / 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

山本一哉

連絡先 (TEL)

099-285-7595

連絡先 (MAIL)

yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

本講義では、基礎的な貿易及び貿易政策の理論的な解説したうえで、日本を中心に世界の貿易動向を統計資料等を使って紹介する。また、それを通して、日本及び世界経済の変化や問題点等について解説する。

学修目標

- 1) 国際貿易の基礎的な理論を理解する。
- 2) 日本と世界の貿易について、その動向や構造的な変化について理解する。
- 3) 貿易・通商政策について理解する。

授業計画

すべての講義をオンデマンド型遠隔授業（録画した解説動画）で行う予定である。動画ビデオをOneDriveにアップするので、あらかじめレジュメに目を通して予習したうえで視聴していただきたい。なお、今後の状況次第で、講義内容・形態、評価方法等が変更になる可能性がある。その場合はmanabaで通知する。

- 第1回 ガイダンス（講義の概要、進め方等の説明、日本の貿易統計の紹介など）
- 第2回 質理基礎理論（1）（アダム・スミスの貿易理論）
- 第3回 質理基礎理論（2）（リカードの貿易理論）
- 第4回 質理基礎理論（3）（ヘクシャー・オリーンの貿易理論）
- 第5回 質理基礎理論（4）（リプチンスキーの定理、ストルパ - サミュエルソンの定理、要素価格均等化定理）
- 第6回 質理基礎理論（5）（規模の経済と新しい貿易理論）
- 第7回 通関手続きと関税制度
- 第8回 貿易政策とその理論（1）（関税及び数量規制の部分均衡分析）
- 第9回 貿易政策とその理論（2）（補助金などの部分均衡分析）
- 第10回 世界と日本の貿易動向（1）
- 第11回 世界と日本の貿易動向（2）
- 第12回 日本の貿易構造（1）（戦後～1970年代）
- 第13回 日本の貿易構造（2）（1980年代以降）
- 第14回 日本の貿易構造（3）（日米貿易不均衡と通商摩擦）
- 第15回 国際的な貿易不均衡（グローバルアンバランス）問題

授業外学習（予習・復習）

予習：manaba に掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約 2 時間）

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は 2 時間）

教科書

特になし。

manabaでレジュメと資料を配布する。

参考書

クルーグマン他（山形浩生他訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第10版〕上：貿易編』丸善出版（2017年）

成績の評価基準

詳細はガイダンスで説明するが、ミニ課題5回（50点）と期末課題レポート（50点）で評価する予定である。

オフィスアワ -

曜日・時間：毎週木曜日3限、場所：研究室

メールでの質問は何時でも受け付ける。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

5回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BDX3501

科目名

地域計画論

英語名

Reginal Planning

開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北崎浩嗣		099-285-7592	ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
特になし		前期	

授業概要

分権化・国際化が進展する一方で、過疎化・高齢化に悩む地域社会は、今、地域設計のあり方が問われている。地域の諸問題を、自治体・民間企業・地域住民といった幅広い領域から汲み取り、地域に発生している課題を明確にし、その解決策を多角的・総合的に解明する。また、地域計画の策定過程を検討し、これからのよりよい地域設計を模索する。

学修目標

- 1) 地域の諸問題を自分の視点で考察できる。
- 2) 並行在来線問題と新幹線の影響について述べることができる。
- 3) 地域活性化策をいくつかを提言できる。
- 4) いくつかの自治体の長期振興計画の特徴と課題について述べるができる。
- 5) 行政評価の方法を挙げることができる。

授業計画

本講義は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際には、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 新幹線開通と並行在来線問題
- 第3回 並行在来線の現状と肥薩おれんじ鉄道
- 第4回 長崎新幹線の経緯と現状
- 第5回 櫻島架橋と錦江湾横断トンネルなどの鹿児島交通網問題
- 第6回 地方創生とは
- 第7回 地域活性化(1) グリーン・ツーリズムの推進
- 第8回 地域活性化(2) 地域ブランドへの取組
- 第8回 地域活性化(3) 農商工連携、六次産業化
- 第9回 中山間地のまちおこし事例(やねだん、海士町など)
- 第10回 まちづくり三法と中心市街地活性化計画
- 第11回 鹿児島市のコンパクトシティづくりについて
- 第12回 鹿児島市の様々なまちづくりへの試み(観光農業公園、本港区開発など)
- 第13回 平成の市町村合併と道州制
- 第14回 自治体の総合計画(行財政改革と行政評価等を含む)
- 第15回 本講義のポイント確認とまとめ
- 第16回 期末レポート

授業外学習(予習・復習)

事前に配布する講義資料を熟読すること(2H)、講義後には講義内で紹介された資料、紹介サイトの内容を確認すること(2H)。

教科書

特になし。資料と講義レジュメを講義前にマナバで配布する。

参考書

講義の進展に応じて、適宜教員が紹介する。

成績の評価基準

毎回manabaに提示する通常レポート50点と最終時に行う期末レポート50点で評価する。

オフィスアワ -

金曜日 2 時間目、研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

16 回中 14 回

備考（受講要件）

日頃から、新聞、雑誌等を通じて地域の情報を知っておくことが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BDX3302

科目名

環境経済学

英語名

Environmental Economics

開講学科

法経社会科学経済コース

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

福山博文

連絡先 (TEL)

099-285-7525

連絡先 (MAIL)

fukuyamah@fc.jwu.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

人々の経済活動が環境に与える影響は非常に大きい。生産者は製品を産出する際、環境から多量のエネルギーや資源を採取し、環境へ汚染物質を排出する。消費者は製品を消費する際、環境へ多量のゴミ（廃棄物）を排出する。経済活動は、人々に豊かな生活をもたらす一方で、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、森林減少、地下水汚染、大気汚染、廃棄物問題などの環境問題を引き起こす原因となっている。

本講義では、人々の経済活動が環境に及ぼす影響を明らかにし、経済発展と環境保全を両立させるような社会経済システムとはいかなるものかを経済学の観点から解明していく。また、環境政策（直接規制、環境税、排出量取引、ゴミ処理有料化政策、不法投棄対策など）を紹介し、その効果と問題点を指摘しながら望ましい社会経済システム実現に向けた環境政策のあり方について検討していく。さらに、自然環境の経済的（貨幣的）価値を計測する手法である環境評価（ヘドニック法、トラベルコスト法、CVMなど）を紹介し、その有用性と問題点を学習していく。

学修目標

1. 環境問題の発生メカニズムを理解し、環境問題解決への経済学の果たす役割を説明することができる。
2. 環境問題解決のための政策手段を列挙し、その効果と問題点を説明することができる。
3. 環境評価の方法とその問題点を理解することができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス（授業の進め方と成績評価の説明）【動画配信】
- 第2回 経済学のエッセンス【動画配信】
- 第3回 外部性としての環境問題【動画配信】
- 第4回 公共財として環境資源【動画配信】
- 第5回 環境税【動画配信】
- 第6回 排出量取引【動画配信】
- 第7回 環境評価（1）【動画配信】
- 第8回 環境評価（2）【動画配信】
- 第9回 小テストの解答&復習テストの提示【Zoomによる授業】
- 第10回 ごみ問題【動画配信】
- 第11回 企業と環境問題【動画配信】
- 第12回 地球温暖化問題【動画配信】
- 第13回 経済発展と環境問題【動画配信】
- 第14回 貿易と環境問題【動画配信】
- 第15回 小テストの解答&復習テストの提示【Zoomによる授業】

授業外学習（予習・復習）

授業で配信する動画&資料で予習(2H)・復習(2H)をすること。

教科書

特に指定しない。

参考書

時政島・藪田雅弘・今泉博国・有吉範敏 編『環境と資源の経済学』勁草書房、2007年。

栗山浩一・馬奈木俊介 著『環境経済学をつかむ』有斐閣、2020年。

成績の評価基準

小テスト(70点)+復習テスト(30点)

オフィスアワ-

質問は随時メールで受け付けています。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

ミクロ経済学とマクロ経済学を履修していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX3301			
科目名			
経済地理学			
英語名			
Economic Geography			
開講学科		コース	
法経社会科学経済コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
岡田登		099-220-1115	okada@k-kentan.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。			
学修目標			
【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようになる。			
授業計画			
以下のスケジュールで行う。基本的には遠隔授業（オンデマンド型）で全回行う。			
第1回	はじめに：講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済		
第2回	都市地域論（1）：都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階		
第3回	都市地域論（2）：都市の内部構造とメカニズム、都市システム		
第4回	産業地域論：産業構造の変化、都市の機能、都市の分類、地域経済基盤分析		
第5回	中心地理論：商業形態の発展と変化、第3次産業地域論		
第6回	工業地域論：工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散		
第7回	農業地域論：農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散		
第8回	漁業林業地域論：漁業地域の資源管理とコモンズ論、林業地域の資源管理とガバナンス		
第9回	地域経済分析：地域経済計算、地域成長の経済分析、地域間格差		
第10回	内発的発展論：定義、事例紹介		
第11回	都市計画とまちづくり：仕組み、中心市街地と郊外、景観と緑地		
第12回	コンパクトシティ：経緯と概念、都市空間の形成、公共交通ネットワーク		
第13回	地域連携（1）：地域内連携、地域間連携		
第14回	地域連携（2）：異業種間連携		
第15回	まとめ		
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間） ・復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間） 			
教科書			
・プリントや資料で行う。			
参考書			
・講義の際に指示する・			
成績の評価基準			
成績評価は期末レポート（60%）と授業時に実施するレポートの提出（40%）を総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
講義終了後			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

4～5回

備考（受講要件）

・特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

・自治体の元職員である。

ナンバリングコード			
FHS-BEX3603			
科目名			
システム監査論			
英語名			
System Audit			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>システム監査は、情報システムの効率的な運用をめざして策定されたわが国独自の制度である。その後、情報システムの世界では、セキュリティが重要視され、現在にいたっている。これらの制度の根本にあるのは、リスクマネジメント（危機管理）である。本講義では、前半でリスクマネジメントについて実習をふくめておこない理解を深める。後半は、わが国のシステム監査で最重要視されているシステムの効率性とリスクマネジメントの関連についてのべる。システム監査喜寿およびシステム管理基準は平成30年度改訂のものを利用する。</p>			
学修目標			
<p>1) リスクマネジメントの手法をつかって分析ができる。 2) リスクマネジメントのリスクを抽出できる。 3) 情報システムのもつ人的な側面についてのべることができる。 4) わが国の情報システムに関する制度を整理してのべることができる。</p>			
授業計画			
<p>本授業は、毎回遠隔、manaba形式で行う予定である。 なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。 授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>1. リスクとは 2. リスクマネジメントの発生と法則 3. リスクマネジメントの手法 4. リスクマネジメント実習（1）：単純なシステムの場合アクティブラーニング 5. リスクマネジメント実習（2）・相対するシステムの場合アクティブラーニング 6. 小テストとリスクマネジメントのまとめ 7. システム監査の体系の変化と情報システムの変化：経営情報論の復習 8. システム監査基準について：制度の概要 9. システム管理基準を読み解く（1）：ITガバナンス 10. システム管理基準を読み解く（2）：企画フェーズ、開発フェーズ、アジャイル開発フェーズ 11. システム管理基準を読み解く（3）：運用・利用フェーズ 12. システム管理基準を読み解く（4）：保守フェーズ 13. システム管理基準を読み解く（5）：外部サービス管理・事業継続管理 14. システム管理基準を読み解く（6）：人的資源管理・ドキュメント管理 15. システム監査制度を読み解く（7）：小テスト</p>			
授業外学習（予習・復習）			
予習・復習のレポートを必ずmanabaで提出すること。（4時間）			
教科書			
Webの事件等を教材として利用する。			
参考書			

なし
成績の評価基準
予習・復習のレポートの満点を5点とし、13回の授業レポートで65点満点とする。(62%)さらに、小テストは、各20点満点で採点する。(38%) 素点は、105点となる。 これを本年度から導入される平準化をおこなったものが成績となる。 極端な場合、素点60点でも不可となる。
オフィスアワー
manabaの掲示板でおこなう。
アクティブ・ラーニング
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
アクティブ・ラーニング(授業回数)
0回
備考(受講要件)
特になし。
実務経験のある教員による実践的授業
特になし。

ナンバリングコード

FHS-BEX3302

科目名

社会と経済の統計

英語名

Statistics for Social and Economic Phenomena

開講学科

法経社会学科経済コース

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会・経済コース/選
択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

松川太一郎

連絡先 (TEL)

099-285-7601

連絡先 (MAIL)

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

本講義の目的は、官庁統計の情動的な性格を、その統計の作成過程が置かれている社会の在り方との関係において考えていくことである。取り上げる統計は、調査統計・業務統計に加えて、統計学総論で触れることが少なかった加工統計である。講義内容の柱は以下の通り：(1) 調査統計について、統計調査環境と作成過程との関係を見る。(2) 加工統計の中でもGDPについて、その加工プロセスの理論的前提であるSNA(国民経済計算体系)の理論的内容を理解していく。そのうえでGDPの作成過程を、技術的な観点と制度的な観点の両方から理論的にとらえていく。(3) 業務統計の中でも犯罪統計について、その作成過程の社会的で技術的な様相を理解し、そのうえで、犯罪統計の正確性に関する分析事例を紹介する。この分析では、関連する経済統計を利用する。

学修目標

1. 加工統計の経済理論的前提の理解、また、加工統計・調査統計・業務統計の作成事情とを理解し、統計情報の真実性を検討する際に不可欠な契機を学ぶ。
2. 統計学の研究対象が、単なるデータ処理にとどまるのではなく、統計の作成過程という社会的現象の性質の考察にまで及ぶことを理解する。

授業計画

- 第1回 全15回の概要紹介
 第2回 必要な統計学概念の理解
 第3回 毎月勤労統計調査と統計調査環境(1)
 第4回 毎月勤労統計調査と統計調査環境(2)
 第5回 国民経済計算の理論的基礎(1)
 第6回 国民経済計算の理論的基礎(2)
 第7回 国民経済計算の理論的基礎(3)
 第8回 国民経済計算の理論的基礎(4)
 第9回 GDPの推計過程(1)
 第10回 GDPの推計過程(2)
 第11回 刑法犯認知件数とその作成組織
 第12回 認知件数正確性の規定要因
 第13回 自動車盗に関する犯罪統計と保険統計の比較
 第14回 税務統計を用いた犯罪統計(自動車盗認知件数)の吟味
 第15回 経済統計と認知件数を用いた犯罪統計(暗数調査)の吟味
 第16回 期末試験(対面授業(一部の回、または前回いずれの場合も含む)が可能な場合のみ。その他の場合には総合的課題に解答する。)

授業外学習(予習・復習)

講義内容について理解を促進するための宿題を、講義の節目で課す。ただし節目については、授業の様子などを見て、こちらで判断する。そのため宿題の配布が不定期となるから、毎回出席して宿題の用紙を受け取ること。この宿題により講義の予習と復習を行うことになる。予習に関わる標準的時間は約2時間。復習に関わる標準的時間は2時間。

教科書

適宜指定する。

参考書

作間逸雄編 『SNAがわかる経済統計学』有斐閣、2003年。その他適宜指定する。

成績の評価基準

期末試験と宿題による。宿題による評価ウェイトは4割(40%)を基本として考えているが(したがって期末試験による評価分は60%)、上記のとおり配布が不定期となるため宿題の回数変動する状況を加味して、宿題の評価ウェイトを若干調整する可能性がある。いずれにせよ、総合的な成績評価は、宿題のすべてで評価を得なければ、ほぼ不合格になるのが従来状況である。課された宿題はすべて提出して評価を得ること。

オフィスアワー

火曜日1限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

宿題

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中不定回数(授業の様子を見て必要に応じた回数)

備考(受講要件)

統計作成論の学習内容を前提としているので、統計作成論を単位履修していなければ理解に困難をきたすであろう。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2302			
科目名			
農業政策論			
英語名			
Agricultural Policy			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
北崎浩嗣	099-285-7592		ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本講義では、戦後日本経済の展開の中で、日本の農業政策がいかに推移し、いかなる役割を演じてきたかを説明する。講義の前半では、農地改革と農地法、企業の農業参入や生産調整など、日本農業の構造面に焦点を当てる。後半では、担い手問題、農産物流通問題、農業保護問題などを検討しながら、スマート農業についても紹介し、最近の日本農業に生じてきた様々な課題や地域農業問題を取りあげる。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 農業経済の基本的用語を説明できる。 2. 戦後から高度成長時の日本農政の特徴を説明できる。 3. 90年代以降の農政の転換を説明できる。 4. 日本農政の課題を世界農政の潮流の中で考察できる。 			
授業計画			
<p>本講義は、コロナ対策によるリアルタイム配信授業で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際には、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 農地改革と日本農業の構造問題 第3回 農地法の功罪について 第4回 企業の農業参入について 第5回 生産調整（減反）について 第6回 食糧管理制度とコメ問題 第7回 1990年代からの農政転換 第8回 中山間地等直接支払制度 第9回 民主党政権下の戸別所得補償制度 第10回 自民政権下の農業政策の経緯 第11回 農林水産業・地域の活力創造プランと儲かる農業 第12回 農政の大転換か？スマート農業について 第13回 WTO以降の世界農政の潮流 第14回 地域農業の発展と産地づくりのために 第15回 まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
講義中に配布したオリジナル資料を熟読すること(4H)。			
教科書			
なし。オリジナル資料を準備し、配布する。			
参考書			
講義中に紹介する。			
成績の評価基準			
毎回manabaに提示する通常レポート50点と最終時に行う期末レポ - トの50点の合計点100点(100%)で判定する。			

オフィスアワ -

金曜日2時限目

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

複数回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX4401			
科目名			
特殊研究			
英語名			
Special Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	6単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
各担当教員		各教員に確認すること	各教員に確認すること
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
各人の問題関心に応じて担当教員の指導の下に特殊研究レポートの作成を行う。			
学修目標			
(1) 問題関心を踏まえてリサーチ・クエッションを設定する。 (2) リサーチ・クエッションを踏まえて文献、データを収集・整理・分析し、成果を適切に表現する。 (3) 特殊研究レポートの作成を通じて経済や経営・会計への理解を深める。			
授業計画			
(1) リサーチ・クエッションの設定 (2) 文献及びデータの収集・整理 (3) 文献及びデータの分析・考察 (4) 特殊研究レポートの作成 なお、この授業計画は状況によって変更することがある。			
授業外学習 (予習・復習)			
文献の収集、データの収集、その整理・分析、報告資料の作成など(4H)。			
教科書			
特になし。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
レポート作成に当たっての学習、及び提出された特殊研究レポートを評価する(100%)。			
オフィスアワ -			
各教員に確認すること			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
各教員に確認すること			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
各教員に確認すること			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>経営情報論の基礎となる経営学の基礎を学ぶこととする。 基本的に、ドラッカー『マネジメント(上)』ダイヤモンドを利用して、 経営学の基本を学んでいく。 受講生は、毎回1章ごとにレジュメを全員提出し、コメントを記載することが求められる。その後、学生間の ディベートを求める。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本の内容を的確に要約し、解説し、評価(コメント)する能力をつける。 2. ディスカッションに積極的に参加できるようになる。 3. ドラッカーマネジメントによる戦略計画の概念を活用できるようになる。 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。 なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。 授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>以下のテキストの精読とディスカッションをおこなう。 ドラッカー「マネジメント 課題、責任、実践(上)」ダイヤモンド社、2400円 毎回1章を読み込む</p> <p>第1回 序論 マネジメント 第2回 マネジメントの登場 第3回 マネジメント・ブームの教訓 第4回 マネジメントへの挑戦 第5回 マネジメントの役割 第6回 事業のマネジメント 第7回 企業とは何か 第8回 目的とミッション 第9回 目標 第10回 目標の設定とその実行 第11回 企業家的スキルとしての戦略計画 第12回 多元社会の到来 第13回 公的サービス機関の不振の原因 第14回 例外的存在とその教訓 第15回 公的サービス機関の成功の条件 以上</p>			

授業外学習（予習・復習）

合計60時間（単位の実質化）

予習：口頭で本の内容ができるまで、繰り返し通読し、要点をノートに手書きすること。

このときに本の各章に対してコメントを記入すること。（各3時間30分：52時間30分）

復習：ノートに得られた知識を記載し、改めて本の内容をふりかえること（各30分：7時間30分）

教科書

授業計画に記載している。

参考書

なし

成績の評価基準

達成事項

1) 予習ができていること（コメントのついたノート提出）

5点満点×15回＝75点（71%）

2) 本の要約を口頭で説明できること

3) 質疑応答で的確な回答ができる（教員からの質問も含む）

2点×15回＝30点（29%）

オフィスアワー

manabaの掲示板でおこなう

アクティブ・ラーニング

ディベート；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

やむを得ない理由で欠席する場合、学生がなんらかの方法で証明すること。診断書の場合は、コピーの提出でよい。欠席した翌週に限りノートの提出を認める。

それ以外の欠席は、無断欠席とみなし、ノートの未提出分5点を減点する。

また、法科大学院の先進的な例にしたがい、授業の質向上と授業中の教員と学生の誤解を防ぐために、すべての授業を記録する。授業初日に個人情報の取扱について確認をとるので、認印を忘れないようにすること。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本演習では、情報マネジメントの立場から企業経営に効果的なアウトプットを提供するための問題発見力と解決力の修得を目指します。</p> <p>情報マネジメントをあえて定義するのであれば、企業を取り巻く多種多様な情報を評価・解析し、経営上の効果を最適化するための分析をおこない、その結果を経営の意思決定に反映していく手続きの繰り返しといえるでしょう。そのためには、情報科学・プログラミング・経営学・マーケティング・統計学などの基本的な知識やスキルが必要になります。</p> <p>したがって、本演習ではこれら必要な基本的知識やスキルのインプット（輪読や実習）とその知識を使ったアウトプット（レポートやプレゼン）をおこないます。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な情報を収集して分析する力 2. 問題を発見する力 3. 問題を解決するために工夫する力 4. レポート作成などの書くプレゼン能力 5. インタラクティブなコミュニケーションを含む話すプレゼン能力 			
授業計画			
<p>対面形式でおこなう予定であるが、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：ガイダンス，担当者の報告と討論 第2回：担当者の報告と討論 第3回：担当者の報告と討論 第4回：担当者の報告と討論 第5回：担当者の報告と討論 第6回：担当者の報告と討論 第7回：担当者の報告と討論 第8回：担当者の報告と討論 第9回：担当者の報告と討論 第10回：担当者の報告と討論 第11回：担当者の報告と討論 第13回：担当者の報告と討論 第14回：担当者の報告と討論 第15回：担当者の報告と討論，総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：毎回の報告レジュメの作成（120分） 復習：レジュメやレポートの修正（120分）</p>			
教科書			
佐藤郁哉（2021），『ビジネス・リサーチ』，東洋経済新報社。			

中川功一（2021），『考える経営学』，有斐閣。

参考書

授業内で紹介します。

成績の評価基準

講義でのプレゼンとレポートの総合評価（100％）。

なお，全授業に出席することが前提です。2回以上欠席した場合には単位を認めません。

オフィスアワ -

メールにてアポイントをとってください。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本演習では、情報マネジメントの立場から企業経営に効果的なアウトプットを提供するための問題発見力と解決力の修得を目指します。</p> <p>情報マネジメントをあえて定義するのであれば、企業を取り巻く多種多様な情報を評価・解析し、経営上の効果を最適化するための分析をおこない、その結果を経営の意思決定に反映していく手続きの繰り返しといえるでしょう。そのためには、情報科学・プログラミング・経営学・マーケティング・統計学などの基本的な知識やスキルが必要になります。したがって、本演習ではこれら必要な基本的知識やスキルのインプット（輪読や実習）とその知識を使ったアウトプット（レポートやプレゼン）をおこないます。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な情報を収集して分析する力 2. 問題を発見する力 3. 問題を解決するために工夫する力 4. レポート作成などの書くプレゼン能力 5. インタラクティブなコミュニケーションを含む話すプレゼン能力 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め、manabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：第1章の演習課題の報告と討論 第3回：第2章の演習課題の報告と討論 第4回：第3章の演習課題の報告と討論 第5回：第4章の演習課題の報告と討論 第6回：第5章の演習課題の報告と討論 第7回：第6章の演習課題の報告と討論 第8回：第7章の演習課題の報告と討論 第9回：第8章の演習課題の報告と討論 第10回：第9章の演習課題の報告と討論 第11回：第10章の演習課題の報告と討論 第13回：第12章の演習課題の報告と討論 第14回：第13章の演習課題の報告と討論 第15回：第14章の演習課題の報告と討論</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：毎回の報告、課題レジュメの作成（学習に関わる標準的時間は約2時間） 復習：レジュメやレポートの修正（標準的時間は2時間）</p>			
教科書			

石井淳蔵・嶋口充輝・栗木契・余田拓郎（2013），『ゼミナール マーケティング入門 第2版』，日本経済新聞出版社

参考書

授業内で紹介します。

成績の評価基準

講義でのプレゼンとレポートの総合評価（100％）。なお，全授業に出席することが前提です。2回以上欠席した場合には単位を認めません。

オフィスアワ -

メールにてアポイントをとってください。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
林田吉恵		099-285-7525	yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
「社会経済（現代公共部門、地域問題、グローバル社会等）の諸問題とその解決策の研究」			
<p>論理的な思考を養うために、徹底的にゼミでは議論する。</p> <p>本演習では、学生がみずから問題を設定し、それについて探求することが求められる。社会経済問題に対する知的好奇心を発掘し、学識を深めることが、本演習の目的である。社会に出て必要とされる基本的スキルを、共同研究を通じて身につけ、その向上を目指す。</p> <p>共同研究のテーマによっては、フィールドに出てヒアリングをすることもある。分析をするにあたり、統計手法についてもマスターできるようにする。また、学内・学外でのディベート大会や他大学との合同ゼミも、随時やっていく予定である。</p>			
学修目標			
<p>本演習の到達目標は、つぎの5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、明確な問題意識のもとに研究テーマを設定し、その問題意識を他のメンバーと共有することができる。 2、選んだ研究テーマに対して適切な参考文献を揃え、それらを深く読解し、分析することができる。 3、研究成果を他者に対して明確に伝えることができる（プレゼンテーション能力）。 4、他者の研究成果にも関心を持ち、適切な質疑応答をおこなうことができる（ディスカッション能力）。 5、文書および口頭で自己の考えを明確に表現することができる。 6、研究成果を論文としてまとめることができる（書く能力）。 			
授業計画			
<p>課題解決のための処方箋を論理的に検討する能力を養成するために、共同研究報告を中心に分析結果を発表形式で進める。</p> <p>ゼミ内でのグループ討論を中心に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ディベート（1）のためにテーマ決定・基礎知識の習得・分析・報告。 2、ゼミ生による問題提起と共同研究の下地作り。 3、各テーマごとに分析結果を報告・議論。 <p>ゼミ内でグループを作り、それぞれ自由にテーマを決める。それについてグループ学習をして、レジュメを作成し、パワーポイントなどで報告する。報告者以外のゼミ生は、報告を聞き、それについて質疑応答しながら議論する。</p> <p>第1回 ガイダンス、自己紹介 第2回～第14回 研究指導、報告、ディスカッション 第15回 総括</p> <p>他大学との合同ゼミが、3～4回/年あるため、ゼミ以外の時間でその準備をして、ゼミの時間は準備したきたことの報告をし、ゼミ生内で議論する。</p>			
授業外学習（予習・復習）			

この講義は授業外のグループ研究に基づいて進行していくことから、必ず授業時間外に研究をし、グループで集まってまとめること。

(学修に係る標準時間は約4時間)

教科書

学生がレジュメを作成し、配布する。

参考書

特になし。

分析ツールの修得を行うとともに、関連テーマについて新聞・雑誌に目を通すことを勧める。

成績の評価基準

主にゼミ活動への積極的取り組みを中心に、期末レポートの評点を総合して評価する(100%)。

オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

ゼミは、学生主体の共同作業の場であるから、各人の積極的な参加が前提となる。学問は真剣勝負の世界であるが、しかし同時に楽しい雰囲気の中でお互いに助け合いながら学識を深めてゆきたい。このような趣旨に賛同して、熱意ある仲間が集うことを期待している。ゼミ活動への積極的な姿勢を期待する。

無断欠席3回した場合は単位認定しません。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。

授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知します。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
山本一哉		099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
本演習では、アジア経済の発展メカニズムと展望について考察する。 演習では、テキストを分担して報告してもらい、ディスカッションを行う。			
学修目標			
1) 基本的な開発経済学の理論について理解する。 2) アジア経済の発展メカニズムについて理解する。 3) 資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。			
授業計画			
対面での実施予定であるが、コロナ感染拡大の状況によってはzoomでの遠隔に変更の可能性あり。			
第1回 ガイダンス 第2回 報告及びディスカッション 第3回 報告及びディスカッション 第4回 報告及びディスカッション 第5回 報告及びディスカッション 第6回 報告及びディスカッション 第7回 報告及びディスカッション 第8回 報告及びディスカッション 第9回 報告及びディスカッション 第10回 報告及びディスカッション 第11回 報告及びディスカッション 第12回 報告及びディスカッション 第13回 報告及びディスカッション 第14回 報告及びディスカッション 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：manaba に掲載された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約 2 時間) 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は 2 時間)			
教科書			
後藤健太 『アジア経済とは何か-躍進のダイナミズムと日本の活路』 (中公新書)			
参考書			
講義の際に紹介する。			
成績の評価基準			
報告 (50点) 及びディスカッション (50点) を総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
木曜日3限目 (研究室)			
アクティブ・ラーニング			

ディベート; プレゼンテーション;	
	アクティブ・ラーニング(その他の内容)
	アクティブ・ラーニング(授業回数)
15回	
	備考(受講要件)
特になし	
	実務経験のある教員による実践的授業
特になし。	

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
西村知		099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		後期	
授業概要			
* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。」			
輪読によりアジアの経済に関する理解を深めるとともに、経済学の基礎知識を新聞記事などによって学ぶ。			
学修目標			
1 アジア経済に関するテキストを読むことによって、キーワード、キー概念を理解し、アジア経済の構造をイメージできるようにする。			
2 日本経済の記事を読むことによって、経済学の理論、実証について学ぶ。			
授業計画			
*manabaでレポートを提出していただく。			
1 オリエンテーション			
2-14 テキスト・新聞記事の輪読(輪読1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13)			
15 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中、適宜、指示する。			
予習(2H)・復習(2H)に必要な文献、映像を紹介する。			
教科書			
授業開始後に知らせる。			
参考書			
授業開始後に知らせる。			
成績の評価基準			
授業における報告、議論によって評価する。			
オフィスアワ -			
水曜日：12:00-12:30			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
複数回			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北村浩一		099-285-6296	ki.tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
近年は企業（業界業種を含む）研究を主題にしている。そこでは、実際の工場見学など大学外での実践的な調査・研究も行っている。さらに「考える力」「伝える力」を養うための試み（例えば共通テーマでのグループディスカッションや全員短時間スピーチ）を随時、行っている。			
学修目標			
基本は企業会計・管理会計分野についての修得を目標としている。ただし、実際には、例えば経営管理などの関連分野の修得もあわせて目標としている。つまり、管理会計を中心に幅広い関連分野について修得することを目標としている。また、様々な場面で「考える力」「伝える力」を養うことを演習の全体を通じての目標としている。			
授業計画			
半期毎に、ゼミ生みんなで意見を出して話し合うことでゼミのテーマ・進め方といったほとんどのことがらを決めながら進めるので、自分たちのやりたいことを軸にゼミの学習が進んでいく。 したがって、具体的に何をどのように取り組んでいくかは未定であるが、自分たちのしたいこと・すべきことについて、意見を出し、ディスカッションすることを通じて実現（自分の思った以上のことがゼミ全体として結果）することが可能となる。			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。 予習(2H)・復習(2H)			
教科書			
特になし。			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(100%)。必修科目なので無断欠席は厳禁であることに十分留意すること。			
オフィスアワー			
水曜・12時半～16時・研究室			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）； アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
全15回中15回			
備考（受講要件）			
担当の講義「管理会計論」「工業簿記・原価計算論」「企業会計論」の講義は演習の内容と密接に関わっているので受講すること。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北崎浩嗣		099-285-7592	ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		後期	
授業概要			
本演習は、コロナ対策のため、ズームによるリアルタイム配信授業にて実施する。 前半期は、昨期から継続し、テキストは、蟹江憲史『SDGs』を使用する。			
学修目標			
(1) 自分で作成したレジュメ・資料によってプレゼンテーションができる。 (2) 地方の抱えている問題について説明できる。 (3) 地域活性化策に対して、自分の視点で、提言することができる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第14回 発表と討論 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書の当該部分を事前に読んでおくこと、また関係資料を用意しておくことが望ましい(4H)。			
教科書			
担当教員が数冊のテキストを用意し、ガイダンスの際に受講生に紹介し、受講生との話し合いにより採用するテキストを決定する。			
参考書			
演習の進展に応じ、適宜紹介する。			
成績の評価基準			
レポートと授業への取組態度 (配点割合は、レポート30%、授業への取組態度70%)。			
オフィスアワ -			
金曜日2時間目、研究室			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中13回。			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
市川英孝		099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>前期から引き続き、4年生は各自の卒論に関する発表を、3年生は各自の研究テーマに沿って発表を行ってもらおう。その内容に関して参加者全員で議論を行う。2年生は上級生が発表する内容に関して、客観的な立場で議論を行う。必要に応じて、2年生にも発表を求める。</p> <p>研究テーマとしては、広義のシステム構築に関して、幅広く議論を進めていく。</p>			
学修目標			
<p>4年生は、多くの意見に耳を傾け、卒論の質をより高めるように努める。</p> <p>3年生は、各自の興味分野に深みを持ち、他者の研究内容などから広く情報を得て、卒論作成に向けて準備を行う。</p> <p>2年生は、上級生の発表を踏まえて、3年次以降の研究テーマに関して方向付けを行う。</p>			
授業計画			
第1回	各発表者による報告、議論(1)(対面型)		
第2回	各発表者による報告、議論(2)(対面型)		
第3回	各発表者による報告、議論(3)(対面型)		
第4回	各発表者による報告、議論(4)(対面型)		
第5回	各発表者による報告、議論(5)(対面型)		
第6回	各発表者による報告、議論(6)(対面型)		
第7回	各発表者による報告、議論(7)(対面型)		
第8回	各発表者による報告、議論(8)(対面型)		
第9回	各発表者による報告、議論(9)(対面型)		
第10回	各発表者による報告、議論(10)(対面型)		
第11回	各発表者による報告、議論(11)(対面型)		
第12回	各発表者による報告、議論(12)(対面型)		
第13回	各発表者による報告、議論(13)(対面型)		
第14回	各発表者による報告、議論(14)(対面型)		
第15回	各発表者による報告、議論(15)(対面型)		
授業外学習(予習・復習)			
<p>発表者はしっかりとした準備をすること。</p> <p>予習:manaba に掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約2時間)</p> <p>復習:授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は2時間)</p>			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
参考書			
Harvard Business Review ダイアモンド社			
成績の評価基準			
積極的な授業参加、発表担当者はプレゼンテーション(100%)			
オフィスアワ -			
基本メールなどで適宜対応します。			

金曜3限に研究室で対応します。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

すべて

備考(受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
王 鏡凱		099-285-7525 (法文学部学生係)	kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
授業形態：全授業は可能である限り対面形式で実施するので、Mask! Must!! ***今後のコロナの感染状況やその他の理由により、授業形態を変更する場合がある。***			
コーポレート・ファイナンス（経営財務）、組織の経済学に関する問題について様々な角度から討論することにより、資金調達についての理解を深めるとともに、経営学・経済学全般を幅広く理解することを目指す。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談のうえ決める。			
学修目標			
(1) コーポレート・ファイナンス（経営財務）、経営学と経済学の基礎知識を修得し、主な研究手法について理解する。 (2) 研究手法に沿って資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。 (3) 物事を論理的にかつ直感的に捉える能力を養う。			
授業計画			
授業形態：全授業は可能である限り対面形式で実施するので、Mask! Must!! ***今後のコロナの感染状況やその他の理由により、授業形態を変更する場合がある。***			
第1回 ガイダンス(ZOOM授業) 第2回 発表と討論(1)(ZOOM授業) 第3回 発表と討論(2)(対面授業) 第4回 発表と討論(3)(対面授業) 第5回 発表と討論(4)(対面授業) 第6回 発表と討論(5)(対面授業) 第7回 発表と討論(6)(対面授業) 第8回 発表と討論(7)(対面授業) 第9回 発表と討論(8)(対面授業) 第10回 発表と討論(9)(対面授業) 第11回 発表と討論(10)(対面授業) 第12回 発表と討論(11)(対面授業) 第13回 発表と討論(12)(ZOOM授業) 第14回 発表と討論(13)(ZOOM授業) 第15回 総括(ZOOM授業)			
*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある。			
授業外学習（予習・復習）			
ニュースに目を通すこと、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。 興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。			

予習：テキストを事前に予習（学習に関わる標準的時間は約2時間）
 復習：授業内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）

教科書

入山章栄，『世界標準の経営理論』，ダイヤモンド社，2019年．
 伊藤秀史(著)，小林創(著)，宮原泰之(著)，『組織の経済学』，有斐閣出版，2019年．

参考書

授業中適宜紹介する．
 1. 伊藤秀史(著)，小林創(著)，宮原泰之(著)，『組織の経済学』，有斐閣出版，2019年．
 2. 砂川伸幸，『コーポレート・ファイナンス入門<第2版>』，日経文庫，2017年．
 3. 白石俊輔，『経済学で出る数学 ワークブックでじっくりせめる』，日本評論社，2013年．
 4. ポール・ミルグロム(著)，ジョン・ロバーツ(著)，奥野正寛(訳)，伊藤秀史(訳)，
 今井晴雄(訳)，西村理(訳)，八木甫(訳)，『組織の経済学』，NTT出版，1997年．
 5. 入山章栄，『世界標準の経営理論』，ダイヤモンド社，2019年．

成績の評価基準

発表・討論によって評価(100%)する．

オフィスアワー

月曜日・3限目．MANABAの掲示板と電子メールにおいても随時受付しております．

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

実験・シミュレーション

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

令和3年度における授業等の実施方針について〔第2版〕より，
 1) Mask! Must!! 学生も教員も不織布マスクを着用のこと（ウレタンや布製は不可）
 2) ワクチン接種を履修の条件にしないこと
 *電卓を持参すること．
 *出席は成績の必要条件であり，十分条件ではないことを理解してください．
 *基本的には講義計画に沿って授業を進めるが，受講生の理解度を考え調整することもある．
 授業形態：全授業は対面形式で実施する．
 今後のコロナの感染状況やその他の理由により，授業形態を変更する場合がある．

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない．

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北崎浩嗣		099-285-7592	ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
地域政策、農業政策について書かれたテキストをもとに、現代日本の地域問題、農業問題を検討する。			
学修目標			
1) 自分で作成したレジュメ・資料によってプレゼンテーションができる。			
2) 地域や農業の基本問題についての知識を修得する。			
3) 発表のための資料収集の方法を修得する。			
授業計画			
本演習は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス			
第2回 発表と討論			
第3回 発表と討論			
第4回 発表と討論			
第5回 発表と討論			
第6回 発表と討論			
第7回 発表と討論			
第8回 発表と討論			
第9回 発表と討論			
第10回 発表と討論			
第11回 発表と討論			
第12回 発表と討論			
第13回 発表と討論			
第14回 発表と討論			
第15回 発表と討論			
第16回 期末レポート			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に教科書の当該部分を読み、関係資料を用意し読んでおく。			
教科書			
担当教員が数冊のテキストを用意し、ガイダンス時に受講生に紹介し、受講生との話し合いにより採用するテキストを決定する。			
参考書			
演習の進展に応じて、適宜教員が紹介する。			
成績の評価基準			
期末レポートと授業への取組態度 (配点割合は、期末レポート30点、授業への取組態度70点) による。			
オフィスアワ -			

金曜日 2 時間目、研究室
アクティブ・ラーニング
ディベート;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
アクティブ・ラーニング (授業回数)
16 回中 14 回。
備考 (受講要件)
特になし。
実務経験のある教員による実践的授業
特になし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
山本一哉		099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本演習では、国際経済に関する入門書をテキストとし、国際経済の基本的な理論や用語について学習するとともに、世界経済の現状と問題等について考察する。</p> <p>演習では、テキストを分担して報告してもらい、ディスカッションを行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 国際経済の基本的な理論を身につける。 2) 国際収支の不均衡など世界経済が抱える問題を理解する。 3) 資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 報告及びディスカッション 第3回 報告及びディスカッション 第4回 報告及びディスカッション 第5回 報告及びディスカッション 第6回 報告及びディスカッション 第7回 報告及びディスカッション 第8回 報告及びディスカッション 第9回 報告及びディスカッション 第10回 報告及びディスカッション 第11回 報告及びディスカッション 第12回 報告及びディスカッション 第13回 報告及びディスカッション 第14回 報告及びディスカッション 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
テキストをしっかり読んでゼミに参加すること。復習に関しては、報告者のレジюмеとテキストを読み返すこと(求められる授業外学習時間は4時間)。			
教科書			
講義の際に説明する。			
参考書			
講義の際に紹介する。			
成績の評価基準			
報告 (50点) 及びディスカッション (50点) を総合的に評価する。			
オフィスアワー			
曜日・時間：毎週金曜日2限、場所：研究室			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
市川英孝		099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
4年生は各自の卒論に関する発表を、3年生は各自の研究テーマに沿って発表を行ってもらおう。その内容に関して参加者全員で議論を行う。2年生は上級生が発表する内容に関して、客観的な立場で議論を行う。必要に応じて、2年生にも発表を求める。			
研究テーマとしては、広義のシステム構築に関して、幅広く議論を進めていく。			
学修目標			
4年生は、多くの意見に耳を傾け、卒論の質をより高めるように努める。			
3年生は、各自の興味分野に深みを持ち、他者の研究内容などから広く情報を得て、卒論作成に向けて準備を行う。			
2年生は、上級生の発表を踏まえて、3年次以降の研究テーマに関して方向付けを行う。			
授業計画			
第1回	各発表者による報告、議論(1)	(対面型)	
第2回	各発表者による報告、議論(2)	(対面型)	
第3回	各発表者による報告、議論(3)	(対面型)	
第4回	各発表者による報告、議論(4)	(対面型)	
第5回	各発表者による報告、議論(5)	(対面型)	
第6回	各発表者による報告、議論(6)	(対面型)	
第7回	各発表者による報告、議論(7)	(対面型)	
第8回	各発表者による報告、議論(8)	(対面型)	
第9回	各発表者による報告、議論(9)	(対面型)	
第10回	各発表者による報告、議論(10)	(対面型)	
第11回	各発表者による報告、議論(11)	(対面型)	
第12回	各発表者による報告、議論(12)	(対面型)	
第13回	各発表者による報告、議論(13)	(対面型)	
第14回	各発表者による報告、議論(14)	(対面型)	
第15回	各発表者による報告、議論(15)	(対面型)	
「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある」			
授業外学習(予習・復習)			
発表者はしっかりとした準備をすること。			
予習:manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約2時間)			
復習:授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は2時間)			
教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
参考書			
Harvard Business Review ダイヤモンド社			
成績の評価基準			
積極的な授業参加、発表担当者はプレゼンテーション(100%)			

オフィスアワ -

基本メールなどで適宜対応します。
金曜3限に研究室で対応します。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

すべて

備考 (受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
北村浩一		099-285-6296	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		ki tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
近年は企業（業界業種を含む）研究を主題にしている。そこでは、実際の工場見学など大学外での実践的な調査・研究も行っている。さらに「考える力」「伝える力」を養うための試み（例えば共通テーマでのグループディスカッションや全員短時間スピーチ）を随時、行っている。			
学修目標			
基本は企業会計・管理会計分野についての修得を目標としている。ただし、実際には、例えば経営管理などの関連分野の修得もあわせて目標としている。つまり、管理会計を中心に幅広い関連分野について修得することを目標としている。また、様々な場面で「考える力」「伝える力」を養うことを演習の全体を通じての目標としている。			
授業計画			
半期毎に、ゼミ生みんなで意見を出して話し合うことでゼミのテーマ・進め方といったほとんどのことがらを決めながら進めるので、自分たちのやりたいことを軸にゼミの学習が進んでいく。 したがって、具体的に何をどのように取り組んでいくかは未定であるが、自分たちのしたいこと・すべきことについて、意見を出し、ディスカッションすることを通じて実現（自分の思った以上のことがゼミ全体として結果）することが可能となる。			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。予習・復習(4H)			
教科書			
特になし。			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(100%)。必修科目なので無断欠席は厳禁であることに十分留意すること。			
オフィスアワ -			
水曜・12時半～16時・研究室			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
北村担当の講義は演習の内容と密接に関わっているので受講すること。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
松川太一郎		099-285-7601	matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>社会科学的な思考方法を、その実例を豊富にあげた著作である、久米郁男の『原因を推論する 政治的分析方法論のすゝめ』（有斐閣2013年）を講読することにより、修得する。なお、著者の久米氏は政治学者であるが、テキストに述べられている思考方法論はデータの比較に基礎づけられているので、統計による社会経済分析においても、きわめて有効性を持つ内容である。上記テキストの講読により社会的事象の因果関係を分析する方法の取得を目指す。しかしながら、社会的事象の関係性は因果関係にとどまらないので、因果関係以外の関係性についても把握方法を学ぶことにする。</p>			
学修目標			
<p>社会科学上のオリジナルな論考に必要な考え方ということで、社会的事象の因果関係およびその他の関係性の分析方法を修得できる。</p>			
授業計画			
<p>第1～12回において、久米郁男著『原因を推論する』（有斐閣2013年）に述べられている、社会的事象の因果関係分析法を修得する。さらに、第13～15回において、デヴィッド・ハーベイ著『<資本論>入門』（作品社2011年）に述べられている、社会的事象の非因果関係分析法を修得する。</p> <p>第1回 「序章 説明という試み」 第2回 「第1章 説明の枠組み 原因を明らかにするとはどういうことか」 第3回 「第2章 科学の条件としての反証可能性 『何でも説明できる』ってダメですか？」 第4回 「第3章 観察、説明、理論 固有名詞を捨てる意味」 第5回 「第4章 推論としての記述」 第6回 「第5章 共変関係を探る 違いを知るとはどういうことか」 第7回 「第6章 原因の時間的先行 因果関係の向きを問う」 第8回 「第7章 他の変数の統制 それは本当の原因ですか？」 第9回 「第8章 分析の単位、選択のバイアス、観察のユニバース」 第10回 「第9章 比較事例研究の可能性」 第11回 「第10章 単一事例研究の用い方」 第12回 「終章 政治学と方法論」 第13回 「第1章 商品と価値 第1節 使用価値と価値」 第14回 「第1章 商品と価値 第2節 商品に表わされる労働の二重性、第3節 価値形態または交換価値」 第15回 「第1章 商品と価値 第4節 商品の物神性とその秘密」</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>毎回、課題として全員に報告要旨の提出と問題提起をさせる。予習として、毎回、全員に講読文献のレジメを提出させる。（学習に関わる標準的時間は約2時間） 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）</p>			
教科書			
<p>久米郁男『原因を推論する 政治的分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年。 デヴィッド・ハーベイ『<資本論>入門』作品社、2011年。</p>			
参考書			
適宜指定する。			

成績の評価基準

授業への取り組み内容、すなわち、課題の出来と演習時のパフォーマンス内容を総合的に評価する。両者を合わせて100%の評価とする。

オフィスアワー

水曜日 1限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

毎回のレジュメ作成と討議

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

春休み中に教科書を購入して、演習の第1回にはレジュメによるテキスト内容の確認と討論ができるように準備しておくこと。2年生は前期開講の統計作成論を修得すること。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
澤田成章		0992858888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>会計は企業行動を映し出す鏡であると言われる。したがって、会計を学び習得する上では、企業行動と財務諸表数値の照らし合わせを行うことも重要なステップとなる。本ゼミではこうした点に注目し、財務諸表分析を中心とした企業行動分析を行う。とりわけ、本ゼミでは一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対する分析を重視する。</p>			
学修目標			
<p>一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対して独自の説明を行うためには、徹底的に情報を収集し、自身の頭で因果関係の仮説検証を行い、他者に伝わりやすいように情報を整理、加工、編集することが不可欠である。こうした作業を通じて、情報収集力、思考力、表現力、コミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>輪読を通じた知識の習得と、習得した知識を実際に活用した分析についてのプレゼンテーションを並行して進める。テキストである『ゼミナール現代会計入門（第9版）』は2か月程度で読了する予定であるが、その後の内容については適宜ゼミ生との議論によって決定していく。なお、課題への取り組みは、原則としてグループ単位で進めることを想定している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学年別に隔週で対面講義を取り入れる方針で検討している。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回～第15回 報告とディスカッション</p>			
授業外学習（予習・復習）			
グループで資料収集・議論・レジュメ作成等をしていただきます。予習・復習(4H)			
教科書			
『新・現代会計入門』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社			
参考書			
適宜提示します。			
成績の評価基準			
出席および講義内の議論への参画度（50%）、最終レポート（50%）の総合評価による。			
オフィスアワー			
適宜、事前にアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中14回			
備考（受講要件）			
特になし。			

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
王 鏡凱		099-285-7525 (法文学部学生係)	kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>コーポレート・ファイナンス（経営財務），経営学，行動経済学に関する問題について様々な角度から討論することにより，資金調達についての理解を深めるとともに，経営学全般を幅広く理解することを目指す．テーマごとに担当者が報告を行い，全員で討論する．テーマ等の詳細については受講生と相談の上，決める．</p> <p>***授業形態：全授業は対面授業で実施する．*** ***今後のコロナの感染状況やその他の理由により，授業形態を変更する場合がある．***</p>			
学修目標			
<p>(1) コーポレート・ファイナンス（経営財務），経営学，行動経済学の基礎知識を修得し，主な研究手法について理解する．</p> <p>(2) 研究手法に沿って資料収集，報告，ディスカッションの仕方を身につける．</p> <p>(3) 物事を論理的にかつ直感的に捉える能力を養う．</p>			
授業計画			
<p>***授業形態：全授業は対面授業で実施する．*** ***今後のコロナの感染状況やその他の理由により，授業形態を変更する場合がある．***</p> <p>第1回 ガイダンス(対面授業とZOOMによるオンライン授業の同時進行) 第2回 発表と討論(1)(対面授業とZOOMによるオンライン授業の同時進行) 第3回 発表と討論(2)(対面授業とZOOMによるオンライン授業の同時進行) 第4回 発表と討論(3)(対面授業) 第5回 発表と討論(4)(対面授業) 第6回 発表と討論(5)(対面授業) 第7回 発表と討論(6)(対面授業) 第8回 発表と討論(7)(対面授業) 第9回 発表と討論(8)(対面授業) 第10回 発表と討論(9)(対面授業) 第11回 発表と討論(10)(対面授業) 第12回 発表と討論(11)(対面授業) 第13回 発表と討論(12)(対面授業) 第14回 発表と討論(13)(対面授業) 第15回 総括(対面授業)</p> <p>* 授業内容およびテキストについては，受講生研究上の必要性和関心に応じて追加・変更することがある。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。 興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。</p>			

予習：テキストを事前に予習（学習に関わる標準的時間は約2時間）
 復習：授業内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）

教科書

特定の教科書は指定せず、受講生の必要性和関心に応じて参考書を用いる。

教科書決定：

ミシェル バデリー（著），土方奈美（訳）『〔エッセンシャル版〕行動経済学』，2021年，ハヤカワ文庫NF570

参考書

授業中適宜紹介する。

ミシェル バデリー（著），土方奈美（訳）『〔エッセンシャル版〕行動経済学』，2021年，ハヤカワ文庫NF570

伊藤秀史(著),小林創(著),宮原泰之(著)、『組織の経済学』、有斐閣出版、2019年。

砂川伸幸 『コーポレート・ファイナンス入門<第2版>』 2017年（日経文庫）

白石俊輔 『経済学で出る数学 ワークブックでじっくりせめる』 2013年（日本評論社）

ポール・ミルグロム（著），ジョン・ロバーツ（著），奥野正寛(訳)，伊藤秀史(訳)，今井晴雄(訳)，西村理(訳)，八木甫(訳) 『組織の経済学』NTT出版 1997年。

入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社 2019年。

成績の評価基準

発表・討論によって評価(100%)する。

オフィスアワー

月曜日・3限目。MANABAの掲示板と電子メールにおいても随時受付しております。

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

実験・シミュレーション

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

*電卓を持参すること。

*出席は成績の必要条件であり，十分条件ではないことを理解してください。

*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが，受講生の理解度を考え調整することもある。

授業形態：全授業は対面授業で実施する。

今後のコロナの感染状況やその他の理由により，授業形態を変更する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
澤田成章		0992858888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>会計は企業行動を映し出す鏡であると言われる。したがって、会計を学び習得する上では、企業行動と財務諸表数値の照らし合わせを行うことも重要なステップとなる。本ゼミではこうした点に注目し、財務諸表分析を中心とした企業行動分析を行う。とりわけ、本ゼミでは一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対する分析を重視する。</p>			
学修目標			
<p>一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対して独自の説明を行うためには、徹底的に情報を収集し、自身の頭で因果関係の仮説検証を行い、他者に伝わりやすいように情報を整理、加工、編集することが不可欠である。こうした作業を通じて、情報収集力、思考力、表現力、コミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>輪読を通じた知識の習得と、習得した知識を実際に活用した分析についてのプレゼンテーションを並行して進める。テキストである『ゼミナール現代会計入門（第9版）』は2か月程度で読了する予定であるが、その後の内容については適宜ゼミ生との議論によって決定していく。なお、課題はへの取り組みは、原則としてグループ単位で進めることを想定している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学年別に隔週で対面講義を取り入れる方針で検討している。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回～第15回 進捗報告とディスカッション</p>			
授業外学習（予習・復習）			
グループで資料収集・議論・レジュメ作成等をしていただきます。予習・復習(4H)			
教科書			
『ゼミナール現代会計入門（第9版）』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社			
参考書			
適宜提示します。			
成績の評価基準			
出席および講義内の議論への参画度（50%）、最終レポート（50%）の総合評価による。			
オフィスアワー			
適宜、事前にアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中14回。			
備考（受講要件）			
特になし。			

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石塚孔信		099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>経済学はその取り扱うスケールに応じてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。</p> <p>今、大きな森の生態について考えると。その際、一本一本の木を個別に調べ、それを積み上げて木と木の関係を調べたとしても、森全体としての生態をとらえるには限界があり、「木を見て森を見ず」ということになる。大きな森の生態を調べるには、森を空から見るなど森を全体としてとらえた上で、外部の環境との関係性を調べる必要がある。同様に経済について考える時にも、通常、ミクロ的な視点とマクロ的な視点が必要とされる。</p> <p>経済を構成する単位として消費者（家計）と生産者（企業）の行動の分析から始めさらに、多数の消費者と企業からなる市場の構造の分析へと積み上げていく方法をミクロ的方法という。</p> <p>一方、一国全体の経済を一つのものとしてとらえる方法をマクロ的方法という。財やサービスの総生産量や総雇用量、総投資量、総資本ストック高などの集計的データの取扱い、その上で公定歩合の切り下げ、国債の発行、公共投資の増加等が総需要にそして景気に与える影響を分析する。</p>			
学修目標			
<p>今年度は、ミクロ経済学のテキストを読んでいく。今期は、その基礎となる消費者行動の理論と企業行動の理論について理解を深める。近代経済学の勉強の仕方は、積み上げ方式でやらなければなかなか理解が難しく、そのためにはかなりの努力を必要とするが、あるハードルをクリアすれば、その後は理解が容易になるという特徴をもっている。とりわけ、ミクロ経済学ではその傾向が強いと思われるので、このハードルをゼミ生全員がクリアすることが目標である。なお、3年生は2年次にはマクロ経済学のテキストを読んでいるので、2年生も3年生もまったく同じ条件でのスタートとなる。したがって、2年生も安心して取り組んでほしい。</p>			
授業計画			
<p>次のようなスケジュールで講義を行なう。基本的にはすべて対面で行う。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回 市場機構と需要・供給（1） 第3回 市場機構と需要・供給（2） 第4回 市場機構と需要・供給（3） 第5回 消費者行動の理論（1） 第6回 消費者行動の理論（2） 第7回 消費者行動の理論（3） 第8回 消費者行動の理論（4） 第9回 消費者理論の発展問題（1） 第10回 消費者理論の発展問題（2） 第11回 企業行動と生産関数（1） 第12回 企業行動と生産関数（2） 第13回 企業行動と生産関数（3） 第14回 企業行動と生産関数（4） 第15回 まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>演習では、事前に担当を決めて報告してもらおうが、担当でない学生もしっかりテキストを読んで予習してきて</p>			

(2H)、必ず、意見や質問をすることが必要となる。また、演習での議論を通してテキストを理解するためには、毎回の復習も必要となる(2H)。

教科書

西村和雄・八木尚志『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、2008年。

参考書

西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店、1995年

成績の評価基準

演習での報告(80%)と質問等(20%)による。

オフィスアワー

火曜日の4時限目。

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

演習問題を解きながら理解を深める。関連科目として、ミクロ経済学?、?、マクロ経済学?、?を受講することをお勧めする。

遠隔授業で、連休明けはzoomによる講義になるため、演習の進め方については適宜連絡する。

実務経験のある教員による実践的授業

・特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
西村知		099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
本授業は受講生が主体となっておこなう。アジア経済に関する文献の輪読、報告および時事問題に関する研究をおこなう。			
学修目標			
受講生はアジア経済に関する知識を増やすとともに、自己表現能力(プレゼン、ディスカッション)を高める。			
授業計画			
*すべて対面方式で行う予定。 1回 オリエンテーション 2-14回 アジア経済に関する文献の輪読および時事問題研究 15回 総括 (アジア経済に関して得た知識の再確認を中心として)			
授業外学習(予習・復習)			
授業中、適宜、指示する。 予習・復習(4H)に必要な文献・映像を紹介する。			
教科書			
オリエンテーションで指示する。			
参考書			
オリエンテーションで指示する。			
成績の評価基準			
報告と議論の内容(100%)			
オフィスアワ -			
水曜 12:00-12:30 要予約。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
複数回			
備考(受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
日野道啓		099-285-7525	hino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本演習では、日本経済に関連するテーマを扱う国際経済政策のテキストを読み、世界経済および日本経済の現状と課題について学習し、かつ鹿児島県の現状について考える。前期の演習は座学を中心として、基本的な知識の習得・理解に重点を置く。</p> <p>ゼミ形式で行う。毎回、報告者を決め、報告者はテキストの要約・問題提起を行う。そして、報告内容に基づいて全員で討論を行う。各自毎回発言し、活発に議論することが求められる。</p>			
学修目標			
<p>1. 世界経済および日本経済の現状と課題について理解する。</p> <p>2. レジユメの作成方法、読解の方法、批判の方法、質問および討論の方法を身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス 【対面形式】</p> <p>第2回：発表と討論（1）【対面形式】</p> <p>第3回：発表と討論（2）【対面形式】</p> <p>第4回：発表と討論（3）【対面形式】</p> <p>第5回：発表と討論（4）【対面形式】</p> <p>第6回：発表と討論（5）【対面形式】</p> <p>第7回：文献購読（1）【遠隔形式 (Zoom)】</p> <p>第8回：文献購読（2）【遠隔形式 (Zoom)】</p> <p>第9回：文献購読（3）【遠隔形式 (Zoom)】</p> <p>第10回：文献購読（4）【遠隔形式 (Zoom)】</p> <p>第11回：文献購読（5）【遠隔形式 (Zoom)】</p> <p>第12回：文献購読（6）【遠隔形式 (Zoom)】</p> <p>第13回：文献購読（7）【遠隔形式 (Zoom)】</p> <p>第14回：文献購読（8）【遠隔形式 (Zoom)】</p> <p>第15回：総括 【遠隔形式 (Zoom)】</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）</p> <p>復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）</p>			
教科書			
学生との相談の上で決定する。			
参考書			
授業時に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
報告内容(40%)、討論内容(40%)、授業の理解度(20%)			
オフィスアワー			
木曜日3限目。メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；その他；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三浦壮		099 - 285 - 8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本演習のテーマは社会科学（経済，経営，社会）である。 チームで最も関心のあるテーマを選定し，調査をし，報告を行う。 実習形式で戦前期の株価を調査する。 企業とのコラボで事業計画書の作成を行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分で作成したレジュメ・資料によってプレゼンテーションができるようになる。 2. 社会科学の諸問題について議論できるようになる。 3. 社会科学の調査能力を身につける。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス（対面授業） 第2回 発表と議論（対面授業） 第3回 発表と議論（対面授業） 第4回 発表と議論（対面授業） 第5回 発表と議論（対面授業） 第6回 発表と議論（対面授業） 第7回 発表と議論（対面授業） 第8回 発表と議論（対面授業） 第9回 発表と議論（対面授業） 第10回 発表と議論（対面授業） 第11回 発表と議論（対面授業） 第12回 発表と議論（対面授業） 第13回 発表と議論（対面授業） 第14回 発表と議論（対面授業） 第15回 発表と議論（対面授業） 第16回 まとめ（対面授業）			
途中，小学校出前授業などの体験型学習を取り入れる予定があるが，コロナ対策で中止の可能性はある。			
授業外学習（予習・復習）			
予習・復習 購読する本の精読，諸経済データの入力，発表資料の作成，他チーム発表内容に関する予備調査（1回あたり各4時間）			
教科書			
用いない。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
議論への参加度（50%）とプレゼンテーション（50%）。			

無断欠席は1回，連絡があっても3回以上休むと，単位認定の対象外となる。

オフィスアワ -

金曜3限目

アクティブ・ラーニング

ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

16回中14回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三浦壮		099-285-8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本演習のテーマは社会科学（経済，経営，社会）である。 チームで最も関心のあるテーマを選定し，調査をし，報告を行う。 実習形式で戦前期の株価を調査する。 企業とのコラボで事業計画書の作成を行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分で作成したレジュメ・資料によってプレゼンテーションができるようになる。 2. 社会科学の諸問題について議論できるようになる。 3. 社会科学の調査能力を身につける。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス（対面授業） 第2回 発表と議論（対面授業） 第3回 発表と議論（対面授業） 第4回 発表と議論（対面授業） 第5回 発表と議論（対面授業） 第6回 発表と議論（対面授業） 第7回 発表と議論（対面授業） 第8回 発表と議論（対面授業） 第9回 発表と議論（対面授業） 第10回 発表と議論（対面授業） 第11回 発表と議論（対面授業） 第12回 発表と議論（対面授業） 第13回 発表と議論（対面授業） 第14回 発表と議論（対面授業） 第15回 発表と議論（対面授業） 第16回 まとめ（対面授業）			
途中，小学校出前授業などの体験型学習を取り入れる予定があるが，コロナ対策で中止の可能性はある。			
授業外学習（予習・復習）			
予習・復習 購読する本の精読，諸経済データの入力，発表資料の作成，他チーム発表内容に関する予備調査（1回あたり各4時間）			
教科書			
3回目の授業で相談の上決定。			
参考書			
その都度指示する。			
成績の評価基準			
議論への参加度（50%）とプレゼンテーション（50%）。			

無断欠席は1回，連絡があっても3回以上休むと，単位認定の対象外となる。

オフィスアワ -

月曜1限目

アクティブ・ラーニング

ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

複数回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BDX2411

科目名

演習

英語名

Seminar

開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石塚孔信		099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

基本的には対面授業で行いますが、コロナウィルスの状況によっては遠隔授業になることもあります。

経済学はその取り扱うスケールに応じてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。

今、大きな森の生態について考えると。その際、一本一本の木を個別に調べ、それを積み上げて木と木の関係を調べたとしても、森全体としての生態をとらえるには限界があり、「木を見て森を見ず」ということになる。大きな森の生態を調べるには、森を空から見るなど森を全体としてとらえた上で、外部の環境との関係を調べる必要がある。同様に経済について考える時にも、通常、ミクロ的な視点とクロ的な視点が必要とされる。

経済を構成する単位として消費者（家計）と生産者（企業）の行動の分析から始めさらに、多数の消費者と企業からなる市場の構造の分析へと積み上げていく方法をミクロ的方法という。

一方、一国全体の経済を一つのものとしてとらえる方法をマクロ的方法という。財やサービスの総生産量や総雇用量、総投資量、総資本ストック高などの集計的データの分析や取扱い、その上で公定歩合の切り下げ、国債の発行、公共投資の増加等が総需要にそして景気に与える影響を分析する。

学修目標

前期に引き続き、ミクロ経済学のテキストを読んでいく。今期は、市場均衡と余剰分析、不完全競争の理論、市場の失敗について理解を深める。近代経済学の勉強の仕方は、積み上げ方式でやらなければなかなか理解が難しく、そのためにはかなりの努力を必要とするが、あるハードルをクリアすれば、その後は理解が容易になるという特徴をもっている。とりわけ、ミクロ経済学ではその傾向が強いと思われるので、このハードルをゼミ生全員がクリアすることが目標である。

授業計画

次のようなスケジュールで講義を行う。基本的にすべて対面で行われる。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回 不完全競争（1）
- 第3回 不完全競争（2）
- 第4回 不完全競争（3）
- 第5回 不完全競争（4）
- 第6回 市場と効率性（1）
- 第7回 市場と効率性（2）
- 第8回 市場と効率性（3）
- 第9回 市場と効率性（4）
- 第10回 市場の失敗（1）
- 第11回 市場の失敗（2）
- 第12回 市場の失敗（3）
- 第13回 不確実性（1）
- 第14回 不確実性（2）
- 第15回 まとめ

授業外学習（予習・復習）

演習では、事前に担当を決めて報告してもらおうが、担当でない学生もしっかりテキストを読んで予習してきて(2H)、必ず、意見や質問をすることが必要となる。また、演習での議論を通してテキストを理解するためには、毎回の復習も必要となる(2H)。

教科書

西村和雄・八木尚志『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、2008年。

参考書

西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店、1995年。

成績の評価基準

演習での報告（80%）と質問等（20%）による。

オフィスアワー

月曜日の5限目。

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

演習問題を解きながら理解を深める。関連科目として、ミクロ経済学?、?、マクロ経済学?、?を受講することをお勧めする。

実務経験のある教員による実践的授業

・特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
松川太一郎		099-285-7601	matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>社会的な実践である統計の作成と利用について、その技術的な成り立ちと実践主体が置かれた社会関係上の成り立ちを認識するための文献を講読して議論する。そのため、講読する文献は、統計実践にかかわるものとなる。</p>			
学修目標			
<p>1) 統計実践の技術的成り立ちを理解する。</p> <p>2) 統計実践の、実践主体が置かれた社会関係上の成り立ちを理解する。</p> <p>3) 上記を理解することを目標とする社会統計学の分析方法に触れる。</p> <p>4) 議論の仕方を身につける。</p>			
授業計画			
第1回 統計実践にかかわる分権の講読(1)			
第2回 統計実践にかかわる分権の講読(2)			
第3回 統計実践にかかわる分権の講読(3)			
第4回 統計実践にかかわる分権の講読(4)			
第5回 統計実践にかかわる分権の講読(5)			
第6回 統計実践にかかわる分権の講読(6)			
第7回 統計実践にかかわる分権の講読(7)			
第8回 統計実践にかかわる分権の講読(8)			
第9回 統計実践にかかわる分権の講読(9)			
第10回 統計実践にかかわる分権の講読(10)			
第11回 統計実践にかかわる分権の講読(11)			
第12回 統計実践にかかわる分権の講読(12)			
第13回 統計実践にかかわる分権の講読(13)			

第14回 統計実践にかかわる分権の講読(14)

第15回 統計実践にかかわる分権の講読(15)

授業外学習（予習・復習）

予習として、毎回、全員に講読文献のレジюмеを提出させる。（学習に関わる標準的時間は約2時間）

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）

教科書

適宜指定する。

参考書

適宜指定する。

成績の評価基準

授業への取り組み内容、すなわち、レジюмеの出来と演習時の発言内容を総合的に評価する。両者を合わせて100%の評価とする。

オフィスアワ -

火曜日1限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

毎回のレジюме報告と討議

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回。

備考（受講要件）

松川が後期開講する「統計利用論」と「社会と経済の統計」を履修すること。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
林田吉恵		099-285-7525	yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
「社会経済（現代公共部門、地域問題、グローバル社会等）の諸問題とその解決策の研究」			
<p>論理的な思考を養うために、徹底的にゼミでは議論する。</p> <p>本演習では、学生がみずから問題を設定し、それについて探求することが求められる。社会経済問題に対する知的好奇心を発掘し、学識を深めることが、本演習の目的である。社会に出て必要とされる基本的スキルを、共同研究を通じて身につけ、その向上を目指す。</p> <p>共同研究のテーマによっては、フィールドに出てヒアリングをすることもある。分析をするにあたり、統計手法についてもマスターできるようにする。また、学内・学外でのディベート大会や他大学との合同ゼミも、随時やっていく予定である。</p>			
学修目標			
<p>本演習の到達目標は、つぎの5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、明確な問題意識のもとに研究テーマを設定し、その問題意識を他のメンバーと共有することができる。 2、選んだ研究テーマに対して適切な参考文献を揃え、それらを深く読解し、分析することができる。 3、研究成果を他者に対して明確に伝えることができる（プレゼンテーション能力）。 4、他者の研究成果にも関心を持ち、適切な質疑応答をおこなうことができる（ディスカッション能力）。 5、文書および口頭で自己の考えを明確に表現することができる。 6、研究成果を論文としてまとめることができる（書く能力）。 			
授業計画			
<p>課題解決のための処方箋を論理的に検討する能力を養成するために、共同研究報告を中心に分析結果を発表形式で進める。</p> <p>ゼミ内でのグループ討論を中心に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ディベート（1）のためにテーマ決定・基礎知識の習得・分析・報告。 2、ゼミ生による問題提起と共同研究の下地作り。 3、各テーマごとに分析結果を報告・議論。 <p>ゼミ内でグループを作り、それぞれ自由にテーマを決める。それについてグループ学習をして、レジュメを作成し、パワーポイントなどで報告する。報告者以外のゼミ生は、報告を聞き、それについて質疑応答しながら議論する。</p> <p>第1回 ガイダンス、自己紹介 第2回～第14回 研究指導、報告、ディスカッション 第15回 総括</p> <p>他大学との合同ゼミが、3～4回/年あるため、ゼミ以外の時間でその準備をして、ゼミの時間は準備したきたことの報告をし、ゼミ生内で議論する。</p>			
授業外学習（予習・復習）			

この講義は授業外のグループ研究に基づいて進行していくことから、必ず授業時間外に研究をし、グループで集まってまとめること。

(学修に係る標準時間は約4時間)

教科書

学生がレジユメを作成し、配布する。

参考書

特になし。

分析ツールの修得を行うとともに、関連テーマについて新聞・雑誌に目を通すことを勧める。

成績の評価基準

主にゼミ活動への積極的取り組みを中心に、期末レポートの評点を総合して(100%)評価する。

オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

ゼミは、学生主体の共同作業の場であるから、各人の積極的な参加が前提となる。学問は真剣勝負の世界であるが、しかし同時に楽しい雰囲気の中でお互いに助け合いながら学識を深めてゆきたい。このような趣旨に賛同して、熱意ある仲間が集うことを期待している。ゼミ活動への積極的な姿勢を期待する。

無断欠席3回した場合は単位認定しません。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。

授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知します。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
日野道啓		099-285-7525	hino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
前期に引き続いて同様のテーマを扱い、後期は、実習スタイルをとる。学生達でユニットを組み、ユニット毎に自分達で研究課題を設定して、調査・分析する。最後に、調査結果を整理して成果報告を行う。			
学修目標			
1. 世界経済および日本経済の現状と課題について理解する。			
2. 資料の探し方、プレゼンテーションの方法そしてグループワークの方法を身につける。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 【遠隔形式 (Zoom)】			
第2回：発表と討論 (1) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第3回：発表と討論 (2) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第4回：発表と討論 (3) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第5回：発表と討論 (4) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第6回：発表と討論 (5) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第7回：文献購読 (1) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第8回：文献購読 (2) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第9回：文献購読 (3) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第10回：中間報告 【遠隔形式 (Zoom)】			
第11回：文献購読 (4) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第12回：文献購読 (5) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第13回：文献購読 (6) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第14回：成果報告会 (1) 【遠隔形式 (Zoom)】			
第15回：成果報告会 (2) 【遠隔形式 (Zoom)】			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約2時間)			
復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は2時間)			
教科書			
学生と相談の上、決定する。			
参考書			
授業時に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
報告内容(40%)、討論内容(40%)、授業の理解度(20%)			
オフィスアワ -			
木曜日3限目。メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中14回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大芝周子		099-285-7607	oshiba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
この演習では、少人数であることを活かし、全員が毎回発言できる、貴重な時間である。国際経営のゼミではあるが、具体的なテーマ等は、受講者と話し合って決めたいと思う。 以下の通り、1) 英字新聞の読解、2) 日本語での経営学関連本の輪読を行う。グループワークではなく、単独担当制を考えているが、初回の授業で皆と相談したい。			
学修目標			
1) 英字記事を読めるようになる 2) わかりやすいレジュメを作れるようになる 3) 自分の問題意識や関心事を見つけ、意見を言えるようになる。 4) 他者の前で、自分の意見をわかりやすく言えるようになる。			
授業計画			
毎回の授業では、次の2つを行う。 1) 英語の新聞記事 ・短めの海外紙(not日本の新聞の英字版)を、担当者は和訳して持ってきて、皆で議論する。 2) 経営学のテキストあるいは雑誌記事を輪読する。担当者は、レジュメを作成してくる、担当者以外は、読んでくれること。			
授業外学習(予習・復習)			
予習) 英語の新聞記事の和訳(約2時間)、テキストの輪読担当者は、より多くの時間をかけ、よりよいレジュメを作ってくること。 復習) 本日の内容について、ニュースや新聞記事で注目しておく(約2時間)。			
教科書			
履修者が決まったら、伝えます(現在は未定)			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
出席率、参加度(上記の予習をしてきたか、ゼミ内で発言をしたか) 100%			
オフィスアワ -			
メールにて応相談。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
複数回			
備考(受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			
特になし。			

ナンバリングコード			
FHS-BDX2411			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大芝周子		099-285-7607	oshiba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本授業では、卒論執筆に向けた基礎力と基礎的知識をつけることが主目的である。</p> <p>そのため、毎回の授業では、</p> <p>?ロジカルシンキングやロジカルライティングについて、テキストを用いながら学ぶ</p> <p>?新聞記事、のちには文献や論文の輪読（レジュメ作成、意見交換：毎回、全員）を通じ、知識を習得し、自分の意見を発言すること</p> <p>ことに主眼を置く。最終的には、これらの中から見つけた自分の意見や問題意識を明確にし、卒論構想を作る。</p>			
学修目標			
<p>1) ものごとに疑問を持ち、それに関し、自分の意見を論理的に発言かつ書けるようになる。</p> <p>2) 組織や国際経営について、自分の問題意識を見つけ、論文として執筆できるようになる。</p>			
授業計画			
(1)イントロダクション（使用教材、ゼミの進め方について）			
(2)-(12)			
<ul style="list-style-type: none"> ・初期は、新聞記事やテキストを用いながら、論理的思考の練習をしながら、様々な知識を習得しながら、レジュメを作れるようになること、自分の意見を述べるようになることに主眼を置く。 ・続いて、論理的思考やロジカルライティングの練習も続けつつ、文献の輪読を通じ、卒論に向けた自分の関心事項や問題意識を見つける。 			
(13)-(15)			
卒論構想の発表			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】毎回、新聞記事や文献を読んでレジュメを作ってくる（全員）：2時間			
【復習】ゼミ内で指摘や疑問提起を受けた点について、回答を作ってくる。その過程で、その日に学んだ論理的思考法や知識などを身につける。			
教科書			
適宜、紹介する			
参考書			
適宜、紹介する			
成績の評価基準			
?出席（2回以上の欠席は不可）			
?授業への参加度			
オフィスアワー			
メールにて応相談			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX2601			
科目名			
情報ネットワーク論			
英語名			
Informative Network			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
市川英孝		099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
われわれはインターネットにより、多くの利便性を享受している。それは知らず知らずの内にネットワークに参加し、多くの人々とつながっていることを意味する。このメリットにのみ目を向けることは非常に危険で、デメリットは気づかないうちに多くの被害をもたらす可能性がある。本授業では、インターネットの仕組みと、利便性のトレードオフとしての情報ネットワークの危険性について取上げ、講義を進める。			
学修目標			
インターネットを使用することにより、ネットワークに参加し、どのような影響を及ぼすか理解し、その危険性を十分に理解するとともに、インターネットの安全な利用について考える。 身近な問題として、インターネット上でのトレードオフについて考えもらい、各自でインターネットを適切に使用方法を判断できるようになってもらう。そして各自でプレゼンテーションを行ってもらう。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 インターネット技術とその仕組み(1)			
第3回 インターネット技術とその仕組み(2)			
第4回 インターネット技術とその仕組み(3)			
第5回 ネットのメリットとリスク(1)			
第6回 ネットのメリットとリスク(2)			
第7回 ネットのメリットとリスク(3)			
第8回 SNSの利用とその社会的影響(1)			
第9回 SNSの利用とその社会的影響(2)			
第10回 SNSの利用とその社会的影響(3)			
第11回 ネットワーク環境の変遷とその技術(1)			
第12回 ネットワーク環境の変遷とその技術(2)			
第13回 情報ネットワークを取巻く環境とセキュリティ問題(1)			
第14回 情報ネットワークを取巻く環境とセキュリティ問題(2)			
第15回 情報ネットワークを取巻く環境とセキュリティ問題(3)			
第16回 最終レポート			
授業外学習(予習・復習)			
インターネットに関する情報を得るためにも、普段から新聞を購読しておくように。特に日本経済新聞の購読を勧める。また授業で指示する書籍を読むこと。 予習:manaba に掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約 2 時間) 復習:授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は 2 時間)			
教科書			
特になし			
参考書			
日本経済新聞			
成績の評価基準			
授業におけるコメント、レポートならびに最終レポート(30%),発表(70%)により評価する。			

オフィスアワ -

メールにて連絡後、適宜対応
水曜2限研究室にて

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

すべて

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX3317			
科目名			
マーケティング論			
英語名			
Marketing			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>マーケティング的な発想の原点は、消費者志向にあります。また、マーケティング的な発想において、消費者は、製品やサービスの「価値」を購入していると考えられます。</p> <p>本講義では、このような消費者志向をベースとしたマーケティングの基礎的概念を理解したうえで、消費者を理解するために情報を収集し、収集した情報を分析することで、組織のマーケティングに活用できるようになることを目指します。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティング的な発想を理解し、説明できる。 2. マーケティング・リサーチのフローを理解し、計画に落とすことができる 3. 独自のマーケティング・リサーチを企画し、調査設計・データ収集・分析・報告まで実践できる 			
授業計画			
<p>本授業は、リアルタイム配信 (zoom) とオンデマンド動画を組み合わせて行う予定である。なお、授業形態や内容については、今後の状況次第で変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：マーケティングの基礎 (マーケティング的な発想・STP) (1) 第2回：マーケティングの基礎 (STP・4P) (2) 第3回：マーケティング・リサーチとは 第4回：マーケティング・リサーチの進め方 第5回：リサーチの品質と誤差 第6回：リサーチ・デザインとデータ形式 第7回：リサーチ対象の選定 第8回：質的調査とは 第9回：量的調査とは(1)調査設計・データ収集 第10回：量的調査とは(2)前処理・基礎分析 第11回：量的調査とは(3)発展的な分析 第12回：量的調査とは(4)発展的な分析 第13回：マーケティング・リサーチの企画と調査設計 第14回：データ収集と分析 第15回：まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：次回授業までに調査すべきことなど授業内で指示します (120分)。 復習：講義内容を中心に復習してください (120分)。</p>			
教科書			
なし			
参考書			
星野崇宏・上田雅夫 (2018) 『マーケティング・リサーチ入門』, 有斐閣。			
成績の評価基準			

授業内課題と授業貢献度【データ分析実習 / 課題提出 / 質疑応答など】：100%

なお、授業内課題は複数回実施され、レポート形式の課題を含みます。

授業課題は全て提出することが単位修得の条件です。

オフィスアワ -

メールにてアポイントをとってください。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

マシンを用いたハンズオン形式の実習 (データ分析)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

2021年前期の商学総論を履修していることが望ましい。

また、統計解析には「R」もしくは「Python」を用いる予定のため、初歩的なプログラミングスキルを有していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BEX2310

科目名

国際貿易投資論II

英語名

International Trade and Investment II

開講学科

コース

法経社会学科経済コース

経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

山本一哉

099-285-7595

yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

本講義では、日本企業の海外進出（海外直接投資）の事例を利用して、貿易と直接投資の関係、多国籍企業のグローバルな経済活動、国際的な通商問題等について解説する。

学修目標

- 1) 海外直接投資について、基礎的な理論を理解する。
- 2) 日本企業の海外事業活動の実態とその変化について理解する。
- 3) 貿易と海外直接投資の関係について理解する。
- 4) 国際的な通商問題やWTOの機能・役割について理解する。

授業計画

すべての講義をオンデマンド型遠隔授業(録画した解説動画)で行う予定である。動画ビデオをOneDriveにアップするので、あらかじめレジュメに目を通して予習したうえで視聴していただきたい。なお、今後の状況次第で、講義内容・形態、評価方法等が変更になる可能性がある。その場合はmanabaで通知する。

第1回 ガイダンス

第2回 海外直接投資と企業の海外事業活動(1)(日本と世界の海外直接投資)

第3回 海外直接投資と企業の海外事業活動(2)(直接投資と多国籍企業の理論)

第4回 海外直接投資と企業の海外事業活動(3)

(直接投資が「ホスト国」と「ホーム国」に与える影響)

第5回 海外直接投資と企業の海外事業活動(4)(直接投資と貿易の関係)

第6回 海外直接投資と企業の海外事業活動(5)(多国籍企業の国際経営戦略)

第7回 海外直接投資と企業の海外事業活動(6)(日本企業の海外事業展開)

第8回 海外直接投資と企業の海外事業活動(7)(日本自動車産業の海外事業展開)

第9回 海外直接投資と企業の海外事業活動(8)(対日直接投資の動向)

第10回 海外直接投資と企業の海外事業活動(9)(多国籍企業と移転価格税制)

第11回 地域経済統合(1)(概要と統合理論)

第12回 地域経済統合(2)(EU、NAFTA、日本のEPA、TPPなど)

第13回 国際的な通商問題とWTO(1)(GATT、WTOと戦後の貿易自由化)

第14回 国際的な通商問題とWTO(2)(WTOの機能と役割、近年の通商問題)

第15回 国際的な通商問題とWTO(3)(米国トランプ及びバイデン政権の通商政策)

授業外学習(予習・復習)

予習: manaba に掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約2時間)

復習: 授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は2時間)

教科書

授業の際にレジュメと資料を配布する。

参考書

クルーグマン他(山形浩生他訳)『クルーグマン国際経済学 理論と政策 [原書第10版]』丸善出版(2017年)

成績の評価基準

詳細はガイダンスで説明するが、ミニ課題5回(50点)と期末課題レポート(50点)で評価する予定である。

オフィスアワ -

曜日・時間：毎週火曜日2限、場所：研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

5回

備考（受講要件）

前期の国際貿易投資論Iを受講していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX3319			
科目名			
金融政策論			
英語名			
Monetary Policy			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
山本一哉	099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし	後期		
授業概要			
金融論は「お金」の流れに関わるさまざまな経済現象を研究する学問分野であり、近年の経済問題を理解する上で、金融に関する知識が不可欠である。本講義では、貨幣や金融機関の機能、また金融市場や取引など金融の基礎的な学習をしたうえで、日本や欧米の金融政策について解説する。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な金融理論や取引の仕組みを理解できる。 2. 中央銀行による金融政策の目的、手段、効果について理解できる。 3. 近年、日本や欧米で実施されている金融政策（非伝統的金融政策）について理解できる。 			
授業計画			
すべての講義をオンデマンド型遠隔授業(録画した解説動画)で行う予定である。動画ビデオをOneDriveにアップするので、あらかじめレジュメに目を通して予習したうえで視聴していただきたい。なお、今後の状況次第で、講義内容・形態、評価方法等が変更になる可能性がある。その場合はmanabaで通知する。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 金融の基礎(1)(貨幣の機能と金利) 3. 金融の基礎(2)(金融市場と取引) 4. 金融の基礎(3)(金融機関の機能と金融システム) 5. 金融政策のマクロ経済学(IS-LM曲線を使った金融政策の分析) 6. 日本経済と金融政策(1)(バブル期の金融政策) 7. 日本経済と金融政策(2)(バブル崩壊への対応) 8. 日本銀行の金融政策(1)(金融市場調節の仕組み-政策決定、日銀当座預金、コール市場) 9. 日本銀行の金融政策(2)(金融市場調節の仕組み-オープンマーケットオペレーション、貨幣乗数と信用創造) 10. 日本銀行の金融政策(3)(伝統的金融政策-公定歩合操作、預金準備率操作、窓口指導) 11. 日本銀行の金融政策(4)(非伝統的金融政策-ゼロ金利政策以降) 12. 日本銀行の金融政策(5)(新しい金融政策の波及効果と副作用) 13. 日本銀行の金融政策(6)(新型コロナ対応の金融政策) 14. 米国(FRB)の金融政策(リーマンショック以降を中心に) 15. ユーロ圏(欧州中央銀行や英国イングランド銀行)の金融政策 			
授業外学習(予習・復習)			
予習: manaba に掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約2時間)			
復習: 授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は2時間)			
教科書			
講義中に紹介する。 毎回、レジュメを配布する。			
参考書			
小林照義『金融政策(第2版)』中央経済社(2020) 酒井良清、榊原健一、鹿野嘉昭『金融政策(第3版)』有斐閣(2011)			

家森信義『金融論（第2版）』中央経済社（2018）

島村高嘉、中島真志『金融読本（第31版）』東洋経済新報社（2020）

福田慎一、照山博司『マクロ経済学・入門 第5版（有斐閣アルマ）』有斐閣（2018）

吉川洋『マクロ経済学 第4版（現代経済学入門）』岩波書店（2017）

オリヴィエ・ブランシャール『ブランシャール マクロ経済学上下（第2版）』東洋経済新報社（2020）

成績の評価基準

詳細はガイダンスで説明するが、ミニ課題5回(50点)と期末課題レポート(50点)で評価する予定である。

オフィスアワ -

月曜日5限（研究室）。

メールでの質問はいつでも受け付ける。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

5回

備考（受講要件）

マクロ経済学を受講していることが望ましい。

一部「金融論」と授業内容が重なる部分もあるが、金融政策についてより詳しく解説する。

なお、本年度の開講で「金融政策論」は廃止予定である。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX2322			
科目名			
国際経営論			
英語名			
International Business			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大芝周子		099-285-7525	oshiba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
本授業では、国際経営の主な担い手である多国籍企業を中心に扱う。一般的な経営学での企業像との相違を考えたしながら、また、その利点や欠点を考える。			
学修目標			
1. 国際経営とは何かを知る 2. 多国籍組織の特徴を知る 3. 異文化を理解していきながら、世界の人々と協働できる能力を養う			
授業計画			
1. イントロダクション 2. CAGEモデル 3. 多国籍組織の組織論と戦略論 4. 多国籍組織とマーケティング 5. アジアにおける国際経営 6. 多国籍企業とCSR 7. 異文化経営 8. BOP問題 9. 世界の食糧事情 10. 鹿児島における国際経営 11. 在日の外資系企業 12. 鹿児島における国際経営 13. これからの日本企業 14. コロナと国際経営 15. まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
予習 次回のレジュメに目を通しておく (約2時間)			
復習 期末レポート作成のため、本日の内容を復習する (約2時間)。			
教科書			
特に指定はせず、毎回の授業で、以下の参考書を中心に紹介する。			
参考書			
江夏健一・桑名義晴編著『理論とケースで学ぶ国際ビジネス 三訂版』平成4年。			
江夏健一・太田正孝・藤井健『国際ビジネス入門 第2班』中央経済社, 2020/。			
中川功一・林 正・多田和美・大木清弘『はじめての国際経営』有斐閣, 2015年。			
成績の評価基準			
?毎回、最後にミニ感想文を書いてもらう (初回オリエンテーションを除く14回×各回5 = 70点)			
?期末に短めのレポートを提出 (30点)			
オフィスアワ -			
火曜13:30-14:30			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

複数回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX2311			
科目名			
東南アジア経済論			
英語名			
South-east Asian Economics			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
西村知		099-285-8851	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
前後期			
前期			
授業概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジア経済の特徴を共通性と特殊性を歴史、経済構造の点などから概観したのち、いくつかの国（シンガポール、フィリピン、ベトナムなど）の戦後経済史を解説する。 ・ 基礎的な開発経済学の解説をおこなう。 ・ 教員が研究をおこなうフィリピン経済の実態を体験談から話す。 ・ 映画などを用いて、東南アジア経済の視覚的理解を促す。 			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジア経済の抱える問題を理解する。 ・ 開発経済学の基礎を学ぶ。 ・ 東南アジア経済を研究することの楽しさを学ぶ。 			
授業計画			
<p>* すべて遠隔授業（manabaを用いた課題提出型）</p> <p>1 オリエンテーション（授業の内容、受講上の注意）</p> <p>2-5 東南アジア経済の特徴</p> <p>6.7 シンガポール経済</p> <p>8.9 フィリピン経済</p> <p>10.11 ベトナム経済</p> <p>12.13 タイ経済</p> <p>14 東南アジア経済に関する映画上映</p> <p>15 総括（全授業内容の復習）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>授業中、適宜、指示する。</p> <p>予習・復習(4H)に必要な文献や映像を紹介する。</p>			
教科書			
授業の開始後に指示する。			
参考書			
授業の開始後に指示する。			
成績の評価基準			
<p>100点満点中</p> <p>90点：期末筆記試験1回（授業内容の習得度確認）</p> <p>10点：東南アジア経済に関するレポート1回</p>			
オフィスアワー			
毎週水曜日正午から30分間（要予約）			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			

複数回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BEX2308

科目名

国際経済学II (旧 国際経済システム論)

英語名

International Economics II

開講学科

コース

法経社会学科経済コース

経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

日野道啓

099-285-7525

hino@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

本講義では、国際資本移動に注目して国際経済学の諸理論・政策・現実について学習する。
 具体的なトピックスは、以下の通りである。国際資本移動の基礎と理論、国際資本移動の実態と制度の変遷、そして国際資本移動に代表される国際経済活動に起因して生じる環境問題の変遷と国際環境政策の意義等について解説する。国際環境政策については、とくに近年注目を集めている、環境物品 (=環境に優しい財・環境対策に必要な財) の国際貿易の活性化を目指す環境物品交渉について取り上げる。
 なお、日本経済に関連する現象および事例を積極的に取り上げ、日本経済の現状と課題についても学習する。

学修目標

1. 国際資本移動の理論を理解できる。
2. 国際資本移動に関する制度の変遷と現代の課題を理解できる。
3. 国際経済に関する現実の問題に関心を持ち、自分の見解を論理的に表現できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第2回：国際資本移動の重要性 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第3回：外国為替の基礎 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第4回：国際収支と日本経済 (1) 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第5回：国際収支と日本経済 (2) 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第6回：国際通貨体制 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第7回：国際資本移動と多国籍企業 (1) 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第8回：国際資本移動と多国籍企業 (2) 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第9回：国際資本移動と多国籍企業 (3) 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第10回：国際資本移動と多国籍企業 (4) 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第11回：国際環境問題と国際環境政策 (1) 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第12回：国際環境問題と国際環境政策 (2) 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第13回：国際環境問題と国際環境政策 (3) 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第14回：国際環境問題と国際環境政策 (4) 【遠隔形式 (課題提出型)】
 第15回：総括 【遠隔形式 (課題提出型)】

授業外学習 (予習・復習)

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する (学習に関わる標準的時間は約2時間)
 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う (標準的時間は2時間)

教科書

日野道啓 (2019) 『環境物品交渉・貿易の経済分析』文眞堂。

参考書

ギャロウェイ (2018) 『the four GAFA』東洋経済新報社、熊倉正修 (2019) 『日本のマクロ経済政策』岩波新書、
 清田耕造 (2015) 『拡大する直接投資と日本企業』NTT出版 (他多数あり、講義中に説明する)

成績の評価基準

課題レポート (100%)

オフィスアワ -

火曜日の3限目。メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回15回

備考 (受講要件)

「国際経済学I」を履修しておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

なし

ナンバリングコード

FHS-BEX2316

科目名

財政政策論II (財政学総論)

英語名

Public Finance II

開講学科

コース

法経社会学科経済コース

経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース / 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

林田吉恵

099-285-7525

yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

特になし。

前期

授業概要

近年、わが国の財政状況は厳しくなるとともに、高齢社会に伴い年金問題や世代間格差、地方分権、将来の増税不安など、解決すべき財政問題は増え続け、財政運営はますます困難の度を強めている。この講義では国と地方の財政関係（特に税）の現状とあり方について考察する。

学修目標

受講生が現実の財政問題(特に税について)を論理的に考える力や判断力を身につけることを到達目標としている。

授業計画

できるかぎり受講生の反応を見ながら講義を進めたいので、板書を中心に講義を進めるとともに、随時、受講生からの発言を求め、コメントペーパーを書いてもらうなどの双方向の講義になるように努める。

したがって、講義の進捗状況によっては、シラバスを変更する可能性もある。

- 第1回 税の役割と租税原則 租税原則、応能原則と応益課税、地方税減速
- 第2回 課税における公平 水平的公平と垂直的公平、転嫁、帰着
- 第3回 課税と経済効率(1) 所得税、勤労意欲、
- 第4回 課税と経済効率(2) 所得税、消費選択、貯蓄行動
- 第5回 日本の税制 租税負担率、租税体系、税制改革
- 第6回 日本の主要な税(1) 課税最低限、累進税率構造、所得控除、クロヨン問題、給付税額控除
- 第7回 日本の主要な税(2) 物品税、簡易課税、帳簿方式とインボイス方式、軽減税率
- 第8回 日本の主要な税(3) 実効税率、課税ベース、投資行動
- 第9回 日本の主要な税(4) 地方分権、課税自主権 固定資産税、地方法人課税
- 第10回 社会保障の課題(1) 超高齢社会、貧困、負の所得税、積立方式と賦課方式
年金財政
- 第11回 社会保障の課題(2) 国民医療費、自己負担、モラル・ハザード、公的介護保険
- 第12回 国と地方の関係を考える 地方分権改革、補完性の原理、近接性の原理
- 第13回 地方財政の問題(1) 受益者負担、民間委託
- 第14回 地方財政の問題(2) 広域連携
- 第15回 講義のまとめを行い、受講生からの質問を受けつける。予備。

定期試験

授業外学習 (予習・復習)

新聞やニュースなどを読む(観る)など、わが国の抱える様々な経済問題に対する関心を持つようにする。講義で疑問に思ったことや興味をもったことについて自分で調べる。

(学修にかかる標準時間は約4H)

教科書

とくに定めない。講義内容に応じて、適宜資料を配布する。

参考書

林 宜嗣『基本コース財政学 第3版』 新世社

林 宜嗣『地方財政 新版』 有斐閣

成績の評価基準

定期試験(100%)および、平常態度(講義内レポート、受講態度)(+)等も考慮して評価する。

オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

板書で講義をすすめるため、きちんとノートがとれるようにする。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。

授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知します。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BEX2307

科目名

国際経済学I(旧 国際経済システム論)

英語名

International Economics I

開講学科

コース

法経社会学科経済コース

経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

日野道啓

099-285-7525

hino@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

世界経済および日本経済の実態を理解するためには、国際貿易の意義とメカニズムの把握が必要である。本講義では、国際貿易に注目して、国際経済学の諸理論・政策・現実について学習する。

具体的なトピックスは、以下の通りである。新しい分類からみた国際貿易の実態と日本の現状、古典から最新の貿易及び貿易政策理論と貿易の実証分析、そしてWTO体制の限界とメガFTAの展開の現状と課題等について解説する。なお、日本経済に関連する現象および事例を積極的に取り上げ、日本経済の現状と課題についても学習する。

学修目標

1. 国際経済学の基礎理論を理解できる。
2. グローバル化の変遷と現代の課題を理解できる。
3. 国際経済に関する現実の問題に関心を持ち、自分の見解を論理的に表現できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス 【遠隔形式(課題提出型)】
 第2回：日本経済とグローバル化 【遠隔形式(課題提出型)】
 第3回：なぜ、グローバル化なのか-国際貿易の理論(1) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第4回：なぜ、グローバル化なのか-国際貿易の理論(2) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第5回：国際貿易の構造変化(1) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第6回：国際貿易の構造変化(2) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第7回：貿易政策の経済効果(1) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第8回：貿易政策の経済効果(2) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第9回：貿易効果の実証分析(1) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第10回：貿易効果の実証分析(2) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第11回：グローバル化を推進したもの(1) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第12回：グローバル化を推進したもの(2) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第13回：グローバル化を推進したもの(3) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第14回：グローバル化を推進したもの(4) 【遠隔形式(課題提出型)】
 第15回：総括 【遠隔形式(課題提出型)】

授業外学習(予習・復習)

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する(学習に関わる標準的時間は約2時間)

復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う(標準的時間は2時間)

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

参考書

棕寛(2020)『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、阿部顕三(2015)『貿易自由化の理念と現実』ほか(その他多数あり、詳しくは講義中に説明する)

成績の評価基準

課題レポート(100%)

オフィスアワ -

木曜日3限目。メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

manabaを活用した講義内容に関する出題

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回ほど

備考 (受講要件)

「経済学概論」を履修しておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

該当なし

ナンバリングコード

FHS-BEX2328

科目名

職業指導

英語名

Vocational Guidance

開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
池元正美		090-8223-2737	imasami@d-linx.com
共同担当教員		前後期	
なし。		前期	

授業概要

学校教育現場で教職員にとって必須となるキャリア教育についての講義です。組織や企業におけるキャリア開発及びその支援に活用されている様々な理論や手法を、現場における事例を取り入れながら、グループワークなども含めキャリア教育に関しての基本を学びます。特に、働く上で重要な意味を持つ「内的キャリア」に焦点をあて、自己理解やコミュニケーション、キャリア開発に関するワークも取り入れ、自らのキャリア開発についても主体的に取り組んでいけるような講義内容です。

学修目標

- * キャリア教育の基本を理解し、指導ができる。
- * 内的キャリアに基づいた勤労観・職業観の育成を図ることができる。
- * 学校期から社会への移行期におけるキャリア開発の在り方を考えることができる。
- * 自己理解の重要性を理解し、自らの自己理解も取り組むことができる。

授業計画

以下のスケジュールで行う。基本的には遠隔授業（オンデマンド型）で全回行う。

- 第1回：キャリアとは仕事人生/人の欲求とモチベーション
- 第2回：能力と仕事、人間理解力
- 第3回：自己理解（個人ワーク）
- 第4回：自己理解（自己表現ワーク）
- 第5回：自己理解（進路選択における重要性）
- 第6回：コミュニケーション理論（人との関係を作る）
- 第7回：コミュニケーション理論（自己表現）
- 第8回：コミュニケーション理論（傾聴）
- 第9回：内的キャリアと「働く」ための価値観
- 第10回：人のタイプと信頼関係（ソーシャルスタイル、ジョ・ハリの窓）
- 第11回：グループワークの理論と実践
- 第12回：キャリア開発理論（理論と考え方）
- 第13回：職業選択とキャリアプラン
- 第14回：若者と仕事
- 第15回：新しい働き方とダイバーシティ

授業外学習（予習・復習）

授業で学習した内容を、可能な限り日常生活の中でも実践してください。
 実践した結果から感じた課題等については授業で積極的に質問してください。
 予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）
 復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）

教科書

授業の都度資料を配布します。

参考書

購入が必須ではありませんが、自学自習に取り組みたい学生には以下を推奨します。

* 「キャリア・コンサルティング 理論と実践」(木村周著/ 社団法人 雇用問題研究会 / 税別2,600円)

* 「自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック」(小野田博之著/ 日本能率協会マネジメントセンター / 税別1,500円)

成績の評価基準

* 期末レポート (60 %)

* 受講状況 (15 %)

* 授業後のコメント票 (25 %)

オフィスアワ -

講義の前後の時間。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

自己理解、自己表現のためのシート作成等

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

教員免許取得を目指す学生を対象に計画を立てております。

実務経験のある教員による実践的授業

国家資格キャリアコンサルタント及びキャリアコンサルタント育成の実務者により行われる。組織や企業におけるキャリア開発、組織開発支援などに活用されている様々な理論や手法について、現場における事例を取り入れながら個人ワーク、グループワークなども含め、キャリア教育の基本を学ぶ。

ナンバリングコード

FHS-BEX2317

科目名

特殊講義（税の仕組み-税理士の役割-）

英語名

Special Lecture

開講学科

コース

法経社会学科経済コース

経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/選
択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

市川英孝

099-285-7525

ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

馬場武

後期

授業概要

われわれの生活において、税金は密接にかかわっている。国や地方自治体は納められる税金によって多くの施策を実施している。そこで本講義は、南九州税理士会に所属する本学出身の税理士をゲストスピーカーに招いて講義を実施する。実際に租税に関わる専門家により、実務と密接に関連した税の仕組みについて講義していただき、国民の義務である納税された税金がどのように処理され、使われているのか、より身近に感じ、考えてもらう。

学修目標

日本の租税制度を理解する。
実務としての租税政策について理解する。
国民の義務としての納税と税金の役割について考える。
卒業後の職業選択の一つとして、税理士としての役割を理解する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス（総論）
- 第2回 我が国の租税制度及び財政について
- 第3回 所得税の仕組みと実例？
- 第4回 所得税の仕組みと実例？
- 第5回 法人税の仕組みと実例？
- 第6回 法人税の仕組みと実例？
- 第7回 相続税の仕組みと実例？
- 第8回 相続税の仕組みと実例？
- 第9回 消費税およびその他の税の仕組みと実例？
- 第10回 消費税およびその他の税の仕組みと実例？
- 第11回 税理士の仕事？（租税の専門家）
- 第12回 税理士の仕事？（企業のアドバイザー）
- 第13回 税理士と社会貢献？（公益的業務）
- 第14回 税理士と社会貢献？（税理士になるには）
- 第15回 まとめ（総合ディスカッション）
- 第16回 期末試験

授業外学習（予習・復習）

普段から新聞などに目を通し、社会の流れをしっかりと理解しておくこと。必要に際して指示をします。
予習・復習(4H)

教科書

特になし。

参考書

特になし。

成績の評価基準

各回ごとのショートペーパーと期末試験の結果で判断します。

オフィスアワ -

まずメールで連絡ください。その後、個別に対応します。
 今期はZOOMによるオンライン型で授業を実施する。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

すべて

備考（受講要件）

本講義は日本税理士会連合会の寄付によって実施される。各回の講師は南九州税理士会所属の本学出身者税理士がゲストスピーカーとして、授業が進められる。

実務経験のある教員による実践的授業

本講義は、南九州税理士会に所属する税理士をゲストスピーカーに招いて実施される。実際に租税に関わる専門家により、実務と密接に関連した講義をしてもらうことにより、国民の義務である税金が、どのように処理され、使用されるのか具体的に理解することができる。専任教員1回、ゲスト講師14回。

ナンバリングコード

FHS-BEX2306

科目名

経済政策論II

英語名

Economic Policy II

開講学科

コース

法経社会学科経済コース

経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

西藤真一

0855-24-2264

shi-saito@u-shimane.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

わが国では「地方創生」が経済政策上の大きな柱のひとつになっています。地方創生には、地域を支える地場産業の育成や、観光振興を通じた交流人口の拡大、子育て支援や医療の充実による生活支援など広範囲の政策が展開されています。このように、「地方創生」は様々な施策のパッケージの総称です。

さて、そのような社会全体の経済活動や私たちの日常生活を支えるうえでの基盤のことをインフラと呼びます。インフラは社会で重要な役割を果たし、その整備は地域や国を成長させるうえでは不可欠です。しかし、ご承知の通り、近年では国や地方の経済の伸び悩み、そして財政がひっ迫するようになってきました。そのため、従来は国が一律で整備し、運営も国や自治体になうことも多くありましたが、今後は効果的にインフラを整備することのほか、効率的に維持運営するかが極めて重要です。

こうした課題に対して、「民営化」「規制改革」はその切り札だと考えられてきました。民営化をすれば、それぞれの事業は政府から独立して運営されることとなり、人々のニーズに合致し、しかも費用を縮減し、効率的な運営が行われると考えられたのです。しかし、私たちの生活を支えるインフラでは、市場によるサービス提供になじまず、不採算となる場合もあります。効率とは相反する概念ですが、公平性の観点も政策を考えるうえでは忘れてはなりません。

本講義では、地方創生にかかわる事例を題材にしながら、民営化や規制改革をレビューしていきます。その過程で、その政策の意義と課題の抽出に取り組むこととします。

学修目標

【到達目標】

- ・ 公共部門の基本的な役割について、経済学的に説明できる。
- ・ 代表的な規制改革の概要と現在の政策課題について理解し説明できる。

授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政策の原理を考える～政府の役割とは何か？
- 第3回 民間活用の政策潮流
- 第4回 民間活用の期待と課題
- 第5回 空港民間運営と出資者
- 第6回 民間活用の失敗～鉄道の場合
- 第7回 インフラの運営主体？鉄道のケース
- 第8回 まとめ
- 第9回 民間活用を探る日本の空港
- 第10回 小規模な空港運営
- 第11回 疲弊する地方空港
- 第12回 政策の一貫性の重要性 新
- 第13回 不採算サービスをどう維持するか～地域の交通から考える
- 第14回 SDGsにどう取り組むか
- 第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

講義内容に合わせて、毎回オンライン上で課題を提示します。定めた期限内にオンライン上で取り組んでください。

予習・復習(4H)

教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

参考書

西藤真一(2020)『交通インフラの運営と地域政策』成山堂書店

加藤一誠, 手塚広一郎(編著)(2014)『交通インフラ・ファイナンス(日本交通政策研究会研究双書)』成山堂書店

成績の評価基準

授業で提示する課題(40%)、学期末レポート(60%)

オフィスアワー

木曜日12:00~13:00

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

オンライン(オンデマンド方式)で講義を行います。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX2312			
科目名			
公共経済学			
英語名			
Public Finance			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
林田吉恵		099-285-7525	yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
市場を基本とする資本主義経済において、なぜ政府活動が必要なのか、政府活動の規模は適正なのか、政府活動はどのようなメカニズムで決定されるのか、政府に失敗はないのか、政府活動の財源はどのように調達すべきなのかといったテーマに関して、政府活動の現状(歴史)の紹介と、理論による考え方を提示することを通じて、わが国が抱える様々な問題の解決の糸口を見いだす力を養う。			
学修目標			
1. 政府活動の現状と課題について、幅広い知識を習得する。 2. 政府活動の必要性について、自分の言葉で述べられるようになる。 3. わが国が抱える様々な問題について、解決の糸口を見いだす力を養う。			
授業計画			
公共経済学への関心を深めたうえで、問題発生メカニズムやあるべき姿について、理論にウェイトを置いて解説するという形で講義を進める。なお、できる限り学生の反応を見ながら講義を進めたいので、板書を中心に講義を進めるとともに、随時、学生からの発言を求め、コメントペーパーを書いてもらうなどの双方向の講義になるように努める。			
したがって、講義の進捗状況によっては、シラパスを変更する可能性もある。			
第1回	経済活動における政府の役割		
第2回	公共経済学を学ぶ上で必要な経済理論の解説		
第3回	公共財とはどのようなものか (1)非競合性・非排除性		
第4回	公共財とはどのようなものか (2)外部性		
第5回	公共財とはどのようなものか (3) その他		
第6回	公共財の最適供給		
第7回	公共財供給の技術的効率性		
第8回	外部性と市場の失敗		
第9回	外部性と最適資源配分		
第10回	価値材		
第11回	情報の非対称性		
第12回	公共選択		
第13回	公平な所得分配と政府の役割		
第14回	政府の失敗		
第15回	講義のまとめを行い、受講生からの質問を受けつける。予備。		
定期試験			
授業外学習(予習・復習)			
公共部門の活動について日常から新聞、その他のメディアへの関心を持つてもらいた。また、経済理論をベースとした講義も主要な部分を占めることから、基本的なミクロ経済学に関して学習(2H)しておくとともに、講義内容について理論を復習(2H)するためにも経済学のテキストを学習すること。			
教科書			
特に指定しない。講義内容に応じて、適宜資料を配布する。			
参考書			

井堀利宏 『基礎コース公共経済学第 2版』 新世社

林 宜嗣 『基本コース財政学 第3版』 新世社

林 宜嗣 『地方財政 新版』 有斐閣

成績の評価基準

定期試験（100%）および、課題（+ ）等も考慮して評価する。

オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

板書で講義をすすめるため、きちんとノートがとれるようにする。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。

授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知します。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX3601			
科目名			
データベース論			
英語名			
Database Architecture			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>われわれはICTを活用したデータベースにより、便利な生活をおくっている。 このデータベースの存在を明確にイメージすることは、これからの生活だけでなく、データベースを活用するビジネスにとって不可欠である。 本講義では、非常にプリミティブなデータベースを作成し、その活用をSQLを利用しておこなう。</p> <p>なお、端末室の状況から人数制限をおこなうこともある。 これについては、シラバスに掲示するので、学生は十分注意していること。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースの概念を明確に述べることができる。 2. データベースを検索するSQL言語を理解することができる。 3. アプリケーションによって、データベースを検索ができ、SQLに翻訳できる。 4. 逆もできるようになる。 5. LibreOfficeをUSBメモリーにセットアップできる 			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。 なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。 授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義環境の設定 2. データベースの存在をイメージする。 3. データベースの原始的な形態：テーブル 4. アプリケーションの操作（1）：テーブルの作成 5. アプリケーションの操作（2）：クエリーの作成 6. アプリケーションの操作（3）：クエリーによるクエリーの作成 7. アプリケーションの操作（4）：詳細なクエリーの操作 8. SQL言語の理解（1）：文法 9. SQL言語の理解（2）：セレクト文 10. SQL言語の理解（3）：条件設定 11. SQL体系のまとめ 12. 重複データ等の処理について 13. 出力書式について 14. あらためてデータベースを理解する：ネット上のデータベース 15. ネットからデータを処理する手法を学ぶ 16. テスト 			
授業外学習（予習・復習）			

<p>毎回授業後、manabaのレポート機能で提出すること。 課題によっては、プレゼンテーションを求める。 (240分)</p>
教科書
<p>Web上のマニュアルをダウンロードして使用する。 毎年、変更があるので、授業中に指摘する。</p>
参考書
なし
成績の評価基準
<p>毎回のレポート 10点?13回 = 130点(56%) 期末テスト 100点(44%) 素点合計 230点 これを本年度からおこなわれる平準化によって計算したものが特典となる。 素点70点でも不合格となる場合がある。</p>
オフィスアワ -
講義終了後30分
アクティブ・ラーニング
プレゼンテーション;
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
アクティブ・ラーニング(授業回数)
複数回
備考(受講要件)
<p>簡単なプログラムができるか、それに対して意欲的に臨む学生であること。 LibreOfficeの設定をUSBメモリーにするので、持参すること。 また、Java, LibreOfficeの不定期なバージョンアップがあるので、各自で対応すること。</p>
実務経験のある教員による実践的授業
特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX2317			
科目名			
特殊講義（野村證券）			
英語名			
Special Lecture			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
山本一哉		099-285-7595	
共同担当教員		連絡先（MAIL）	
なし		yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本講義は、野村證券株式会社及び同鹿児島支店の支援を受けて、豊富な実務経験を有するスタッフを講師としてお迎えし行われるものである。本講義では、資本市場や証券投資に関するタイムリーな話題を中心に、株式市場や債券市場の役割、投資信託、ポートフォリオ・マネジメント、ライフ・プランニング等について取り上げる。豊富な実例を交えながら講義を進める予定なので、実例を通して資本市場の役割と証券投資について理解してもらいたい。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の資本市場の現状を理解する 2. 資本市場の機能・役割を理解する 3. 金融商品の仕組みを理解する 4. 証券投資に関する基礎知識を身に付ける 			
授業計画			
<p>講義はすべてオンデマンド型（録画動画）で行う予定である（動画は講義当日までにStreamにアップする）。講義資料はmanabaで事前に配布する。</p> <p>第1回「ガイダンス・経済情報の捉え方」 第2回「金融資本市場の役割とその変化」 第3回「債券市場の役割と投資の考え方」 第4回「グローバル化する世界と資本市場の果たす役割」 第5回「株式市場の役割と投資の考え方」 第6回「投資信託の役割とその仕組み」 第7回「リスク・リターンとポートフォリオ分析」 第8回「外国為替相場とその変動要因について」 第9回「日本の株式市場史」 第10回「資本市場における投資家心理」 第11回「企業とSDGs」 第12回「産業展望と投資の考え方」 第13回「ライフプランと資産形成」 第14回「公的年金制度について」 第15回「確定拠出年金（DC）について」</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>講義で取り扱う範囲は広いので、内容を理解できるようにしっかりと復習すること。 また、講義内容を深く理解するためには、講義前に下記の参考書等を読んでおくことを勧める。 （求められる授業外学習時間は4時間）</p>			
教科書			
<p>毎回、事前にmanabaで講義資料を配布する。</p>			
参考書			
<p>『証券投資の基礎』 野村證券投資情報部 編 / 丸善株式会社</p>			
成績の評価基準			

成績評価の詳細については、初回のガイダンスで説明するが、毎回manabaで提出してもらい講義コメント（50点）と理解度を確認する最終試験（manaba、50点）で行う予定である。

オフィスアワ -

曜日・時間：毎週木曜日3限、場所：研究室
メールでの質問は何時でも受け付ける。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

本講義では、資本市場や証券投資に関するタイムリーな話題を中心に、株式市場や債券市場の役割、投資信託、ポートフォリオ・マネジメント、ライフ・プランニング等について取り上げる。野村證券株式会社及び同鹿児島支店の支援を受けて、豊富な実務経験を有するスタッフを講師として迎える（14回）。

ナンバリングコード			
FHS-BEX3301			
科目名			
国民経済計算			
英語名			
National Economic Accounting			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金丸哲		099-285-7525	k3748170@kadai.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>マクロ経済学の統計的基礎を提供する国民経済計算は、経済循環を表示する体系的な統計表を提供するものである。GDP、国民所得等のマクロ集計値は、国民経済計算から導出される。</p> <p>また、国民経済計算は、企業会計あるいはミクロ会計という用語に対応して、一国の会計という意味で国民会計あるいはマクロ会計と呼ばれることがある。実際、国民経済計算は、貸借対照表、勘定、資産・負債等、複式簿記と共通の用語を有していることからわかるように、複式簿記を基礎に作成されている。</p> <p>講義では、この国民経済計算の理論的な構造を、複式簿記と国民経済計算を比較対照しながら、明らかにしたい。</p>			
学修目標			
<p>複式簿記の基礎である貸借対照表，損益計算書の作成原理を理解すること。</p> <p>経済循環の概要を理解すること</p> <p>複式簿記の原理に基づいて作成される国民経済計算の構造を理解すること。</p> <p>国民経済計算の統計を利用して日本の経済循環を理解すること。</p>			
授業計画			
以下のスケジュールで行う。基本的には遠隔授業（オンデマンド型）で全回行う。			
第1回	仕訳		
第2回	転記		
第3回	合計残高試算表		
第4回	行列表示		
第5回	国民経済計算の系譜		
第6回	経済循環の構成要素		
第7回	単一主体の経済活動の表示		
第8回	複数主体の経済活動の表示		
第9回	経済活動と経済対象		
第10回	統合経済勘定表示		
第11回	経常勘定と蓄積勘定		
第12回	経常勘定の分割		
第13回	蓄積勘定の分割		
第14回	海外勘定の導入		
第15回	ストック勘定の導入		
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間） ・復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間） 			
教科書			
コピー配布			
参考書			
内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部編『国民経済計算年報（各年版）』メディアランド株式会社			

成績の評価基準	
期末試験（100％）	
オフィスアワー	
授業終了後	
アクティブ・ラーニング	
ディベート；その他；	
	アクティブ・ラーニング（その他の内容）
講義中の学生への質疑応答	
	アクティブ・ラーニング（授業回数）
4～5回	
備考（受講要件）	
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。	
実務経験のある教員による実践的授業	
なし。	

ナンバリングコード			
FHS-BEX3102			
科目名			
ビジネス英語			
英語名			
Business English			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
山崎美智子		099-227-5173	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		yamasaki@ists.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
本講義は、ビジネス場面において英語でのコミュニケーション能力を高めることを目指す。ビジネスでよく使う表現、仕事上での対話の表現、クレームの対応、プレゼンテーションの仕方などの学びを通じて、英語によるコミュニケーション能力を高める。			
学修目標			
英語によるリスニング、スピーキング能力を高め、自信をもってビジネスの場で英語を用いることができるようにする。			
授業計画			
1. 挨拶、照会 2. アポをとる 3. 来客、訪問 4. 商談 5. 1-4のまとめ 6. 商談(2) 7. 会議、打合せ 8. 注文 9. クレーム 10. 6-9のまとめ 11. 電話 12. 接待 13. 海外出張 14. 雑談 15. 全体のまとめ、質疑応答			
授業外学習(予習・復習)			
予習(2H)・復習(2H)			
教科書			
「場面別会社で使う英会話」 株式会社ディーオーエムフロンティア著 ペレ出版			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
各授業でのコミュニケーション能力の評価による(100%)			
オフィスアワー			
各授業時間終了直後			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX3305			
科目名			
アジア農村経済論			
英語名			
Asian Rural Economics			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
西村知		099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		後期	
授業概要			
<p>「* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。」</p> <p>アジアの農村経済を理解するための理論とアジア農村の実態を講義する。</p>			
学修目標			
<p>1 ミュールダル, ミント, スコット, シュルツなどの農村の経済発展に関する理論を学ぶ。</p> <p>2 セン, シーバなど開発学において重要な理論を学ぶ。</p> <p>3 農地改革や緑の革命などのアジア農村における制度的, 技術的变化の内容およびその農村への影響 について学ぶ。</p> <p>4 フィリピンを中心としてアジアの農村変化の具体例を通じて, アジア農村の抱える問題を理解する。</p>			
授業計画			
* manabaのレポートで課題に添えていただく。			
1 オリエンテーション			
2 農村の経済発展に関する理論1ミュールダル			
3 " 2 ミント			
4 " 3 スコット			
5 " 4 シュルツ			
6 開発学1 セン1			
7 " 2 セン2,			
8 開発学3 シーバ1			
9 " 4 シーバ2			
10 農地改革1			
11 " 2			
12, 緑の革命1			
13 " 3			
14 フィリピンの農村変化1			
15 " 2			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中、適宜、指示する。予習・復習(4H)			
教科書			
授業開始後に紹介。			
参考書			
授業開始後に紹介。			
成績の評価基準			
数回の小テスト成績(100%)。			
オフィスアワー			
水曜日: 12:00-12:30			

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

複数回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX3320			
科目名			
行動経済学			
英語名			
Behavioral Economics			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
福山博文		099-285-7525	fukuyamah@fc.jwu.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>行動経済学とは、標準的な経済学で前提とされている合理的で利己的な経済人（ホモ・エコノミカス）としての考え方や行動の問題点を示した上で、感情に流されたり時々間違った判断をしてしまうより身近で現実味のある経済人を想定することで人間の経済活動を捉えなおそうとする学問である。</p> <p>本講義では、ホモ・エコノミカスが超利己的、超自制的、超合理的の3つの性質をもつホモエコノミカスの基本的に次のように展開される。まず最初に標準的な経済学の理論を学び次にその理論についての教室実験を実施する。最後にその理論と実験結果の整合性を検証することで標準的な経済学に対するアノマリー（例外）に着目し、それを説明するための「行動経済学」の考え方を説明していく。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 行動経済学の発生メカニズムを理解し、行動経済学の果たす役割を説明することができる。 2. 行動経済学の効果と問題点を説明することができる。 3. 行動経済学の方法とその問題点を理解することができる。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス(ZOOMによるオンライン授業) 第2回 授業(1)(ZOOMによるオンライン授業) 第3回 授業(2)(ZOOMによるオンライン授業) 第4回 授業(3)(ZOOMによるオンライン授業) 第5回 授業(4)(ZOOMによるオンライン授業) 第6回 授業(5)(ZOOMによるオンライン授業) 第7回 授業(1)(対面授業) 第8回 授業(2)(対面授業) 第9回 授業(3)(対面授業) 第10回 授業(4)(対面授業) 第11回 授業(5)(対面授業) 第12回 授業(6)(対面授業とZOOMによるオンライン授業の同時進行) 第13回 授業(7)(対面授業とZOOMによるオンライン授業の同時進行) 第14回 授業(8)(対面授業とZOOMによるオンライン授業の同時進行) 第15回 総括(ZOOMによるオンライン授業)			
授業外学習 (予習・復習)			
予習(2H)・復習(2H)			
教科書			
適宜に指示			
参考書			
適宜に指示			
成績の評価基準			
課題レポートと期末テスト(100%)			
オフィスアワ -			
質問は随時メールで受け付けます。			

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

複数回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BEX3315			
科目名			
経営分析			
英語名			
Business Analysis			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
澤田成章	099-285-8888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし	後期		
授業概要			
<p>本講義では、財務会計の知識をベースとし、財務諸表分析を中心に経営分析について学んでいただく。教員のレクチャーは第3回講義までであり、「経営分析の実践(1)~(8)」では受講者によるグループワークが主たる講義内容となる。原則として企業の経営にフォーカスするが、受講者の興味・関心に応じて、自治体や公営企業を分析対象とすることも可能である。</p>			
学修目標			
<p>?グループで作業内容を分担し、作業結果を共有し、適切に進捗管理を行う能力を身に付けること(可~良) ?財務諸表情報をはじめとする経営情報を収集し、適切に仮説検証を行う能力を身に付けること(優) ?問いを立て(課題発見)、問いを解消し(課題解決)、分析作業によって新たな知を生み出すことに貢献する能力を身に付けること(秀)</p>			
授業計画			
<p>第 1 回：ガイダンス、経営分析を行う意義について 第 2 回：経営分析の視点 第 3 回：情報の利活用方法について 第 4 回：経営分析の実践(1)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 5 回：経営分析の実践(2)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 6 回：経営分析の実践(3)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 7 回：経営分析の実践(4)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 8 回：中間報告会(1) 第 9 回：中間報告会(2) 第 10回：経営分析の実践(5)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 11回：経営分析の実践(6)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 12回：経営分析の実践(7)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 13回：経営分析の実践(8)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 14回：最終報告会(1) 第 15回：最終報告会(2)・総括</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、可能な限り遠隔講義を取り入れる。第1回から第3回までは講義資料をmanabaに提示して課題提出型の講義として進める。 第4回以降は原則遠隔でのグループ作業とし、グループごとに教員に対面で進捗報告や進め方の相談を行うことができるようにする予定である。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
アウトプットのクオリティを最大化するために必要な予習(4H)を求める。			
教科書			
伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			

中間レポート(40%)、最終レポート(60%)の総合評価による。

オフィスアワ -

メールにてアポイントメントをお願いします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中12回

備考(受講要件)

教員によるレクチャーを最小限にすることから、企業会計論、財務会計論、管理会計論、商業簿記、工業簿記・原価計算論、等の会計関連科目を受講済みであることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2309			
科目名			
管理会計論			
英語名			
Management Accounting			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース・経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北村浩一		099-285-6296	ki tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>企業経営者にとって厳しく先の見えない環境の中で、管理会計はますます重要な管理手法として位置づけられている。そこで本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉える作業が非常に重要であるという観点から、概念・体系を中心として「管理会計」を分析してゆく。</p>			
学修目標			
<p>本講義では第1に「管理会計」とは一体何かをそれぞれがそれなりに掴むことを目標としている。管理会計については様々に定義されているからである。また、管理会計の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得することをさらなる目標としている。</p>			
授業計画			
<p>以下は、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある</p> <p>毎回、遠隔授業を行い、授業中の課題を提出する</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回-第3回 会計による管理と管理のための会計 第4回-第5回 計画と統制 第6回-第9回 利益管理・予算管理 第10回-第12回 原価管理 第13回-第15回 業績管理会計・総括(管理会計の役割と意義) ただし、テキストを中心に捉えて授業を進めていくので、多少内容が変更になる場合もある。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>その都度指示する 予習(2H)・復習(2H)</p>			
教科書			
西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』中央経済社			
参考書			
授業中に随時示す。			
成績の評価基準			
<p>(遠隔の場合) 毎回の課題により評価する(100%) (対面の場合) 期末試験、レポート(レポートは授業時間中に数回行う予定)</p>			
オフィスアワ -			
毎週水曜日午前10時半から			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
5回			

備考（受講要件）

関係講義『企業会計論』『工業簿記・原価計算論』の受講が望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX3309			
科目名			
経営情報論			
英語名			
Management Information System			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース・経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野 誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>企業の情報システムは、既存の企業組織を超えて、ネットワークを介し、大きく変化している。この動きは、コンピュータ導入の初期段階から存在していた。</p> <p>本講義は、この情報通信技術ICTの本質を見極めて、情報を中心とした企業組織の変化を見出すことを目指す。</p>			
学修目標			
<p>1) 情報通信技術の本質を説明できる。</p> <p>2) 企業の組織がネットワークで変化する経緯を説明できる。</p>			
授業計画			
<p>本授業は、毎回対面形式で行う予定である。</p> <p>なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。</p> <p>授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する</p>			
<p>イントロダクション</p> <p>第1回 はじめに：ICTとは何か？</p> <p>第2回 コンピュータのハードウェアについて</p> <p>第3回 コンピュータのソフトウェアについて</p> <p>第4回 ICTの技術進歩について（1）</p> <p>第5回 ICTの技術進歩について（2）</p> <p>第6回 小テストとレポート提出</p> <p>第7回 ICTの技術特性（1）：becoming</p> <p>第8回 ICTの技術特性(2)：cognifying</p> <p>第9回 ICTの技術特性(3)：flowing</p> <p>第10回 ICTの技術特性(4)：screening</p> <p>第11回 小テストとレポート提出</p> <p>第12回 トピックス ダウンサイジングの帰結&ボーダレス化とICT</p> <p>第13回 トピックス鹿児島県とICT革命</p> <p>第14回 トピックス コミュニティビジネスとICT革命</p> <p>第15回 小テスト</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>講義中にレポートを出すので、これを予習復習時間に行うこと。（240分）</p> <p>提出はmanabaのレポートとなる。</p>			
教科書			
<p>ケヴィン・ケリー インターネット の次に来るもの 未来を決める12の法則</p> <p>NHK出版、定価：2,200円</p>			
参考書			

随時、紹介する

成績の評価基準

基本的に予習・復習のレポートと小テストで評価します。

予習・復習のレポート 5点満点? 13回 = 65点 (52%)

小テスト 20点 ?3回 = 60点 (48%)

105点満点を素点として、今年度より始まる正規分布化により特典が決められます。

極端な場合、素点60点でも、不可となる場合があります。

オフィスアワー

manabaの掲示板でおこなう

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中 15回

備考 (受講要件)

manabaの課題提出型の講義とする。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2301			
科目名			
経済政策論I			
英語名			
Economic Policy I			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース・経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
豊田知世		0855242263	t-toyota@u-shimane.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本講義では、日本経済の出来事を経済学的視点で理解する事を目標としています。少子高齢化の要因や、貿易や国際競争力など世界と関わりのあるトピックのほか、物価や都市化、経済格差など、日本経済の発展の流れと、経済発展の過程で問題となってきたテーマを取り上げながら講義を進めていきます。経済学的視点から日本経済の動向を読み取りながら、日本経済の課題と現状について理解出来るようになることを目的としています。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済を包括的に理解し、自己の言葉で説明できる。 ・日本の経済政策の今後の課題について、自己の言葉で説明できる。 			
授業計画			
<p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 経済の指標・日本の発展 第3回 景気の読み方 第4回 人的資源と都市化の要因 第5回 人口減少と少子高齢化 第6回 所得分配と格差社会 第7回 第二次大戦後の日本 第8回 高度経済成長 第9回 バブル経済と崩壊 第10回 食と農 第11回 貿易のメリット 第12回 グローバリゼーションと日本 第13回 地域課題と経済政策 第14回 経済援助と国際協力 第15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
予習(2H)・復習(2H)			
教科書			
教科書は特に指定しません。授業のレジユメを配布します。			
参考書			
原田泰 『コンパクト 日本経済論』、新世社、2008。 三橋規宏 他 『ゼミナール 日本経済入門 第25版』、日本経済新聞出版社、2012。			
成績の評価基準			
毎回授業の最後に簡単な確認クイズを行います。 成績は、期末レポート(100%)で評価します。			
オフィスアワ -			
火曜9:00-10:00 メール、電話での対応が可能です。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等) ;			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

複数回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード			
FHS-BDX2308			
科目名			
経営財務論			
英語名			
Corporate Finance			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース・経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
王 鏡凱		099-285-7525 (法文学部学生係)	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp	
前後期			
なし		前期	
授業概要			
授業形態：全授業はZOOMによるリアルタイム配信で実施する。			
今後のコロナの感染状況やその他の理由により、授業形態を変更する場合がある。			
講義では、企業財務(コーポレート・ファイナンス)の理論と実践を学ぶ。前半は価値について、後半はリスクとリターンについて学ぶ。講義で学んだ理論を全員参加の形で実践する。具体的には、マイナス金利下の日本国債の理論価値(現在価値)、不動産・リートの理論価値、住宅ローンの理論価値、株式(東京瓦斯・大阪瓦斯・九州電力・東芝)の理論株価を求める。講義では日経新聞の記事などを用いながら、コーポレートファイナンスの基礎知識を楽しく勉強できるように工夫する。			
学修目標			
価値とリスクを理解すること。投資家の視線で企業の優劣を判断できること。			
授業計画			
授業形態：全授業はZOOMによるリアルタイム配信で実施する。			
今後のコロナの感染状況やその他の理由により、授業形態を変更する場合がある。			
第1回 インTRODクシヨN：ファイナンスと財務担当者(ZOOM)			
第2回 将来価値の入門：単利と複利の関係(ZOOM)			
第3回 将来価値と現在価値の関係：割引率の意味1(ZOOM)			
第4回 将来価値と現在価値の関係：割引率の意味2(ZOOM)			
第5回 様々な割引率：国債金利・CAPM・WACC(ZOOM)			
第6回 現在価値の応用(1)：日本国債(JGB)の理論価値1(ZOOM)			
第7回 現在価値の応用(2)：日本国債(JGB)の理論価値2(ZOOM)			
第8回 現在価値の応用(2)：不動産・リート・分配金型ファンドの理論価値(ZOOM)			
第9回 現在価値の応用(3)：生涯賃金の理論価値(ZOOM)			
第10回 住宅ローンの理論価値(1)：エクセルのPMT関数による計算(ZOOM)			
第11回 住宅ローンの理論価値(2)：図形による近似法(簡便法)とPMT関数(ZOOM)			
第12回 企業の資本構成とペイアウトポリシー(配当政策)：MM無関連命題(ZOOM)			
第13回 株式の理論価値(1)：割引キャッシュフロー法(ZOOM)			
第14回 株式の理論価値(2)：マルチプル法(ZOOM)			
第15回 復習と質問応答(ZOOM)			
第16回 試験(複数回の課題レポート)			
*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが、受講生の理解度を考え調整することもある。			
授業外学習(予習・復習)			
日経ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。興味ある企業や就職したい企業について分析してみるの是最も効果的である。			
予習：テキストを事前に予習(学習に関わる標準的時間は約2時間)			

復習：授業内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）

教科書

砂川伸幸,「コーポレート・ファイナンス入門 第2版」,日経文庫,2017年.

参考書

砂川伸幸,「コーポレート・ファイナンス入門 第2版」,日経文庫,2017年.

砂川伸幸 笠原真人,「はじめての企業価値評価」,日経文庫,2015年.

石野雄一,「ざっくり分かるファイナンス 経営センスを磨くための財務」,光文社,2007年.

成績の評価基準

複数回の課題レポートで評価(100%)する.

オフィスアワー

月曜日・3限目・MANABAの掲示板と電子メールにおいても随時受付しております.

授業中いつでも質問ができる環境にあります.参加者の質問はこの授業にとって重要な部分であり,参加者の質問なしではこの授業が成り立たないといっても過言ではありません.授業中の質問は大歓迎です.または授業の後でも質問を受け付けます.

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

実験・シミュレーション

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

*電卓を持参すること.

*出席は成績の必要条件であり,十分条件ではないことを理解してください.

*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが,受講生の理解度を考え調整することもある.

*ミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学・統計学及び計量経済学の基礎があれば望ましい.

授業形態:全授業はZOOMによるリアルタイム配信で実施する.

今後のコロナの感染状況やその他の理由により,授業形態を変更する場合がある.

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない.

ナンバリングコード

FHS-BDX2307

科目名

経営管理論

英語名

Business Management

開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース・経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
王 鏡凱		099-285-7525 (法文学部学生係)	kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

授業形態：全授業は可能である限り対面形式で実施するので、Mask! Must!!

今後のコロナの感染状況やその他の理由により、授業形態を変更する場合がある。

経営管理論(Business Management Theories)は組織において目的を達成するために人や組織を管理する方法に関する理論である。この講義では、古典経営理論・心理学ディシプリンの経営理論・経済学ディシプリンの経営理論を概説する。

学修目標

この講義では、経営理論(Management Theories)の基本的な考え方と代表的な理論の基礎を理解し、身につけることを目標とする。

授業計画

授業形態：全授業は可能である限り対面形式で実施するので、Mask! Must!!

今後のコロナの感染状況やその他の理由により、授業形態を変更する場合がある。

- 第1回 イントロダクション：経営学の考え方((ZOOM授業))
- 第2回 経営理論の変遷：組織論と戦略論の前史((ZOOM授業))
- 第3回 管理の時代：専門経営者の台頭と組織能力(対面授業)
- 第4回 経済学(1)：組織のジレンマ：チーム生産のモチベーション問題(対面授業)
- 第5回 経済学(2)：組織のジレンマ：信頼形成のモチベーション問題(対面授業)
- 第6回 経済学(3)：分業とさまざまなコーディネーション問題(対面授業)
- 第7回 経済学(4)：コーディネーション問題の解決(対面授業)
- 第8回 ミクロ心理学(1)：ホーソン実験(対面授業)
- 第9回 ミクロ心理学(2)：マズローの欲求階層説と4タイプの人間モデル(対面授業)
- 第10回 マクロ心理学(1)：組織デザインの手順と原則(対面授業)
- 第11回 マクロ心理学(2)：組織形態の基本型(対面授業)
- 第12回 マクロ心理学(3)：事前的調整と事後的調整(対面授業)
- 第13回 行動経済学(1)：高い給料はお好きですか？ボーナスによるインセンティブ効果(ZOOM授業)
- 第14回 行動経済学(2)：働くことの意味とモチベーション(ZOOM授業)
- 第15回 行動経済学(3)：イケア効果と過大評価(ZOOM授業)
- 第16回 期末試験(複数回のレポート課題)

*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある。

授業外学習(予習・復習)

ニュースに目を通すこと、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。
興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。

予習：テキストを事前に予習（学習に関わる標準的時間は約2時間）
 復習：授業内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）

教科書

伊藤秀史(著)、小林創(著)、宮原泰之(著)、『組織の経済学』、有斐閣出版、2019年。

参考書

参考書の一部であり、詳細については授業中適宜紹介する。

1. 伊藤秀史(著)、小林創(著)、宮原泰之(著)、『組織の経済学』、有斐閣出版、2019年。
2. 入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社 2019年。
3. 沼上幹 『組織デザイン』日経文庫 2004年。
4. 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』第3版 日本経済新聞社 2003年。
5. 井原久光 『テキスト経営学』ミネルヴァ書房 2000年。
6. 柳川範之、「契約と組織の経済学」、東洋経済新報社、2000年。
7. ポール・ミルグロム(著)、ジョン・ロバーツ(著)、奥野正寛(訳)、伊藤秀史(訳)、今井晴雄(訳)、西村理(訳)、八木甫(訳) 『組織の経済学』NTT出版 1997年。

成績の評価基準

複数回のレポート課題で評価(100%)する。

オフィスアワー

月曜日・3限目。MANABAの掲示板と電子メールにおいても随時受付しております。
 授業中いつでも質問ができる環境にあります。参加者の質問はこの授業にとって重要な部分であり、参加者の質問なしではこの授業が成り立たないといっても過言ではありません。授業中の質問は大歓迎です。または授業の後でも質問を受け付けます。

アクティブ・ラーニング

ディベート; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

実験・シミュレーション

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

令和3年度における授業等の実施方針について〔第2版〕より、
 1) Mask! Must!!学生も教員も不織布マスクを着用のこと(ウレタンや布製は不可)
 2) ワクチン接種を履修の条件にしないこと

*出席は成績の必要条件であり、十分条件ではないことを理解してください。

*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが、受講生の理解度を考え調整することもある。

*ミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学・統計学及び計量経済学の基礎があれば望ましい。

授業形態：全授業は対面形式で実施する。

今後のコロナの感染状況やその他の理由により、授業形態を変更する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない。

ナンバリングコード

FHS-BDX2310

科目名

商業簿記（旧 簿記システム論）

英語名

Book-keeping

開講学科

コース

法経社会学科経済コース

地域社会コース・経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

澤田成章

0992858888

sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

企業の簿記では、経済活動を一定のルールに従って2つの側面から記録する複式簿記が用いられる。複式簿記は企業の取引を正確に記録し、財政状態や経営成績を明らかにするために用いられる。本講義では複式簿記の計算システムを学ぶと共に、会計や企業行動との関連についても触れる。

本講義はmanabaを活用した課題提出型講義として実施する。

学修目標

- (1) 日商簿記3級に相当する知識の獲得
- (2) 簿記の知識をベースとした財務数値の解釈

授業計画

- 第1回：ガイダンス（社会における企業の役割、企業における会計の役割）
- 第2回：仕訳と転記（第2章）
- 第3回：仕訳帳と元帳（第3章）
- 第4回：帳簿組織（第4章）
- 第5回：決算（第4章）
- 第6回：現金と預金（第5章）
- 第7回：繰越商品・仕入・売上（第6章）
- 第8回：売掛金と買掛金（第7章）
- 第9回：受取手形と支払手形（第9章）
- 第10回：中間試験
- 第11回：有価証券（第10章）
- 第12回：固定資産（第11章）
- 第13回：貸倒損失と貸倒引当金（第12章）
- 第14回：収益と費用（第14章）
- 第15回：財務諸表（第16章）
- 第16回：精算表の作成

以下が遠隔講義版のシラバスです

- 第1回：ガイダンス（社会における企業の役割、企業における会計の役割）
- 第2回：仕訳と転記（第2章）
- 第3回：仕訳帳と元帳（第3章）
- 第4回：帳簿組織（第4章）
- 第5回：現金と預金（第5章）
- 第6回：繰越商品・仕入・売上（第6章）
- 第7回：売掛金と買掛金（第7章）受取手形と支払手形（第9章）
- 第8回：有価証券（第10章）
- 第9回：固定資産（第11章）
- 第10回：貸倒損失と貸倒引当金（第12章）
- 第11回：収益と費用（第14章）

第12回：財務諸表（第16章）

授業外学習（予習・復習）

講義中、適宜指示します。これまでの受講生によると、予習課題120分、復習120分により、個別に質問しなくとも十分にテキストの内容を理解することができるようになることが報告されています。

教科書

『検定 簿記講義 2021年度版 [3級/商業簿記]』、渡部裕巨・片山覚・北村敬子 著、中央経済社（最新版でなくとも構いません）

参考書

『新・現代会計入門』、伊藤邦雄著、日本経済新聞社

成績の評価基準

ミニレポート（60%）、期末レポート（40%）による総合評価。

オフィスアワー

適宜、事前にアポイントメントを取ることに。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

演習問題に関するディスカッション

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BDX2312

科目名

経営組織論

英語名

Organizational Management

開講学科

法経社会学科経済コース

コース

地域社会コース・経済コース

授業科目区分

法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

前田卓雄

連絡先 (TEL)

099-285-7525

連絡先 (MAIL)

maedapi8@nakamura-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

この講義は、経営学の初学者を対象としている。したがって、古典的な組織理論から現代企業が抱える組織マネジメント上の課題までを範囲として幅広く学び、「組織とは何か」という経営学の永遠のテーマについて、とりわけ株式会社を中心に理解が深まるように講義を行う。

学修目標

組織における様々な理論や株式会社の仕組みを理解し、実社会に出て行く上で必要となる組織メカニズムに関する知識を身につけることを目標とする。

授業計画

本講義はリアルタイムオンライン配信 (zoom) で行なう予定である。
zoomのアクセス情報はmanabaを確認すること。

1. 組織とは何か (企業論)
2. 古典的組織論 (テイラーとファヨールの組織論・組織管理論)
3. 新古典的組織論 (メイヨーのホーソン実験と非公式組織)
4. 近代的組織論 (バーナードとサイモンの組織論・組織管理論)
5. 組織における動機付け理論 (モチベーション管理) 1
6. 組織における動機付け理論 (モチベーション管理) 2
7. 組織におけるリーダーシップ論
8. 株式会社の仕組み
9. 組織の形態と構造
10. 組織文化
11. 組織と戦略
12. 日本的経営と組織管理
13. 組織における雇用管理
14. 組織での能力開発
15. 企業の社会的責任

授業外学習 (予習・復習)

予習：予習の必要のある場合は、授業内で指示する (120分)

復習：授業後の復習を当日中にしっかりと行い、理解を深めること。(120分)

教科書

講義レジュメを配布する。

参考書

1. 十川廣國 編著 『経営組織論』 中央経済社 2015年。
2. 芹澤成光・日高定昭 編著 『現代経営管理論の基礎』 学文社 2011年。
3. 前田卓雄 遠原智文 三島重顕「初学者のための経営学概論」同友館 2021年。

成績の評価基準

授業で出すミニ課題 (90%) と授業への貢献度 (10%) で評価を行う。

オフィスアワ -

講義の前後

またはメールで予約すること。

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

講義前に行う質問に対してクラスで意見交換を行う。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回（毎回の授業で10分程度の意見交換を行う時間を設ける。）

備考（受講要件）

初学者を対象にしており、経営学や実社会での企業の行動に関心のある学生の参加を望む。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BDX2303

科目名

財政政策論I (旧 財政学総論)

英語名

Public Finance I

開講学科

コース

法経社会学科経済コース

地域社会コース・経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

林田吉恵

099-285-7525

yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

私たちが生活する社会・経済は、自由経済・市場経済を基本としながらも、政府や財政による公的な対応を不可欠としている。そして「地方分権の時代」と言われるが、事実上、依然としてわが国の地方財政は国のコントロール下であり、地方にとって国からの地方交付税や国庫支出金はなくてはならない財源である。この講義では国と地方の財政関係の現状とあり方について考察する。

本講義では、なぜ私たちは政府や財政を必要としているのか、そこではどのような政策手段が可能であるのかについて、基礎的概念を学んでもらうこと、また、日本の財政や地方財政を取り巻く制度面・政策面での特徴を解説し、どのような課題・論点があるかを理解してもらうことを目標とする。

学修目標

財政・地方財政に関する基礎知識・基本的概念を自己の言葉で説明でき、また理論的背景についても説明できる。

授業計画

できるかぎり受講生の反応を見ながら講義を進めたいので、板書を中心に講義を進めるとともに、随時、受講生からの発言を求め、コメントペーパーを書いてもらうなどの双方向の講義になるように努める。

したがって、講義の進捗状況によっては、シラパスを変更する可能性もある。

- 第1回 経済活動における政府の役割 GDP、国民負担率、政府支出、社会保障給付
- 第2回 経済活動における財政の役割(1) 財政の3機能公共財、外部性、税・移転支出、公共事業
- 第3回 経済活動における財政の役割(2) 引き続き財政の3機能、国と地方の役割分担
- 第4回 財政制度 予算、決算、地方財政計画、特別会計
- 第5回 日本の財政状況と問題点(1) プライマリー・バランス、クラウドディング・アウト、世代間の公平
- 第6回 日本の財政赤字の要因 増分主義、福祉国家、高齢化
- 第7回 これまでの講義のまとめ 予備
- 第8回 公共財・サービスの供給(1) 非排除性、非競合性、ただ乗り、民間財、効率性
- 第9回 公共財・サービスの供給(2) 準公共財、価値財、外部性
- 第10回 政府支出の理論(1) 生産の効率性、配分の効率性、公共財の最適供給
- 第11回 政府支出の理論(2) 多数決投票、ナッシュ均衡、リンダール均衡
- 第12回 財政と経済安定(1) 国民所得の決定、乗数効果、IS・LM
- 第13回 財政と経済安定(2) 税収弾性値、完全雇用余剰、財政配当
- 第14回 政府の失敗を考える X非効率性、エージェンシー問題、意思決定の費用
- 第15回 講義のまとめを行い、受講生からの質問を受けるつける。予備。
- 第16回 定期試験

授業外学習 (予習・復習)

新聞・ニュースなどを読む(見る)など、わが国の抱える様々な経済問題に対しての関心を持つようにする。講義で疑問に思ったことや興味をもったことについて自分で調べる。

(学修に係る標準時間は約4H)

教科書

とくに定めなし。

講義内容に応じて、適宜資料を配布する。

参考書

林 宜嗣 『基本コース財政学 第3版』 新世社
 林 宜嗣 『地方財政 新版』 有斐閣

成績の評価基準

定期試験 (100%) および、平常態度 (講義内レポート、受講態度) (+) 等も考慮して評価する。

オフィスアワ -

火曜日
 必ず事前にメールで連絡してください

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

板書で講義をすすめるため、きちんとノートがとれるようにする。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。
 授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知します。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。

ナンバリングコード

FHS-BDX3308

科目名

財務会計論

英語名

Financial Accounting

開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		地域社会コース・経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
澤田成章		099-285-8888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

会計は企業行動を映し出す鏡であり、事業の言語であるといわれる。会計という言葉を学び修得するうえでは会計処理や会計基準について理解すること（語彙・文法の習得）、企業行動と財務諸表数値の照らし合わせ（読み・書き・コミュニケーションの訓練）の2つをバランスよく行うことが重要であろう。本稿義では、立ち講義によるインプットだけでなく、試験・レポート提出を中心としたスループット・アウトプットの充実を図る。本講義はmanabaを活用した課題提出型講義として実施する。

学修目標

- (1) 現行の日本の会計基準が求める会計処理、およびその背景となる企業会計の考え方を理解・修得する。
- (2) 上場企業の財務諸表を読み解き、目的に照らして適切に分析に活用する。

授業計画

- 第1回：ガイダンス（会計を学ぶ意義）
- 第2回：企業会計の意義と役割
- 第3回：損益計算書のパラダイム（1）
- 第4回：損益計算書のパラダイム（2）
- 第5回：経営パフォーマンスの測定と表示（1）
- 第6回：経営パフォーマンスの測定と表示（2）
- 第7回：貸借対照表のパラダイム（1）
- 第8回：貸借対照表のパラダイム（2）
- 第9回：資産の会計（1）
- 第10回：資産の会計（2）
- 第11回：持分の会計
- 第12回：中間試験
- 第13回：連結グループの会計
- 第14回：財務諸表分析に用いる指標（1）
- 第15回：財務諸表分析に用いる指標（2）

以下が遠隔講義版の講義計画です。

- 第1回：企業会計の意義と役割
- 第2回：損益計算書のパラダイム（1）
- 第3回：損益計算書のパラダイム（2）
- 第4回：経営パフォーマンスの測定と表示（1）
- 第5回：経営パフォーマンスの測定と表示（2）
- 第6回：貸借対照表のパラダイム（1）
- 第7回：貸借対照表のパラダイム（2）
- 第8回：資産の会計（1）
- 第9回：資産の会計（2）
- 第10回：持分の会計
- 第11回：連結グループの会計

第12回：財務諸表分析に用いる指標

授業外学習（予習・復習）

適宜指示する。これまでの受講者によると、予習120分、復習120分により、十分にテキストの内容を理解し、最終課題に取り組むことができると報告されております。

教科書

『新・現代会計入門』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社

参考書

特になし。

成績の評価基準

ミニレポート（40%）、期末レポート（60%）の総合評価による。

オフィスアワ -

メールにてアポイントメントをお願いします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

特になし。